デジタルイラストの

「服装」描き方事典

キャラクターを着飾る衣服の秘訣45

スタジオ・ハードデラックス 著



SB Creative

NEXT CREATOR

デジタルイラストの

「服装」描き方事典

キャラクターを着飾る
衣服の秘訣45

スタジオ・ハードデラックス 著



本書に関するお問い合わせ

この度は小社書籍をご購入いただき誠にありがとうございます。小社では本書の内容に関するご質問を受け付けております。本書を読み進めていただきます中でご不明な箇所がございましたらお問い合わせください。なお、お問い合わせに関しましては以下のガイドラインを設けております。恐れ入りますが、ご質問の際は最初に下記ガイドラインをご確認ください。

ご質問の前に

小社Webサイトで「正誤表」をご確認ください。最新の正誤情報を下記のWebページに掲載しております。

本書サポートページ	http://isbn.sbcr.jp/89913

上記ページの「正誤情報」のリンクをクリックしてください。なお、正誤情報がない場合、リンクをクリックすることはできません。

ご質問の際の注意点

- ご質問はメール、または郵便など、必ず文書にてお願いいたします。お電話では承っておりません。
- ご質問は本書の記述に関することのみとさせていただいております。従いまして、○○ページの○○行目というように記述箇所をはっきりお書き添えください。記述箇所が明記されていない場合、ご質問を承れないことがございます。
- 小社出版物の著作権は著者に帰属いたします。従いまして、ご質問に関する回答も基本的に著者に確認の上回答いたしております。これに伴い返信は数日ないしそれ以上かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

ご質問送付先

ご質問については下記のいずれかの方法をご利用ください。

Webページより

上記のサポートページ内にある「この商品に関する問い合わせはこちら」をクリックすると、メールフォームが開きます。要綱に従ってご質問をご記入の上、送信ボタンを押してください。

郵送

郵送の場合は下記までお願いいたします。

〒106-0032
東京都港区六本木 2-4-5
SB クリエイティブ　読者サポート係

■ 本書内に記載されている会社名、商品名、製品名などは一般に各社の登録商標または商標です。本書中では ®、™ マークは明記しておりません。

■ 本書の出版にあたっては正確な記述に努めましたが、本書の内容に基づく運用結果について、著者および SB クリエイティブ株式会社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

まえがき

キャラクターを描く上で、服を描くことは避けて通ることができません。

自分が好きな服なら、どんな形で何が似合うかはすぐにわかります。ですが知らない系統、ましてや異性の服ともなると、思うように筆が進まなくなってしまう方も少なくないと思います。

たくさんのキャラクターを描こうと思えば、その分だけキャラクターに合った服が必要になり、それを調べる時間や手間も膨れ上がっていきます。なにより、服の良し悪しは感性によるところが大きく「これが正しい」という明確な基準がありません。そのため一度「これでいいのか？」と悩みだすと延々と迷い続けるループにハマり、抜け出せなくなってしまうこともあります。近年では男女どちらでも着ることができるユニセックスな服が増え、コーディネートの幅もとめどなく広がりますます判断が難しくなってきています。

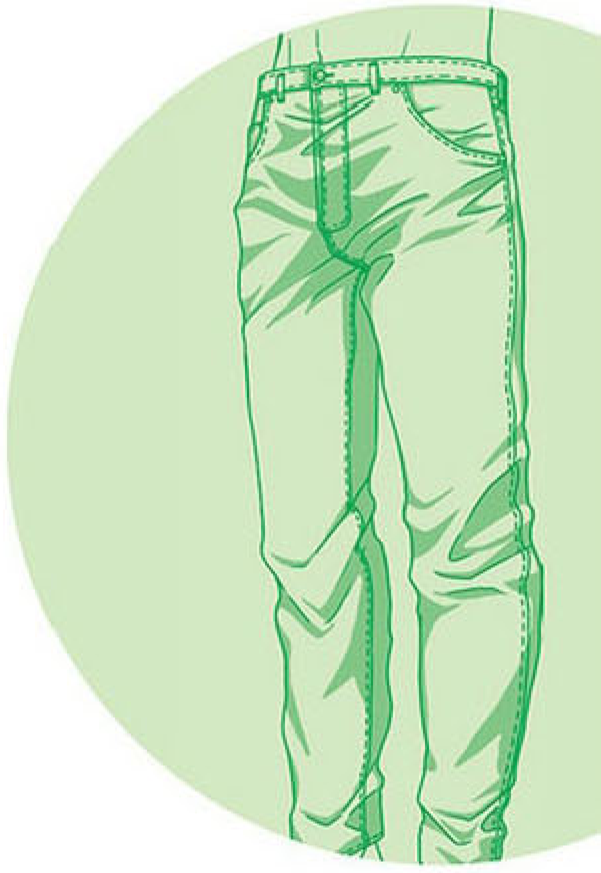
本書は、そんな悩み多き現代の男女の服装を、トップス、ボトムスなどに分類・整理し、服装ごとの構造や特徴、描き方、バリエーションを描くコツ、コーディネートのヒントをまとめた、事典形式のイラスト実用書です。

現代の洋服をはじめ、学生服やスーツなど、日常で目に触れる機会が多い服装を中心に収録しています。仮に自分の知らない服があったとしても、この本を開いて調べれば、基本的な構造や特徴、描き方やバリエーションを知ることができます。

この本を開いた方が、服装に対する悩みや調べものにかかる労力から解放され、ご自身の創作活動に思う存分打ち込めるようになる、そんなお力になることができれば幸いです。

スタジオ・ハードデラックス









CONTENTS
目次

Part 5
アンダーウェア／インナー



Part 6
シューズ／バッグ



Part 7
学生服



Part 8
スーツ／礼服



本書の読み方 HOW to use this BOOk?

本書では、各衣服の分類ごとに、服の構造、服の描き方などを解説しています。
デジタルペイントソフトには、CLIP STUDIO PAINTを用いています。ブラシ、レイヤーなどの基本的な機能のみについて触れていますので、他のペイントソフトを利用している方はお使いのソフトで読み替えてください。



事典ページ
服装の系統ごとに分類して紹介します

各部の名称や特筆すべき注意事項などを紹介します

その服装における特徴や、代表的な服装の種類を紹介します

服装ごとのイラストデッサンの手順を解説します。❶から順番に描いていくことでイラストデッサンができます

服装のバリエーションを描くコツと、似合うキャラクター、服のコーディネートについてまとめています

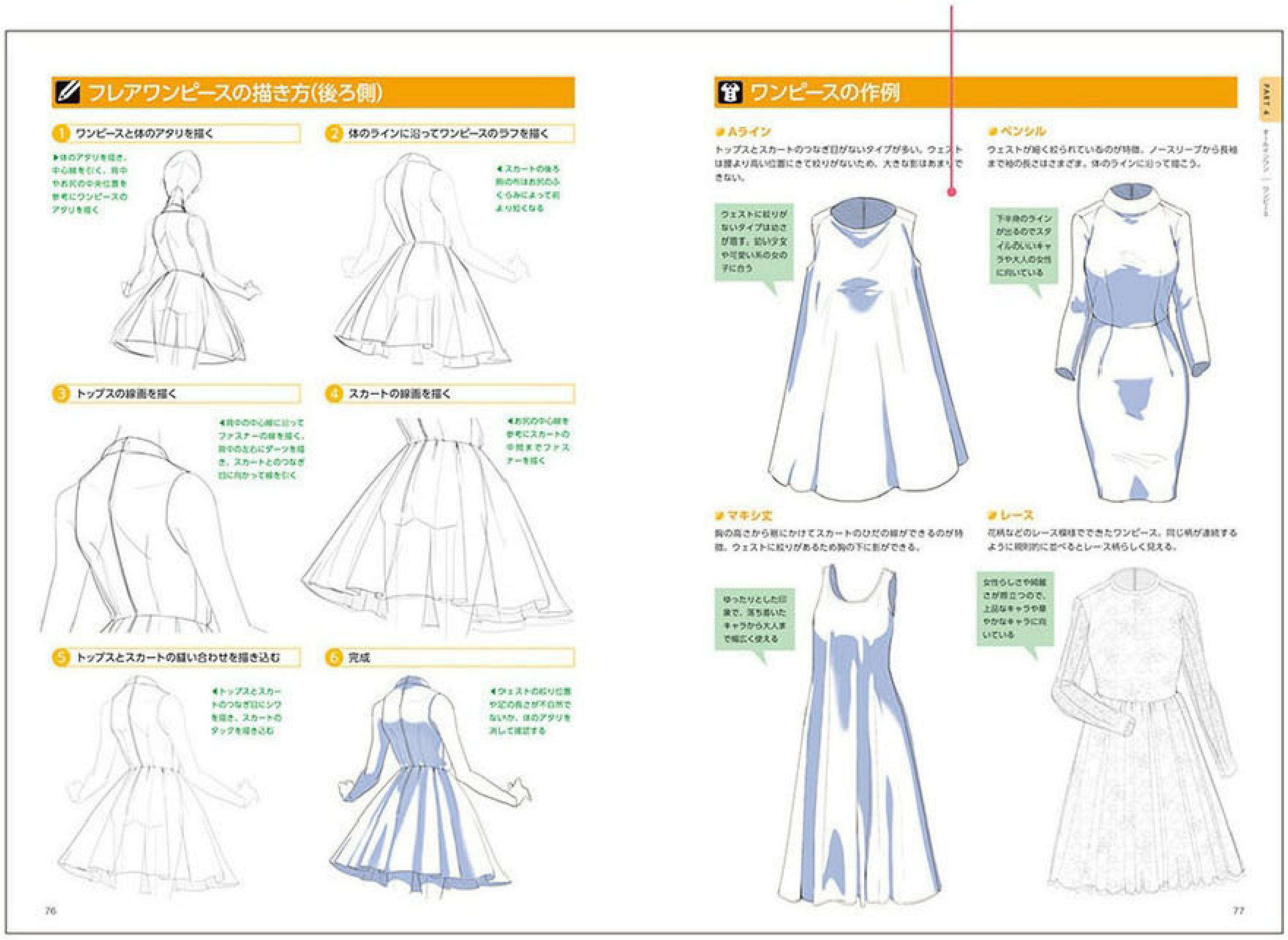
アイコン



服のイラストデッサンの手順を解説します



服のバリエーションごとの描くコツ、似合うキャラ、コーディネートのヒントをまとめています



Part 0

服のきほん

- 服装の分類
- 男女の服装の違い
- 服のシワ
- 服を描く手順





服装の分類

服には上に着るもの、下に履くものなどさまざまな種類があります。本項では、この本の各Partごとに扱う服装の分類と概要について紹介します。

Part1 トップス

上半身に着用する衣服の総称。薄手で半袖のものから厚手で長袖のものまで、服の中でも特にバリエーションに富んでいる。シャツやパーカーなど、カジュアルな洋服が多い。



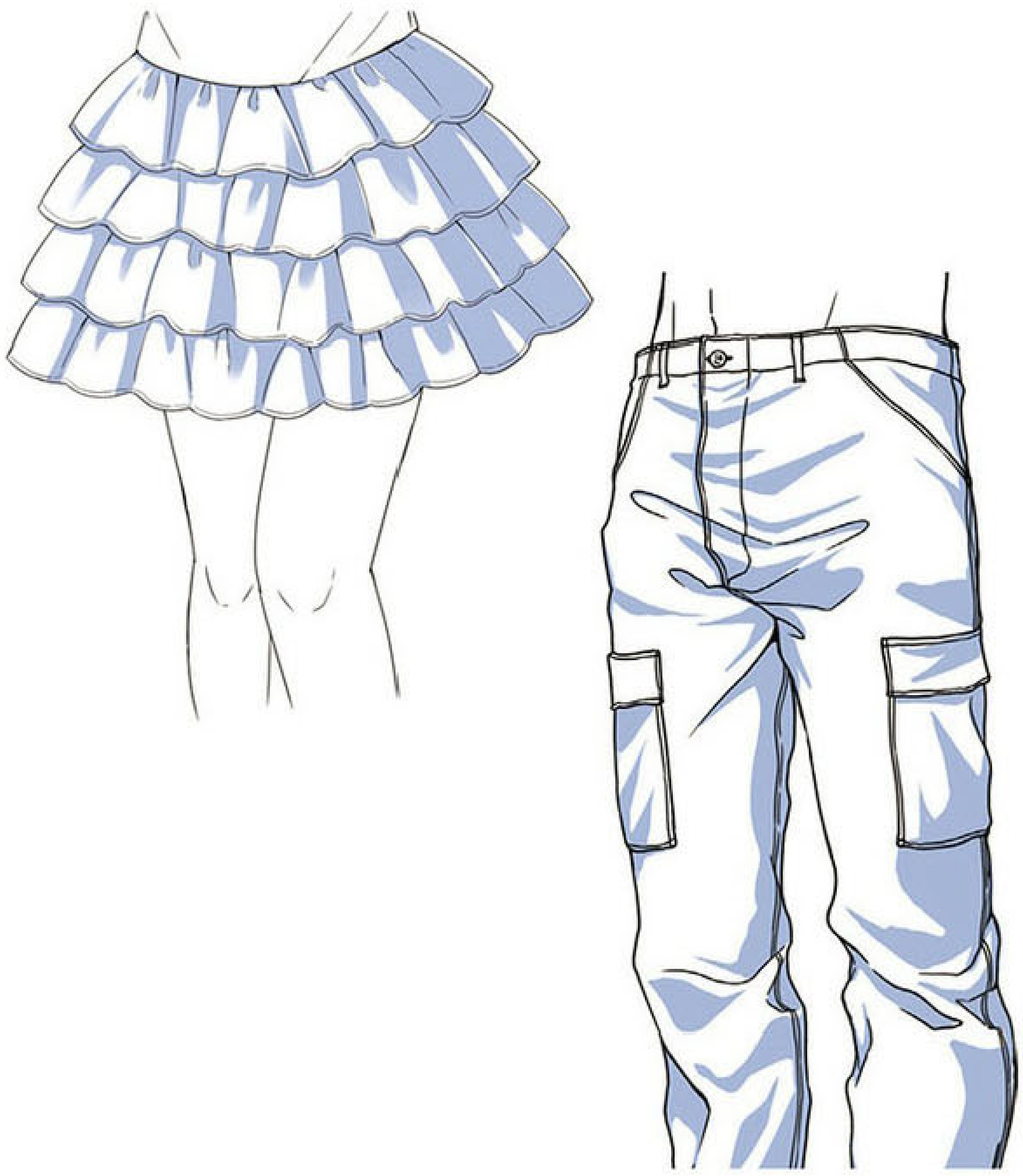
Part2 アウター

主に防寒目的で着用するトップスの一種で、服を着る際に一番外側に羽織る衣服を指す。ジャケットやコートが主流で、素材、丈、機能性によって形状が大きく異なる。



Part3 ボトムス

下半身に着用する衣服の総称。女性向けのスカート、男女共通で履けるパンツが代表的で、キャラのファッションを決める上でトップスに並んで重要な部位。



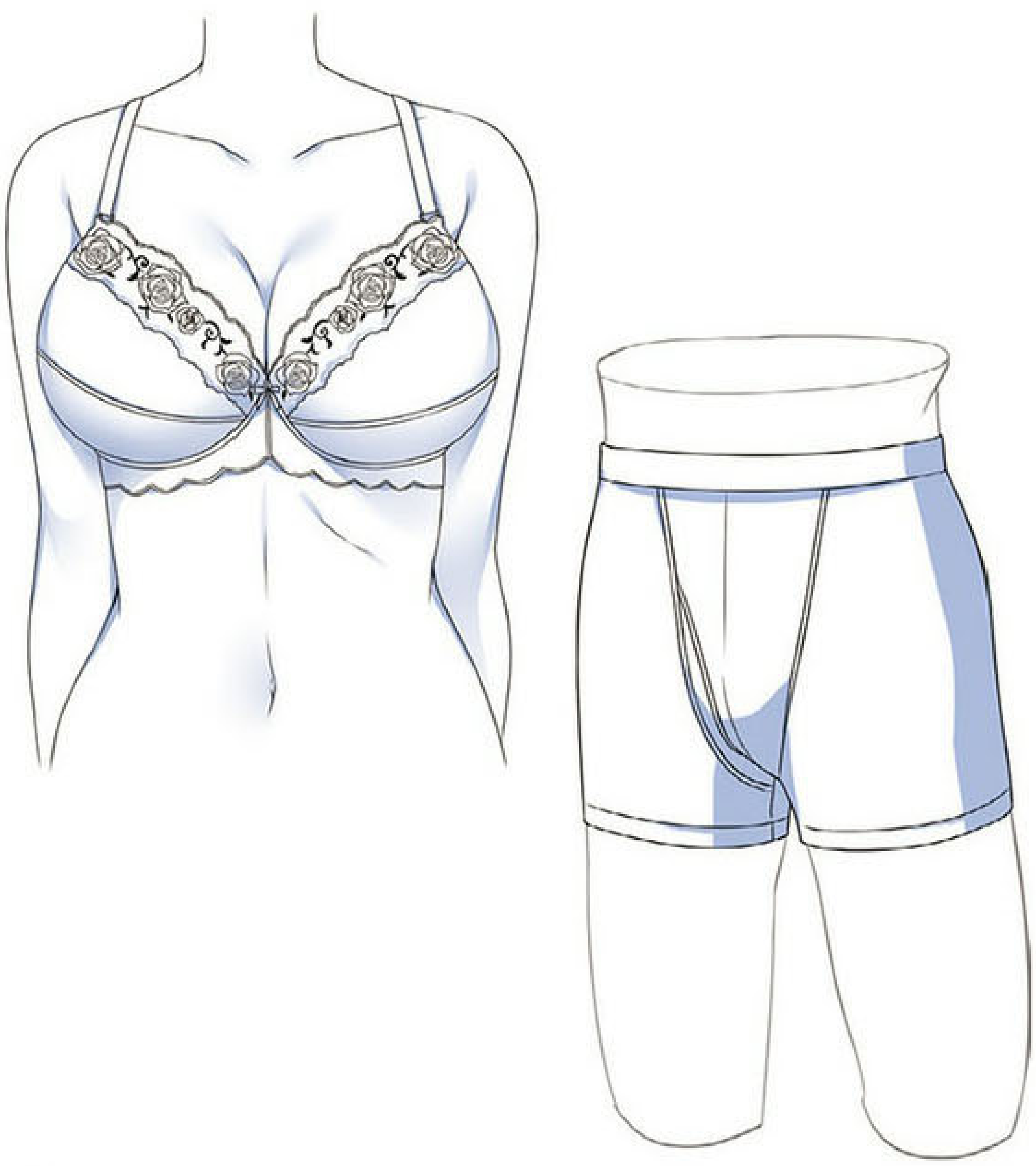
Part4 オールインワン

一着で上半身下半身ともに着用できる衣服。つなぎなど作業着が元になった服も多い。本書では着物や浴衣も和服のオールインワンとして解説する。



Part5 アンダーウェア／インナー

トップスやボトムスの下に着用する肌着。体に直に身に付ける衣服であるため、ブラジャーやボクサーパンツなどの下着の形状には、男女の性差が顕著に表れる。



Part6 シューズ／バッグ

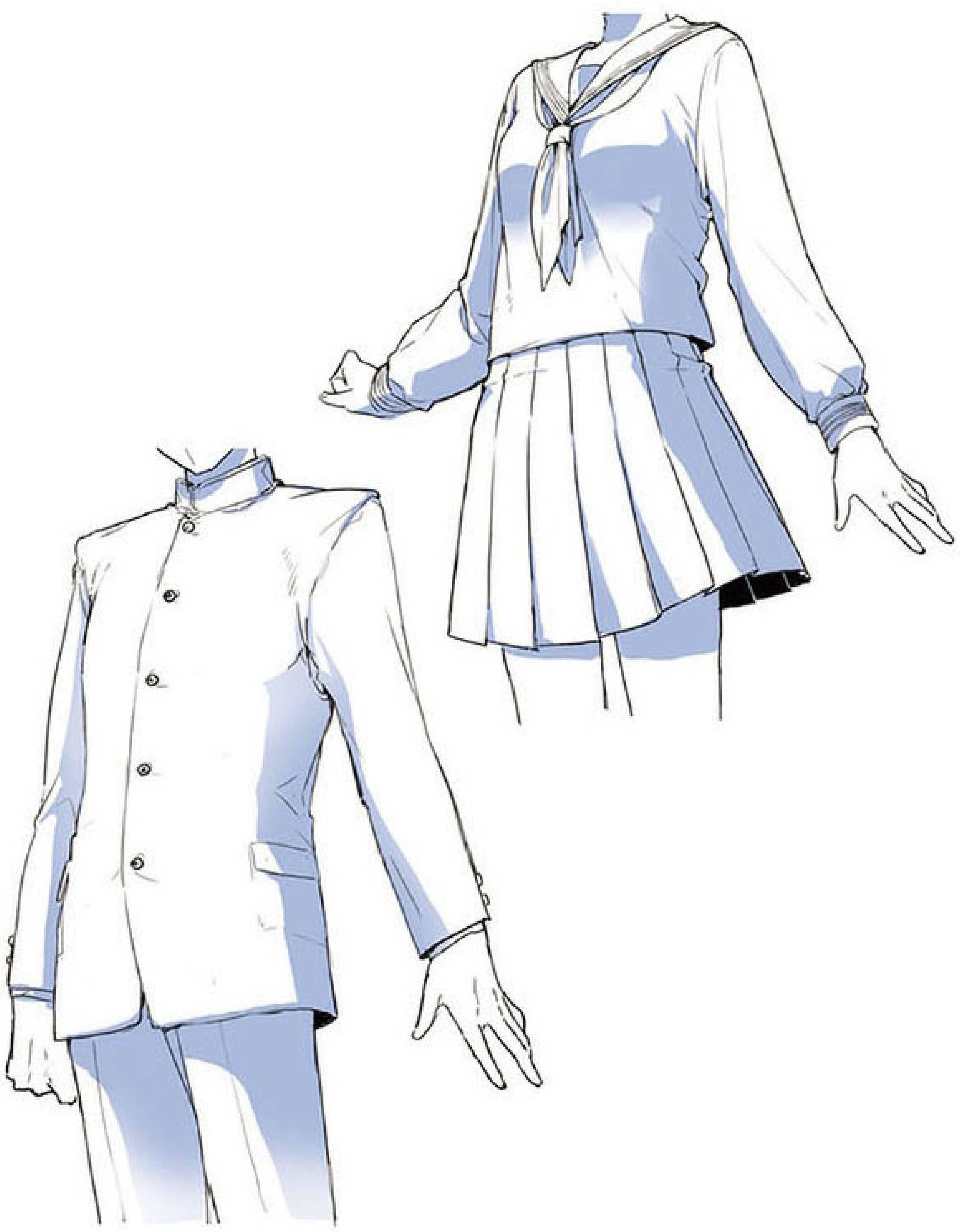
シューズは足を保護する履き物、バッグは外出時に携行する袋状の雑貨。用途によってさまざまなデザインがあり、実用性だけでなくファッション性を高めてくれる役割を持つ。



制服とスーツ

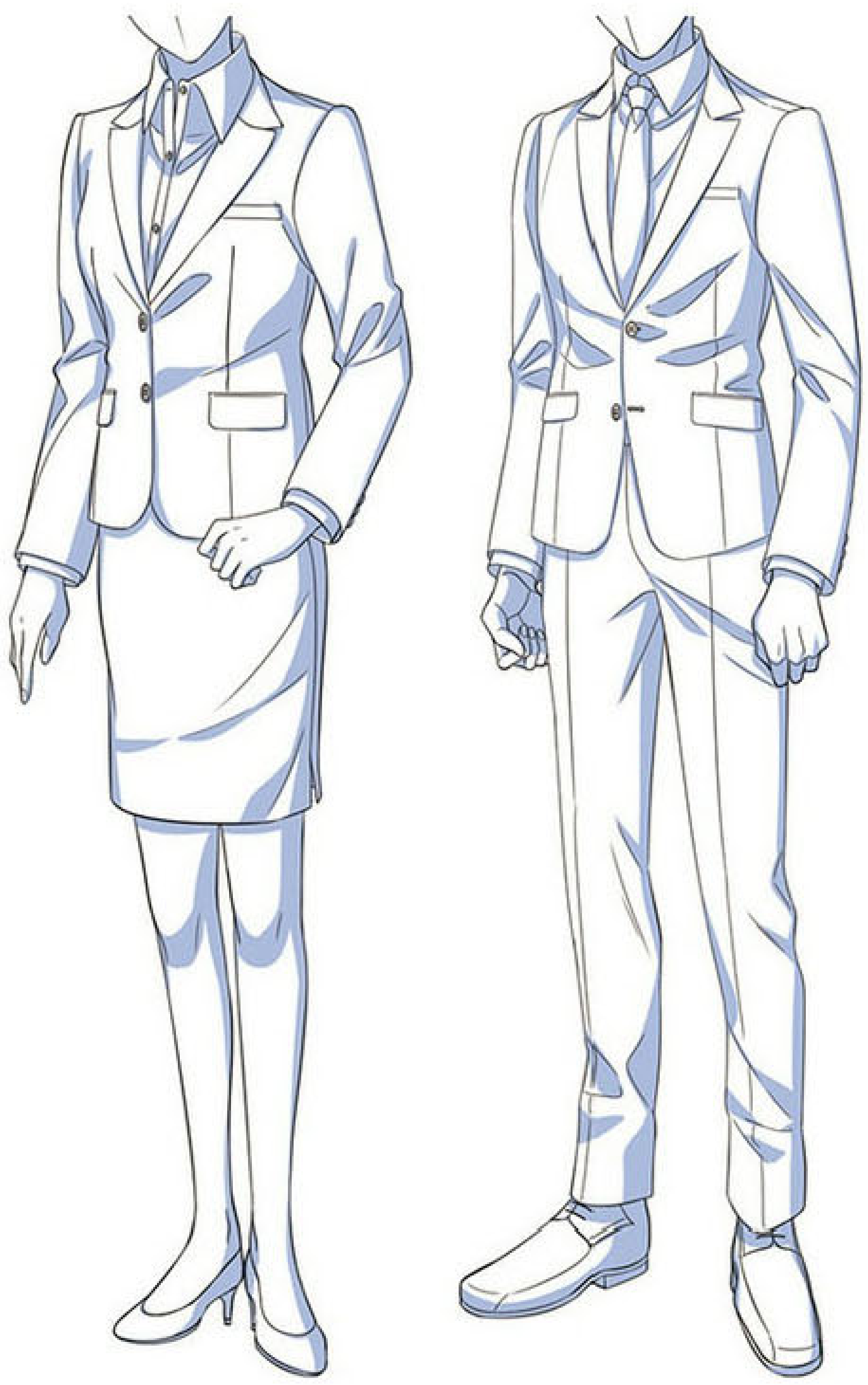
Part7 学生服

中学校や高校に通う学生が着用する制服。季節によって夏服と冬服に分かれている。形状も学ラン、セーラー服、ブレザーなど学校によってデザインが異なる。



Part8 スーツ／礼服

スーツは主にビジネスの現場で着用する衣服。礼服は冠婚葬祭の場で着用する正装。どちらにおいても、女性は男性に比べて服装のバリエーションに幅がある。





男女の服装の違い

現代の衣服は性別を選ばないものが大半ですが、男性と女性が着る服にはそれぞれ傾向があります。男女の服装の違いを見てみましょう。

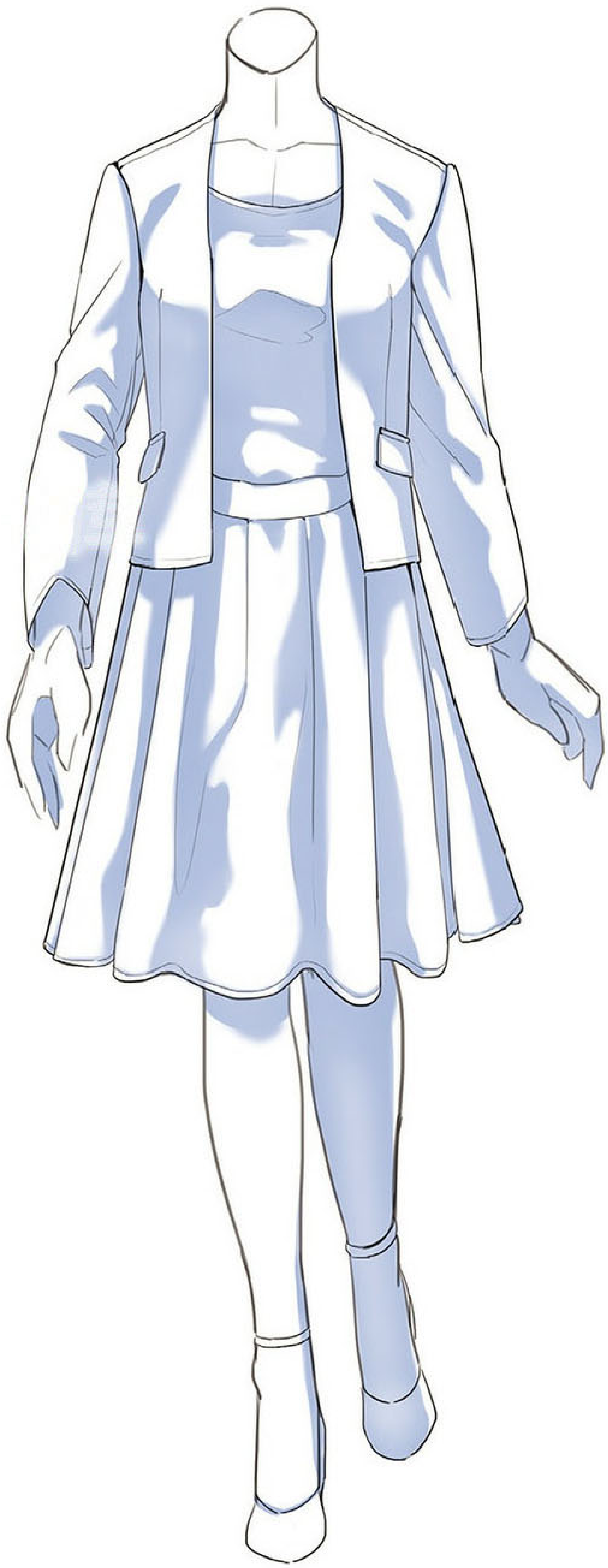
男性の装い

ボトムスは裾が足首まであるパンツが多く、全体的に体の露出は控えめ。柄物の服は少なく、色数を抑えた組み合わせに落ち着きやすい。また、凝ったデザインよりも、シンプルで清潔感のある服装が好まれる傾向にある。



女性の装い

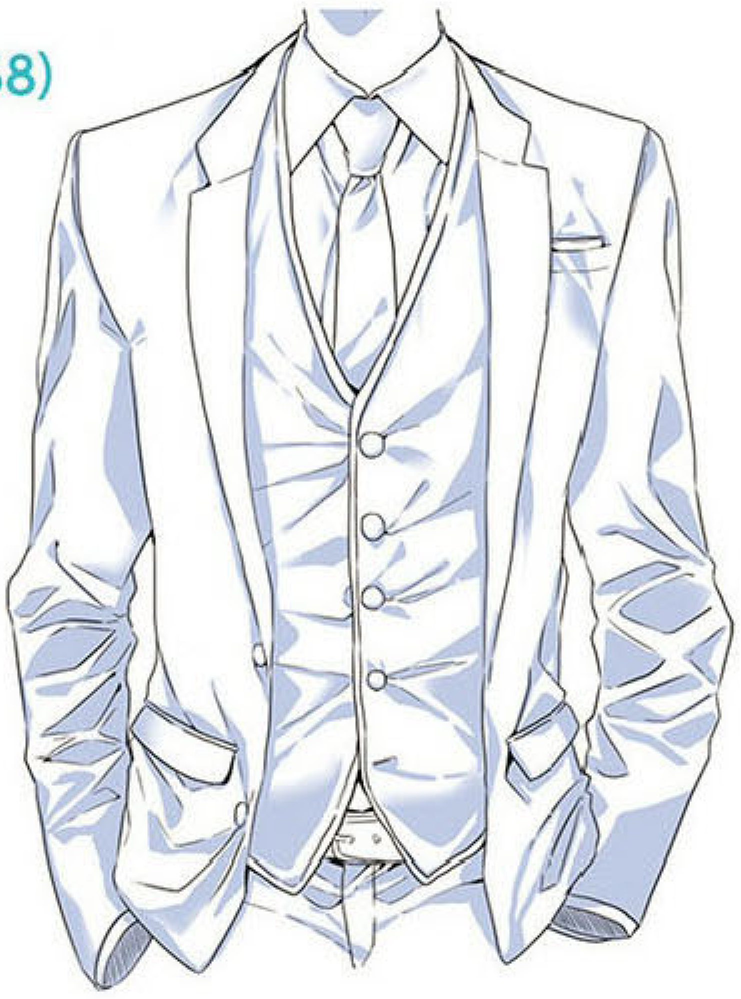
ボトムスはパンツ類のほかにスカート類があり、足を出す際はタイツなどのアンダーウェアを履く。首元が開いた服や、体にフィットして体型のラインが見える服など、女性らしい体つきを見せる作りになっている服も多い。



男性用の服

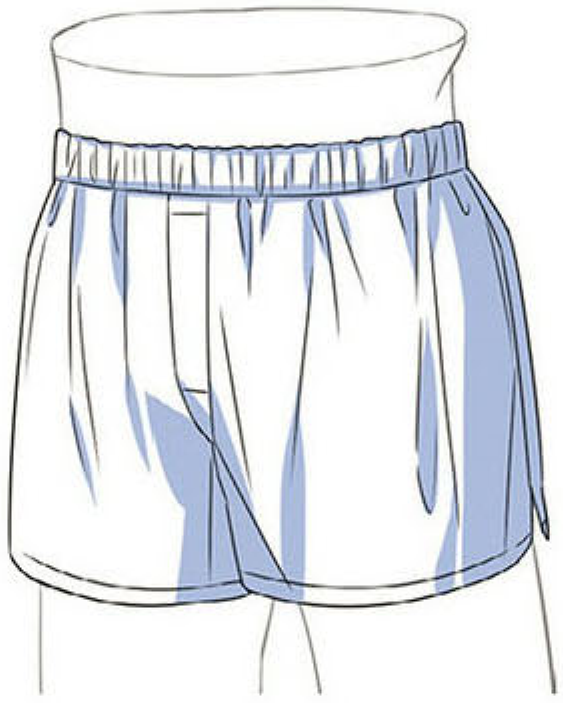
メンズスーツ (p.158)

ビジネス向けの上下セットの衣服。中でもジャケットの下にベスト (p.38) を着用するスリーピーススーツ (p.165) は、スーツの伝統的なスタイル。カジュアルな洋服とは違う男らしさを演出してくれる。



男性用下着 (p.110)

トランクスとボクサーパンツが代表格。トランクスは生地にゆとりがあり、ボクサーパンツはタイトで体にフィットする。近年ではボクサーパンツが男性的な色気を出す下着として人気を集めている。



女性用の服

スカート (p.60)

股が分かれていない筒状のボトムス。裾が広がったものから体にフィットするタイトなものまで、さまざまなデザインがある。可愛らしさや女性らしさを強調してくれる。



ワンピース (p.74) ／パーティドレス (p.79)

トップスとスカートが一体になった衣服。ドレスのトップスには背中や胸元が大きく開いたチューブトップ (p.44) タイプもある。スカート以上に女性らしさを強調したデザインに仕立てられている。



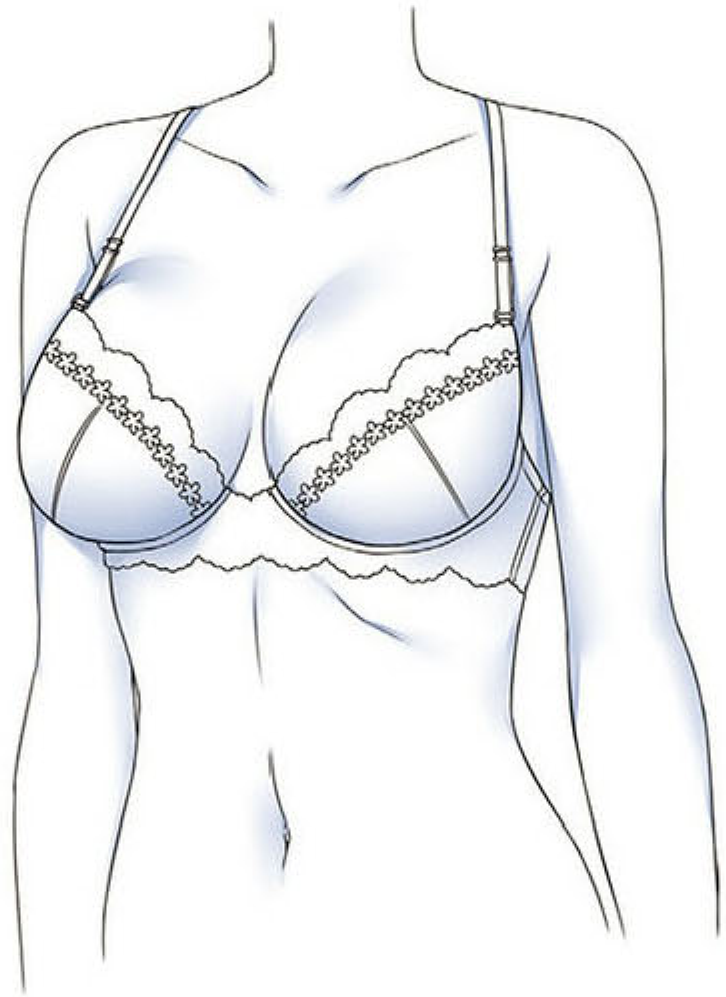
キャミソール (p.42)

肩掛けが紐状で生地が薄いトップス。元は女性用の下着として生まれたもの。フリルやレースなど可愛らしい装飾が施されているものも多い。



女性用下着 (p.102)

女性の胸部を支えるブラジャーや、下半身を覆うショーツ (p.105) などがある。レースなどの飾りがついていて女性的な可愛らしさを重視したものなど、デザインも豊富。





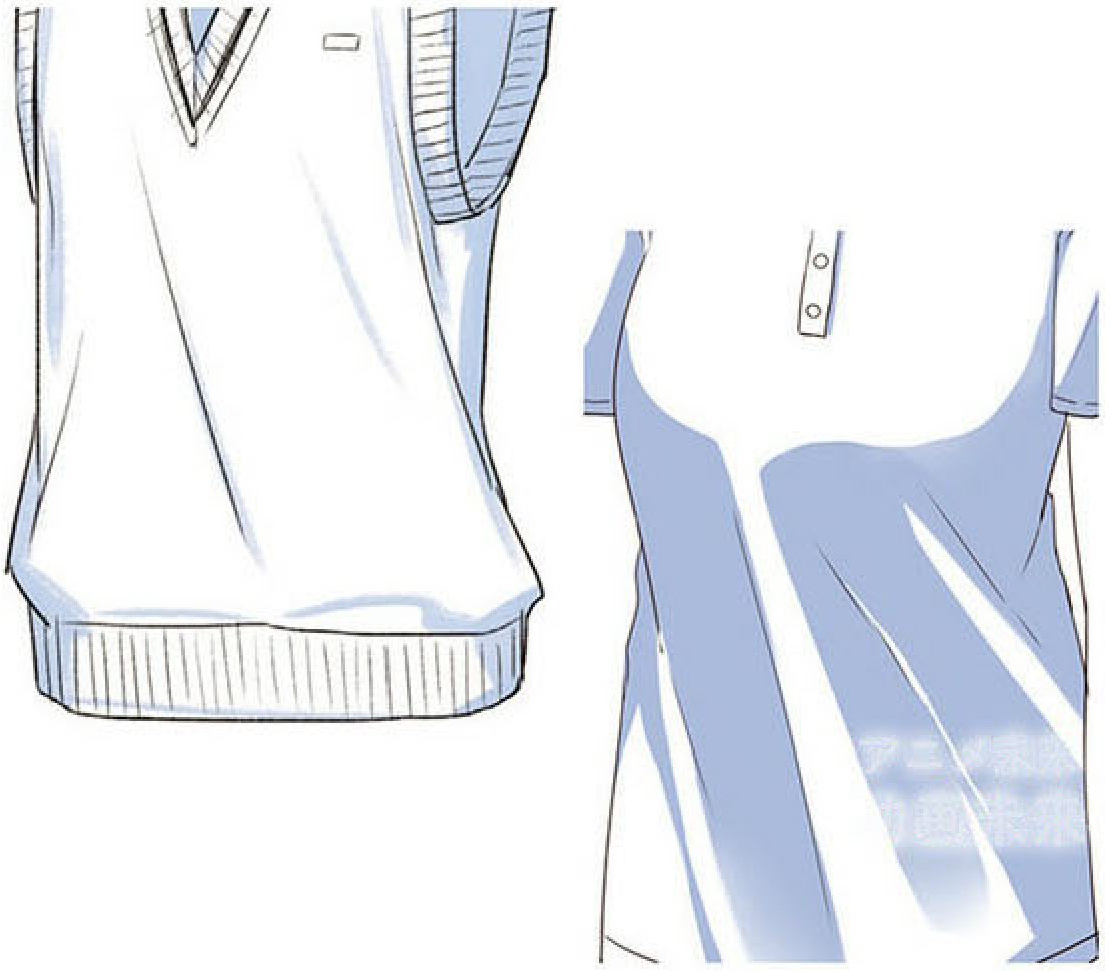
服のシワ

服の表現はシワの表現と言っても過言ではないほど、シワは重要な要素です。代表的なシワの種類と、シワができやすい場所について紹介します。

シワの種類

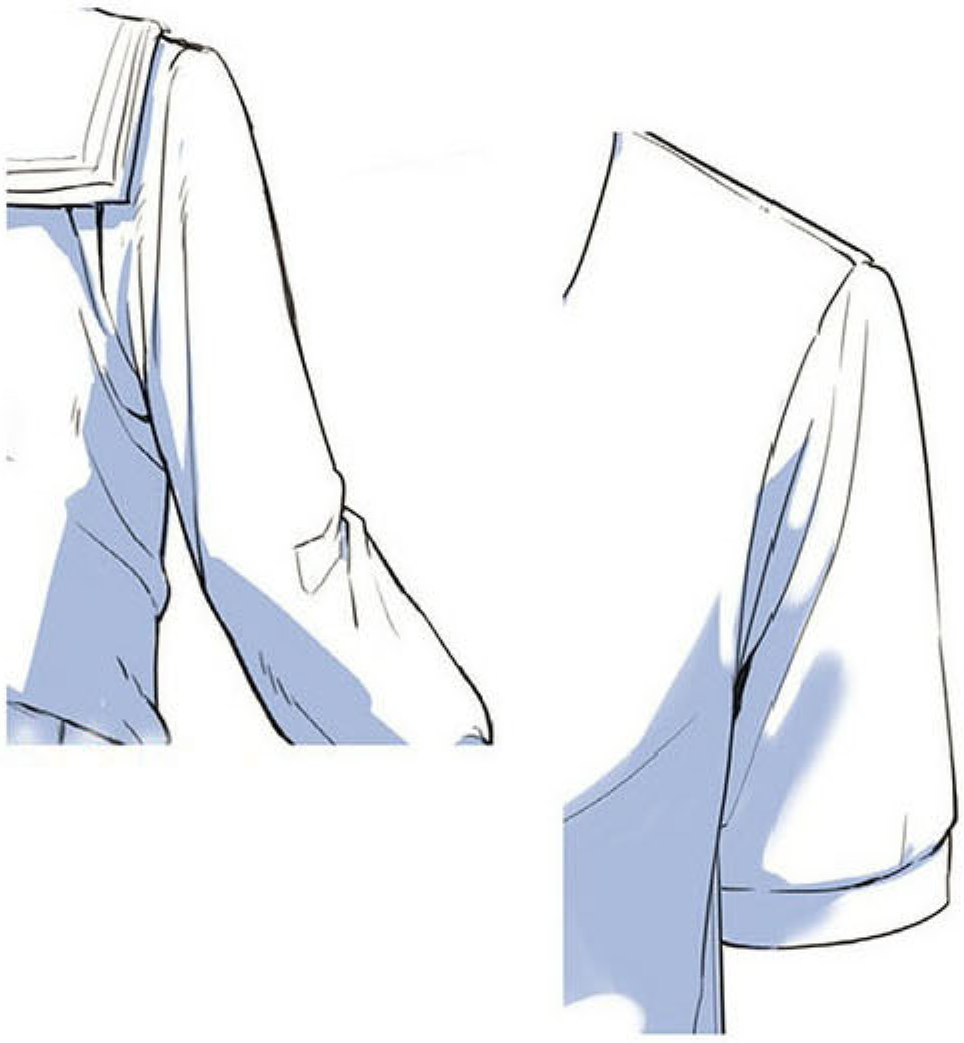
引っ張りジワ

生地が一方に引っ張られることでできる直線状のシワ。腕を上げたときの肩口や袖、女性の胸の下側、腰をひねったときの腰周りなどにできやすい。



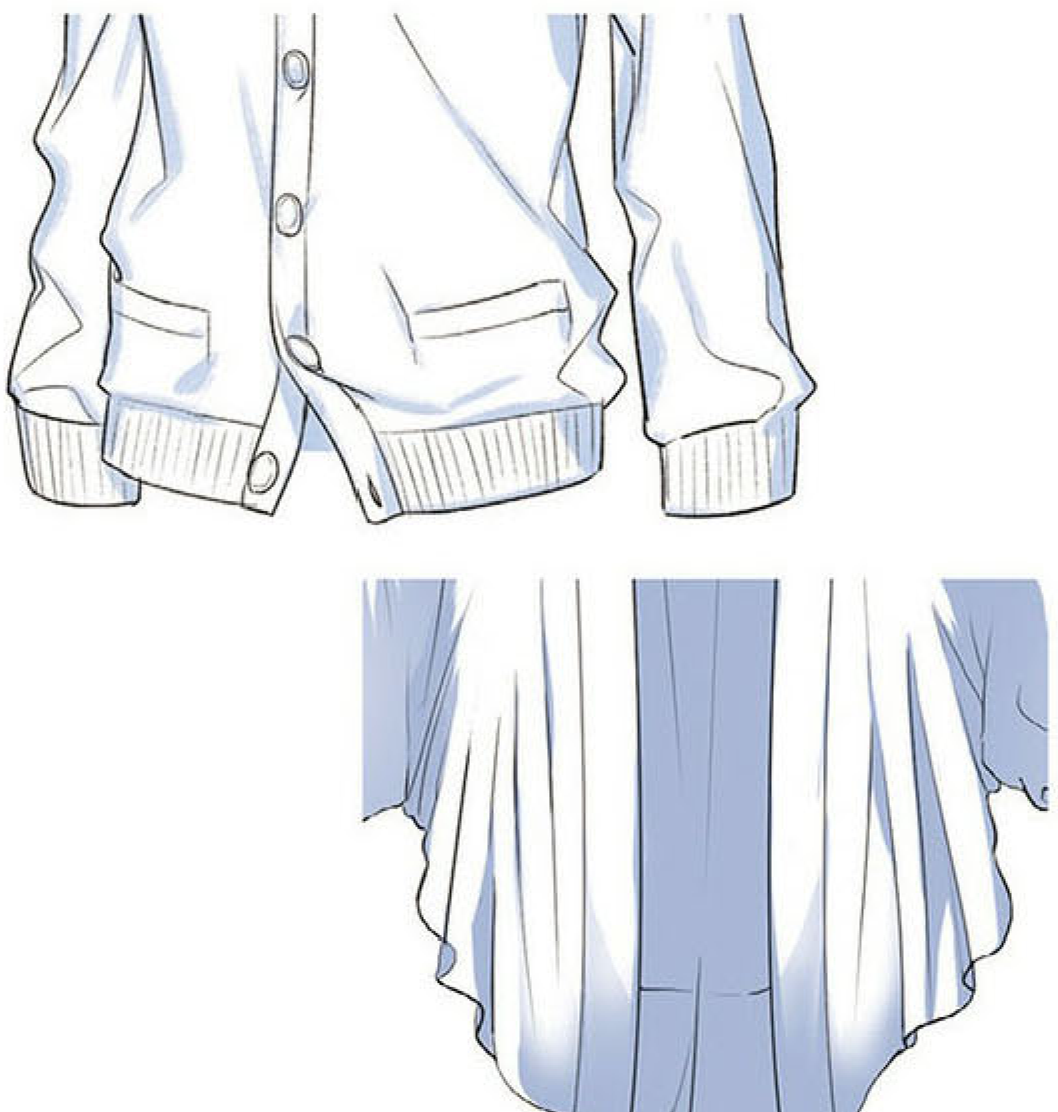
寄せジワ

生地が一カ所に寄って縮むことでできるシワ。袖がある服の肩口の周りや、肘や膝を曲げたとき、袖を腕まくりしたときなどにできやすい。



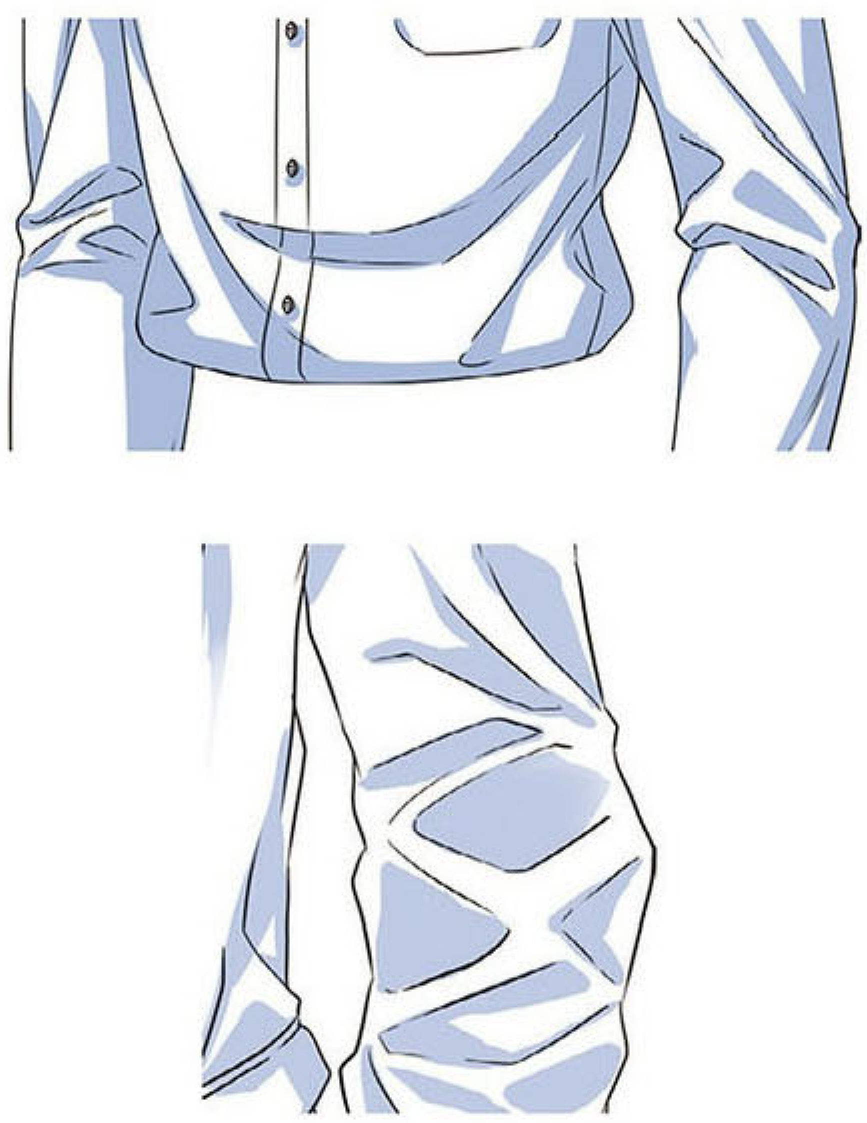
たるみジワ

生地が重力によって垂れ下がってたわんでできるシワ。セーターのような裾や袖口が絞られている服や、ドレープ（自然に垂れ下がってできるひだ）を入れた服にできる。



凹みジワ

生地が寄って一部が凹んだような形になる寄せジワの一種。肘や膝などの生地が集まりやすい箇所に寄せジワと一緒にできることがある。中に影を塗ると立体的になる。



シワができる主な場所

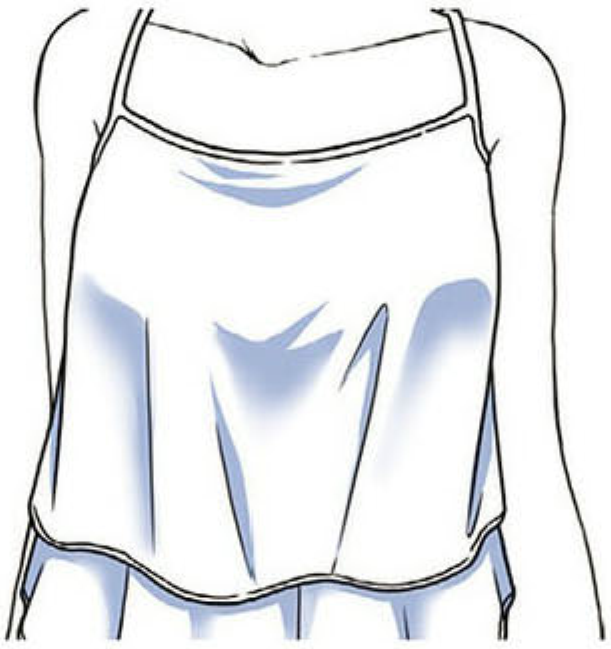
肩口

肩口の下側、脇の下あたりに向かって袖や胴体から寄せジワができる。腕を上げるなど伸ばした際は、袖から肩口に向かって引っ張りジワができる。



胸元

カットソーやキャミソールのような裾を出す服を着ると、バストのトップを起点に、トップスの胸の下側に引っ張りジワができる。



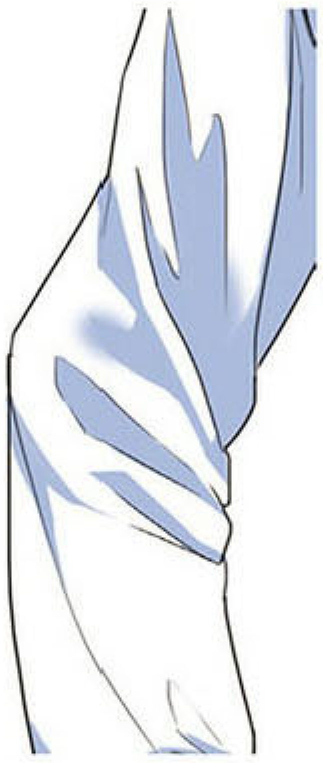
腰

腰のくびれの位置に寄せジワができ、くびれの両サイドを繋ぐようにゆるやかなたるみジワができる。腰を絞っている女性向けの服にできやすい。



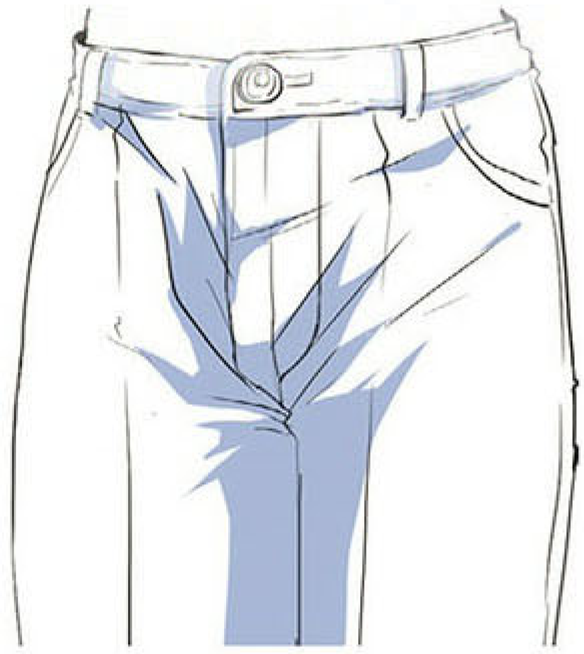
肘

腕を曲げると肘の内側に寄せジワや凹みジワができる。肘の外側は骨で生地が突っ張るため、シワができずまっすぐな線になる。



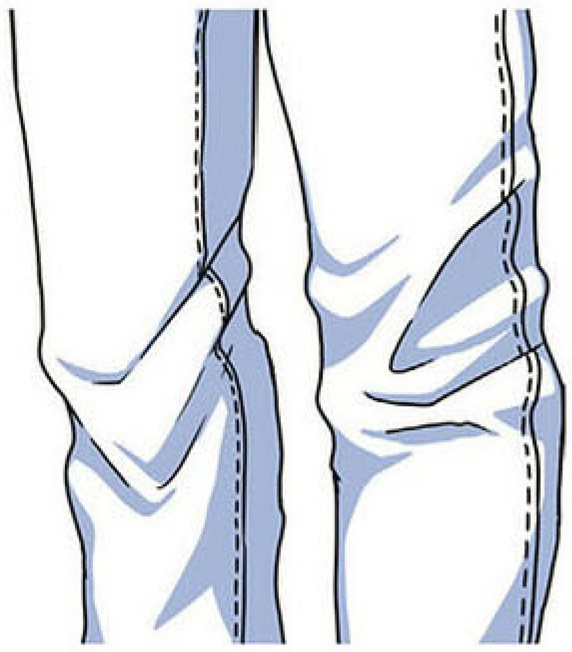
股

股上を中心に腰の外側へ向かって放射状に寄せジワができる。シワのでき方は生地の厚みの影響が大きく、比較的厚めのデニム生地だと大きなシワが不規則にできる。



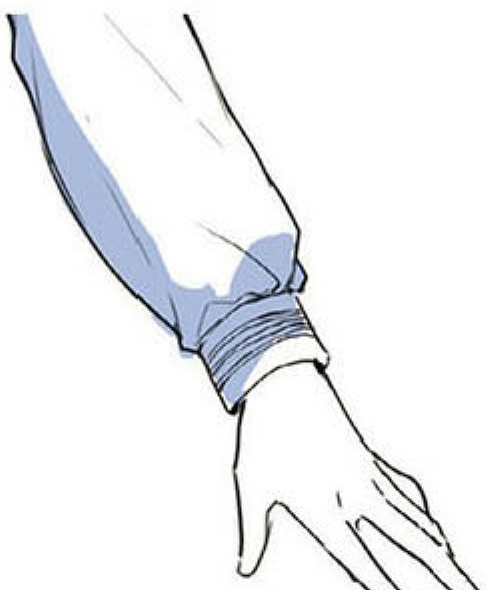
膝

長いパンツの場合、まっすぐ立つと膝の周りに寄せジワと凹みジワができる。生地が大きく寄るため、膝の周りの輪郭線は凸凹した形状になる。



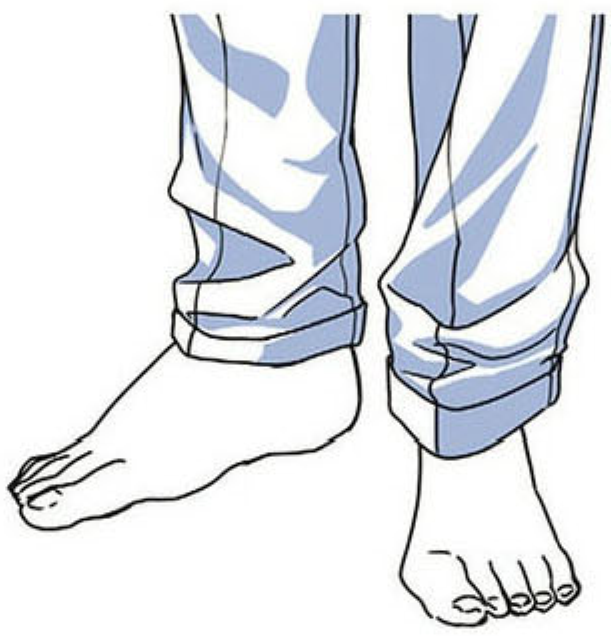
袖口

カフスを閉めたシャツなど、袖口がすぼまっている袖を着ると袖口の周りに生地が集まってたるみジワができる。また、生地がたるむことで、袖口の周りが少し膨らんで見える。



裾

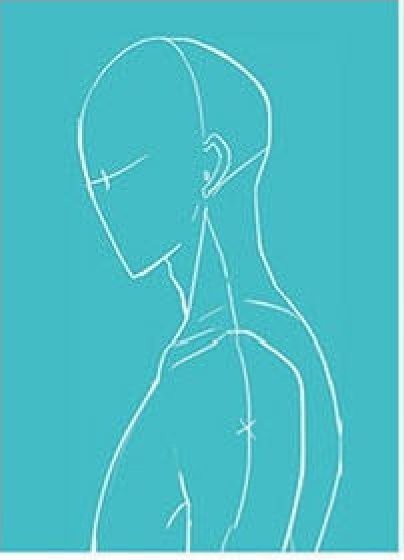
パンツの裾が足先に当たって生地が寄り、寄せジワと凹みジワができる。重力で生地が垂れ下がるため、ボトムスの生地の材質にかかわらず、大きなシワができやすい。



ボタン

ボタンを留めた位置から左右に向かって軽い引っ張りジワができる。シワは合わせが前になっている側の生地のほうが大きくなる。



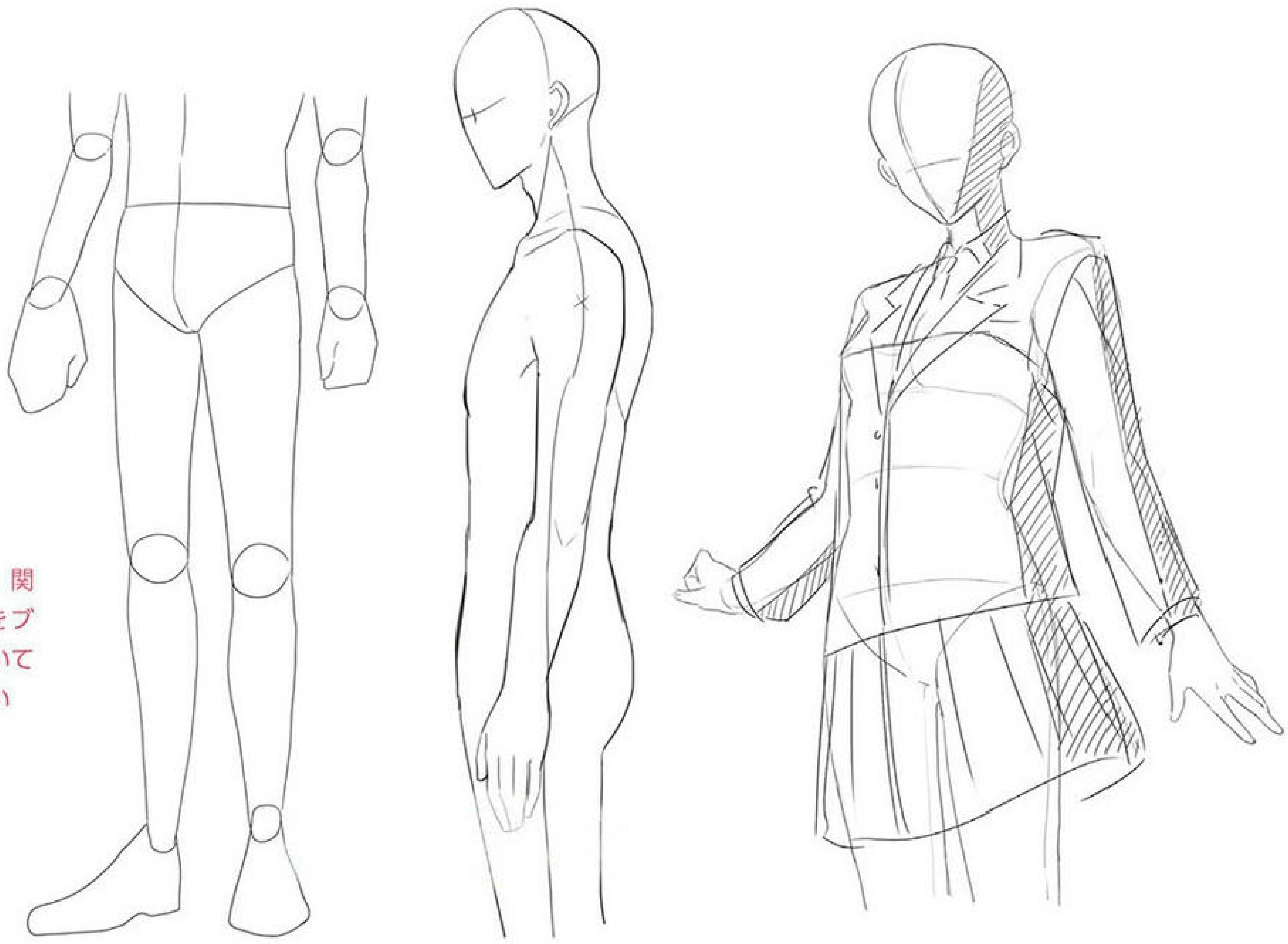


服を描く手順

服を描くには、目安を作るためにキャラの体を先に描くことが大切です。体の描き方から影の描き方まで、一連の流れを見ていきましょう。

① 体と服のアタリを描く

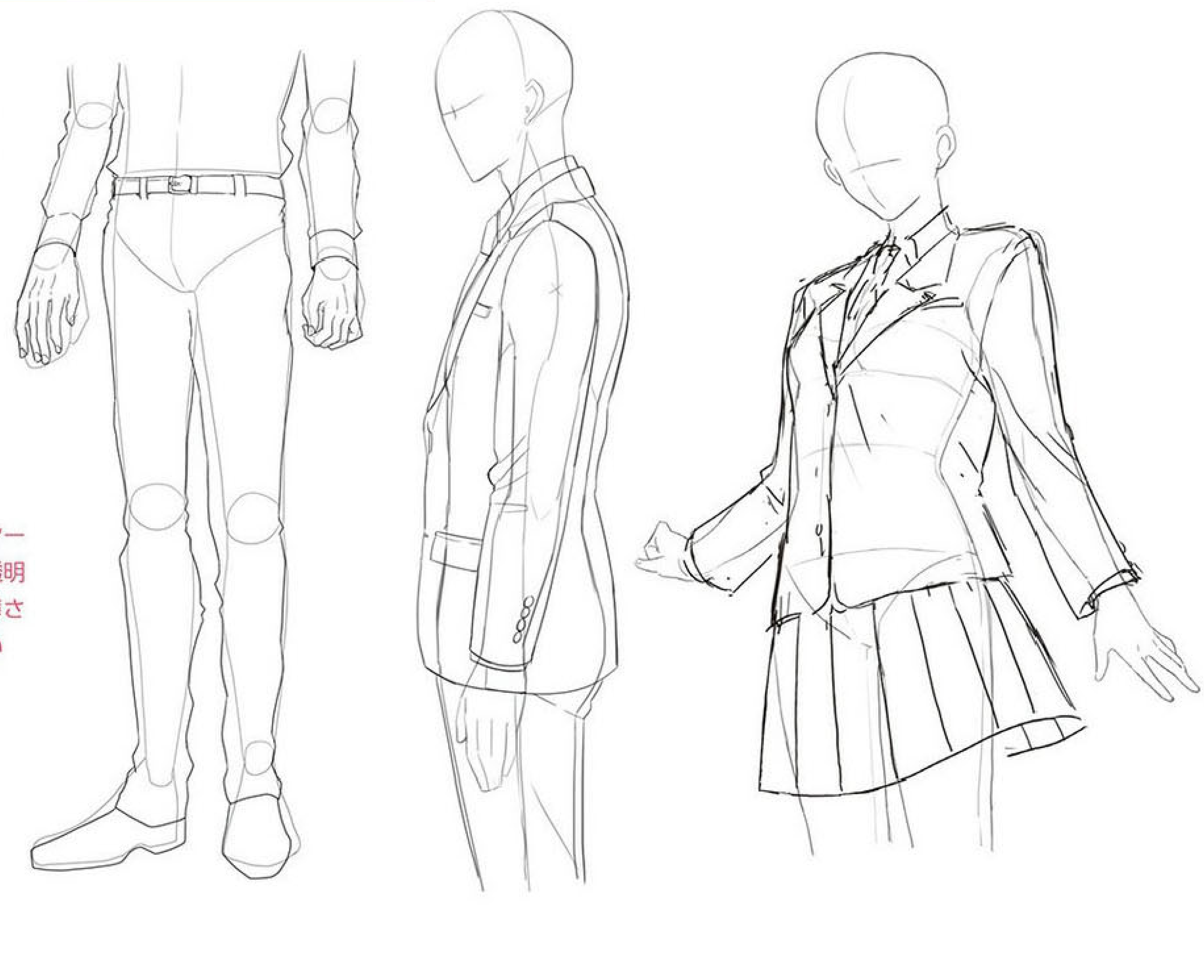
服を着せたいキャラのアタリを描く。アタリができたら首や肩、肘(ひじ)、腰などの関節や特徴的なパーツを目印にしながら服のアタリを描いていく。



▶人体のアタリは、関節や体のパーツをブロックにわけて描いていくとわかりやすい

② アタリを参考にラフを描く

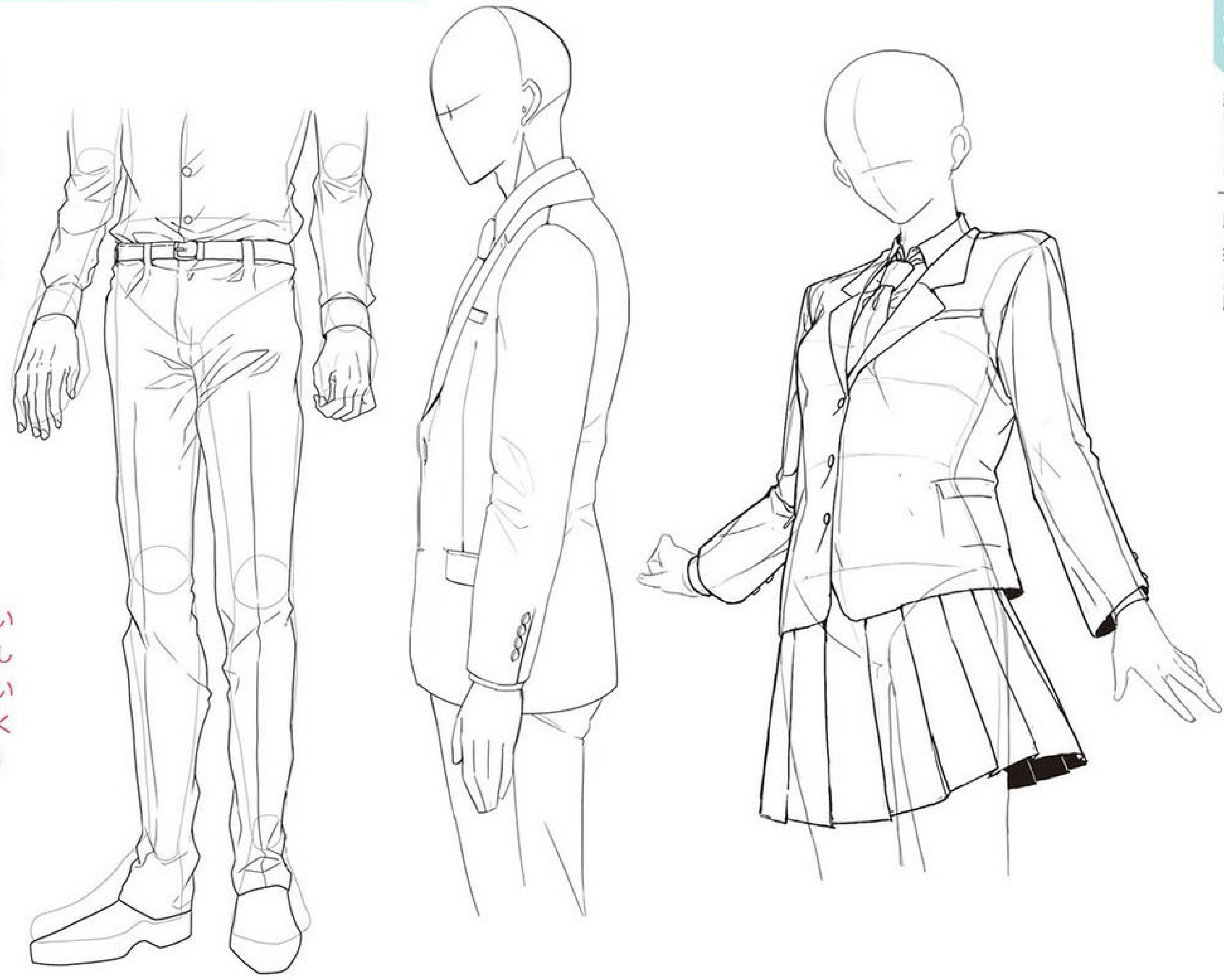
アタリができたら服のラフを描いて形を整えていく。最初は服のおおまかな輪郭から描きはじめる。次第に襟(えり)やベルトなど小さいパーツを描いていく。



▶アタリとラフはレイヤーを分けて、アタリの不透明度を30〜50%ほどの薄さにすると作業がしやすい

3 線画を描いてシワや細かいパーツを描き込む

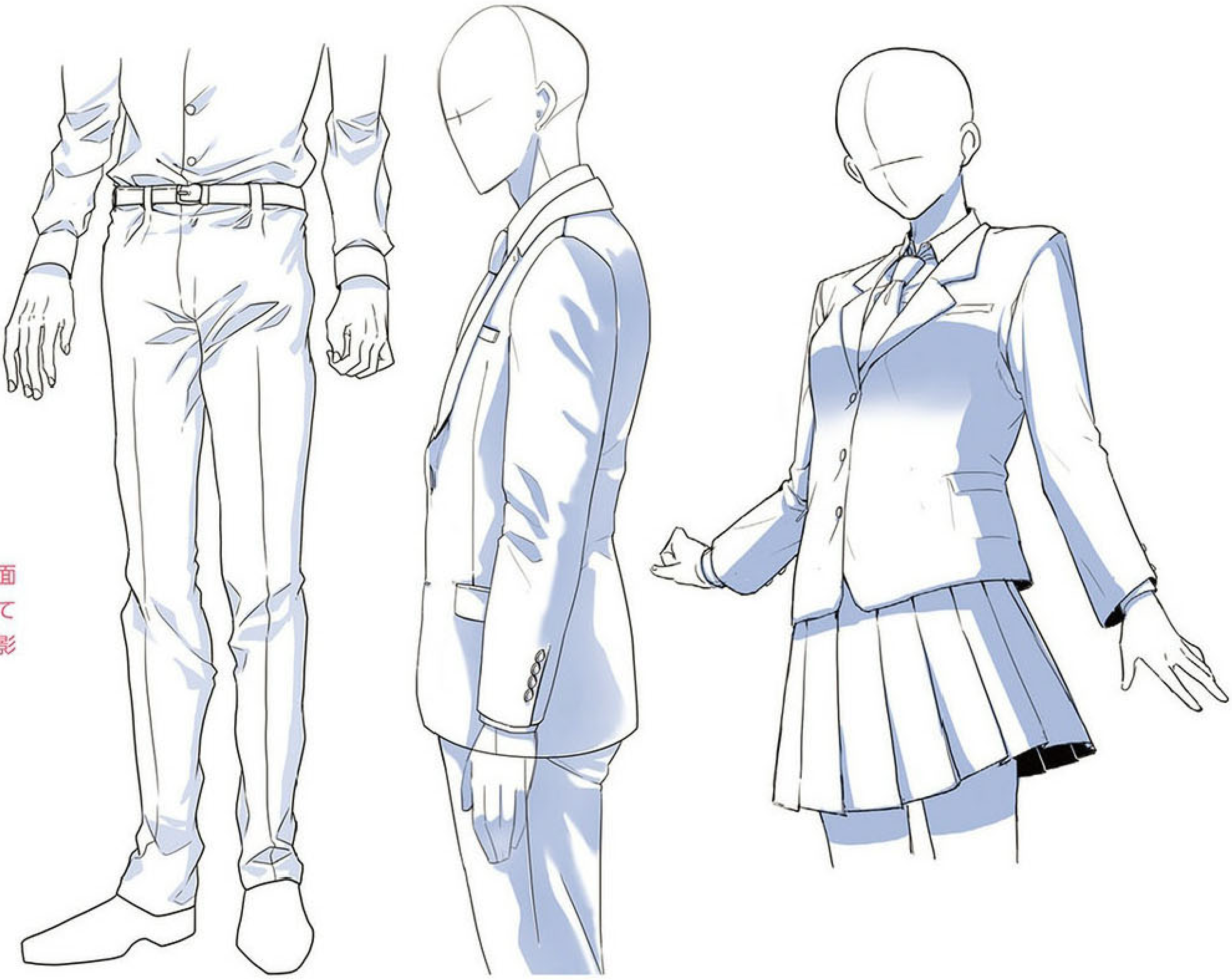
服の形が整ってきたら、シワができるであろう箇所にシワの線を描いて服の輪郭をもう一度整える。ポケットやネクタイなど、❷よりもさらに細かい箇所まで描き込んでいく。



▶大きなシワや深いシワははっきりとした線で描き、細かいシワは薄い線で描くとメリハリが出せる

4 影を描いて完成

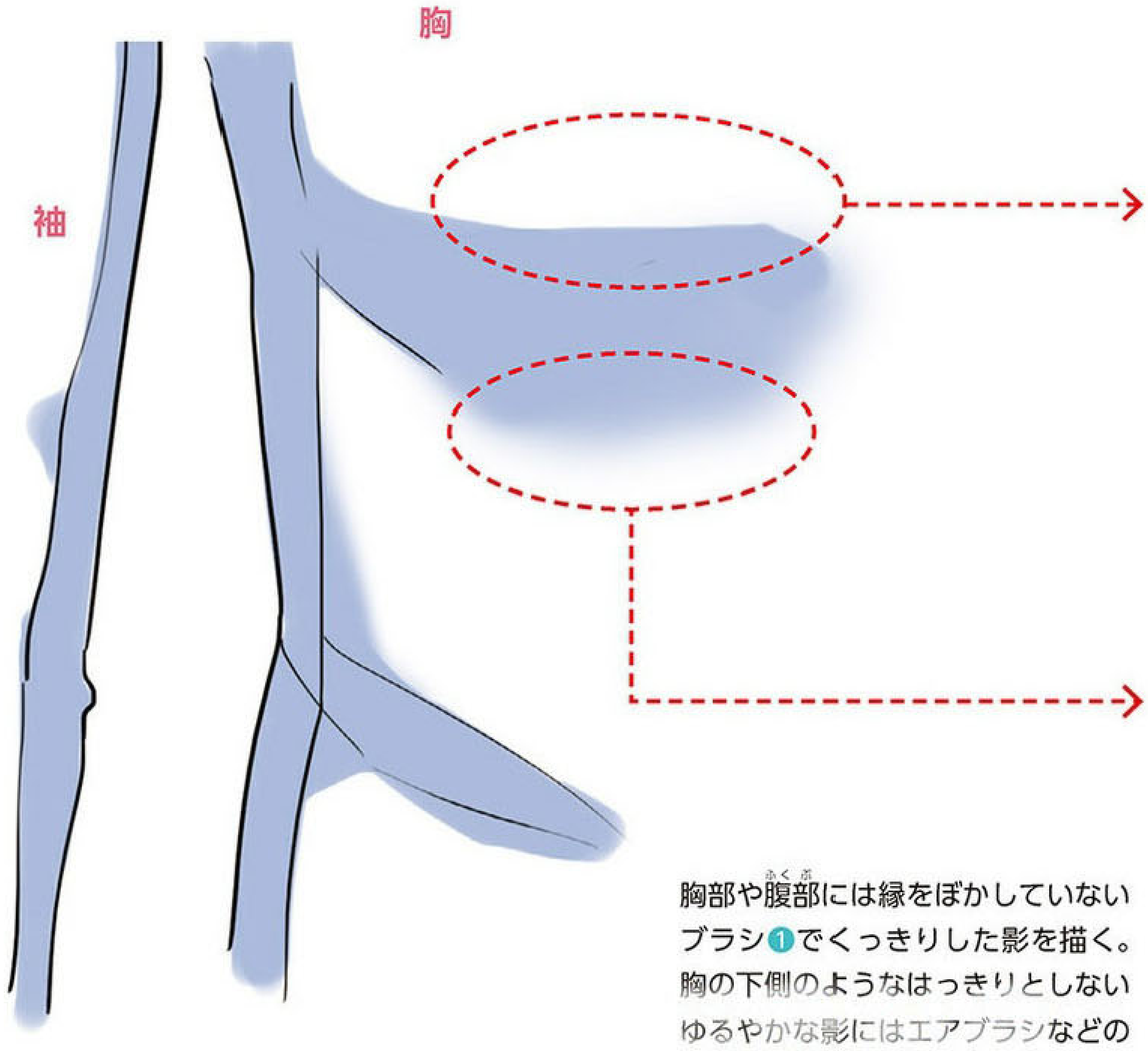
線画ができたら最後に影を描いて仕上げる。光が当たる方向を決めて、当たらない箇所やシワになって凹んでいる箇所に影を描いて完成。



▶光はキャラの正面やや上から当たっていると考えると陰影がつけやすい

服の影の描き方

2種類の影を描き分ける



❶ 縁がくっきりした影に使うブラシ

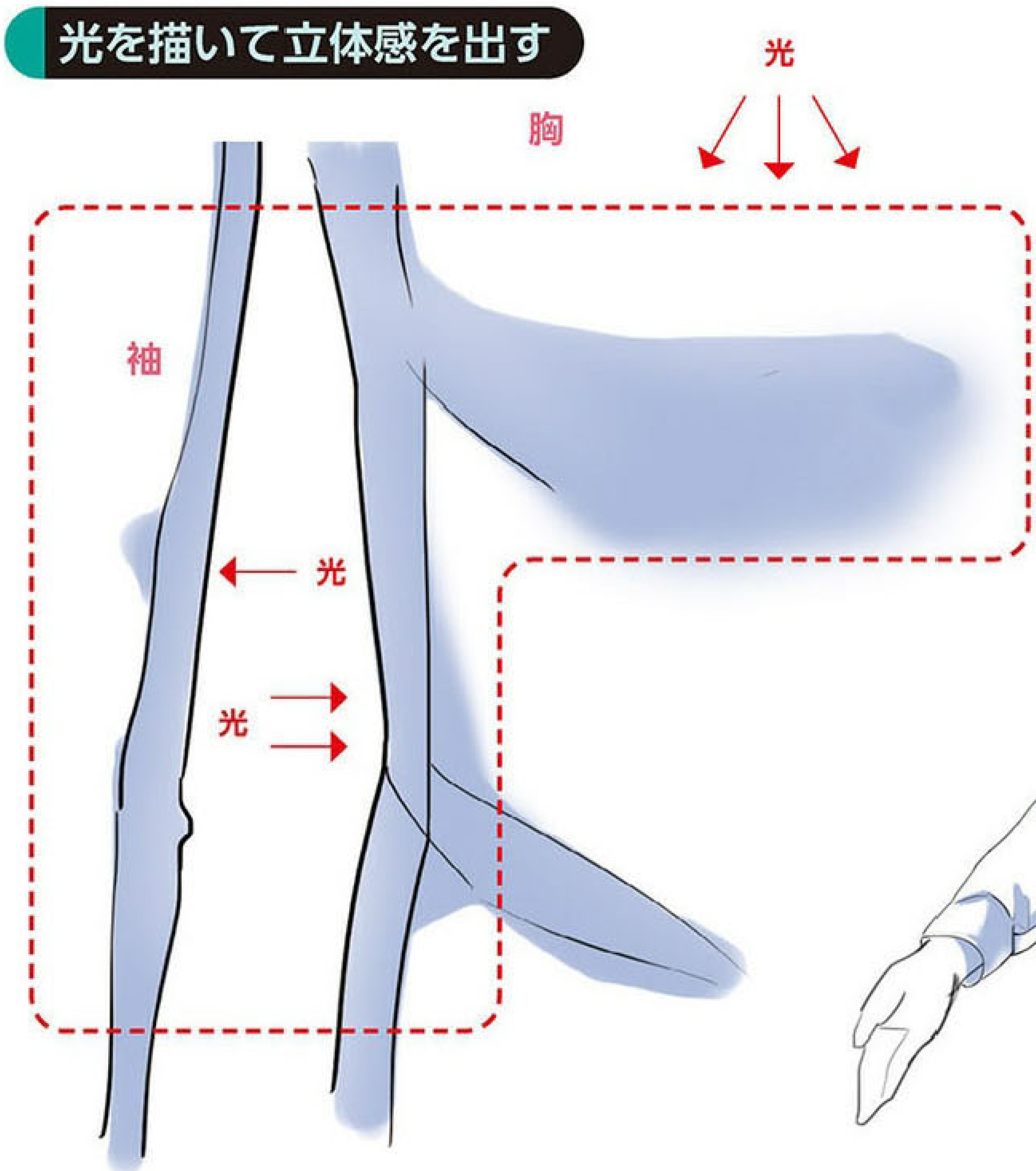


❷ 緩やかな影に使うブラシ



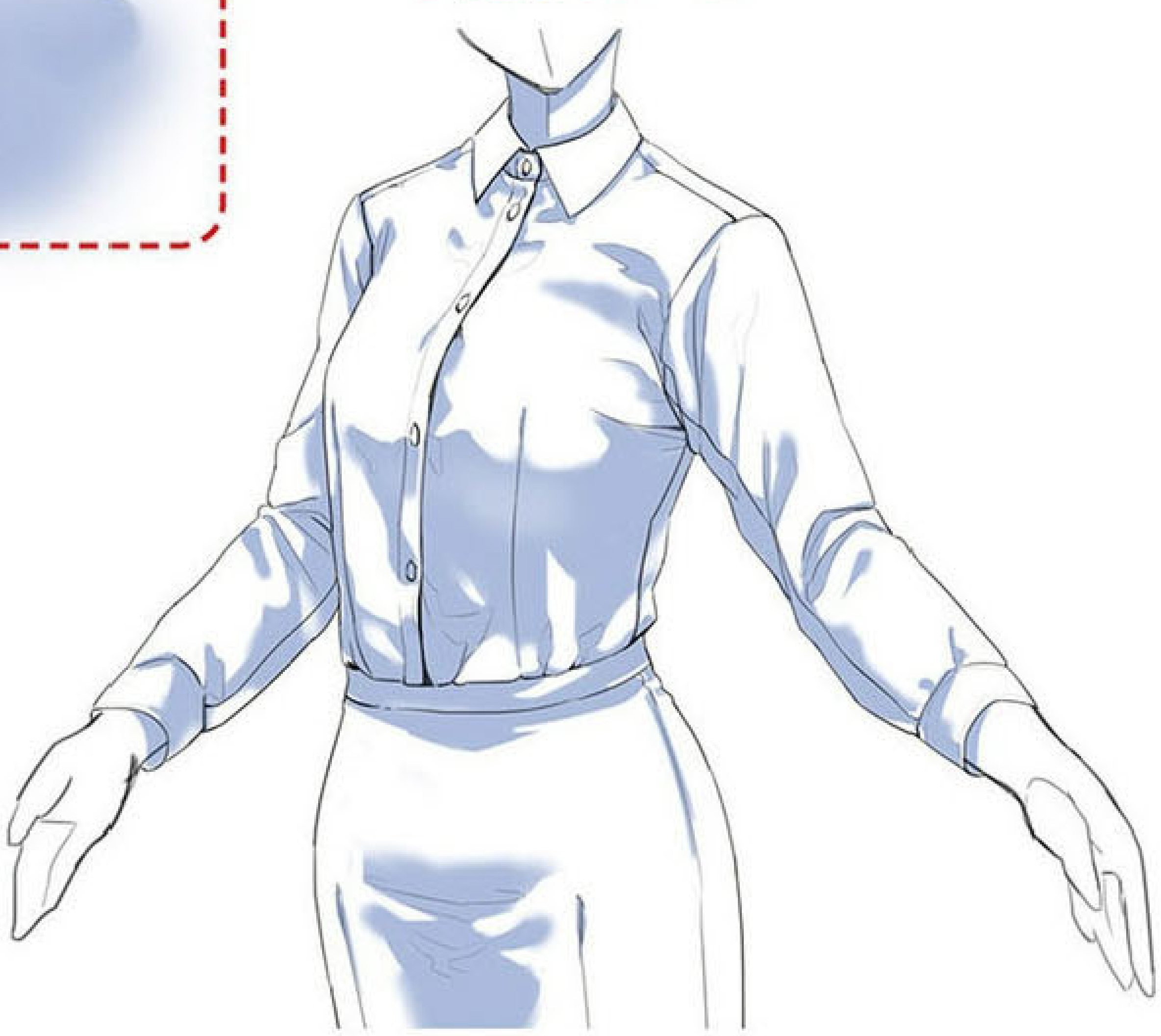
胸部や腹部には縁をぼかしていないブラシ❶でくっきりした影を描く。胸の下側のようなはっきりとしないゆるやかな影にはエアブラシなどの境界がぼけたブラシ❷を使う。

光を描いて立体感を出す



影を描いたあと、光が上や後ろ側から当たっている様子をイメージして、影の上に白や明るい色を軽く塗るとより立体的になる。

完成イメージ

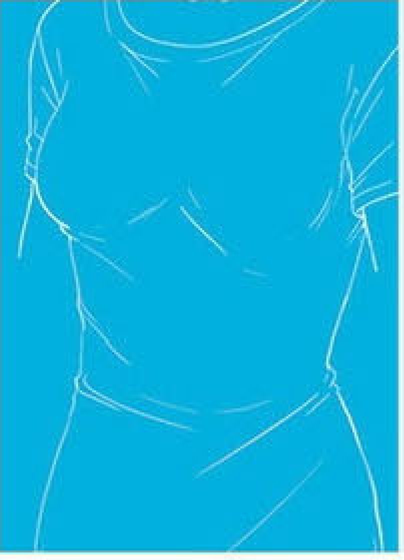


Part 1

トップス

カットソー・Tシャツ
シャツ・ブラウス
パーカー
セーター
カーディガン
ベスト
タンクトップ
キャミソール
チューブトップ



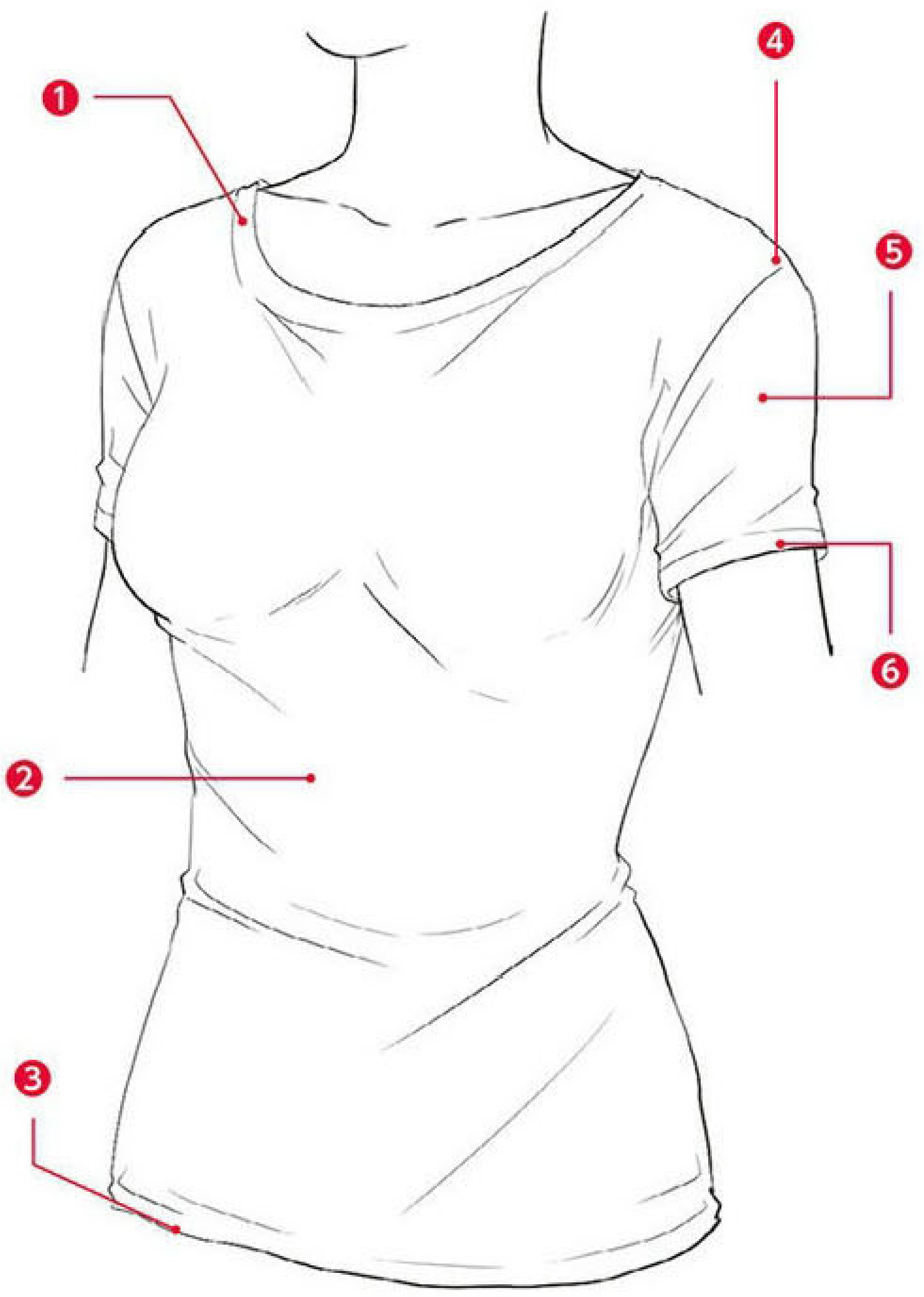


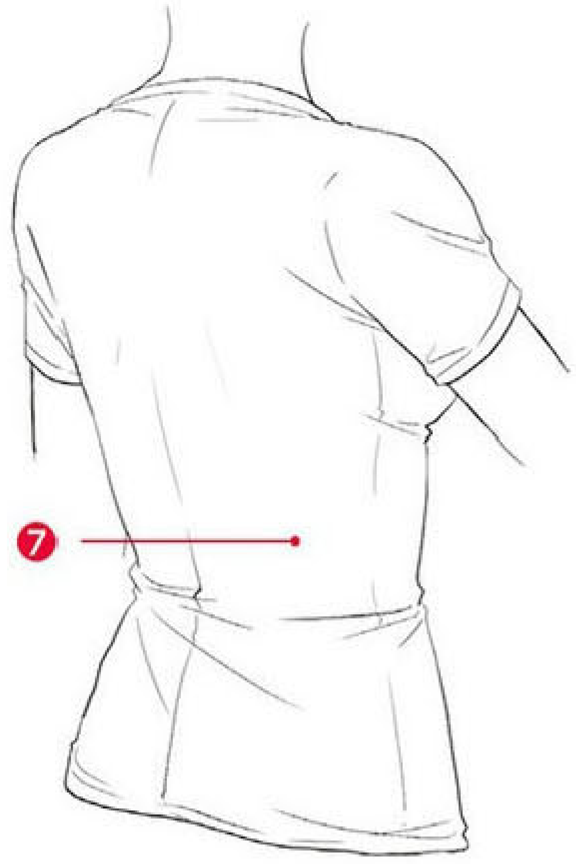
CUT & SEWN・T-SHIRT

カットソー・Tシャツ

被って着るタイプのカジュアルでオーソドックスなトップスです。首元の開き方やその深さ、前身頃のデザインによりさまざまな種類があります。

カットソーの構造





1 襟ぐり
2 前身頃
3 裾
4 肩口
5 袖
6 袖口
7 後ろ身頃

ラウンドネック

もっとも基本的なタイプのカットソー。襟ぐりは丸く、鎖骨周りがはっきりと見える。

POINT

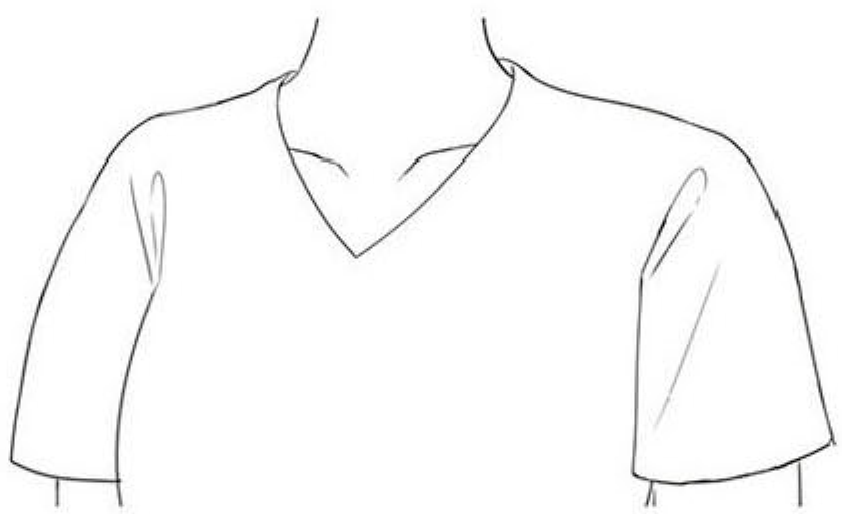
「カットソー」と「Tシャツ」の違い

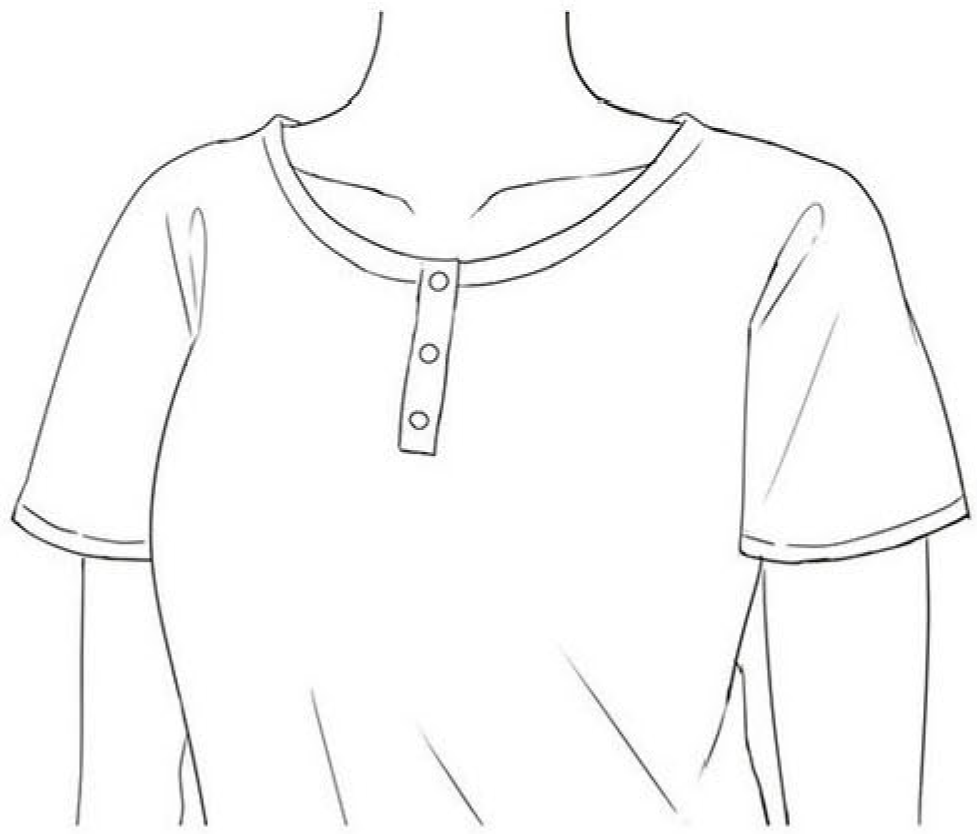
カットソーとは、本来は生地を断裁（カット）して縫い合わせた（ソーイング）服の総称で、広い意味ではTシャツをはじめとした多くの服がカットソーに分類されます。近年ではカットソーはTシャツとほとんど同じ意味で扱われ、主に女性向けのTシャツをカットソーと呼ぶ傾向にあります。

カットソーの首元の形

Vネック

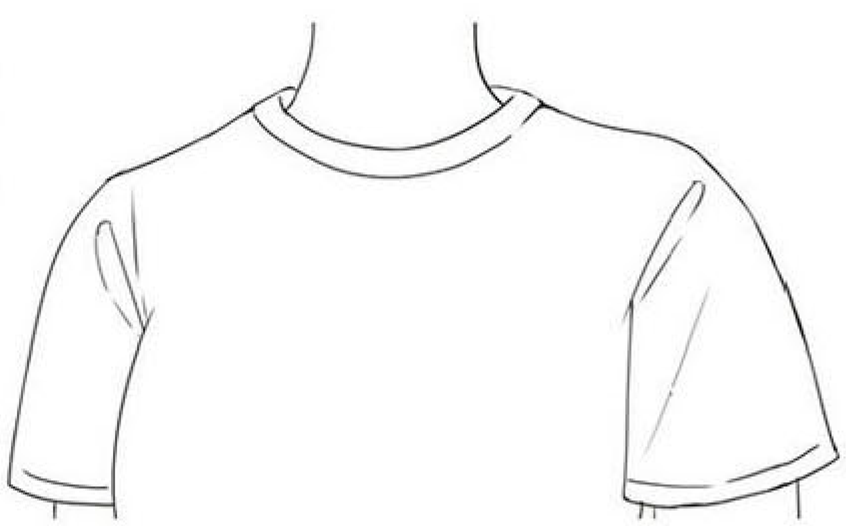
襟ぐりがV字状に開いたタイプ。デコルテ（首元から胸元の範囲）が深めに露出するので、男女問わず色気が出る。





クルーネック

襟ぐりが丸く、首元に沿って浅めに開いたタイプ。もっとも基本的な型の一つで、カジュアルな印象になる。



ヘンリーネック

丸い襟ぐりの前面中央にボタン式の前立てがつき、胸元の開閉が可能になったタイプ。

ラウンドネックカットソーの描き方（前側、後ろ側）

前側

1 肩や胴のラインに沿って服の輪郭線を描く



◀最初に上半身のアタリを描き、胸や胴体のラインに沿って服の輪郭線を描いていく。女性用のカットソーは体にフィットするタイプのものが多いため、輪郭線はあまり凸凹させないように注意しよう

2 カットソー全体にシワを描き加える



◀シワができやすい箇所は、胸元、肩口の周辺、腰周り。肩口は生地のつなぎ目に寄せたシワ、胸元は胸で突っ張ったシワ、腰周りは生地が重なってできるシワを描こう

3 影をつけて完成

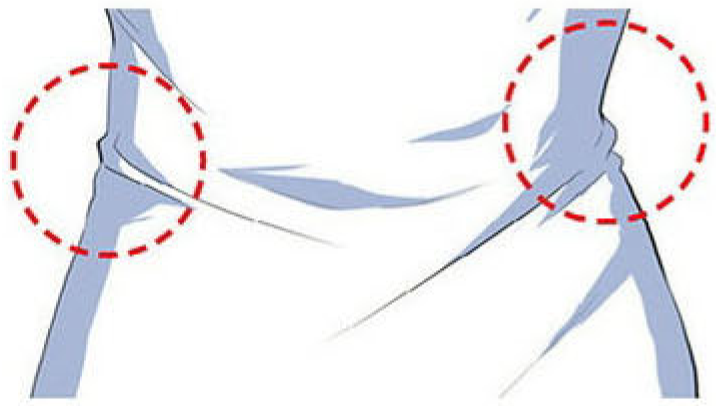


◀胸の下側や脇の下側、シワができている部分に影を描いて完成。シワの影は、シワの線に沿って境い目がはっきりとした形で描こう

POINT

腰周りにできるシワ

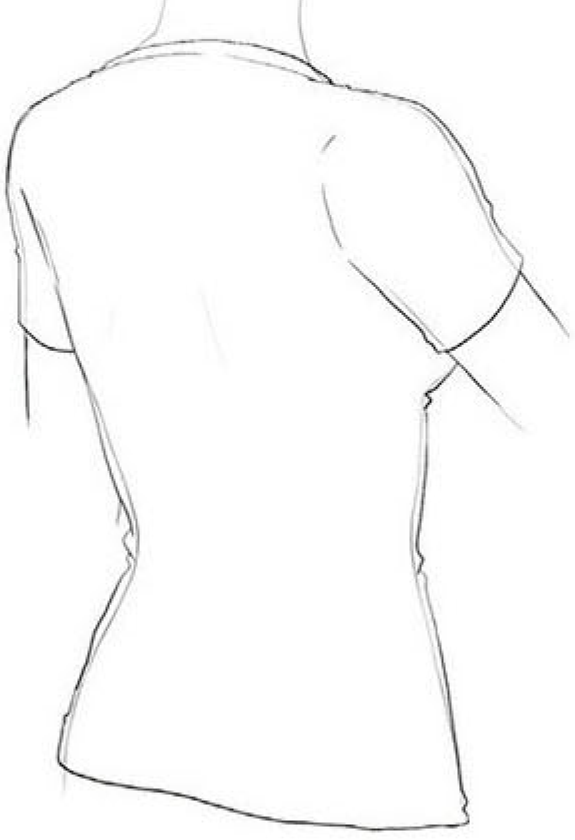
腰のくびれた箇所には生地が寄って膨らんだようなシワができます。くびれの位置にこのシワを描くと、女性らしい腰つきが表現できます。



後ろ側

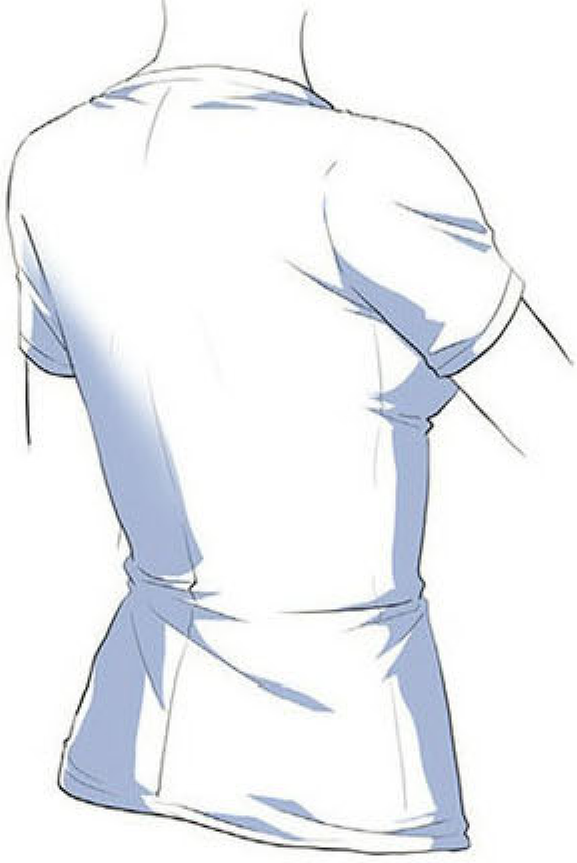
1 肩や背中のラインに沿って服の輪郭線を描く

▶前側と同じように、肩や背中、お腹など体のラインに沿って服の輪郭線を描く。腰のくびれの位置で線にはっきり角度をつけると、女性らしい丸みを帯びたシルエットが強調される



2 シワと影を描いて完成

▶手を前に出すと袖が引っ張られて袖口から肩口に向かってシワができる。影は主に背中から腰にかけての広範囲と、腰周りのシワの部分に描く



文字入りTシャツの描き方(前側)

1 体のアタリに沿ってTシャツとシワを描く

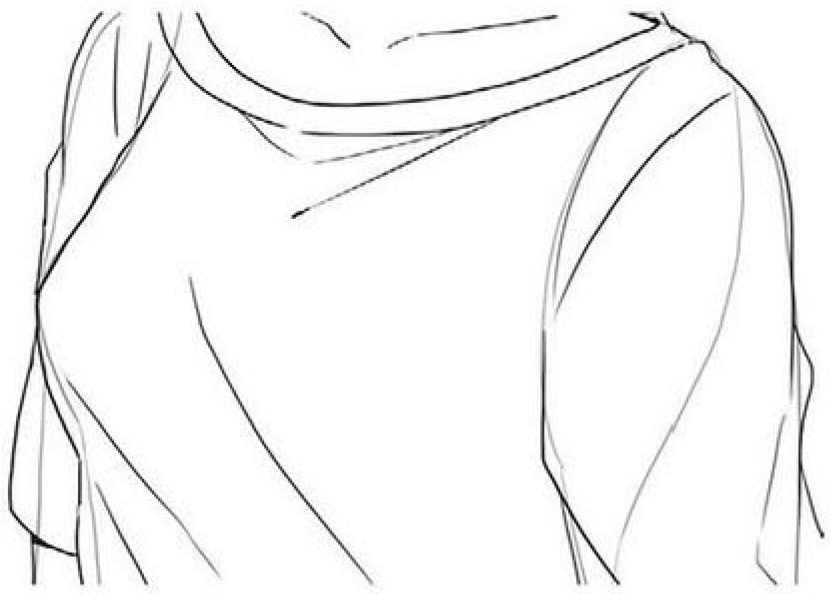
▶袖口は腕よりも幅を広くすると生地がゆるく見える。反対に、胸や腰、裾の部分を体にフィットさせると女性らしい体つきが強調される



POINT

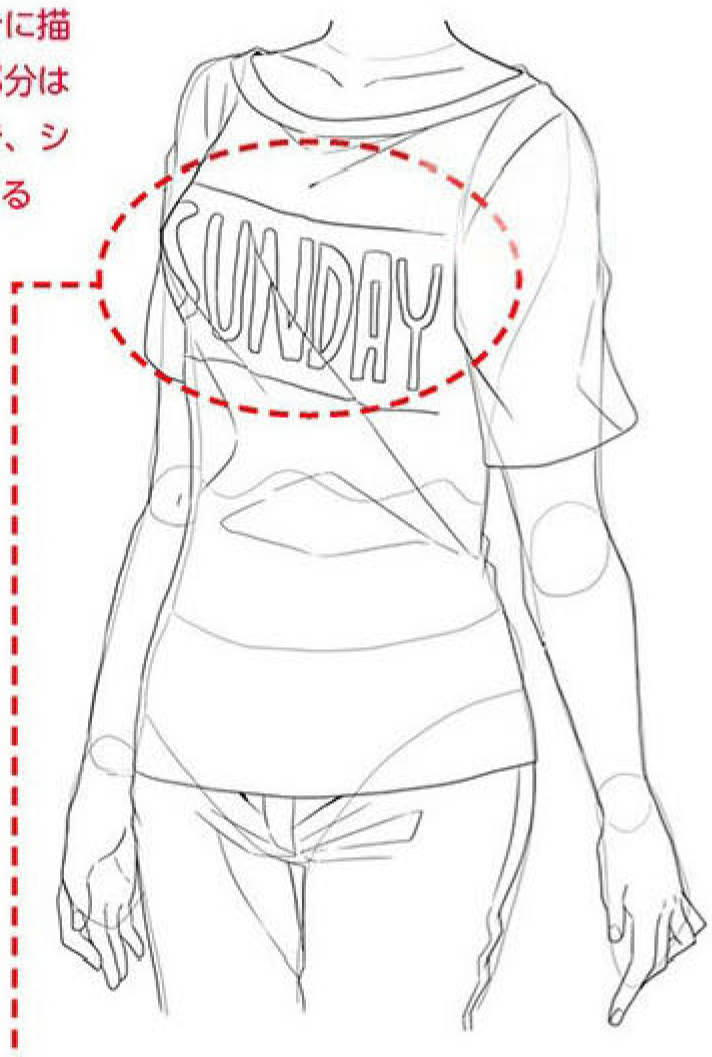
胸の周りにできるシワ

生地がゆったりしているTシャツは、女性が着ると胸から下側に向かって大きなシワができやすくなります。



2 胸の位置に文字のロゴを描く

▶胸のふくらみによる湾曲を意識しながらロゴを胸の部分に描く。シワの線と交差する部分は文字をずらして描くことで、シワによる服の歪みを表現する



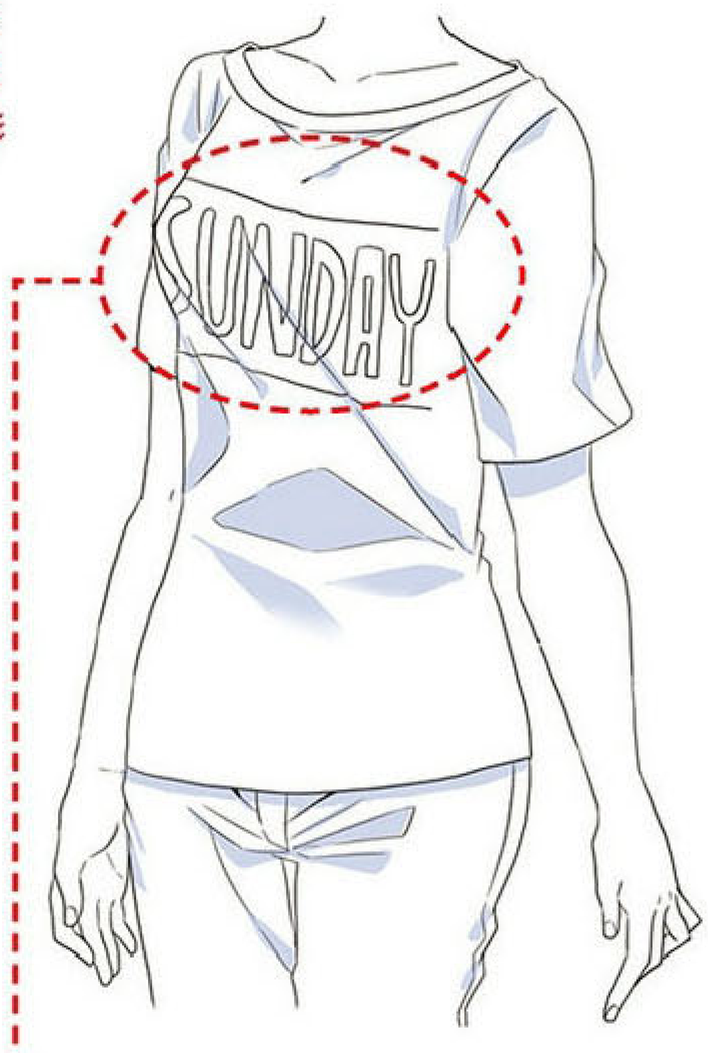
拡大図



▲胸の周りには大きな引っ張りジワができる

3 影を描いて完成

▶シワができて暗くなっている部分やくぼんでいる箇所に影を描いて完成



拡大図



▲胸の引っ張りジワにはシワの線に沿った細い影を描き、下側の生地がたるんでくぼんでいる箇所は一帯に影を描く

長袖カットソーの描き方（前側）

1 体と服のアタリを描く



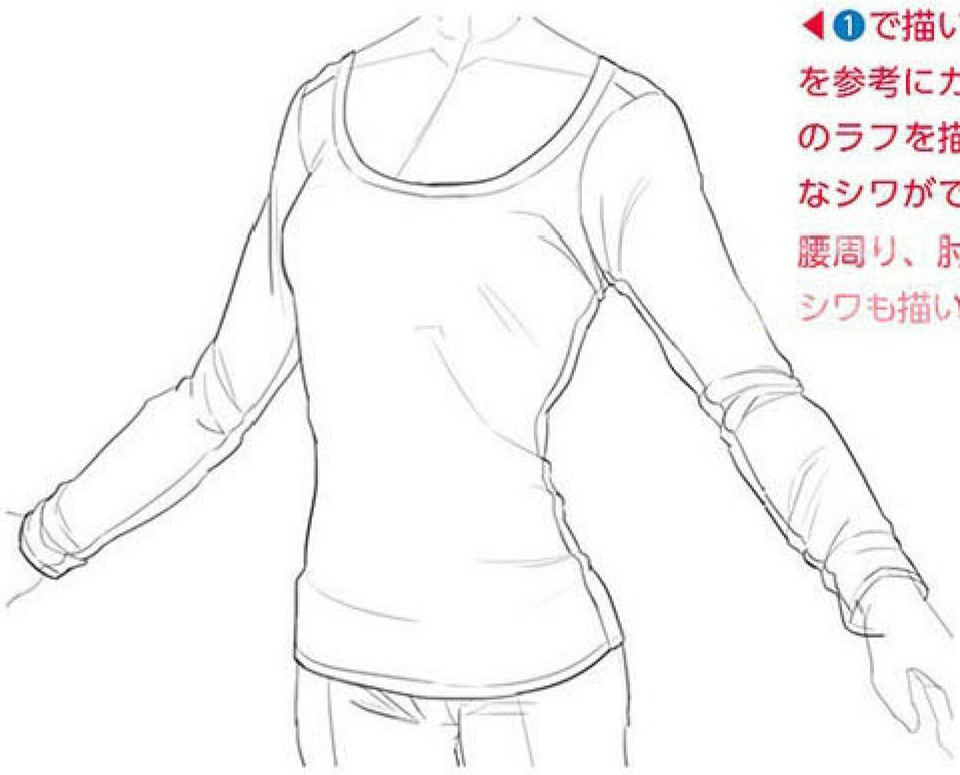
◀おおまかなポーズとカットソーのアタリを描き起こす。服のシワなども後でイメージしやすくなるよう、肘や肩口など、ある程度シワが入りそうな場所に線を描いておく

2 体のラフを描く



◀服を着せるベースとなる体のラフを描いていく。胴体や両足の中央に中心線を引いておくとどこに服の中央がくるかわかりやすくなる

3 上半身のラインに沿って服のラフを描く



◀❶で描いたアタリを参考にカットソーのラフを描く。大きなシワができやすい腰周り、肘、肩口のシワも描いていく

4 服のラフを線画にする



◀❸のラフを清書して線を整える。腰周りや肘などに入る深いシワは、太くはっきりとした線で描くようにしよう

5 細部のシワを描き込む



◀お腹の周りなどに細かいシワを追加する。❹で描いた太いシワの周りに細い線で小さなシワを描き足すことで、絵をうるさくせずにディテールを深められる

6 完成



▶女性向けのカットソーは肌に密着するので胸の下側やシワの下側などに影ができやすい。胸の上側や腰周りなど、明るくなる部分とのメリハリをつけて影を描いていこう

カットソー・Tシャツの作例

クルーネック

丸襟で首元の開きが浅く鎖骨が隠れるため、カジュアルさが強調されて自然体の印象を与えやすい。作りがシンプルな分、袖や胸から腰にかけてのシワをしっかり描こう。



男女ともに人を選ばないが、どちらかといえば細身のキャラクターに向いている

Vネック

胸元が深めに開いているためセクシーな印象を与える。胸元をあまり深くしすぎると下品な印象が増すため注意。スカーフやネックレスなどのアクセサリーとの相性もよい。



男女ともに体型が細身のキャラに向いており、シンプルに1枚だけで着ても様になる

ヘンリーネック

前立てのボタンを開閉することでラフな印象を与えたり誠実さを演出したりとキャラの雰囲気を変えることができる。ざらついたテクスチャを貼ると、よく生地に用いられる凸凹なワッフル織りの質感をうまく表現できる。



元々ボート競技の選手が着用していたこともあり、無骨で男らしいキャラにも合う

ボートネック

襟ぐりが丸く、ボートの底部のような横に広い形に開いたタイプ。鎖骨が端まで見えてラウンドネック以上に鎖骨のラインが強調されるため、爽やかで品のある印象を与える。



柔らかで可愛げな見た目になるため、男性よりも女性キャラの方が似合いやすい

フロントディテール

前身頃にドレープ（ゆったりとしたたるみ）感の生まれるディテールを取り入れた、女性用のカットソー。前見頃の中央に四方から生地が集まっていくようにシワを描き込んで立体感を出そう。



女性らしさが際立つデザインであり、大人っぽい雰囲気のキャラクターに合う

ラップスタイル

布を体に巻き付けたような、前身頃で生地が交差するデザインが特徴。服に変化をつけつつボディラインを強調できるため、フェミニン（女性的）な雰囲気になる。



大人びた印象でクールな女性キャラほど引き立つ。さまざまなボトムスとも相性がいい

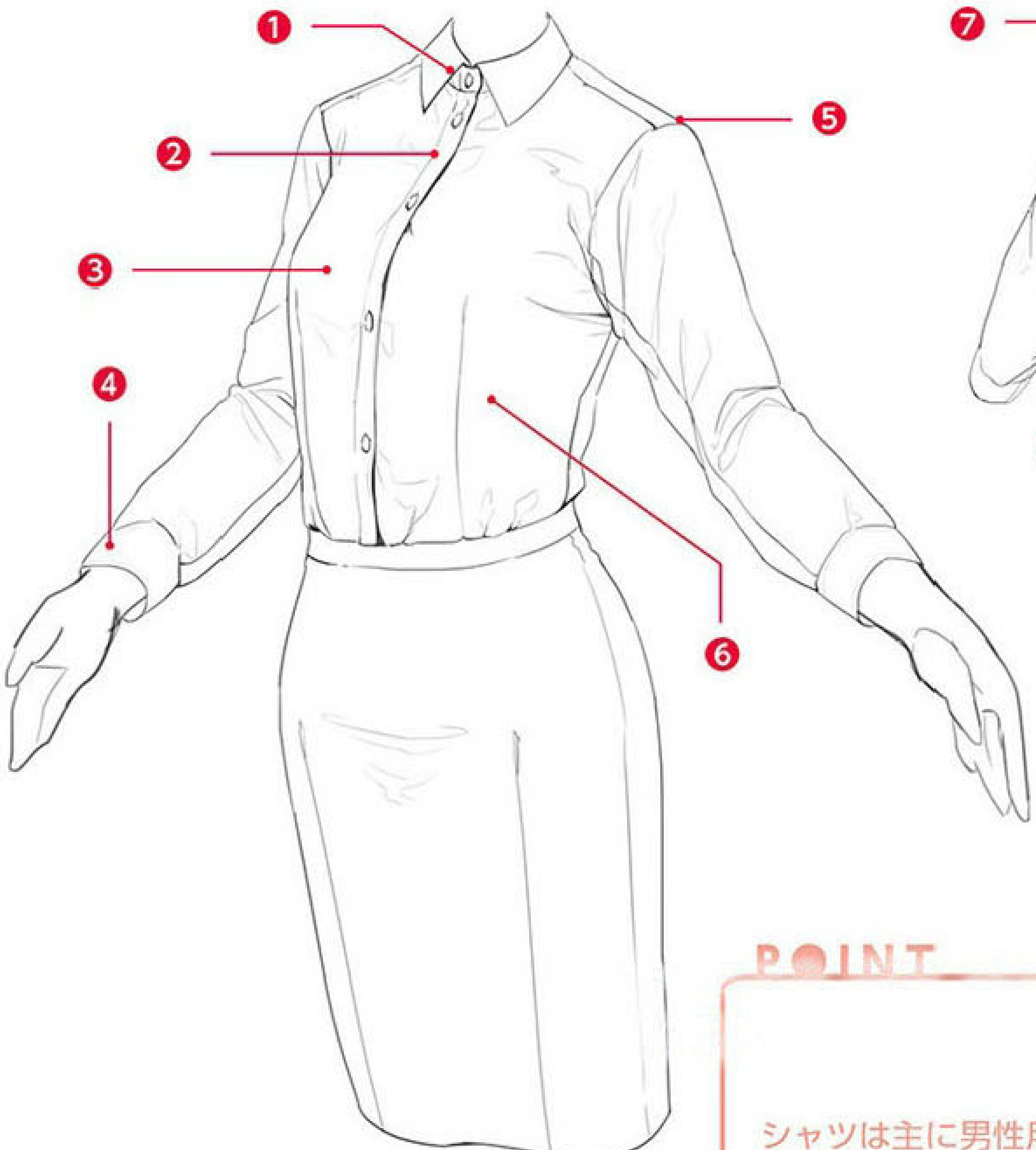


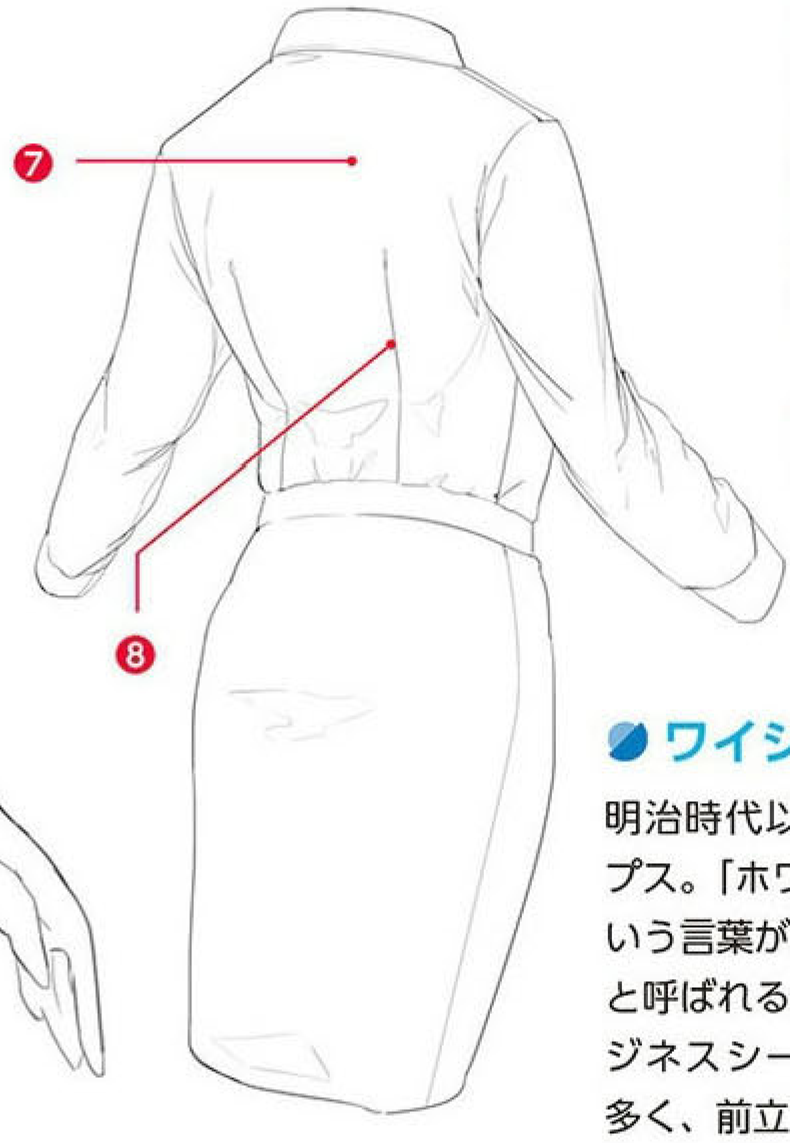
SHIRT・BLOUSE

シャツ・ブラウス

襟付きで、前身頃をボタンで止める型を基本としたトップスです。襟元の形や柄の種類などにより、多くのバリエーションがあります。

シャツの構造





❶襟
❷前立て
❸前身頃
❹カフス(袖口)
❺アームホール(袖ぐり)
❻バストダーツ
(サイドダーツ)
❼後ろ身頃
❽バックダーツ

ワイシャツ

明治時代以降から浸透したトップス。「ホワイト(白い)シャツ」という言葉が訛って、「ワイシャツ」と呼ばれるようになった。主にビジネスシーンなどで着る機会が多く、前立てのボタンを留めるときっちりとした雰囲気が出る。

POINT

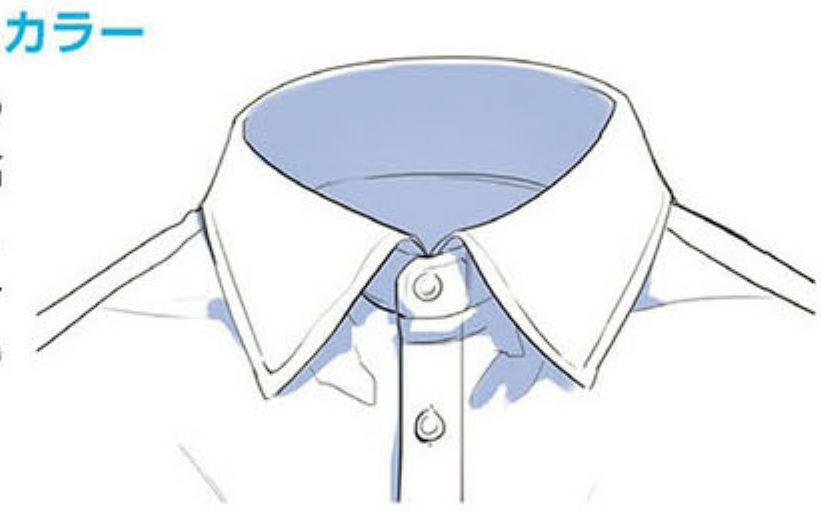
「シャツ」と「ブラウス」の違い

シャツは主に男性用で、前立てが自分から見て左が上のもの、ブラウスは女性用で右が上のものを指します。シャツは元々下着として用いられた名残から、着丈の先が弧を描いた形であるのが一般的です。それに対し、ブラウスは当初より外着での使用を目的としているため、伸縮性がある柔らかい生地を採用することが多く、前立てにフリルを付けたものなどデザイン性も豊かです。

シャツの首元の形や模様例

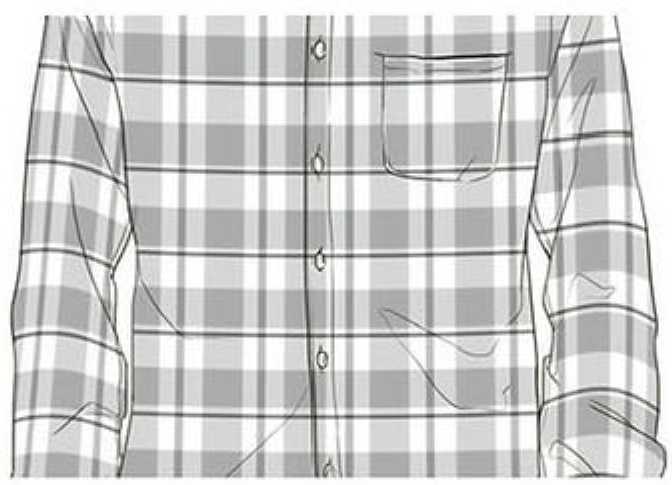
レギュラーカラー

「カラー」とは襟のこと。襟足が高くも低くもなく、かつ襟先が75～90度程度に開いたものを指す。



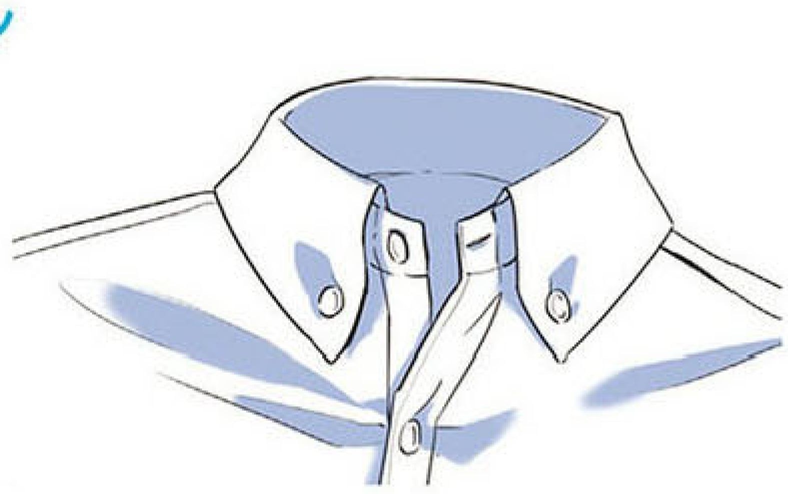
チェック柄

色や太さの違うラインが十字に交差する柄。タータンやギンガム、アーガイルなど、さまざまな模様が存在する。



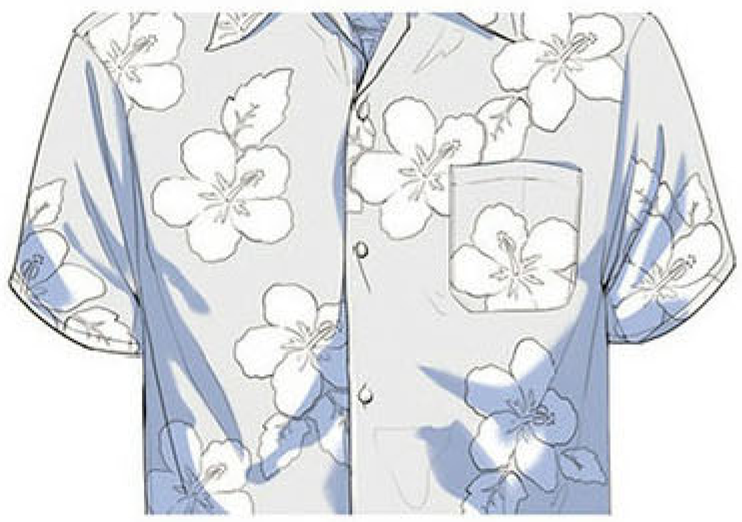
ボタンダウン

襟先を小ぶりなボタンで固定している。カジュアル度が高く、セーターやダウンベストとの相性が良い。



アロハ柄

ハワイ発祥の柄。ハイビスカスなどのトロピカルなものを中心に、多様なモチーフが色彩豊かに描かれる。



ワイシャツの描き方(前側)

1 ワイシャツとスカートのアタリを描く

▶トップスをボトムスにインする服の場合はボトムスのアタリも一緒に描く。シャツの腰周りをスカートの腰周りに合わせよう



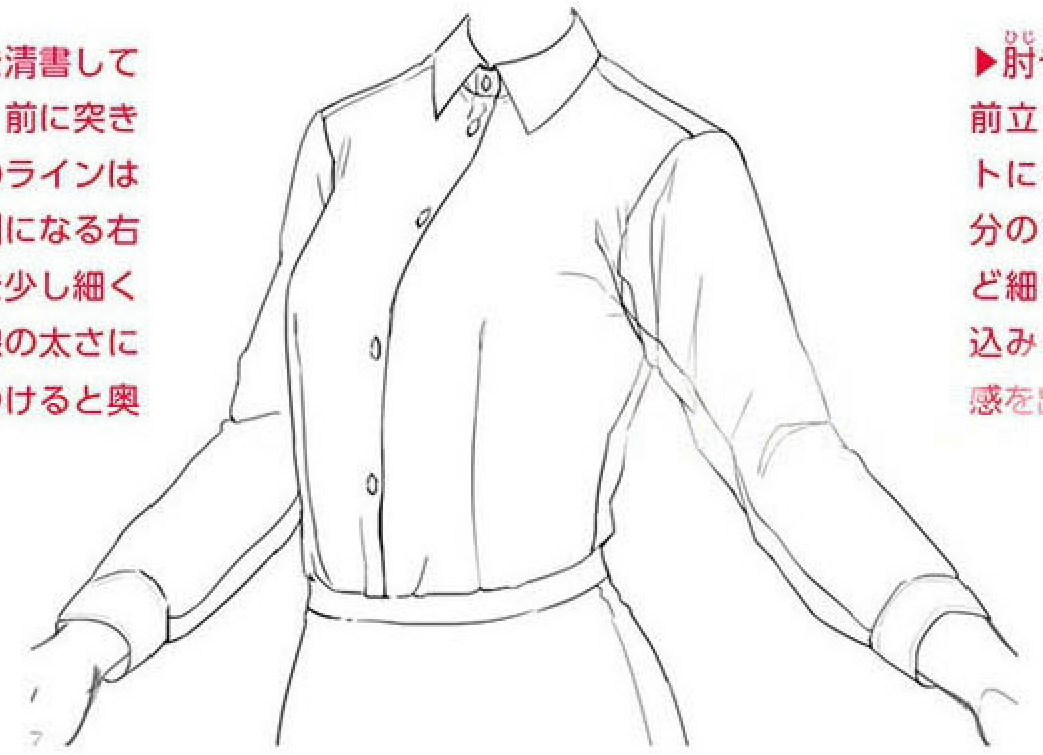
2 体のアタリを参考にワイシャツのラフを描く

▶女性らしい体つきが出るように、シャツの胸と背中は体のラインに沿った輪郭線を描く。体の中心線に合わせ前立てとボタンの位置も決めておこう



3 線画を清書する

▶❷のラフを清書して線画を描く。前に突き出ている胸のラインは太い線、奥側になる右腕の袖は線を少し細くするなど、線の太さにメリハリをつけると奥行きが出る



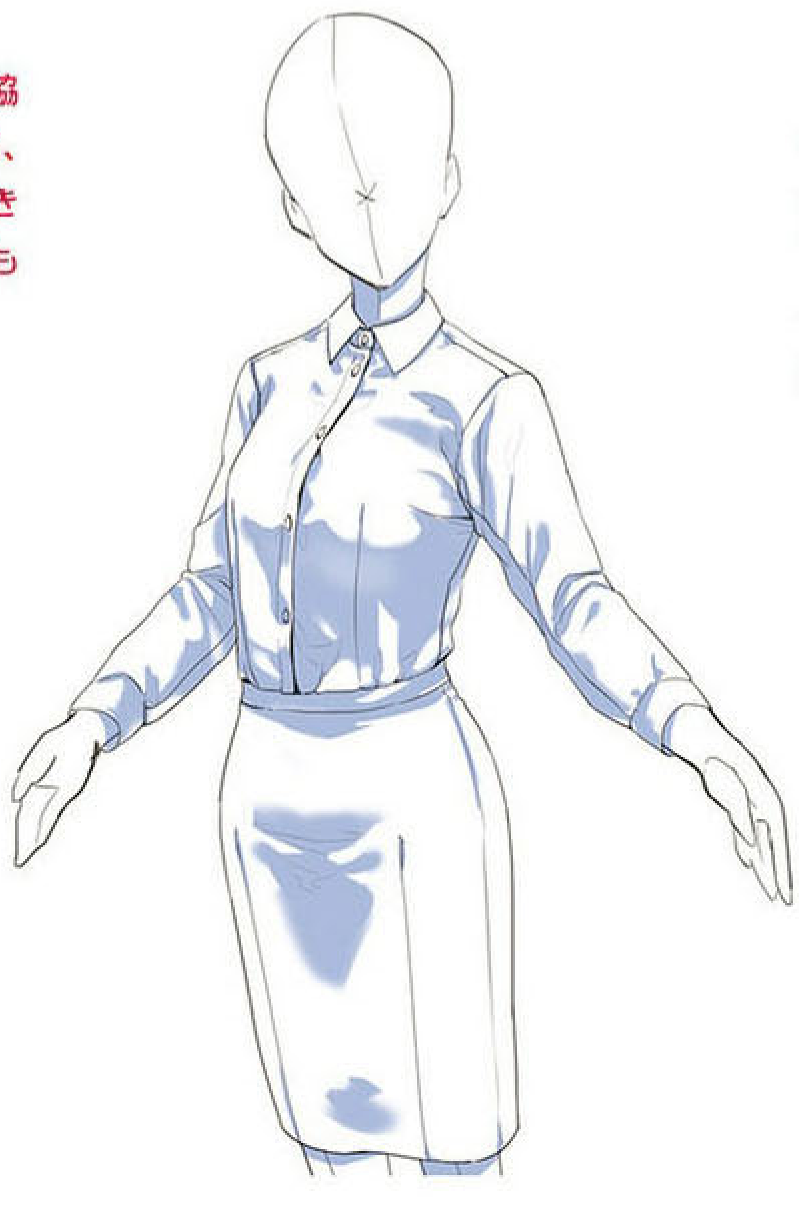
4 細部を描き込む

▶肘や脇の下のシワ、前立ての影、スカートにインしている部分のシャツのシワなど細かい部分に描き込みを増やして立体感を出す



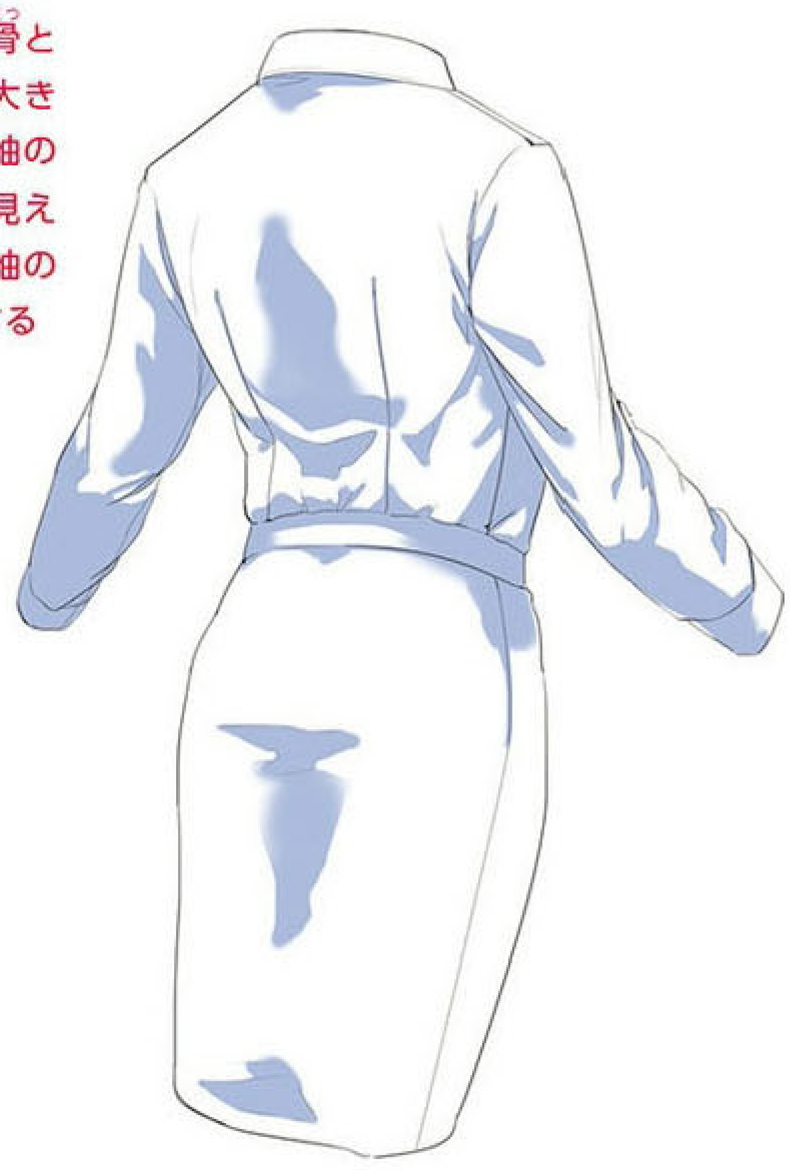
5 完成

▶影は胸の下側から脇腹にかけてを中心に、袖の下側やシワができて凹んでいる箇所にも描いていこう



後ろ側の作例

▶背中には肩甲骨との間がくぼんで大きな影ができる。袖の下側がしっかり見える構図なので、袖の影の面積も広くする



フリル付きブラウスの描き方(前側)

1 ブラウスとスカートのアタリを描く

▶はじめに体のアタリを描き、腰の位置を参考にしながらブラウスとスカートのアタリを描いていく。前立ての左右にはフリルのアタリとして四角をいくつか描き、描く位置をあらかじめ決めておく



2 胸のラインに沿ってフリルの流れを描く



▲体の中心線に沿って前立てを描き、前立ての線を軸にして左右にフリルのラフを描く。フリルは幅が短いものと長いものの2種類を重ねるとボリューム感が出る

3 フリルのシワを描く



▲線画を描きながらフリルのシワを描き込んでいく。「フリルは前立てに縫い付けてある」という意識を持って、前立てを中心に線を描いていこう

4 フリルの影や脇の下に描き込みを加える

▶前立てとフリルのすき間や、フリル同士が重なっている箇所などの線を濃くすることで影を強調する。脇の下やスカートのタック部分も同様に線を濃くする



5 完成

▶影は胸の下側や脇の下、スカートにインしている腰周りなどに描く。フリルの影は生地の裏側やくぼんでいる箇所だけに留めて白い面積を多くすると爽やかで清楚な雰囲気が出る



フリルなしブラウス

▶フリルがない場合は胸元がシンプルになるため、スッキリとしたイメージを与えられる。胸の下側の影を控えめにすると、白い面積が多くなってより爽やかに見える



着崩したシャツの描き方(前側、後ろ側)

前側

1 男性の体とシャツのアタリを描く

▶腕まくりをしているので、両肘周りの線を歪ませてシワを密集させる。体の中心線を参考に、襟から裾にかけて左右の前身頃の線を描く



2 腕や胴のアタリを参考にシャツのラフを描く

▶前が開いてシャツが体から離れているので、シャツの胴部分は胴体から離した位置に描く。腕まくりしたカフスの線は、腕の丸みに沿ってカーブさせる



3 アタリを消して清書する

▶生地が寄っている肘の周りや前身頃の腰の高さを中心に、全体にシワを描き加える。シャツの側面に、前身頃と後ろ身頃を分けるつなぎ目の線も描いておく



4 完成

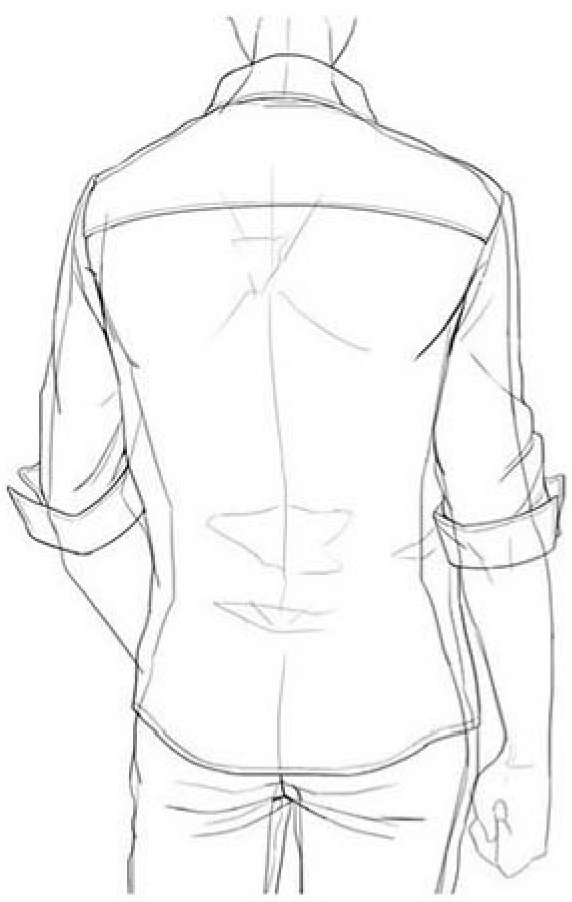
▶襟の内側や下側、袖や脇の下側、下に着ているTシャツなど、光が当たらない箇所に影を描く



後ろ側

1 肩や背中のアタリを参考にシャツを描く

▶肩から腕にかけてのラインや胴体のラインを参考にシャツの輪郭線を描く。腕や胴周りは、生地に余裕があるので体のラインから少し離した位置に線を引こう



2 影を描いて完成

▶人間の背骨はS字のカーブを描いているので、背中の上側は明るく、下側は暗くして、さらに腰からお尻のあたりで再度明るくなるように影を描くと立体感が出る



シャツの作例

ボタンダウン

小ぶりなボタンで襟先が固定されたシャツ。ボタンを生地よりも目立つ配色にすることで、さり気なくアクセントをつけたものが多い。直線的な線で、硬めの質感を出そう。



活発な印象に仕上がるので、女性キャラに着用させボーイッシュさを演出するのも面白い

ポロシャツ

ボタンが首元の2～3つのみで、頭から被って着るタイプのシャツ。伸縮性のある生地が定番で袖口がリブ状になっているものも多く、袖口に少し絞りを入れるとカジュアルかつ上品な雰囲気が増す。



男女問わずさまざまなキャラに合う。爽やかさやスポーティーな雰囲気を手軽に出せる

ネルシャツ

フランネル地という軽く起毛した素材を用いたシャツ。チェック柄が基本で、柄で個性を出しやすい。テクスチャを貼る際、そのまま全面に貼ると立体感が出ないので、前身頃、袖、襟の部位ごとに角度を変えて貼るようにしよう。



細身でスタイルのいい男性や、スキニージーンズなどを履いた細身の女性キャラに合う

シースルーシャツ

透け感のある素材で作られた女性用のシャツ。無地のものだけでなく、レース生地を使い、女性らしいアクセントをつけたものも多い。インナーや肌とのコントラストで軽やかな印象を作ろう。



爽やかな清楚系からセクシー路線まで、透け加減やデザイン次第でさまざまに表現できる

クレリックシャツ

襟とカフス（ワイシャツの袖口）のみが白無地で、身頃は色付きや柄ものの生地で仕立てられたシャツ。清潔感が高く、知的な印象を与えることができる。



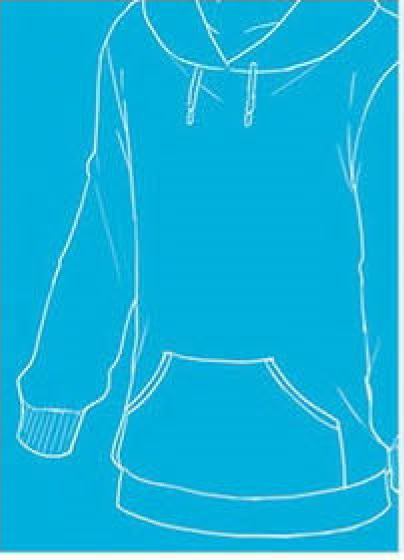
スマートかつ華やかな雰囲気が出るため、スーツ姿にアクセントを加えたいときに便利

アロハシャツ

南国風な柄はもちろん、和服に起源を持つとされるためか、龍や鯉といったモチーフの柄もある。体に密着しない服なので、胴から裾にかけての輪郭線はまっすぐに近い線で描こう。



陽気なキャラは花柄に、強面な男性は和柄にするなど、キャラのタイプに合わせて柄を変えてみよう

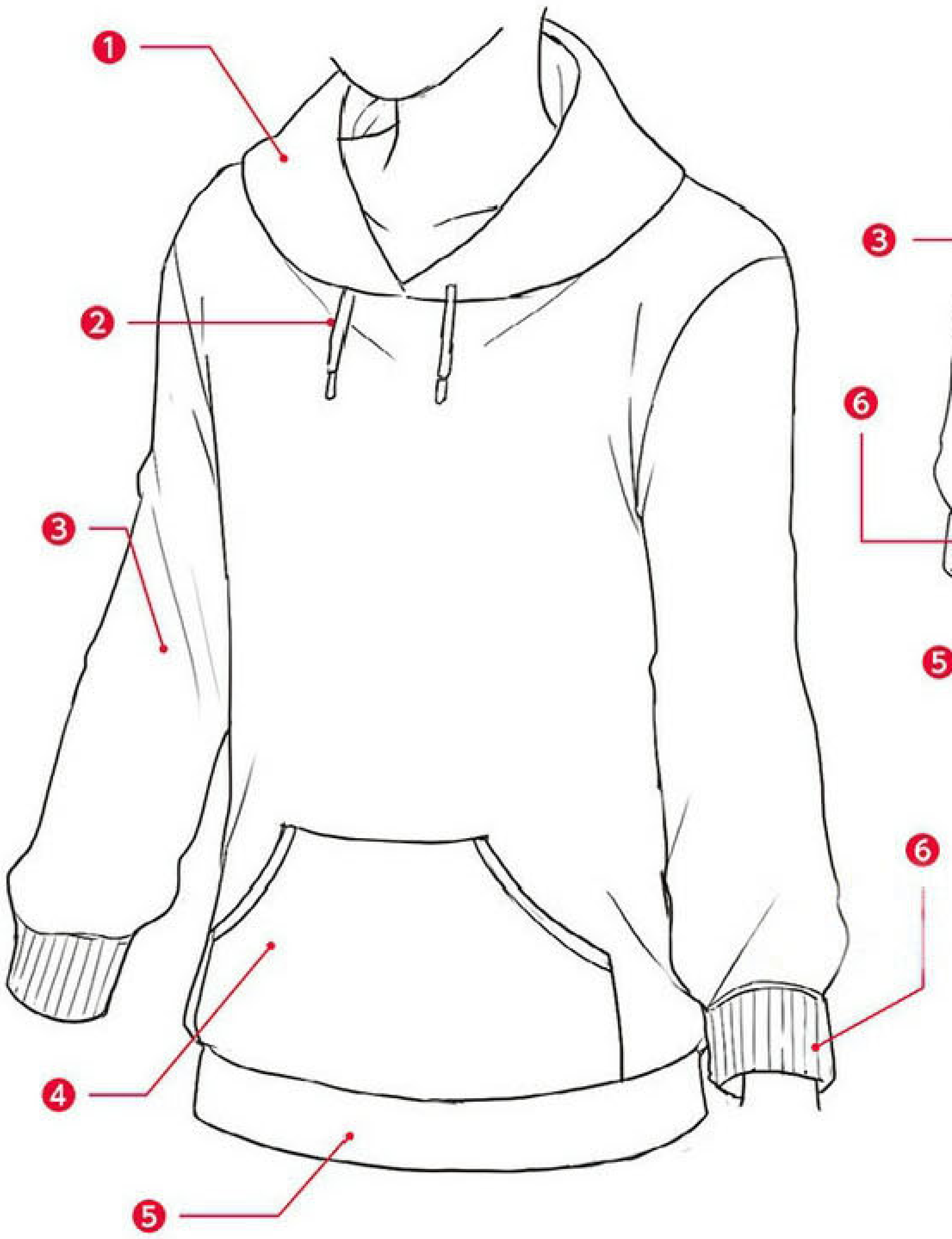


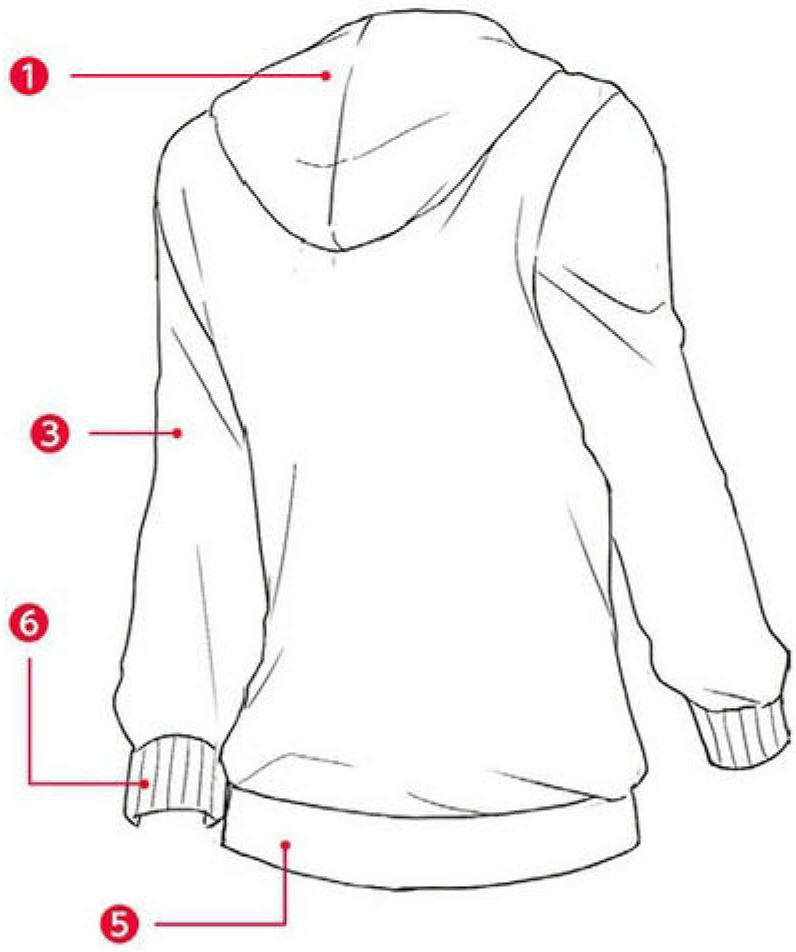
パーカー

HOODIE

首の部分に頭部を覆うフードがついたカジュアルなトップスです。前をジッパーで閉めるものや、お腹にポケットがついたものなどがあります。

パーカーの構造





❶フード
❷紐
❸袖
❹ポケット
❺裾
❻袖口

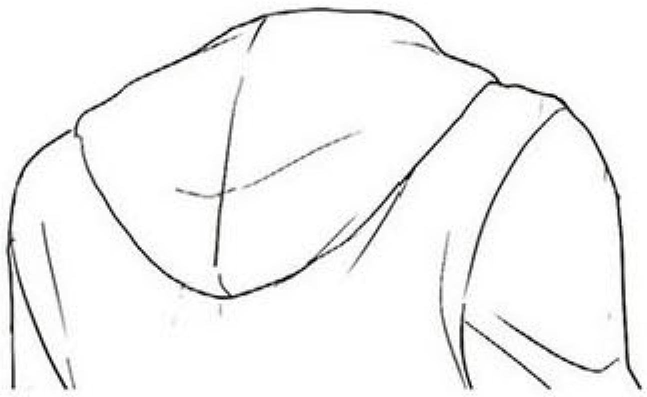
プルオーバーパーカー

頭から被って着るタイプのパーカー。柔らかいスウェット生地でできたものが多い。お腹の位置に両手が入るポケットがついている。

POINT

フードの厚み

パーカーのスウェット生地には、春夏向けの生地が薄いものと、秋冬向けの生地が厚いものがあります。生地が薄いとフードは潰れたような形になります。



パーカーの種類



ボリュームネックパーカー

首周りが完全に隠れるほど首元にボリュームを持たせたタイプ。ボタンで留めるものとジッパーで閉めるものがある。





ジップパーカー

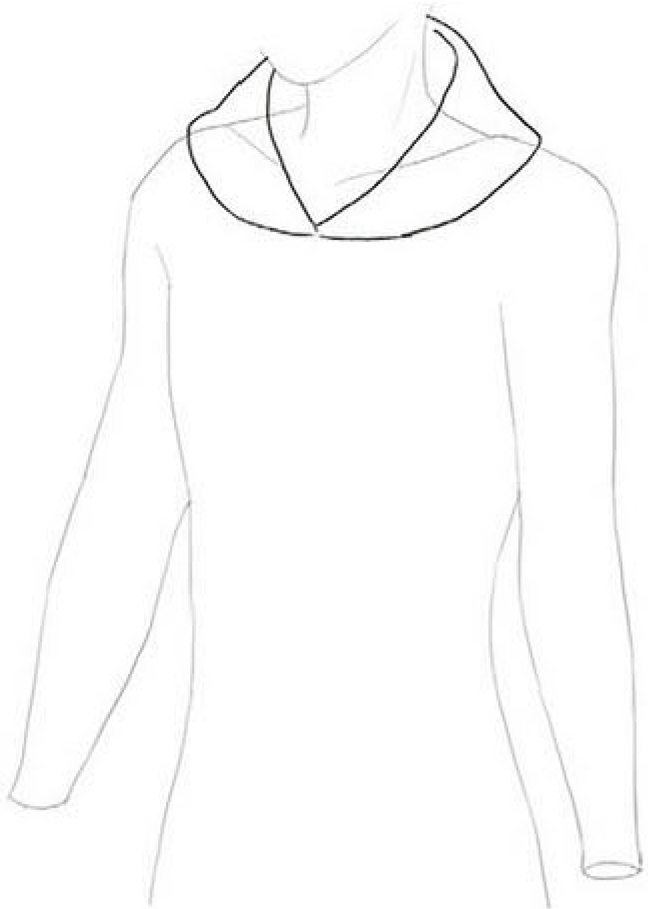
前面にジッパーがついていて開け閉めができるタイプ。ジッパーの上側は胸元の位置にあるものが多い。

ボタンパーカー

服の前面をボタンで留めるタイプ。ジップパーカーより上の位置まで留められるものが多い。

プルオーバーパーカーの描き方（前側）

1 首の周りにフードを描く



◀体のアタリを描き、胸元から首の周りを包むようにフードの外側と内側の線を描いていく

2 体のラインに沿ってトップスの線画を描く



◀腕と胴体のアタリ線を参考にしながら、前身頃と袖のアウトラインを描く。袖口に近い部分は腕の太さに合わせず若干太めに描くと生地に余裕があるように見える

3 フードの紐とポケットを描く



◀フードの下側両サイドにフードを絞る紐を描き加える。また、お腹の部分にポケットを、裾の境い目に線を描く

4 服のシワと袖口、ポケットの細部を描き込む



◀ポケットの口の線を二重にすると立体感が出る。袖口には縦方向に線を足し、リブ編みになっている様子を表現する。肩口や袖口の生地をつなぎ合わせた位置にもシワを加える

5 完成



◀フードとトップスが重なっている部分や袖の内側、裾の周りに影をつけて完成。お腹の周りにも影をつけると生地のだぼっとした質感が出る

フードをかぶった状態

▶カジュアルなパーカーはフードがあまり大きくないので、かぶると胸元から後頭部に向かって生地が引っ張られるような形になる



プルオーバーパーカーの描き方(後ろ側)

1 体に沿ってフードとトップスを描く



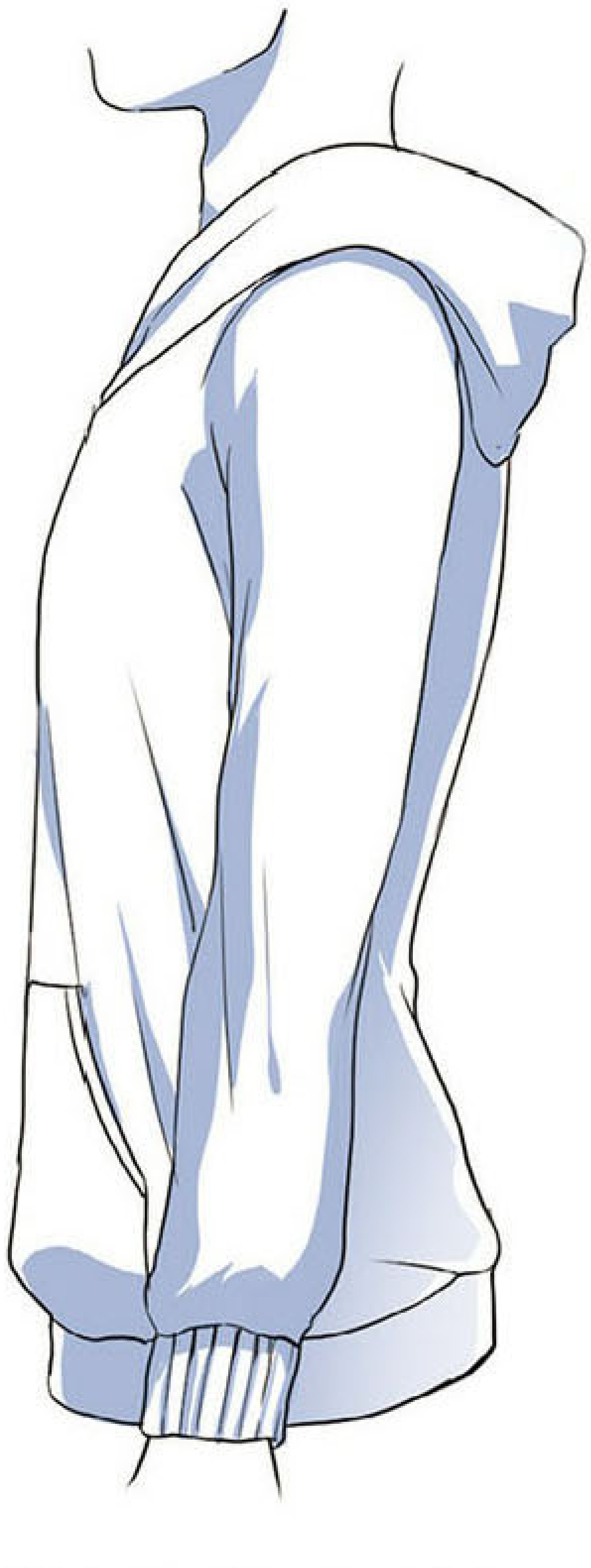
◀後ろから見たフードは下向きの弧を描くように生地が垂れ下がっている。中央には生地のつなぎ目があり、横方向にシワが入る

2 影をつけて完成



◀フードが重なっている部分のトップス側の影や、フードのシワができて凹んでいる部分に影を加えて立体感を出す

横側



▲横から見たフードは、胸元から肩の上を越えて背中側へ垂れ下がる山なりの形になる。生地が背中側に引っ張られているため、胸元には引っ張りジワができる

フードをかぶった状態(背面)

▶後頭部から首にかけて、フードの生地がたるんでシワができる。背中の上側はシワができにくく、肩口の周りや脇、裾の周りにシワが集中する



パーカーの作例

ジップパーカー

生地が薄く、フードにあまり厚みがない。ジップが上下についているものはダブルジップパーカーと呼ばれる。

カジュアルかつスポーティーな見た目のため、活発的なキャラからラフな性格なキャラまで、さまざまな男女に似合う



ボリュームネックパーカー

首周りの生地は厚みがあり、中には襟のように生地が立っているものがある。前面はプルオーバー以外にもさまざまなタイプが存在する。

首を覆うフードが男らしい印象を与えるので、背が高くて細身の男性キャラに向いている



ボタンパーカー

ねじった紐や大きなボタンなど装飾がついているのが特徴。ボタンを胸元まで留めると、パーカーの生地が引っ張られず、ゆるやかなシワになる。

おしゃれな印象になるので、大人の男性や女性キャラ全般に着せられる

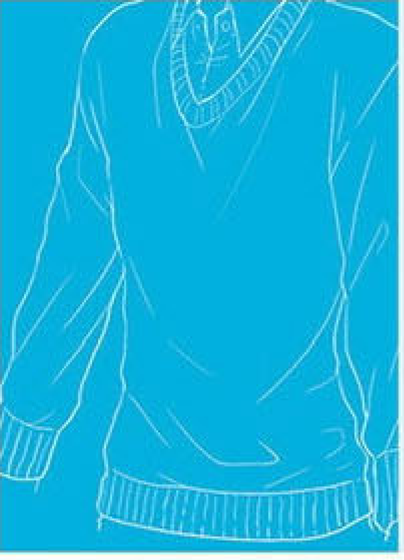


マウンテンパーカー

アウトドア向けのパーカー。防寒性、防風性などの実用性を重視しているため、フードは首元を覆っていて、裾側にはポケットもついている。生地が厚手なので直線に近い線で描こう。

無骨（ぶこつ）で男性的な印象が強く、ヒゲの生えた男性キャラなどに似合う





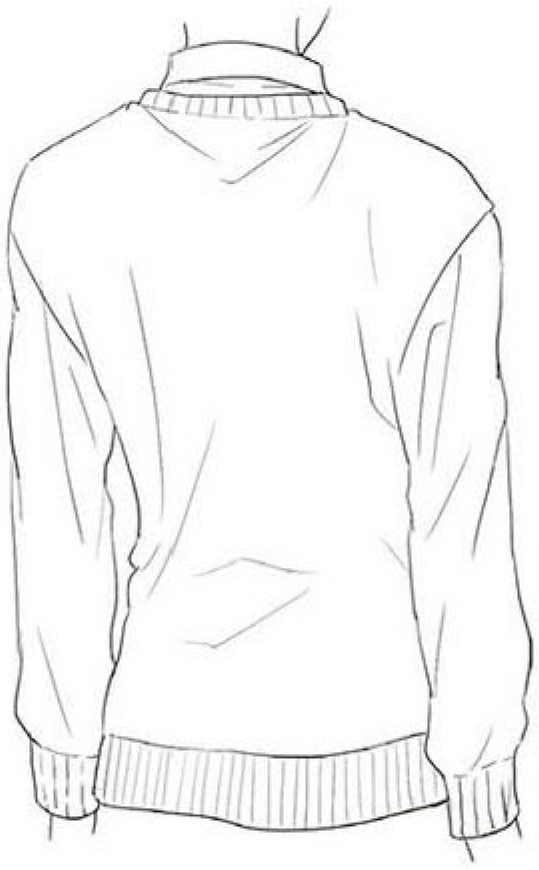
SWEATER

セーター

糸を編んで作られたトップスの一種。ニット素材を使って作られるものが一般的で、編み方によってさまざまな柄のセーターがあります。

セーターの構造

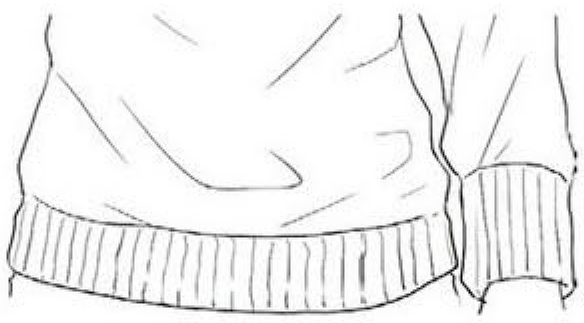




❶襟
❷袖
❸袖口
❹裾
❺袖ぐり

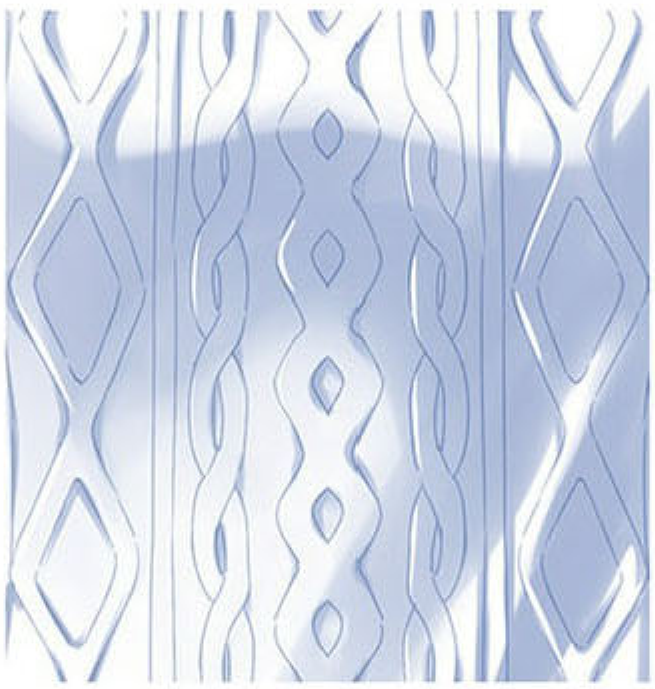
POINT

袖口や裾のリブ編み



リブは「編物のウネ」を意味し、ゴムのような伸縮性を持たせる編み方をしたもの。縦方向のスジがいくつもできるのが特徴で、長袖の袖口や裾によく使用されます。

セーターの柄や首元、裾の形



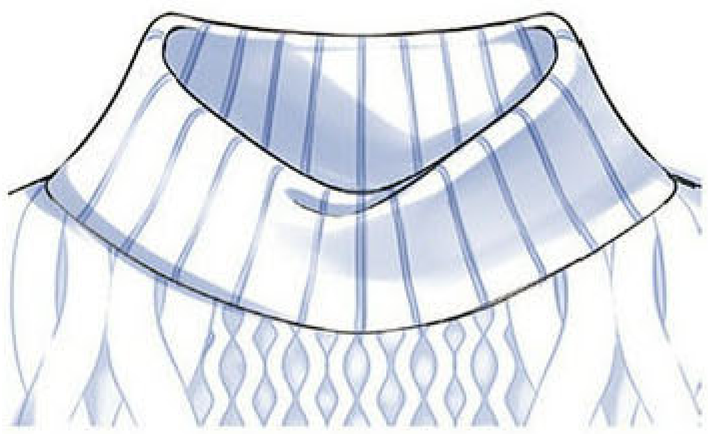
アラン柄

アイルランドの西岸に位置するアラン諸島発祥の柄。漁師の仕事着として誕生した由来から、漁に使う網を模した縄状の模様が編まれている。



フェアアイル柄

スコットランドのフェアアイルを発祥とする柄。三角、四角など直線的な幾何学模様でできている。



ハイネック

襟ぐりが首の高い位置まで覆う形状のもの。タートルネックと違い折り返しがない点が特徴。



Vネック

襟ぐりがVの字の形をしているもの。鎖骨や首元が見えるため、首周りを綺麗に見せることができる。

ニットセーターの描き方（前側、後ろ側）

前側

1 体のアタリに沿って服の輪郭線を描く



◀袖や腰の部分は、重力で生地がたるんでいるのでやや凸凹な線で描く。また、襟ぐりの線を描き、下に着ているシャツの襟元も描いておく

2 襟ぐりや袖口、裾の線を描く



◀襟ぐり、袖口、裾の輪郭線からやや内側に、服の生地とリブ編みになる部分の境界線を引く

3 リブ編みの縦線を描き加える



◀❷で描いた境界線と襟ぐり、袖口、裾の輪郭線の間に縦方向の線を等間隔で描いてリブ編みの立体感を出す

4 シワを描き込んで完成

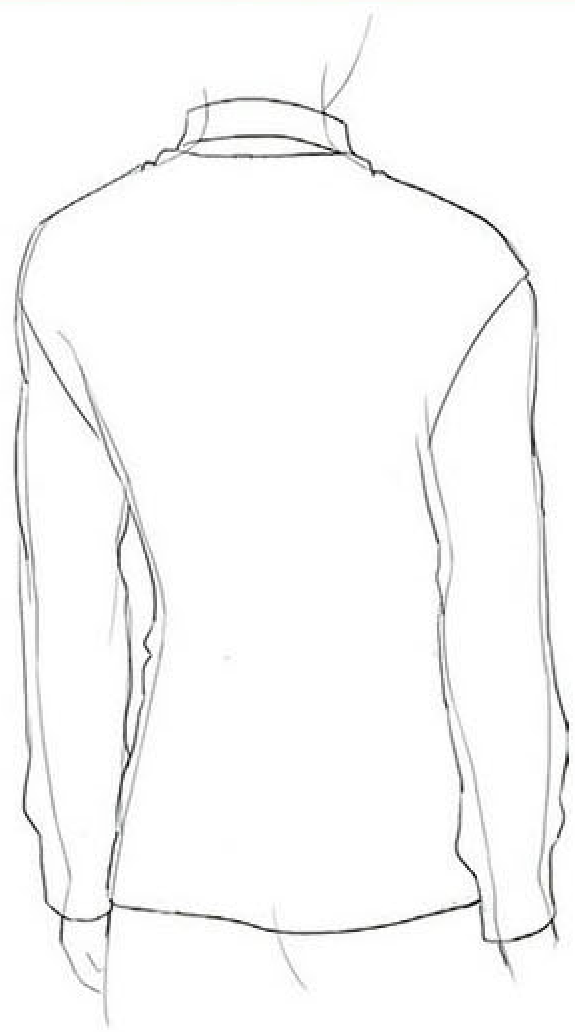


◀シワが入るのは襟ぐりの周り、袖、腰の周りが中心。影はリブ編みになっている袖口や裾にも加えよう

後ろ側

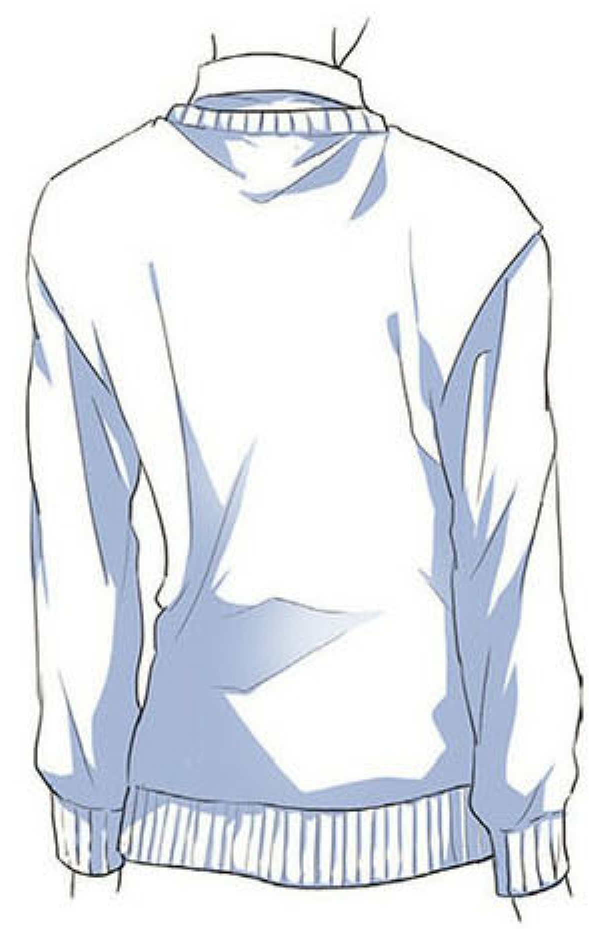
1 体のアタリに沿って服の輪郭線を描く

▶気をつけるポイントは前側と同じで、袖の下側や腰周りがたるんでいるように描く。襟ぐりは、リブ編みになる位置を少しだけ出っ張らせておく



2 リブ編みとシワを描き足して完成

▶襟ぐりの周り、袖山の下側、腰の後ろ側、袖口の周りが主なシワができるポイント。リブ編みの部分に影をつけすぎると重たい印象になるので注意しよう

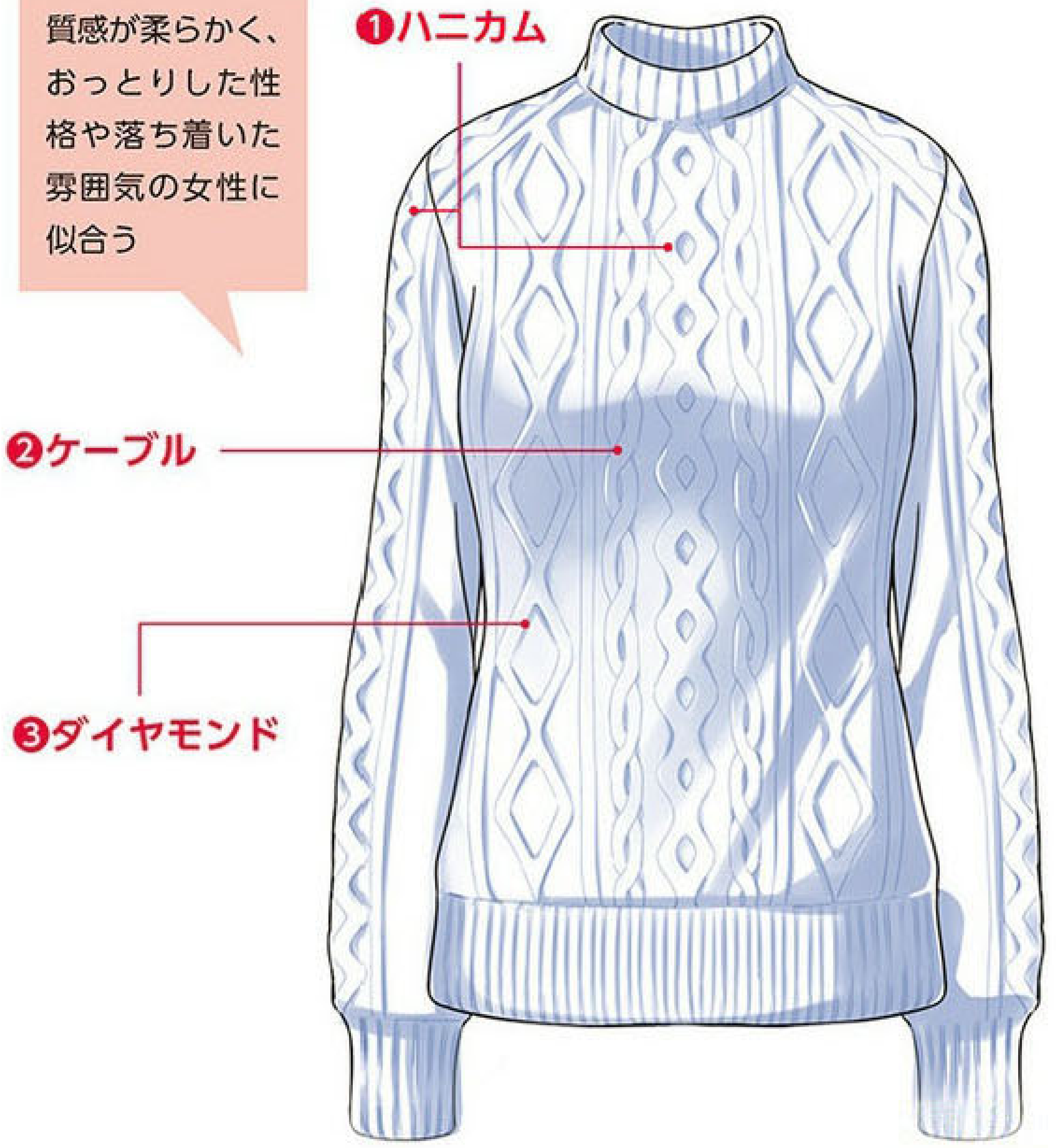


セーターの作例

アランセーター

ハニカム（勤勉や勤労）、ダイヤモンド（富や成功）、ケーブル（安全や豊作）、バスケット（大漁）、など、それぞれに意味が込められた柄をあしらっている。

質感が柔らかく、おっとりした性格や落ち着いた雰囲気の女性に似合う



チルデンセーター

縦方向のケーブル柄で編まれており、襟ぐりや袖口、裾には横方向のラインが入っている。襟ぐりはVネックの形状をしている。

パンツ系のボトムスと相性が良く、男女ともに細身な体格のキャラに向いている



バルキーセーター

バルキーは「大きい、かさばった」という意味で、太い糸を使って荒い目で編まれたセーター。両サイドのケーブル柄は大きく緩やかな螺旋状に、中央のハニカム柄は波線を等間隔で描こう。

ハイネックや大きな柄が女性的な印象を強めるので、スカートが似合うキャラに着せると女の子らしさが増す

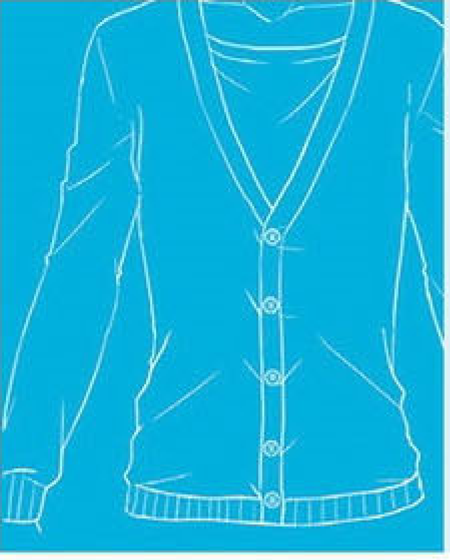


フェアアイルセーター

それぞれ違う形をした幾何学的な模様が横一列に何段も並んでいる点が特徴。一見複雑そうに見えるが、どの段の模様もシンプルな記号の繰り返しでできている。

クラシックな雰囲気で、女性だけでなく男性がジャケットやベストの下に着るのも似合う



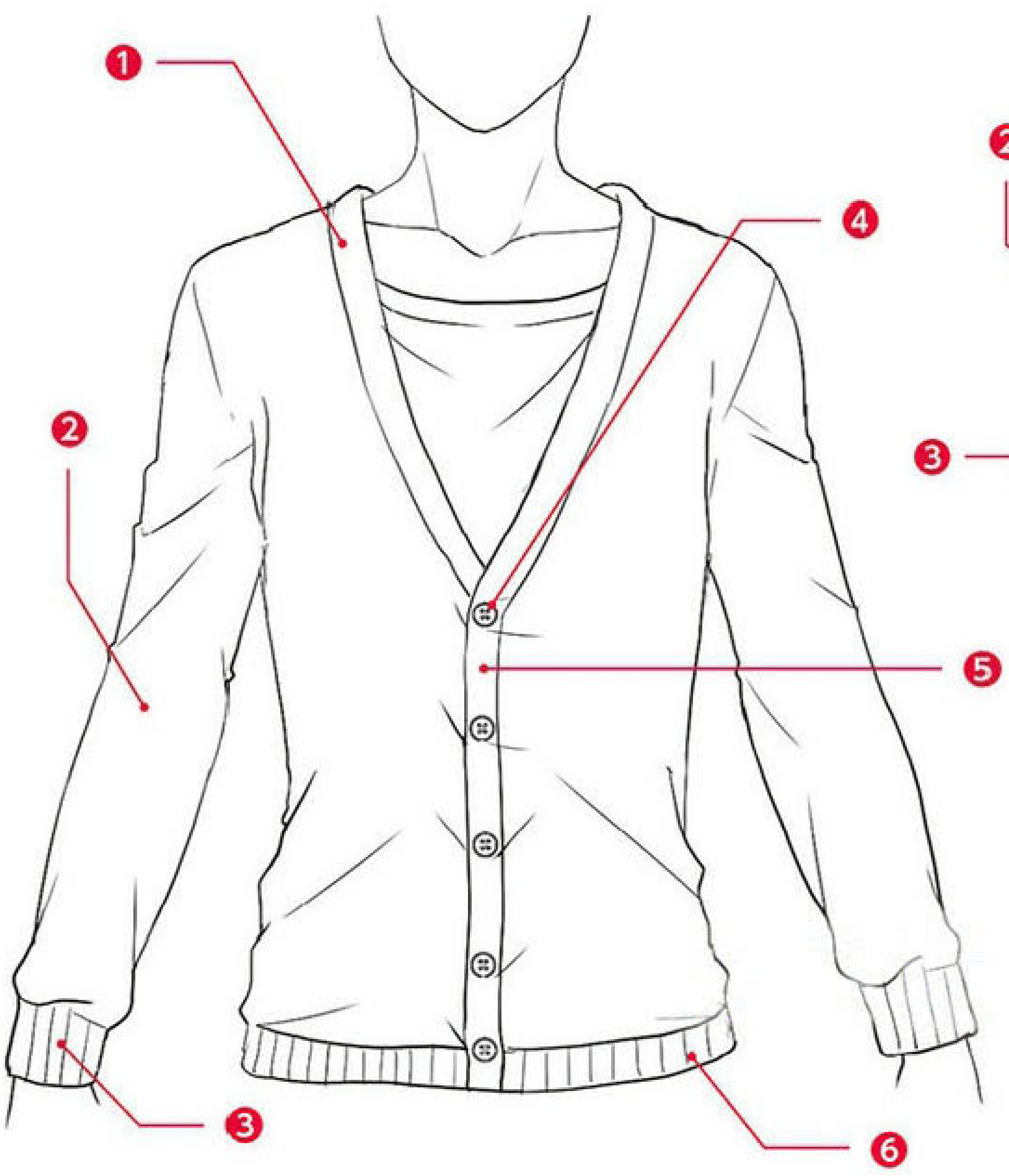


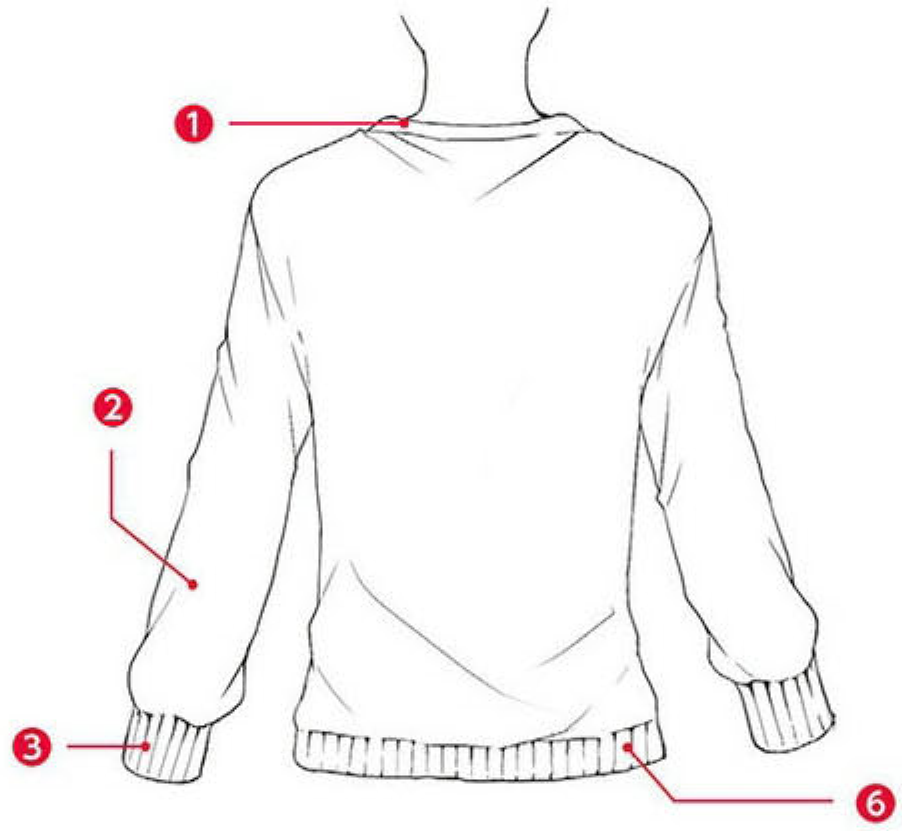
CARDIGAN

カーディガン

毛糸編みやニットで作られたセーターの一種で、前開きのものを指します。襟ぐりはVネックで前面をボタンで留められるものが一般的です。

カーディガンの構造



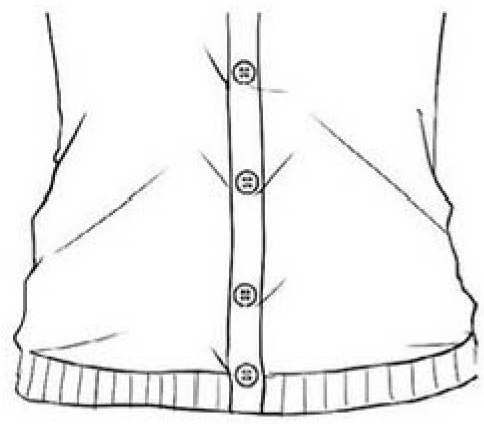


❶襟
❷袖
❸袖口
❹ボタン
❺前立て
❻裾

POINT

ニット素材の柔らかさ

ニットは柔らかくシワができやすいので、ボタンを留めた箇所や腰周り、袖に生地が折れたシワを入れると柔らかい質感が表現できます。



カーディガンの種類



レタードカーディガン

生地のどこかに文字や数字がデザインされたカーディガン。学校や団体名のイニシャルやエンブレムを使うことが多い。

ラペルドカーディガン

襟が付いたタイプのカーディガン。ラペルはスーツやジャケットにある下襟を意味する。





ドルマンカーディガン

シルエットがゆったりとした丈の長いカーディガン。トルコの民族衣装「ドルマン」に由来している。

ニットカーディガン【男性用】の描き方(前側)

1 服の輪郭線と襟ぐりの線を描く

▶襟ぐりをVネックの形にして、下に着ている服の線も描いておく。Vネックの先端を一番上のボタンを描く目安にする



2 Vネックの先端から線を引く

▶Vネックに描いた先端から裾に向けて、向かって右側の生地が前に見えるように軽くカーブさせながら線を引く



3 襟と前立ての厚みの線を描く

▶❶と❷で描いた線の隣に等間隔でもう一本線を引き、襟と前立ての厚みを表現する



4 袖口と裾、シワ、ボタンを描き加える

▶前立てに上から等間隔で丸いボタンを描き、ボタンの周りにシワを加える。一番下のボタンのみ、間隔が少しせまくなる。袖口と裾は縦線を描いてリブ編みを表現する。最後に袖ぐりの周辺と腰周りにシワを描いていく



5 完成

▶それぞれのシワや袖の下側になる部分に影を入れる。裾の部分は、生地が体にフィットするので影の量は少なめにする



後ろ側の作例

▶首周り、袖ぐりの周辺、腰の後ろにシワと影ができやすい。腰の後ろは前面と違い生地がつながっているので大きなシワができる



カーディガンの作例

レタードカーディガン

目立つ部位に大きく文字や数字がデザインされており、ポケットがついている。袖口はリブ編みの形状が一般的。片側の袖だけにラインが入っているものが多い。



カジュアルな印象が強く、陽気な男性キャラや男子学生に似合う

ラペルドカーディガン

ラペルの形はひし形のノッチドラペルが多い。前面のボタン、裾口のリブ編みのほか、袖や腰周りにシワを描いてカーディガンらしい生地の柔らかい質感を出そう。



ジャケットに近い形状だが腰周りは絞られるので、スマートな体型の男性キャラに向いている

トッパーカーディガン

腰くらいまで丈がある、羽織るタイプのカーディガン。上から下に向かって緩やかに広がるAラインシルエットなので、裾はひらひらさせるように描く。



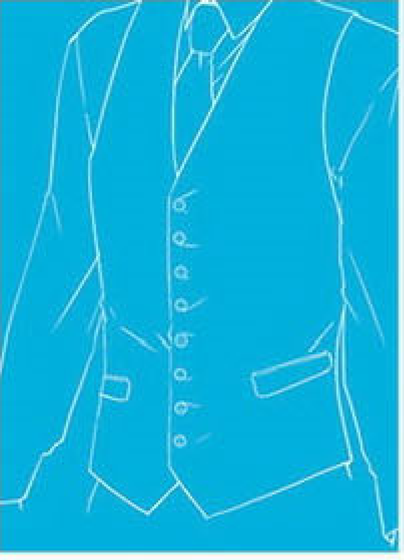
主に女性向けの服で、会社勤めの女性のオフィスカジュアルとしてもよく使われる

ドルマンカーディガン

袖ぐりが大きく、袖口に向かうほど袖が細くなっていくドルマンスリーブが特徴。裾の近くに縦方向のシワをいくつも描いて、柔らかい生地が折り重なっている様子を表現しよう。

ドルマンスリーブが女性らしさを引き立てるので、大人の女性キャラの私服に似合う



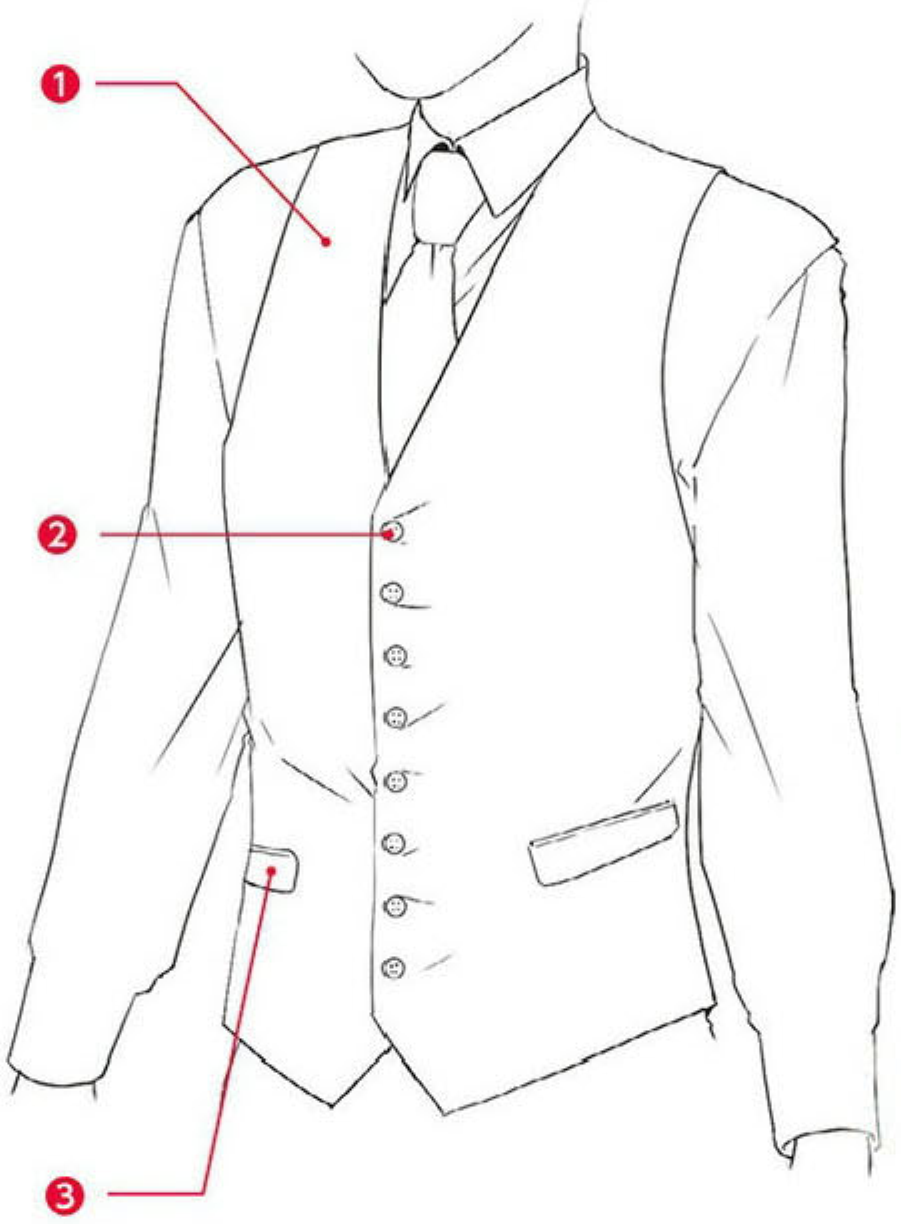


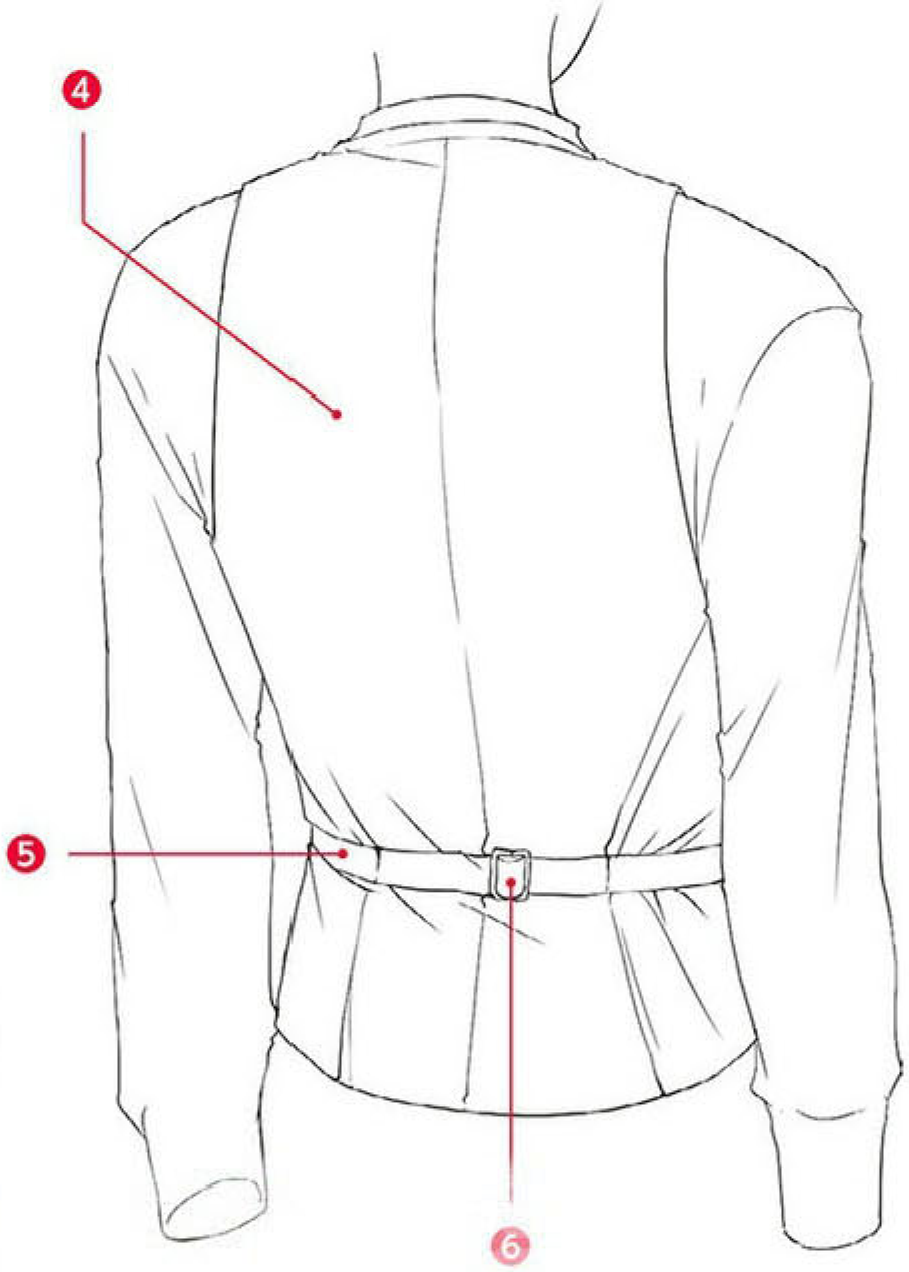
ベスト

VEST

袖のないトップスで、元々は前合わせのフォーマルなものを指します。現在では素材やデザインが多様化し、カジュアルな服として浸透しました。

ベストの構造





❶前身頃
❷ボタン
❸ポケット
❹後ろ身頃
❺バックベルト
❻バックル

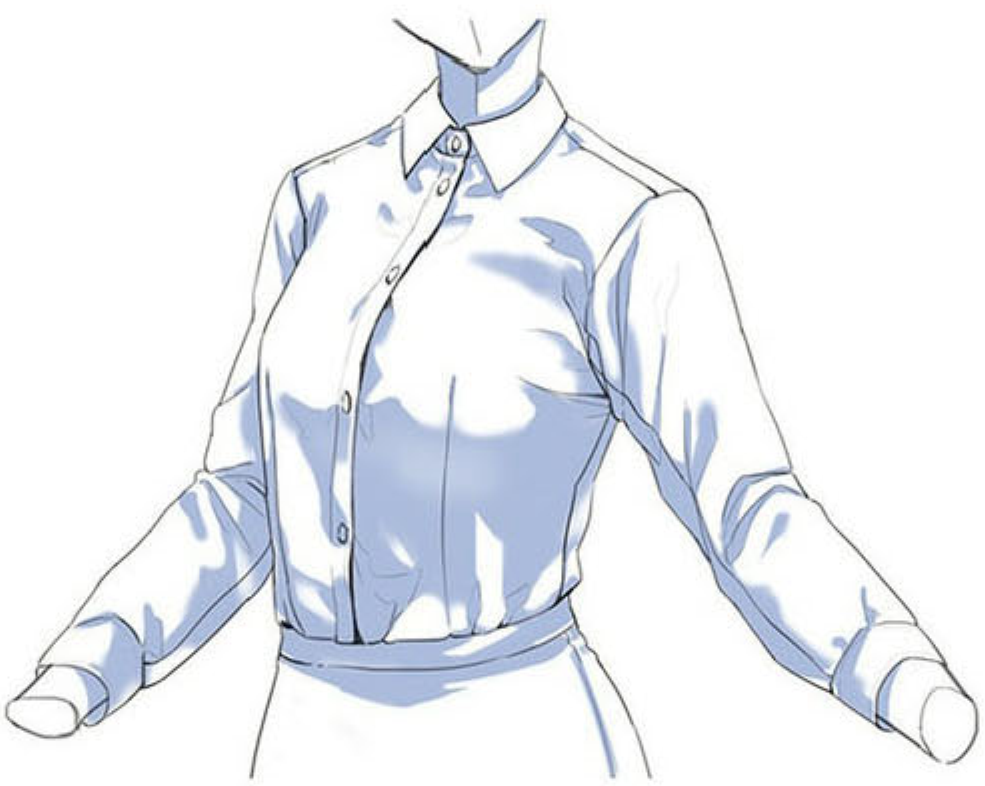
ウエストコート

主に男性が正装をする際に、シャツの上に着用するトップス。腰（ウエスト）の部分に付いているベルトで、少しだけ服のサイズを体の大きさと合わせることができる。

ベストの下に着るインナーの種類

シャツ

襟付きで前身頃をボタンで止める形のトップス。どんなベストとも相性がよく、落ち着いた印象を与える。

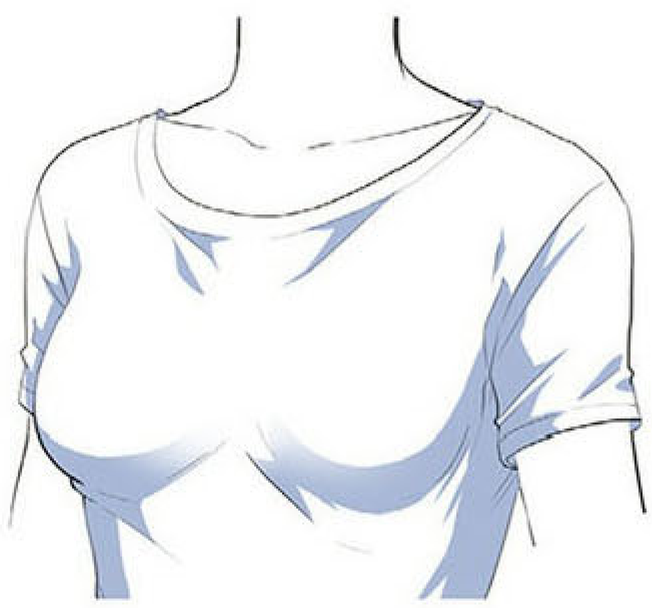


白無地のものが特に汎用性に優れる。色柄ものをモノトーンのベストに合わせるのも綺麗

カットソー

襟がなく、被って着るタイプのトップス。前開きのベストと合わせるとほどよくカジュアルな雰囲気が出せる。

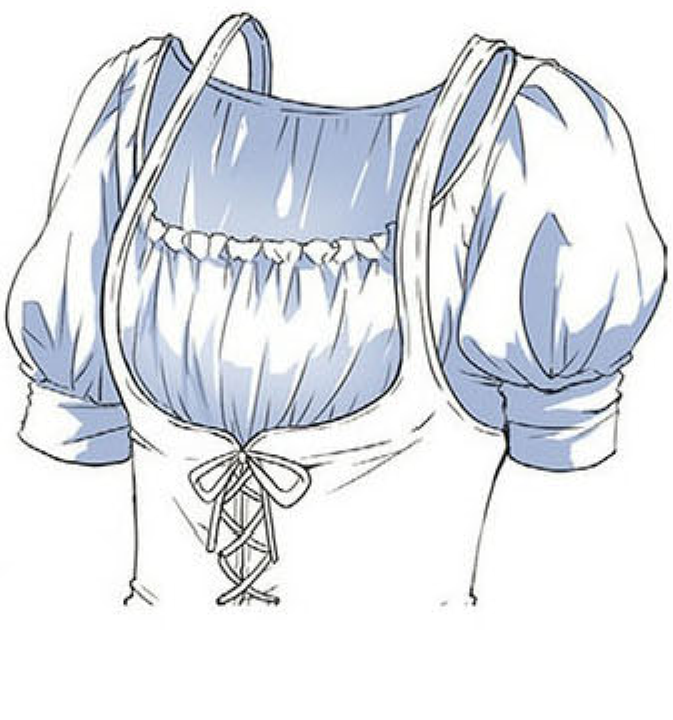
春や夏によく合う軽やかさがあり、女性キャラが着るとマニッシュな（男性のような）雰囲気に



パフスリーブのブラウス

ボディスのような女性向けで前面を紐で留めるタイプのベストには、ギャザー（縫い縮めてできたひだ）が入って袖が膨らんでいるパフスリーブなどが似合う。

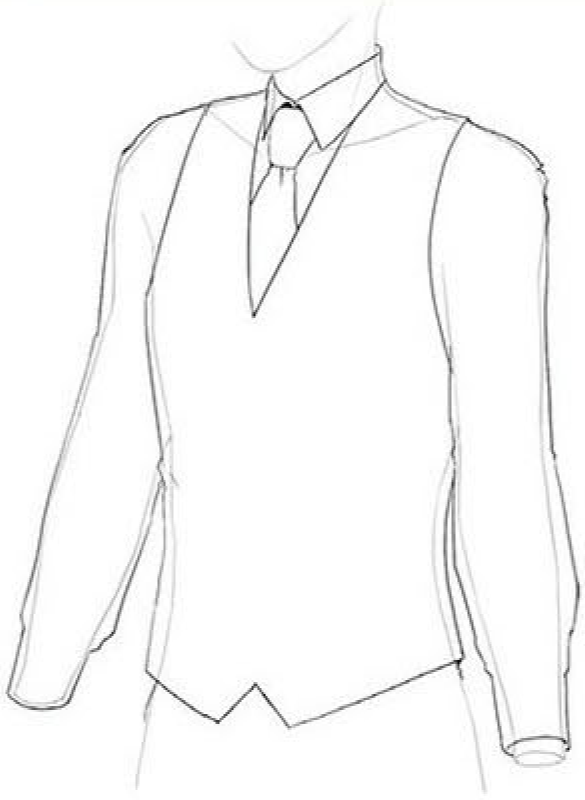
胸の周りが開けていて女性らしさを強調したデザインなので、可愛らしい女の子キャラに合う



ウエストコートの描き方（前側、後ろ側）

前側

1 シャツとベストの輪郭線を描く



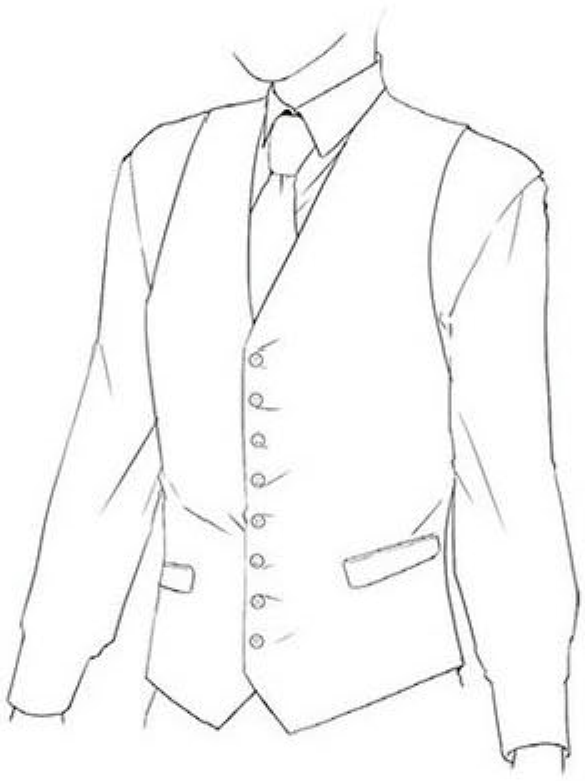
◀体のアタリに沿ってベストの下に着るシャツを描き、ベストの輪郭線を描く。首元には襟とネクタイを描くことで、よりフォーマルなウエストコートに仕上がる

2 前立てとボタンを描く



◀ベストのほぼ中央に縦方向の線を1本描いて生地の前後をわかるようにし、ボタンをいくつか並べる

3 シワやポケットを描き足す



◀ベストのポケット、シャツの袖のシワなど、全体の細かい部分を描き込んでいく

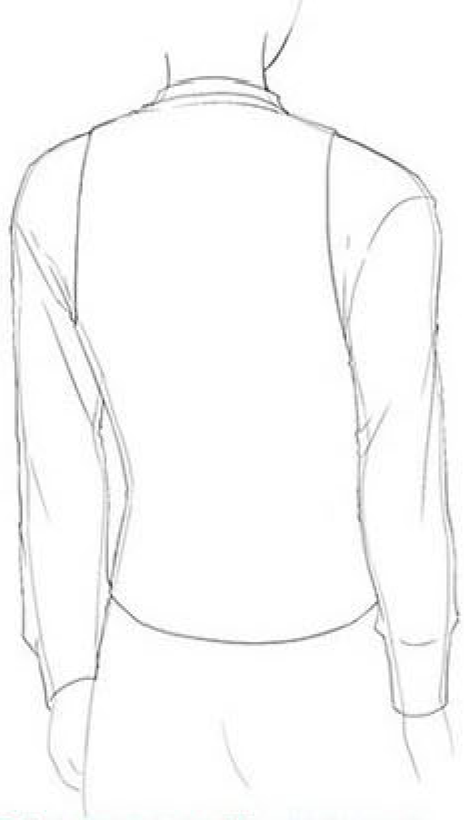
4 完成



◀袖の下側や脇腹など、光が当たらない部分に影を描いて完成。ほかにも、ベスト中央の前立ての下にもうっすらと影を入れると、立体的に見える

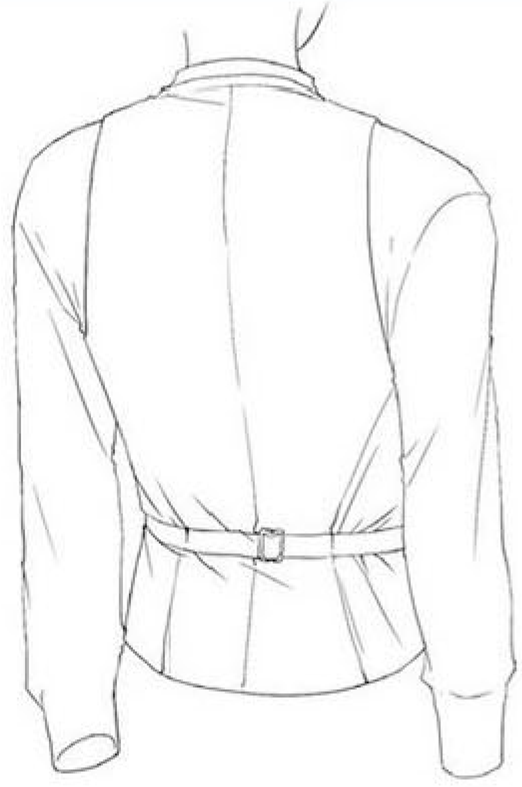
後ろ側

1 シャツとベストの輪郭線を描く



▲背中のアタリに沿ってシャツを描き、その上にベストの輪郭線を描く。ベストの肩幅が広くなりすぎないように注意

2 バックベルトやシワを描く



▲腰の位置にバックベルトを描く。ベルトに向かってシワを何本も描くと、ウエストを絞って生地が寄っているように見える

3 完成



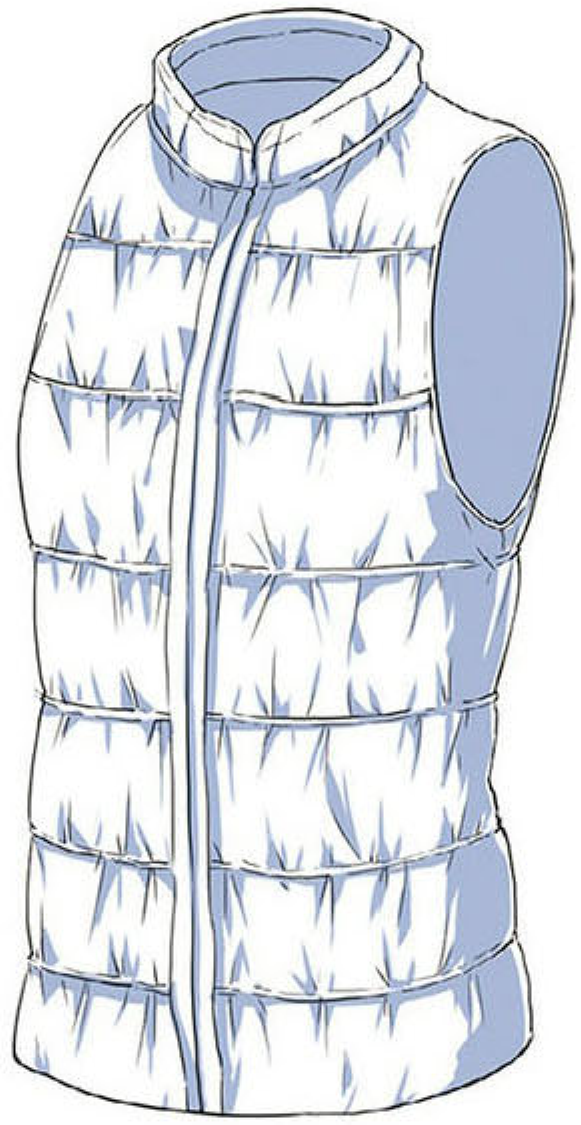
▲バックベルトの周りや、袖の内側に影を描く。ベルト周辺の影は、ベタ塗りにせずに適度に明るい部分を作ると立体的になる

ベストの作例

ダウンベスト

表面の生地感や中綿の量の違いにより、アウトドア用やインナー用などさまざまな種類がある。ボリューミーに描くとカジュアルさが増し、薄手に描くとクールな印象が強くなる。

表面に光沢感を出すと大人っぽくなり、ワイルドな男性やセクシーな女性キャラに合う



ニットベスト

糸を編んで作られたベスト。柄の有無、襟の開き方などによってさまざまな印象を作ることができる。襟周りや裾にリブ編みの線を描くと、柔らかくて温みのある質感が出せる。

柔らかい雰囲気になるので、学生キャラはもちろん、大人の女性や年配の男性の私服にも向いている



ラペルドベスト

前身頃にスーツと同じ襟がついたベスト。スーツ生地やツイード素材のものが基本で、上品かつ落ち着いた大人の雰囲気になる。ラペル（下襟）のデザインで印象が変化する。

クラシックな装いのため、老齢の男性はもちろん若々しいキャラと組み合わせて小洒落た雰囲気を出すこともできる

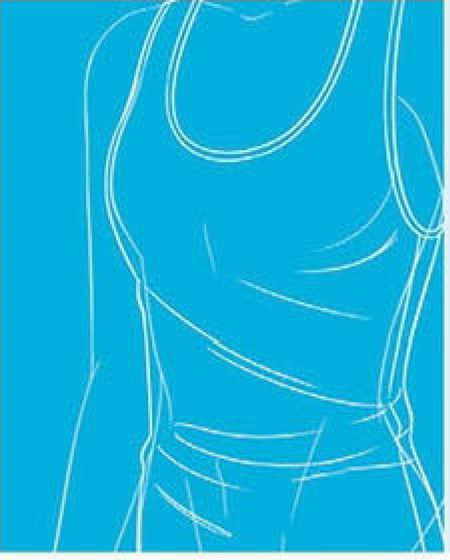


ボディス

女性向けで、前身頃を紐やホックで強めに絞り固定する、コルセットのような機能も持つもの。ウエストのラインが強調されるため、胸から腰周りへの流れを意識して描こう。



ディアンドルというドイツ南部の民族衣装に用いられる。飲食店のウェイトレスやメルヘンな衣装など、ワンピースドレス系の衣装のトップスに向いている

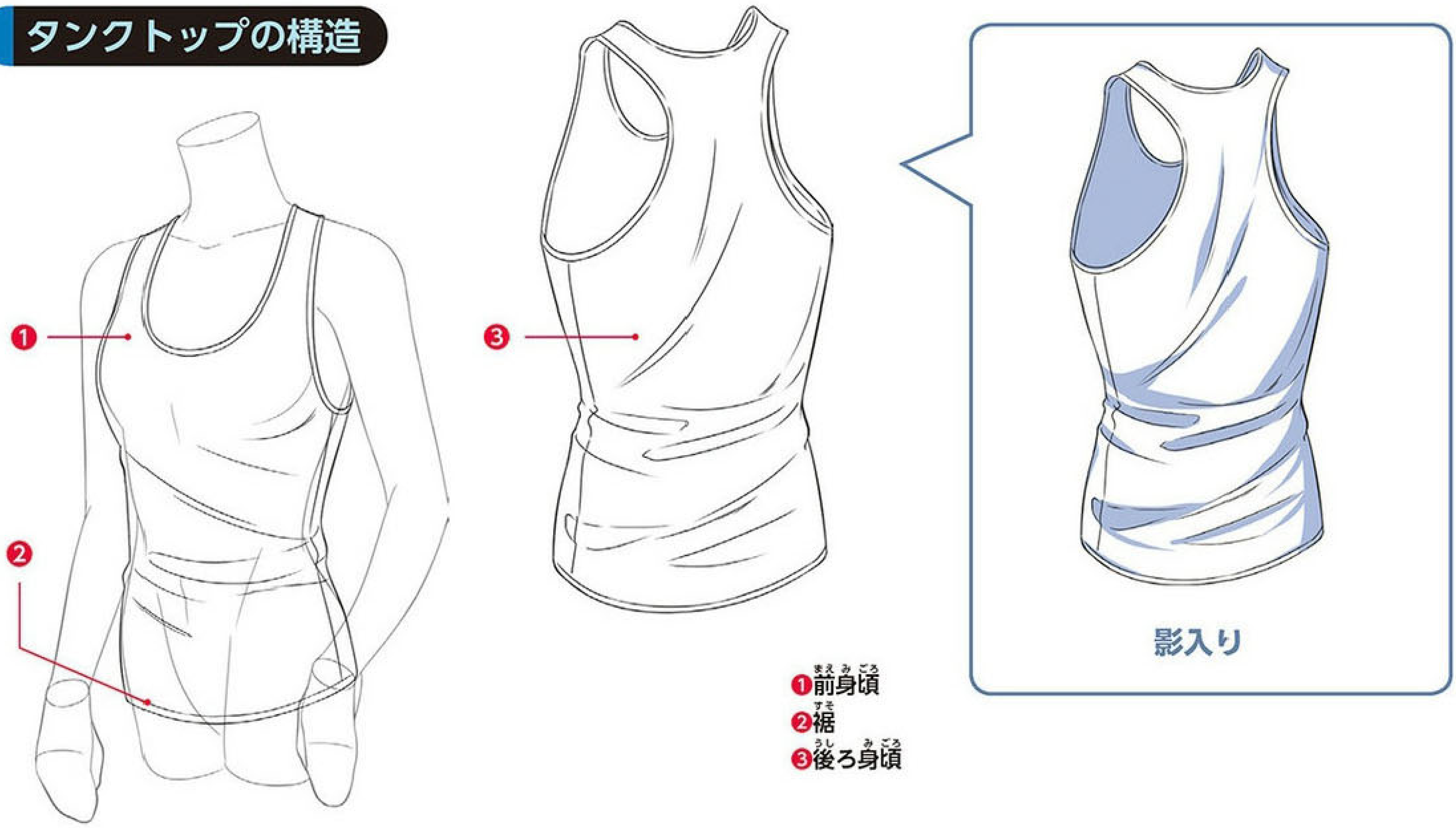


TANK-TOP

タンクトップ

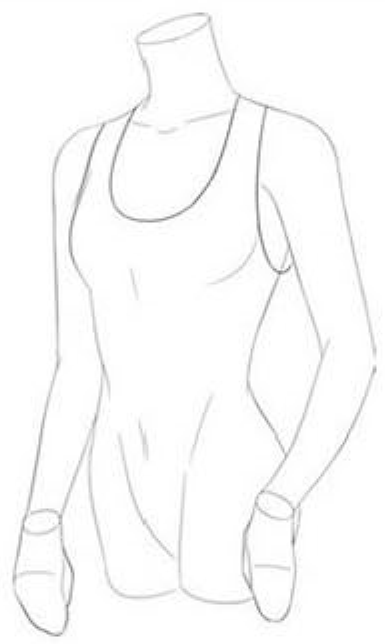
薄手の生地で作られた、袖なしのトップスです。首元は深めに開いたものが一般的で、女性向けでは内側にカップが入っているタイプもあります。

タンクトップの構造



タンクトップの描き方（前側）

1 体のアタリに沿って首周りを描く



◀胸元に深いU字の襟ぐりを描き、肩から脇の下にかけて袖ぐりを描く

2 腰周りと裾の輪郭線を描く



◀体にフィットするタイプの服なので、胴体と腰のラインに合わせて、腰から裾にかけての輪郭線を描く

3 胸より下側にシワを描く

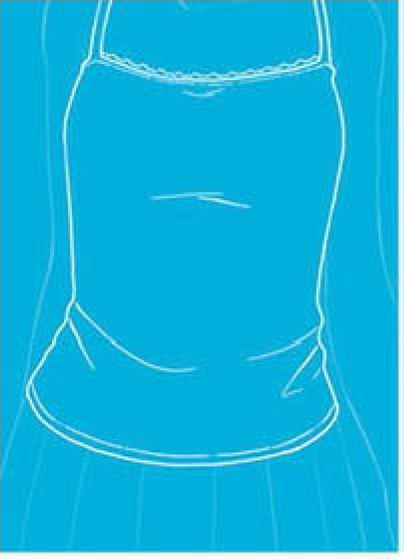


◀カップ入りのタンクトップであれば胸にシワを描かない。シワの線は胸より下側の生地に描く

4 完成



◀胸の下側や側面、シワのくぼみなどに影を描いて完成。胸の影は、面積を広くすると胸が大きく、少なくすると控えめのサイズに見える

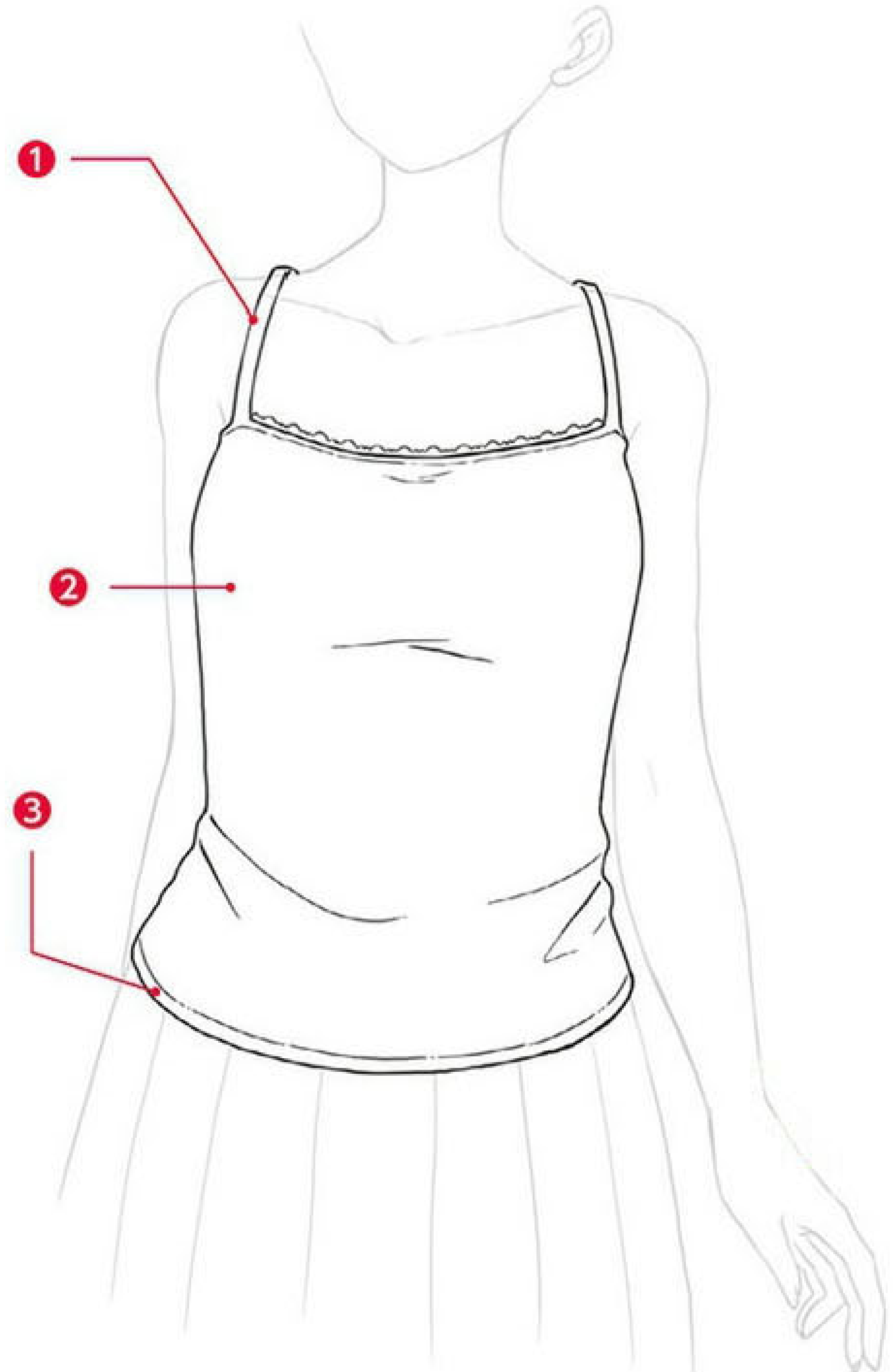


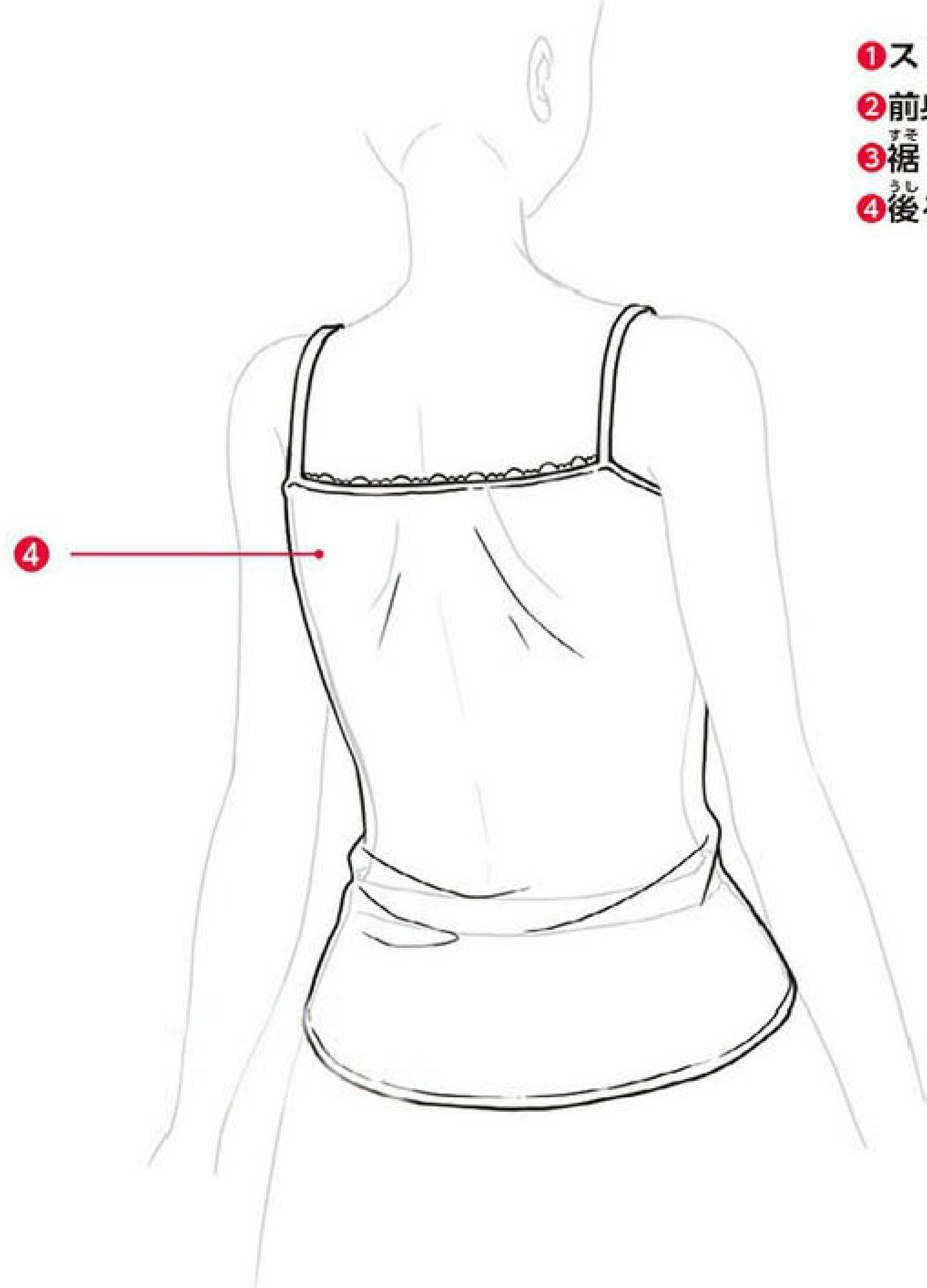
CAMISOLE

キャミソール

薄く柔らかな生地で作られた、袖なしの女性用トップスです。細めの肩紐で身頃を支える形のため、肩周りの肌の露出が大きいのが特徴です。

キャミソールの構造





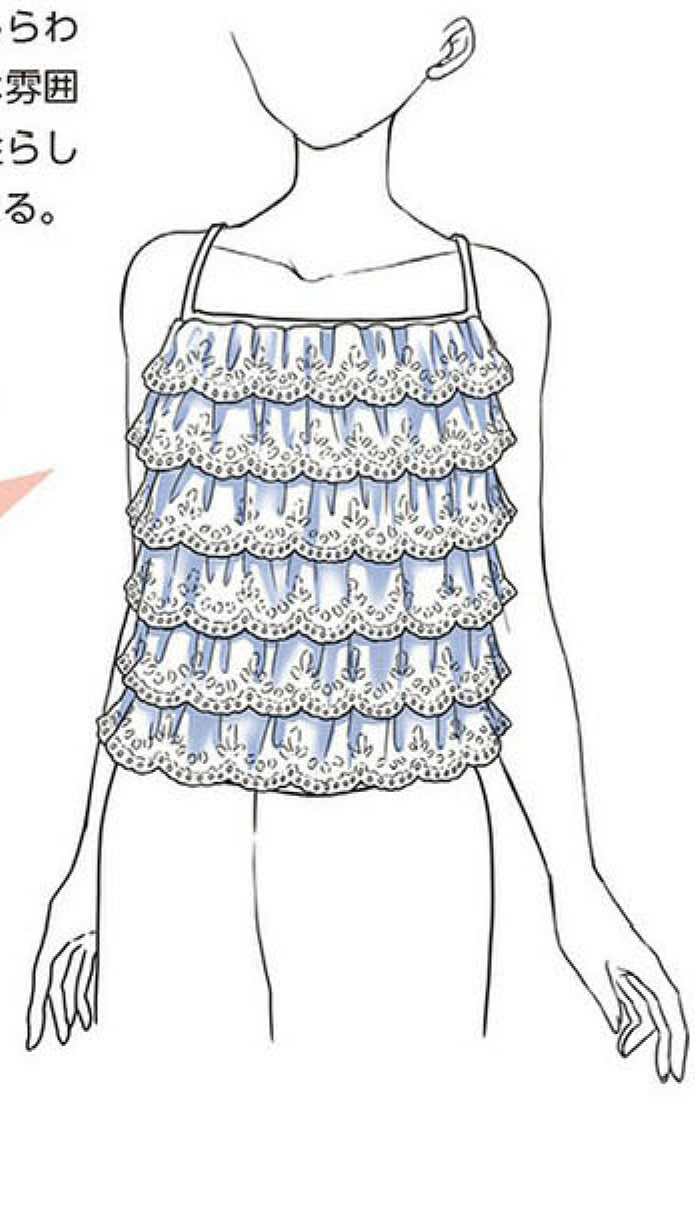
❶ストラップ（肩紐）
❷前身頃
❸裾
❹後ろ身頃

キャミソールの種類と作例

フリルレースキャミソール

段差状にフリルがあしらわれたタイプ。涼し気な雰囲気をまといつつ、女性らしい華やかさが強調される。

ガーリー（少女らしい可愛らしさ）な要素が強く、ラフな服装と合わせるのに向いている



シフォンキャミソール

薄く透け感のある素材を用いたタイプ。裾がレイヤード風（生地を重ねてある）なものが多く、柔らかく優しげな雰囲気を出せる。

裾にかけて広がる形なので、ボトムスをタイトなものにするとバランスが良くなる



キャミソールの描き方

1 肩のストラップを描く



◀体のアタリを参考に肩から胸に向かってストラップの線を描く。ストラップの位置は、鎖骨の端と胸の付け根を目安にする

2 キャミソールの輪郭線を描く



◀ストラップの端から胸のラインに沿ってキャミソールの輪郭線を描いていく。胸から裾にかけての線は、生地が胸から垂れ下がっている様子をイメージしながら描こう

3 襟ぐりと裾の線を描く



◀ストラップの端同士と、裾の端同士を繋げて襟ぐりと裾の線を描く。やや下向きの弧を描くようなラインを意識しよう

4 キャミソールのシワを描く



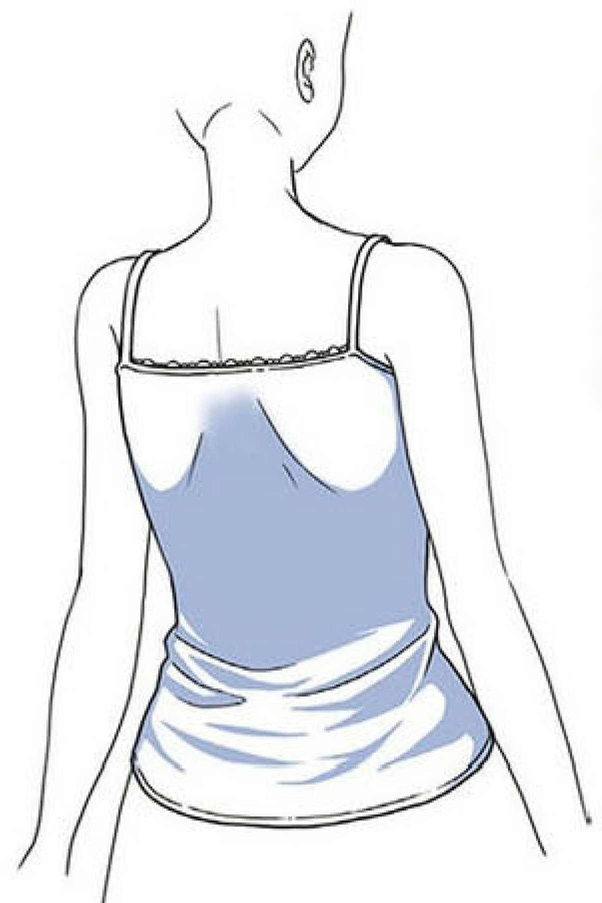
◀胸の下側や腰周りにシワを描いて生地の質感を出す。襟ぐりや裾の線を二重にすると服に立体感が出る

5 完成

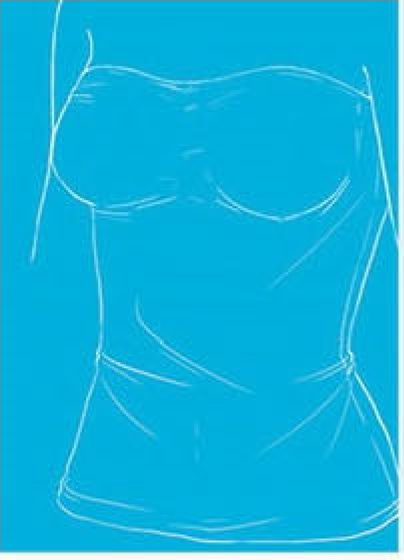


◀胸の下から腰までの範囲を広く影にする。腰から下は骨盤が大きく裾が広がって光が当たるので、シワ以外の箇所は明るくする

後ろ側の作例



◀キャミソールは生地が薄いので肩甲骨など体の起伏が線になって出やすい。影は肩甲骨の間と腰までの一帯に描くようにする

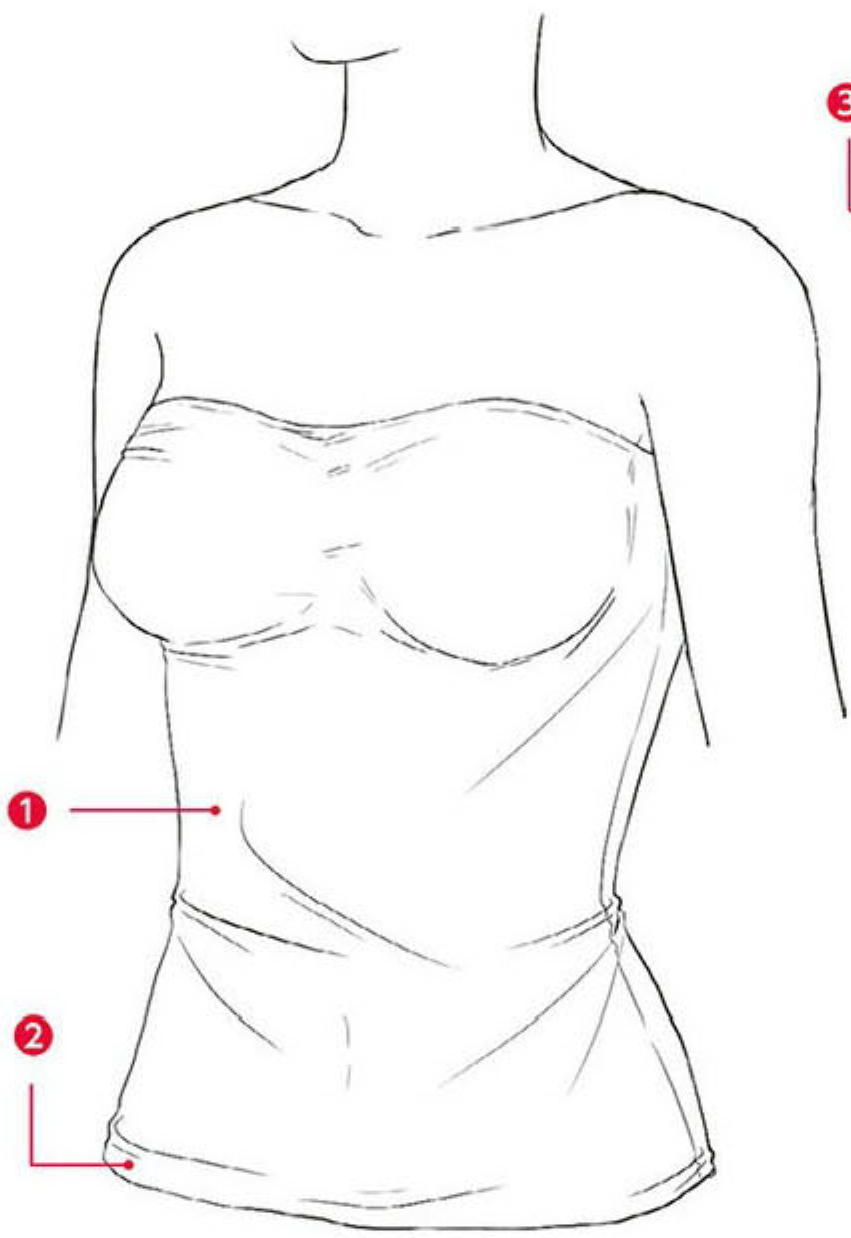


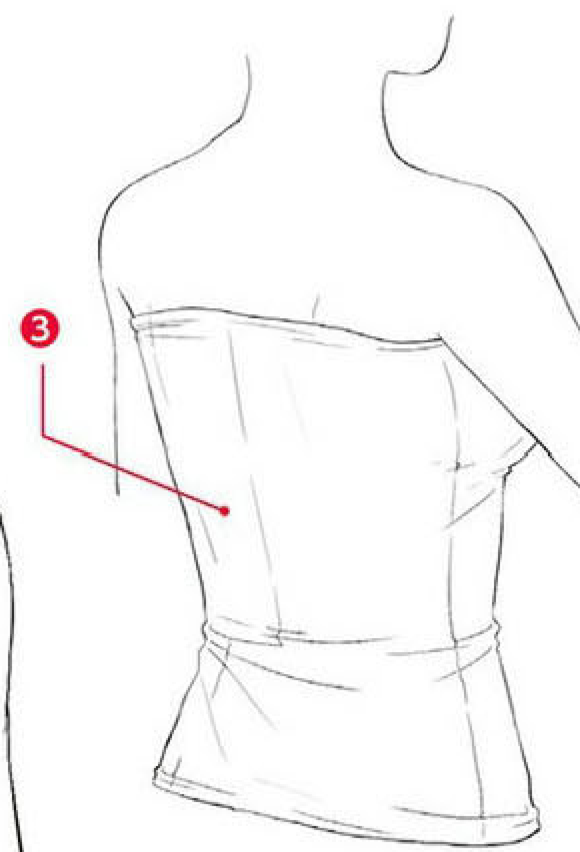
TUBE TOP

チューブトップ

袖も肩紐もないタイプの女性用トップスです。胸の上部を伸縮性の強い生地で押さえながら固定するため、体のラインが出やすくなります。

チューブトップの構造





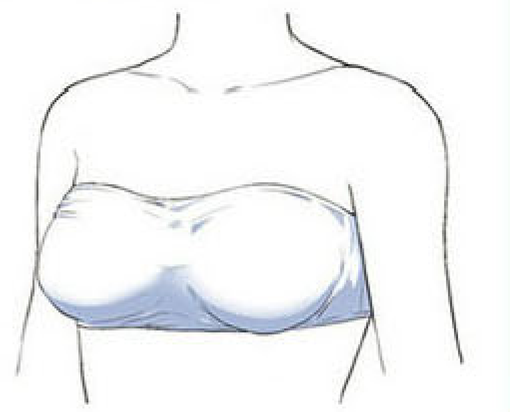


❶前身頃
❷裾
❸後ろ身頃

POINT

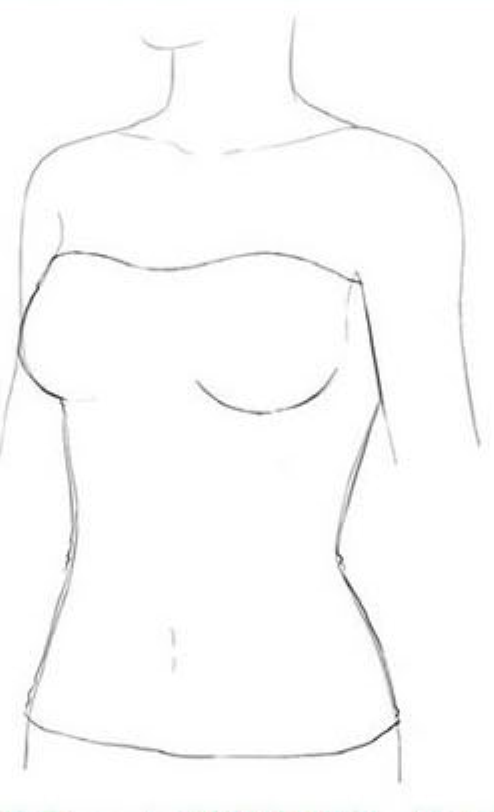
インナーとしての利用

カップがついていて胸だけを覆うチューブトップはチューブブラとも呼ばれ、肩を出したいドレスの下に着るなど、インナーとして使われることもあります。



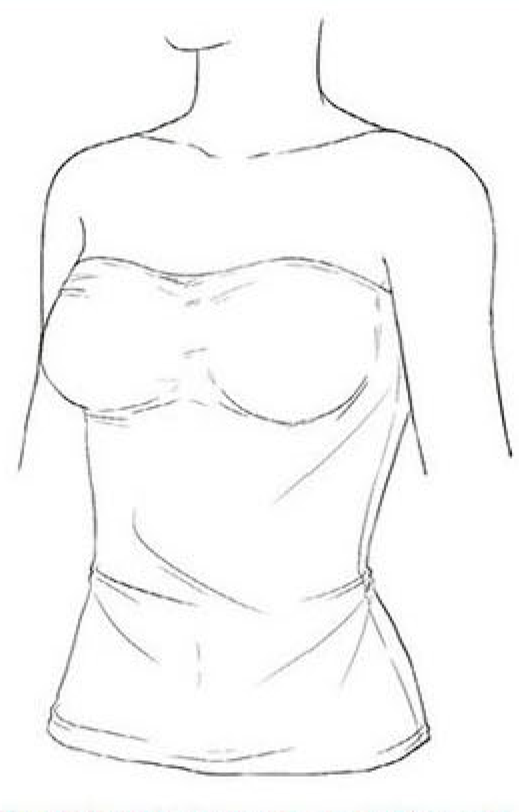
チューブトップの描き方(前側)

1 体のアタリに沿って服の輪郭線を描く



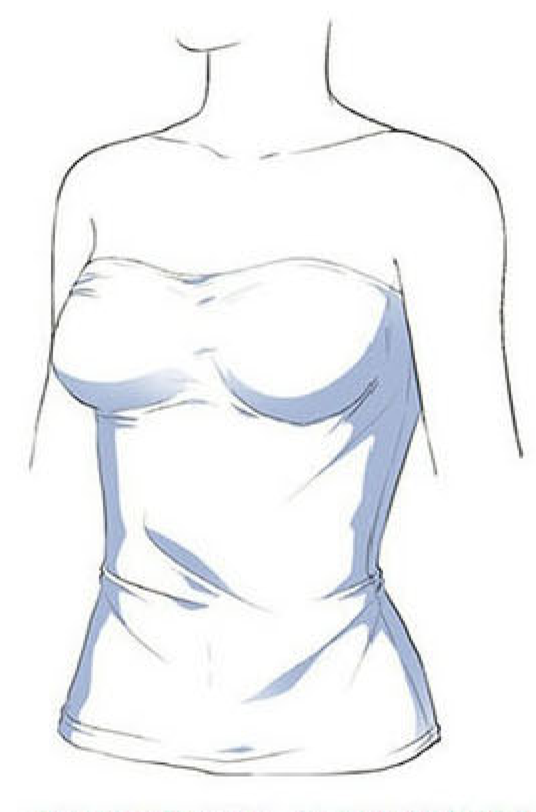
▲体にフィットする服なので、体のアタリがそのまま服の輪郭線になる。胸の上側と裾の線を繋げて服の形状にする

2 生地のシワやつなぎ目の線を描く



▲胸の周辺や腰周りにシワを描いて体に密着している生地の質感を出す。側面には、前身頃と後ろ身頃のつなぎ目を描く

3 完成



▲脇の下や側面、胸の下側を中心に影を描く。胸の影は、丸みのある曲線を意識して描くようにしよう

Part 2

アウター

ジャケット
コート
ジャンパー





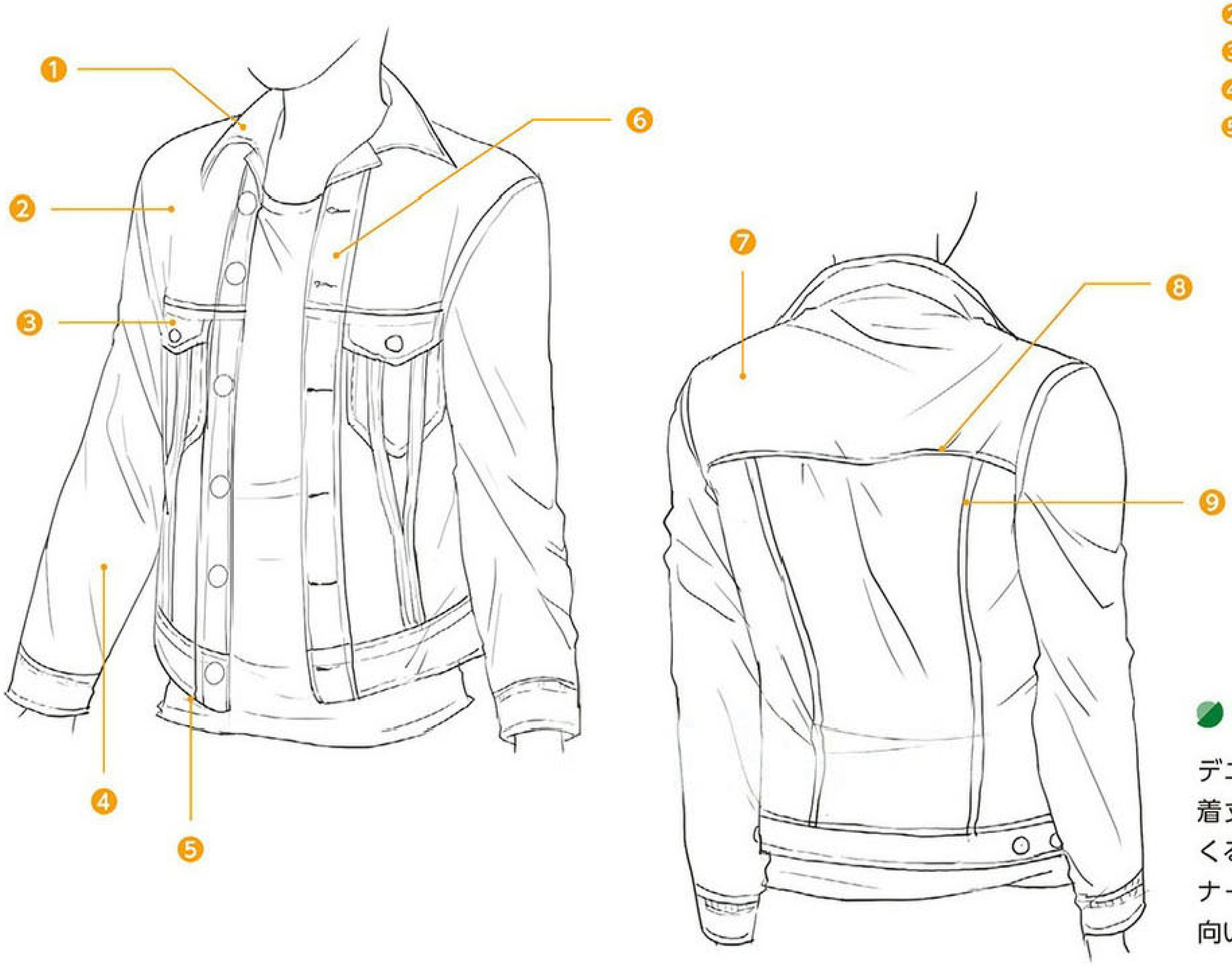
JACKET

ジャケット

着丈の長さが腰までの範囲の上着を指す総称です。袖付きで前開き構造のタイプが一般的で、ここではカジュアルなジャケットを紹介します。

ジャケットの構造

1. 襟
2. 前身頃
3. ポケット
4. 袖
5. 裾
6. 前立て
7. 後ろ身頃
8. ヨーク
9. ダーツ



デニムジャケット

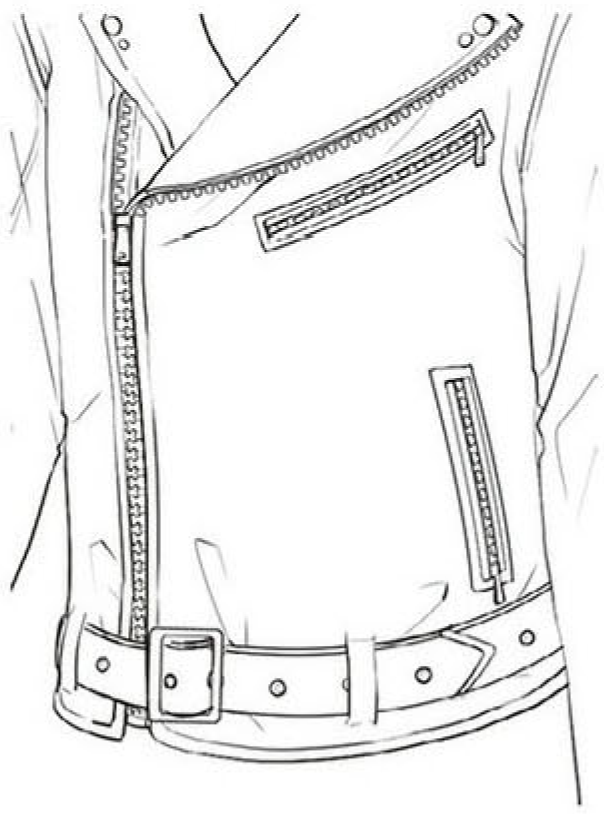
デニム素材のジャケット。着丈が腰よりも若干上にくるため、着丈が長いインナーと組み合わせるのに向いている。

ジャケットの前開きの種類



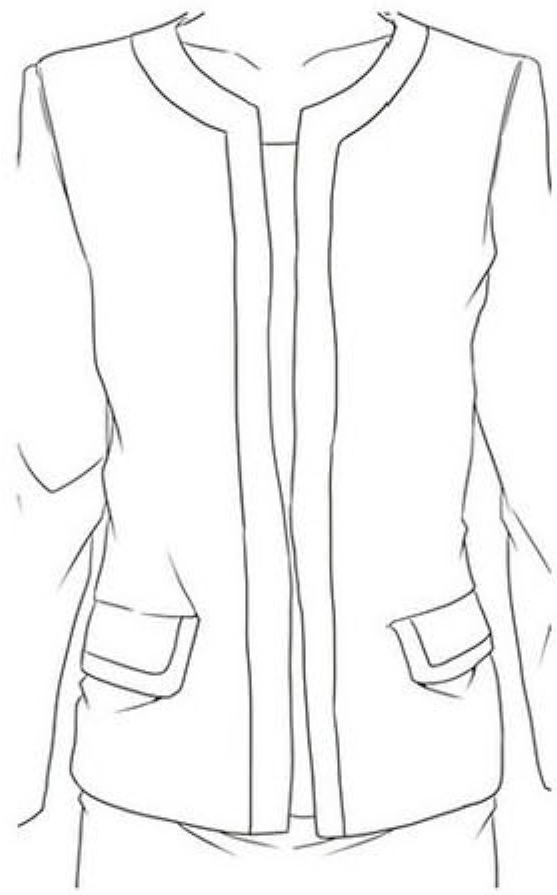
ボタン

前面をボタンで留めて合わせるタイプ。縦1列にボタンが並んだシングルタイプが一般的。縦2列に並んだダブルタイプもある。



ファスナー

前面をファスナーで開閉するタイプ。多くは中央にファスナーがついているが、前立てが二重になっているダブルライダースは右側についている。



ホック

前立ての裏につけた金属製のホックで留めるタイプ。女性向けのジャケットに多いデザインで、前を閉めずに中のトップスを見せる着方をすることが多い。

デニムジャケットの描き方（前側）

1 上半身のアタリを参考に服の輪郭線を描く



▲上半身のアタリを描き、肩から腕のラインに沿って袖の線を描く。首周りに襟を、首元から裾にかけてジャケットの前側の線を描き、ジャケットの輪郭線を描いていく

2 前立て、裾、袖口の厚みを表現する



▲ジャケットの前立て、裾、袖口の輪郭線の内側に幅を取ってもう1本ずつ線を引き、生地の厚みを表現する

3 胸ポケットと服のデザインの線を描く



▲胸の両サイドにポケットとふたを描く。ふたから裾に向かってY字状の飾りの線を引き、ジャケットのデザインを描き加える

4 完成

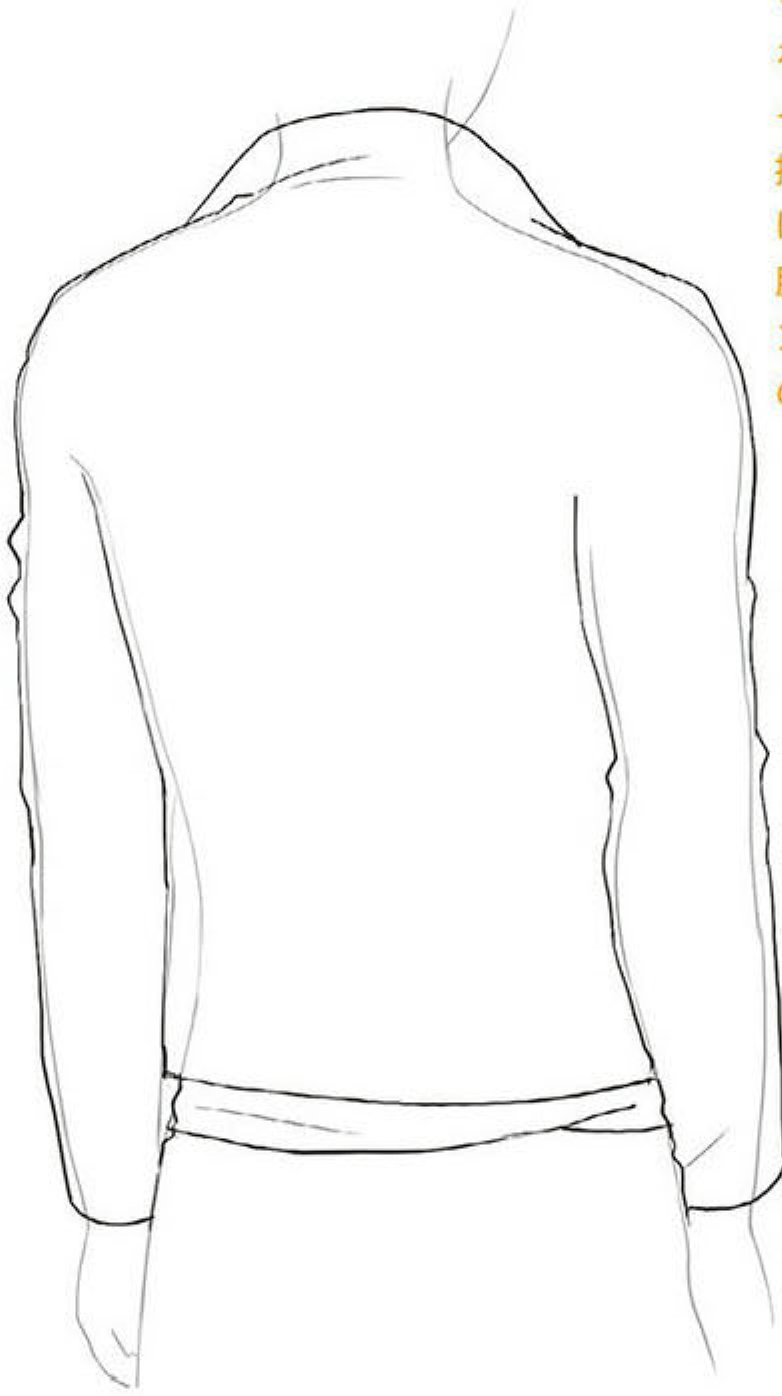


▲前立てにボタンとボタンホールを描く。また、❷や❸で描き足した部位の線を二重にして縫い目に立体感を出す。影は袖の内側、ボタン、裾の周りを中心に描いていく

デニムジャケットの描き方（後ろ側）

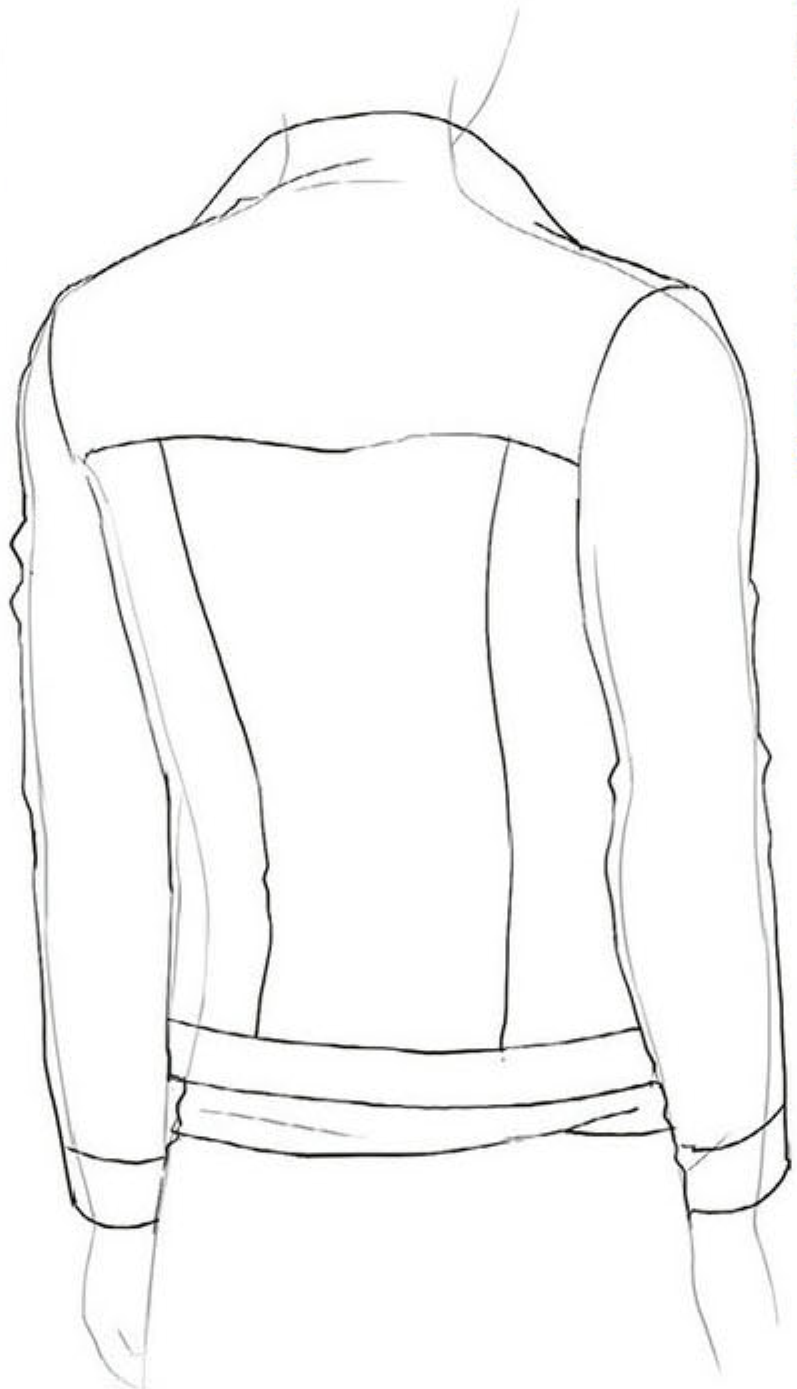
1 体のラインに沿って服の輪郭線を描く

◀体の後ろ側のアタリを描き、肩から腕のラインに沿って輪郭線を描いていく。首周りには山なりの線で襟を、胴周りには背中のラインに沿ってジャケットの胴部分の線を描く



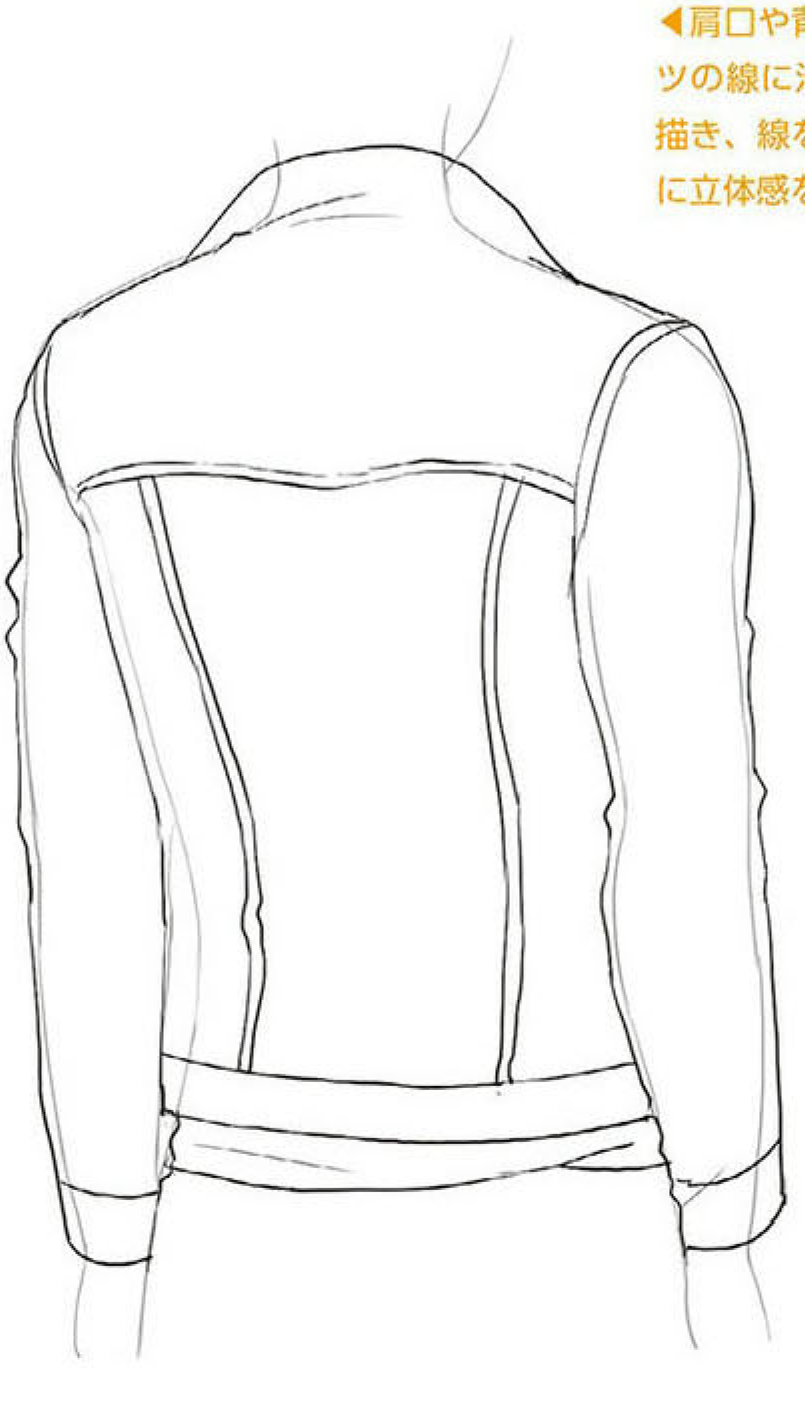
2 生地の縫い目の線を描く

◀袖口と裾の内側に生地の厚みを表す線を描く。続けて肩口の線を描き、左右の脇を繋ぐように横方向にヨークの線を引く。さらに、ヨークの左右から裾に向かってダーツの線を描く



3 縫い目に立体感を出す

◀肩口や背中のヨーク、ダーツの線に沿ってもう1本線を描き、線を二重にして縫い目に立体感を出す



4 完成

◀襟の下や背中、袖にシワを描いて影を加える。影はシワのくぼみ、袖の内側、ヨークやダーツの線の縁、腰近くにできる



ジャケットの作例

テーラードジャケット

特徴的な首元の上襟とラペル（下襟）がポイント。形はスーツのジャケットに似ているがあくまでカジュアルなジャケットなので、肩の周りがあまり角張らないようにしよう。

トップスはシャツやカーディガン、ボトムスは無地の濃い色のパンツ類と合わせるとスマートでカジュアルな印象になる



ミリタリージャケット

着丈がやや長く、モッズコートのようなコート類に近い形状をしている。袖や身頃にはシワができやすい。首周りのファーはp.53を参考にしながら描いてみよう。

ジャケット自体は無骨だか女性にも似合う。ジーンズやチノパンなどのボトムスと合わせやすい



ライダースジャケット

前立て以外にも胸や裾側、袖口などにいくつもついているファスナーの質感を出すのがポイント。腰を絞るベルトの金具やベルトループもしっかり描こう。

腰周りがタイトなため、細身で背の高いキャラによく似合う。前を開けて丈の長いカットソーと合わせるのもあり



ノーカラージャケット

襟がない女性向けのジャケット。長袖で前面は開く形状になっている。首周りは丸く、前立て部分は開いて中の服が見えるように描こう。

落ち着いた女性的な雰囲気が強く、装飾の少ないスカート系に合わせやすい



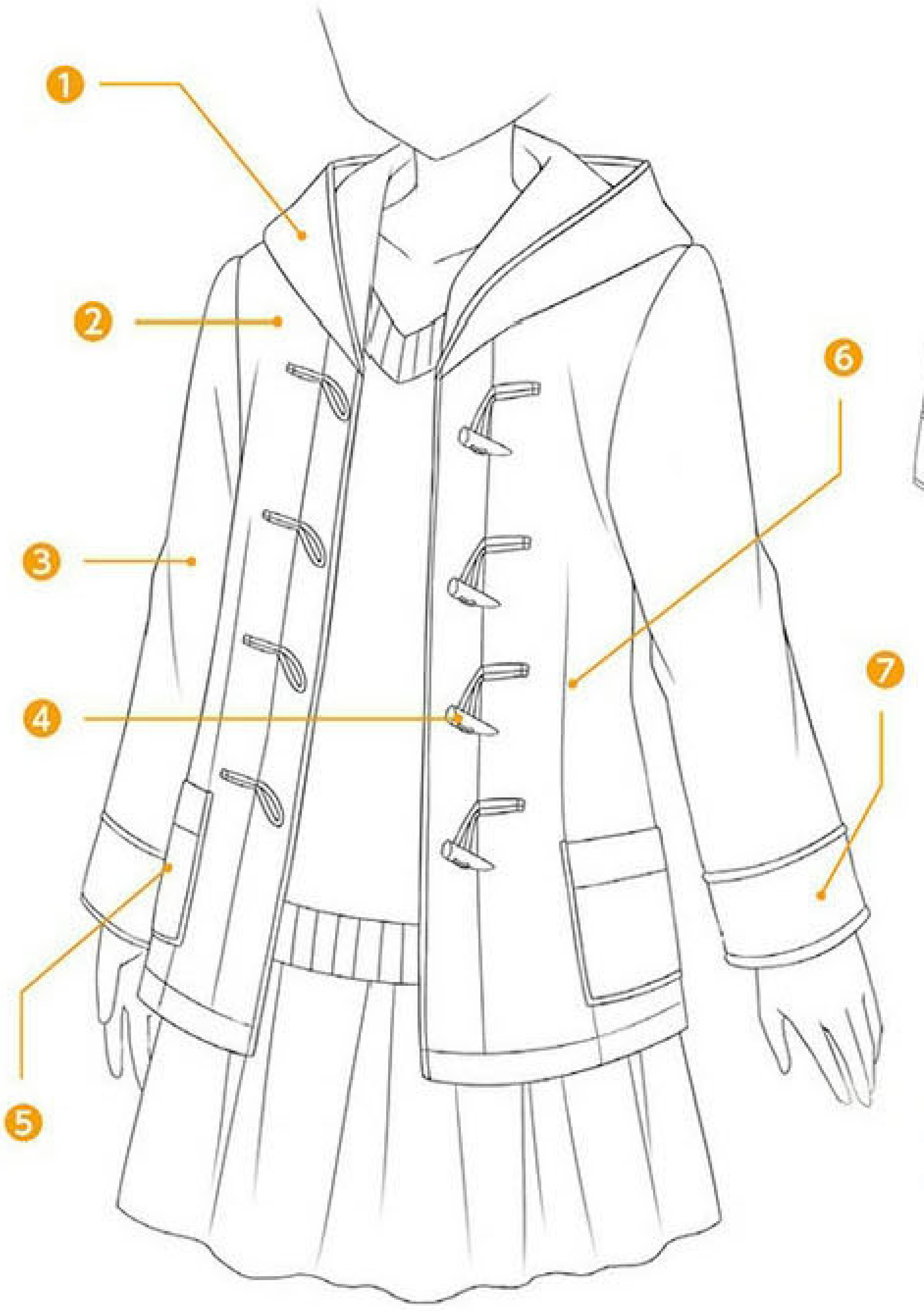


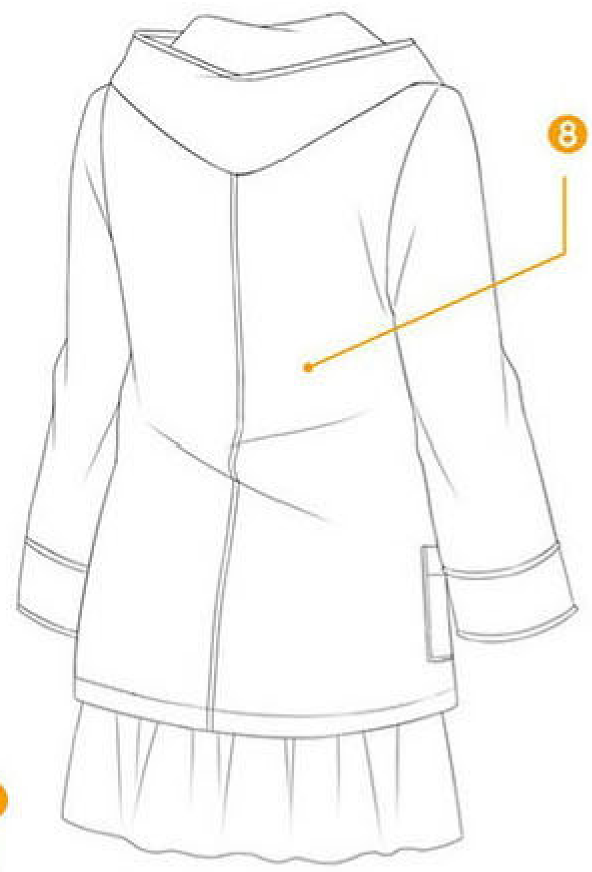
コート

COAT

着丈が腰以上の長さを持つ、袖付きで前開きの上着です。防寒が主な用途で、襟の形やフードの有無、前立て、胴周りのデザインは多岐に渡ります。

コートの構造



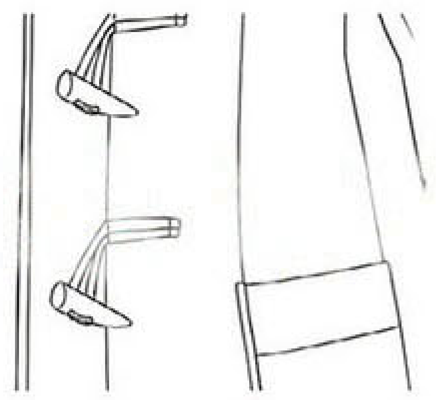


❶フード
❷前身頃
❸袖
❹トグルボタン
❺ポケット
❻ダーツ
❼袖口
❽後ろ身頃

ダッフルコート

前面をトグルボタンで留めるフード付きの厚手のコート。男女ともに使い勝手がよく、パンツやスカートといった代表的なボトムスとも相性が良い。

POINT



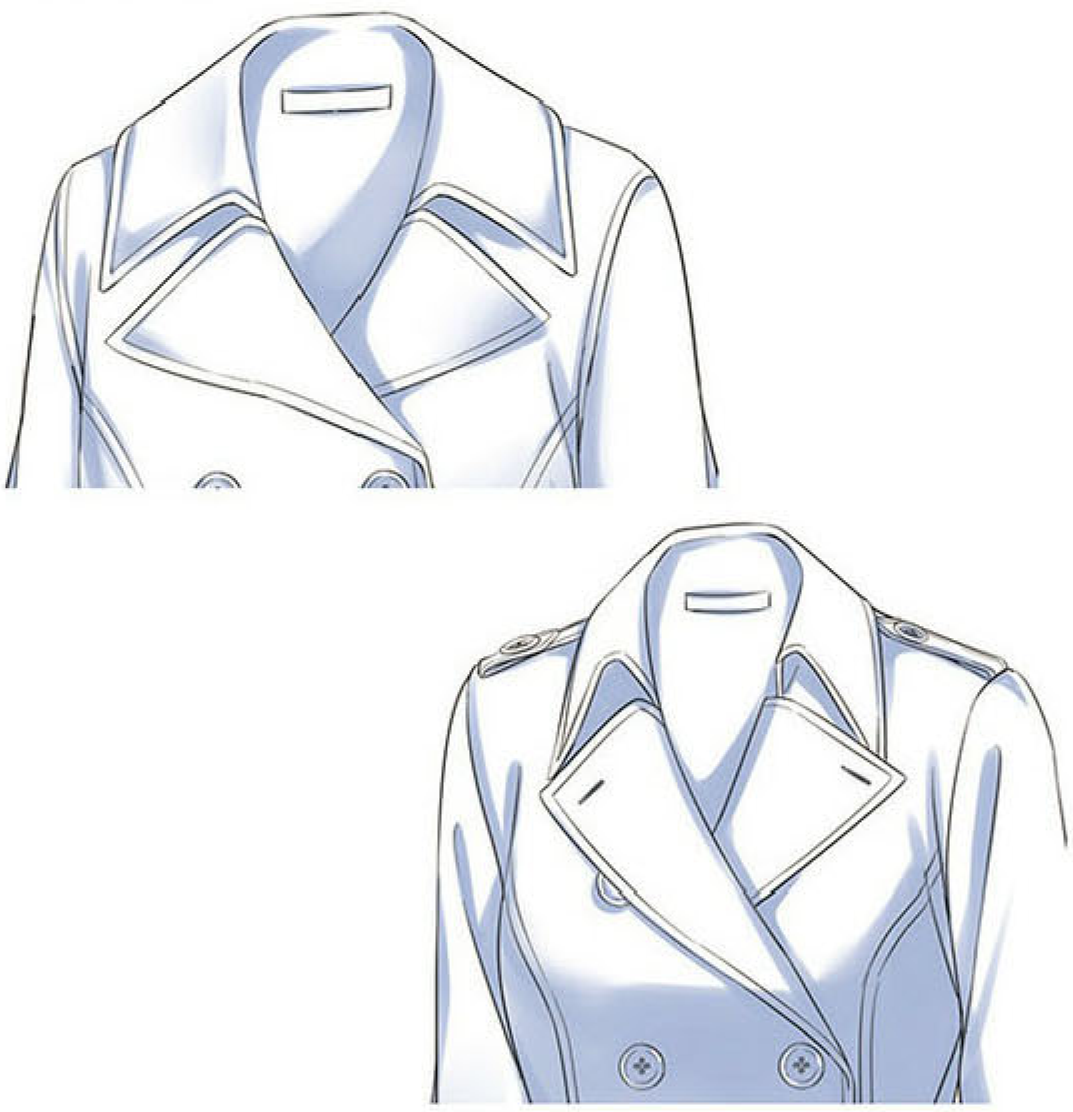
コートのトグル

ダッフルコートに使われている独特の形状をしたトグルボタンは、水牛の角や釣具の浮きを模しています。手袋をした状態でも着脱がしやすいように、大きな輪でトグルを留める作りになっています。

コートの首周りの種類

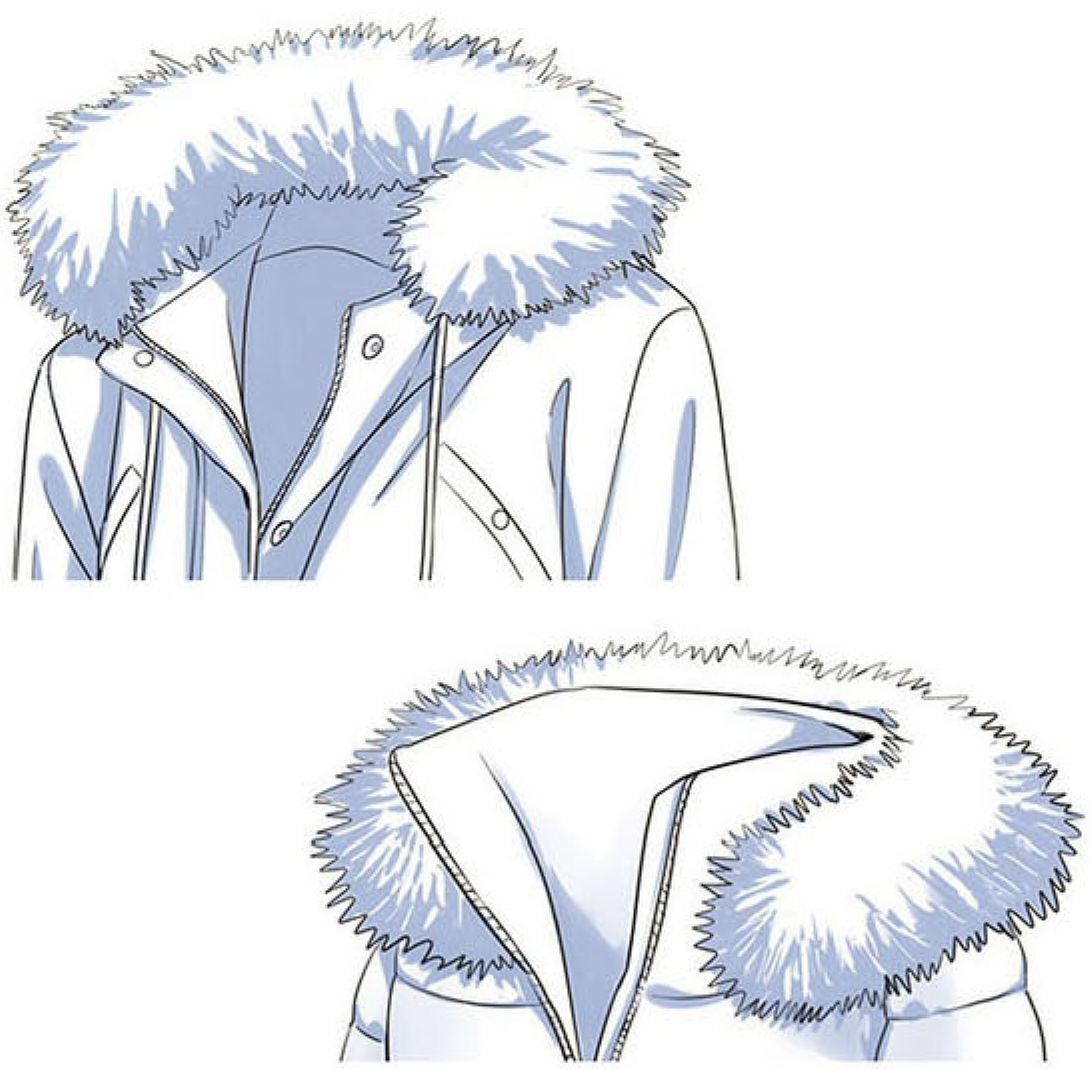
幅広の襟

襟を立てて雨や風を防げるように、襟の幅が広く作られているもの。代表的なコートの中では、ピーコートやトレンチコートが該当する。



ファー

首周りにファー（毛）を付けたもの。フードの縁、襟の周り、襟そのものがファーになっているなど、ファーのつき方にはいくつか種類がある。ダウンコートやモッズコートなどでよく使用される。



ダッフルコートの描き方（前側）

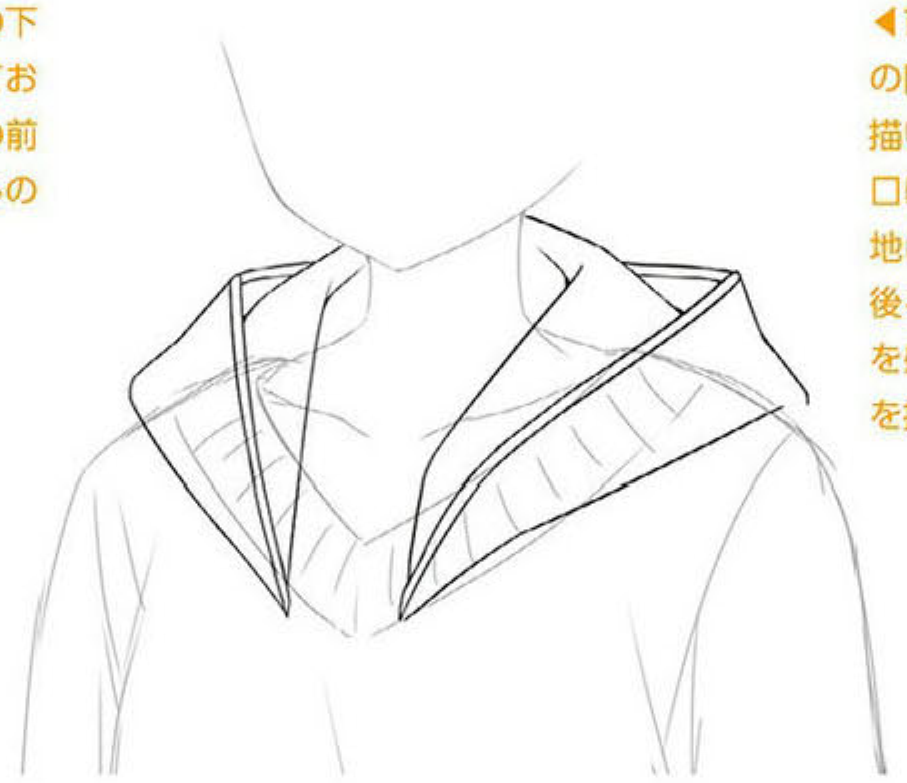
ダッフルコート

1 体と下に着る服のアタリを描く



◀体のアタリと、コートの下に着る服のアタリを描いておく。下に着る服はコートの前を開いた部分からも見えるので、シワを描いておく

2 首周りにフードを描く



◀首周りから肩口までの間に、フードの線を描いていく。フードの口は線を二重にして生地に厚みを出す。首の後ろにはフードの生地を盛り上げたような線を描いておく

3 コートの前身頃と袖を描く



◀肩口や襟の先から両手首や裾に向かって線を描き、ダッフルコートの輪郭線を描く。袖口には生地の厚みを表す線を、胴体にはダーツの線を加える

4 完成



◀前立てにトグルを、両袖の肘にシワを描く。フードの内側、脇腹、袖を中心に影を描き加えて完成。下に着ている服にも影を入れておこう

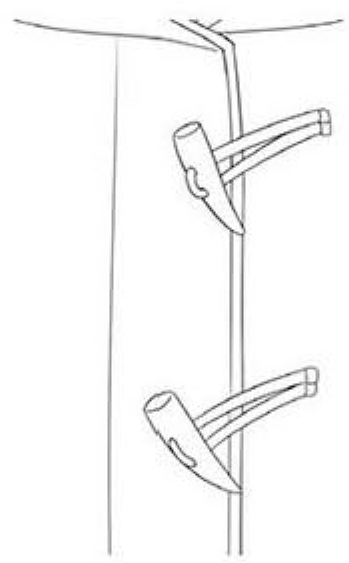
トグルボタン

1 トグルボタンを描く



▲ダッフルコートの前立てを閉じた状態のイラストを描き、前立てのラインに沿って角のようなトグルの留め具を描く

2 ボタンの紐を描く



▲トグルを服に結んでいる紐を、それぞれのトグルの位置に描いていく。気持ち斜め下側に向かって傾いているように描くのがポイント

3 反対側の紐を描いて完成



▲トグルを通す紐をコートの反対側に描いて完成。トグルの先端や重ねた前立て、フードの周りなどに影を描いていく

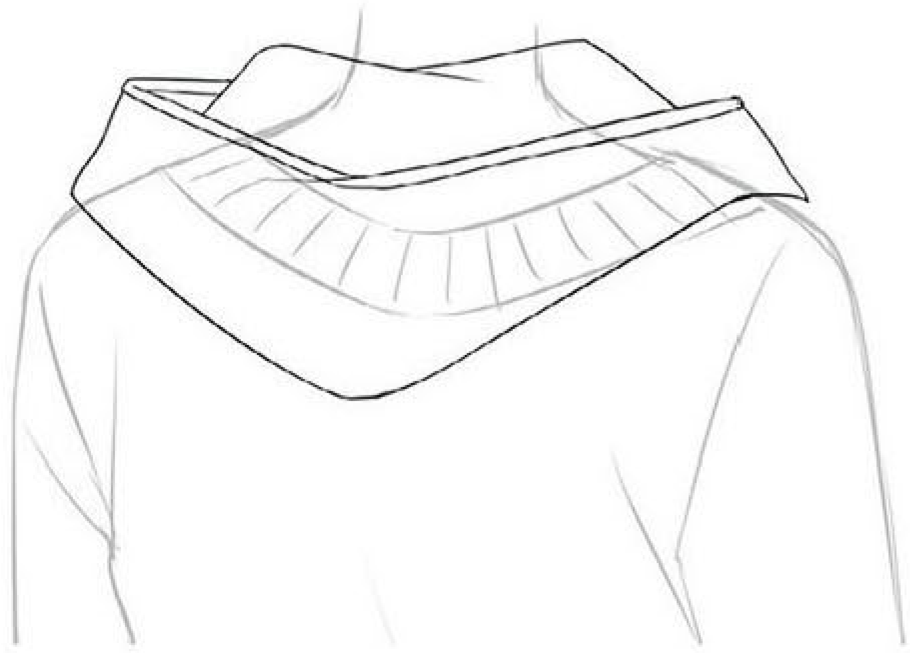
ダッフルコートの描き方(後ろ側)

1 体と下に着る服のアタリを描く

▶背中側の体とコートの下に着る服をアタリで描く。コートを描く上でポイントとなる体の位置は、肩、背中、腰の3箇所



2 首周りにフードを描く



▲首周りから肩にかけての範囲を覆(おお)うフード部分を描く。フードの外側部分は左肩から右肩に向かって「く」を下向きにしたような形に描いていく

3 コートの後ろ身頃と袖を描く



▲肩口の位置を参考に、コートの袖と背中の輪郭線を描く。下に着ている服のアタリを薄く表示させて、全体を包み込むようにコートを描いていく

4 完成



▲フードの下側、背中のシワ、袖口周辺や裾の周りに影を描いて完成。スカートの上側にも、重なっているコートの影を軽く入れるようにしよう

コートのファーの描き方

立て襟コート

1 ファーがない状態のコートを描く



◀コートのファーは襟の周りやフードの縁(ふち)に沿うように描いていく。まずはファーがない、コートだけを着た状態の人物のアタリを描く

2 首の周りにチューブ状のアタリを描く

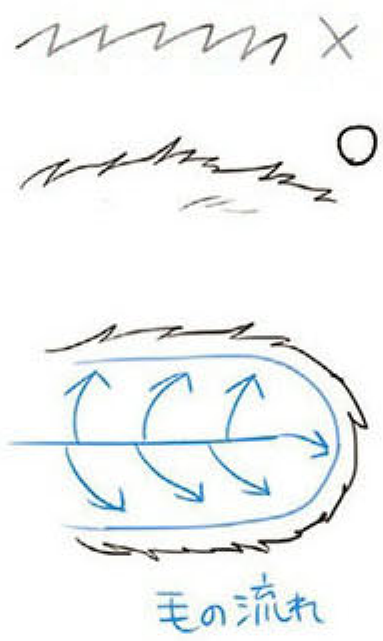


◀正面側だけ欠けたドーナツのようなチューブ状のアタリを、襟を取り囲むように襟の周りに描く。このアタリが、ファーを描くためのベースとなる

3 アタリに沿って毛の流れを描く



◀❷のアタリを参考に、矢印のような流れで上から下に向かってランダムに毛先を尖らせた毛並みを描いていく



4 完成



◀ファー用のアタリを消し、ファーの内側に軽く線を数本描いて毛並みを表現する。襟の周り、首の後ろ、ファーの下側あたりを中心に影を描いて完成

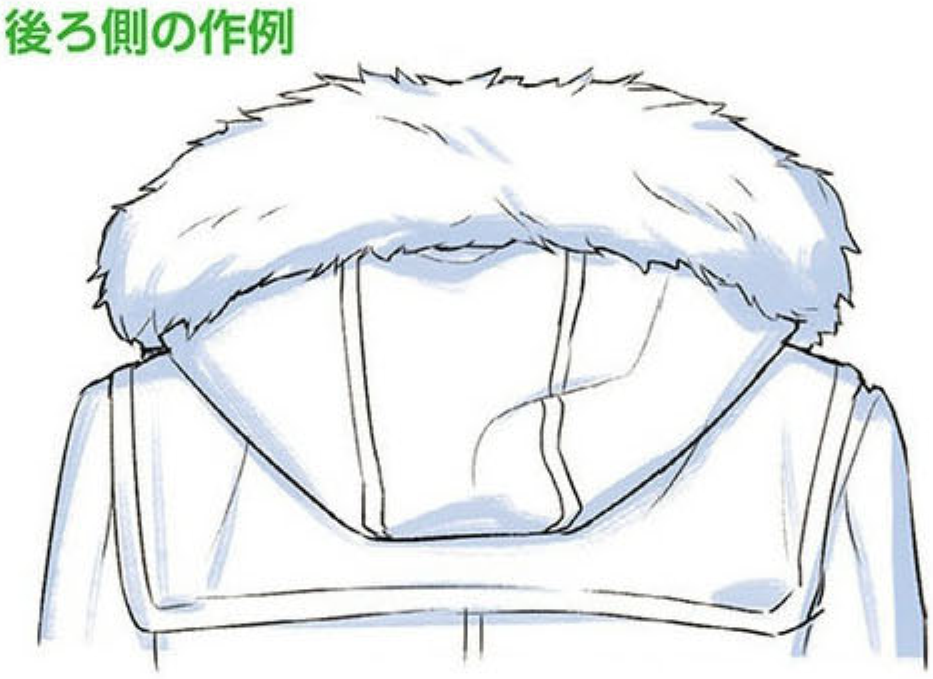
フード付きコート

正面の作例



▲ファーの厚みが感じられるように、縦方向のボリュームを増して立体的に見せる。毛の流れは、首の後ろ側あたりで左右に分かれるように描く

後ろ側の作例



▲フードにファーを描くときは、フードの縁のラインに沿って、上向きの弧を描くように毛の流れを描いていく。毛の流れは、前側と同じく中央を境に左右に分かれる

コートの作例

ピーコート

幅の広い襟と左右についたボタン、短めの着丈が特徴。ジャケットとの違いを出すために、裾は広めに描いて厚手の生地の質感を表現するようにしよう。

10代～年配の男性まで幅広い層に似合う。ボトムスはパンツ系と相性が良く、特にスキニージーンズなど細身のものと合う



トレンチコート

軍服の頃の名残で、肩にはエレポットと呼ばれるストラップがついている。ダブルボタンで、前を閉めると襟が胸元で交差する。

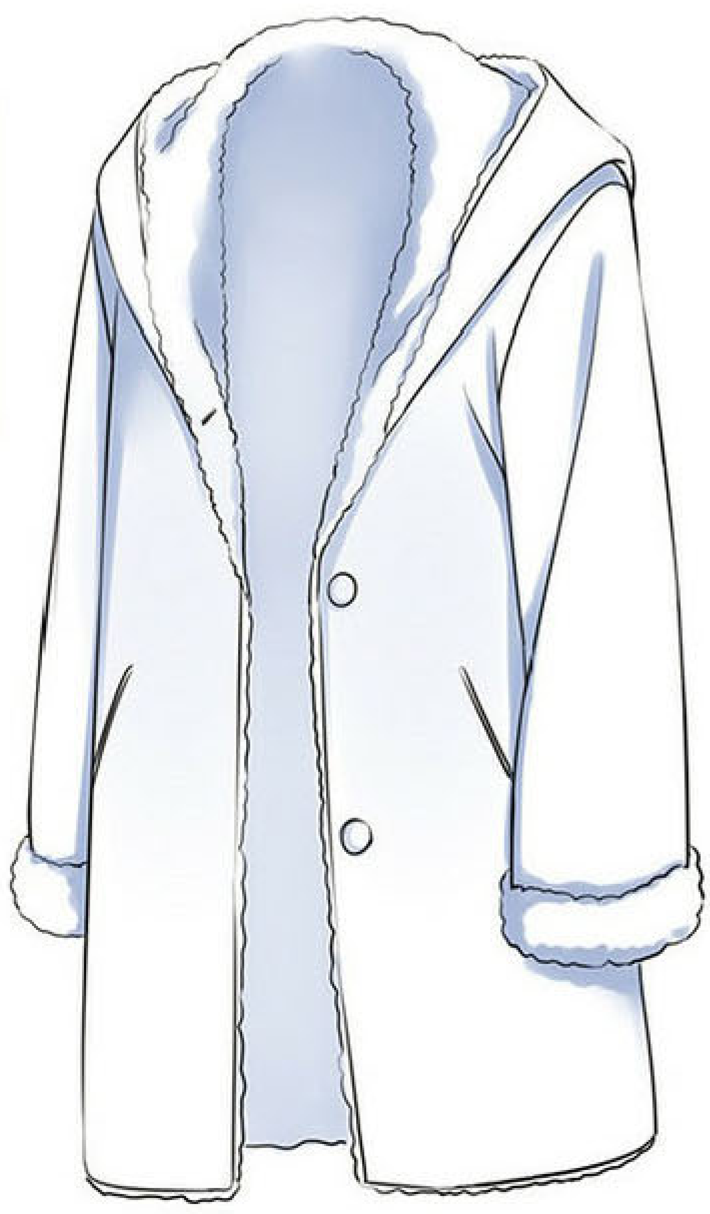
すっきりしたシルエットになるためどんな男女でも使い勝手が良い万能コート



ムートンコート

羊の毛皮を使ったもこもこした質感が特徴のコート。毛の質感は、生地の裏側や袖口の周辺に描き込むようにしよう。

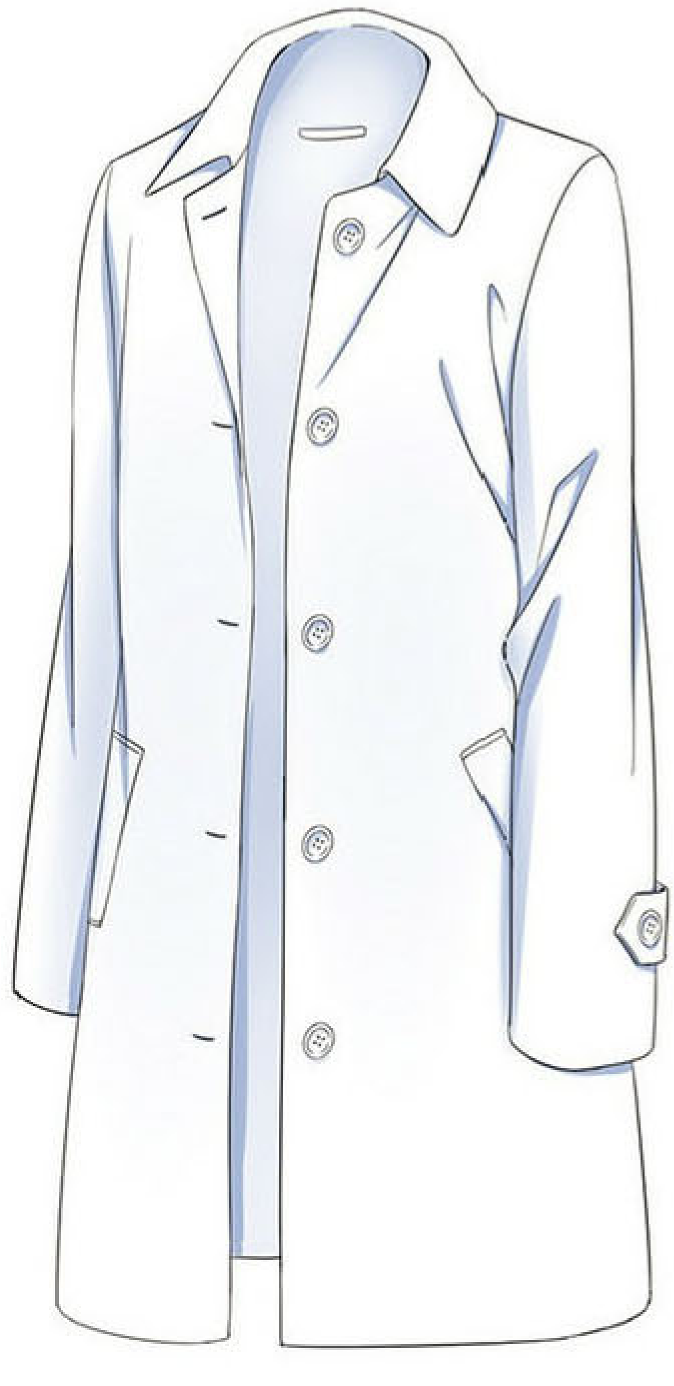
落ち着いた雰囲気が出るので、可愛らしい女性キャラや大人の女性に似合う



ステンカラーコート

襟の後ろ側が立ち上がるように折り返されているコート。装飾が少なく、ゆったりとしたシルエットが特徴。丈は股下までのミドル丈のほか、膝下くらいまであるロング丈も存在する。

シンプルでクラシックな装いのため、ビジネス用のコートとしても多用される



モッズコート

ほかのコートと比べると生地が厚く、フードのファーも相まって膨れ上がったシルエットになりがちなので、大きくなりすぎないように要注意。襟元の紐はフードを、腰の紐はウエストを絞ることができる。

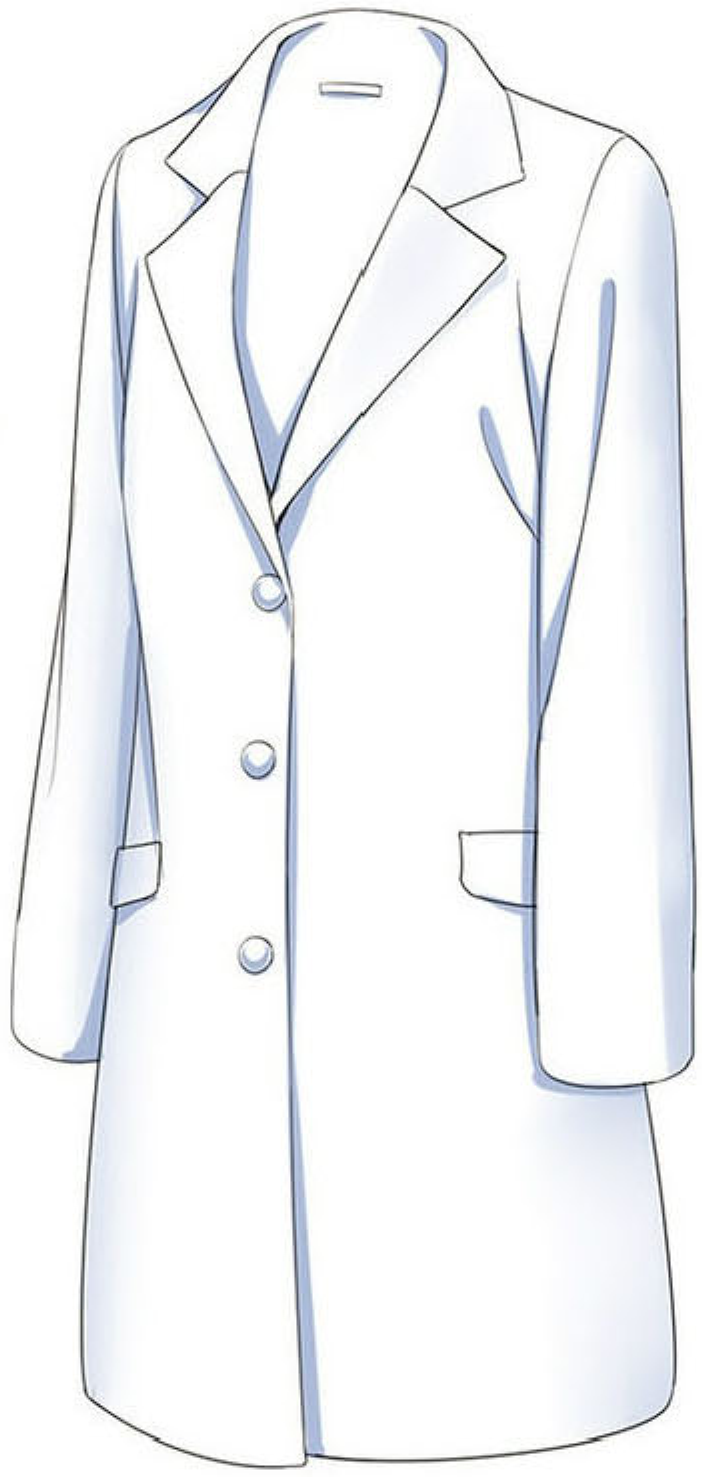
上半身が大きくなりがちな服なので、細身のキャラやスキニージーンズなど細めのボトムスと合わせるとバランスが良くなる



チェスターコート

着丈が長めで、裾が膝近くまであるコート。スーツのジャケットのように上襟と下襟があり、テーラードジャケットの裾を長くしたようなデザイン。ボタンはダブルボタンタイプのものもある。

男性が着ると紳士的に、女性が着ると落ち着いた雰囲気が出るため、大人の男女に向いている



ダウンコート

羽毛をキルティング加工した防寒用のコート。丸みを帯びた袋がいくつも連なっているような外見をしている。襟の部分にはファーがついているものが多い。

上半身が大きくなるコートで、男女ともにパンツ系が合わせやすい。前を開ける場合はセーターなどニット系のトップスが似合う



コクーンコート

繭のように体を包み込む、丸みを帯びた形状のコート。主に女性向けのデザインで、胸から裾にかけて柔らかい曲線を描いている。

シンプルでカジュアル感が強いデザインなので、柄物のワンピースやタイトなパンツと組み合わせやすい





BLOUSON

ジャンパー

裾や袖口がゴムや紐などで絞られた上着です。ジャケットの一種として扱われることもあり、着丈は腰の位置までと少し短いのが特徴です。

ジャンパーの構造





1. 襟
2. 前身頃
3. 袖
4. 袖口
5. 裾
6. 後ろ身頃
7. ポケット

スタジアムジャンパー（スタジャン）

元は野球選手の防寒用に作られたジャンパー。背中や胸の位置には番号や団体のロゴが入るものが多い。

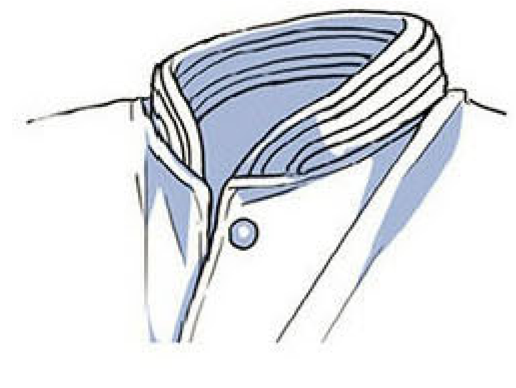
ジャンパーの襟、袖口、裾の形

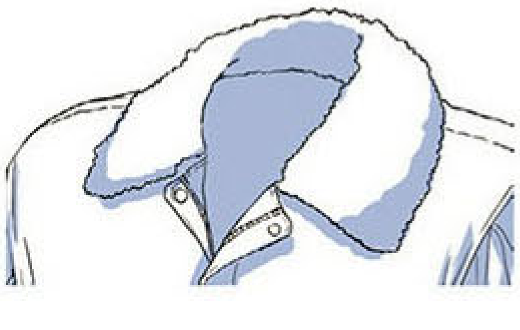
襟

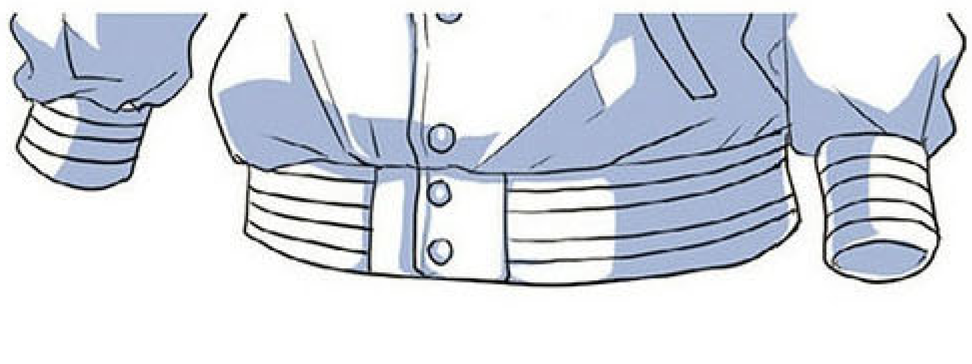
ゴムや紐が入っているため首周りを包み込むような形状をしている。内側にもこもこした毛質の布地であるボア生地を使用したものもある。

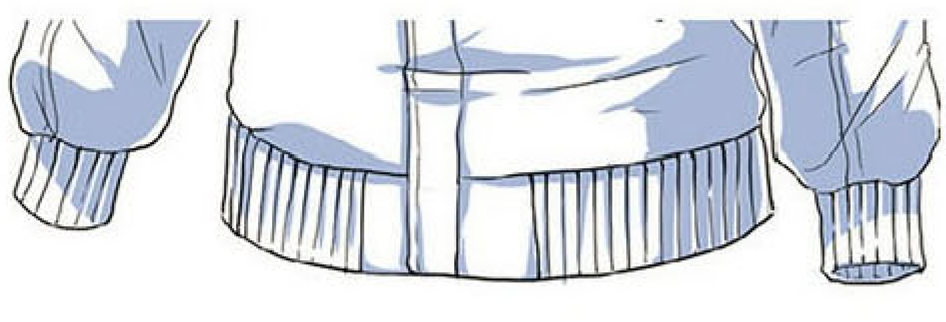
袖口、裾

襟と同じように防寒性を重視してゴムや紐、もしくはリブ編み(p.32)の素材が使われているため、手首や腰周りがすぼまって体に密着する。



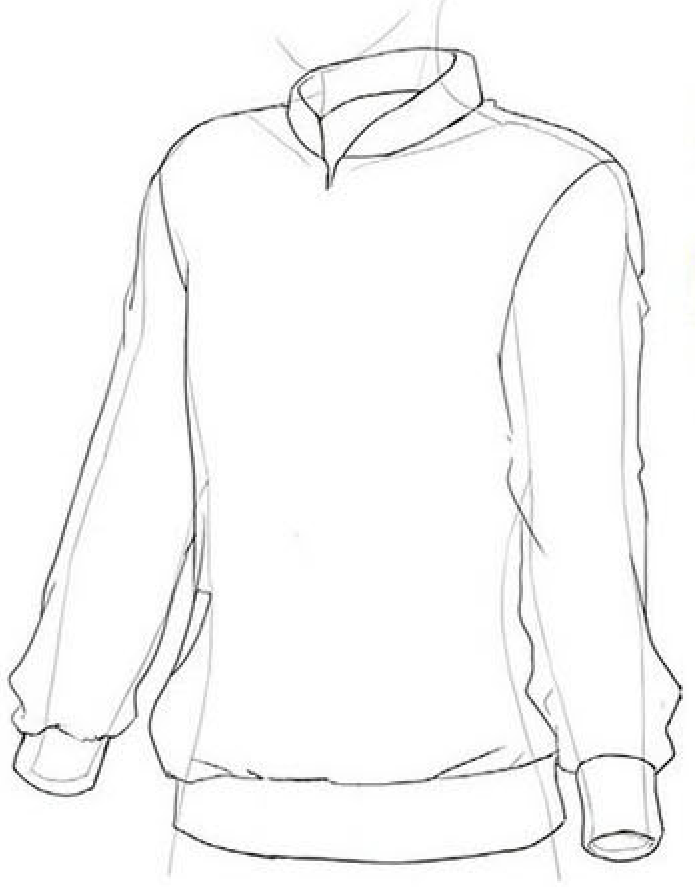






スタジアムジャンパーの描き方(前側)

1 体に沿って前身頃と袖を描く



◀上半身のアタリを描き、肩、腕、胴のラインに沿って袖や前身頃の輪郭線を描く。袖口は細く絞り、裾も体にフィットしているように腰のアタリと同じ幅で描いていこう

2 前開きの線を描く



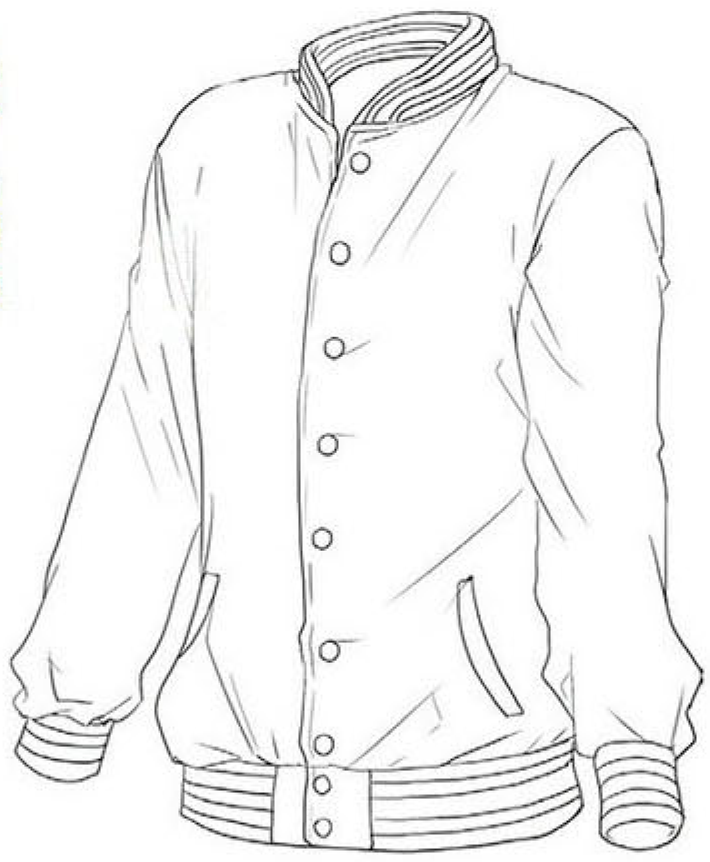
◀襟の下側から裾にかけて、胸の厚みに沿った線を1本引いて中央に前立てを描く。裾の部分には、中央とその左右に1本ずつ線を引く

3 襟や袖口、裾に横のラインを描く



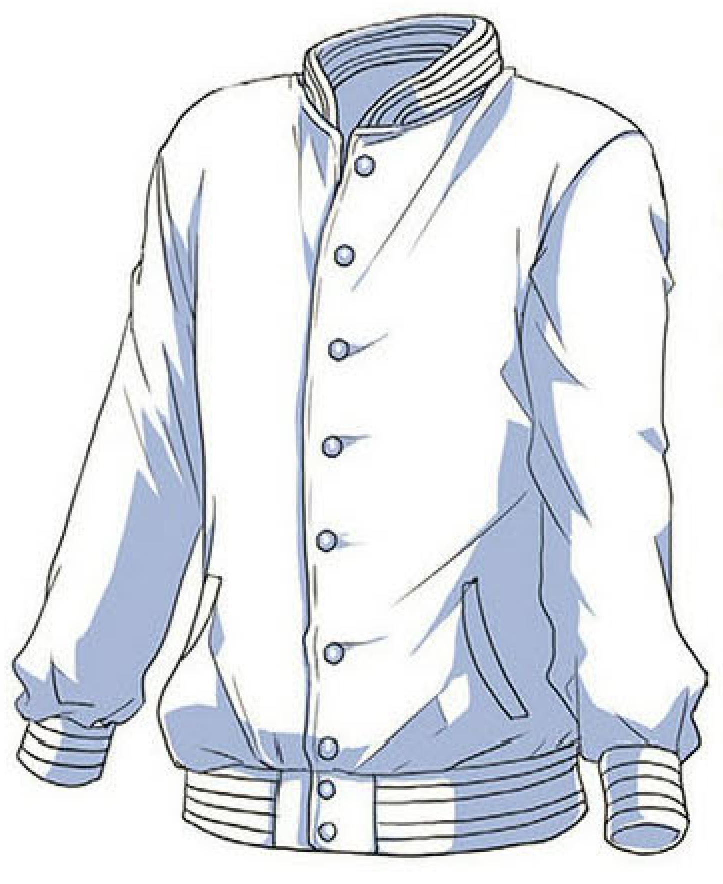
◀襟、袖口、裾の部分に、それぞれ横方向の太いラインを2本描いていく。また、襟元、袖口、肩口、裾の周りにシワを描き込み、服の質感を深めていく

4 ボタンとポケットを描く



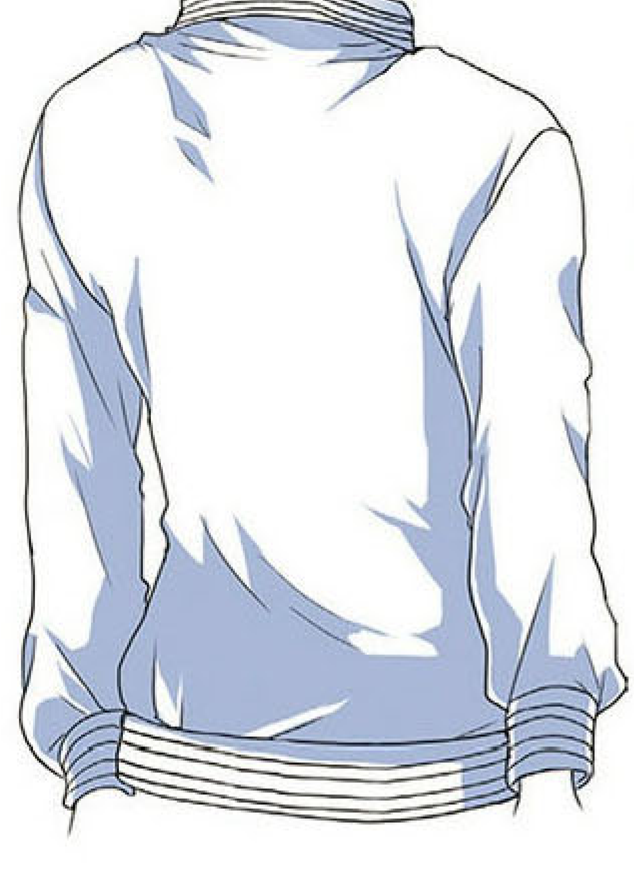
◀前立ての襟元から裾にかけて留め具のボタンを描き、両サイドの下側にポケットを描き加える。ポケットの近くにもシワを描き足しておこう

5 完成



◀目立った影は袖の内側、脇腹、裾の周りにできる。襟元にできる細長いシワの影やボタンの影など、細部にできる影もよく観察して描いてみよう

後ろ側の作例



◀影が入る箇所は正面側とほとんど同じく、袖の内側、裾の周りが中心。襟の下側や肩口に入る細かい影も忘れずに描くようにする

ジャンパーの作例

スカジャン（前側）

前側の柄は、胸の左右に同じ柄を反転させたものを入れることが多く、龍のような凝った柄の場合は自由に配置される。最近では、和柄に限らずハートやキャラクターなどを入れたものも作られている。

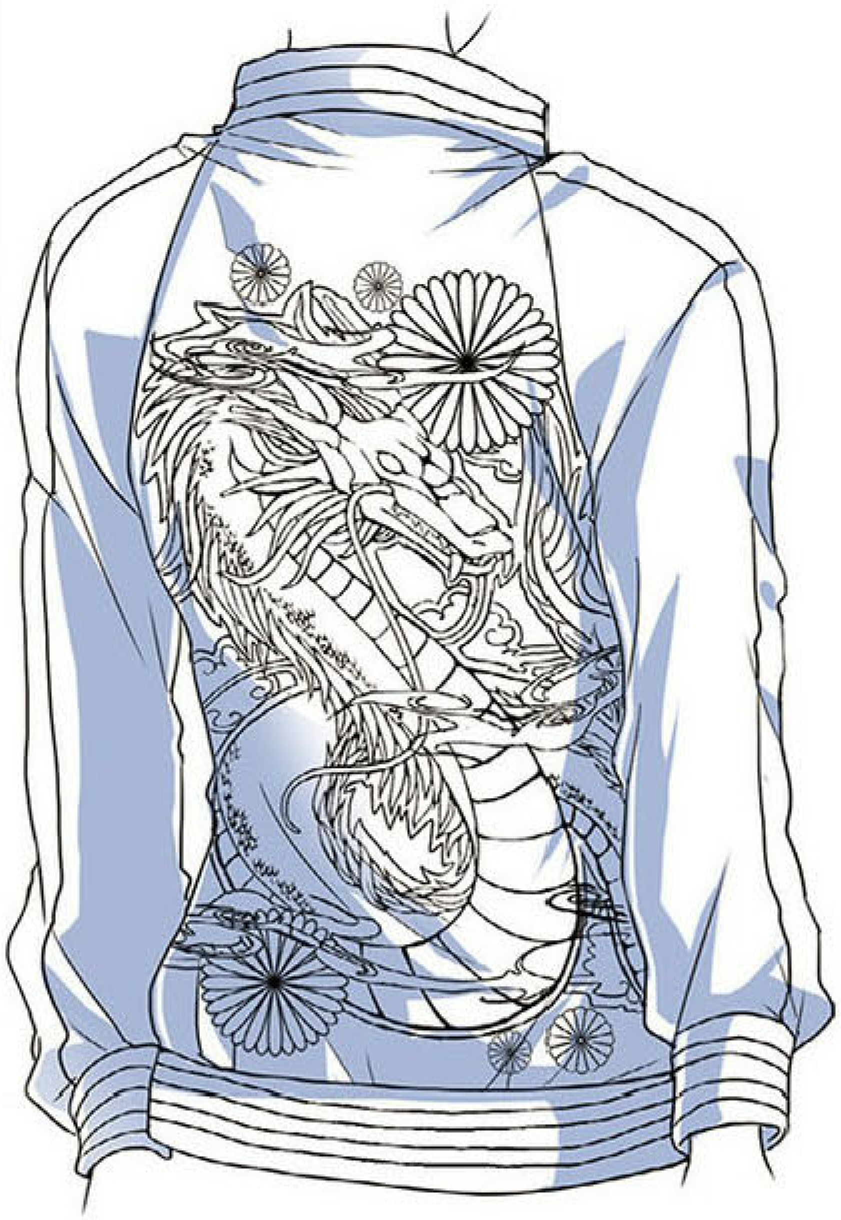
近年では不良の服というイメージは薄れ、男女ともにカジュアルなトップスやボトムスと合わせるアウターとして使われている



スカジャン（後ろ側）

後ろ側は背中一面に大きく刺繍を入れる。ただし、スカジャンはラグランスリーブ（袖の付け根が襟元からはじまっている袖）なので、刺繍が袖の生地にかぶらないように注意しよう。

着丈が短く腰の少し上に裾が来るので、腰が隠れる長めのトップスと合わせるとスタイルがよく見える



ドカジャン

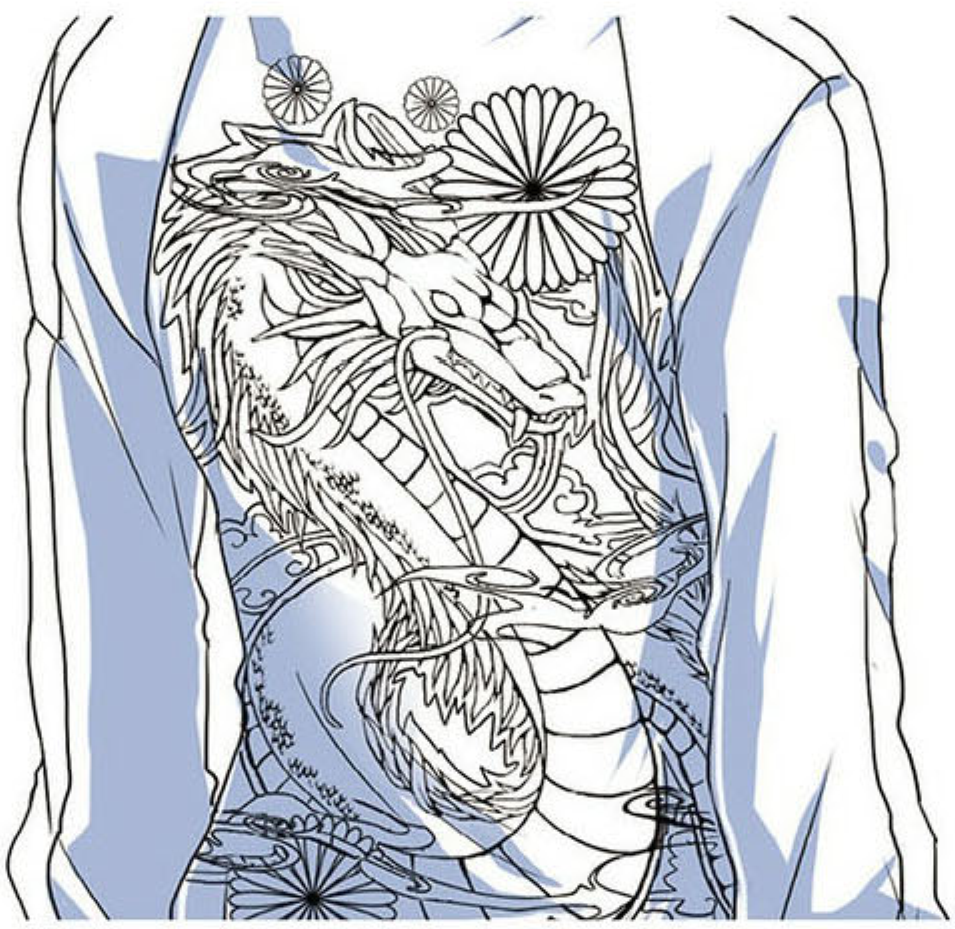
服の輪郭線はスタジアムジャンパーと同じ手順で描き、襟のボア生地は細かく波打つような線で襟の輪郭を描いて表現する。袖や肩口の縫い目、ポケット、前立ての縁を二重にして丈夫そうな質感を出そう。

無骨で男らしい印象が強く、職人気質な男性キャラなどに似合う



POINT

スカジャンの柄



スカジャンの名前と柄は「横須賀ジャンパー」が由来とされています。第二次世界大戦後に横須賀米軍基地に駐留していたアメリカ軍兵士が、虎や龍などのオリエンタルな柄の刺繍をデザインしたジャケットを注文したのが始まりで、以降、土産物としても売られて普及しました。

Part 3

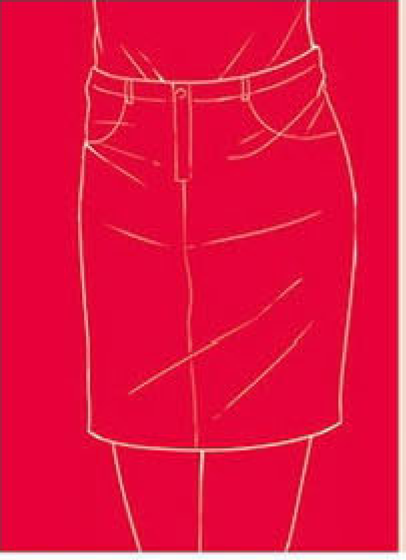
ボトムス

スカート

パンツ

ハーフ・ショートパンツ



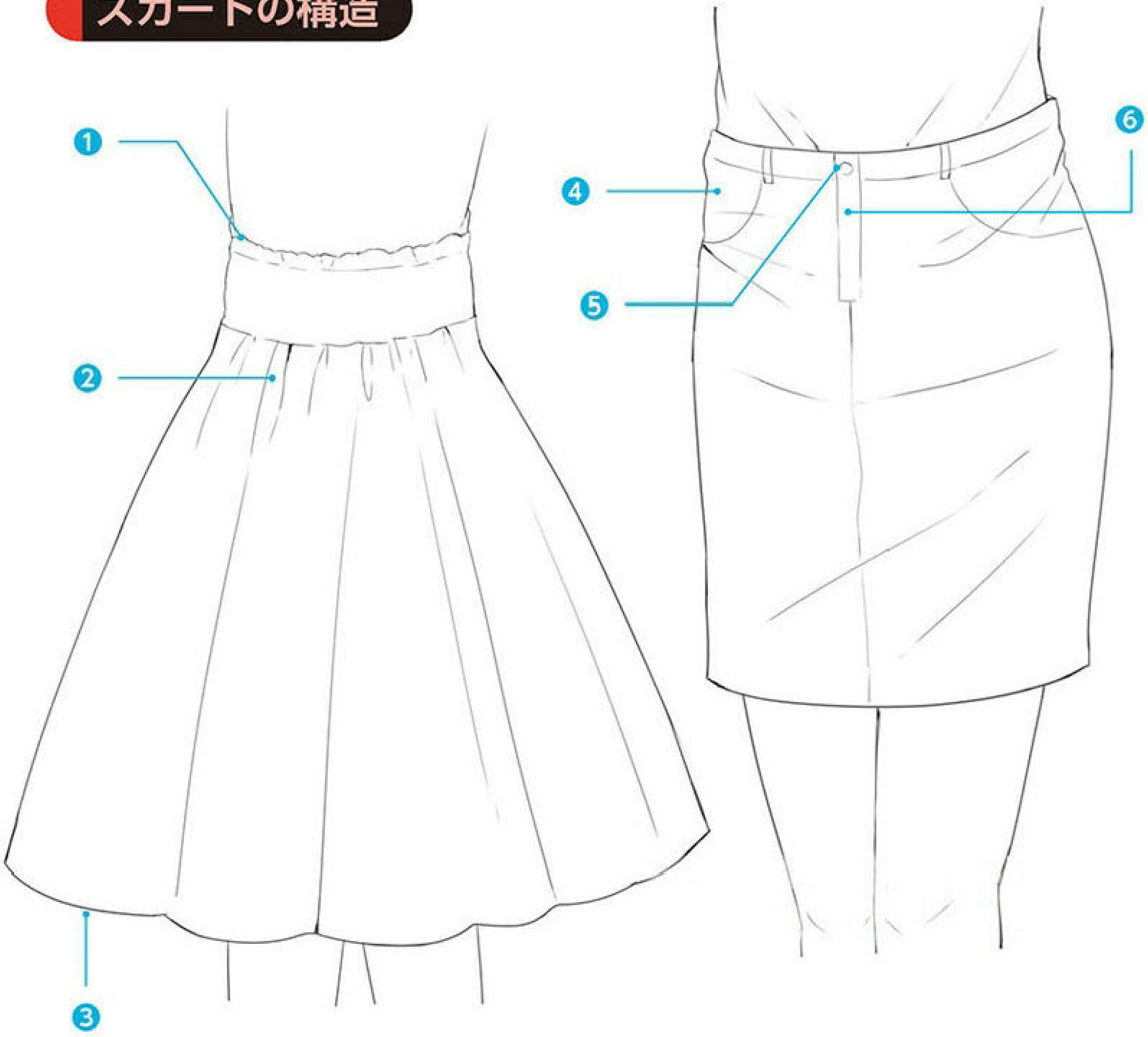


SKIRT

スカート

股下がなく腰から下を包むように覆う女性向けの衣服です。丈の長短、形状の違い、プリーツの入れ方などにより、多くのバリエーションがあります。

スカートの構造

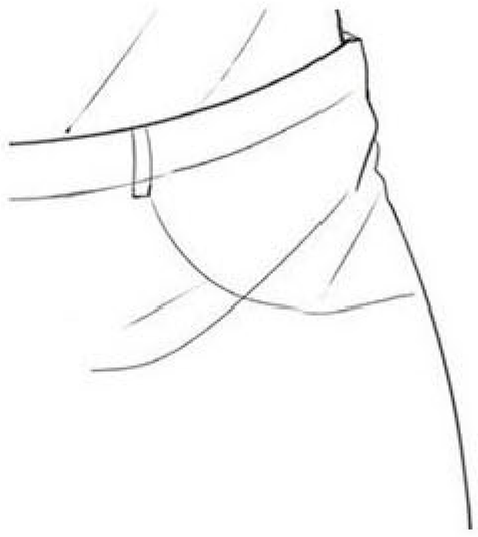


1 ウエスト
2 タック
3 裾
4 ポケット
5 留め具
6 前立て

POINT

スカートのポケット

スカートのポケットはシルエットを崩さないデザインになっているものが多いので、あまり立体的に描きこまないようにしましょう。



スカートの形状の種類

フレア系

腰から足元へかけて、裾が徐々に外側へ広がる形状のもの。可愛らしく女性的な雰囲気を持つ。

タイト系

腰から脚にかけて生地が脚のラインにピッタリと沿った形状のもの。腰周りは体のラインに沿うため、やや丸みを帯びる。

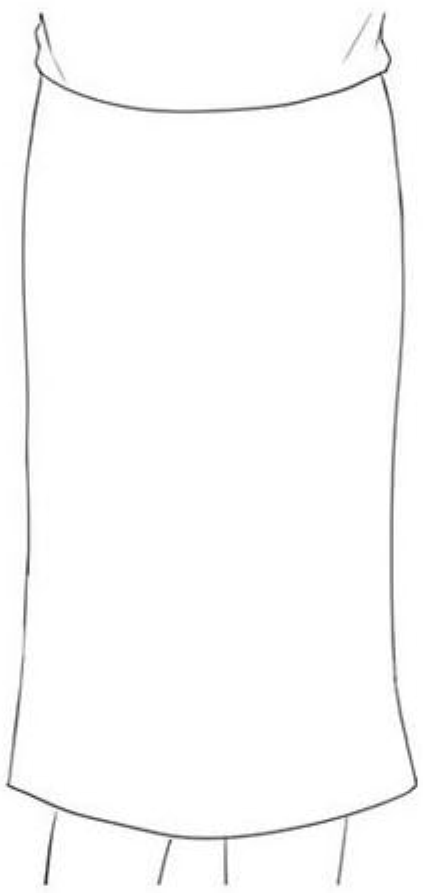
プリーツ系

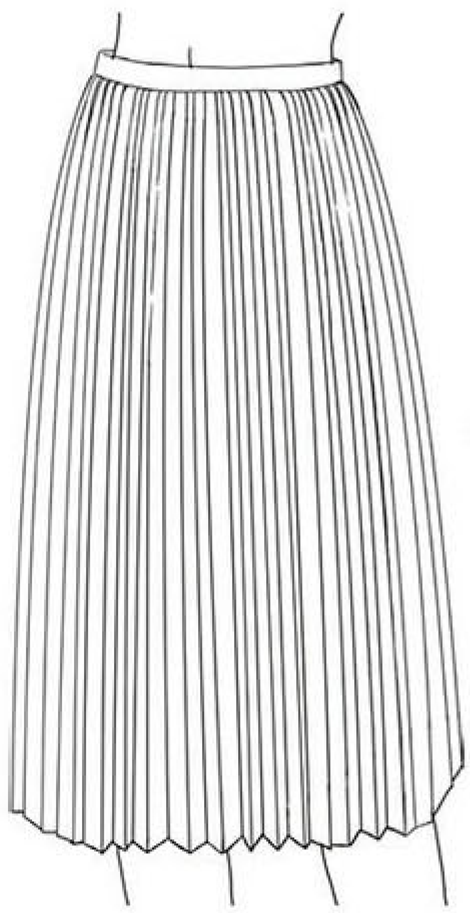
プリーツ（折れひだ）が入ったタイプのスカート。プリーツは細いものや太いもの、ひだの折れ方が違うものなど多彩な種類がある。

ティアード系

生地が段状に重なっているタイプ。ふわふわした裾が可愛らしさを演出しやすく、アイドルの衣装などにも多用される。



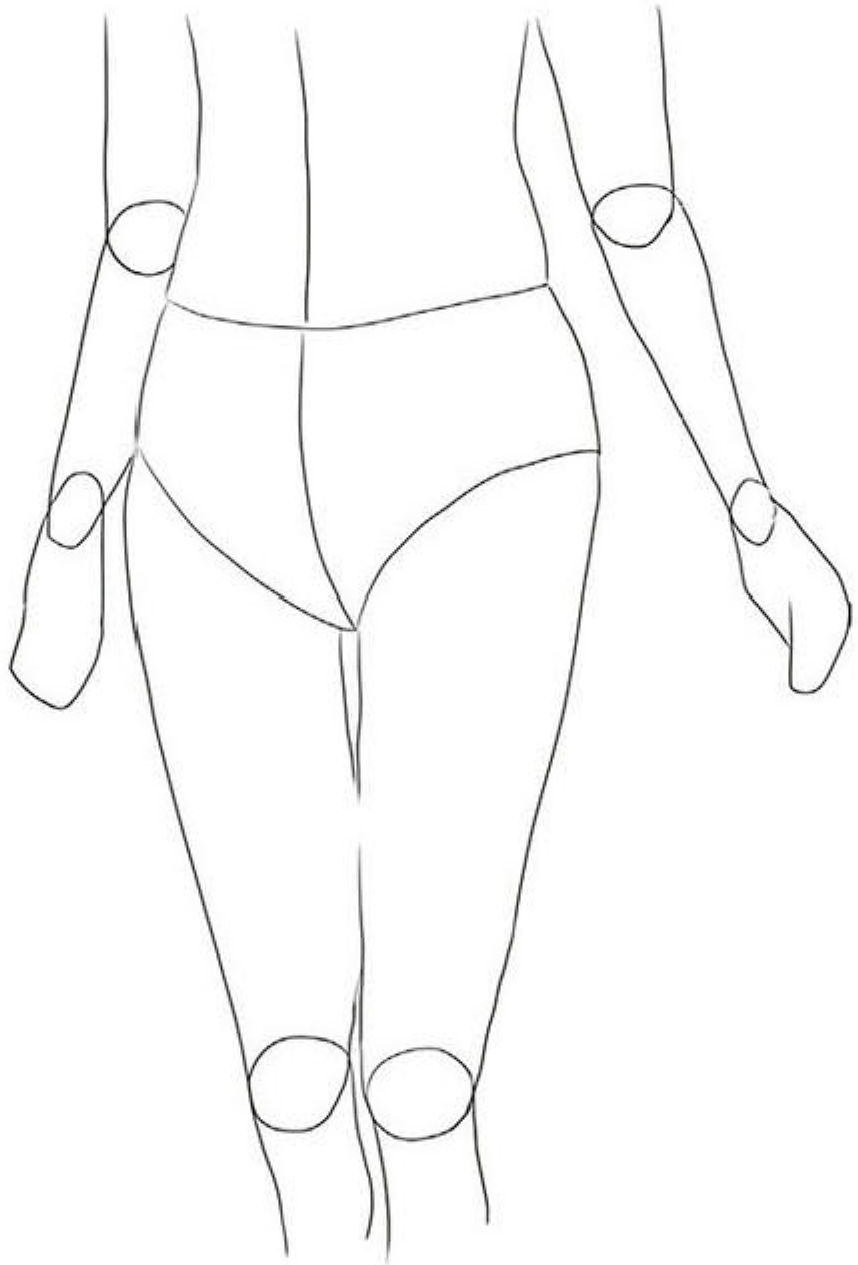






プリーツスカートの描き方(前側)

1 体のアタリを描く



▲体のアタリを描き起こす。プリーツスカートは腰、脚の付け根、体の中心線を基準に描いていくことになる

2 腰の位置を基準にスカートの輪郭線(りんかくせん)を描く



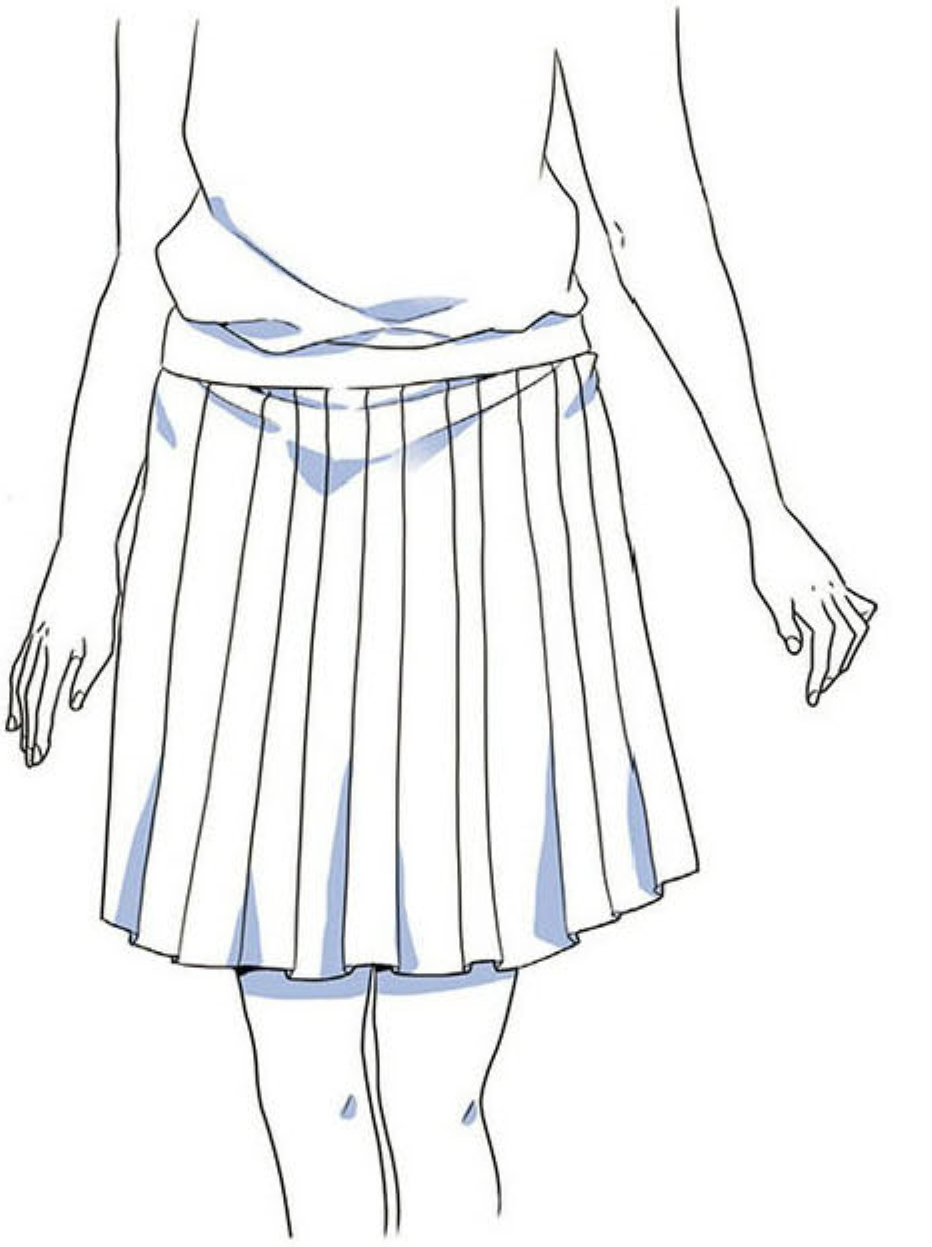
▲腰の位置から輪郭線を描きはじめ、脚の付け根くらいの高さから両サイドに裾が広がるようにスカートの輪郭を描く。裾はプリーツ状になっていることを意識して凹凸がある線を描く

3 プリーツの縦線を描く



▲凹凸に描いたスカートの裾から線を伸ばし、プリーツの縦線を描いていく。裾が広がる形状のスカートなので、プリーツの縦線は腰の中央に向かって気持ち斜めに描くのがポイント

4 完成



▲プリーツの前後を強調するように影を入れる。腰の周りには、左右の腰骨(こしぼね)にスカートが引っ張られて中央が凹んだことでゆるいV字の影ができる

さまざまなプリーツの形

ワンウェイプリーツ（送りひだ）

プリーツの折られている方向がすべて同じタイプで、送りひだやサイドプリーツとも呼ばれる。生地が同じ方向に折られているため、一本一本のプリーツにできる影が同じ形になる。

▶一般的な学生服のスカートによく使われる形状で、動きがあり活発な印象を与える



ボックスプリーツ（箱ひだ）

プリーツが箱のような形に織り込まれたもの。一本一本のプリーツの幅が太いのが特徴。裾の線は凹凸が交互に繰り返すような形になる。

▶大きなプリーツが可愛らしく、私立校の学生服など上品な雰囲気を持たせるのに向いている



アコーディオンプリーツ

楽器のアコーディオンの蛇腹のように、生地が短い間隔で綺麗に山折り谷折りになっているプリーツ。ひだがさらに細かく折られているものはクリスタルプリーツとも呼ばれる。

▶柔らかく優雅な印象になるので、エレガントな雰囲気を持たせたいキャラの私服に使える



インバーテッドプリーツ

インバーテッドは「逆さ、裏にした」を意味する言葉で、ボックスプリーツのひだ山を裏返しにした形のもの。ひだが左右に一つずつ、もしくは中央に一つだけある形状のスカートが多い。

▶お嬢様など落ち着いた雰囲気のキャラの私服として使いやすく、クラシックな印象が引き立つ



スカートの作例

フレアスカート

裾へと向けて、ゆるやかに広がりを見せるタイプのスカートの総称。脚のラインが隠れてわかりにくい構造なので、必ず体のアタリを描いて脚が長くなりすぎないように注意しよう。

裾の広がりが女の子らしさを引き立てるので、女性キャラ全般の私服に使っていける



タイトスカート

体にピッタリと沿う形に絞られており、女性らしい曲線的なシルエットが強調される。裾は膝上あたりの位置にしておくと上品さとセクシーさが両立できる。

フォーマルな装いとしての印象が強く、体のラインも出ることから大人の女性に向いている



ティアードスカート

フリル状の生地が段状に重なったスカート。丈が膝より上にくるショートタイプはキュートに、丈が膝下を超えるロングのものはエレガントな雰囲気を持たせることができる。

膝丈の場合は活発で可愛らしい印象が強く、華やかなアイドルキャラの衣装などに使いやすい



シフォンスカート

透明感のある薄手の柔らかい生地を使ったスカート。先にフレアスカートの形をした下地のスカートを描き、その上を覆うようにうっすらと細く柔らかい線で包み込んで透け感を出そう。

爽やかな透け感がガーリーな印象を強めるので、可愛らしい雰囲気や清楚なキャラに合う



ペプラムスカート

フレア状の装飾をタイトスカートの腰周りに組み合わせたような形状のスカート。腰周りの生地は、フリルを描く要領でひらひらした形にしよう。

クラシックで落ち着いた雰囲気を持つため、上品なキャラや華やかなキャラに向いている



ゴアードスカート

複数枚の縦長の布を接ぎ合わせて形作ったスカート。縦線はプリーツではなく生地のつなぎ目であるため、裾から腰の位置までしっかりと線を繋げて描くのがポイント。

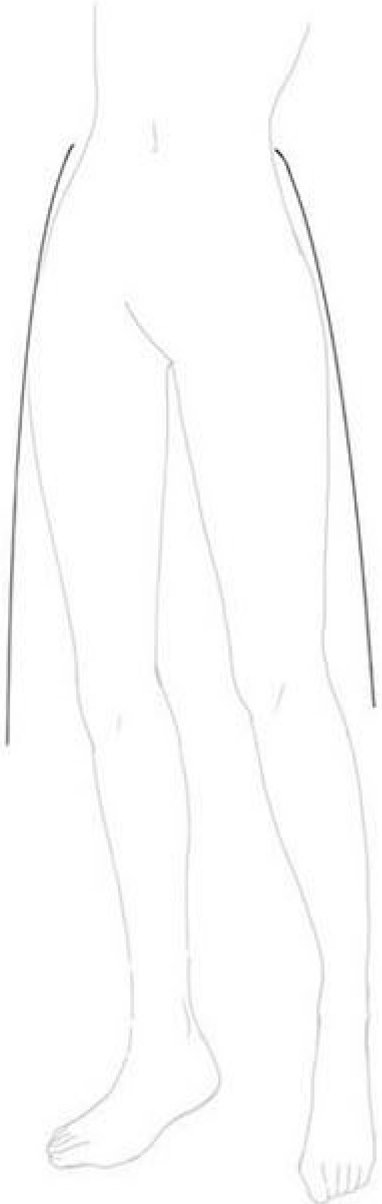
線がはっきりしてかっちりとした印象になるので、クール系のキャラに合う



ロングプリーツスカートの描き方(前側)

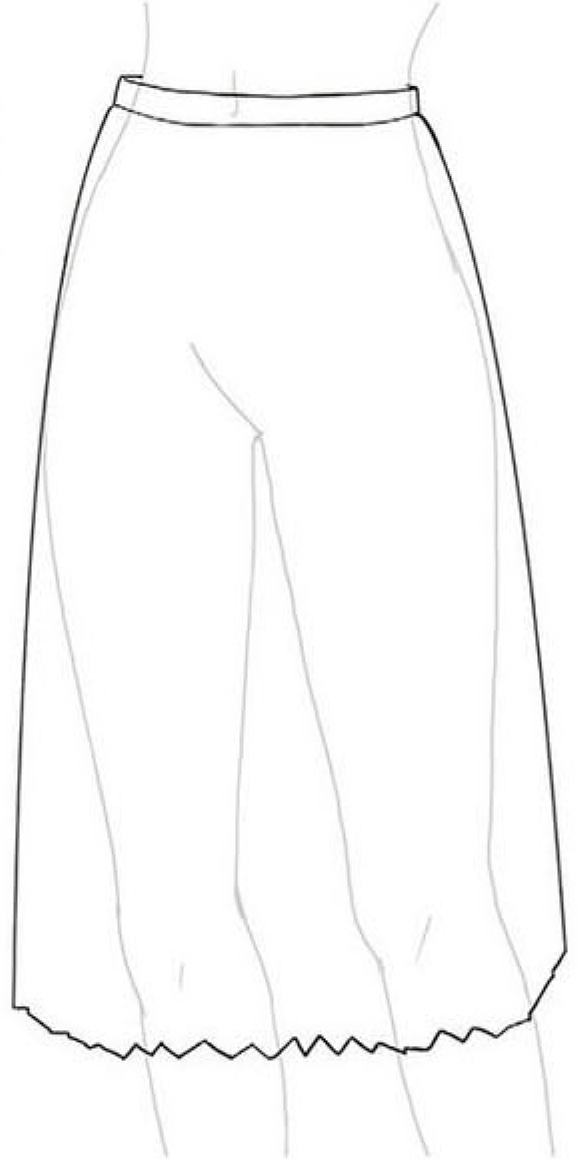
1 腰の位置からスカートの輪郭線を引く

▶腰から足に向かう体のラインに沿って輪郭線を描いていく。長い生地は重力で下に垂れるので、裾を広げすぎないように注意しよう。腰の高さはへそを目印にするとわかりやすい



2 腰のバンドと裾のひだを描く

▶幅が短い腰のバンドをへその位置に合わせて描く。裾側の線は、正面に近いところはプリーツの山と谷がはっきり見えるように描く



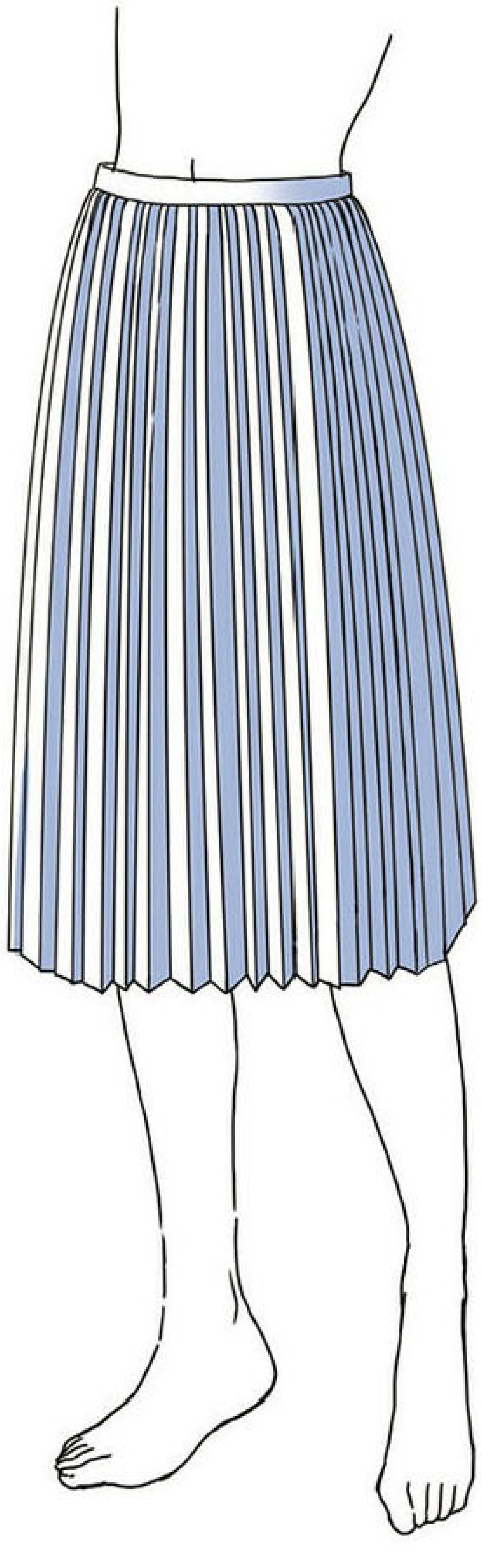
3 プリーツを描いていく



▲正面側の山と谷がはっきりしているプリーツから線を描いていく。腰のバンドに近づくに従って、プリーツ同士の線の幅が細くなっていく点に注意しよう

4 完成

▶プリーツの明るくなる側と暗くなる側が交互に続くように影を描くと立体感がでる。プリーツの暗くなる面は影をベタ塗り、腰周りには軽くグラデーションをかける



ロングスカートの作例

フィッシュテールスカート

前後で丈の長さが異なるスカート。後ろのほうが長く、魚の尾ひれのような形状をしている。前側は中央から左右の裾にかけてゆったりとしたひだを描く。



ナロースカート

体に沿うような細身のシルエットで「ペンシルスカート」とも呼ばれる。タイトスカートを長くする要領で、腰周りを体のラインに沿って描こう。裾を細く絞るとよりセクシー。



サロンスカート

腰に布を巻き付けたような形をした筒状のスカート。単純な構造のため、腰から下の縦方向のラインはほぼ直線になる。生地を重ねているので、裾の形は単純な弧ではない点に注意しよう。



パウスカート

フラダンスを踊る際に着用する、腰の生地に細かいギャザー（布が縮んでできたひだ）が入ったスカート。ギャザーの密集したシワは、線で描くよりも小さな点のような影を細かく描いたほうが表現しやすい。



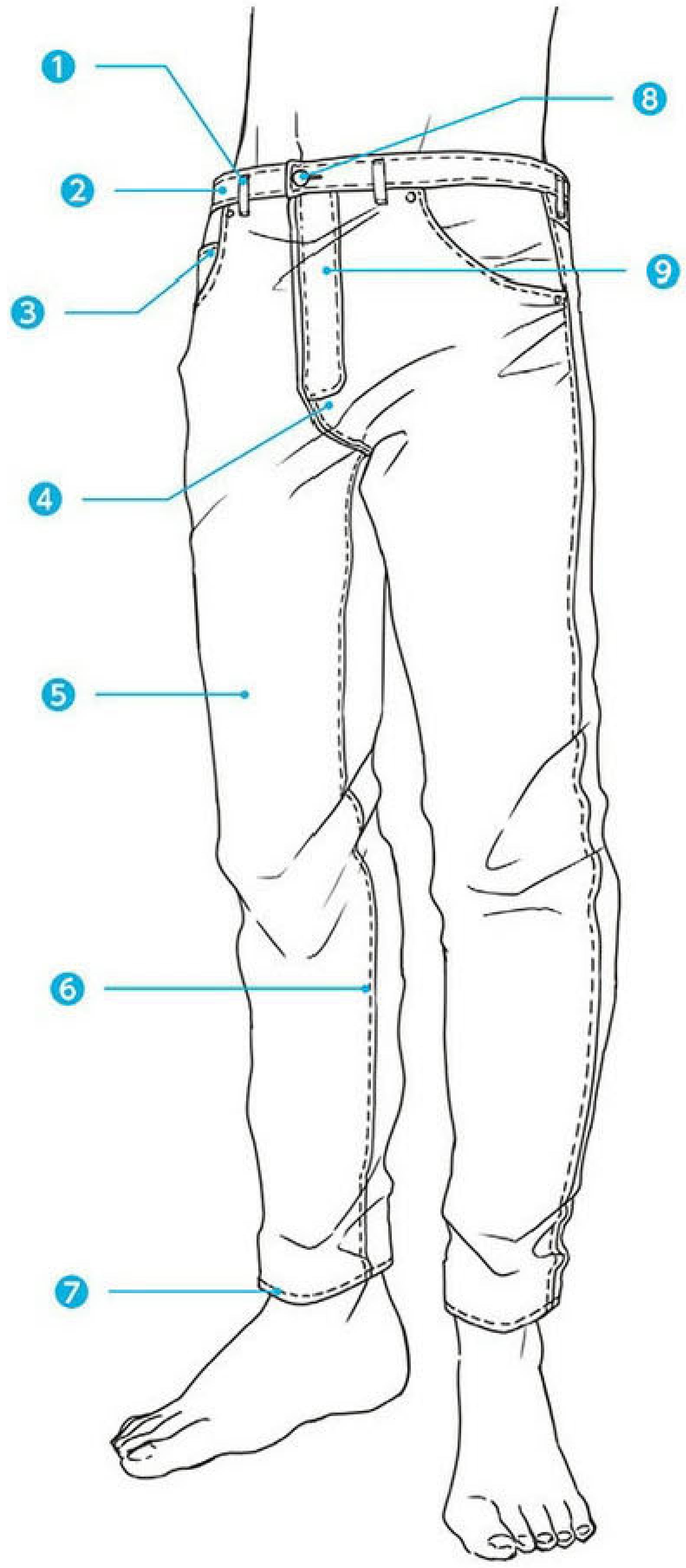


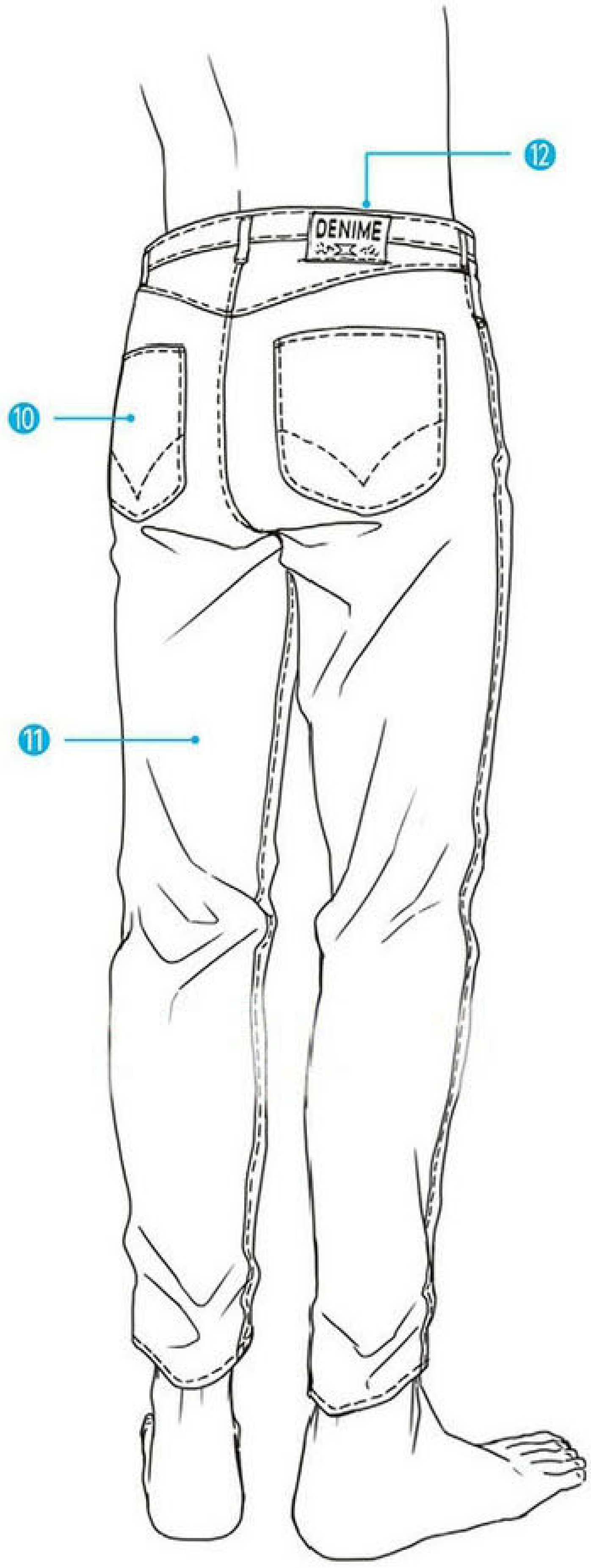
パンツ

PANTS

二股に分かれた筒状の生地に脚を片方ずつ入れて履く丈が長いボトムスです。腰にベルトを通す穴（ループ）があり、固定できるものが大半です。

パンツの構造





①ベルトループ
②ウエストバンド
③コインポケット
④股上
⑤前身頃
⑥ステッチ（縫い目）
⑦裾
⑧フロントボタン
⑨フライ
⑩ヒップポケット
⑪後ろ身頃
⑫パッチ

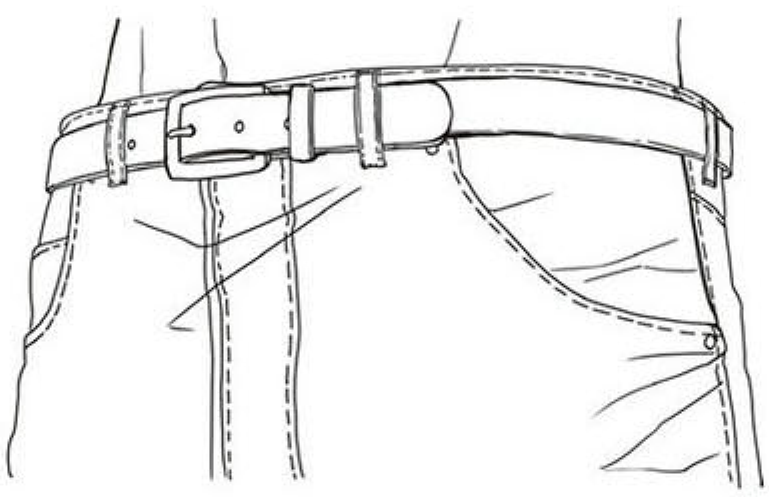
POINT

デニムのステッチ



デニムにおいてステッチは重用な要素の一つです。バックポケットにモチーフを入れたり、生地に対して目立つ配色や太さにすることで特徴を出したものもあります。

パンツの種類



デニム

「ジーンズ」とも呼ばれる厚手の生地でできたパンツ。生地が硬めであるため、輪郭に凹凸があり股上や膝にシワができやすい。



チノ

チノクロスという生地で作ったパンツ。腰にタック（生地の折り込み）が入っているものが多く、ゆとりがありシワができにくい。

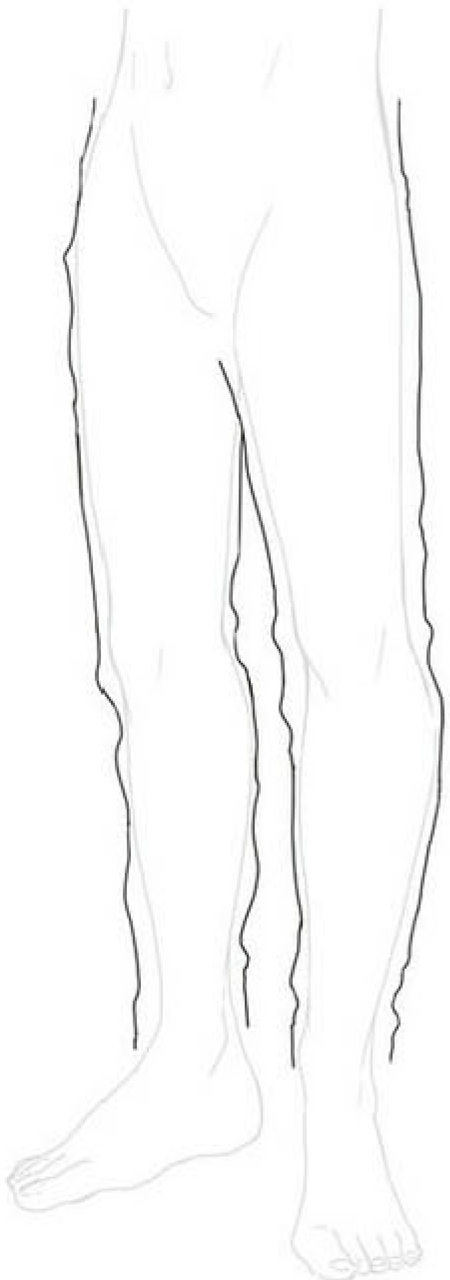


サルエル

股下は深くゆったり、膝から下は絞りが入る立体的な形のパンツ。イスラム圏の民族衣装にルーツを持つ。

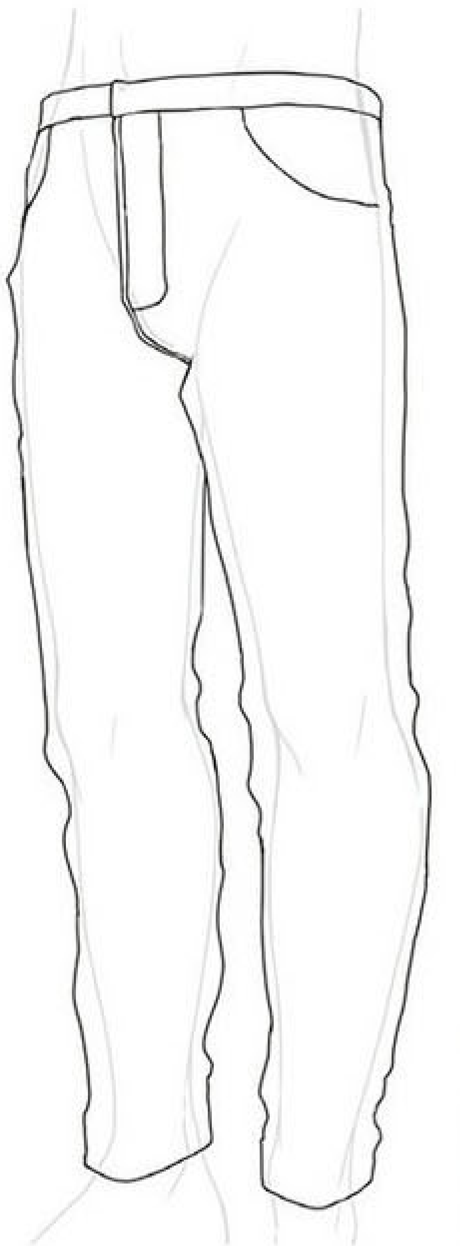
デニムパンツの描き方(前側)

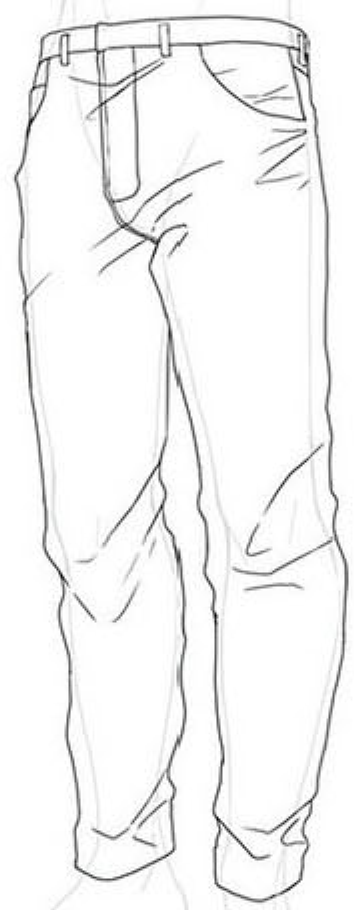
1 足のラインに沿って輪郭線を描く



◀腰から足首にかけてパンツの輪郭線を描く。デニム生地はごわごわしているので、輪郭線も凹凸をつけて描こう

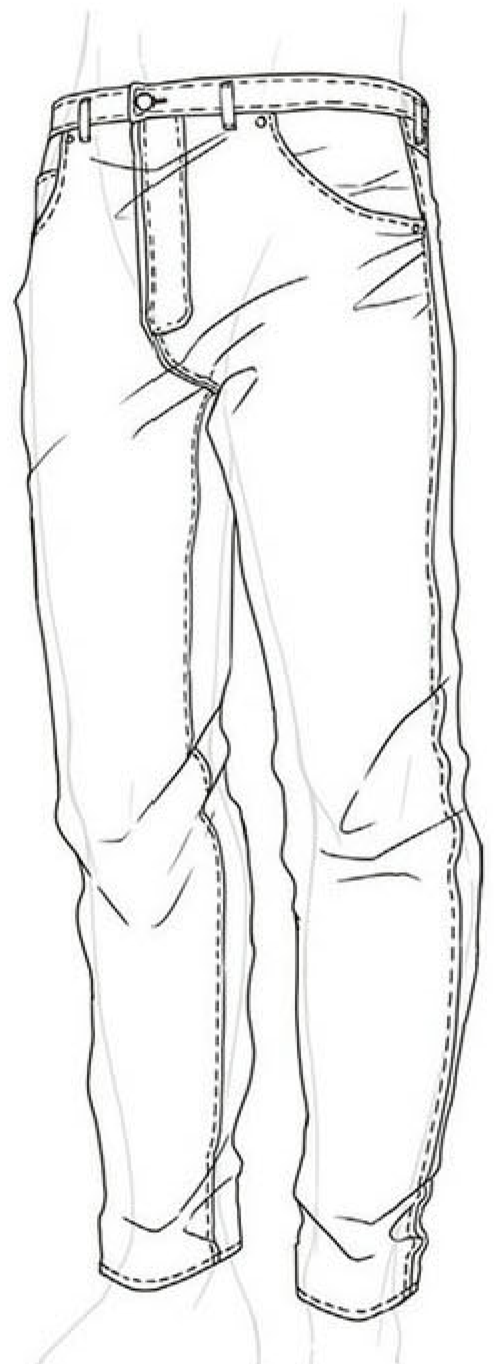
2 ベルトループや全体のシワを描く





◀▲裾を閉じ、ウエストや前開き、ポケットの線を描く。続けてベルトループ、股下や膝下、裾にシワを描いていき、パンツとしての形を整える

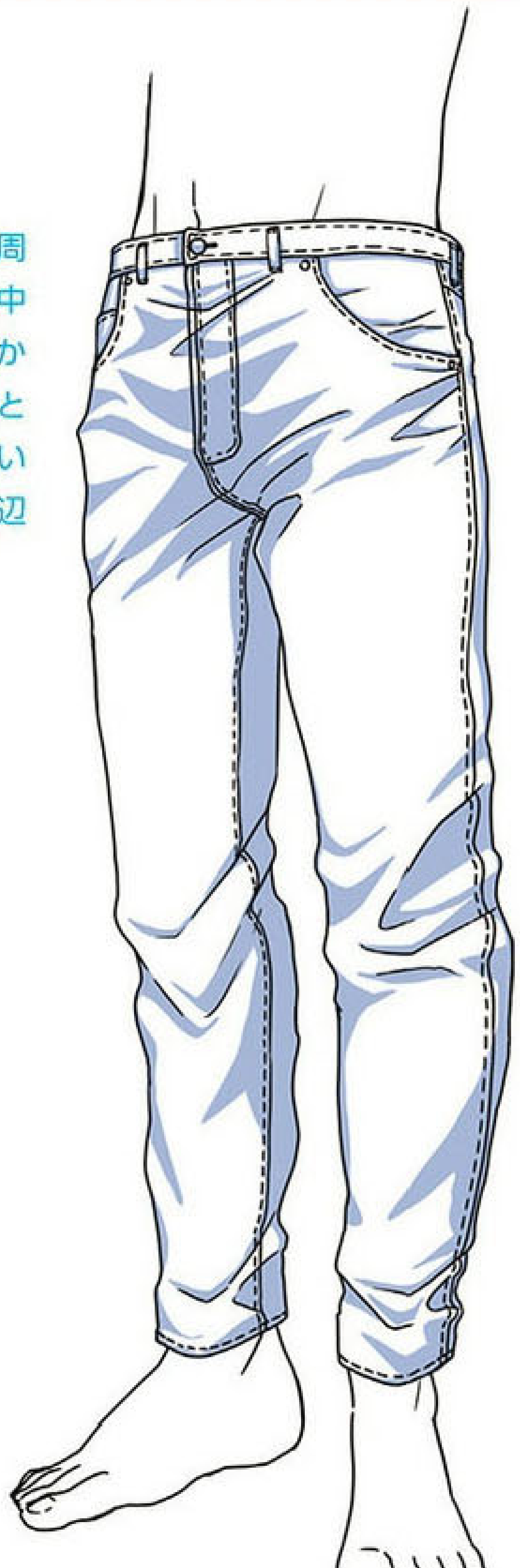
3 ステッチを描いてデニムの質感を高める



◀ウエストや前開き、前身頃と後ろ身頃の境い目など、生地を縫い合わせている位置にステッチを描いてデニムパンツの質感を高めていく

4 完成

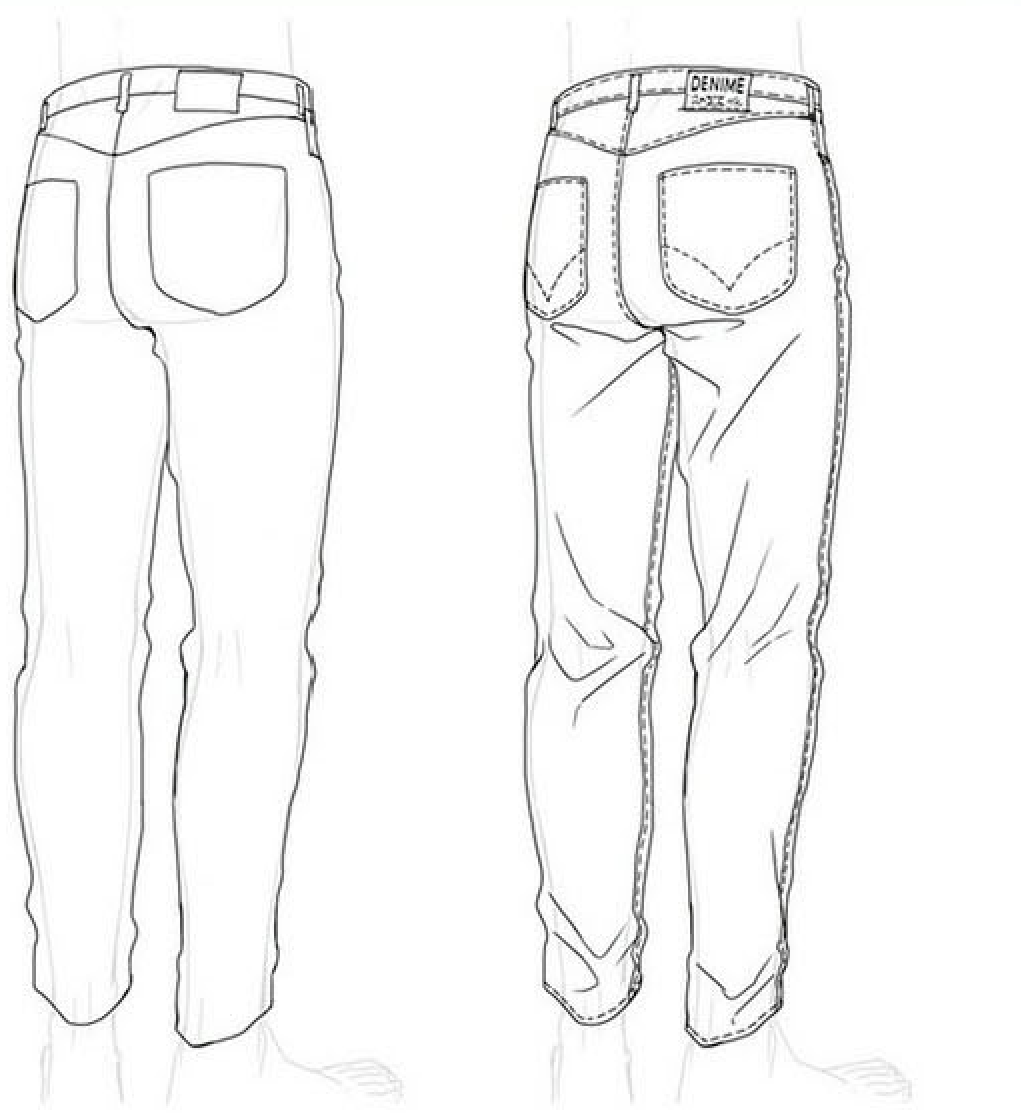
▶股の周辺、膝周り、後ろ身頃側を中心に影を描く。腰から股の範囲がもっともシワができやすいため、影もその周辺に集中する



デニムパンツの描き方(後ろ側、ベルト部分)

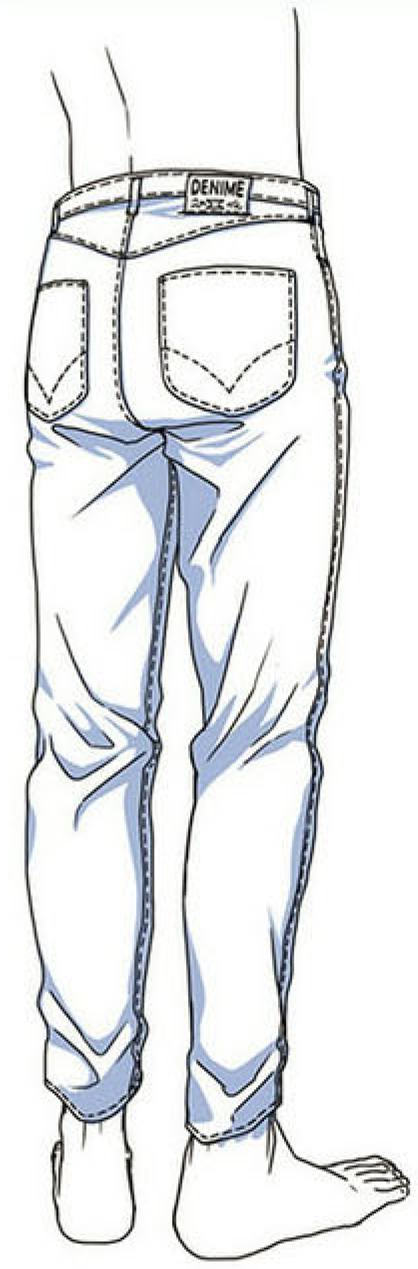
後ろ側

1 足のアタリに沿ってパンツを描く



▲前側と同じように、腰から足首にかけて凹凸のある輪郭線を描き、背面のポケットやパッチも描いておく。続けて股下、膝裏、裾のシワを描き、最後に生地の縫い目にステッチを加える

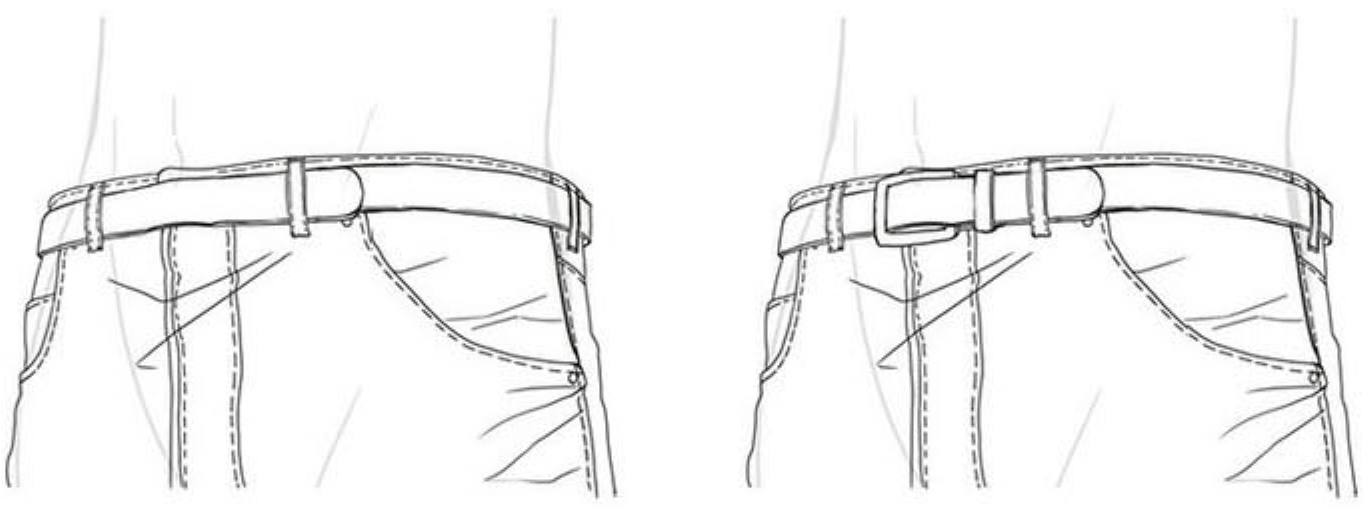
2 シワに影をつけて完成



◀股下、膝裏、裾を中心に影を描く。お尻の周りは前側ほど生地が寄っていないので影はほとんどできない

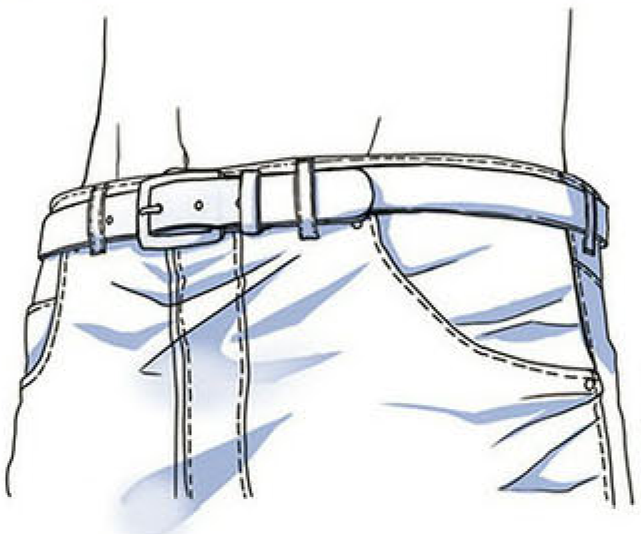
ベルト(前側)

1 ベルトループの高さに沿うように線を引く



▲ベルトループの上下に平行した線を描き、ベルトの先端を曲線で繋げる。中央の部分に、バックル(留め金)の金具を描く

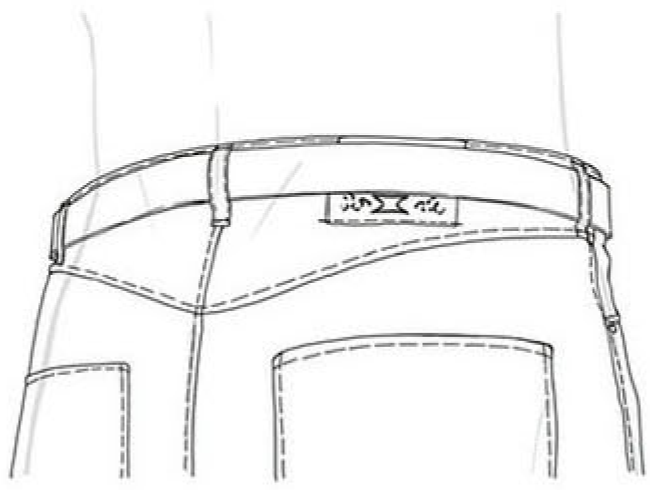
2 ベルトの穴と留め具を描いて完成



▲ベルトに穴を描き、全体に影を描いて完成。デニムジーンズのベルトは細いとあまり様にならないので、ベルトループを描く段階から幅に注意しよう

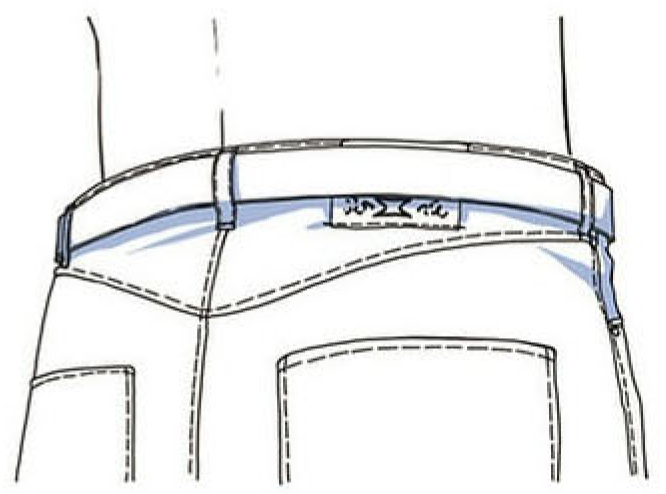
ベルト(後ろ側)

1 腰周りのカーブに注意して線を引く



◀後ろ側はバックルもないのでベルトループの幅に合わせて上下に線を描くだけでベルトが表現できる

2 ベルト周りの影を描いて完成

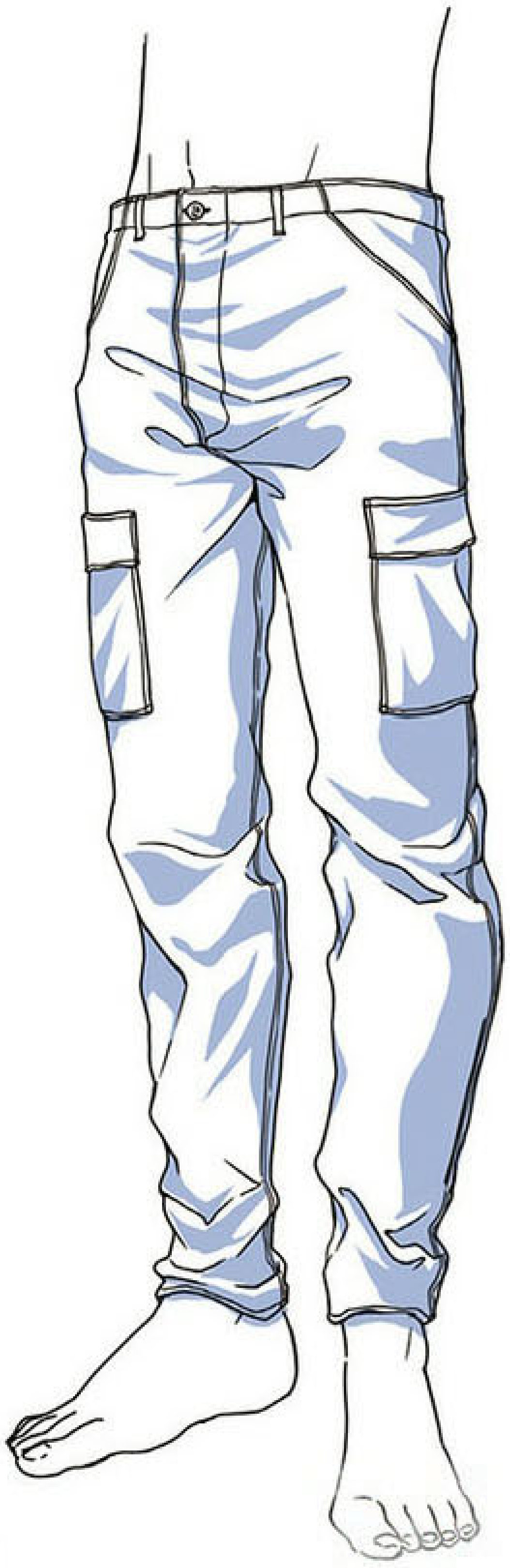


◀ベルトには厚みがあるため、ベルトの下側には影ができる。ただ下側を塗るだけでなく、適度にシワの影も描いてパンツに立体感を出そう

パンツの作例

カーゴパンツ

左右の膝上に大型のポケットが縫い付けられたパンツ。アースカラーのものが多く、裾を紐で絞れるタイプもある。ルーズさを意識してシワによる陰影を表現すると雰囲気が増す。



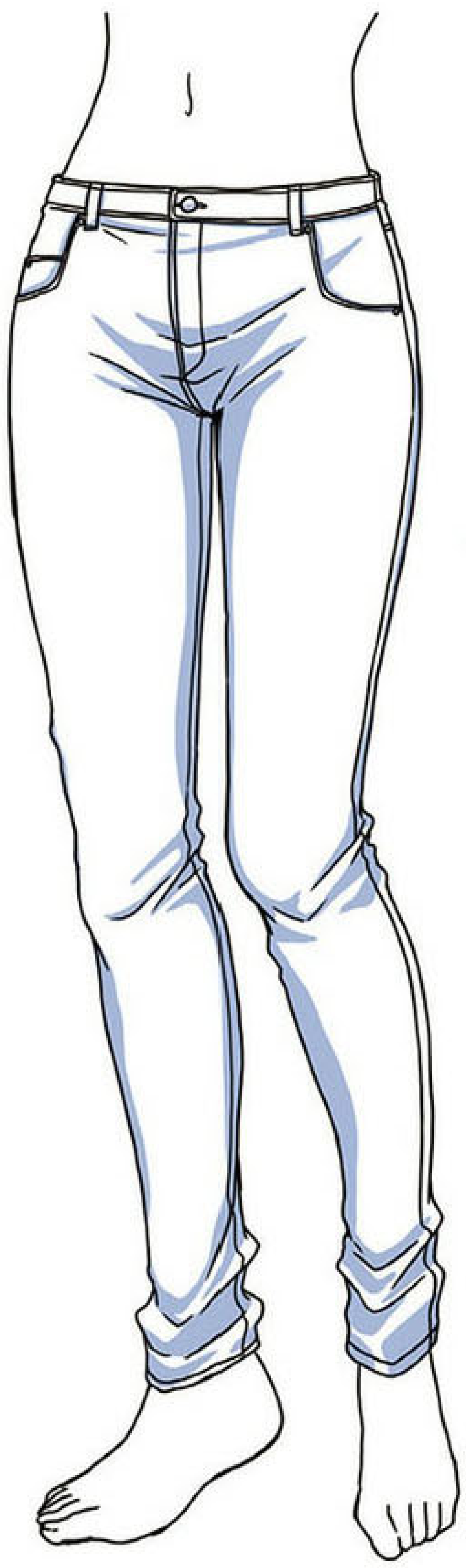
体型に対し適切な太さを選ぶことで、筋肉質な男性からスマートな女性キャラまで合わせられる

チノパンツ

丈夫な綿生地を用いて作られたパンツ。軍装に起源があるため、ベージュを中心に地味な色合いが多い。両脚の中央にセンタークリース（折り目）を入れると上品な、入れないとカジュアルな雰囲気になる。



シンプルな外見のため老若男女どんなキャラにも合う。オフィスカジュアルとしても使える



男女ともに若くてスマートなモデル体型のキャラの私服として相性がいい

スキニージーンズ

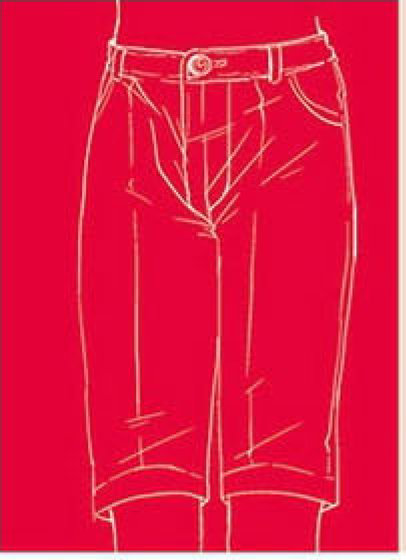
生地が肌にピッタリと吸い付くほど、極端にタイトなタイプのジーンズ。裾へ向かい徐々にすぼんでいくシルエットと、膝周りや裾にシワが生まれやすい特徴に注意して描こう。



おしゃれで可愛げな雰囲気が出るので、若い女性や甘めのルックスの男性キャラなどに合う

サルエルパンツ

股下が極端に深く、太もも周りにゆとりがある構造のパンツ。股周りの生地に縦方向の柔らかい動きが生まれるので、縦方向のシワを描いて柔らかさを表現しよう。



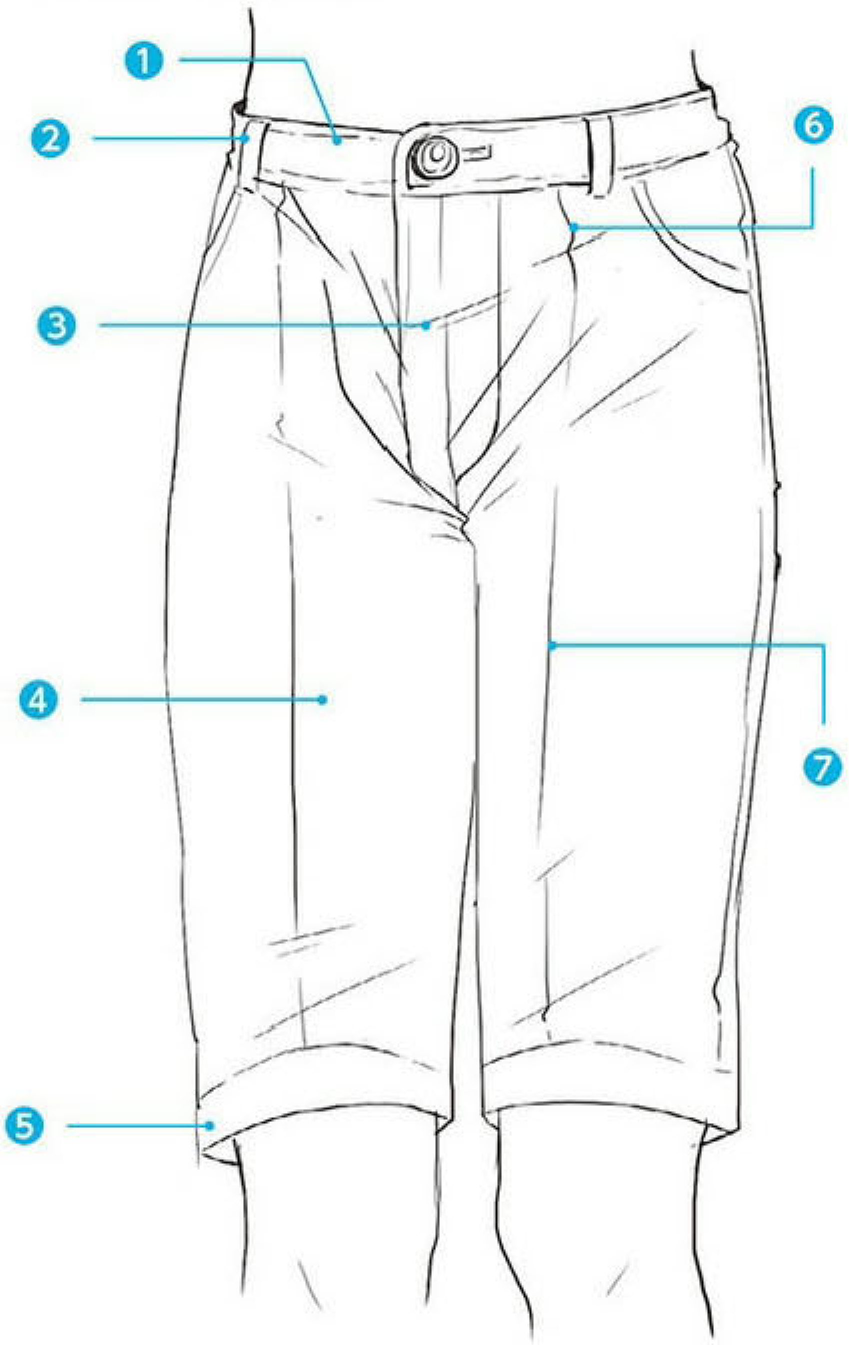
HALF・SHORT PANTS

ハーフ・ショートパンツ

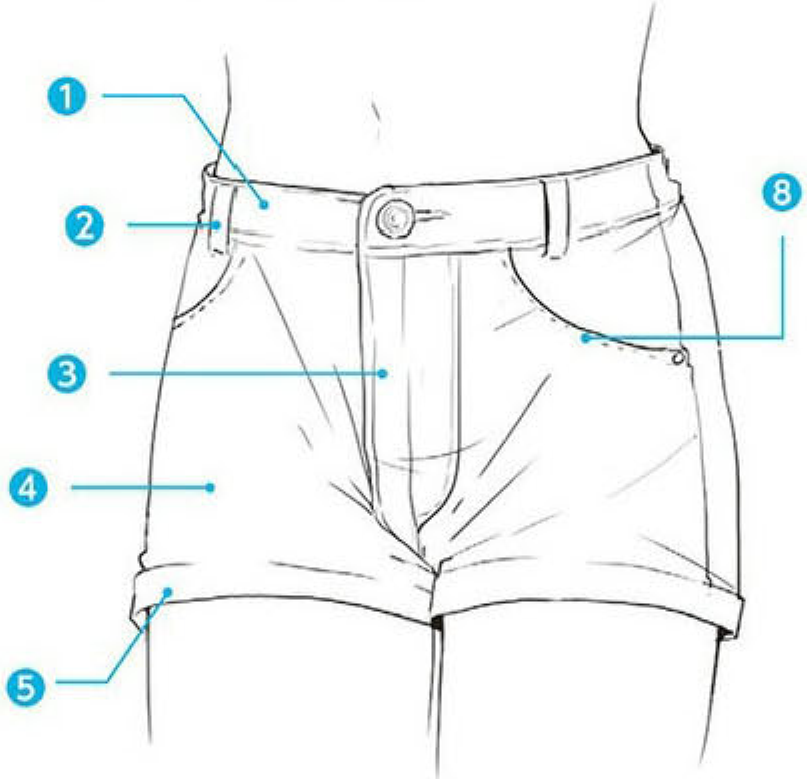
丈が5分前後のパンツをハーフパンツ、3分丈以下のものをショートパンツと呼びます。前者は主に男性、後者は主に女性が着用します。

ハーフ・ショートパンツの構造

ハーフパンツ



ショートパンツ

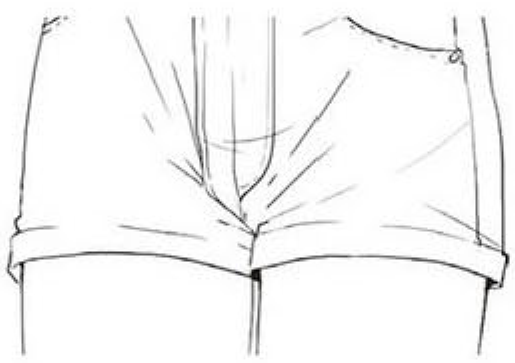


1. ウエスト
2. ベルトループ
3. フライ
4. 前身頃
5. 折り返し
6. タック
7. センタープレス（折り目）
8. ステッチ

POINT

股周りにできるシワ

パンツの脚は開脚気味に作られているため、人が履いてまっすぐ立つと両脚の生地が中央に寄り余った生地によって股上にシワができます。シワのでき方は素材の影響が大きく、デニム生地は特にシワができやすい傾向にあります。



ハーフ＆ショートパンツの種類

キュロット

裾がゆったりと広がりスカートのように見えるタイプ。リボンなどの装飾やプリーツが入ったものも多い。



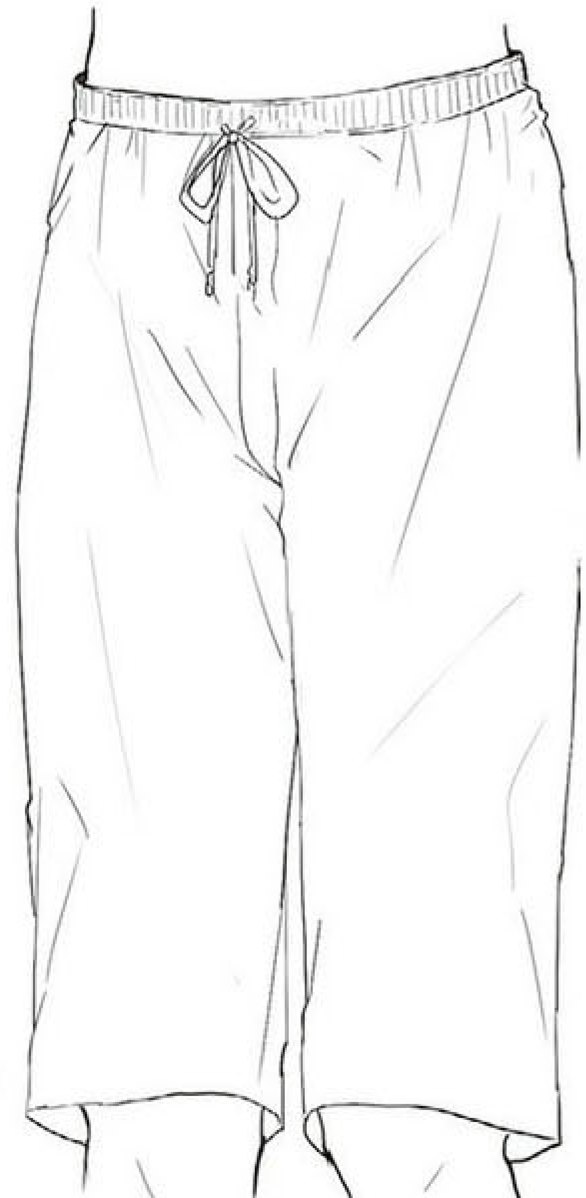
ホットパンツ

裾がほぼ存在せず、脚全体が大胆に露出する。主に女性用で、活発さやセクシーさの表現に適している。



ステテコ

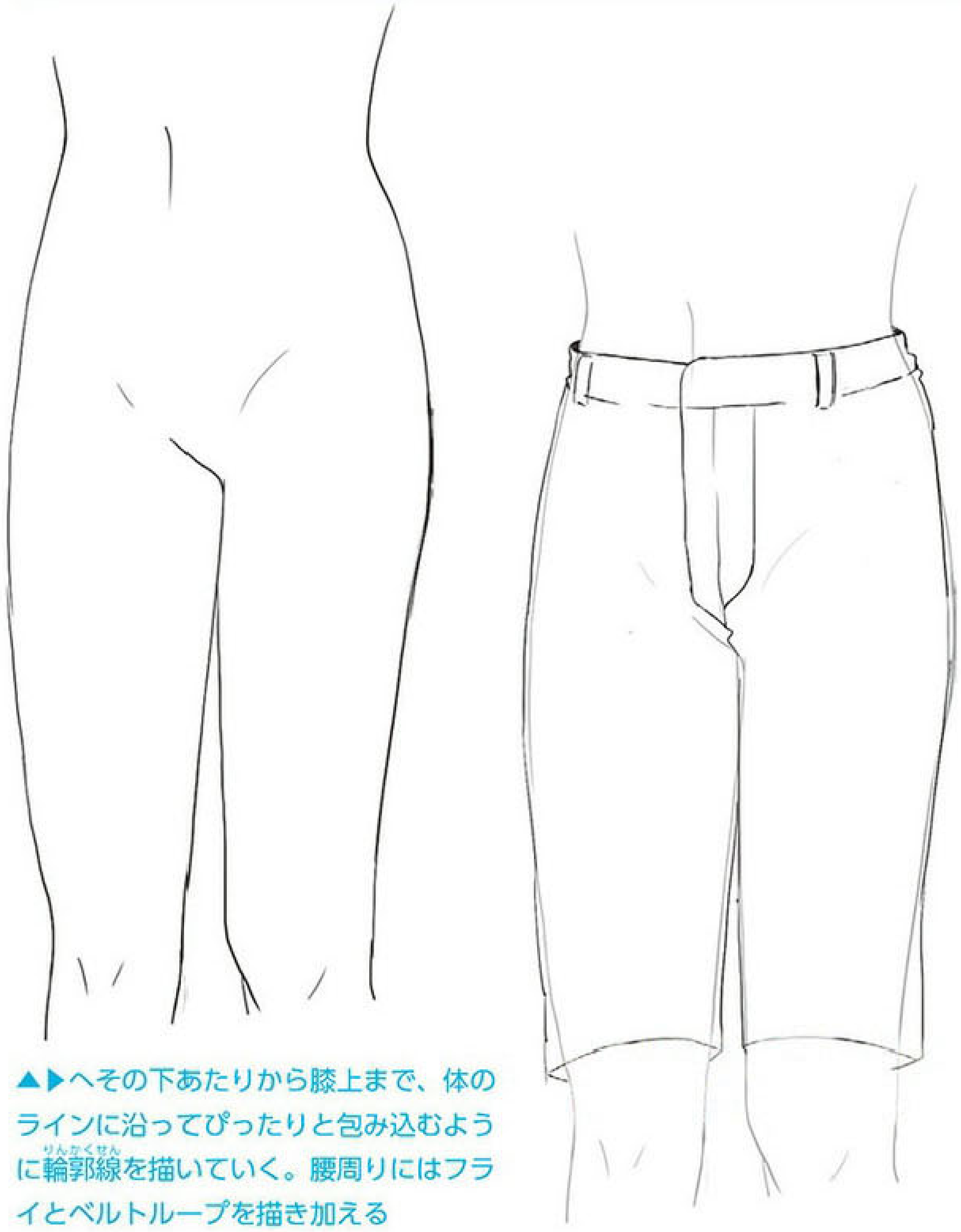
薄手で肌に密着せず、清涼感があるハーフパンツ。膝上丈や膝下丈など、長さにいくつか種類がある。



ハーフ・ショートパンツの描き方(前側)

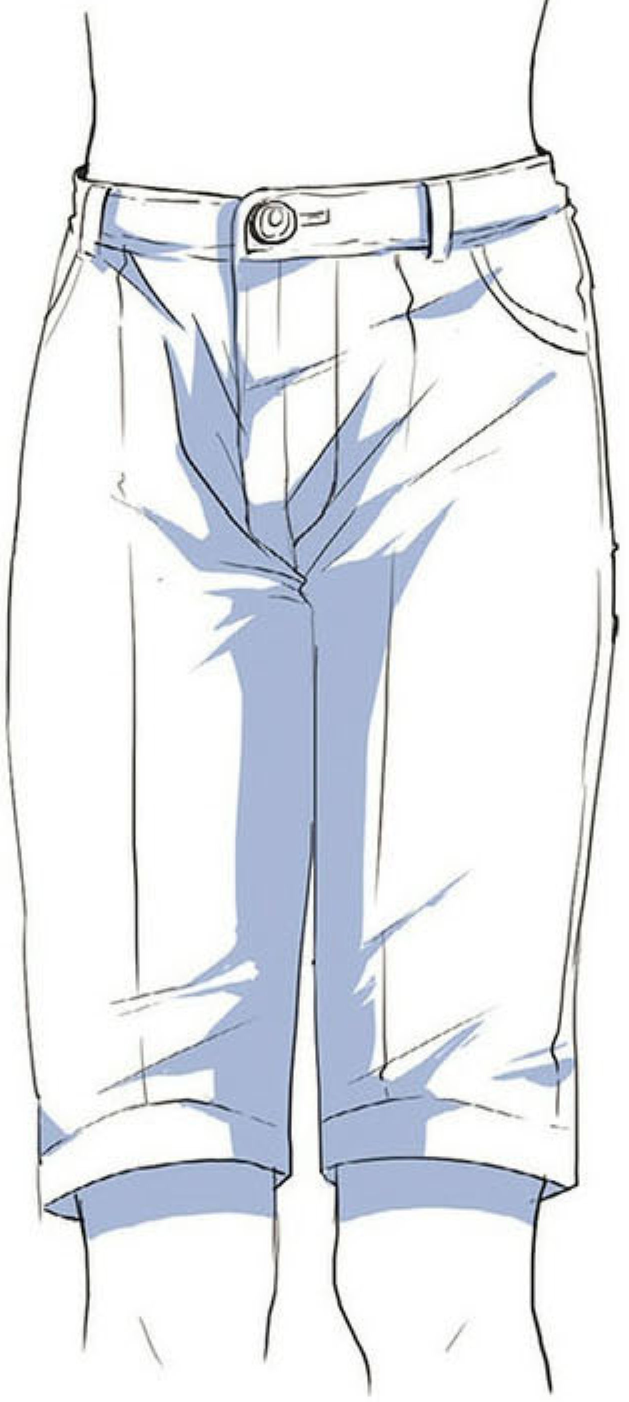
ハーフパンツ

1 腰から膝上までを包むように線を描く



▲▶へその下あたりから膝上まで、体のラインに沿ってぴったりと包み込むように輪郭線(りんかくせん)を描いていく。腰周りにはフライとベルトループを描き加える

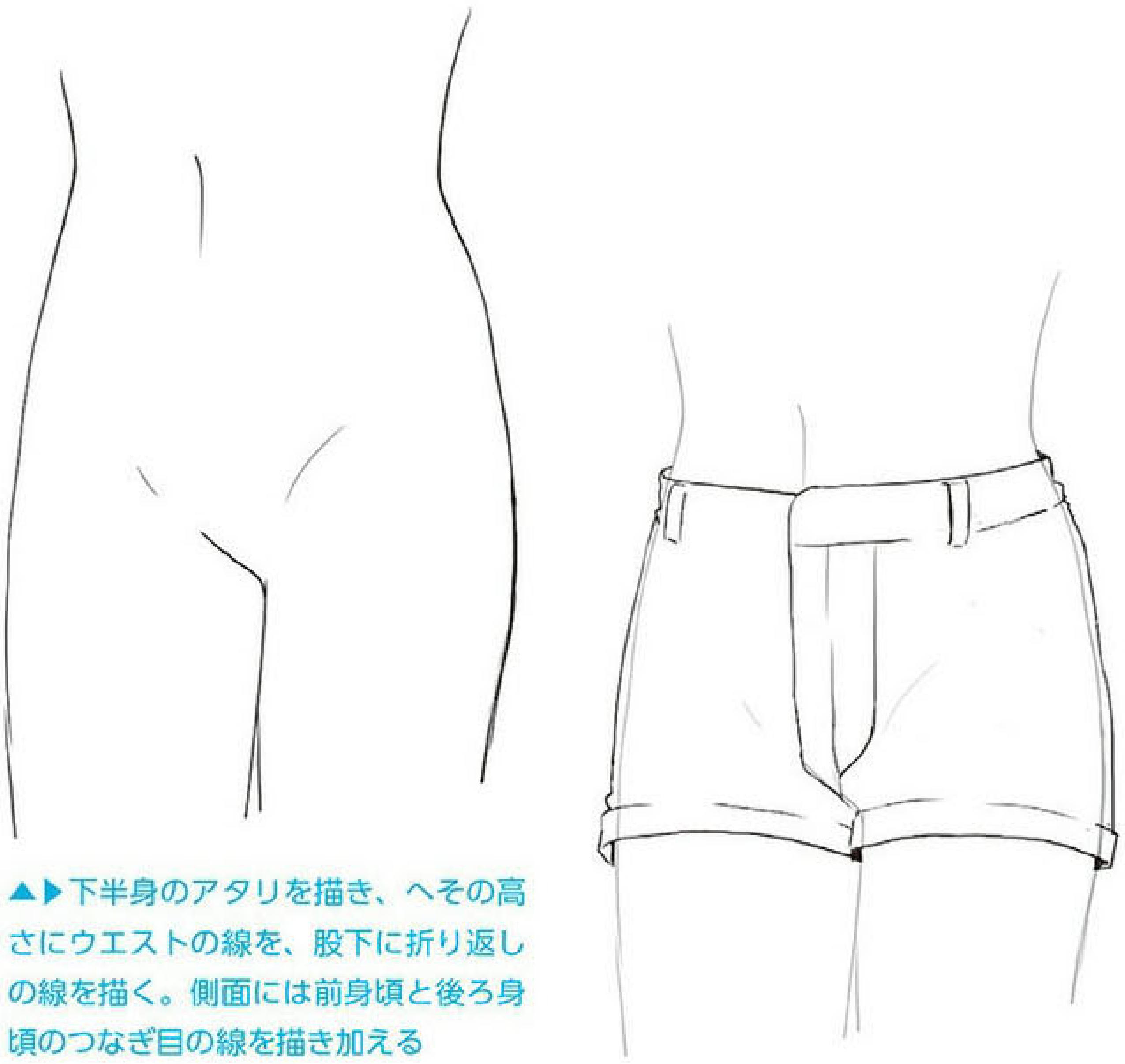
2 シワとタックを描き込んで完成



▲パンツのポケット、ボタン、タックを描き、シワを股上(またがみ)や裾に描き込む。影をももの内側や裾の下の足などに入れて完成

ショートパンツ

1 腰から太ももまでを包むように線を描く



▲▶下半身のアタリを描き、へその高さにウエストの線を、股下に折り返しの線を描く。側面には前身頃と後ろ身頃のつなぎ目の線を描き加える

2 ステッチとシワを描き込んで完成



▲太ももの丸みを意識しながら、股の周りにシワを描く。ボタンやポケットなど細部を描き込み、最後にステッチを描き込んで完成。影は股下や折り返しの下に描く

ハーフ・ショートパンツの作例

キュロット

輪郭の描き方はスカートとほとんど変わらない。裾が二股（ふたまた）に分かれているので、脚の付け根周辺に生地が重なっている様子やシワを描き込んでパンツの質感を表現しよう。



女の子らしい可愛さやアクティブな印象が出せるため、天真爛漫（てんしんらんまん）なキャラや幼い少女に似合う

ホットパンツ

ウエストはショートパンツと同じくへその高さ。折り返しは足の付け根の位置に描く。デニム生地なので、股の周りにはシワや影を多めに描き込むようにする。



ギャル系や活発なキャラと特に相性が良く、タイツと組み合わせれば他の女性キャラにも幅広く使える

ステテコ

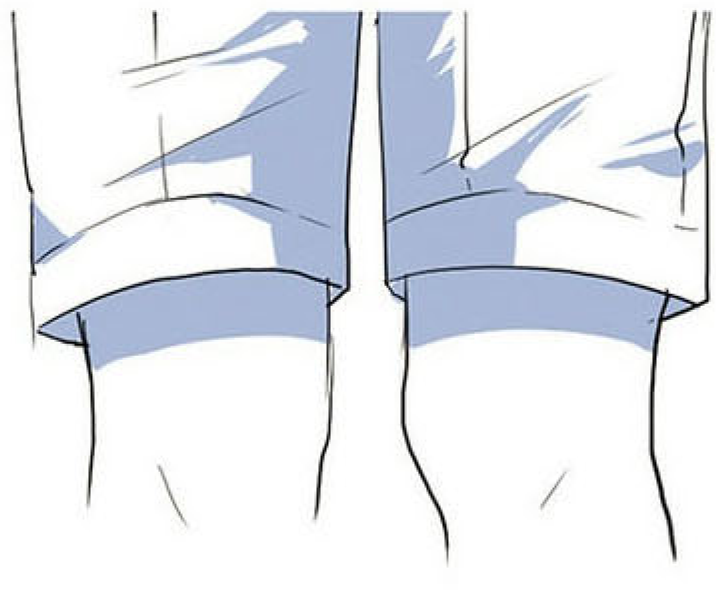
腰のゴムバンドはリブ編（あ）みのような縦方向のシワを描く。生地がゆったりとしているので、股の周りにはあまりシワを描かず、ウエストから裾に向かって大きな縦方向のシワを何本か描くようにしよう。



軽やかで柔らかい雰囲気になるので、おじさんキャラだけでなく爽（さわ）やかな男性キャラにもよく似合う

POINT

ハーフパンツの丈の注意点



男性キャラの場合、あまり膝より上の肌が露出すると子供っぽく見えてしまいます。女性キャラは膝丈でも大丈夫ですが、男性キャラは膝にかかるくらいの丈の方が男らしさと爽やかさを両立できます。

Part 4

オールインワン

ワンピース
パーティドレス
つなぎ
オールインワン
サロペット
着物
浴衣



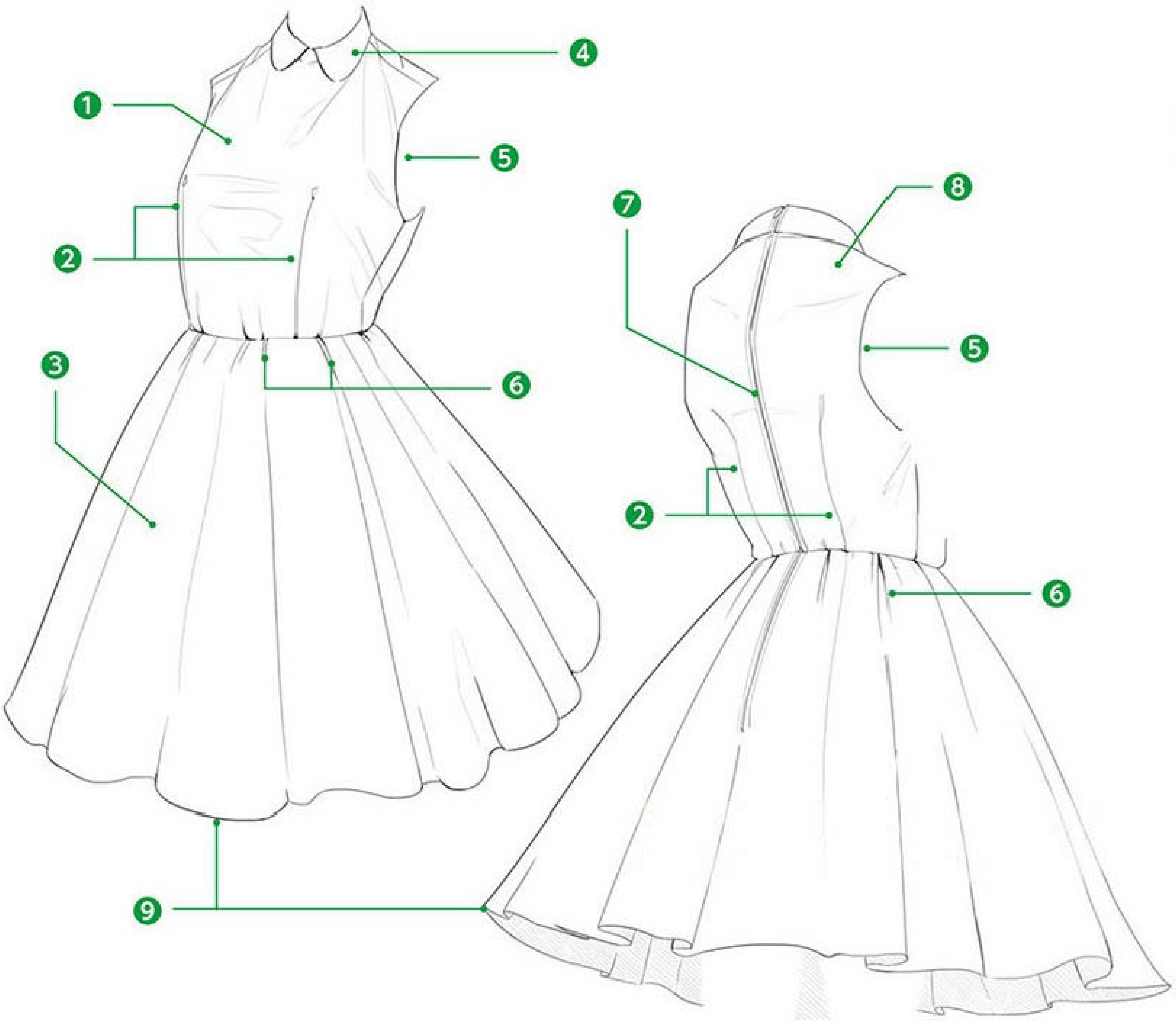


ONE PIECE DRESS

ワンピース

トップスとスカートが一体化した女性向けの衣服です。スカートの形状、襟元の形、袖の有無などによってさまざまなバリエーションがあります。

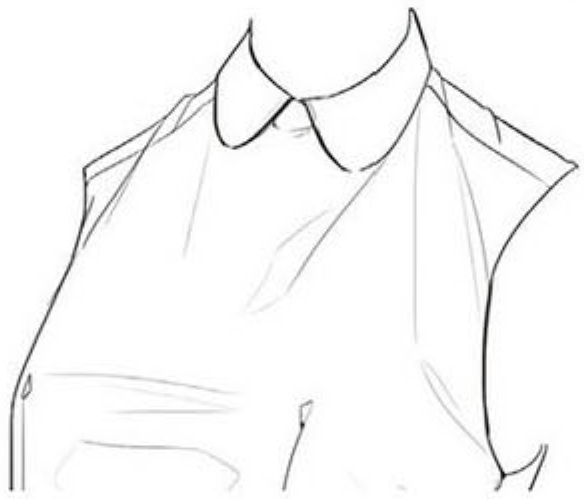
ワンピースの構造



❶前身頃
❷ダーツ
❸スカート
❹襟元
❺肩口
❻タック
❼ファスナー
❽後ろ身頃
❾裾

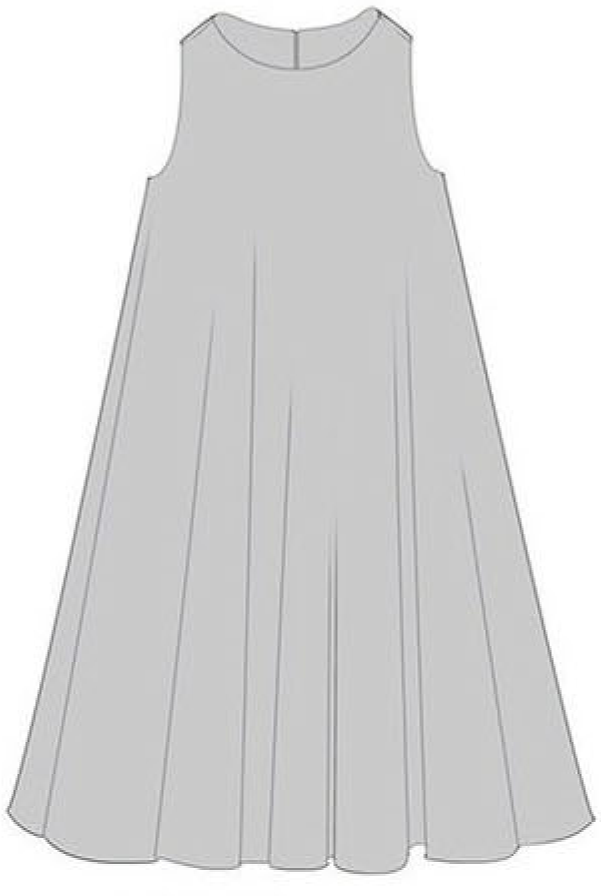
POINT

襟付きワンピースの印象



ワンピースの首元はさまざまな形の種類があります。中でも襟付きは、女性的で可愛らしい印象を与えます。

ワンピースの種類

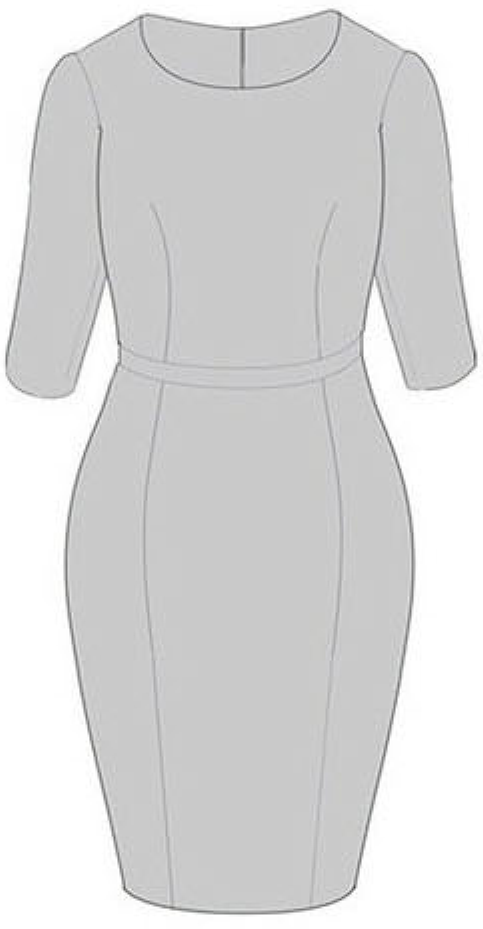


Aライン

肩周りが細く、スカートの裾に向かうほど広くなってシルエットがAの形に見えるワンピース。

ペンシル

スカートが太ももから膝にかけて絞られてタイトな形状になっているワンピース。



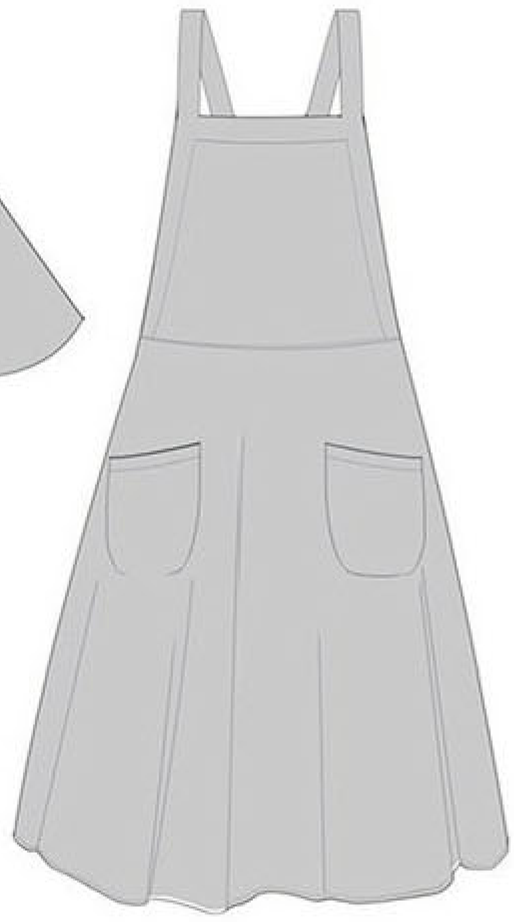


フレア

ウエストに絞りがあり、スカート部分が裾に向かうほど広がっている形状のワンピース。

エプロンワンピース

トップス部分がエプロンのような形状をしているワンピース。腰から下はゆったりとしている。



フレアワンピースの描き方（前側）

1 ワンピースと体のアタリを描く



◀顔や体のアタリを描き、中心線を引く。その後、体の中央を意識しながらワンピースのアタリをおおまかに描いておく

2 体のラインに沿ってワンピースのラフを描く



◀バストトップの下にダーツを描いて立体感を出す。トップスとスカートをつなぐ位置はウェストより少し上の位置に描く

3 トップスの線画を描く

▶前身頃と後ろ身頃の縫い目を描くと服の立体感が出る



4 スカートの線画を描く



◀裾をフリル状に描く。フリルの幅を広くすると柔らかく広がる印象になる

5 トップスとスカートの縫い合わせやスカートを描き込む

▶スカートの上側にタックを描き、タックから下側の裾まで線を引く



6 完成



◀体のアタリを消して足の出る位置に違和感がないか確認する

フレアワンピースの描き方(後ろ側)

1 ワンピースと体のアタリを描く

▶体のアタリを描き、中心線を引く。背中やお尻の中央位置を参考にワンピースのアタリを描く



2 体のラインに沿ってワンピースのラフを描く

◀スカートの後ろ側の布はお尻のふくらみによって前より短くなる



3 トップスの線画を描く

◀背中の中心線に沿ってファスナーの線を描く。背中の左右にダーツを描き、スカートとのつなぎ目に向かって線を引く



4 スカートの線画を描く

◀お尻の中心線を参考にスカートの中間までファスナーを描く



5 トップスとスカートの縫い合わせを描き込む

◀トップスとスカートのつなぎ目にシワを描き、スカートのタックを描き込む



6 完成

◀ウエストの絞り位置や足の長さが不自然でないか、体のアタリを消して確認する



ワンピースの作例

Aライン

トップスとスカートのつなぎ目がないタイプが多い。ウエストは腰より高い位置にきて絞りがないため、大きな影はあまりできない。

ウエストに絞りがないタイプは幼さが増す。幼い少女や可愛い系の女の子に合う



ペンシル

ウエストが細く絞られているのが特徴。ノースリーブから長袖まで袖の長さはさまざま。体のラインに沿って描こう。

下半身のラインが出るのでスタイルのいいキャラや大人の女性に向いている



マキシ丈

胸の高さから裾にかけてスカートのひだの線ができるのが特徴。ウエストに絞りがあるため胸の下に影ができる。

ゆったりとした印象で、落ち着いたキャラから大人まで幅広く使える



レース

花柄などのレース模様でできたワンピース。同じ柄が連続するように規則的に並べるとレース柄らしく見える。

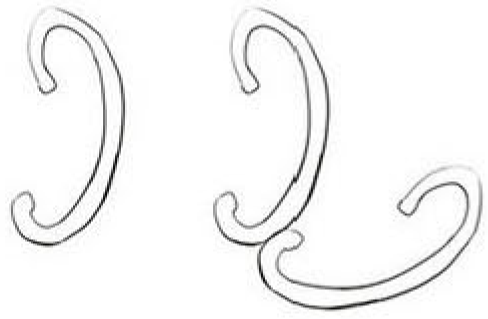
女性らしさや綺麗さが際立つので、上品なキャラや華やかなキャラに向いている

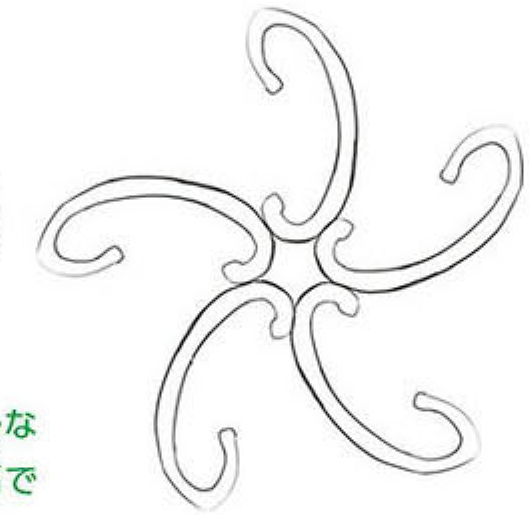


レース柄の描き方

花柄のレース柄

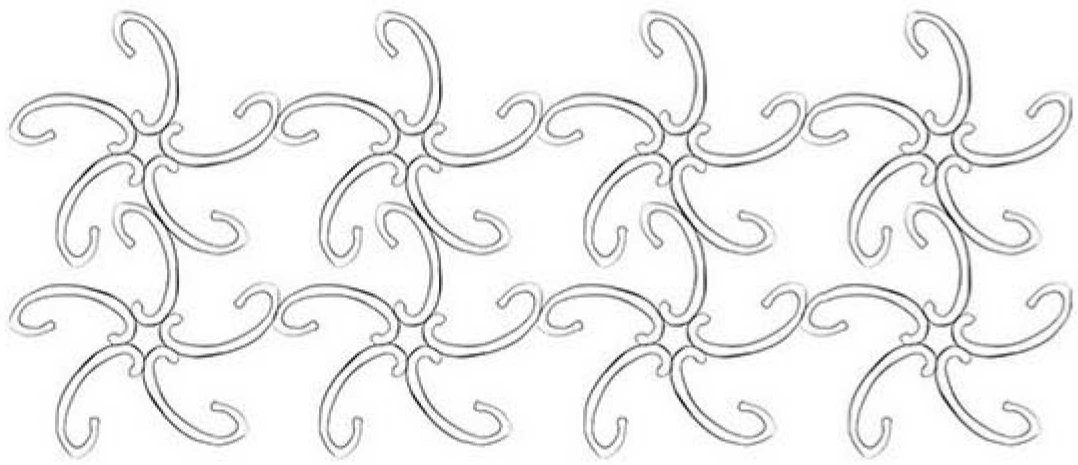
1 幾何学的な模様を作る





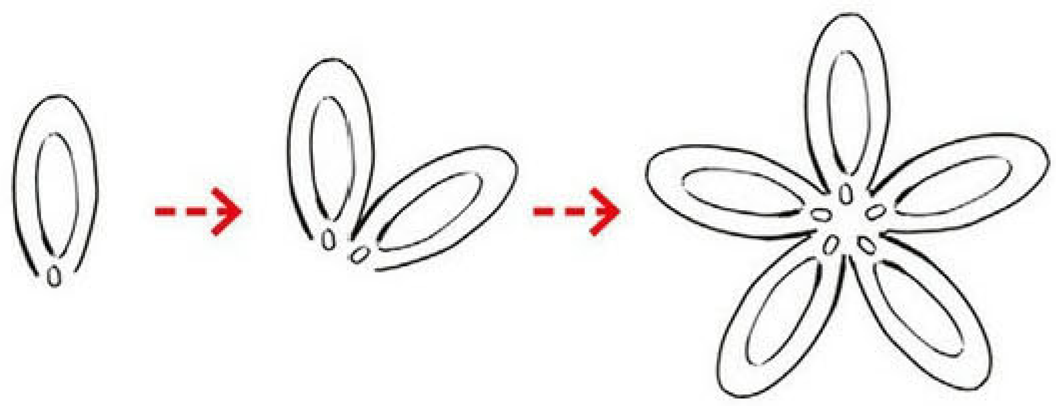
▲曲線を主体にしたシンプルな模様を描き、円周状に等間隔でコピーして花型の模様を作る

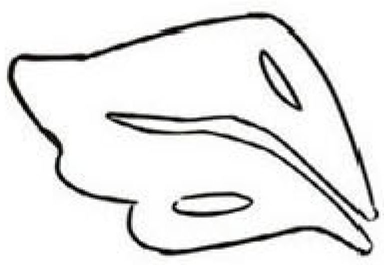
2 等間隔で並べる



▲作った模様を均等に並べて、幾何学的な模様を作る

3 花柄を作る





◀▲楕円を組み合わせて、❶と同じような花柄を作る。ほかにも形の違う花びらを作る

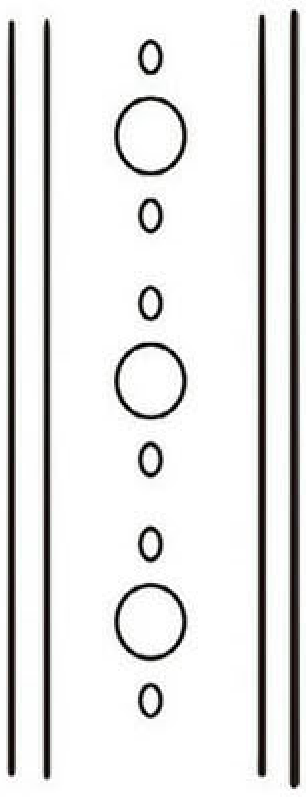
4 幾何学的な模様に花柄を散りばめる

▶❷で作った幾何学模様に❸の花柄をランダムに置いていくとレース素材ができあがる



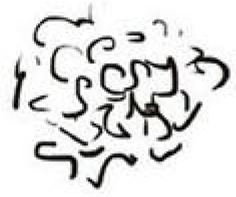
手描きのレース柄

1 図形パターンを作る



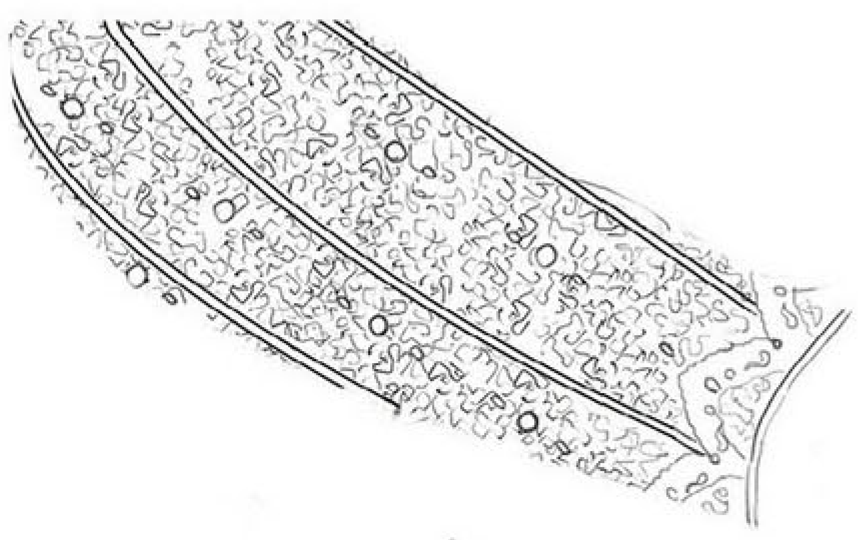
▲直線と円を組み合わせて、柄のベースになる図形パターンを作る

2 手描きで線が密集した模様を作る

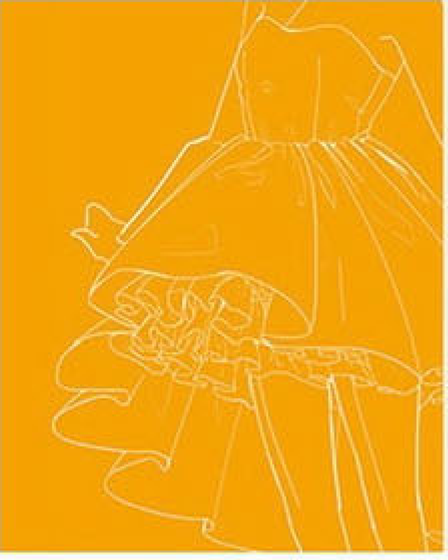


▲フリーハンドで丸い線をいくつも描き、線が密集した模様を作る

3 図形パターンに模様を散りばめる



▲一定間隔のパターンで続く❶のような図形に❷のような煩雑な模様を組み合わせるとレース柄のような見た目になる

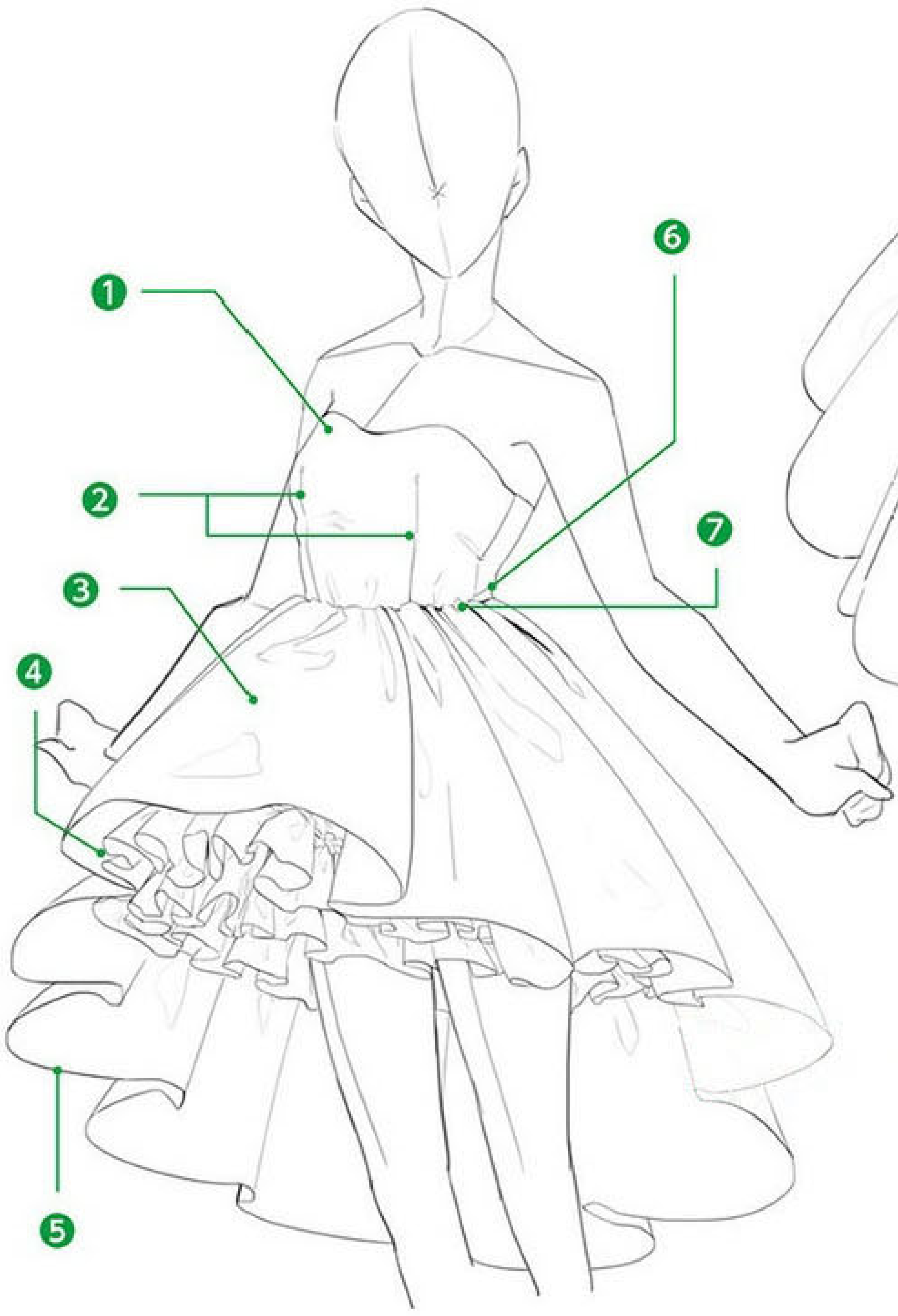


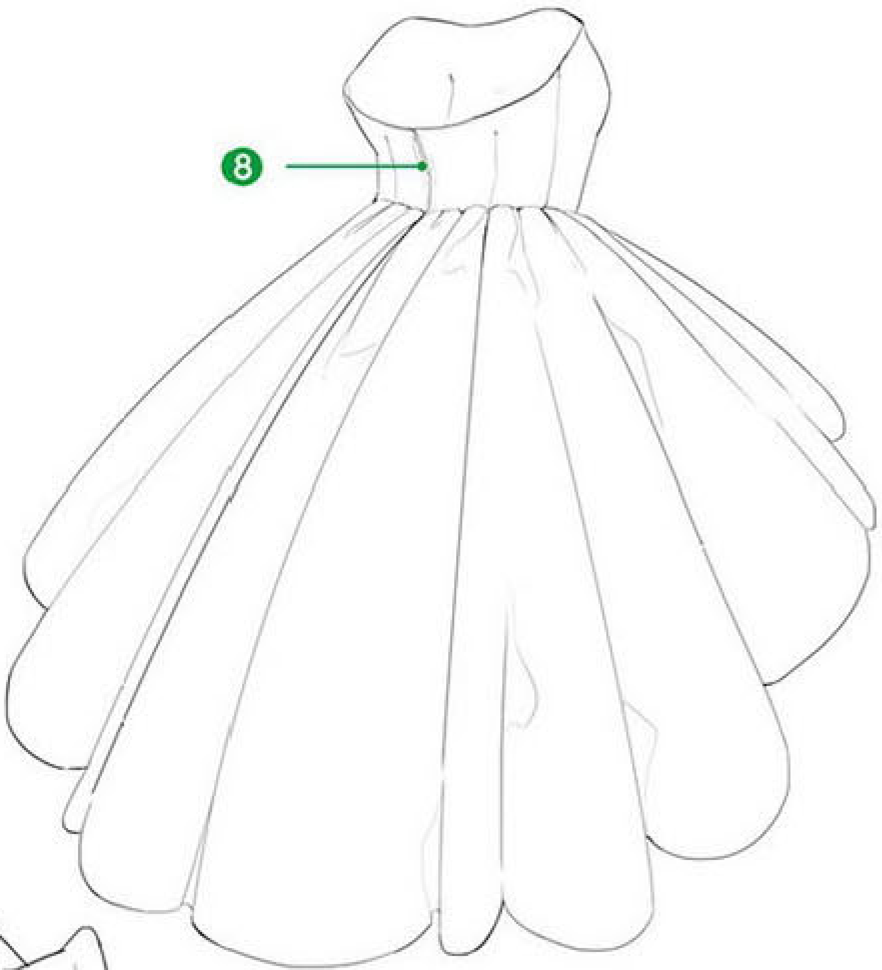
PARTY DRESS

パーティドレス

食事会や晩餐会などで着用する女性向けの衣装です。腕や胸元、背中が露出するデザインが多く、肩を隠すボレロなどとセットで着ることもあります。

パーティドレスの構造





❶前身頃
❷ダーツ
❸スカート
❹パニエ
❺裾
❻タック
❼切り返し
❽後ろ身頃

ミニドレス

スカートの裾が膝上にくる丈の短いドレス。カジュアルな印象が強く、上下ともに露出度が高い若い女性向けのデザイン。

POINT

ドレスのパニエ

パニエはドレスのスカートを膨らませて美しく見せるために着用する下着の一種です。スカートが短いドレスなどでは、中が見えることを想定して裾の周りにフリルやレースを飾り付けたパニエを着ることがあります。



パーティドレスの種類

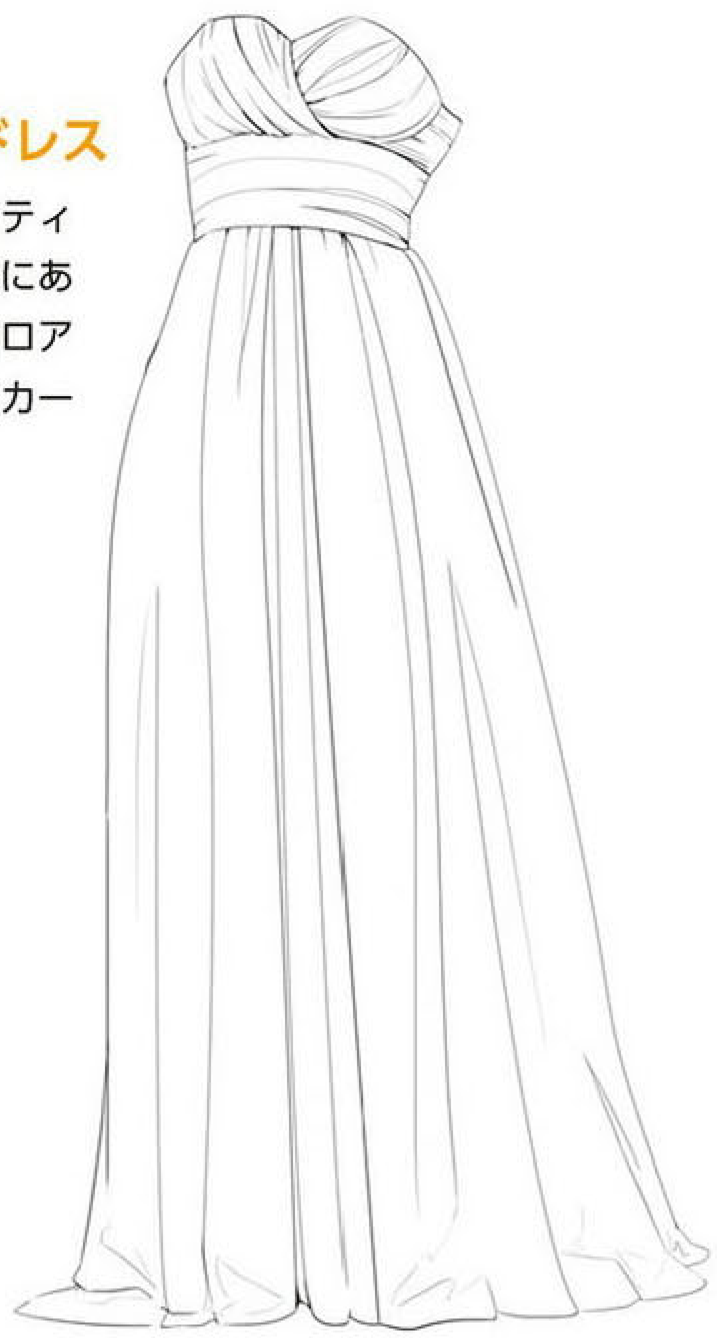
パーティドレス+ボレロ

ボレロは丈が短い女性向けのトップス。昼の結婚式や、神社、教会など肌の露出がNGとされる式場で、肩を隠すためにドレスの上から羽織る。



イブニングドレス

夜に開催されるパーティ向けの衣装で、礼服にあたる。床まで届くフロア丈と呼ばれる長いスカートが特徴。



ミニドレスの描き方（前側）

1 体とドレスのアタリを描く

▶おおまかな体のアタリを描き、胸と腰の位置を参考にしてミニドレスのラフを描いていく。スカートを膨らませるパニエのフリルもスカートの中に描こう



2 トップスとスカートの輪郭を下書きする

▶体の線にぴったりと合うようにトップス部分を下描きする。ハイウエストのスカートの開始点は、人物の肘の位置が目安になる



3 ドレスの輪郭線を描く

▶ドレスを清書して形を整える。あとでパニエのフリルが加わってもスカートの存在感が薄くならないように、スカートの裾の線もはっきりと描いておく



4 フリルや切り替えし部分を描き込む



▲パニエのフリル部分や、トップスとスカートの切り返しを描き込む。スカート側のタックの線を濃くすると、スカートによりボリューム感を持たせることができる

5 完成

▶トップスの下側やスカートの中に影を描いて完成。フリルの部分はスカートの下なので全体的に暗くなるが、スカートに近い部分の先端にハイライトを入れると奥行きが出る



後ろ側の作例

▶背中の一帯や、スカートのひだに沿って影を描く。スカートが膨らんで裾が重なり合っている様子を線と影で表現して立体感を出そう

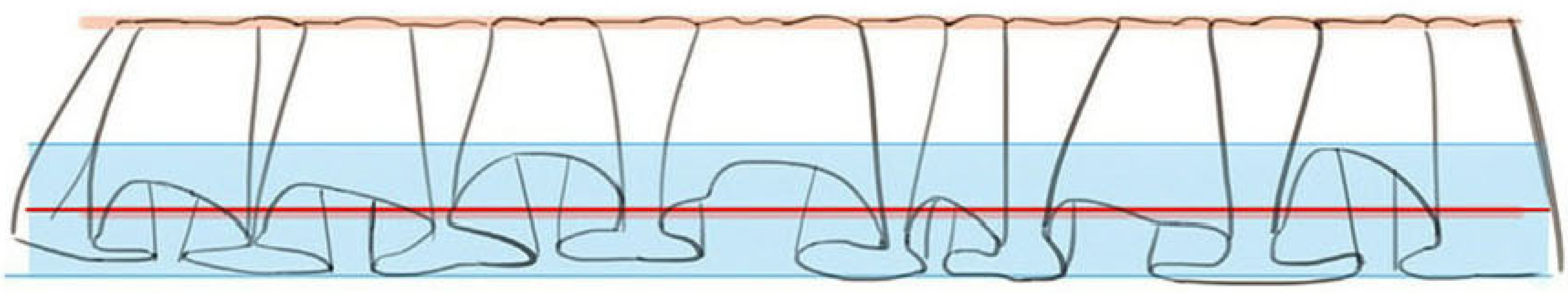


フリル柄の描き方

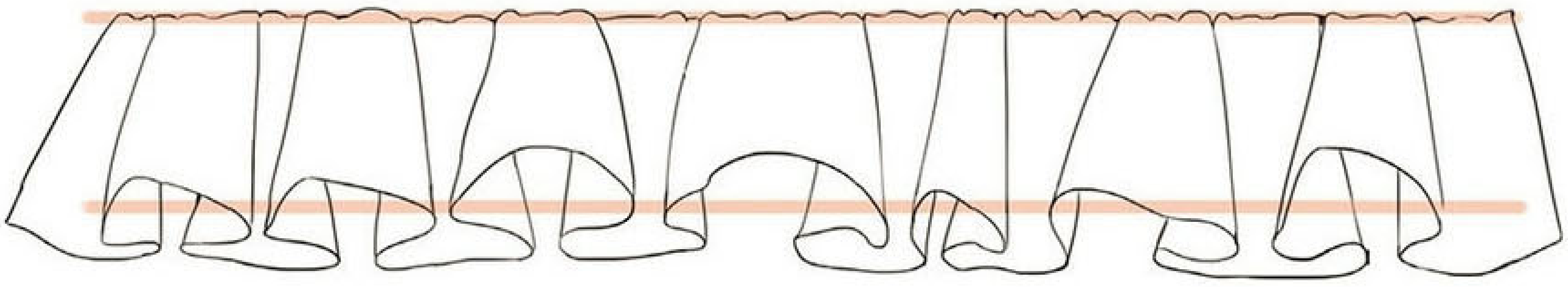
フリルを描く手順



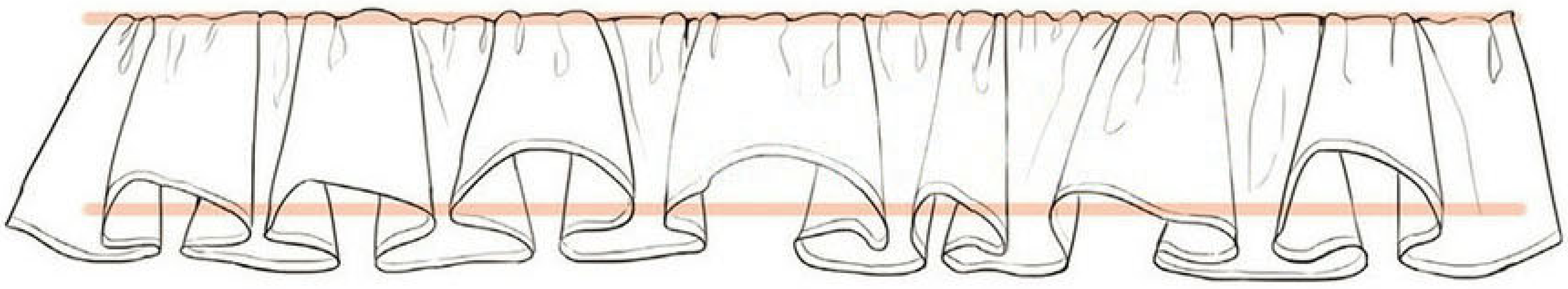
◀まずはフリルの幅を決めるために、二本の並行なアタリ線を描く。完成したフリルはこの線よりも少し大きい幅になる



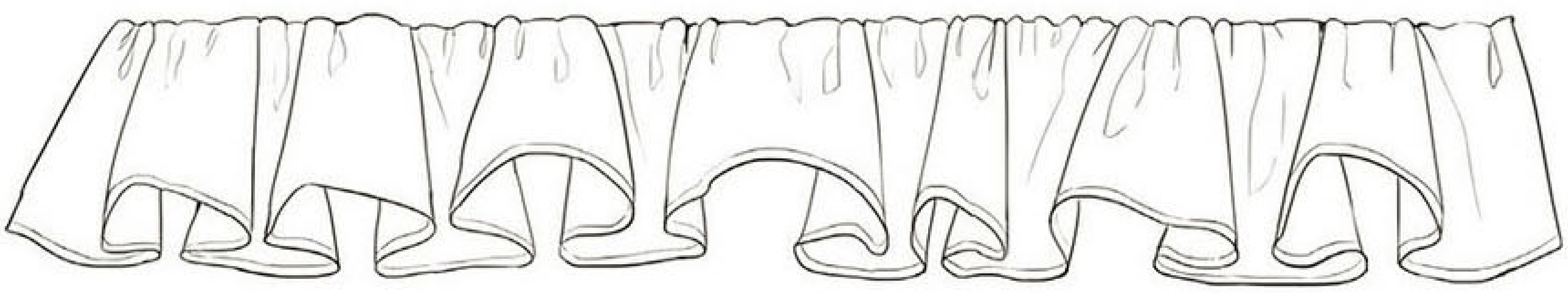
◀Ωの形を思い浮かべながら、下側の赤い線がΩの中心になるようにフリルのラフを描いていく。フリルはいくらか変形させてもいいが、図の青い範囲あたりからはみ出ないように注意しよう



◀ラフを線画に整えていく。レースの付け根部分の凹凸を描き込み、ひだの縁の形をはっきりさせてメリハリをつける

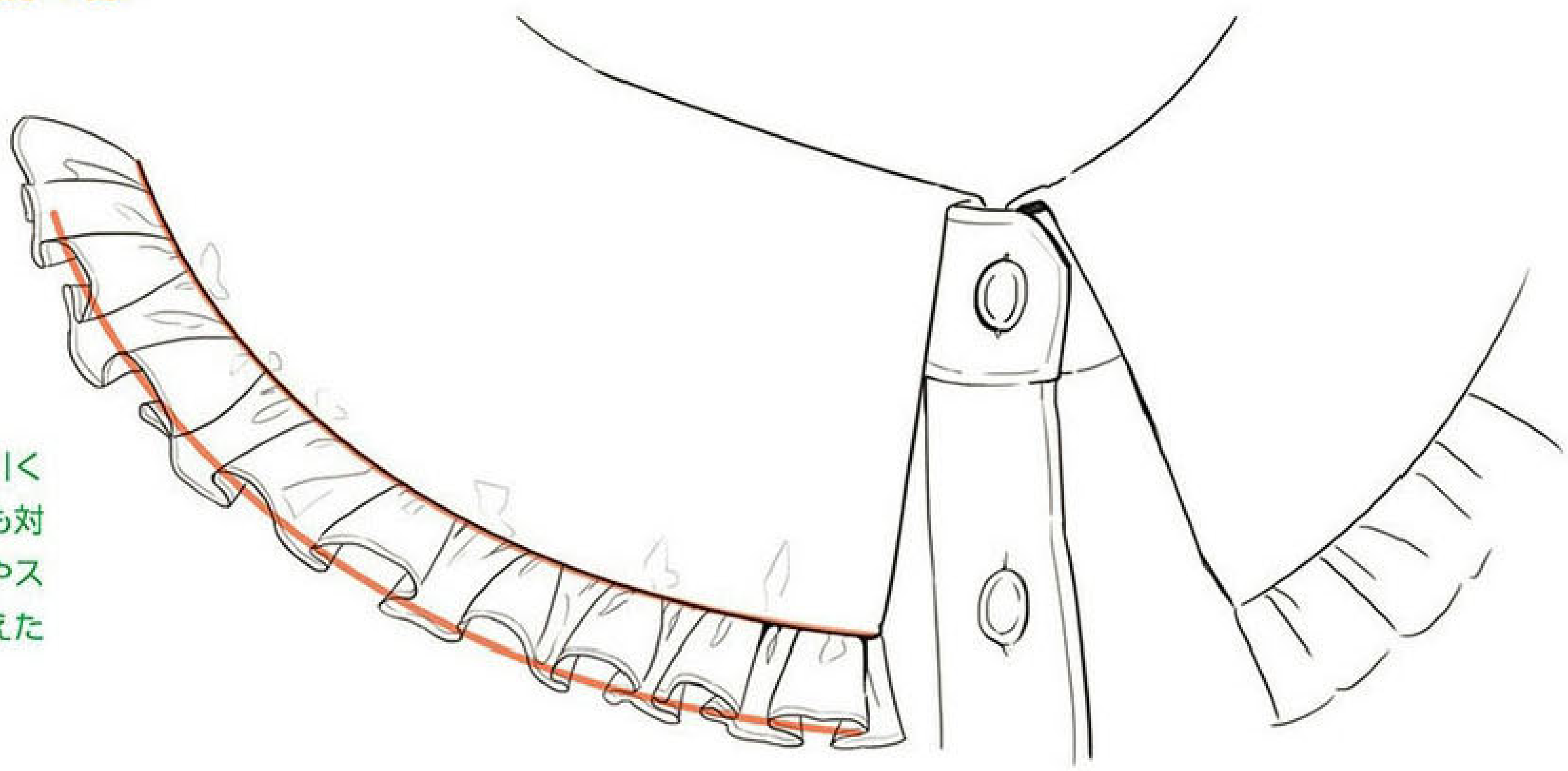


◀フリルのシワを描いていく。レースの付け根部分を始点に、涙のような形をしたシワを描き込んでいこう



◀下描き線を消して完成。シワの描き込みだけでなく、縁の線を二重にするなど細部の描き込みを増やしていくと、フリルの奥行きや柔らかさを表現できる

曲がったフリル柄の襟



▶下描き用に2本の線を引くフリルの描き方は曲線にも対応することができる。襟やスカートなど、フリルを加えたい箇所で試してみよう

パーティドレスの作例

ティアードドレス＋テーラードボレロ

裾が段状で可愛らしいドレスとフォーマルなジャケット型ボレロの組み合わせ。裾の生地は３段以上を目安に重ねて描こう。ボレロは長い袖と広い襟が特徴。

可愛さとフォーマルさが両立するので、結婚式に参加する女性の服装としても使える



フレアドレス＋バタフライボレロ

裾が広く女性らしいフレアドレスと蝶の羽のようにひらひらしたバタフライボレロの組み合わせ。バタフライボレロは透ける素材がよく使われるので、肩や腕をうっすら描いて透け感を出そう。

上品な印象を与えてくれるので、若い大人の女性など成人した女性キャラに似合う



フレアドレス＋ファーショール

ショールは肩掛けの一種。袖を通すボレロと違い、肩を包み込むように着る。ファー部分はあまり毛を立てず、丸みのある線でもこもこした質感を出したほうが可愛らしく見える。

幼い顔立ちの女性に合う組み合わせ。ファーショール単体ならギャル系の女性の羽織としても合う

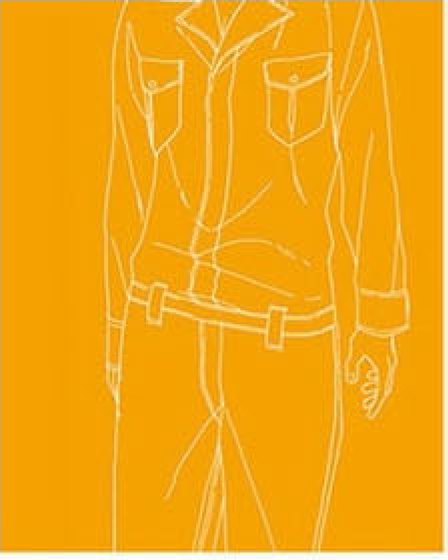


タイトドレス＋レースショール

ボディラインが出るタイトドレスと肌が透けるレースの組み合わせ。上品だが体のラインがはっきり出るので、先に体をしっかり描いてデッサンのくずれがないように注意しよう。

セクシーでありながら上品さも兼ね備えた組み合わせで、大人びたキャラの魅力を存分に引き出せる



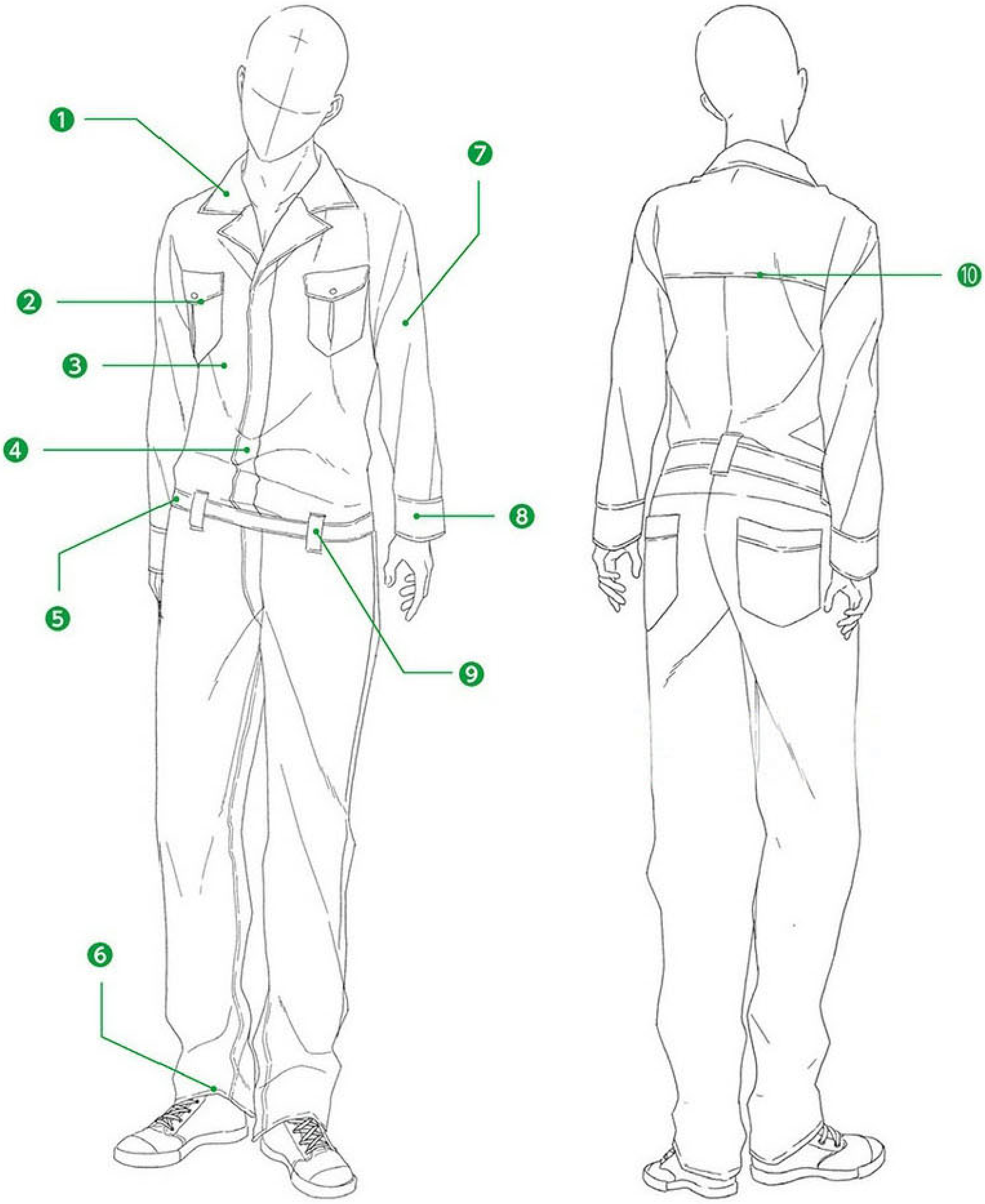


BOILER SUIT

つなぎ

トップスとボトムスが一体化した衣服です。元々は作業着ですが、現在はストリート系ファッション向けのつなぎなども登場しています。

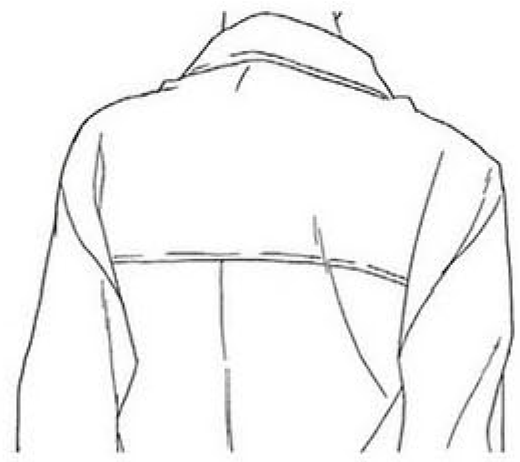
つなぎの構造



①襟
②ポケット
③前身頃
④前立て
⑤ウエスト
⑥裾
⑦袖
⑧袖口
⑨ベルトループ
⑩ヨーク

POINT

背中のヨーク

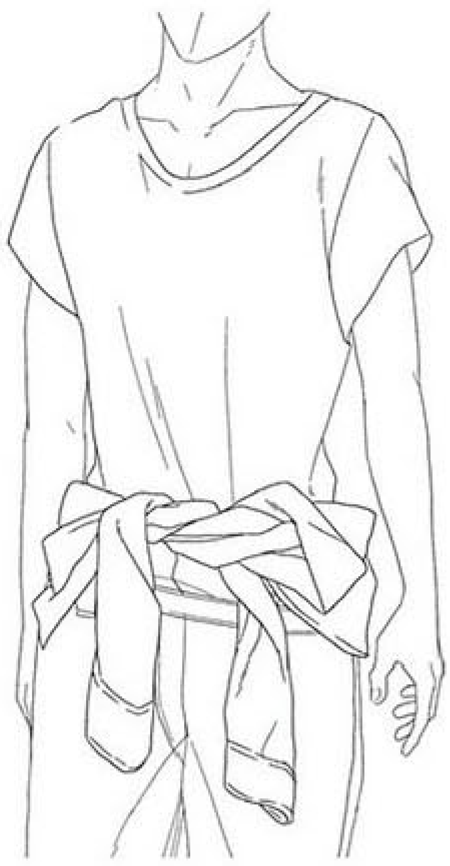


ヨークとは切り替え布のことで、主に肩の部分につけられます。色や材質の違う生地をあてデザイン性を出すこともあり、左右の脇を繋ぐように横方向に縫い目の線が入ります。

つなぎの着方と種類

腰巻き

トップス部分を脱いで、袖を腰に巻く着方。普通のボトムスに近い雰囲気で、ジャケットなど他のアウターと合わせることもできる。



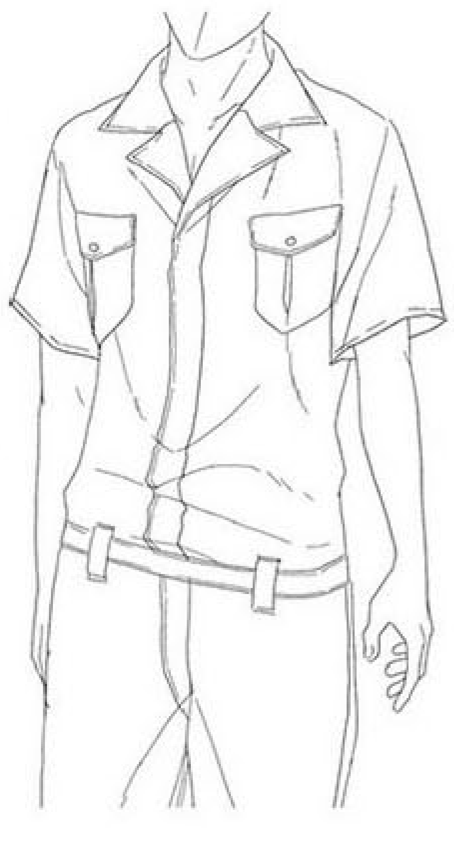
前開き

トップス部分の前を閉めず、インナーを露出する着方。襟が開いてラフさが増し、ワイルドな印象を与える。



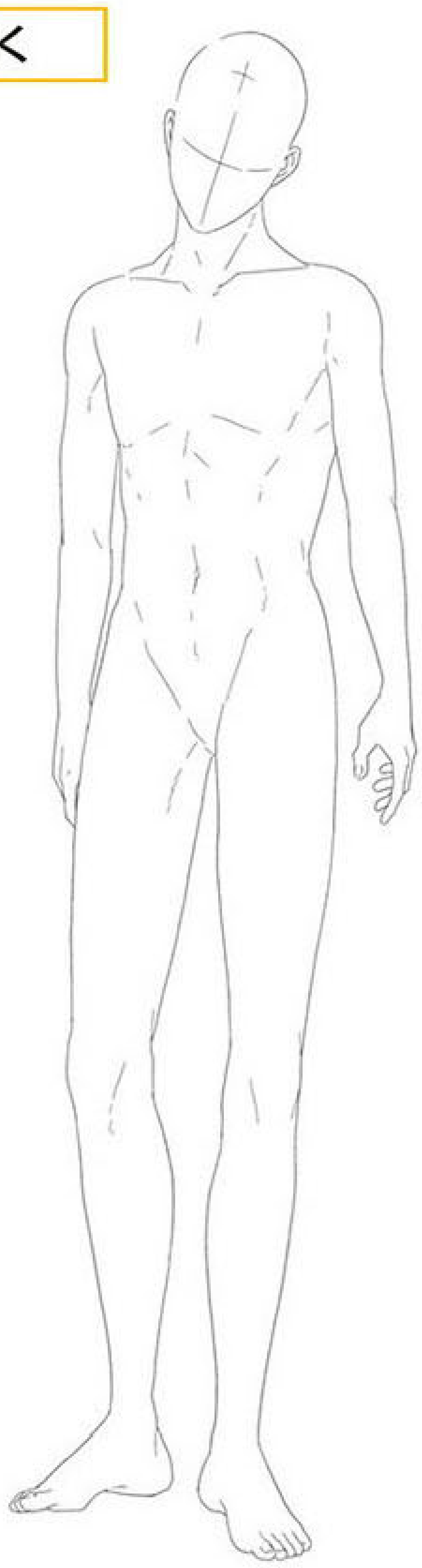
半袖

トップスの袖が半袖になっているタイプ。夏向けのデザインで、袖がないノースリーブタイプのものもある。



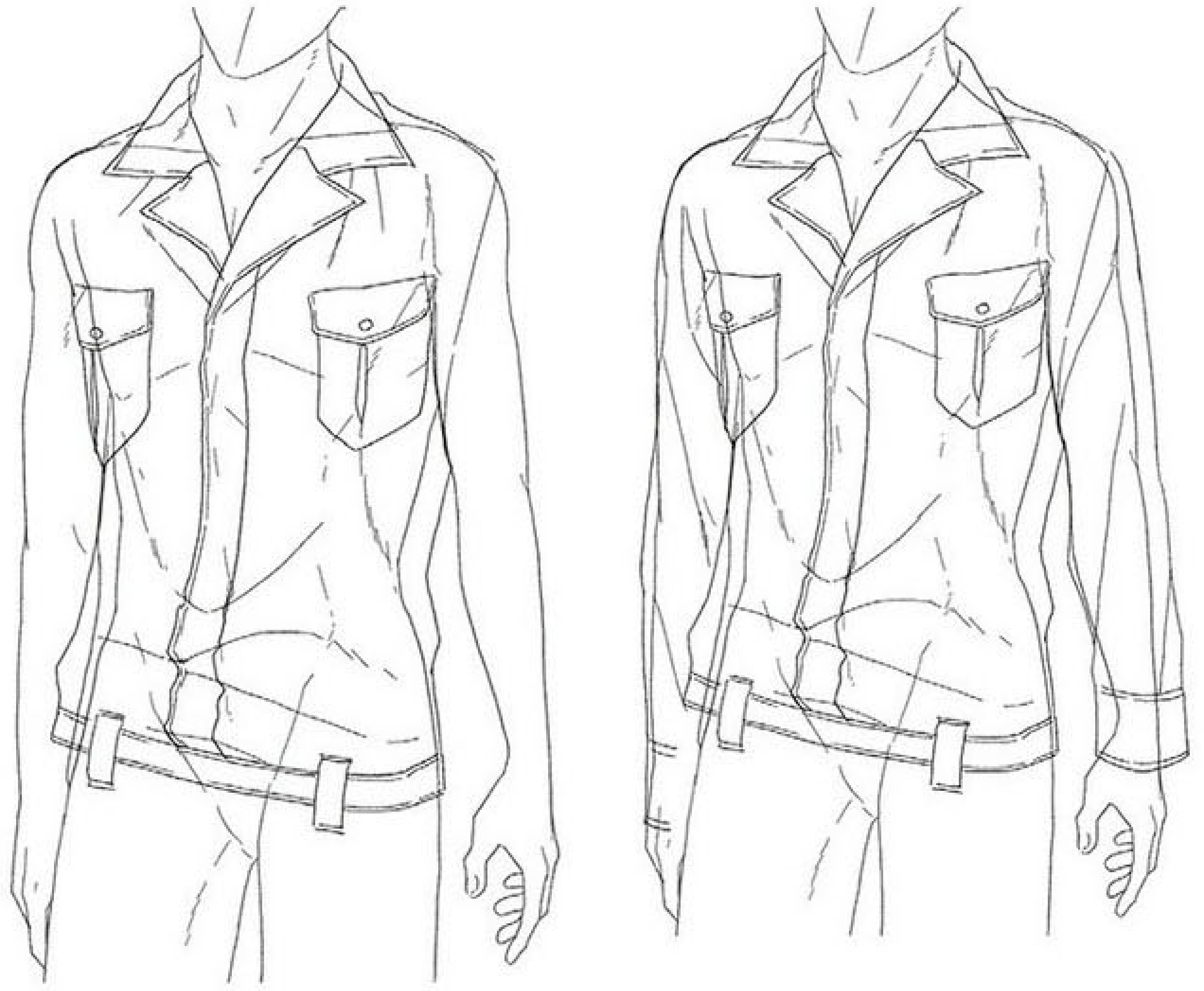
つなぎの描き方（前側）

1 体のアタリを描く



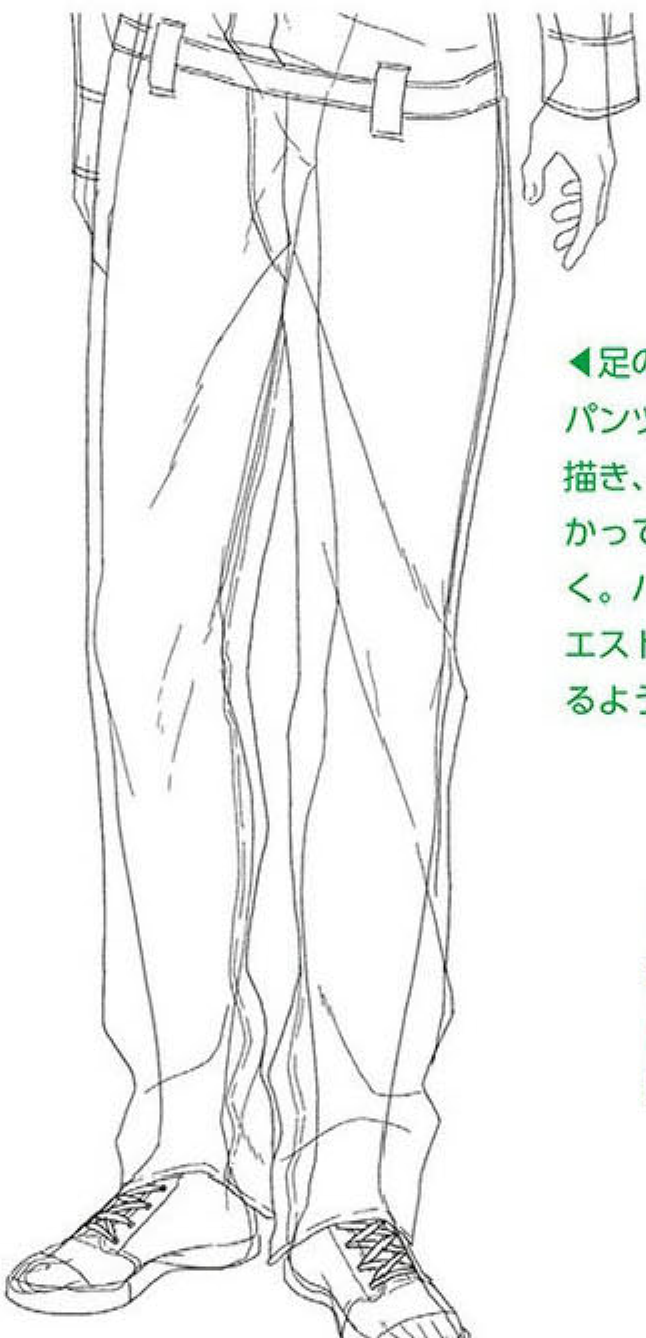
▶足先まで含めた全身のアタリを描く。腰の位置が服の上下のつなぎ目であるウエスト部分を決める目安になる

2 胴周りからトップス部分を描く



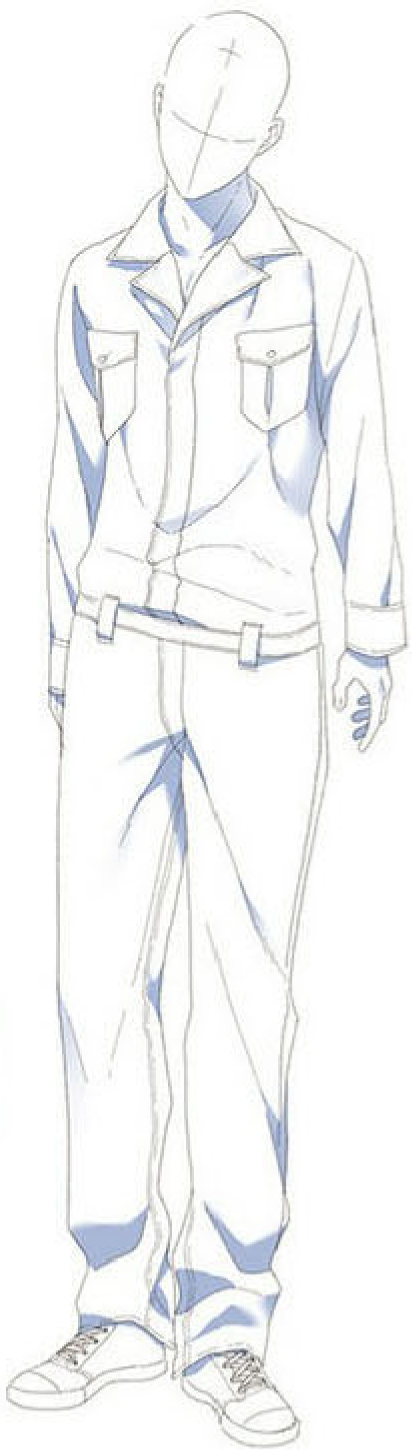
▲肩から腰にかけて、胴体を包み込むようにトップス部分の輪郭線を描き、襟やポケット、腹部のシワを描いていく。続けて、肩口から手首を包む袖を描き、斜めのシワを加えて袖口の線を二重にする

3 足のアタリに合わせてパンツ部分を描く



◀足のアタリを参考にパンツ部分の輪郭線を描き、股下から裾に向かってシワの流れを描く。パンツの上端はウエストのラインと繋がるように描こう

4 完成



▶脇の下側や股下、袖や裾の大きくシワになっている部分に影を描いて完成

後ろ側の作例



▶ウエストのラインが繋がっている点を除けば、ジャケット系のアウターとパンツ系のボトムスの組み合わせと同じ要領で描ける

つなぎの作例

前開き

前が開くのは腰の位置までなので、胸元は軽く見える程度にする。中に着ている服の襟ぐりを深くすると、鎖骨や胸元が見えて色気が出る。

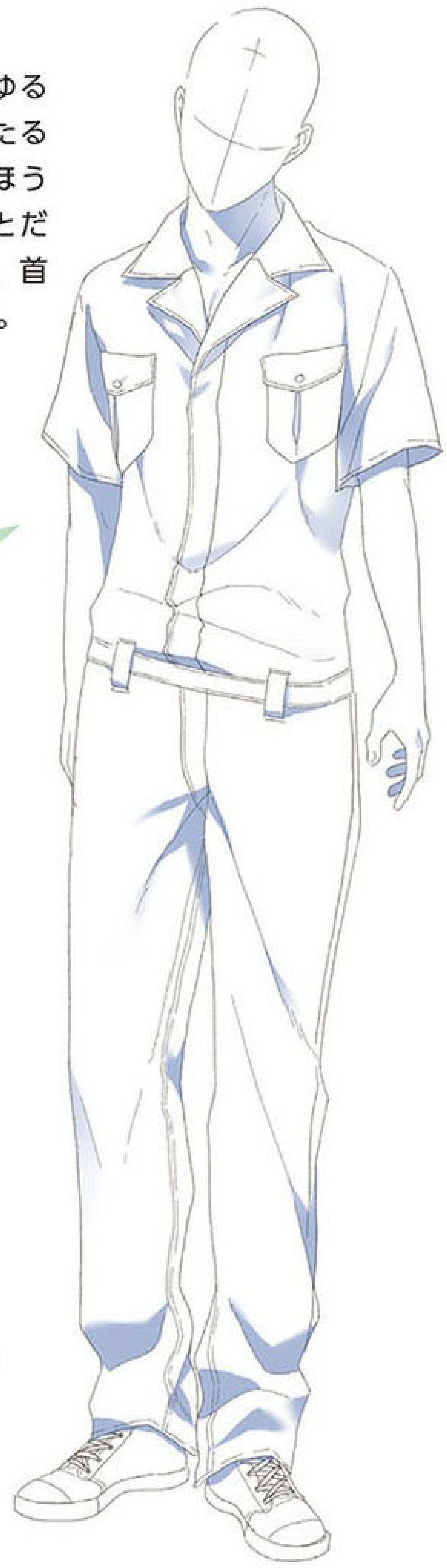
中に着る服は、無地のシャツだと男性的な作業着の印象が強いが、柄つきのシャツやパーカーにするとカジュアルになる



半袖

半袖のシャツを描く要領でゆるい袖口やお腹周りの生地のたるみを表現する。前を開けたほうが爽やかだが、開けすぎるとだらしなくなってしまうので、首元を軽く見せる程度にしよう。

ボトムス部分の裾をめくって足を見せるとより軽やかな印象になる。また、つば付きのキャップをかぶるとカジュアル色が強まる





Tシャツなど薄手のトップスと組み合わせると爽やかになる。男女どちらでも使いやすい

腰巻き（前側）

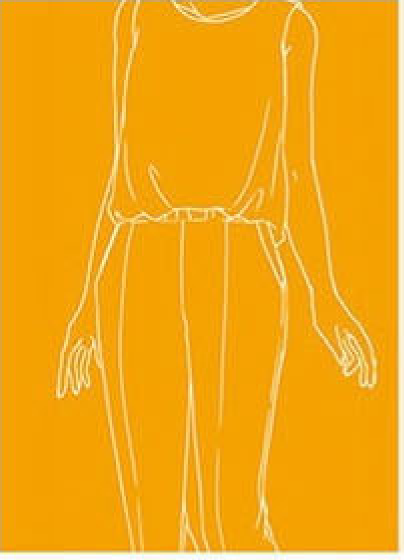
袖同士を結んでできたねじれがお腹の位置にできるのが特徴。垂れ下がる袖の長さは、女性なら股下にすると可愛らしくなる。男性の場合は股上くらいの長さまでに留めたほうがすっきりして見える。



女性キャラであれば、チューブトップなどの体にフィットして肌が露出するトップスと合わせるのもあり

腰巻き（後ろ側）

特徴は腰の位置でめくれているトップス部分の生地。また、中に着ている服もつなぎの巻いている部分とぶつかるため、シワができる。

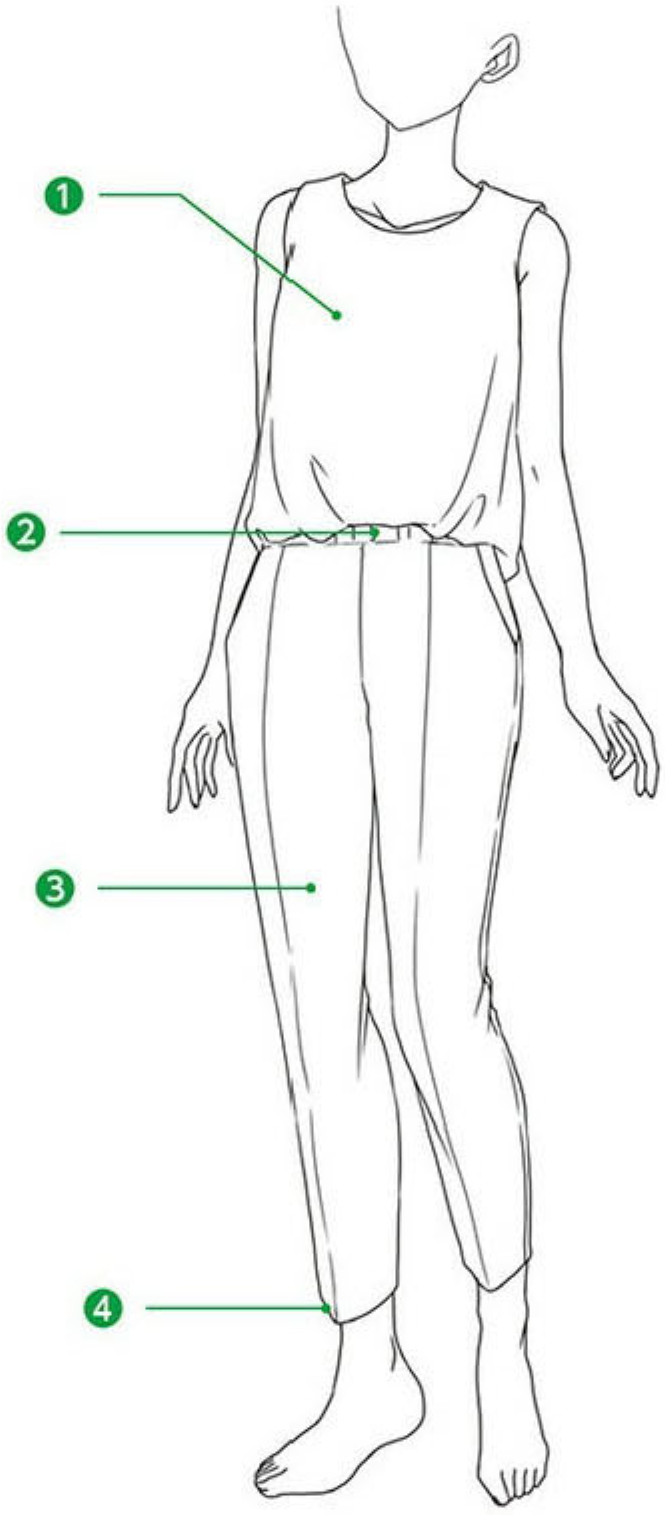


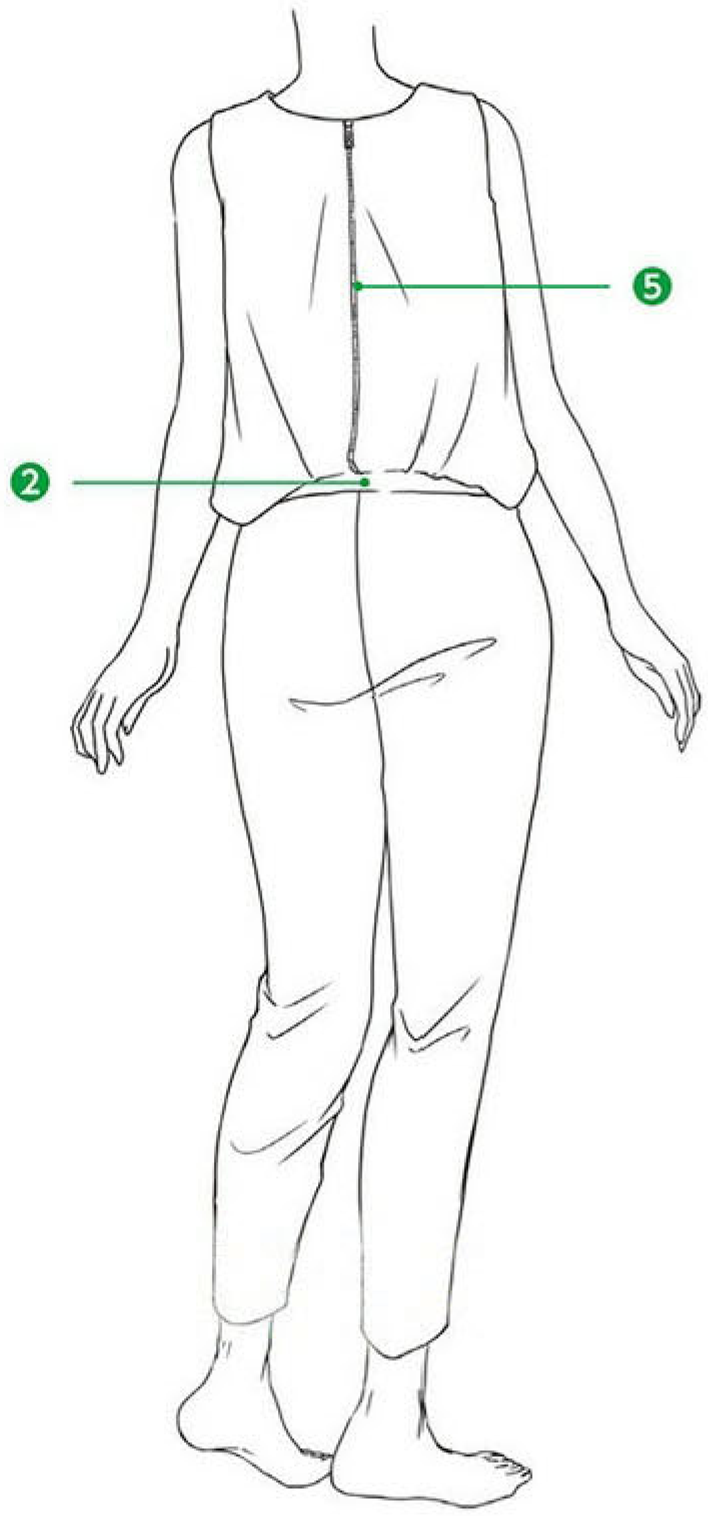
ALL IN ONE

オールインワン

一着でトップスとボトムスの役割を果たす上下が繋がった女性向けの衣服です。ボトムスはパンツタイプやスカートタイプのものがあります。

オールインワンの構造

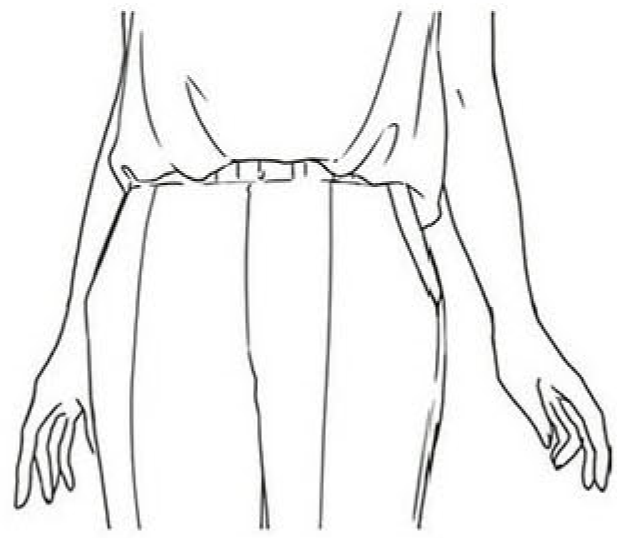




1. 前身頃（トップス）
2. 切り替えし
3. 前身頃（ボトムス）
4. 裾
5. ファスナー

POINT

生地の切り替えし

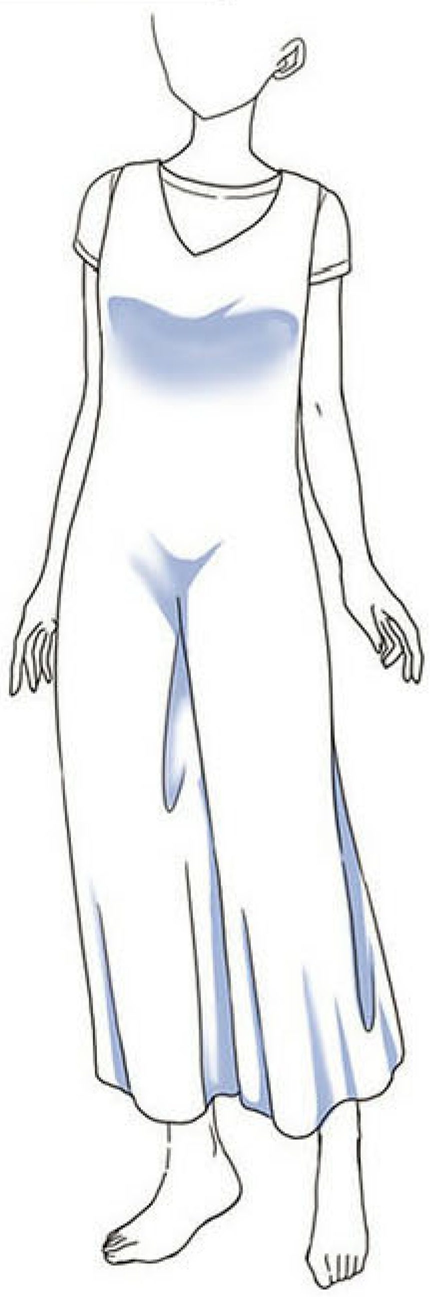


腰の位置にある服の上下を繋ぐ部分です。はっきりと見えすぎると不恰好なので、トップス側の生地をたるませたり別の生地を重ねるなどして隠すデザインになっています。

オールインワンの種類と作例

ワイドオールインワン

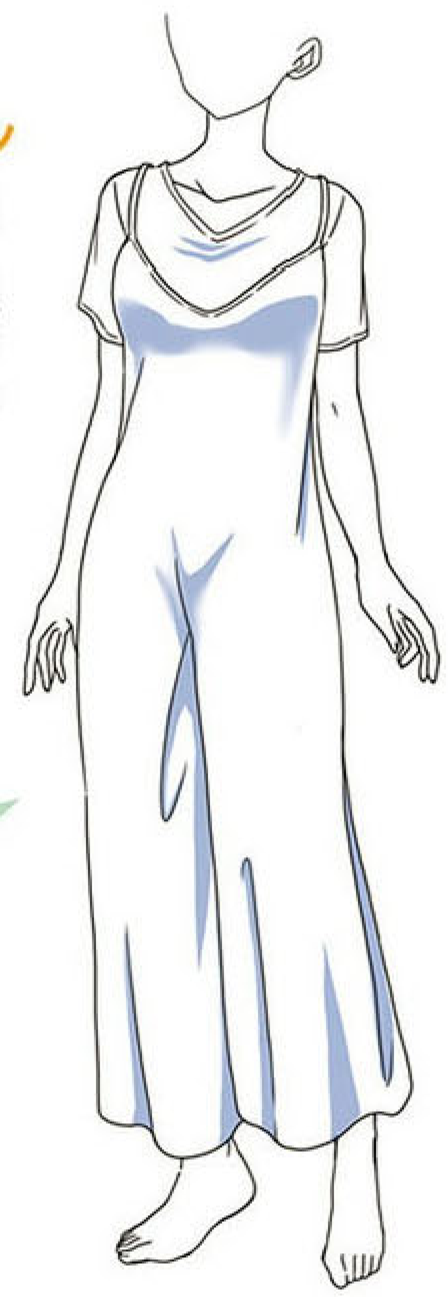
全体的に身幅が広く、裾にスカートのような広がりを持たせたタイプ。生地にゆるやかな動きが生まれるのが特徴。



フェミニン（女性らしい）な印象が強く、ハンドバッグやネックレスなど女性的な小物との組み合わせに適している

キャミオールインワン

肩や胸周りのデザインがキャミソール型になっているタイプ。単体では肩や胸元が大きく露出するため、カットソーなどを中に着ることが多い。



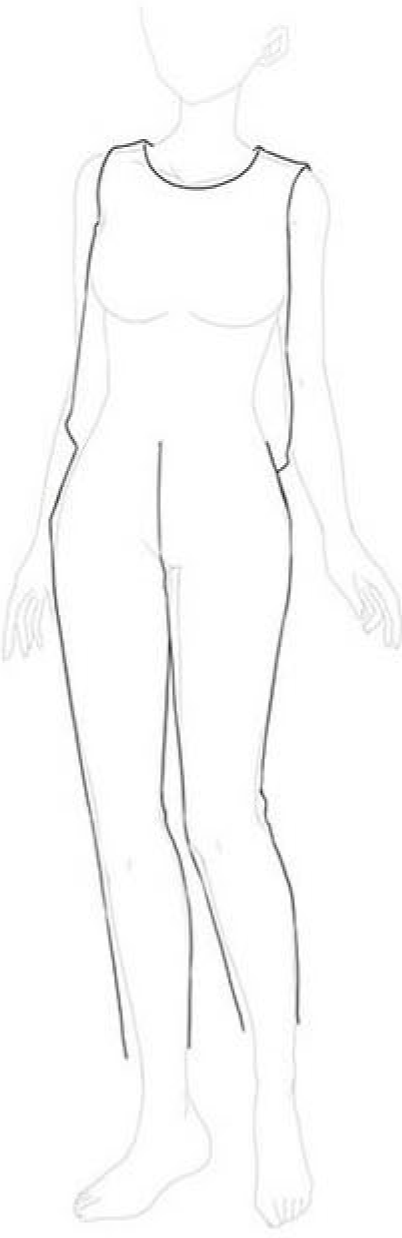
女性らしさが引き立つため、単体で着るのはもちろん、中にカットソーやセーターを着ても全体がまとまりやすい

オールインワンの描き方(前側、後ろ側)

前側

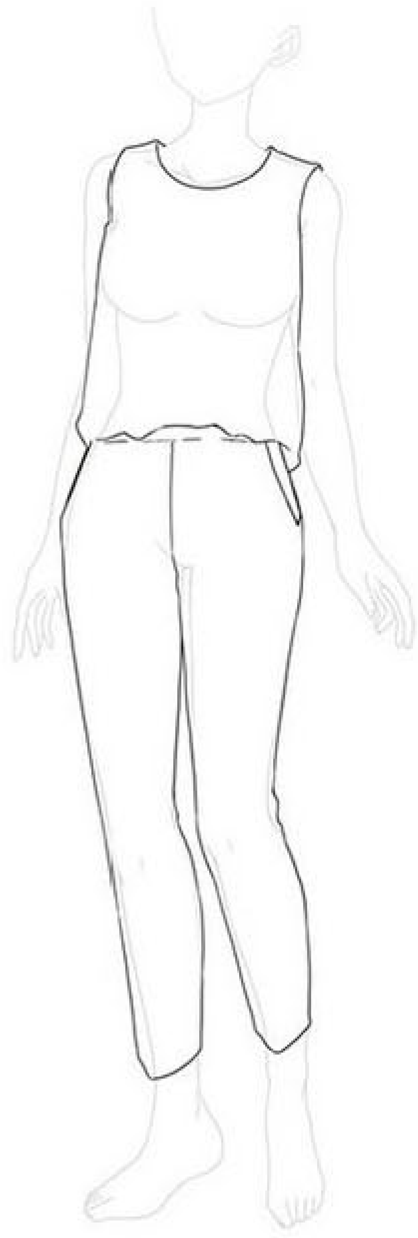
1 トップスとパンツの輪郭線を描く

▶全身のアタリを描き、肩、腰、脚のラインを参考にトップス部分とパンツの輪郭線を描く。パンツ部分には中央に左右を分ける線も引いておく



2 裾口や切り替えしの線を描く

▶切り替えし部分の線とたるんだ生地を描いて服の上下の形をはっきりさせる。パンツの腰の位置にポケットの口の線も描いておく





3 パンツのタックや服のシワを描き込む

◀パンツの両サイドに、脚の中心に沿って腰から裾にかけてタックの線を描く。膝裏のシワや、トップスの生地のたるみを表すゆるいシワを描いていく



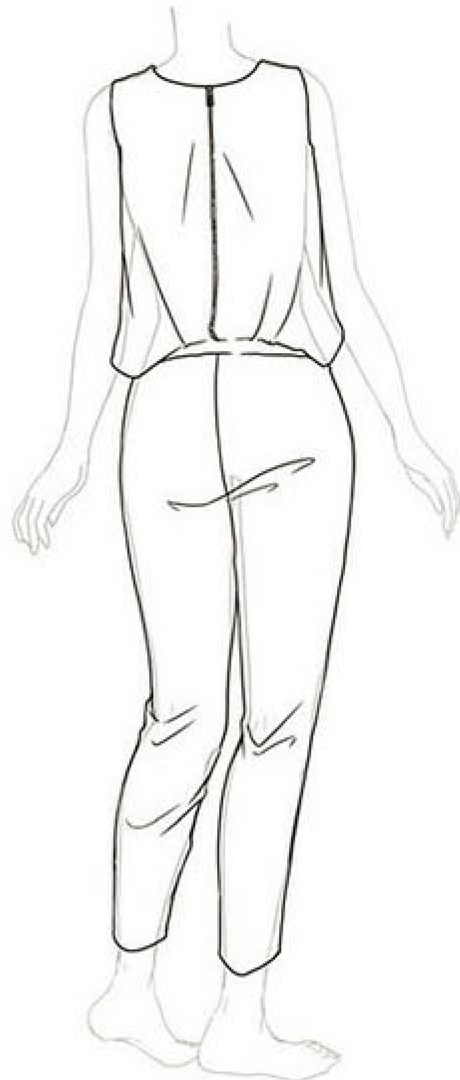
4 完成

◀胸の下、トップスの切り替えし付近、パンツの股上、膝下に影を描いて完成。股の周りは生地がゆったりしていてシワがあまりできないので、影は少なめになる

後ろ側

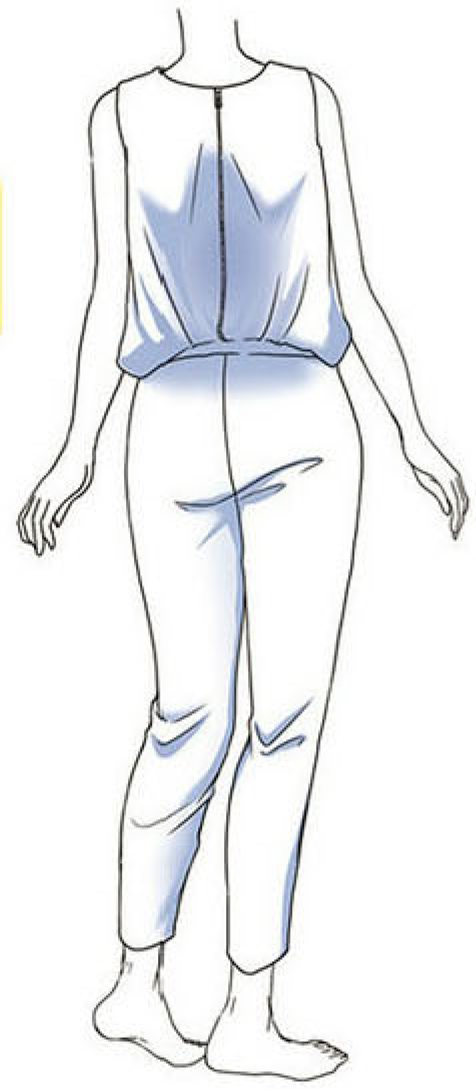
1 服の輪郭線を描き、シワを描き込む

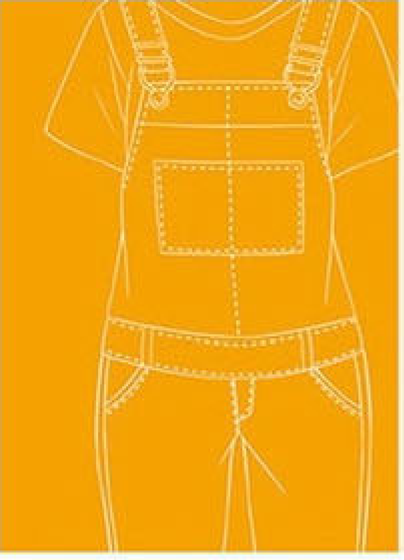
▶前側の❶❷❸と同じ要領で服の輪郭線とシワを描く。トップスのシワは背中に肩甲骨に似た形状のシワができる。トップスの中央にファスナーを描き、パンツのシワはお尻と膝裏に描こう



2 トップスとパンツ部分に影をつけて完成

▶背中の一帯とお尻の下、膝裏に影をつけて完成。背中の影はトップスだけでなく、パンツ部分にも軽く描いておくと体の立体感が出る



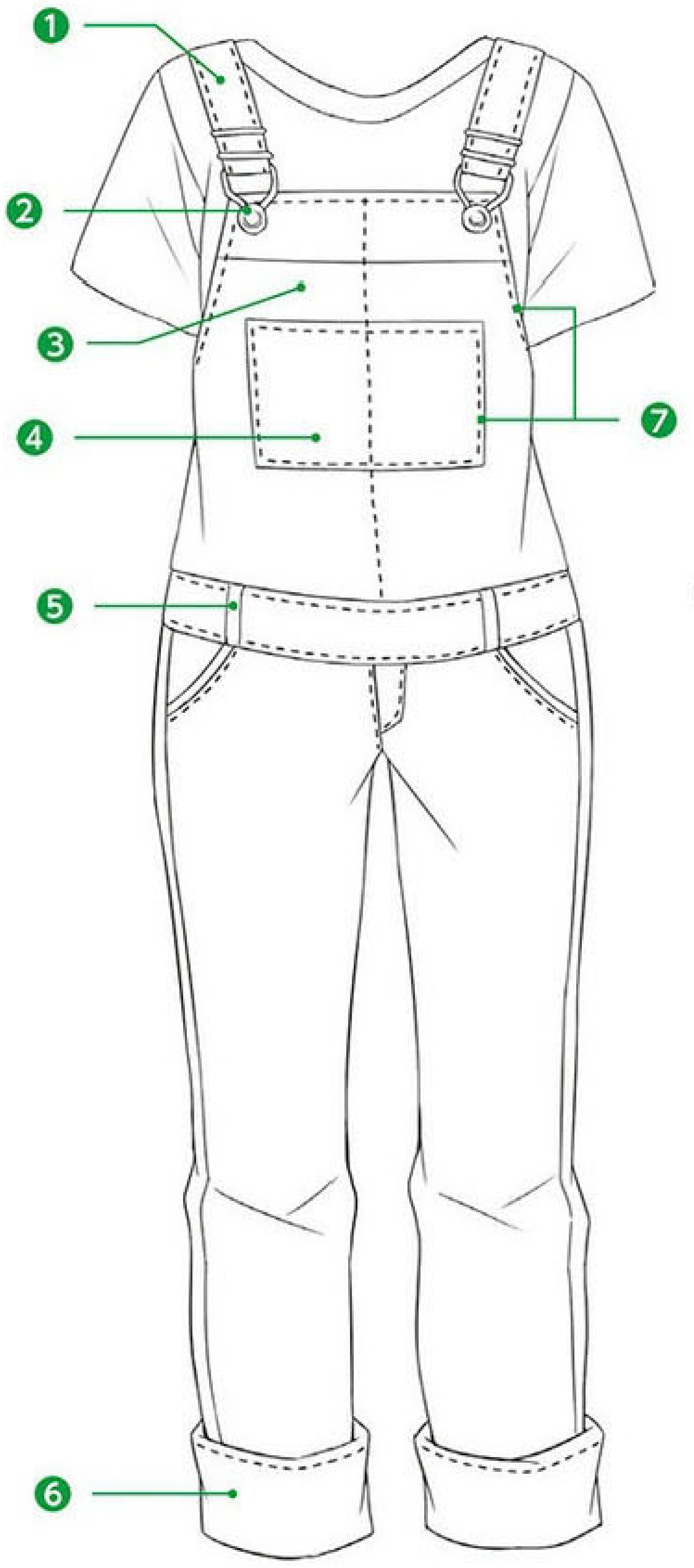


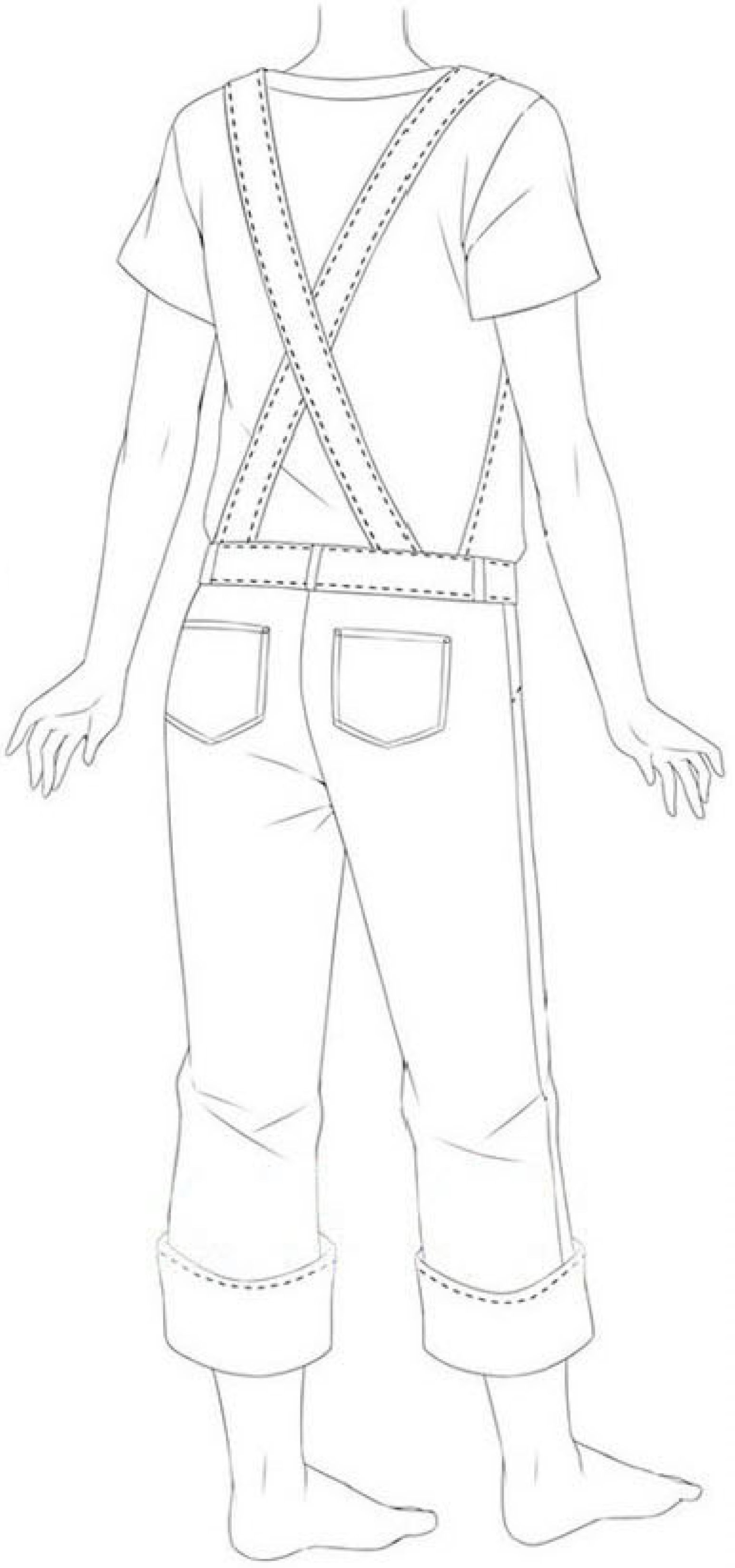
SALOPETTE PANTS

サロペット

上下一体型の衣服で、トップス部が胸当てと肩紐で構成されているものを指します。元は作業用の服で、「オーバーオール」とも呼ばれます。

サロペットの構造





❶肩紐
❷吊りカン(留め具)
❸胸当て
❹ポケット
❺ベルトループ
❻折り返し
❼ステッチ

POINT

胸当ての形



デニム生地のカジュアルなものが多く、ポケットはイラストのような大きなものから、中、小、なしなどさまざまなデザインがあります。

サロペットの着方

中に着る服による印象の変化が大きく、半袖なら子供っぽく、肩出しなら大人びた落ち着いた雰囲気になる



両肩かけ

本来の着方で、両肩の中央に肩紐が来るように着る。女性が着るとカジュアルで小綺麗になり、可愛げな雰囲気が出る。

ラフで軽やかな印象を受ける着崩し方で、柄やロゴが入ったシャツを中に着ているとカジュアル感が増す

肩紐外し

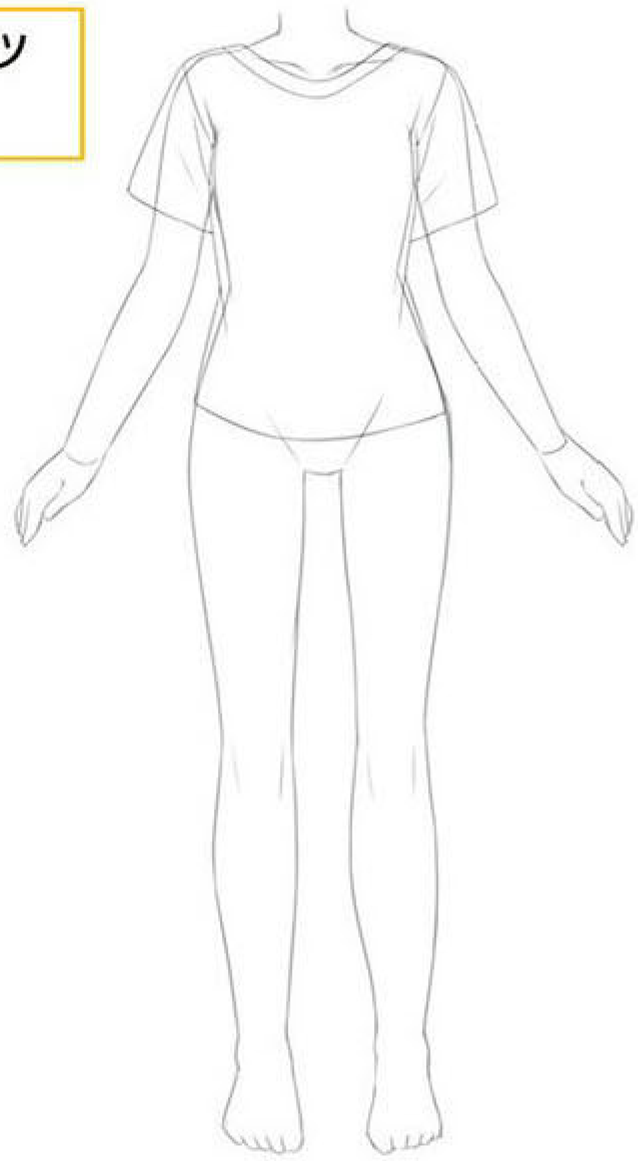
片方の肩紐を外した着方。前にめくれた胸当てがポイント。男性では両側とも外して胸当てを垂らすことで小洒落た雰囲気にする着方もある。



デニムサロペットの描き方(前側)

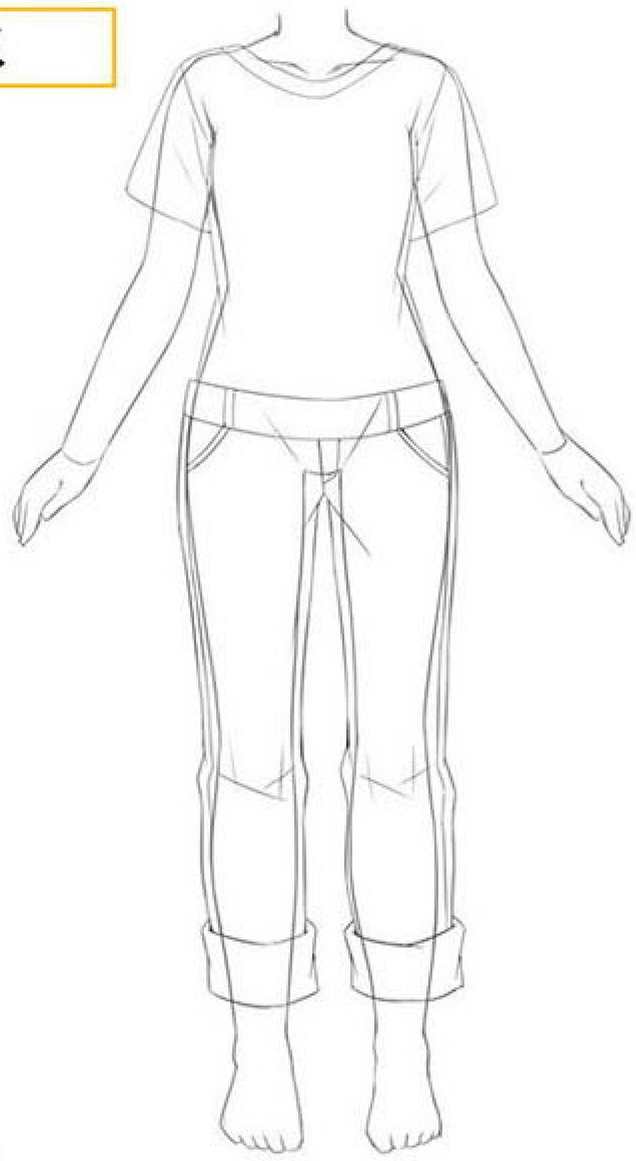
1 体と下に着るシャツを描く

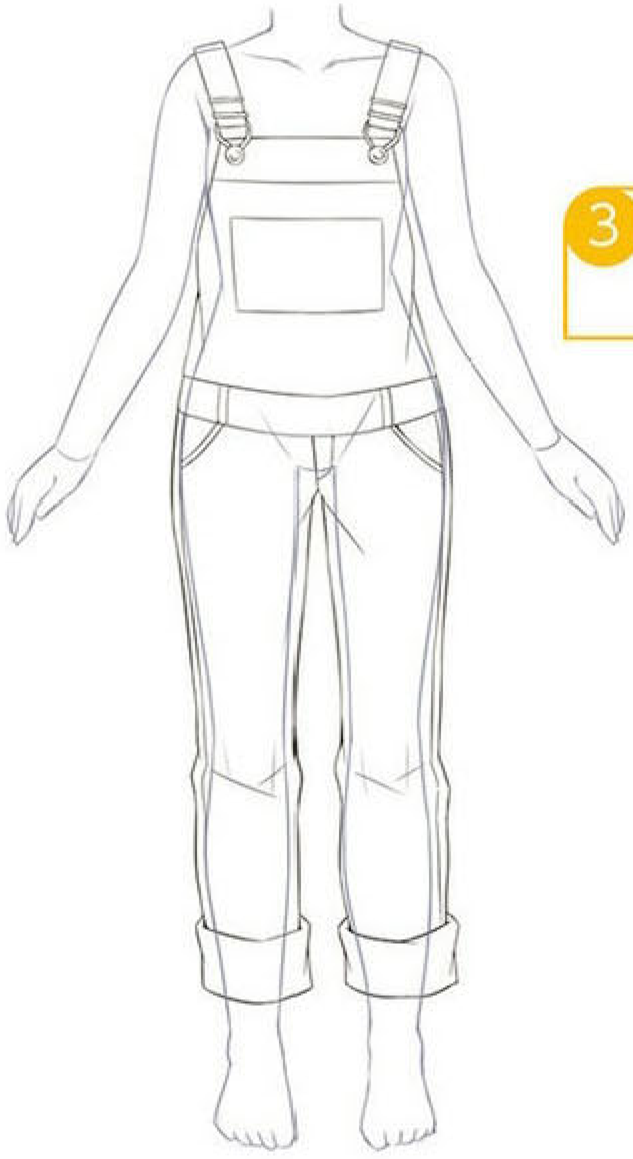
▶サロペットの下に着るTシャツと全身のアタリを描く。サロペットの服を描くときに大切なポイントは、肩、腰、膝の位置



2 パンツ部分を描く

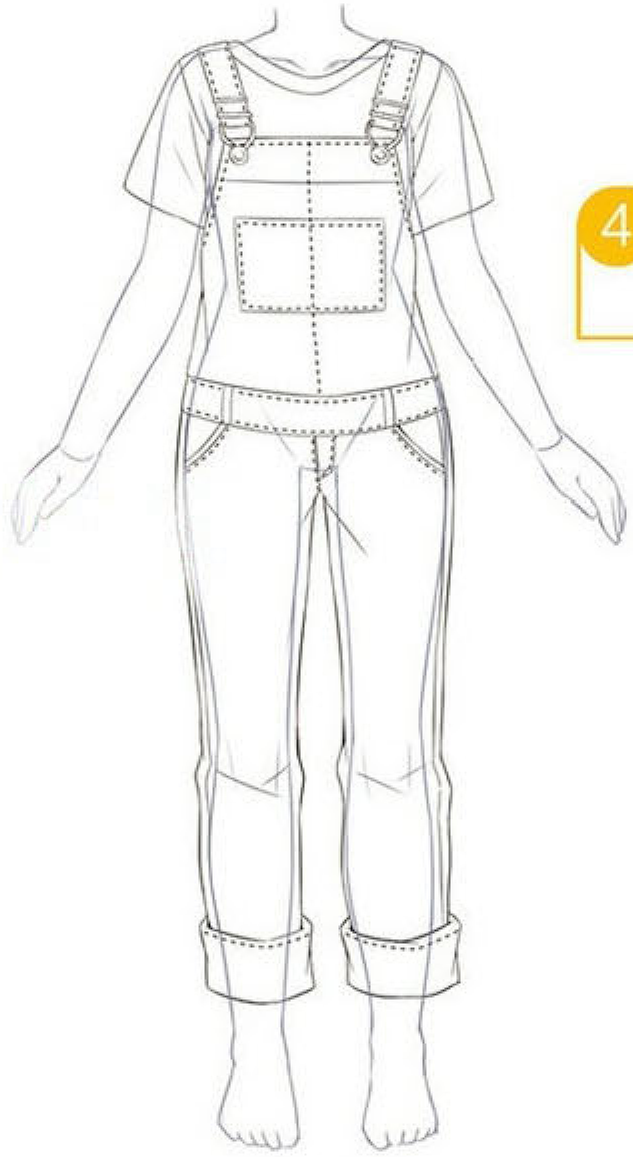
▶体のラインに沿って腰から膝下にパンツの輪郭線を描き、腰にベルトを通すバンドの線、膝にシワの線、裾に折り返しの線を描く





3 胸当てと吊りカンを描く

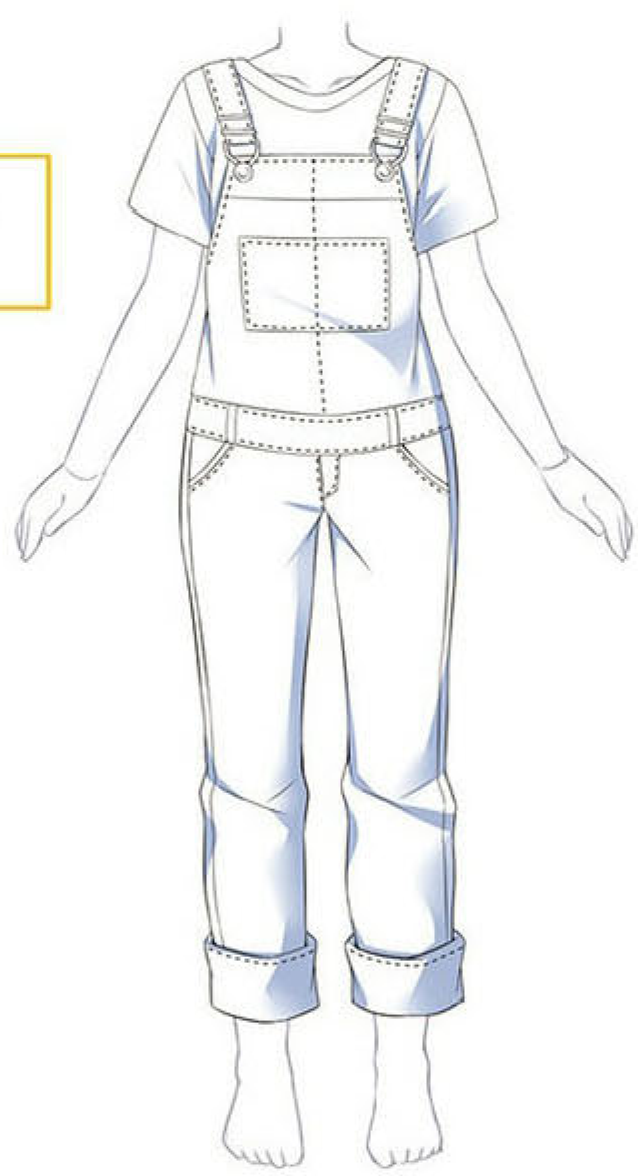
◀胸の高さから腰にかけて胸当てを描き、ポケットの線を加える。次に両肩に肩紐を描き、肩紐と胸当ての間に吊りカンを描く



4 デニムのステッチを描き込む

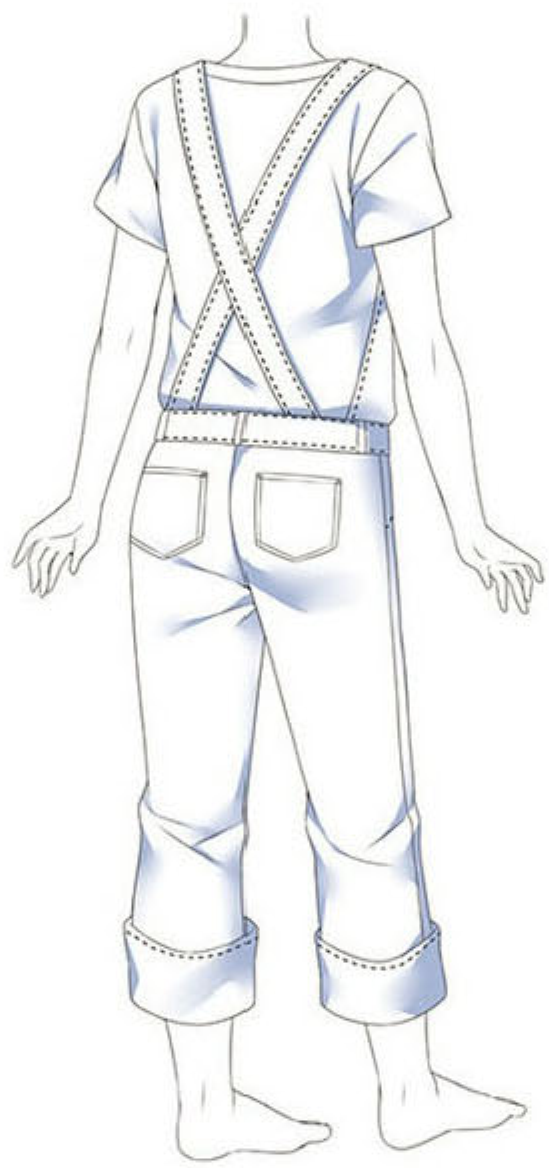
◀肩紐、胸当て、ポケット、パンツにそれぞれステッチを入れてデニムの質感を出す。胸当ての中央にも縦方向にステッチを入れる

5 服の輪郭線を描き、シワを描き込む



▶胸当てのお腹や膝下にシワを描き込む。最後に影をTシャツの脇、胸当ての腰周り、パンツの内もも、膝、裾に描いて完成

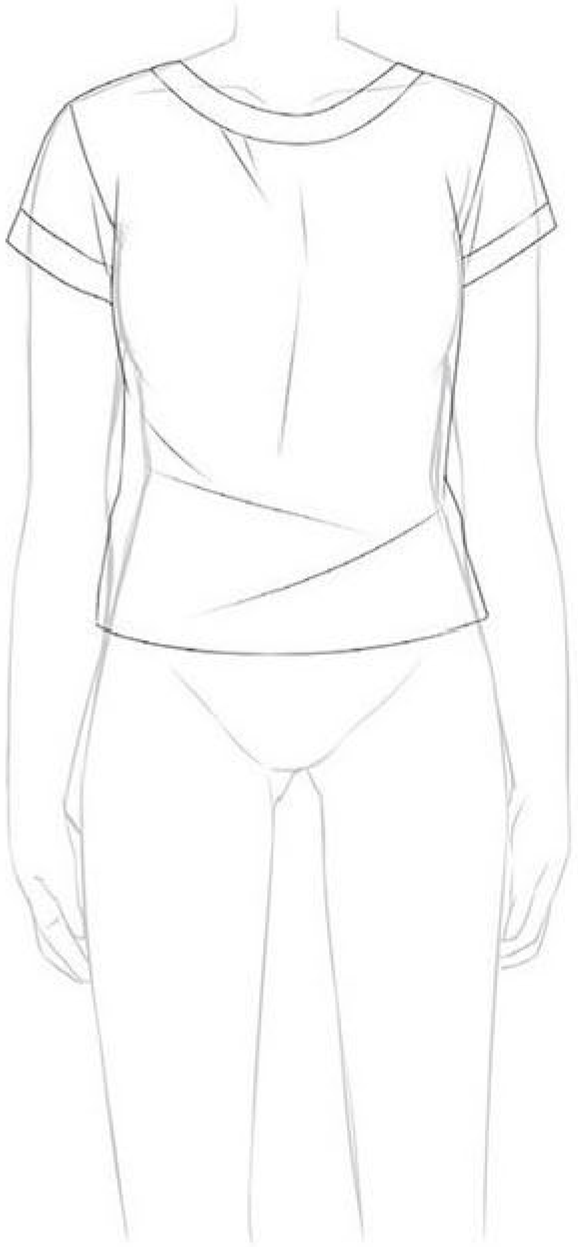
後ろ側の作例



▶肩紐はパンツの腰の位置まで、X字にクロスさせるように描く。影はTシャツの脇や膝、裾に描くのは前側と同じで、お尻の下にも描き加えよう

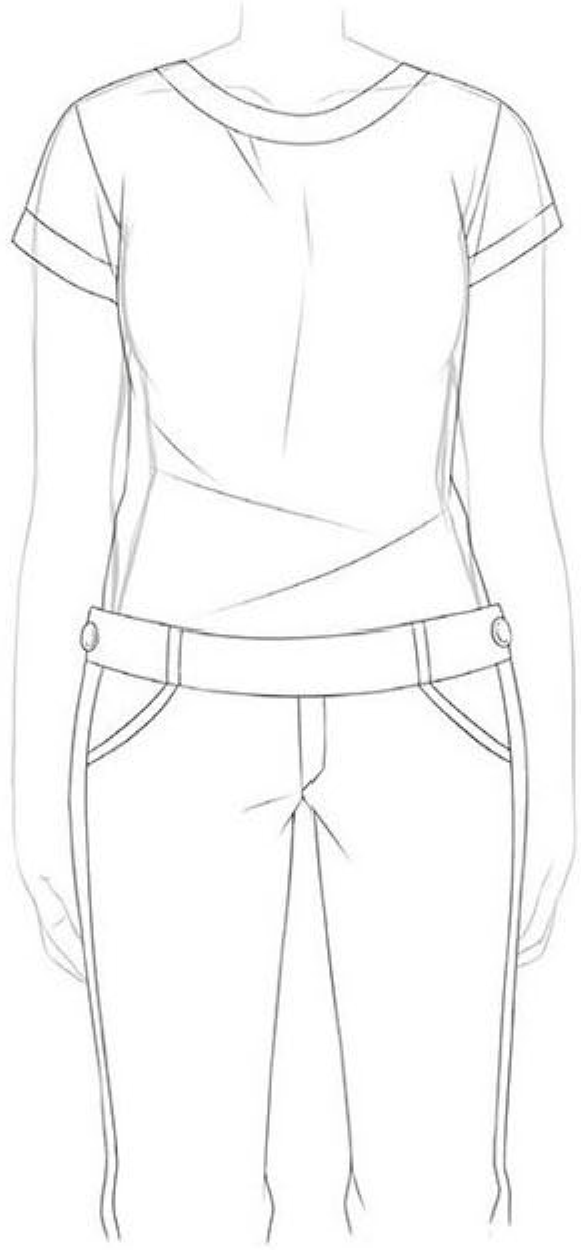
肩紐外しサロペットの描き方（前側）

1 下に着るカットソーを描く



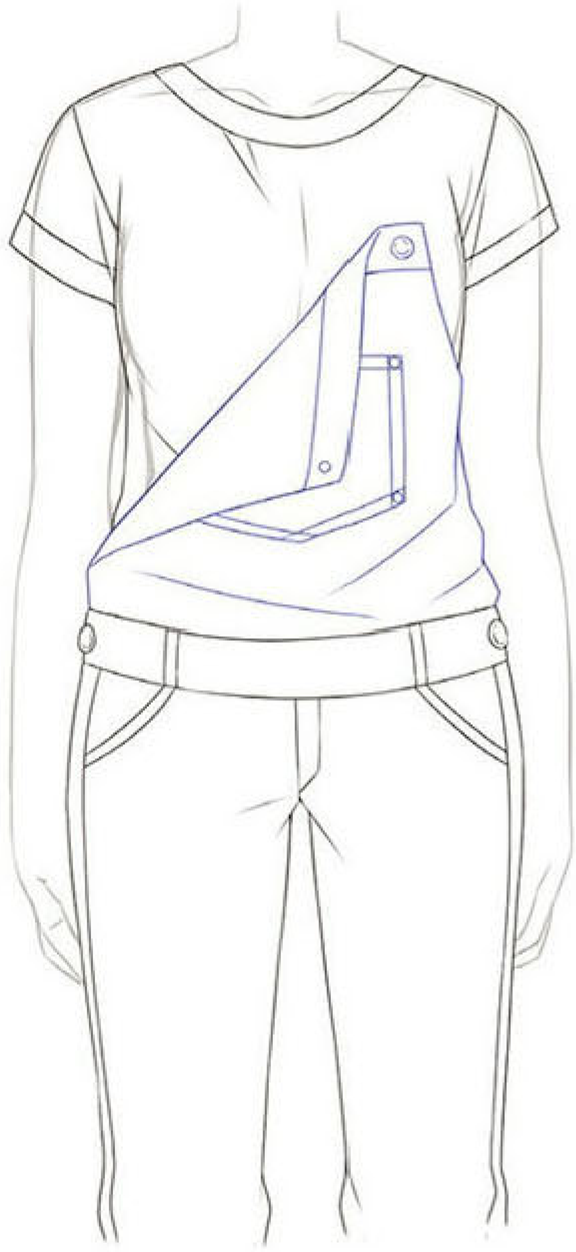
▲全身のアタリを描き、上半身にカットソーを描く。サロペットがめくれてカットソーが見える絵になるので、胸元や腰周りのシワも描いておこう

2 下半身にパンツ部分を描く



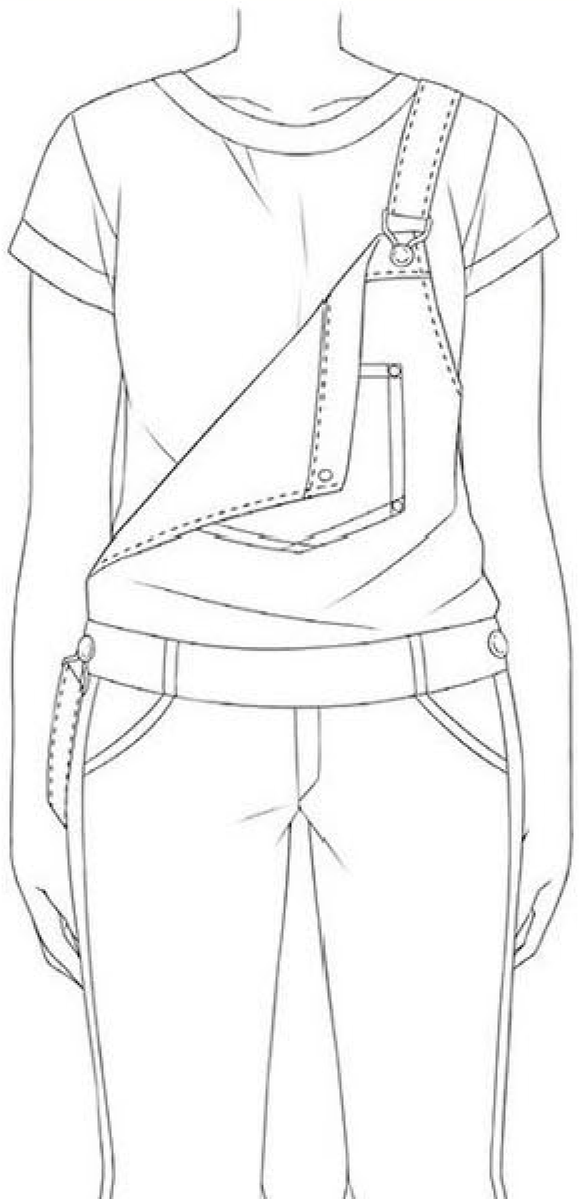
▲p.89と同じ要領で腰の位置を基準に下半身のパンツを描く。腰周りのベルトループやポケット、左右の端に前身頃と後ろ身頃の縫い目の線を描き加える

3 前面にめくれた胸当てを描く



▲肩紐をつけている左肩側の胸当ては胸の位置に吊りカンのボタンを描き、その隣から胸当てが前側にめくれているように描く

4 肩紐と留め具を描く



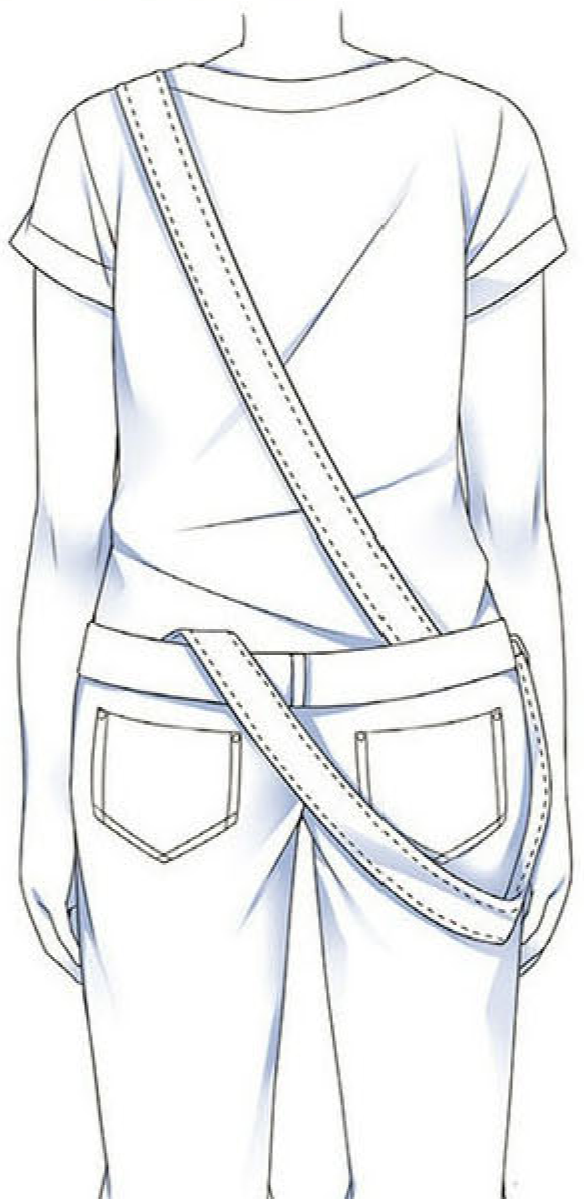
▲左肩に肩紐と吊りカンを描き、肩紐と胸当てにステッチを描き込む。右肩の肩紐は、右足側の腰のボタンの位置から垂れ下がっているように描いておこう

5 完成



▲カットソーのシワや胸当て、体の肘などに影を描いて完成。胸当てのめくれた部分にも細く濃い影を描いて、めくれた生地のシワを表現しよう

後ろ側の作例



▲胸当てから外した右肩の肩紐は、腰の位置にあるボタンに留めてあるため、腰からだらりと垂れ下がっているように描くのがポイント

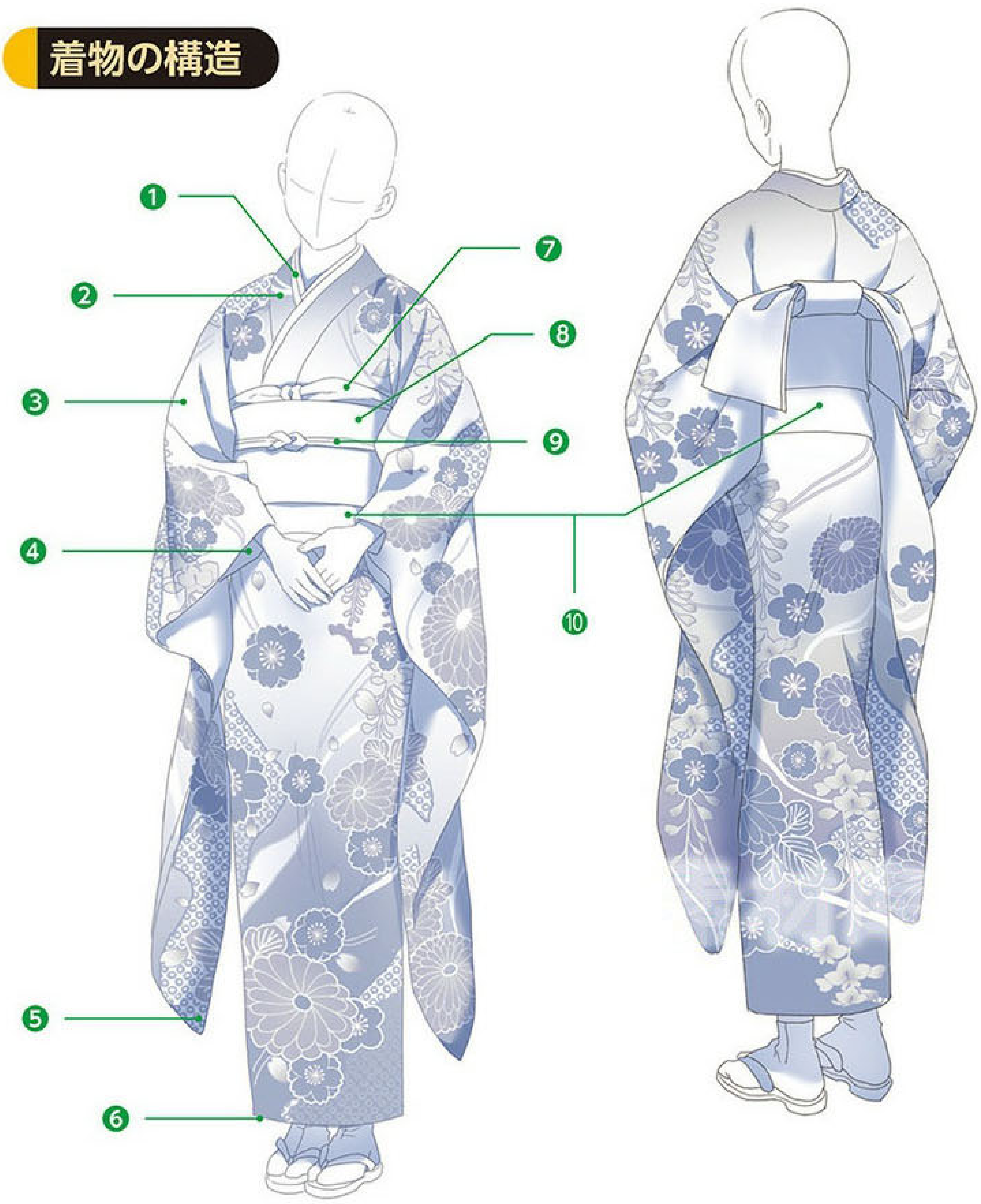


KIMONO

着物

日本の伝統的な衣服の総称で「和服」とも呼ばれます。袖の袂が長い「振袖」を始めとして、さまざまな種類の形や柄が存在しています。

着物の構造



❶襦袢
❷襟
❸袖
❹袖口
❺袂
❻裾
❼帯揚げ
❽帯
❾帯締め
❿おはしょり

振袖

袖の袂が長く仕立てられた着物。未婚の女性が着る和装の中ではもっとも格式が高い礼装で、主に若い女性の晴れ着として成人式や結婚式などで着用される。

POINT

着物向けの履物



草履や下駄を履き、足袋を着用します。草履の底は平たいものから厚底のものまでさまざまな種類があります。

帯の結び方



ふくら雀結び

左右の羽根と中央のお太鼓が、雀が巣立つ姿に例えられる結び方。お太鼓とは、帯を太鼓の胴のようにふくらませた結び方を指す。



文庫結び

左右の羽根をふんわりと広げて垂らした結び方。控えめで可愛らしく清楚な印象があり、結び方もシンプルなため浴衣にもよく用いられる。

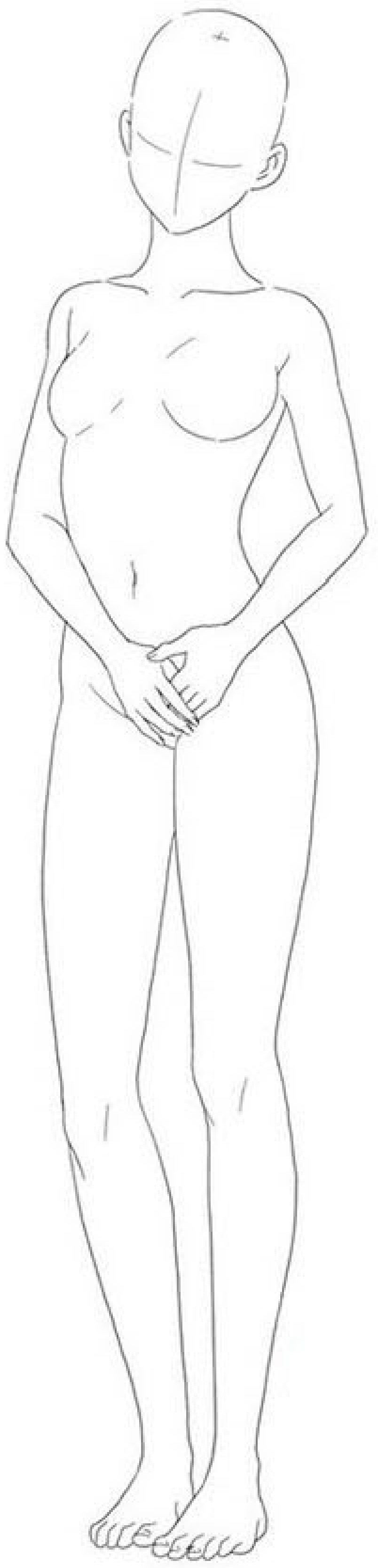


立て矢結び

蝶結びを斜めにしたような結び方。向きは左上がりが一般的。華やかな印象になるため成人式などのお祝いの場でよく使われる。

振袖の描き方(前側)

1 全身のアタリを描く

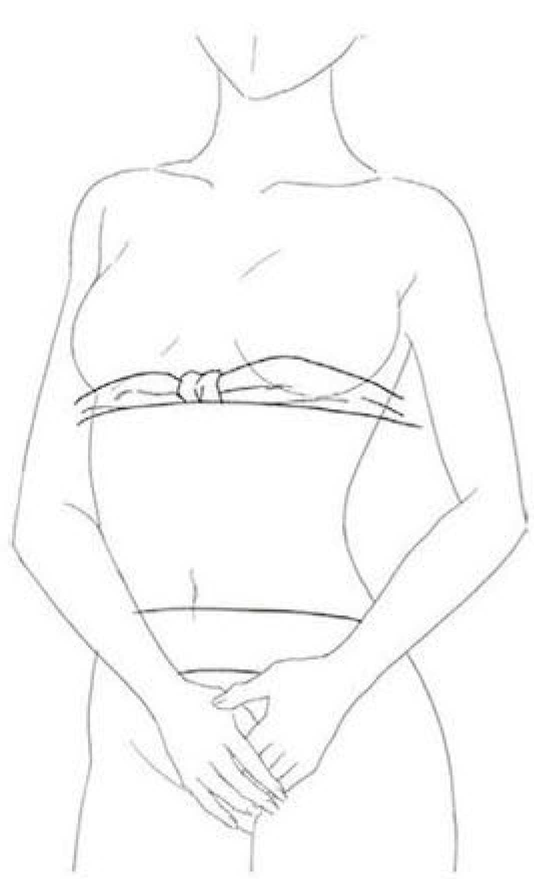


▶足先まで含めた全身のアタリを描く。首元、胸、腰、手首、足首の位置が振袖を描く主な目安になる

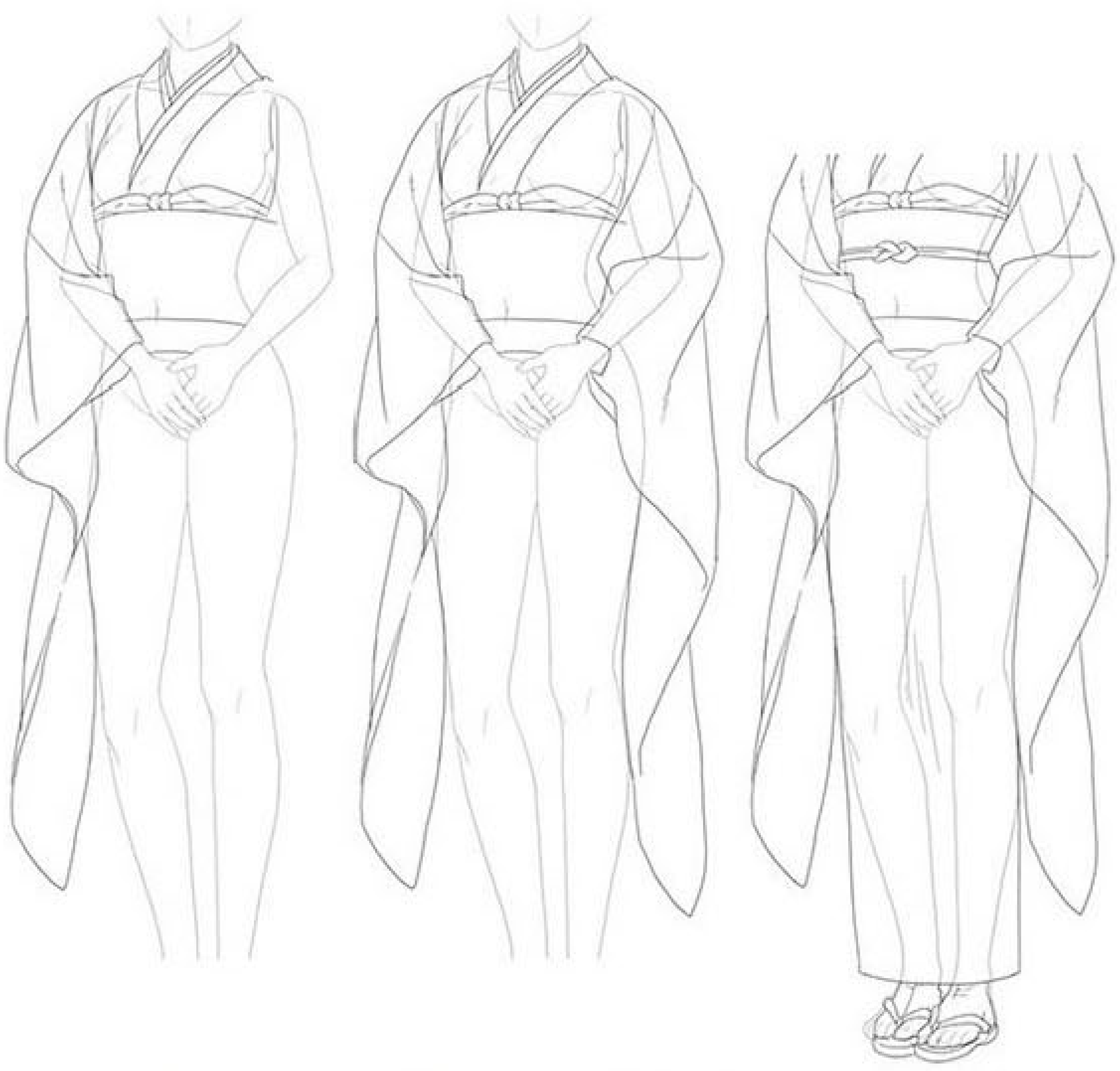
2 帯と襟を描く

▶▼胸の下と腰の間に帯揚げ、帯、おはしょりの線を描く。厚みのある衣装なので、帯は体から離れた位置まで幅を取るようにしよう。首周りから胸元にかけては、振袖の襟と下に着ている襦袢の襟を描き、肩口と胸のラインも描いておく





3 袖と着物の下半身部分を描く



▲肩から腕にかけて、片腕ずつ袖の部分を描いていく。袖の外側は、腕から腕1本分の幅を取った位置に描く。袂は袖口から下に向かって波打つように垂れ下がる線を描こう。最後に、おはしょりの位置から足首の高さまで、振袖の下側を描く

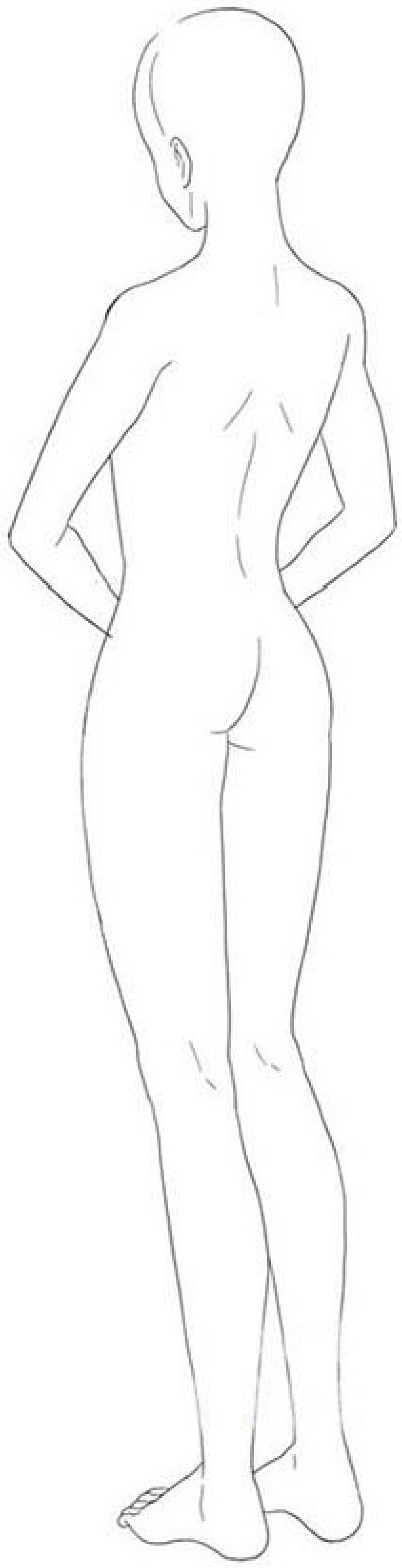
4 完成



▶主な影が入る場所は、帯の下側、袖のシワ、垂れ下がる袖、足首の箇所など。全体に花柄などのテクスチャを振袖に貼って完成

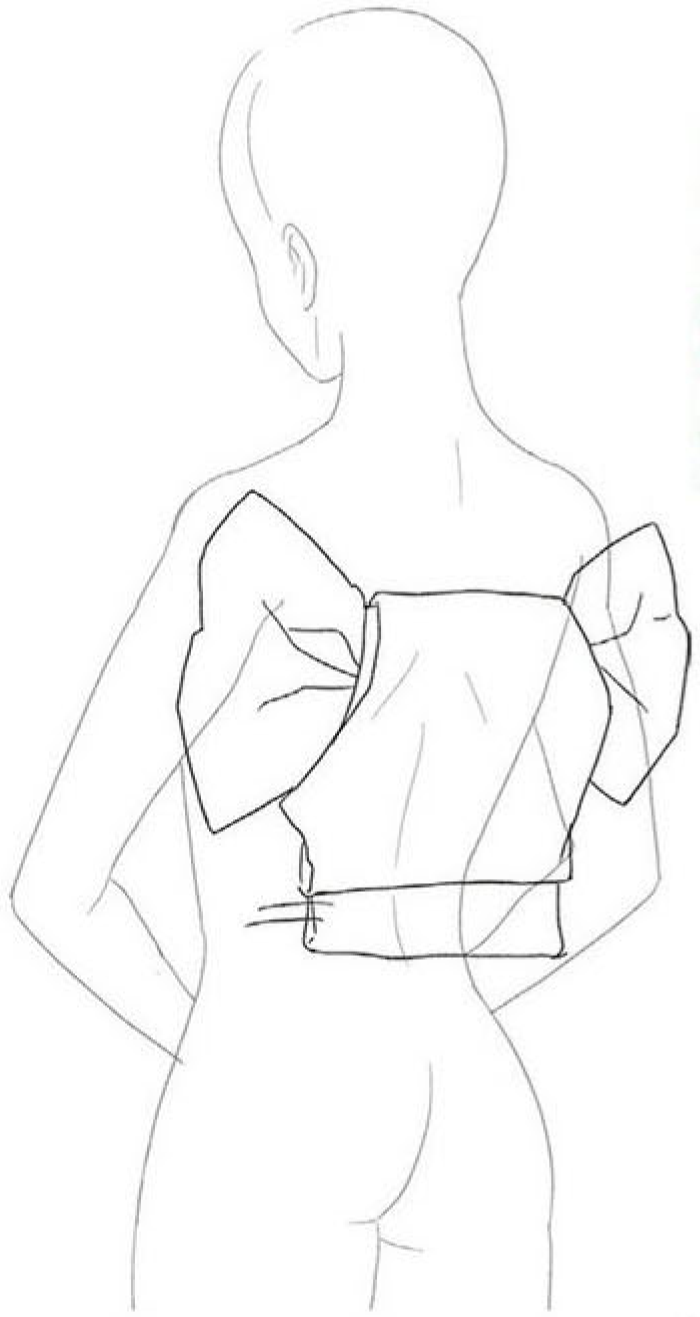
振袖の描き方(後ろ側)

1 全身のアタリを描く



▶着物の後ろ姿は、腰からお尻にかけてのラインがポイント。後ろ側の体のアタリを描く際は、背中から腰、お尻までのラインを滑らかな曲線にしよう

2 背中に帯を描く



◀腰の位置におはしょりと帯の線を描き、その上に帯の結び目であるお太鼓と左右の羽根を描く。羽根は蝶の羽根のように広げて描き、お太鼓の中からシワの線を2本引く

3 後ろ身頃、袖、着物の下半身部分を描く



◀首周りに襟を描き、肩から肘にかけて袖の輪郭線を描く。袖の付け根は帯の下に隠れているので、帯の羽根の下側から袖の内側の線を描き始めよう。着物の下側は、おはしょりの下からお尻の丸みを意識した柔らかい線で描いていく

4 完成

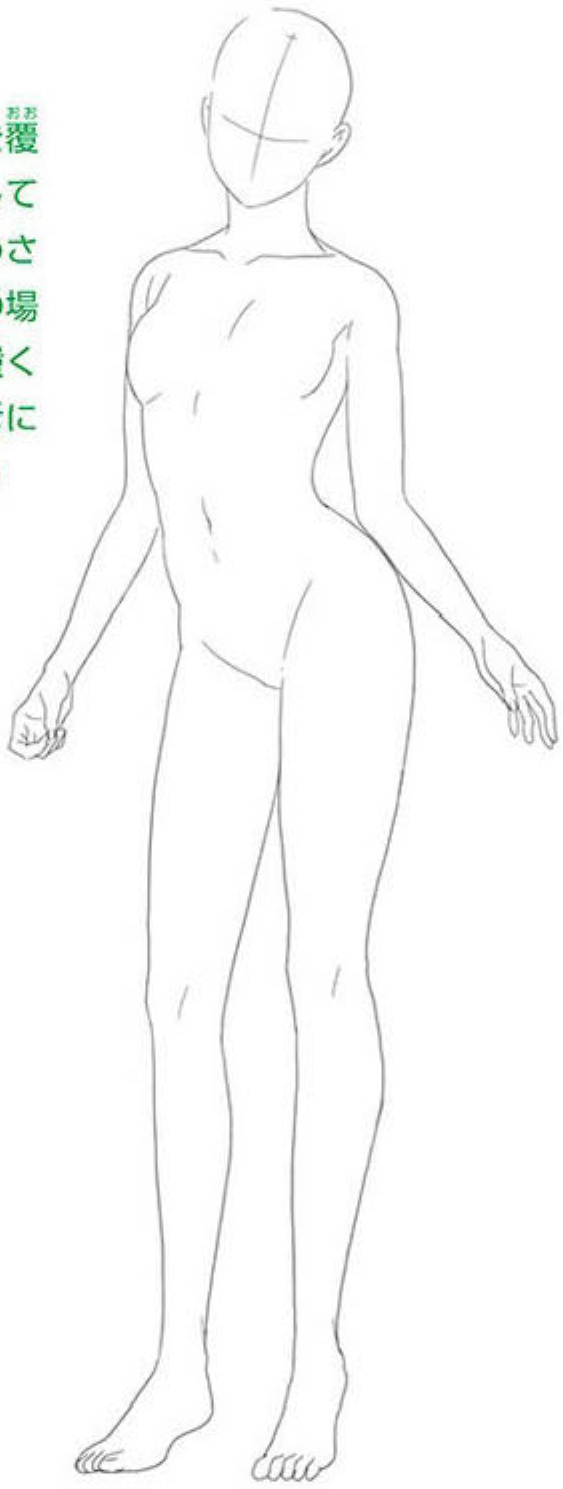


▶帯の下側、袖の内側、足首の周りに影を描き、振袖の全身に花柄のテクスチャを貼って完成。柄はただ貼るのではなく、体の下側にいくほど模様が多くなるように配置するとバランスが良くなる

袴の描き方(前側)

1 全身のアタリを描く

▶袴は着物の腰から下を覆う履物。卒業式の服として振袖か小振袖に組み合わされることが多い。女性の場合は胸の下の高さから履くので、胸や腰の形が参考にしやすいポーズにしよう



2 着物の前身頃と袴の帯を描く



◀首周りから胸にかけて襟を描き、胸の下を横断するように帯の線を描く。帯のすぐ下に袴の紐と、リボン結びにした紐の結び目を描く

3 着物の袖と袴を描く



◀両肩から手首にかけて、振袖の袖を描く。続けて、紐の位置から足首の高さにかけて長いひだを描く。靴はブーツを描くとレトロな雰囲気が出る

4 完成

▶袖の内側や袴のひだ、足元に影を描き、振袖に花柄のテクスチャを貼る。袴の色は、裾に向かうほど濃くなるグラデーションで塗ろう



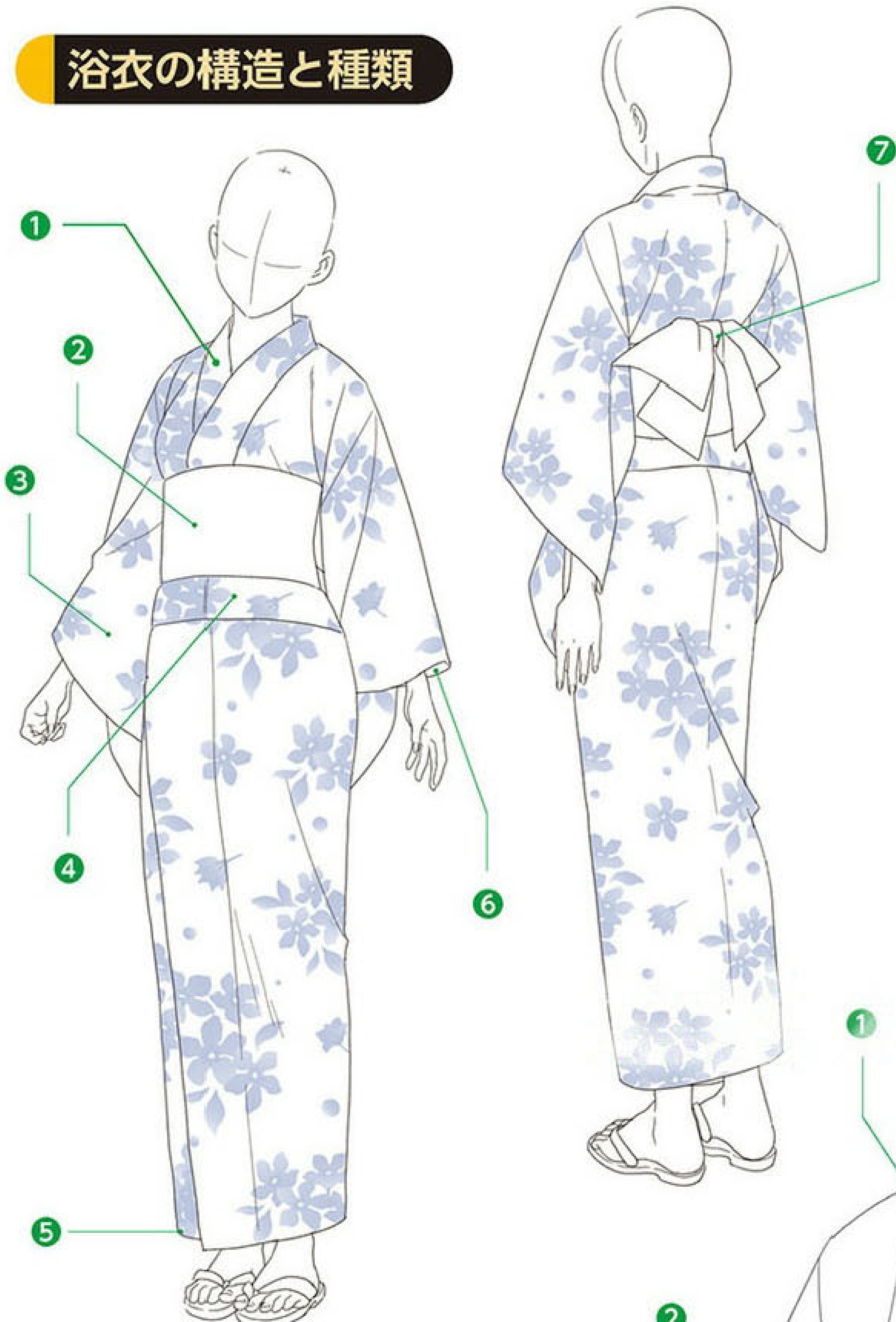


浴衣

YUKATA

素肌の上に着る和服の一種です。湯上がり時や寝巻きに使われる略装で、現在では夏祭りなどイベント時のお手軽な和服としても着用されます。

浴衣の構造と種類



❶襟
❷帯
❸袖
❹おはしょり
❺裾
❻袖口
❼帯の結び目

POINT

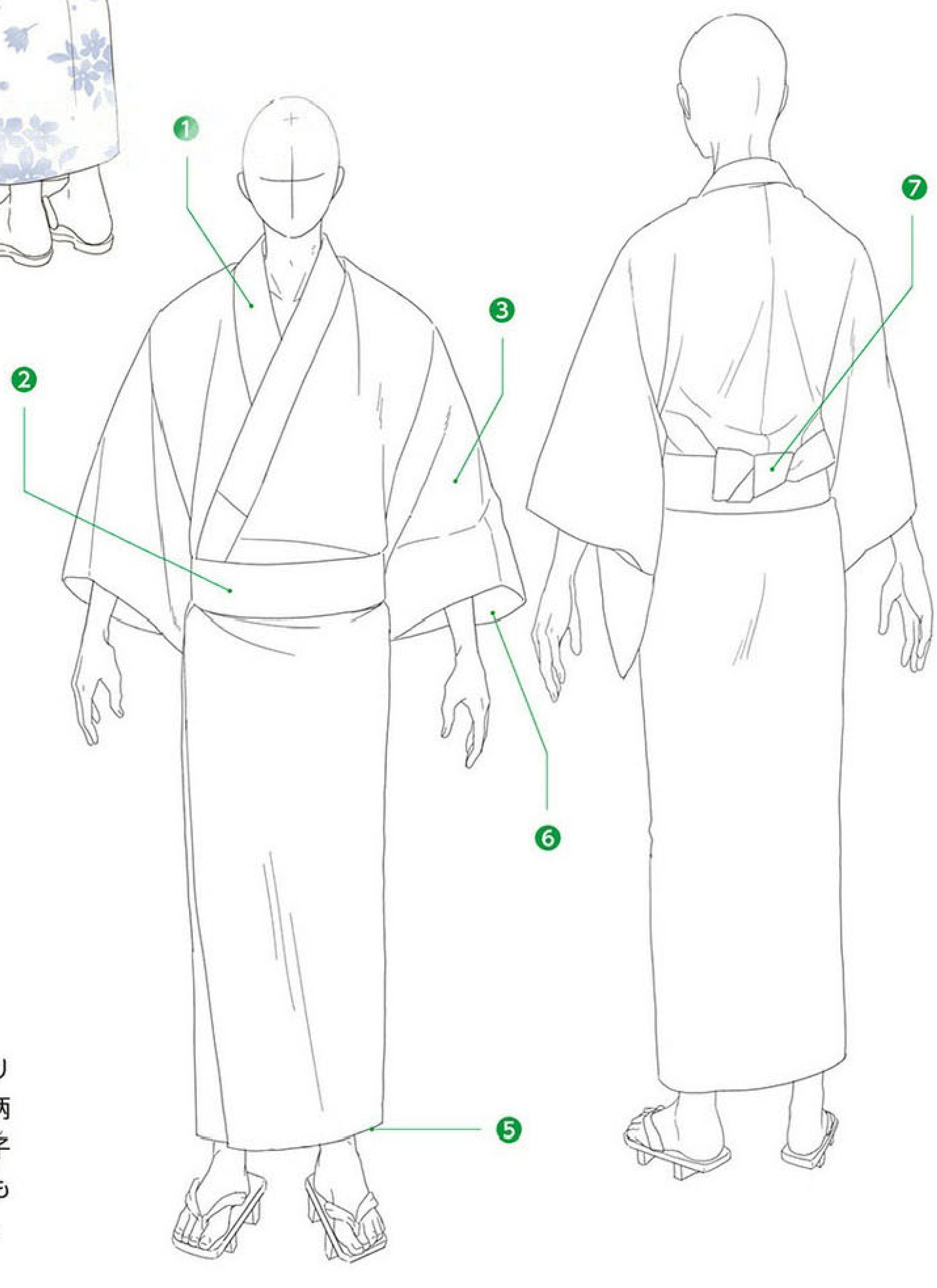
浴衣と着物の違い

形自体に差異はありません。着物の場合は襦袢という専用の肌着を着ますが浴衣の場合は素肌の上に着ます。着物は礼装としても使えますが、浴衣は普段着の扱いで礼服として使うことはできません。



女性の浴衣

着物と比べると、襦袢や帯揚げ、帯留め、足袋がなく、全体的に薄着になる。柄は伝統的な和柄を使ったものから、花や動物などを使った近代的な可愛らしいものまでさまざま。



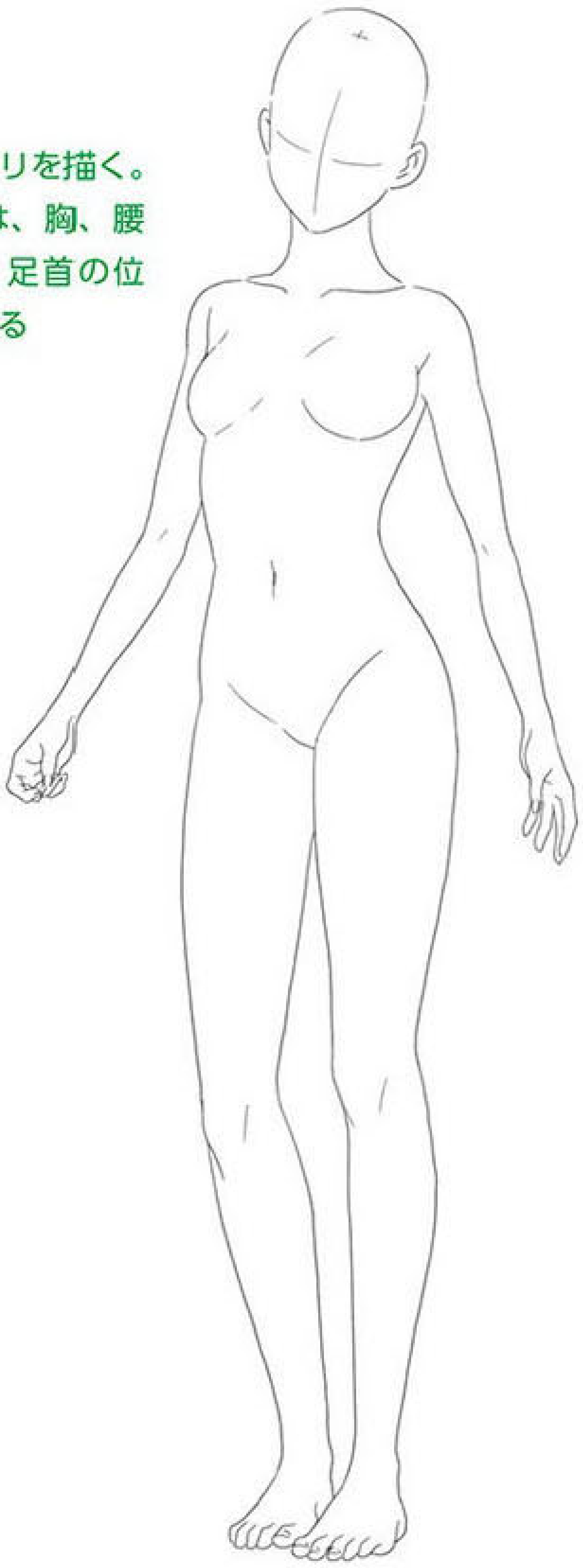
男性の浴衣

女性用との大きな違いは帯周りで、おはしょりがないこと。柄は無地をはじめ、縦縞や格子柄、幾何学的な模様を並べたもの、伝統的な和柄などがある。

女性浴衣の描き方(前側)

1 全身のアタリを描く

▶全身のアタリを描く。女性の浴衣は、胸、腰周り、手首、足首の位置を参考にする



2 襟と前身頃、帯、袖を描く



▲▶胸の下と腰の高さに帯の線を描き、首周りから胸にかけて襟を描く。両肩から手首にかけて袖の輪郭線を描き、肩口から脇の下に向かって生地が寄っているシワを加える

3 下半身の前身頃を描く



◀帯の下におはしょりの線を引き、足のラインに沿って浴衣の下側の線を足首の高さまで引く。膝の高さに斜めのシワを数本描くと足周りが立体的になる

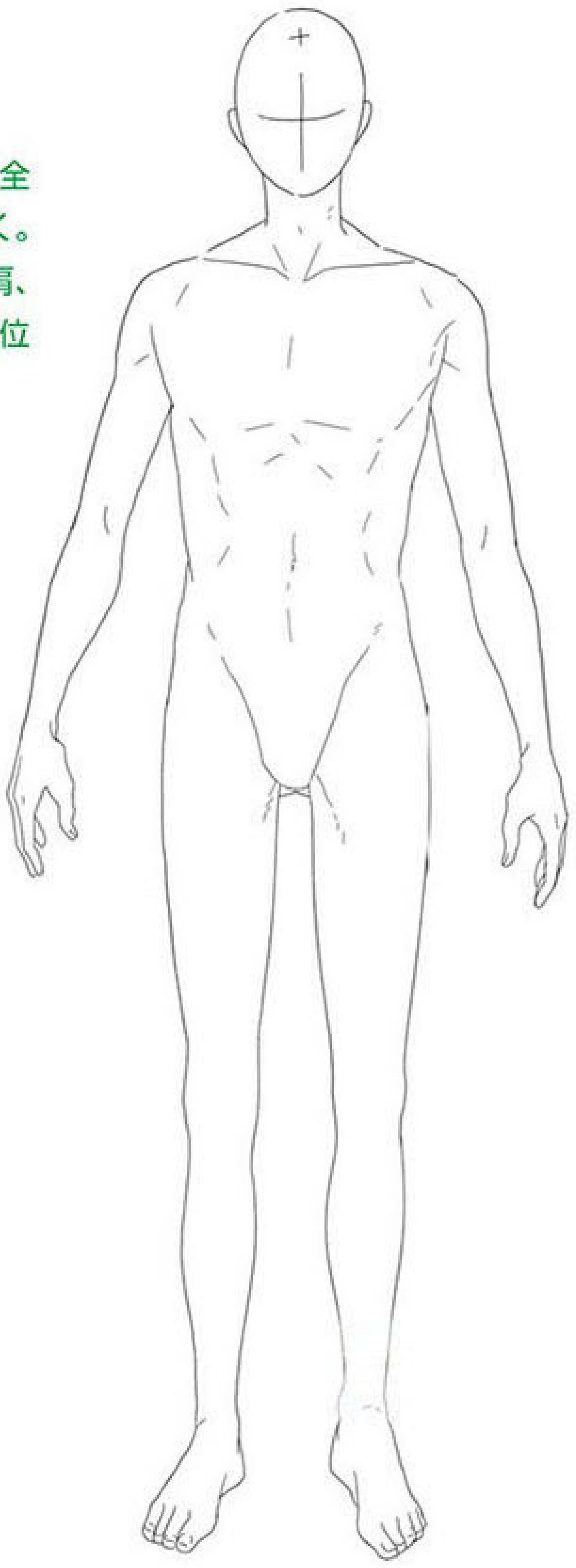
4 完成



▶胸と帯の間、袖の内側、お尻の周り、足首の周りに影を描く。浴衣に花柄のテクスチャを貼って完成

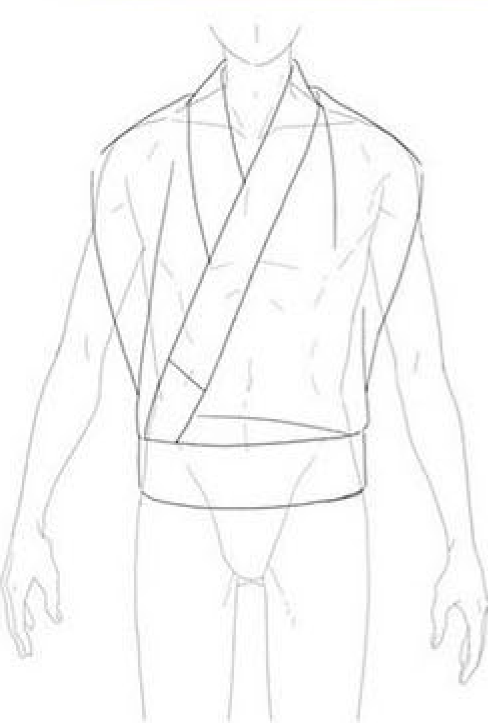
男性浴衣の描き方（前側）

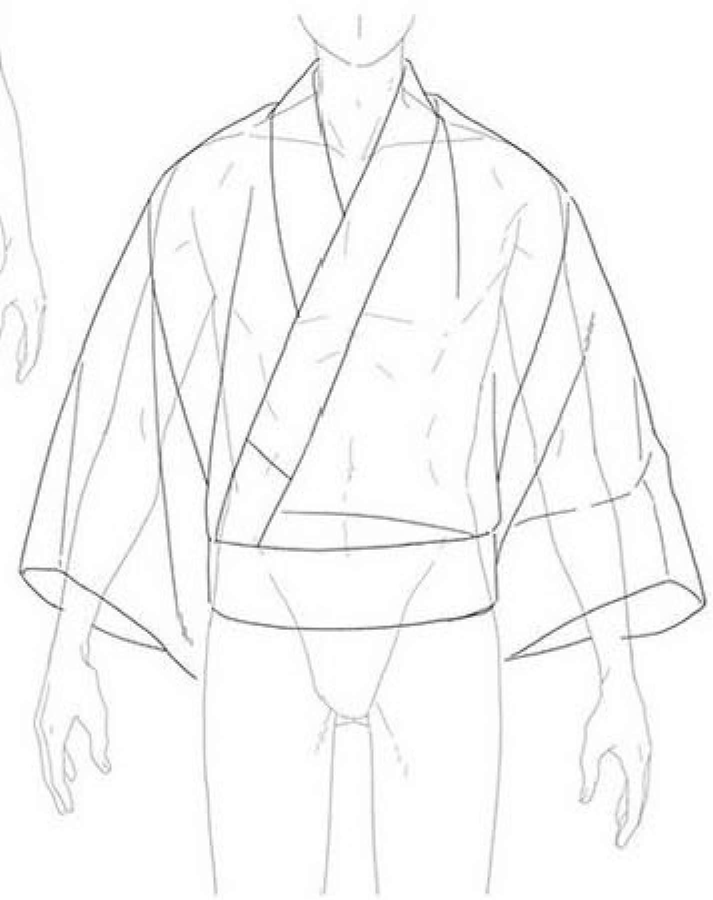
1 全身のアタリを描く



▶足先まで含めた全身のアタリを描く。男性の浴衣は、肩、腰、手首、足首の位置を参考にする

2 襟と前身頃、帯、袖を描く





▲▶腰と股の間に帯の線を描き、首周りから帯に向かって襟の線を描く。肩口は大きく腰の位置まで線を引き、袖は腕が3本入るくらい幅にゆとりを持たせて描く

3 下半身の前身頃を描く



◀帯から足首の高さまで線を引き、浴衣の下側を描く。右手側の腰から裾にかけて生地が重なっている線を描き、中央にシワを数本描くと浴衣の柔らかい質感が出る

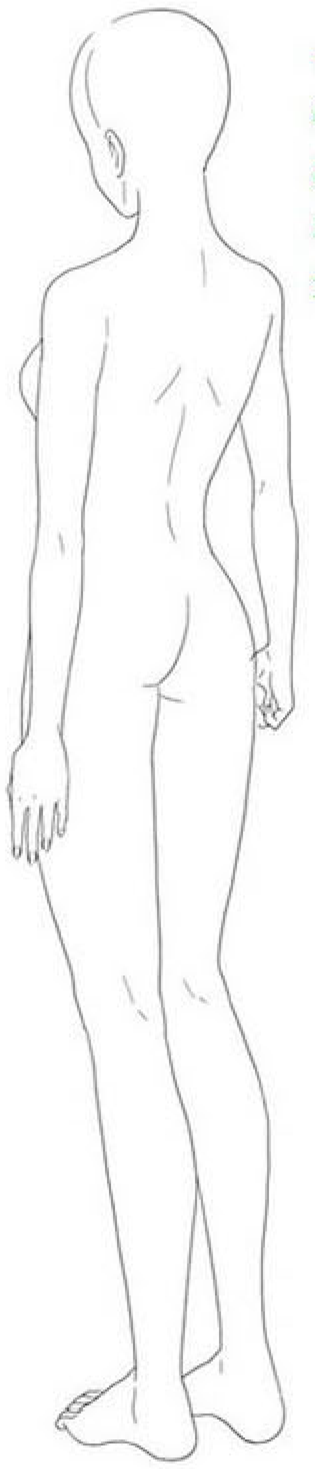
4 完成



▶帯、袖の内側、袖口、裾のシワ周辺、足首に影を描いて完成。裾のシワの影はあまり濃くないのでエアブラシで薄く描こう

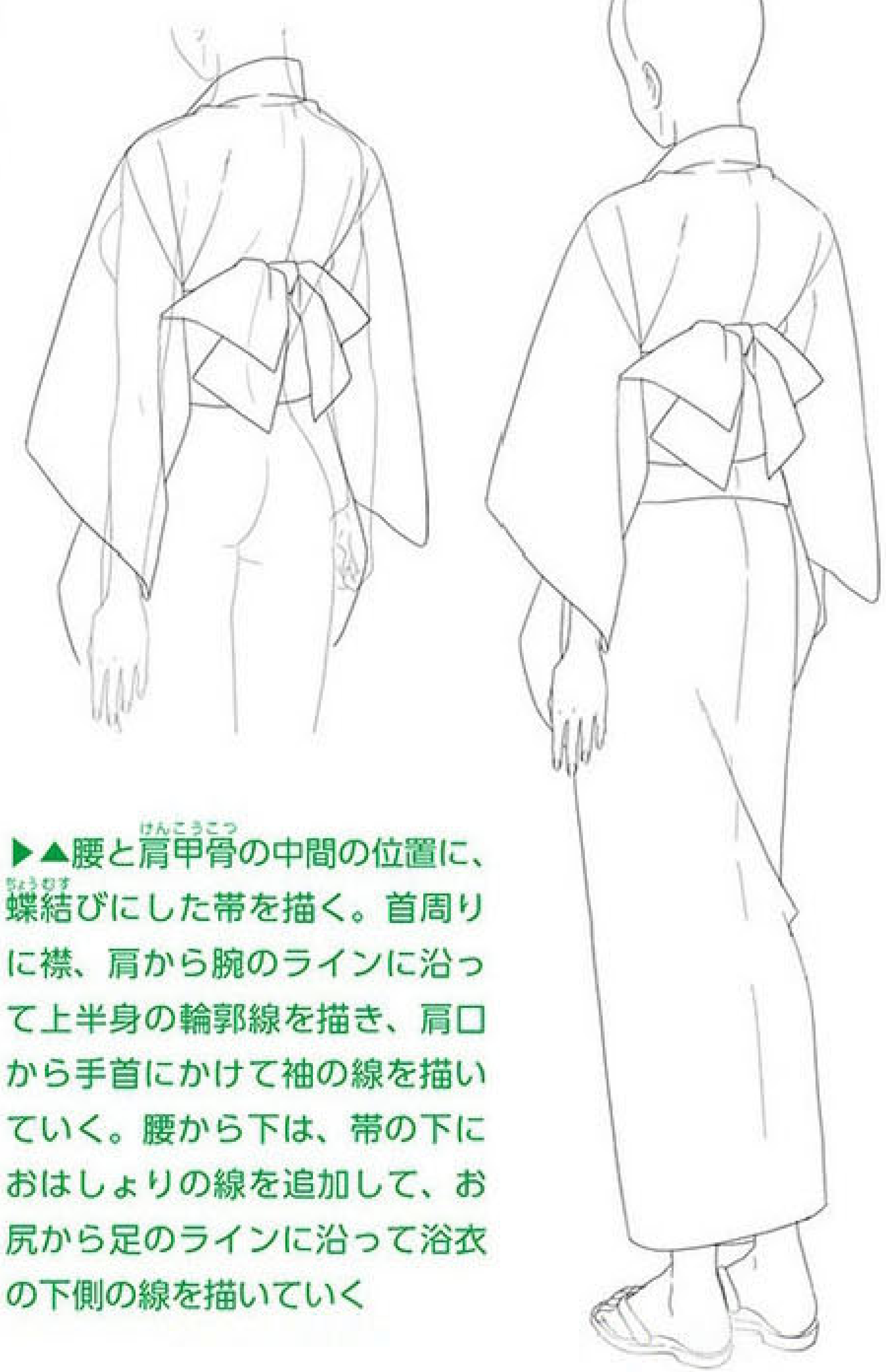
男女の浴衣の描き方(後ろ側)

1 女性の全身アタリを描く



◀着物と同じく、女性の後ろ姿は背中、腰、お尻のラインが滑らかなカーブを描くように全身のアタリを描く

2 帯の結び目と後ろ身頃、袖を描く



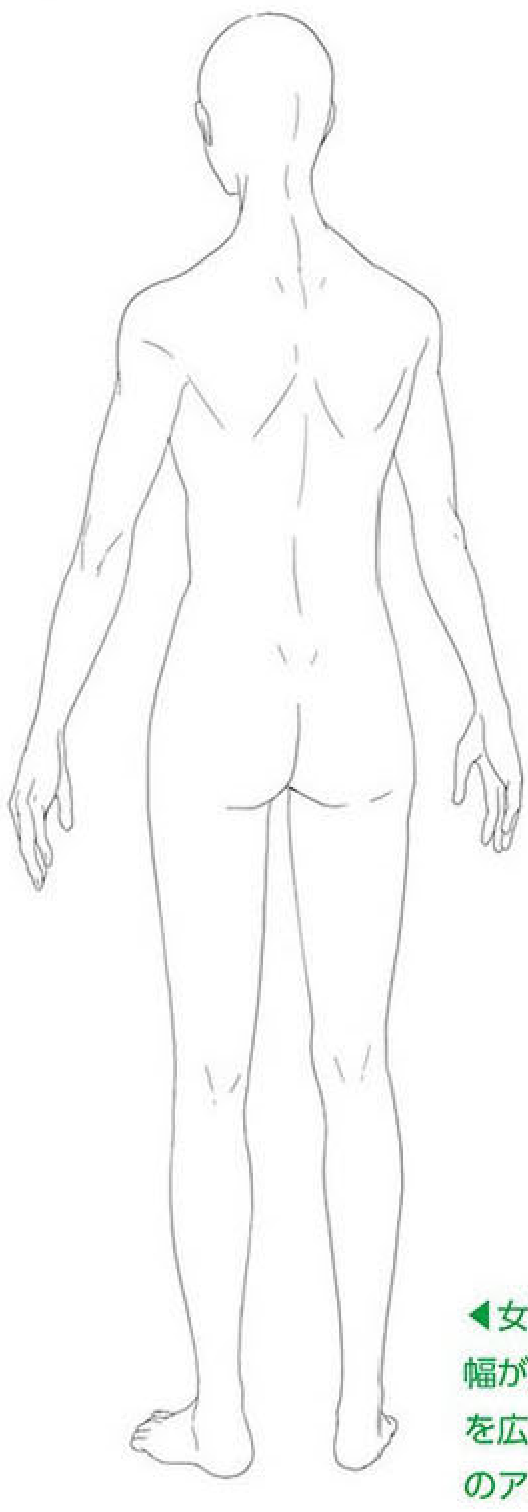
▶▲腰と肩甲骨の中間の位置に、蝶結びにした帯を描く。首周りに襟、肩から腕のラインに沿って上半身の輪郭線を描き、肩口から手首にかけて袖の線を描いていく。腰から下は、帯の下におはしょりの線を追加して、お尻から足のラインに沿って浴衣の下側の線を描いていく

3 完成



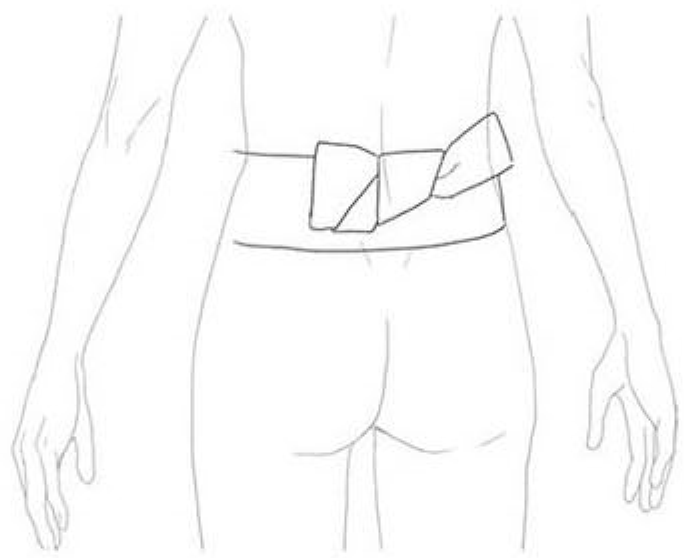
▶背中、帯の下側、袖の隠れている側、足首の周りに影を描いていく。花柄のテクスチャを浴衣の上下にそれぞれ貼って完成

1 男性の全身アタリを描く



◀女性と比べて男性は肩幅が広いのが特徴。背中を広く見せる構図で全身のアタリを描いていこう

2 帯の結び目と後ろ身頃、袖を描く



▶▲腰の位置に帯と結び目を描く。男性の浴衣の帯は貝の口と呼ばれる結び方が一般的。女性と同様に首周りに襟、肩から手首にかけて上半身の輪郭線を描き、肩口からゆったりとした袖の線を描いていく



3 完成

▶帯の位置から浴衣の下側の線を描き、背中と袖の内側、お尻、裾、足首に影を描いて完成



Part 5

アンダーウェア／インナー

タイツ・スパッツ　ベビードール

女性用下着（ブラジャー、ショーツ）　男性用下着

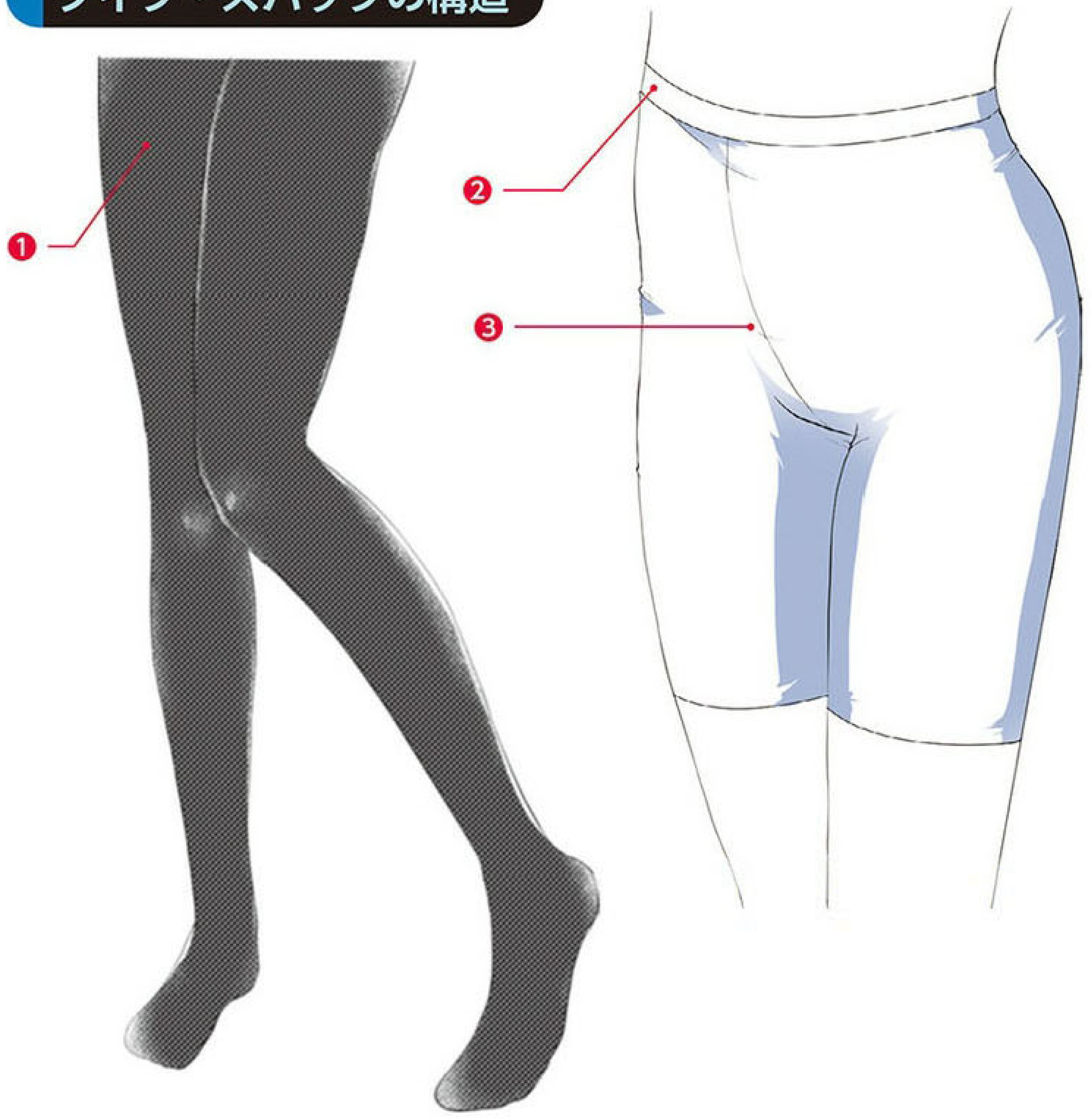


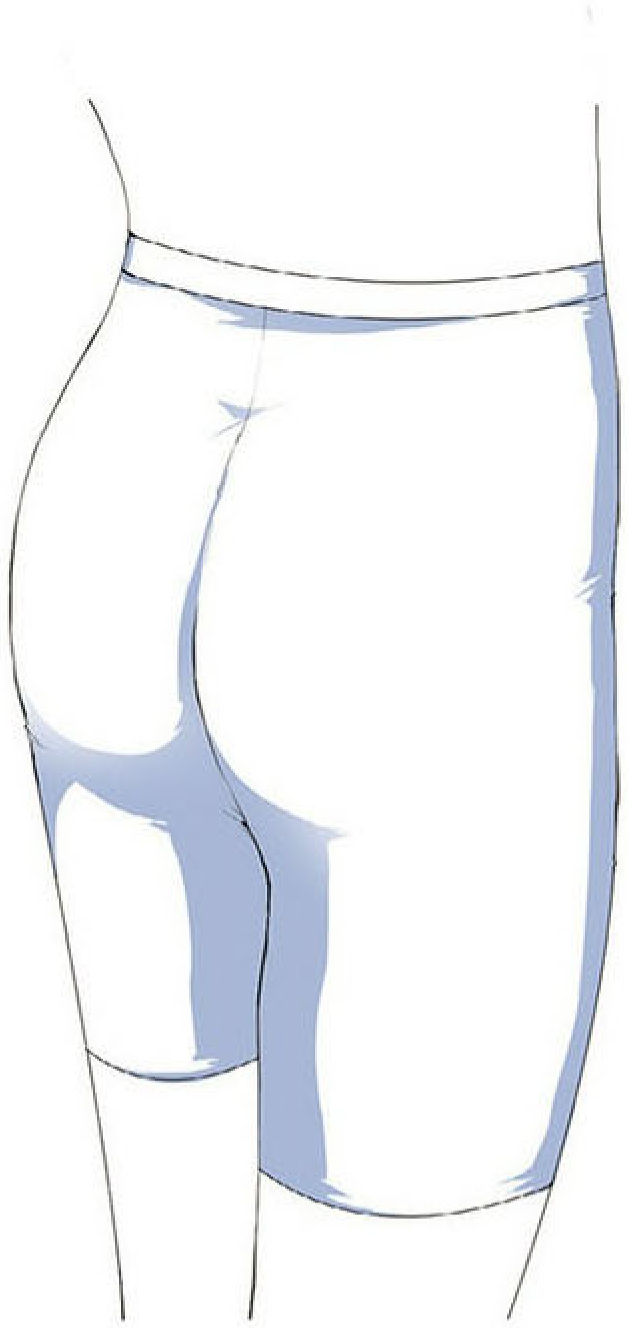


TIGHTS
タイツ・スパッツ

腰から下を覆う、主に女性向けの履き物です。タイツはつま先まで覆うもの、スパッツは丈が膝上のものを指します。

タイツ・スパッツの構造





❶ランガード
❷ウエストテープ
❸センターシーム

タイツ・スパッツの種類

レギンス

丈が膝下から足首にかけてのタイプ。ファッション性が高く、主に重ね着のインナーとして用いられる。



ヒールやパンプスからサンダルまで、さまざまな靴と合わせやすい

対応できる服装が多く、落ち着いた雰囲気から活発なキャラクターまで、さまざまなスタイルの足元にメリハリをつけることができる

足が細く見えるため、健康的な女性キャラをより軽やかに演出することができる

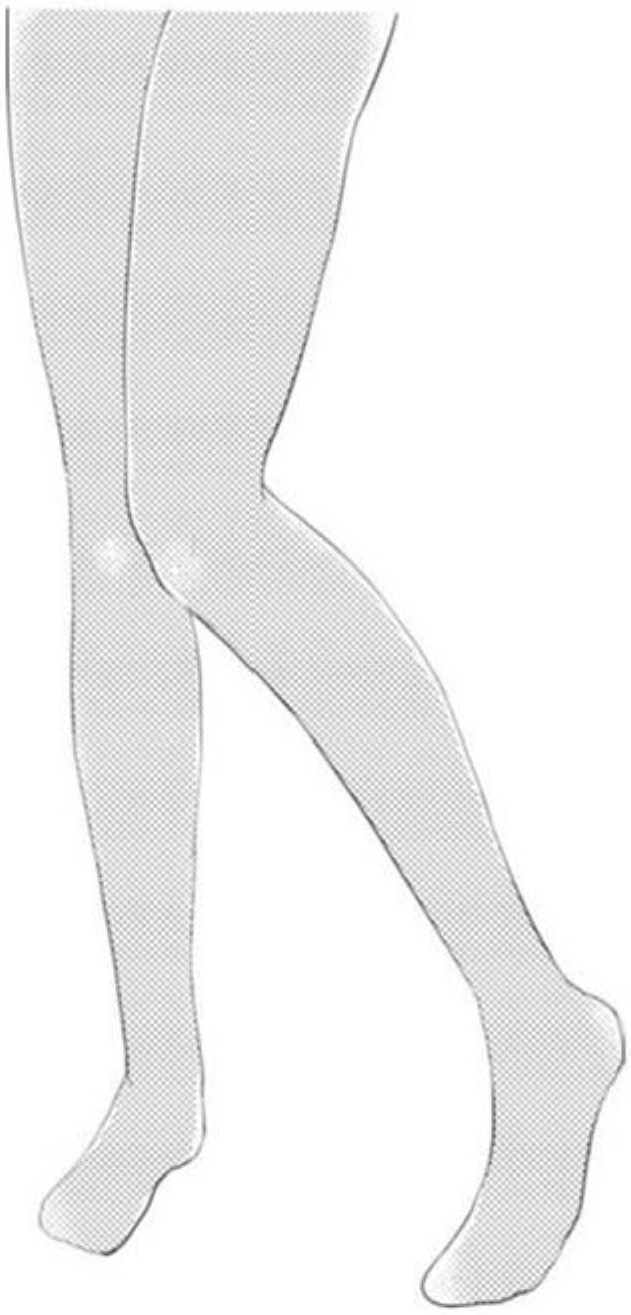
トレンカ

足まで覆うが、つま先とかかとの部分がなく、土踏まずの周囲のみを覆った形状のレギンス。



短い丈のボトムスにパンプスやサンダルと合わせることで美脚が強調される

タイツのデニール（糸の太さ）違いの描き方



20デニール

30デニール未満はストッキングに分類される。全体的に透けが強く、骨ばっている箇所や肉付きの良い箇所が透けやすい。



40デニール

透け感が強めに出る。肉付きのある箇所が、少し浮き上がるように白っぽく透けるのがポイント。



60デニール

ほんのりとした透け感がある。全体がほどよく締まって見えるためシルエットが美しく、清潔感も高め。



80デニール

透け感はほとんどなくなるが、ポーズや構図によっては膝の頭とつま先のみ、うっすらと透けが出る。



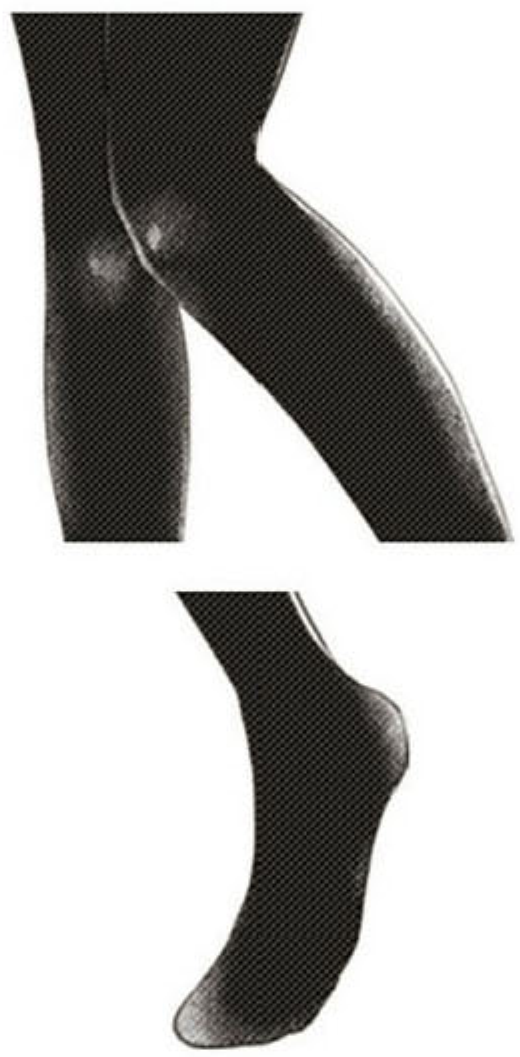
110デニール

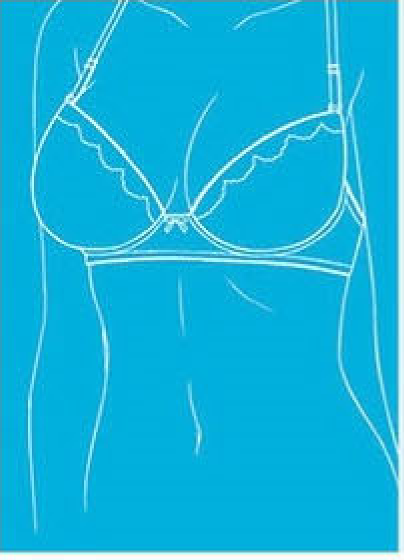
透けることはほとんどない。防寒用途での着用が主なので、全体的に少し野暮ったいシルエットになる。

POINT

タイツが透けやすい箇所

膝や足の先端、かかと、ふくらはぎの箇所は、タイツが突っ張って生地が薄くなります。薄くなる部分を白くすると、肌が透けている感じが出ます。



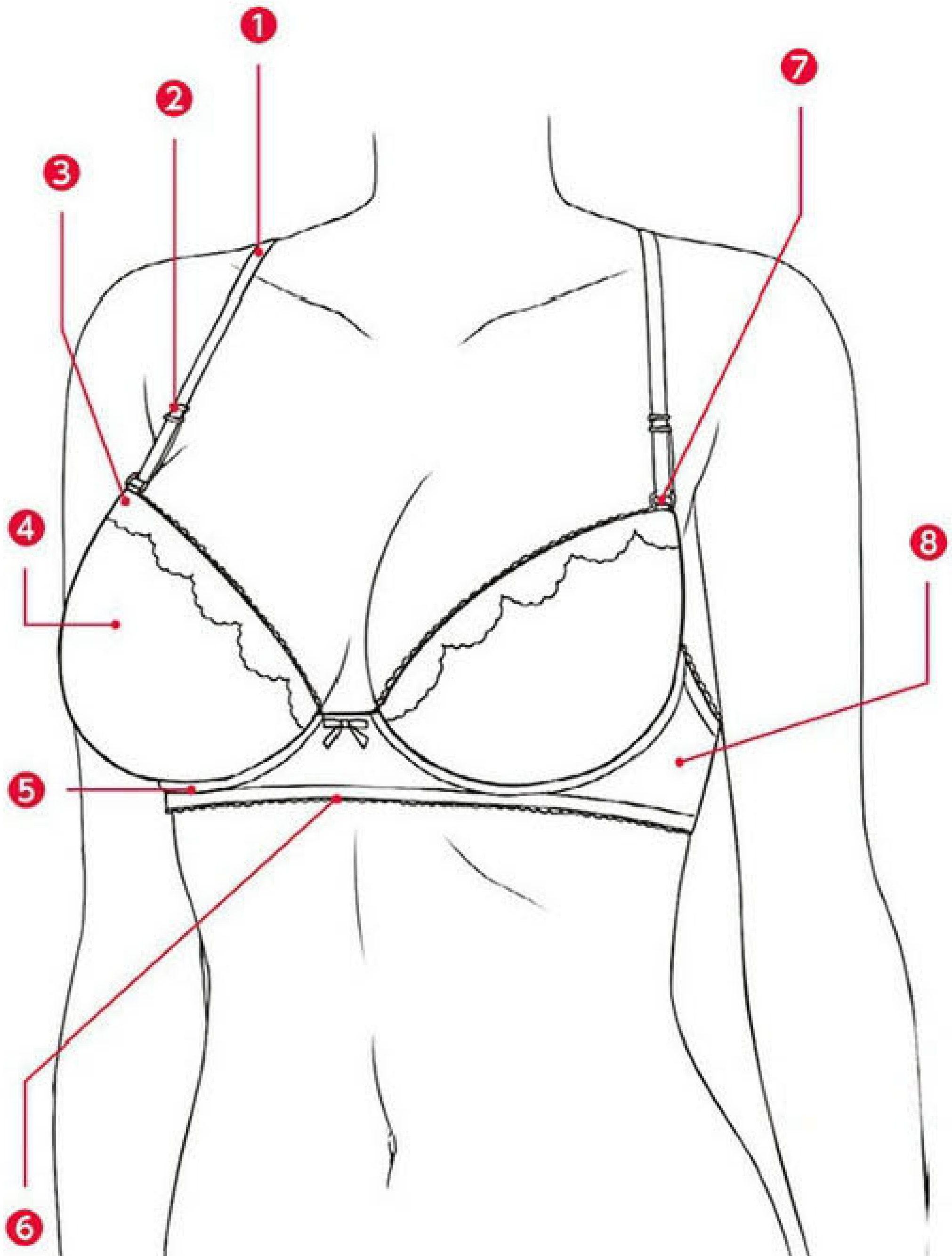


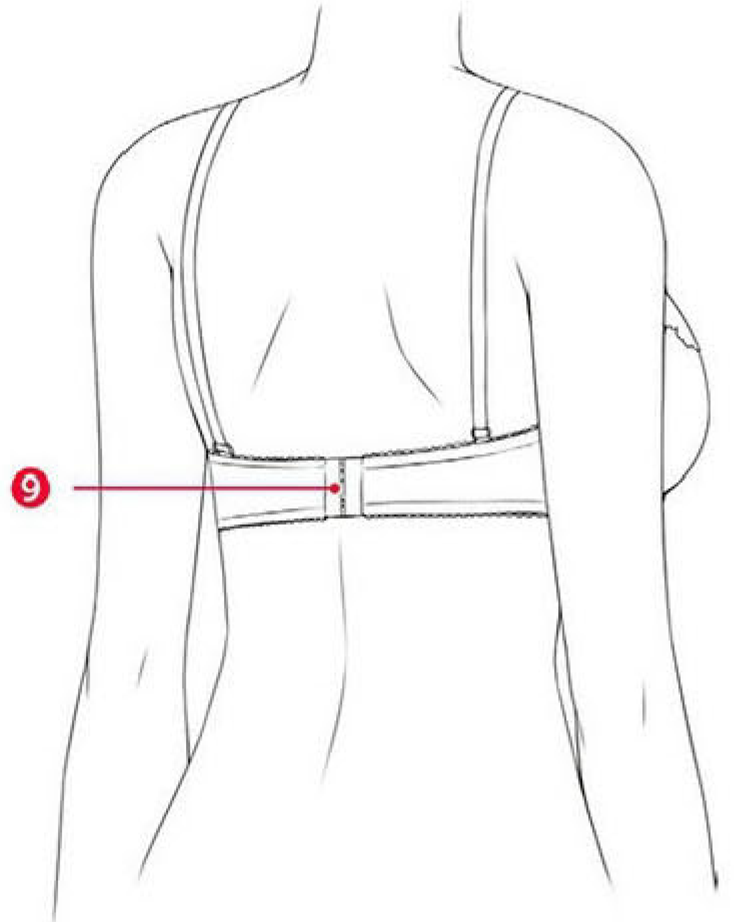
BRASSIERE

女性用下着(ブラジャー)

女性が胸部を支えるために着用する下着です。バストの形や求める補正効果、着用するシーンに合わせた、さまざまなタイプが存在しています。

ブラジャーの構造

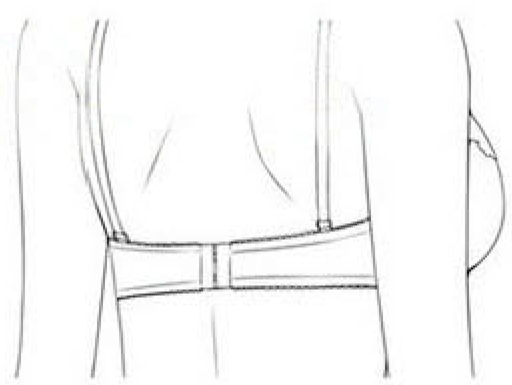




❶ストラップ
❷アジャスター
❸装飾
❹カップ
❺アンダーワイヤー
❻アンダーベルト
❼ホック(ストラップ部)
❽サイドベルト
❾ホック(背面部)

POINT

背中の見せ方

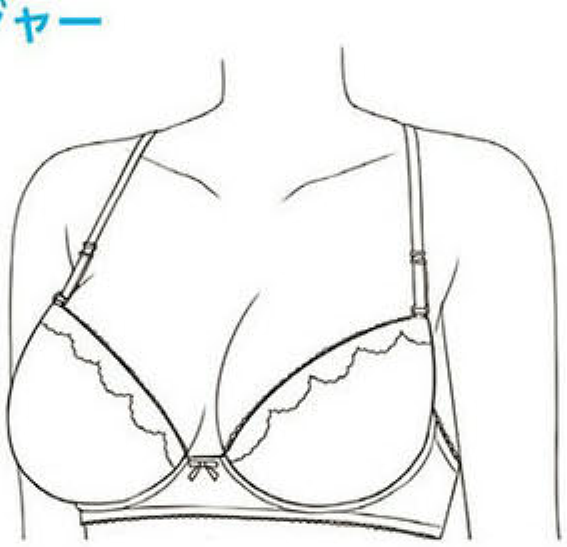


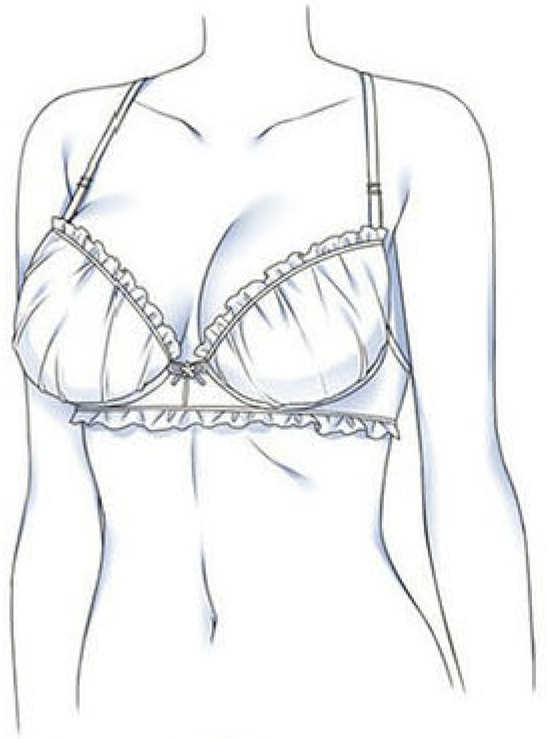
ブラジャーをした背中の立体感を出すには、肩甲骨の線が重要です。ラフを描く段階で体の中心線のアタリを描いておくと、肩甲骨とホックの位置が決めやすくなります。

ブラジャーの種類とモチーフ例

3/4カップブラジャー

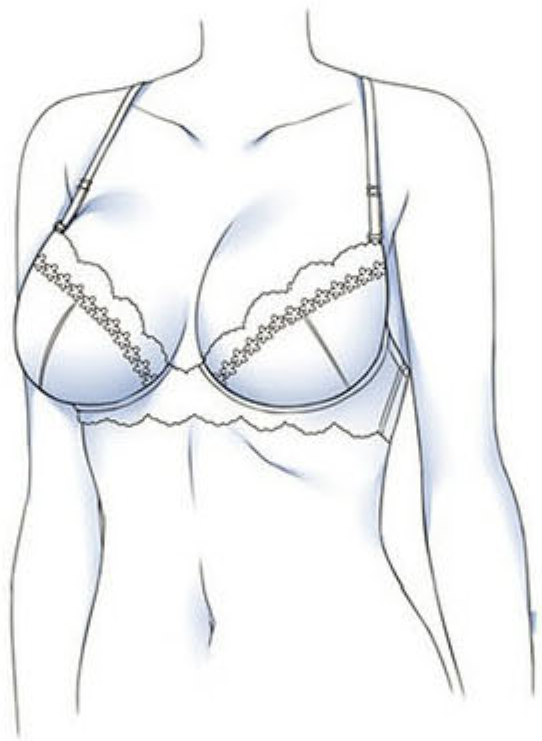
カップの上1/4が斜めにカットされたタイプ。バストを寄せつつ持ち上げるため、谷間が美しく強調される。





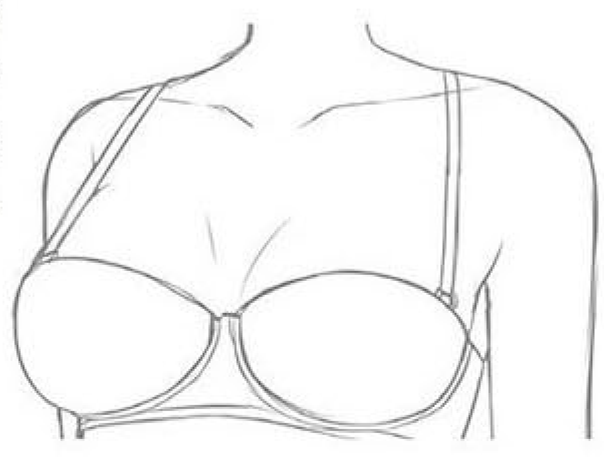
フリル柄

カップの縁やアンダーベルトのラインにフリルをあしらったもの。カップ部分に薄い布のようなシワを入れると綺麗に見える。



1/2カップ(ハーフカップ)ブラジャー

カップの上1/2が水平にカットされたタイプ。ストラップを外せるものが多く、バストは丸めに整えられる。

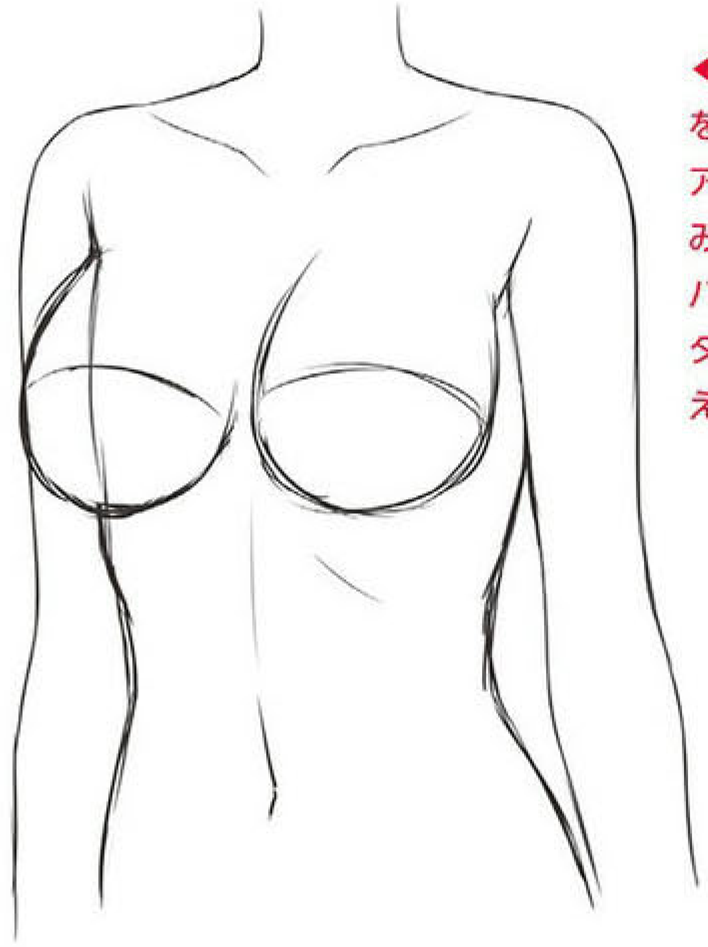


レース柄

カップの角度に合わせて小さい花柄のレースをあしらったもの。カップの縁やアンダーベルトを花びらの形にすると可愛く見える。

3/4カップブラジャーの描き方（前側）

1 体と胸のアタリを描く



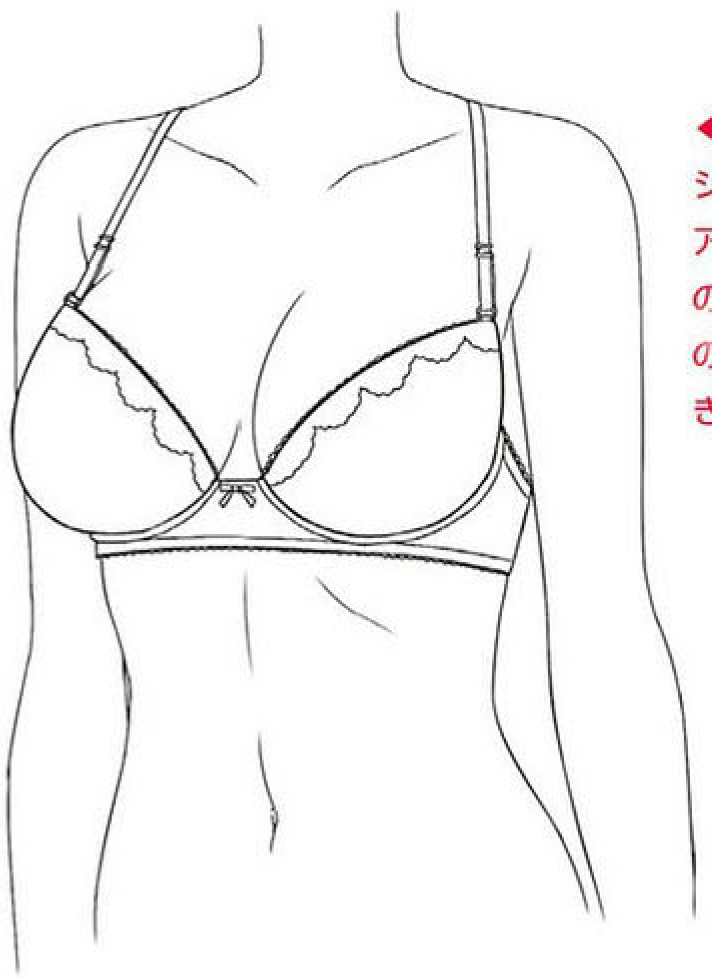
◀はじめに胸のない体を描き、その上に胸のアタリを描く。胸の丸みをイメージしながらバストトップを通るアタリ線を引いて形を整えていく

2 ブラジャーのカップとワイヤーを描く



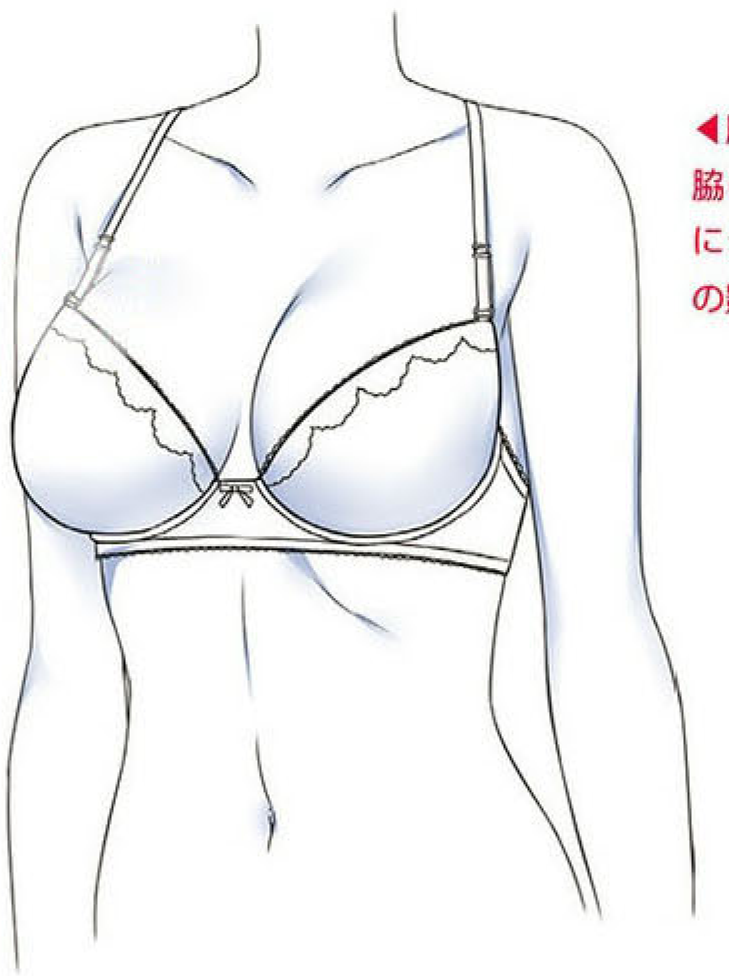
◀胸のラインに沿って3/4サイズにカットしたカップを描き、カップを支えるようにアンダーワイヤーやアンダーベルトを描いていく

3 柄やストラップを描き込む



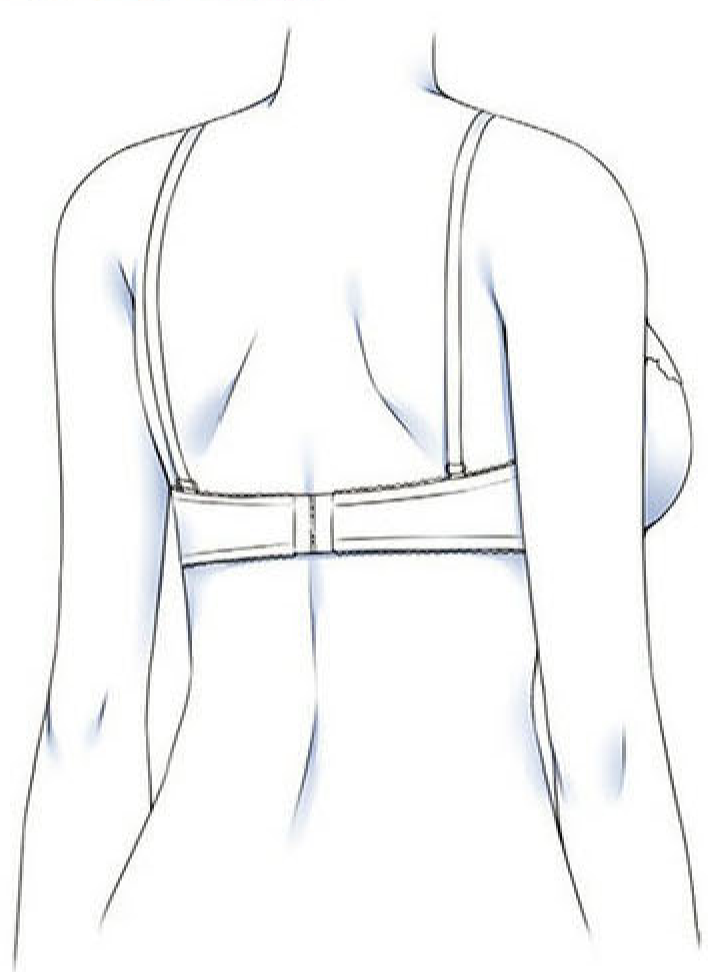
◀体の線を整え、ブラジャーのストラップやアジャスター、カップの柄やアンダーベルトのリボンなど飾りを描き加える

4 完成



◀胸やカップの下側、脇の下、肋骨や鎖骨にグラデーション状の影をつけて完成

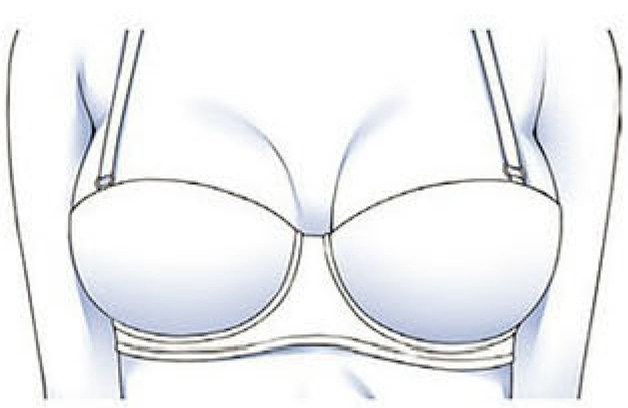
後ろ側の作例

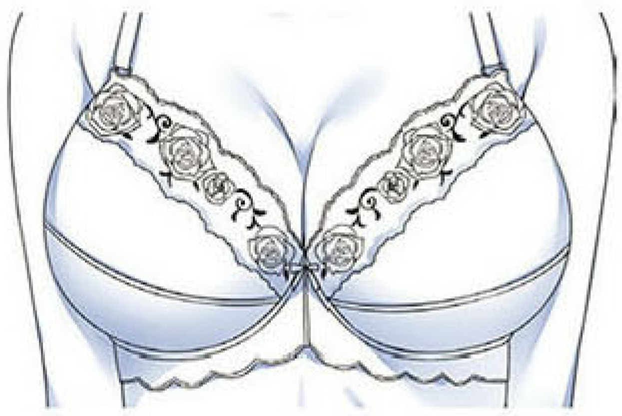


POINT

胸のサイズとカップの形

ハーフカップは胸を綺麗に見せることができますが、胸が大きいとカップからはみ出してしまいます。カップの中でポピュラーな形は3/4カップですが、胸が大きなキャラはフルカップを使うほうが胸の形を良く見せることできます。

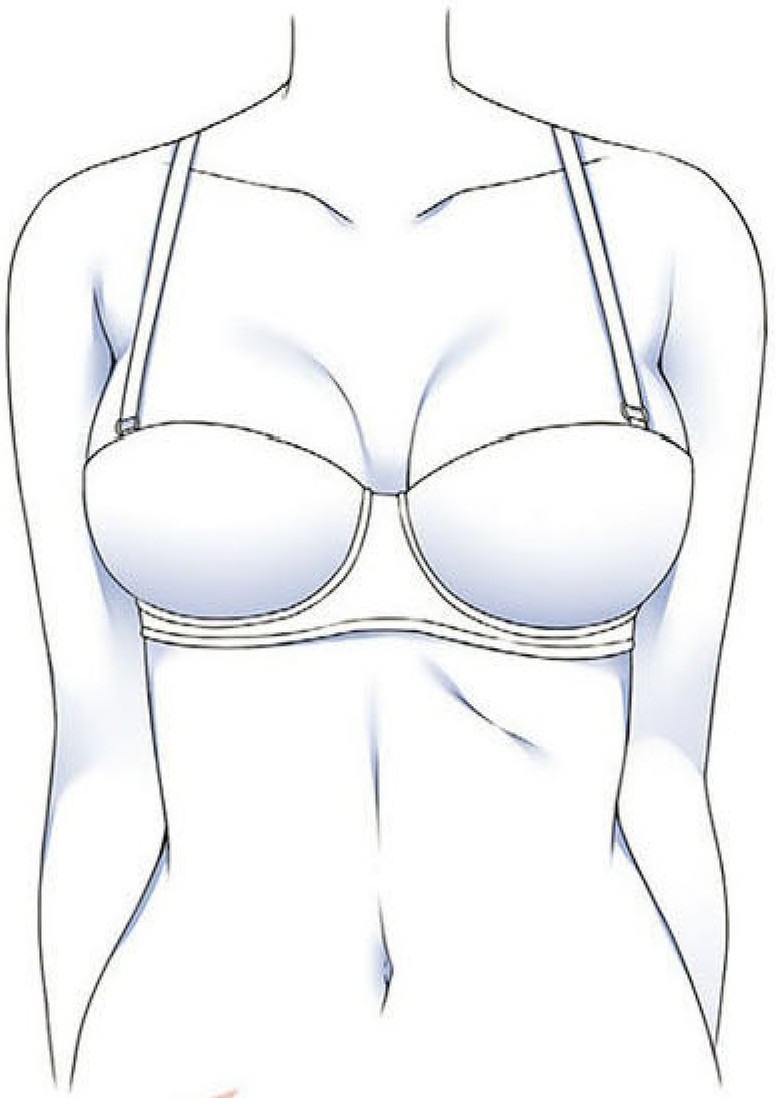




ブラジャーの作例

1/2カップ(ハーフカップ)ブラジャー

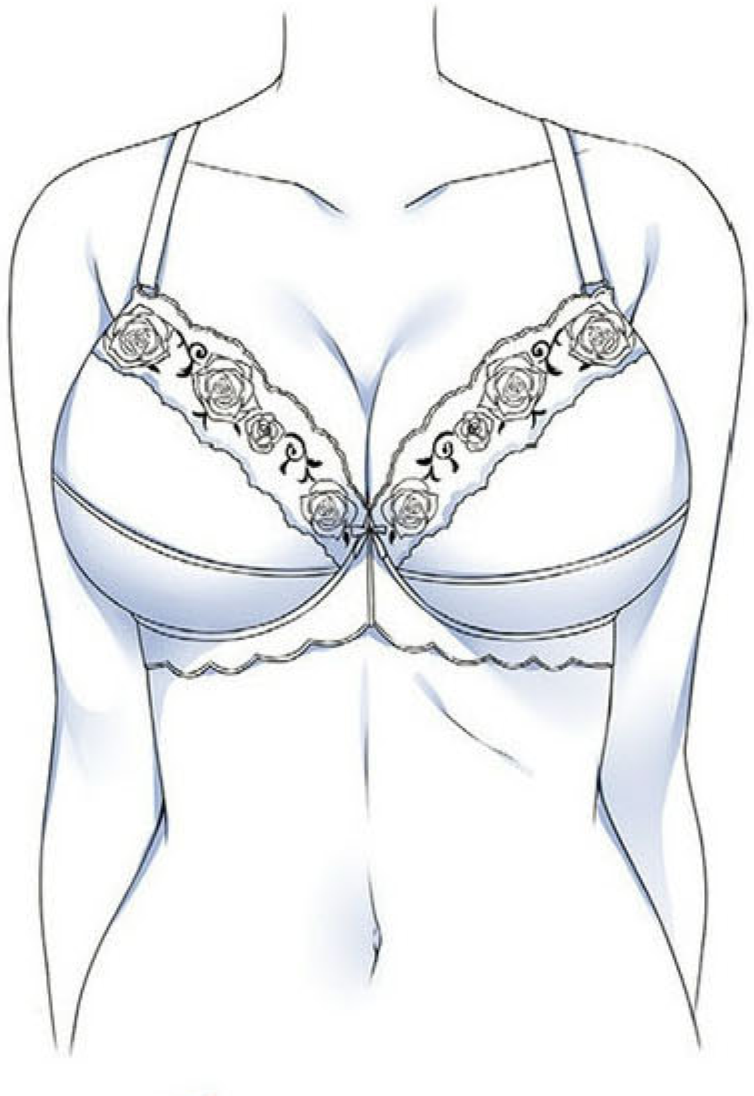
硬めのカップとワイヤーで、バストが下からしっかりと持ち上げられる。露出する面積も大きいため、胸の膨らみが強調されやすい。



Vネックなど襟ぐりが深く胸元が見えやすい服を着る際に使いやすい

フルカップブラジャー

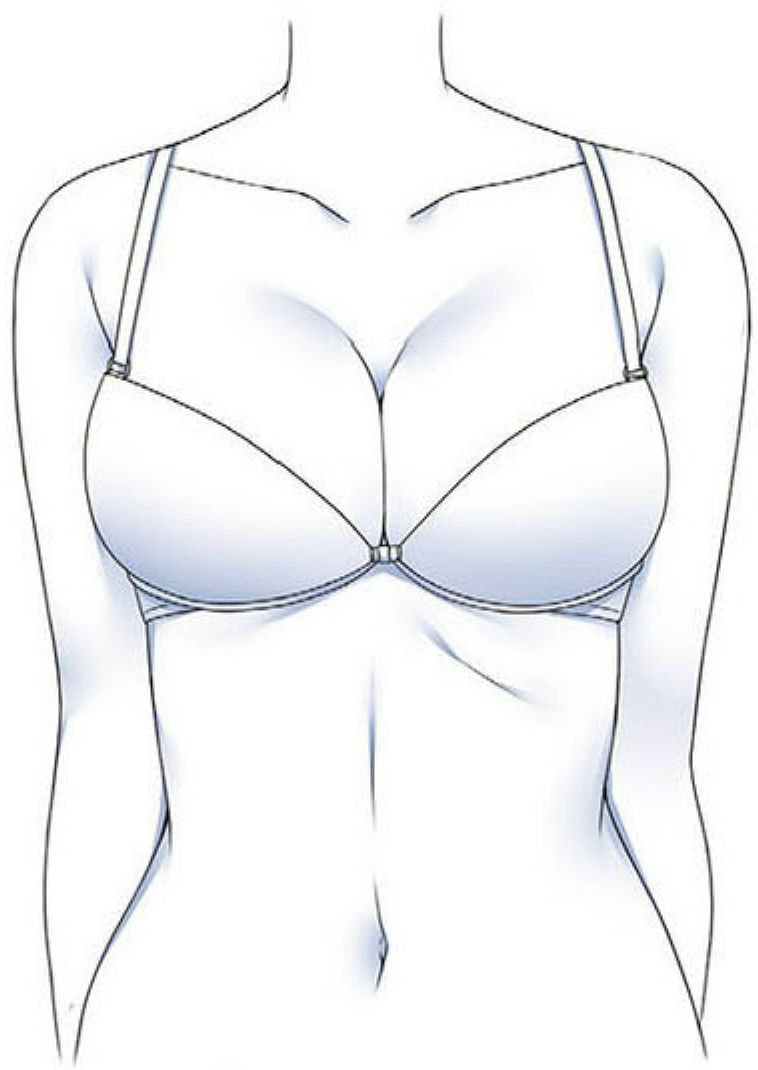
胸全体をほぼ完全に包み込むのが特徴。バストアップ目的ではなく、胸の形を自然な丸みへと整える用途で使われることが多い。



大きな胸のキャラでもボディラインを綺麗に見せることができる

フロントホックブラジャー

ホックが前にあるブラジャー。両脇や背中の肉をカップに収めてバストを中央に寄せるため胸の谷間がくっきりできる。



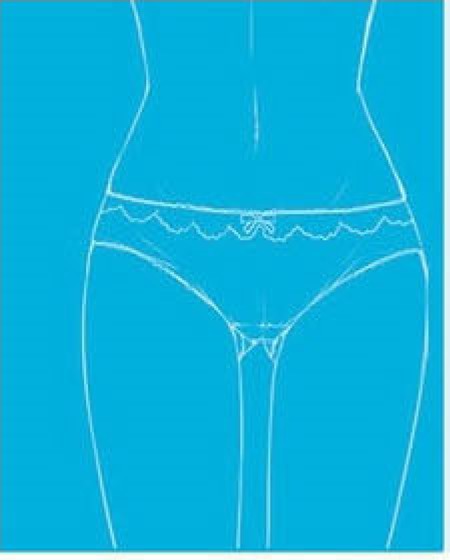
バストアップがしやすく胸が小さいキャラでも谷間を作って大きく見せることができる

スポーツブラジャー

運動中のバストのズレや揺れを抑えるブラジャー。タンクトップのような形状で体にフィットし、動いても胸がズレにくい。



細くしなやかな体をした健康的な女性キャラが着ると健康美が強調される

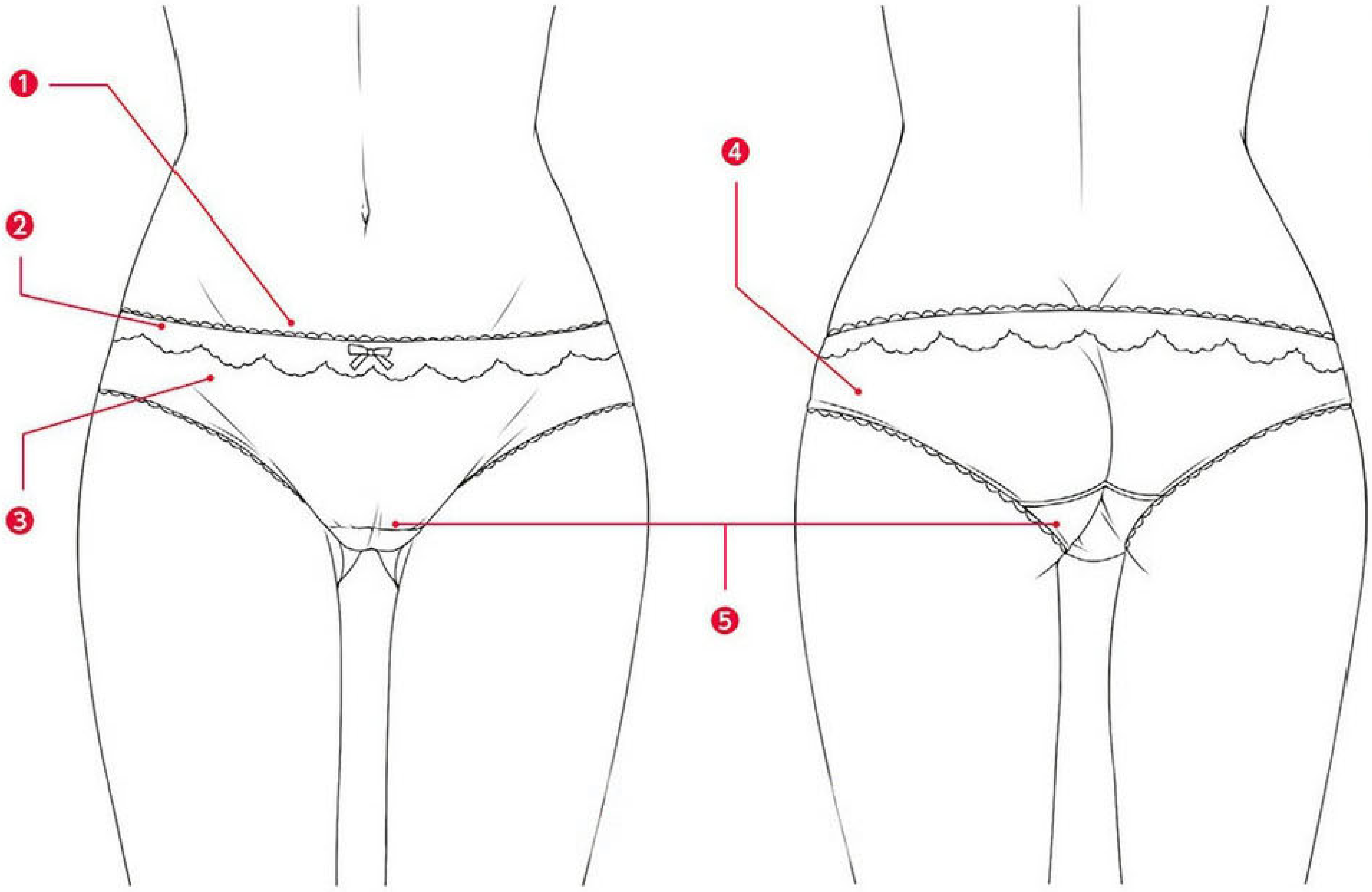


PANTIES

女性用下着(ショーツ)

女性の下半身を覆う下着です。構造はどれも概ね共通していますが、装飾や布の形状によって、多くのバリエーションが存在しています。

ショーツの構造



❶ウエスト
❷装飾
❸フロント(前身頃)
❹バック(後ろ身頃)
❺クロッチ

ショーツのモチーフ例

花の刺繍

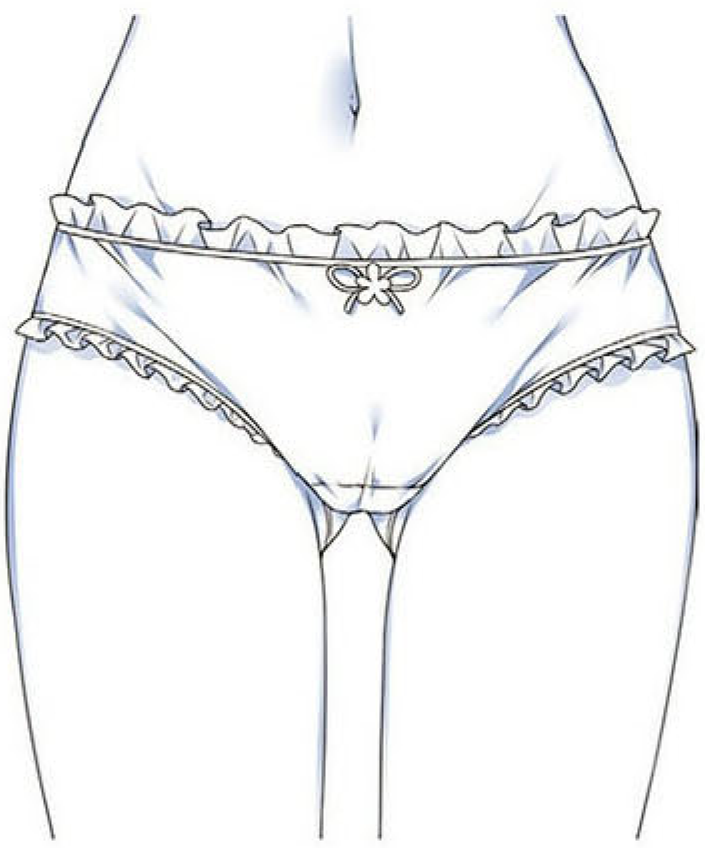
フロントに小さな花の刺繍をならべた可愛らしいデザイン。ウエストの飾りも花をモチーフにしている。



個性が強すぎず、10～20代の女性キャラに幅広く使っていける

リボンフリル

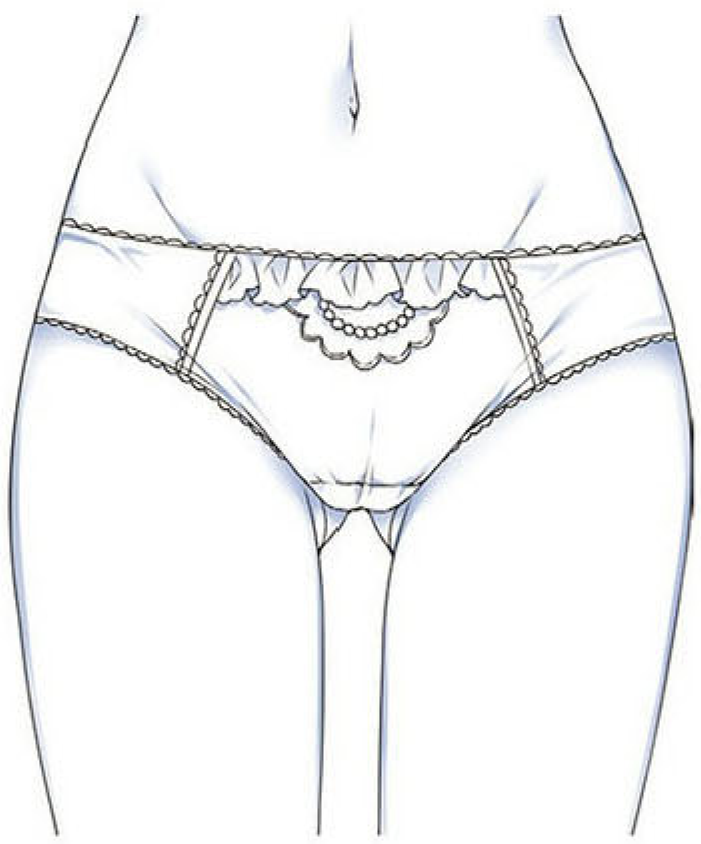
フロントに小さなリボン、ウエストにフリルをつけた女の子らしいショーツ。脚側のフリルは小さめ。



少女的な印象が強く、10代の女の子やドレスを着る可愛い系キャラ向け

フロントフリル

フロントに縫い目があり、中央にフリル、縫い目に飾りをつけたデザイン性の高いショーツ。



落ち着いた雰囲気があり年上の女性キャラに着せても○

ショーツの描き方(前側)

1 ショーツのおおまかな形を描く

▶下半身のアタリを描き、ウエストと両足の位置を参考にしながらショーツの輪郭線を描く



2 装飾を描く

▶ウエストのラインに沿ってフロントにリボンやレース状の飾りを描く。クロッチの周りにもシワを描き込む



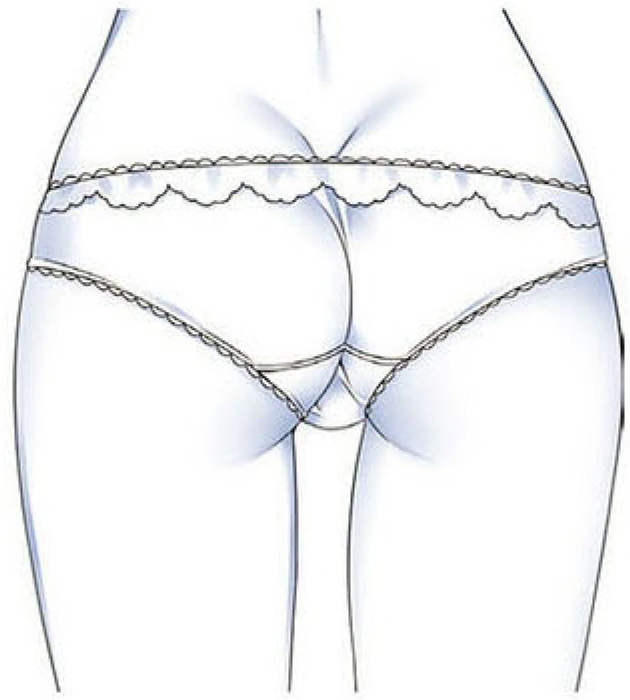
3 完成

▶前から見えているお尻の部分に影を描いていく。最後に飾りやシワにも影を入れて完成



後ろ側の作例

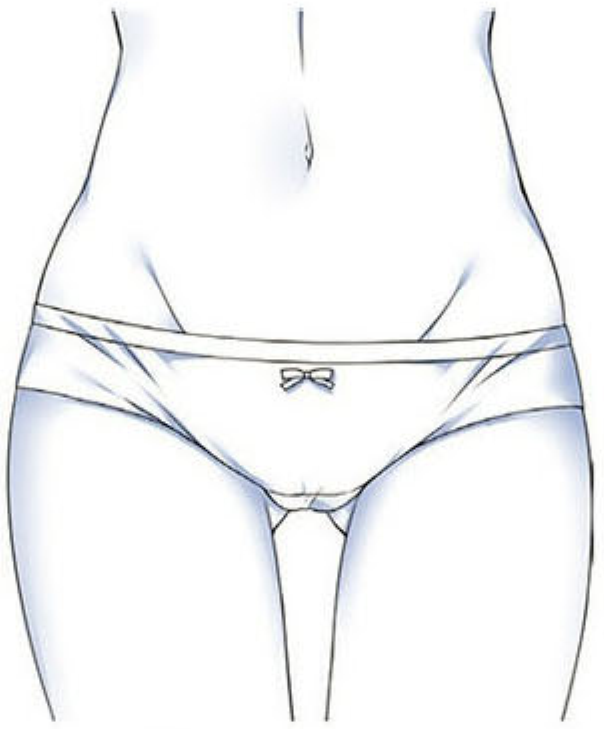
▶お尻は肉厚な部位なので、中央のお尻の間はショーツの生地がたるんでシワができやすい



ショーツの作例

ローライズショーツ

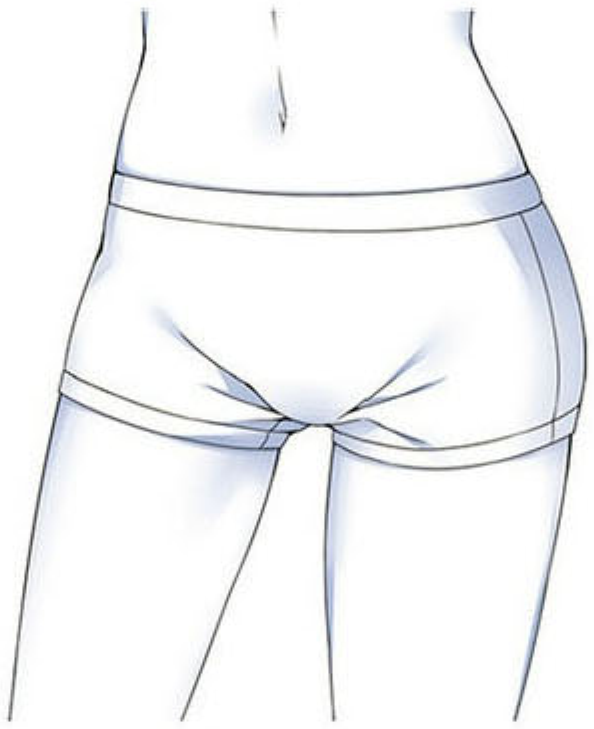
股上が浅いローライズのボトムスを履いたときに下着が露出しないように作られたショーツ。鼠径部のラインが見える。



ローライズのジーンズと合わせることが多く、スタイルのいい女性向け

ボックスショーツ

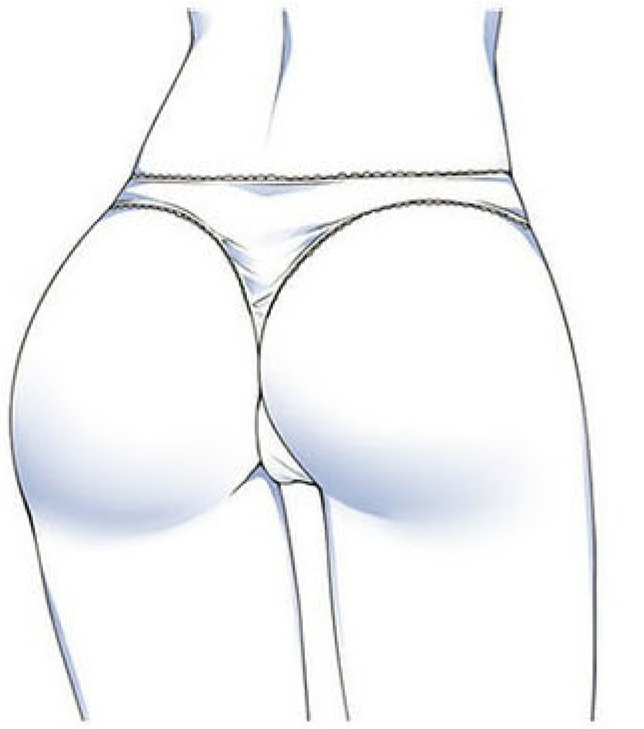
男性のボクサーパンツに似た形状で、浅めの股下丈を持つ。ボーイズレッグショーツとも呼ばれる。



すっきりとした印象で、スポーティな服やボーイッシュな女の子に合う

Tバック

背面側がT字型にカットされていてお尻が露出する形状の下着。布面積が少ないためお尻の間に生地が挟まる。



タイトなパンツなど肌に密着するタイプのボトムスを履く際に着用する

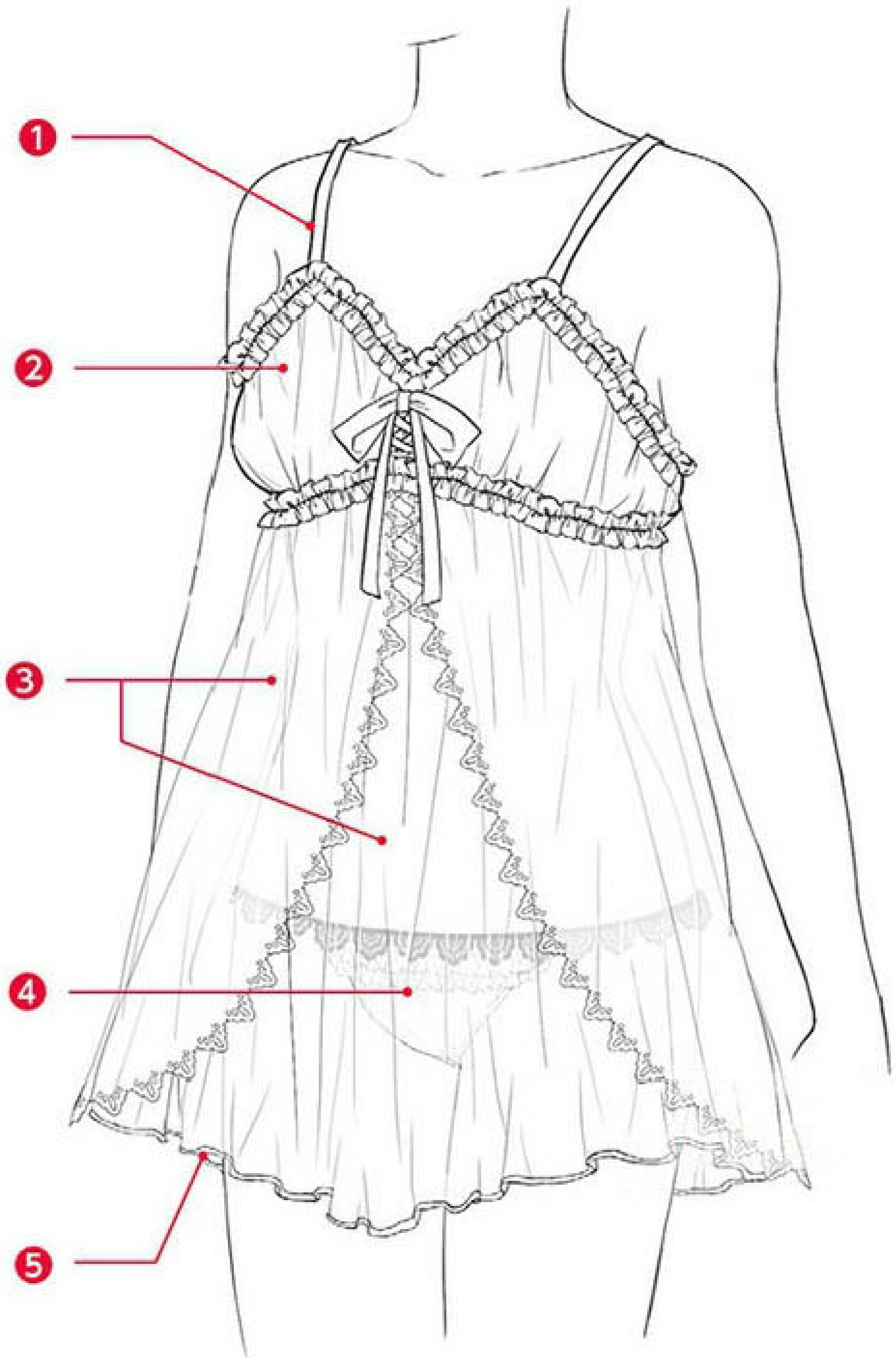


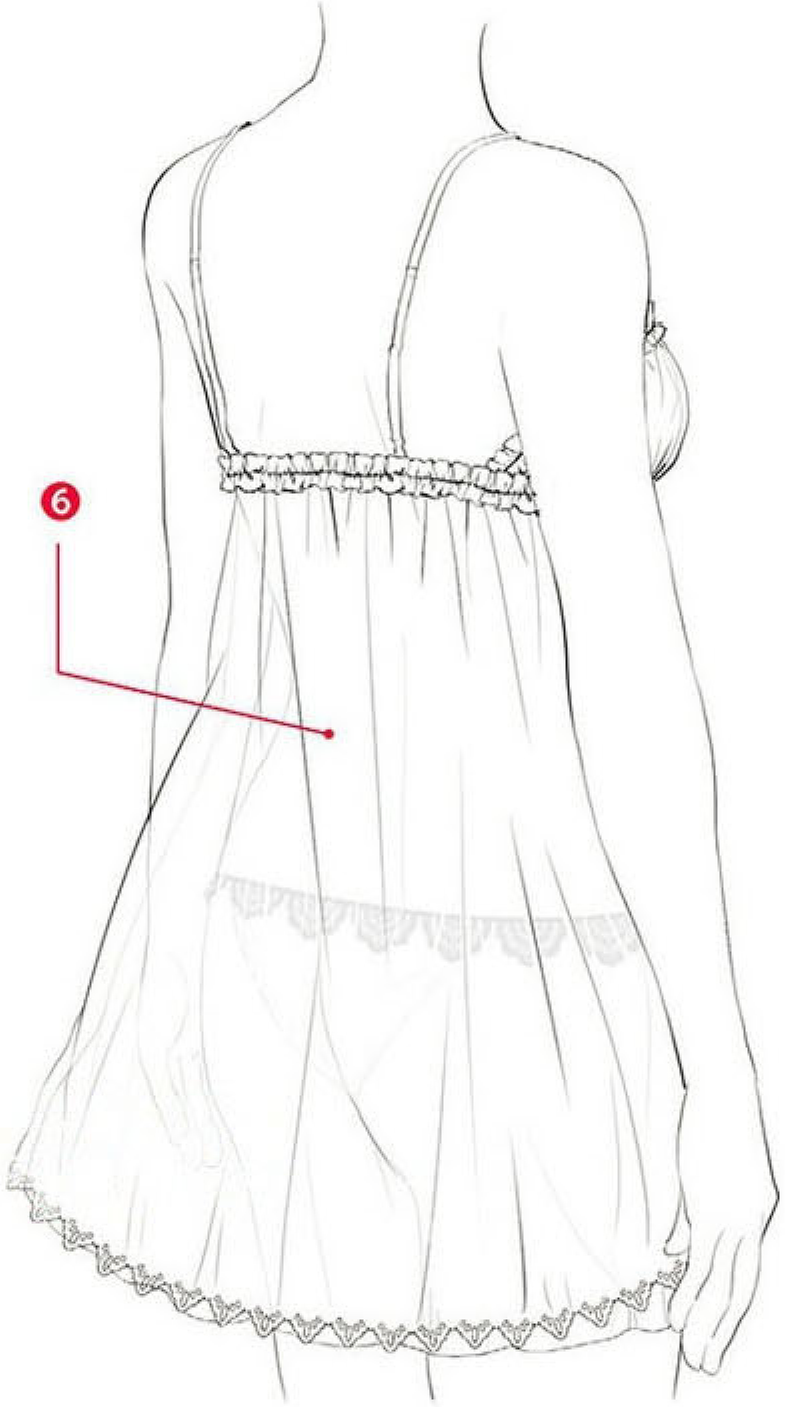
BABY DOLL

ベビードール

ワンピース型の女性向けナイトウェアです。ふんわりとしたシルエットで丈は短く、装飾性にも富むため、小悪魔な雰囲気が強く出ます。

ベビードールの構造





1 ストラップ
2 バストカップ
3 フロント（前身頃）
4 ショーツ
5 裾
6 バック（後ろ身頃）

ベビードールのシワができる部分

お腹周りの生地

フロントのレース生地には、バストのアンダーベルトから裾に向かって縦方向のシワができる。

ベビードールはショーツとセットになっているものが多い



飾りのフリル

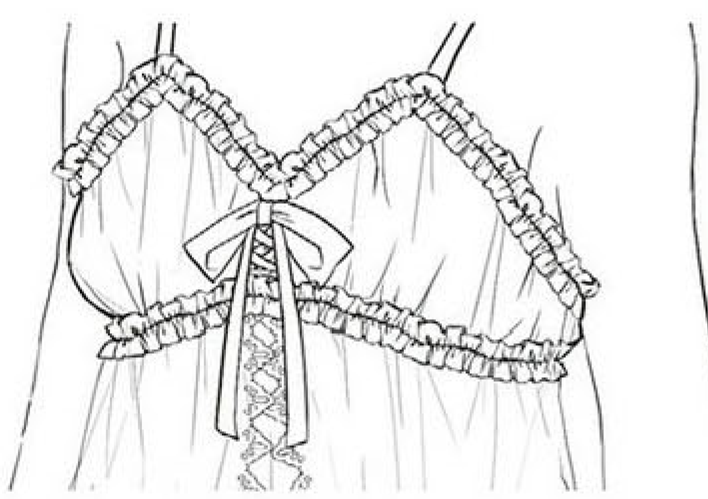
バストの周りを囲むフリルの飾り部分は生地が密集しているため、たくさんの細かいシワができる。

生地を縫い付けてある中央の線から外側に向かってシワが伸びている



バストの生地

フリルに囲まれたバストカップの部分にはシルクなど柔らかい素材が使われているのでシワができる。



周囲に縫い付けてある上下のフリルの位置から縦にシワができている

ベビードールの描き方（前側、後ろ側）

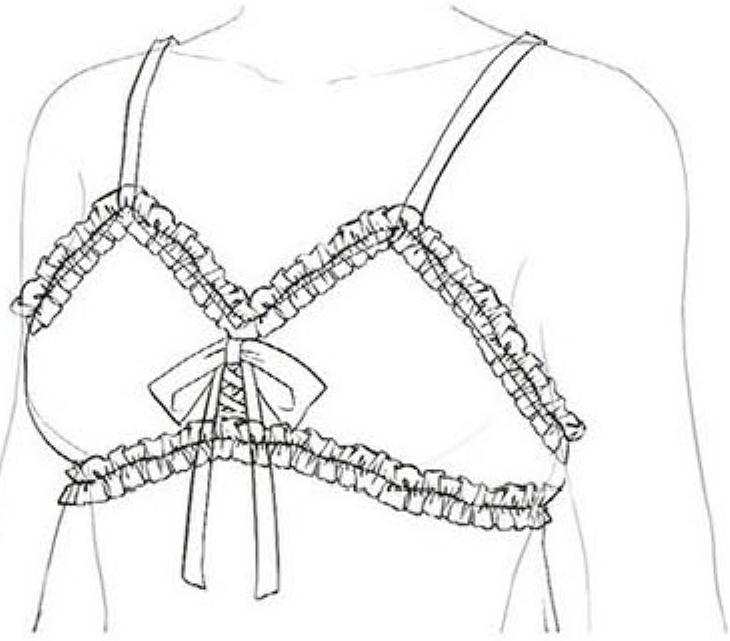
前側

1 胸のラインを軸に服の輪郭線を描く

▶胸の形に沿うようにバストカップ部分を描く。フロント部分は、バストカップの下の位置からお腹周りを包み込むようなAラインのシルエットにする



2 バスト周りのフリルを描く



▲バストカップの周りに線を引き、その線を基準に上下にフリルを描いて装飾を描き込んでいく

3 フロントのレースを描く

▶リボンの真下から前開きになって左右の裾へ向かうラインを描き、ラインに沿ってレースの柄を入れる



4 バストカップやフロントにシワを描く

▶フロント部分の生地は、透け感を出すためにシワの線を薄く描く。バストカップの生地は濃い線で描くと透けない生地に見える



5 完成

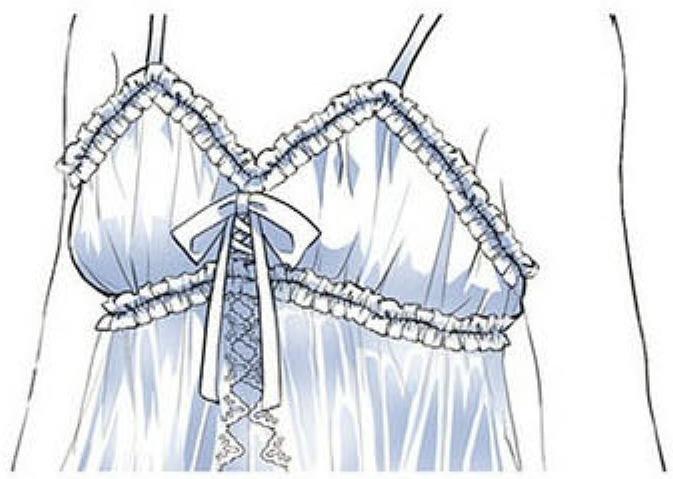
▶フリル、バストカップ、フロントの生地にそれぞれ影を描いて完成



POINT

影の描き分け

フロント部分の影はグラデーションを多用して白く光っているような箇所をいくつも作ると、ぼんやり透けている質感が出ます。それに対して、バスト部分に立体的な影をいれると対比が生まれます。



後ろ側

1 背中のラインを参考に服の輪郭線を描く



▲バストのアンダーベルトの高さに背面側の上端の線を引く。上端から裾に向かってAラインの輪郭線を描いていく

2 飾りやシワを描き込む



▲アンダーベルトのフリルを描き、バックの生地に縦方向のシワを描き込んでいく

3 影をつけて完成



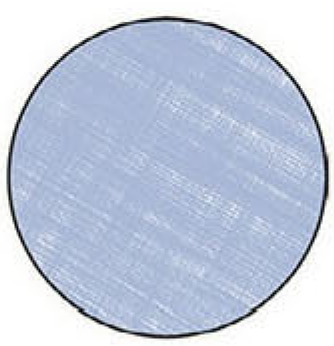
▲バストカップ、ストラップの下側、フリル、バックの生地に影を描いて完成

オーガンジー素材のポイント

全体

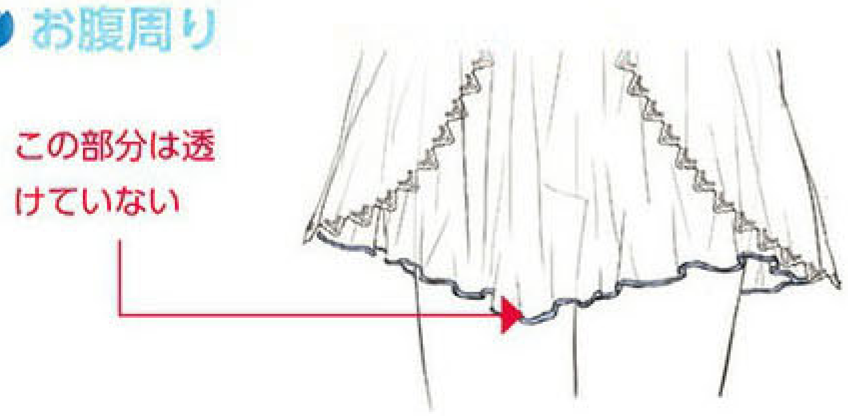


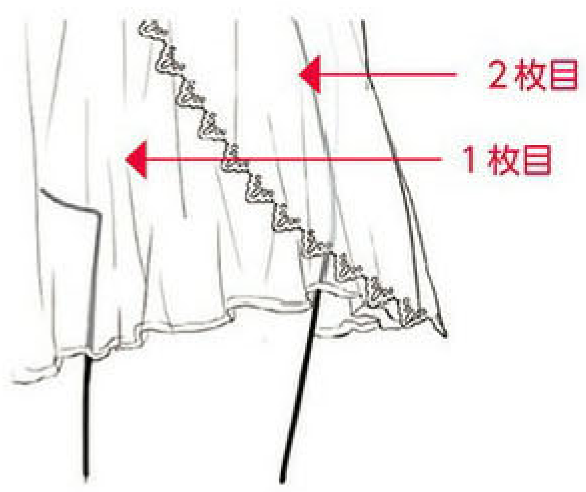
▲着色するときは、レイヤーをひとつずつ分けてそれぞれ適度に不透明度を下げると簡単に透け感が表現できる



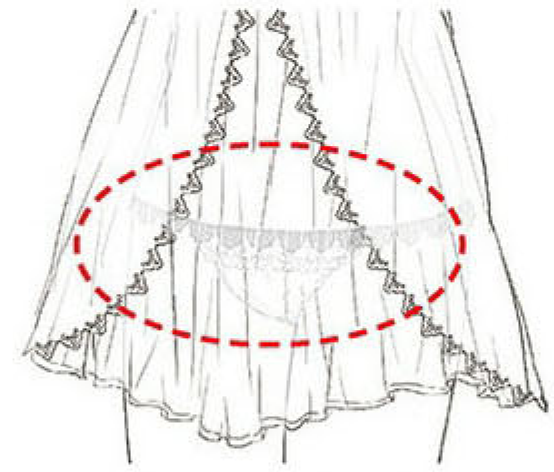
▲上のようなテクスチャを貼り付ける方法もある

お腹周り





▲生地が重なるにつれて体のラインの線画を薄くしていく



▲衣服で隠れている体のラインは、消すのではなく不透明度を下げるか線画の色を薄くして透け感を出す。もしくは、服のシワの部分と重なる体のラインは消す





▲影をグラデーション状にいくつも塗ると透けている感じが出る

胸元

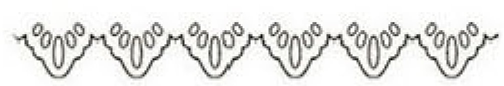


◀胸の部分は生地が透けていないので、線画は気持ち太めにする

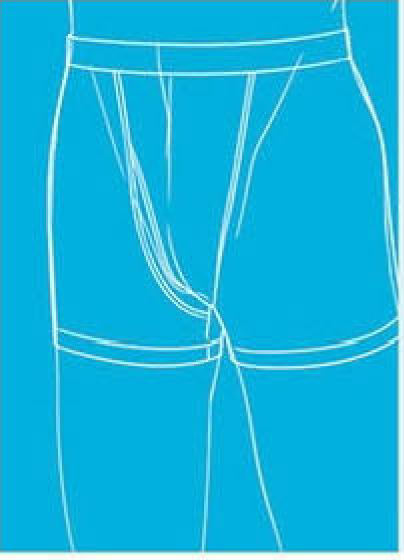
柄



▲生地は透けない普通の素材なので、レースより線画を太くする



▲生地が透けているので、線画は細めにする

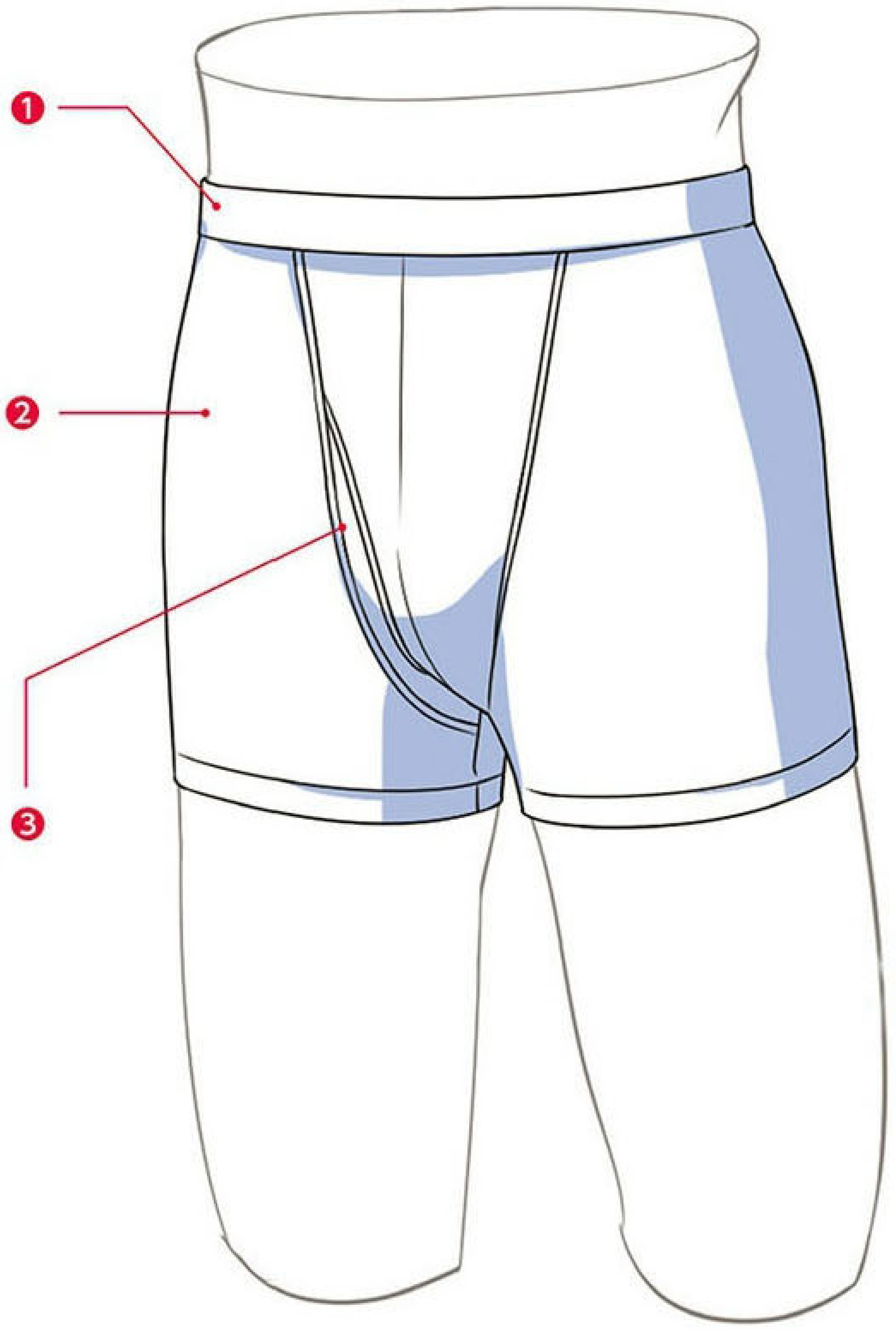


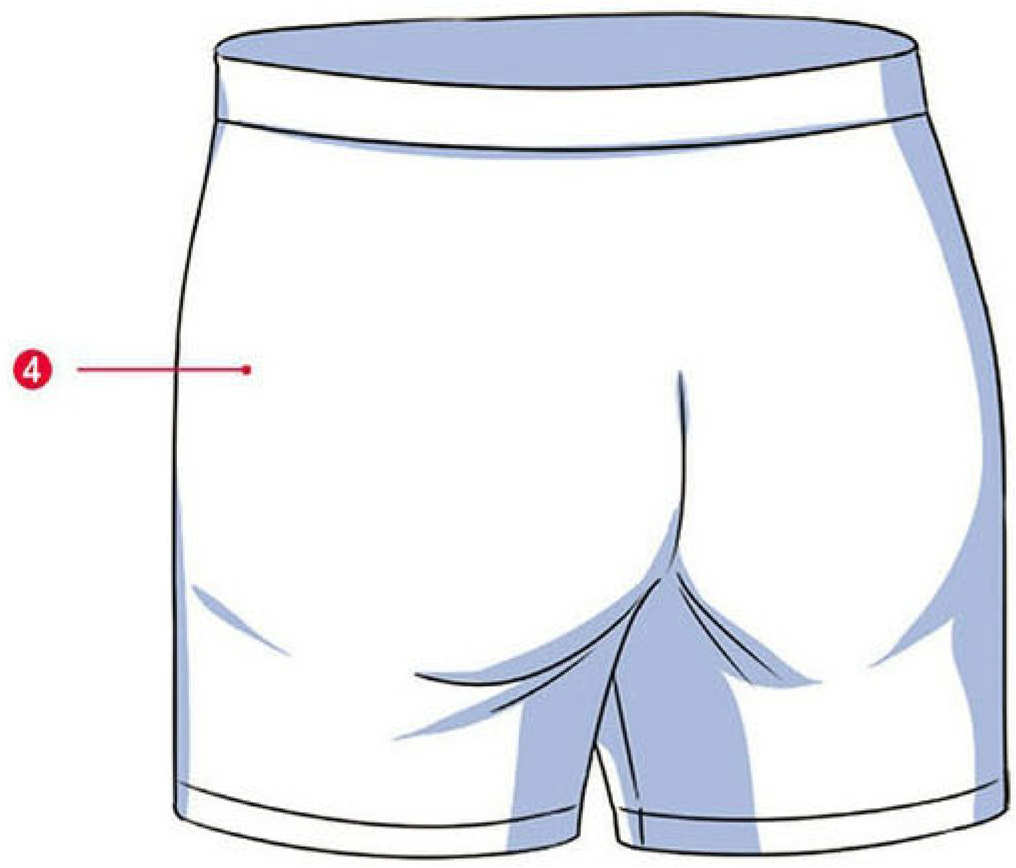
UNDERWEAR

男性用下着

男性の下半身を覆う下着です。形状により大きく分けて3つのタイプに分類されます。成人男性にはボクサーパンツとトランクスが主流です。

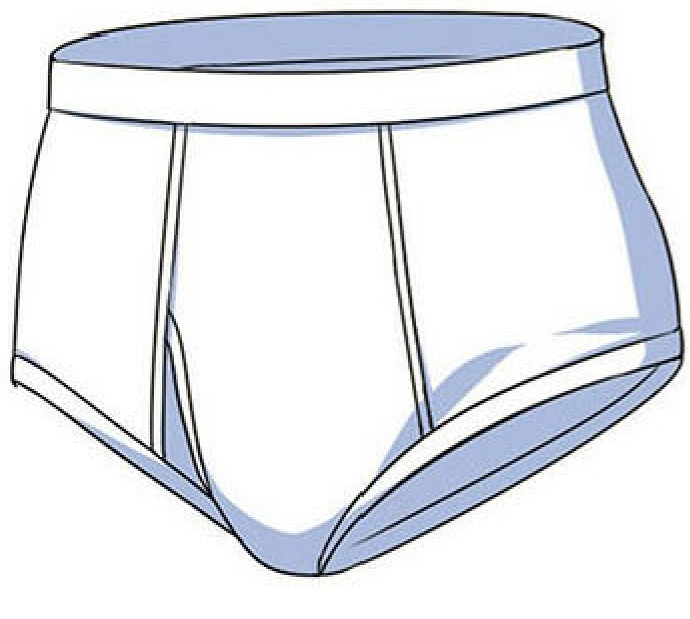
ボクサーパンツの構造





❶ウエスト
❷フロント（前身頃）
❸前開き部
❹バック（後ろ身頃）

男性用下着の種類



ブリーフ

股下がなく、体に密着したタイプの下着。色柄のものも存在するが、清潔感のある白色が基本となる。

ボクサーパンツ

浅めの股下丈で、伸縮性の強い生地を用いたタイプの下着。ゴムバンド部にロゴなどを記したものが多い。



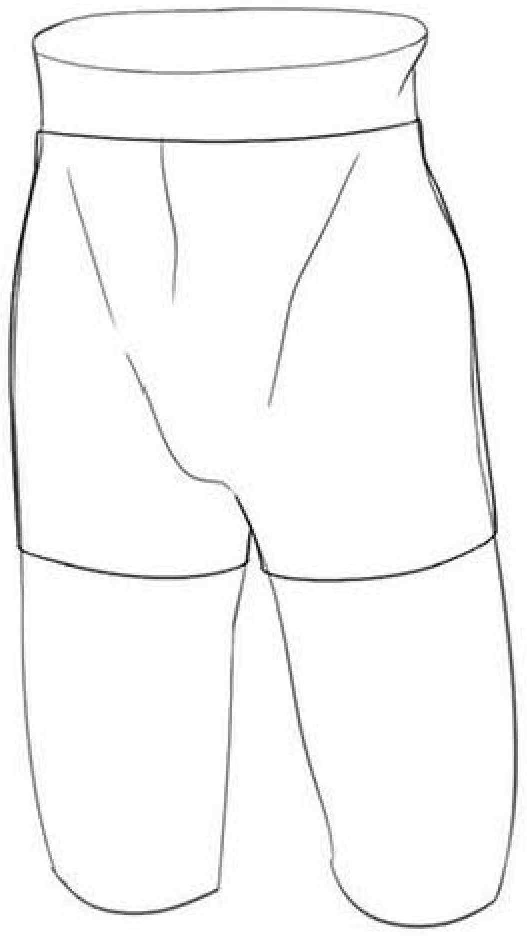


トランクス

深めの股下丈で、体に密着せずゆったりとしたタイプの下着。全面に派手な色や柄を用いたものが主流。

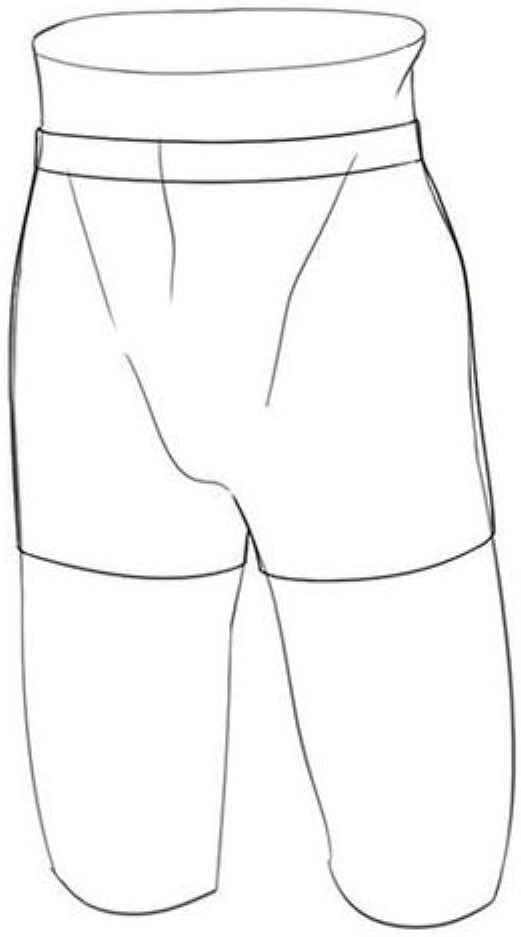
ボクサーパンツの描き方（前側）

1 下半身のアタリとパンツの輪郭線を描く



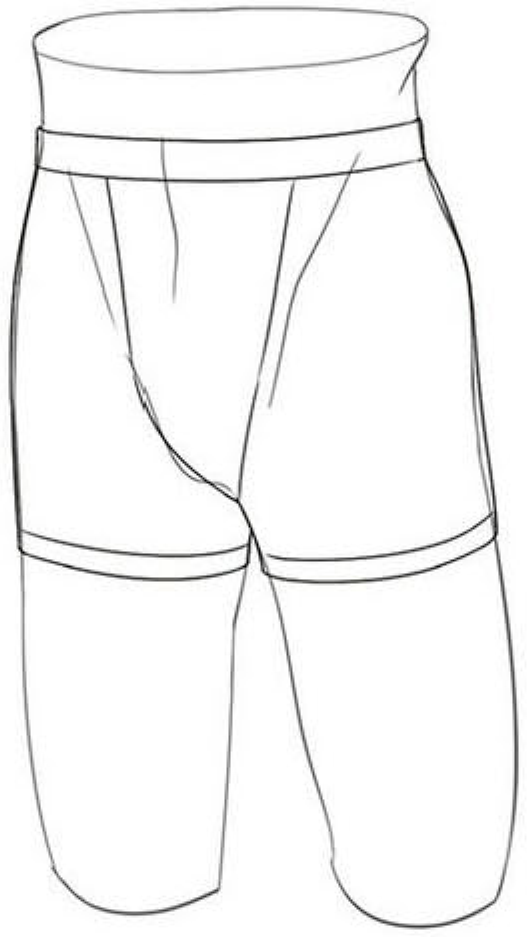
◀下半身のアタリを描き、腰のラインと股下のももにボクサーパンツの輪郭線となる線を引く。体に密着するタイプの下着なので、線は体の丸みに沿って引こう

2 ウエストのゴムバンドの線を引く



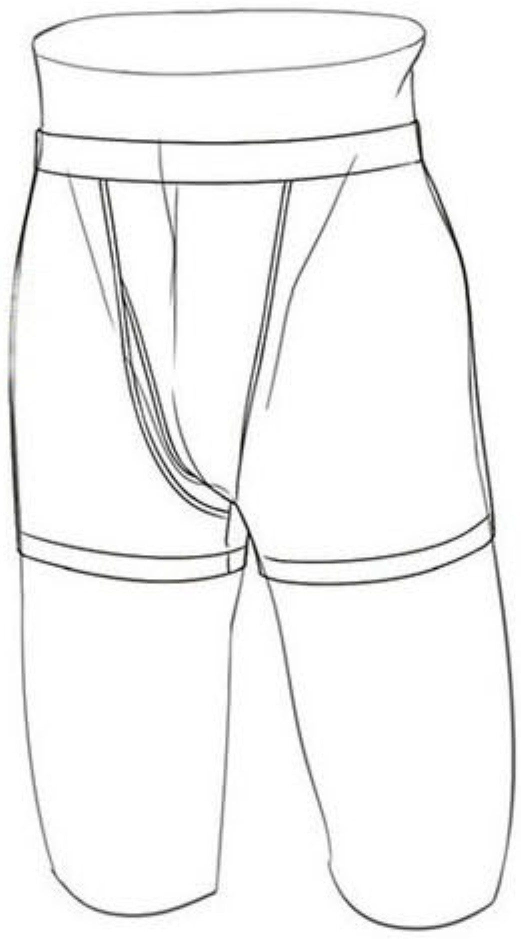
◀ウエストの輪郭線の少し下に、ゴムバンド部分を表現する線をもう1本引く

3 前開き部分の生地を描く



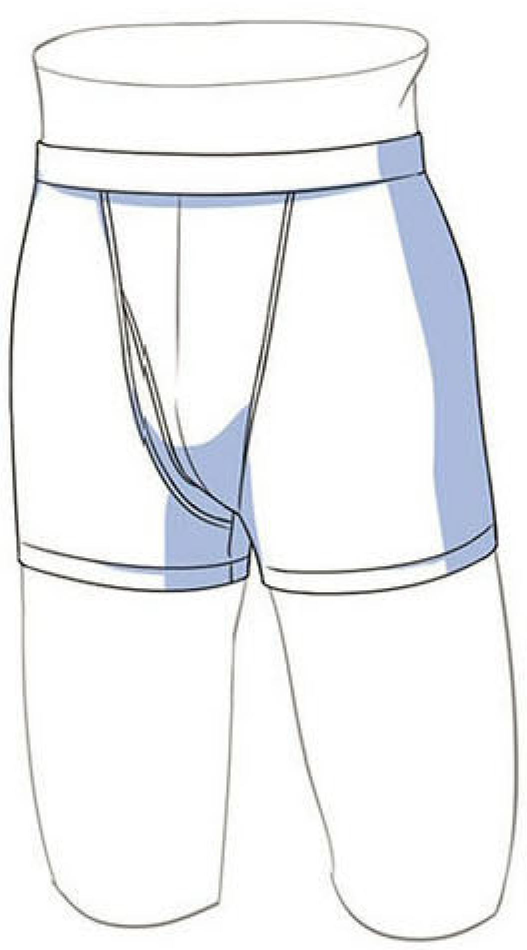
◀フロントの中央に、小用を足すための前開き部分を表す線を描く。両脚の裾の部分にも線を1本ずつ追加してゴムバンドの帯を描いておく

4 縫い目の線を二重にして立体感を出す



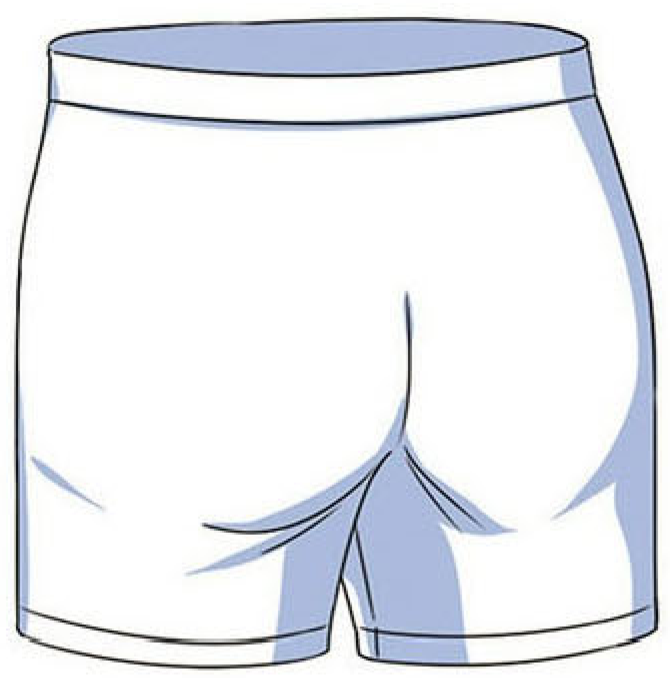
◀フロントの縫い目は、線を二重にすると縫い目がしっかり補強されているように見える。続いて、中央に二重の線を斜めに一本追加して前開き部分を完成させる

5 完成



◀股下やももの内側、背面側に影を描いて完成。ウエストのゴムバンドの下にもうっすら影をつけると立体的になる

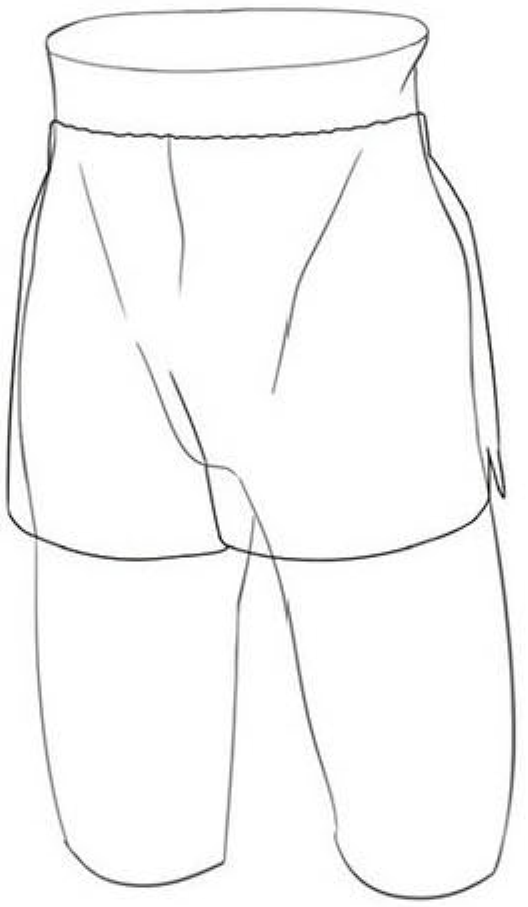
後ろ側の作例



◀男性のお尻は女性のように大きくないので、腰から足にかけてのラインが丸く出っ張らないように注意しよう。影はももの内側とお尻の下にできる

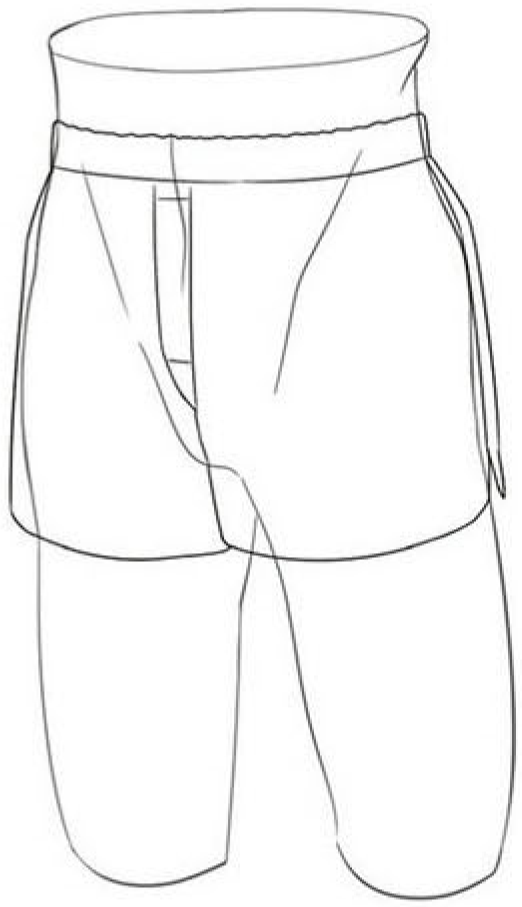
トランクスの描き方（前側）

1 アタリを参考に余裕を持った生地を描く



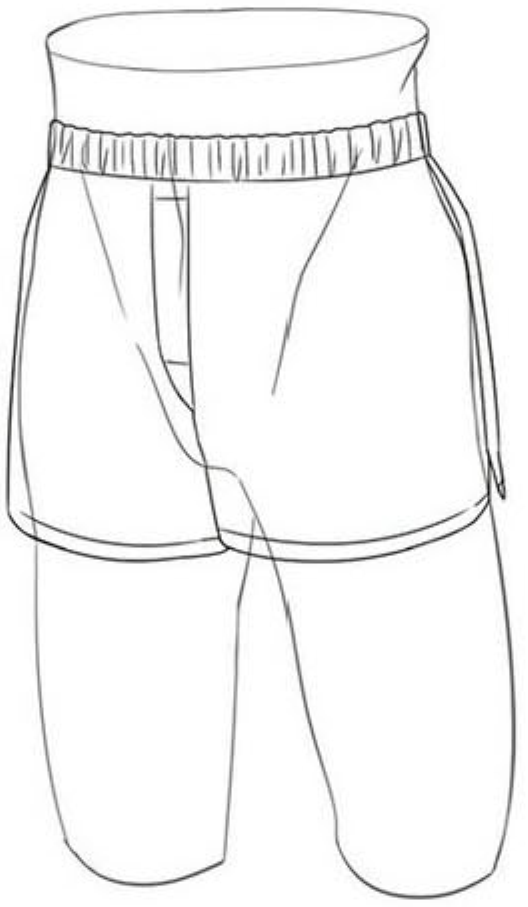
◀トランクスは生地に余裕があるので、体のラインに対して少しすき間を作り、生地に余裕がある様子を表現する。ウエストの線もまっすぐではなく、生地が凸凹しているように描こう。また、側面の下側には切れ込みを作る

2 ゴムバンドと前開きの線を描く



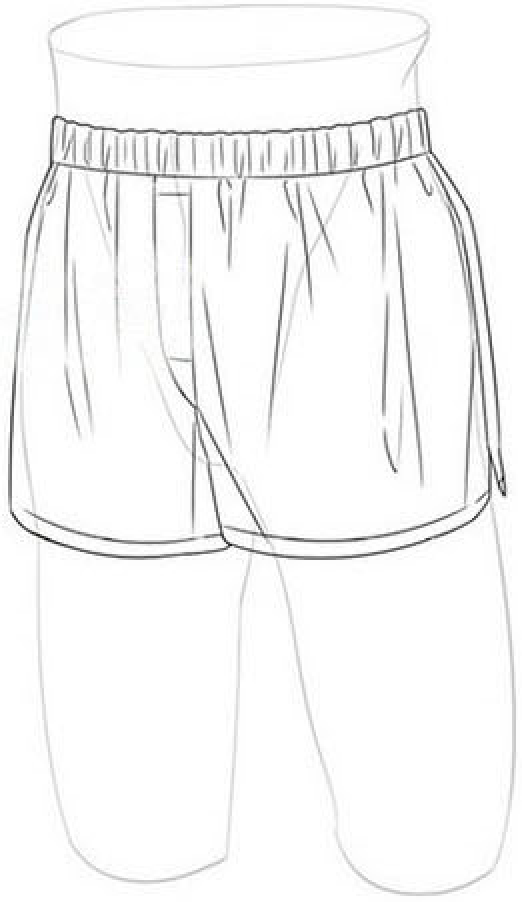
◀ウエストの線の少し下にゴムバンドを表す線を描き、前開きの開き口をフロントの中央に描き加える

3 ゴムバンドが伸縮しているシワを描く



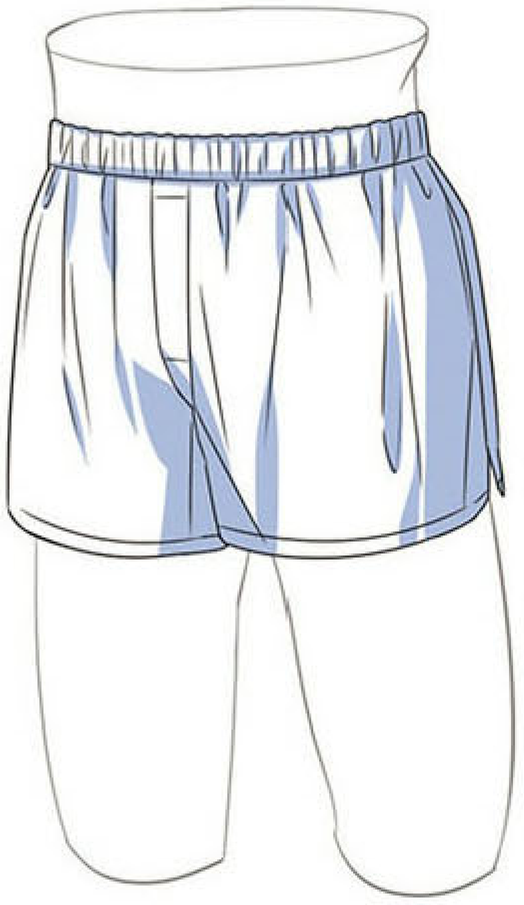
◀ゴムバンドに縦方向の線を短い間隔で何本も入れ、生地が寄ってシワになっている様子を描き込む。加えて、裾の線も二重にして生地に立体感を出す

4 フロントの生地にシワを描き込む



◀フロント全体に縦方向のシワをランダムに描き、生地のシワを表現する。ウエストのゴムバンドに近い部分は生地が凹みやすいので、距離が近い線を2本1セットでいくつか描く

5 完成



◀股下や後ろ側のほか、シワの部分に影を描く。❹で描いたゴムバンド近くの2本の線の間に影を入れると、生地が凹んでいるように見える

後ろ側の作例



◀後ろ側も前側と同じように、生地が凹んでいる部分に影を入れる。ウエストのゴムバンドにもいくつか影を入れると立体感が出る

Part 6

シューズ／バッグ

シューズ
ハンドバッグ
ショルダーバッグ
トラベルバッグ



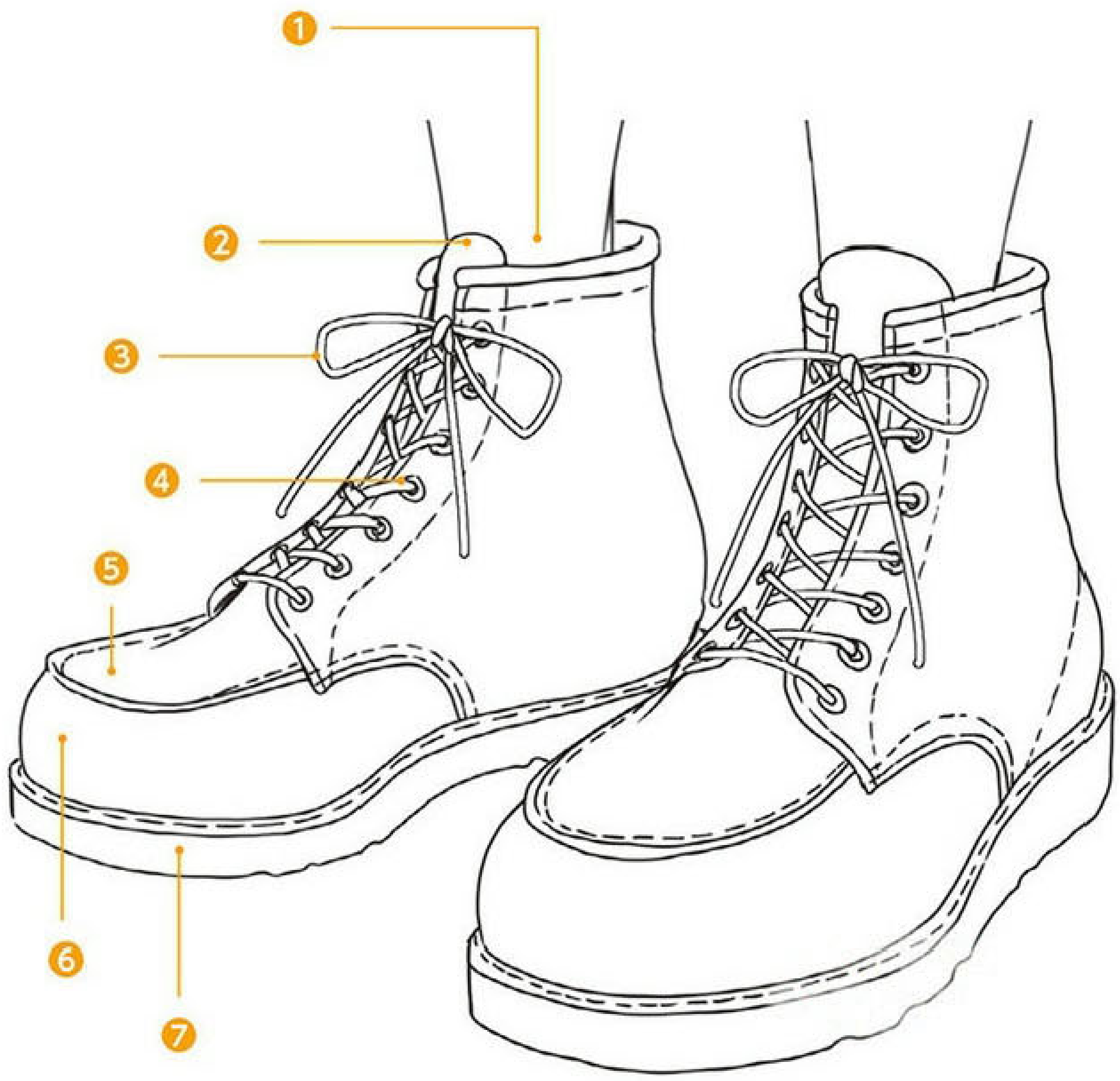


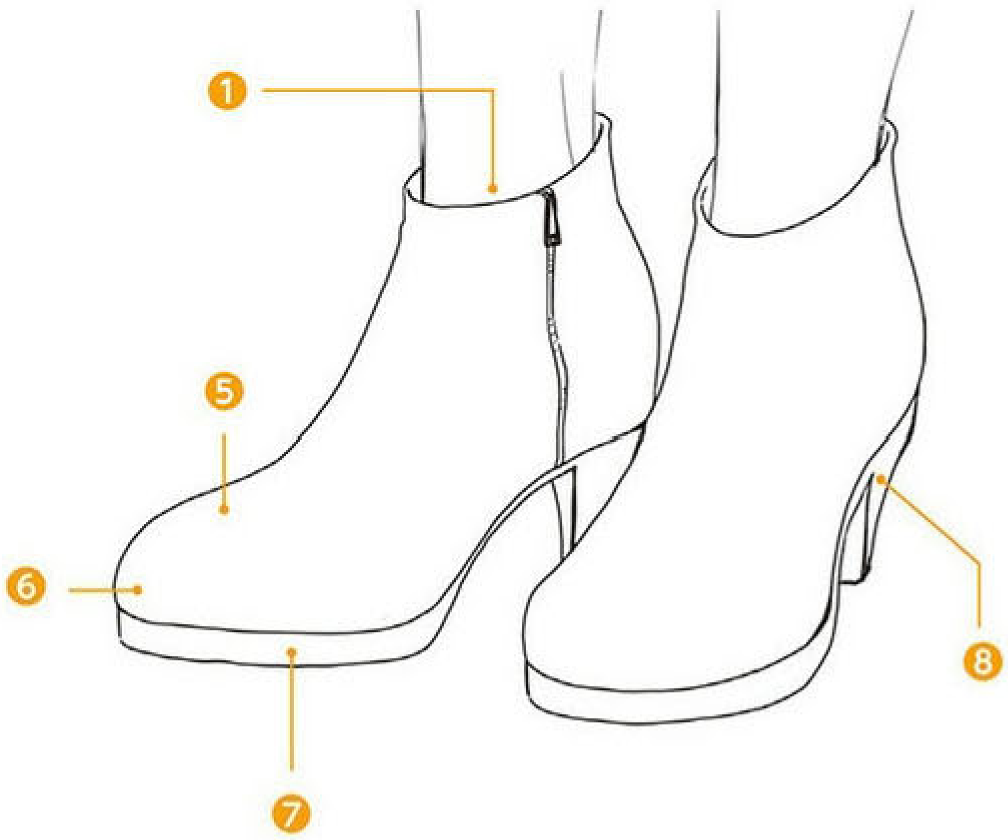
SHOES

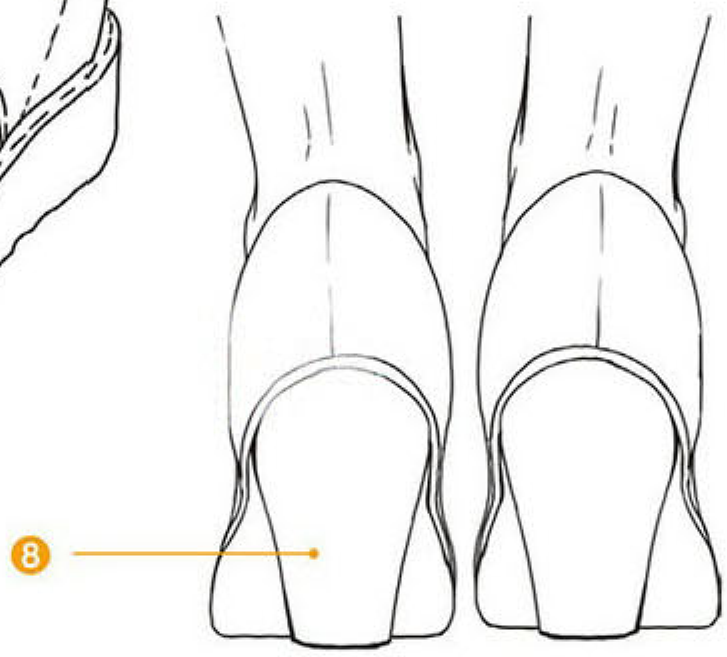
シューズ

足を覆う履き物の総称で、洋風のものを指します。さまざまな種類があり、くるぶしを覆うほど長くて丈夫なものは「ブーツ」とも呼ばれます。

シューズの構造







1. 履き口
2. タン
3. 靴紐(シューレース)
4. 紐穴(レースホール)
5. アッパー
6. つま先(トゥ)
7. 靴底(アウトソール)
8. ヒール

シューズの分類







カジュアルファッション向け

外出用の私服に合わせたファッション用途向けの靴。カジュアルなスニーカーなどが代表格だが、明確な決まりはなくどんな靴を履いても問題ない。

学校生活向け

通学や学校内で履く靴。通学時はローファーなどの外履きを履き、学校では上履きや運動靴などの屋内用の靴に履き替えるのが一般的。

ビジネス向け

仕事をする場面で履く靴。フォーマルな靴が望まれる傾向にあり、男性は革靴、女性はパンプスを履くことが多い。

ローファーの描き方（前側）

1 足のアタリを参考に靴の上側の線を描く

▶履き口とアッパーの輪郭線を描き始める。サドルの位置は親指の付け根のやや上を目安にして描いていく



2 足先からかかとまで覆う線を描く



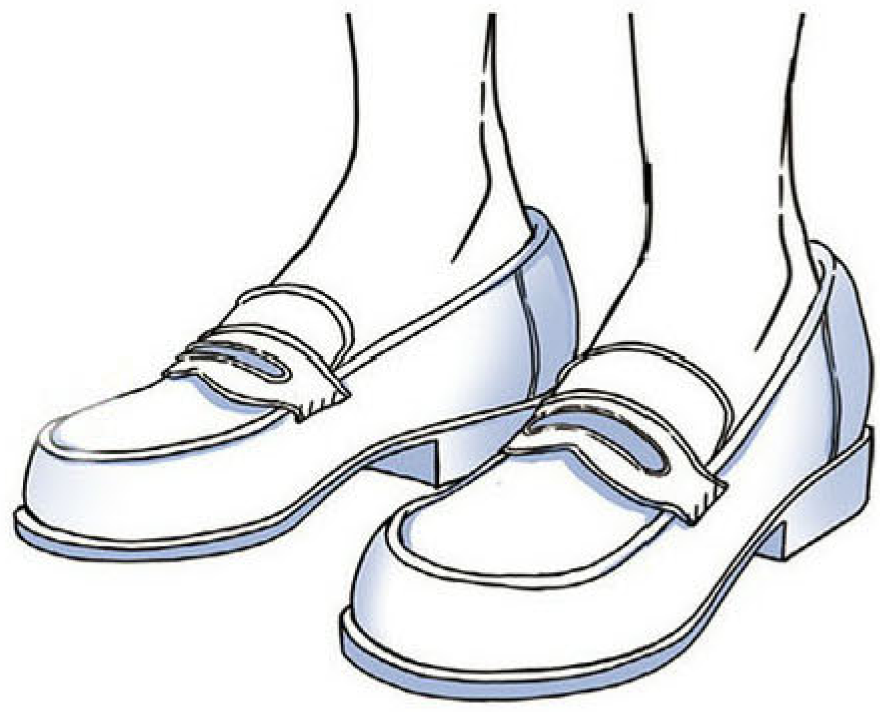
▲靴は足を包み込むようにできているので、足のアタリより少し外側にすき間をあけて足先からかかとまでを包み込むように輪郭線を描く。履き口とアッパーの線は、二重にして厚みを持たせよう

3 靴底とヒールを描く



▲足の裏側に厚みのある板のような線を描いて靴底を描き、かかとにヒールを描く

4 完成



▲かかとやヒール、足先の端、靴底に影を描いて完成。サドル部分には飾りの線と影を描いて立体感を出そう

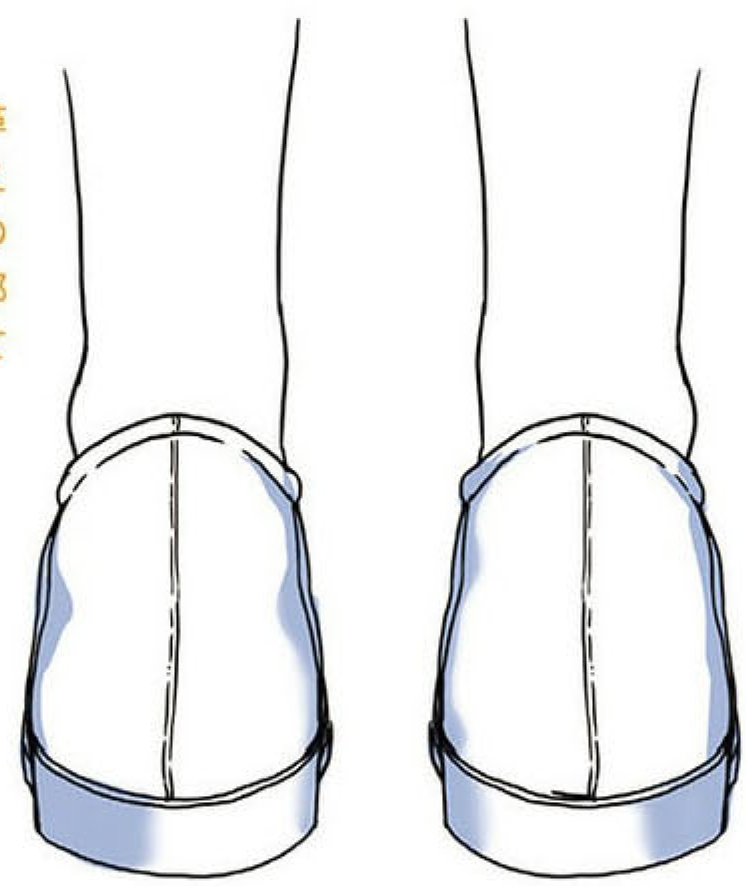
正面から見た図

▶足の先が前面に出るのでつま先部分のパーツや靴底が大きくなる。かかと側は影を描いて暗くし、前側と後ろ側で奥行きを出すようにしよう



後ろ側から見た図

▶かかと部分を覆う革とヒールのみが見える。履き口の縁や革の接合部の縦線など細部にも描き込みを加えて質感を高めよう



スニーカーの描き方(前側)

1 足のアタリを参考に足周りの線を描く

▶足首からつま先までを覆うように線を描いていく。足首の周りとつま先はすき間を広めにとるようにする。足先は膨れ上がるように、丸く大きな線を描く



2 アッパーと靴底の線を描く

▶脚の中央にアッパーからタンにかけての線を描く。つま先部分にも曲線を描いて、丸いカップ状のパーツを描いていく。足の裏からは幅を厚めにした靴底の線を描き加えよう



3 紐穴やシワを描く

▶紐を通す穴や、足首周りのシワ、靴底に横のラインを入れる、靴下を描き込むなど細部を整えていく



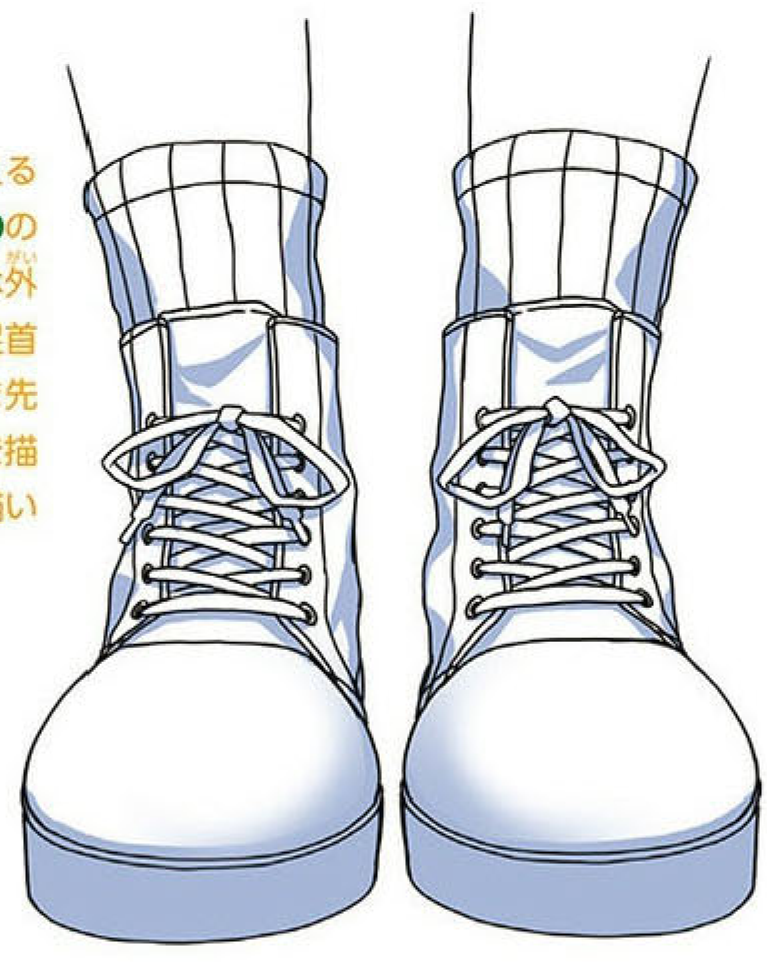
4 完成

▶紐穴から交互に紐を描いていき、仕上げに影を入れる。足首周りのシワ、かかと、紐の下側、靴底部分に影を入れて立体感を出そう



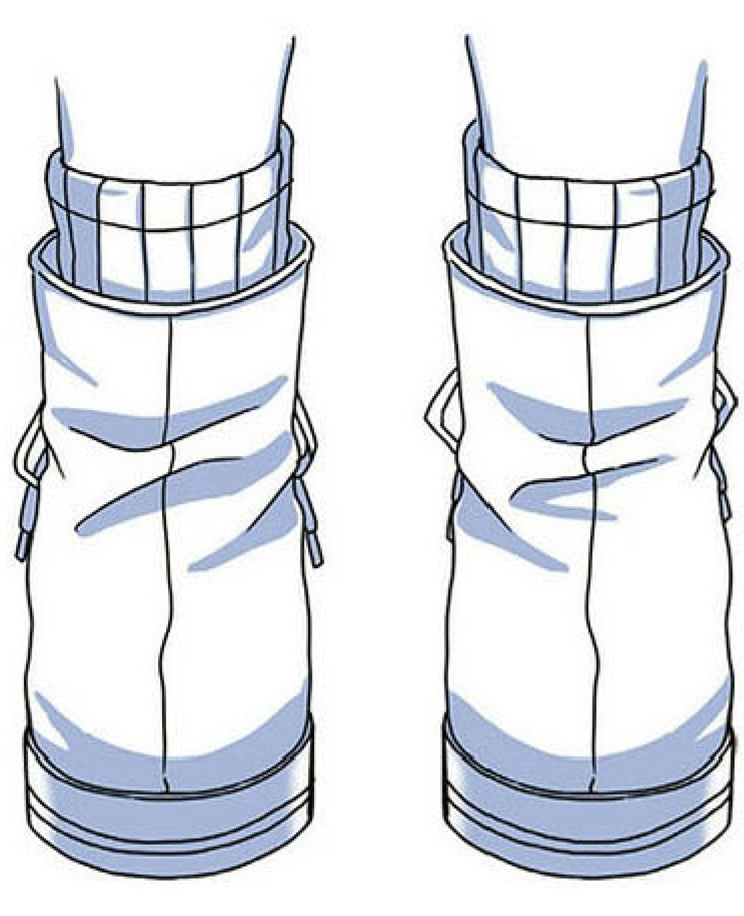
正面から見た図

▶複雑そうに見えるが、紐を外せば❸のようなシンプルな外観をしている。足首周りの生地やつま先のパーツと靴底を描き、最後に紐を描いて仕上げよう



後ろ側から見た図

▶くるぶしを覆うタイプのスニーカーは足首周りの生地が柔らかいので足首とかかとの間にシワができる。シワや靴底の影を描いて立体感を出そう



パンプスの描き方（前側）

1 つま先からかかとにかけての線を描く

▶かかとを上げた状態の足のアタリを描き、つま先からかかとを包む線を描く。パンプスの履き口は広いので、つま先の線は親指の付け根あたりから線を描き始めよう。先端の部分はやや鋭角に伸ばし、角が丸い三角をイメージする



2 靴底とヒールを描く



▲パンプスの靴底は厚みがないので、薄く足の下側をなぞるように薄い靴底を描いていく。ヒールはローファーと違い、地面に近づくに従って細くなるように描く

3 完成

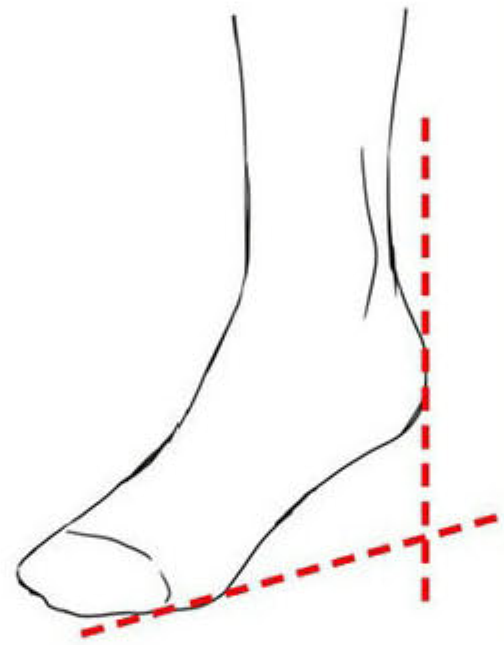
▶パンプスの下側やかかと、ヒール部分に影を付けて完成。パンプスのシルエットは女性の足があってこそ綺麗に見えるので、足のくるぶしにも影をつけてセットで見えるようにしよう



POINT

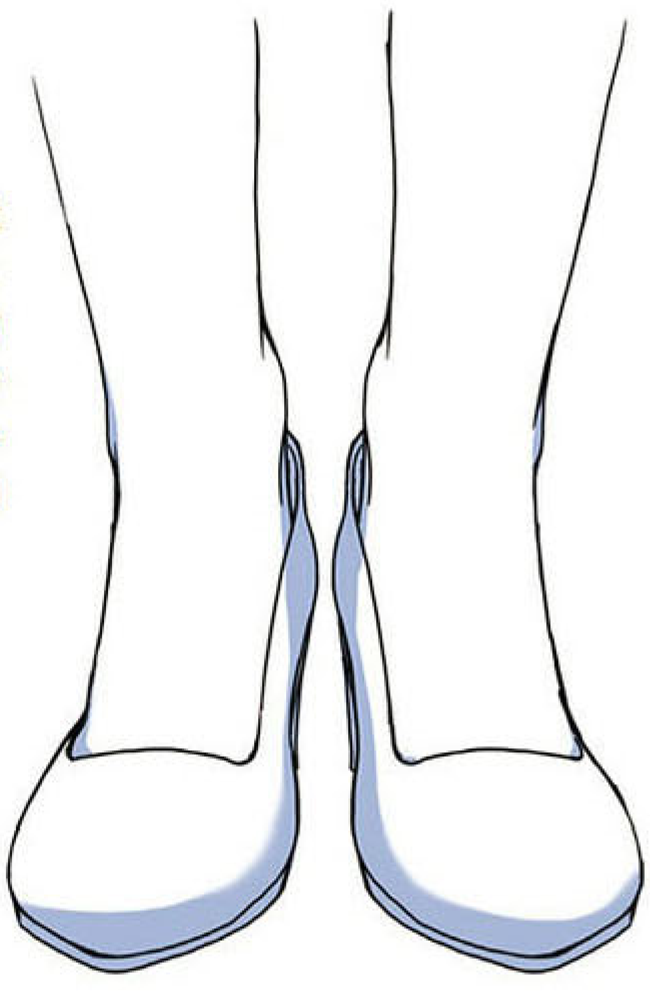
かかとの位置の決め方

①まずつま先の位置を決め、つま先の中央から地面に沿ってかかとの方向へ直線を引く。
②かかとを描きたい位置に①に引いた線と垂直に交わる直線を引く。
③②の線の好みの高さにかかとを描く。



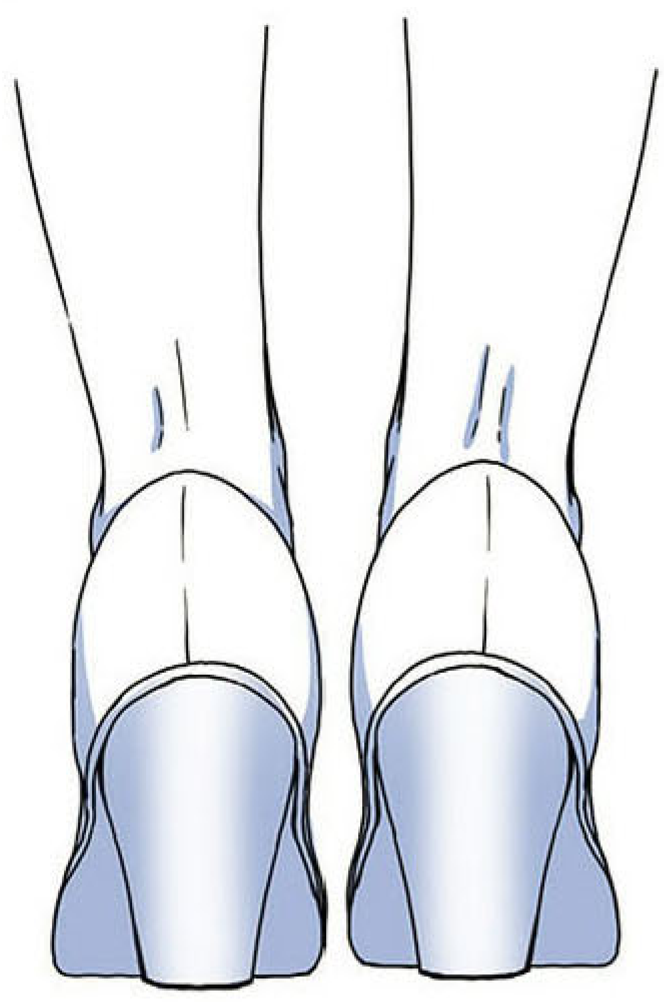
正面から見た図

▶履き口がつま先の近くまでくるため、ほとんどの面積を素足が占める。靴底も薄いので影は先端の下側からかかとにかけて狭い範囲に描いていく



後ろ側から見た図

▶後ろから見るとヒールが大きく写る。靴底の影はベタ塗り、ヒールは丸みを表現するためにグラデーション状に影を描こう。足にはアキレス腱の筋を描くと足周りが綺麗に見える



シューズの作例

スリッポン

靴紐や留め具がない、足を滑り込ませて履く靴。主にスニーカータイプに用いられる。靴紐がない分、体勢に合わせたシワや凹みが甲の部分に表れる。



シンプルな見た目のため男女を問わず似合う。特に明るくカジュアルな雰囲気のキャラに適している

デッキシューズ

元々は船の甲板で履くための靴で、足首をしっかりと固定するために靴紐が履き口を一周するデザインになっている。履き口も浅く、足元が見えやすい。



夏らしい印象を強く出すことができ、アクティブで爽やかな男性キャラやボーイッシュな雰囲気の女の子に似合う

ヘップサンダル

かかとにベルトがなく、つま先から甲にかけて覆うタイプの女性用サンダル。ヒールは低めのものが多く、靴底も薄い。



ゆったりとした印象があり、ワンピースやロングスカートなど生地がたっぷりとした服を着た女性に向いている

ミュール

ヘップサンダルのうち、高めのヒールを持つもの。足の甲を覆うベルトが装飾的であったり、ヒールの安定性によってはかかとにベルトが付けられるものもあるなど、デザイン性に富む。



ヘップサンダルをより女性的にしたものであり、パンツ、スカート問わず春夏の女性の装いとして活用できる

ムートンブーツ

羊革、あるいはそれを模した素材で作られたブーツ。丸い毛の質感が温かみや可愛らしい印象を与える。アッパーが大きく、履き口も広いのが特徴。



可愛らしい服はもちろん、細身のパンツとも好相性で、スマートな体型の女性と合わせても面白い

ブーティ

パンプスの要素を併せ持った、丈が短いタイプのブーツ。つま先からくるぶしの上までを覆う形状でヒールがついている。デザインの幅が広く、リボンなどの装飾で女性らしさを出したものも多い。



丈の長いブーツに比べて足元が可愛らしい印象になるため汎用性が高い。スカートやレギンスなど足元が露出する丈の服と合わせると好相性

エンジニアブーツ

履き口のベルトでサイズを調整するタイプのブーツ。元々重作業用のため、つま先には鉄カップが入っている。アッパー部分に影を入れるとより重厚な雰囲気が出る。



無骨な男らしいスタイルはもちろん、スカートやワンピースを着たキュートな女の子の足元にアクセントとして取り入れるのも良い

ワークブーツ

作業用に履かれていた丈夫な革製のブーツの総称。イラストのモカシン型を始め、さまざまなタイプがある。かかとに影を入れ、生地が少し潰れた雰囲気を出すと無骨さが増す。



優しげな雰囲気からワイルドなタイプまでさまざまな男性キャラに似合い、足元へほどよい男らしさを与えてくれる



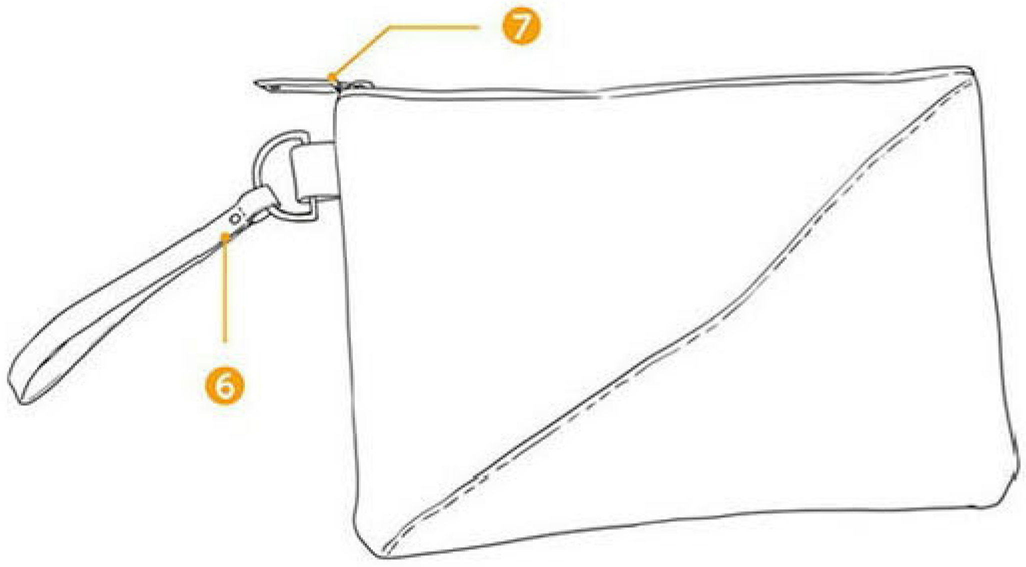
HAND BAG

ハンドバッグ

外出時に手に持ったり肩にかけたりする鞄で、財布やハンカチなどの小物類をまとめて持ち運ぶことができます。容量は型によって異なります。

ハンドバッグの構造



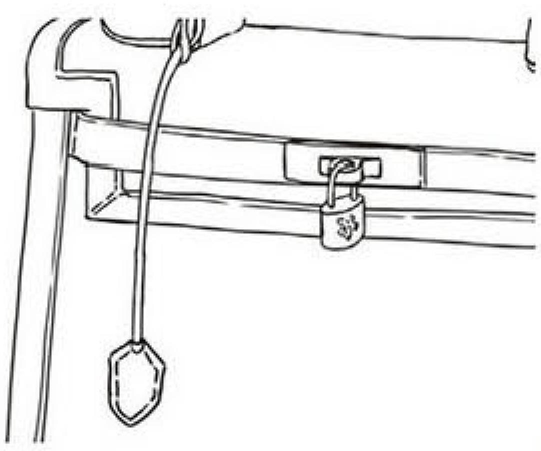


①ハンドル(持ち手)
②クローシュ
③フラップ
④クロア(バッグの厚みを調節するバンド)
⑤カデナ(南京錠)
⑥ストラップ
⑦スライダー

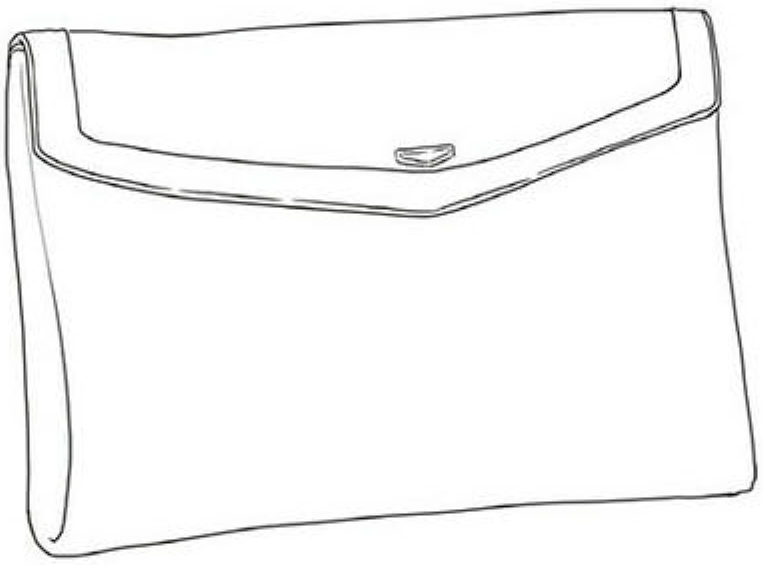
POINT

クローシュの中に鍵を収納

一見、バッグのアクセントになる役割を果たしているだけかと思いきや、先端がケースになっています。ここにはカデナを開けるときに必要な鍵を入れられます。



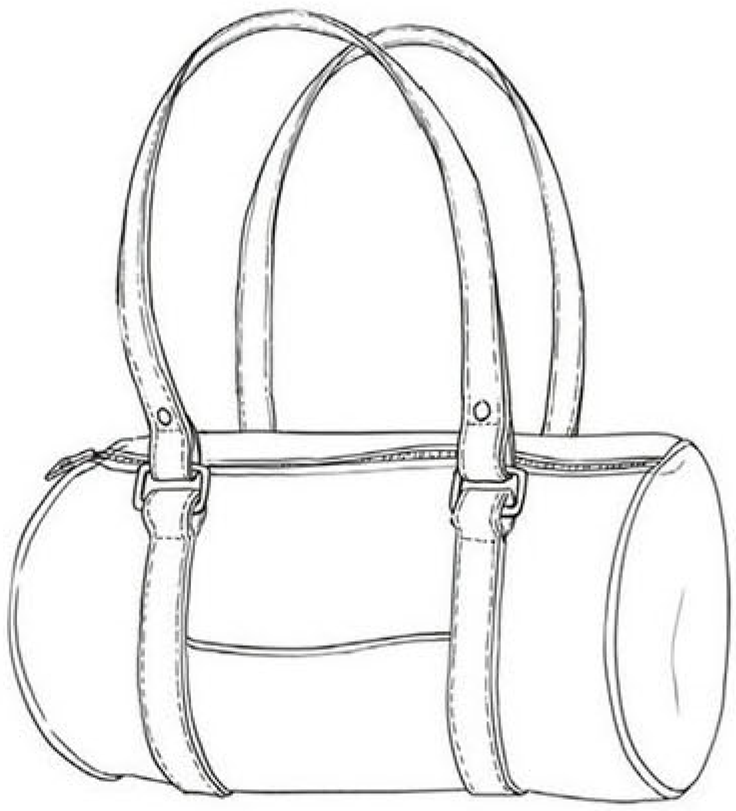
ハンドバッグの種類





エンベロープバッグ

名前の通り、封筒(エンベロープ)に似た型のバッグ。フォルムは四角く、スタイリッシュな印象を与える。



ケリーバッグ

台形型のバッグで、上にいくに連れてマチの幅（奥行き）が狭まっていく。ハンドルはひとつしかない。

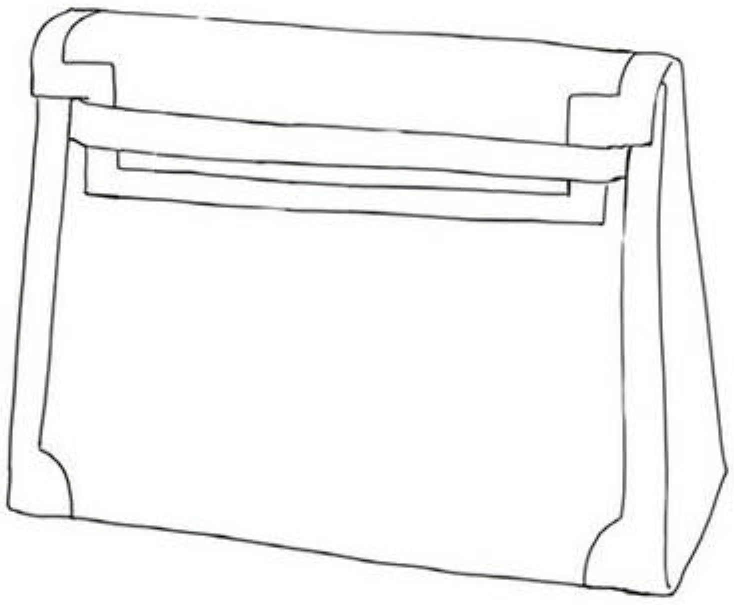
バレルバッグ

別名「ドラムバッグ」。樽(バレル)のようにシルエットが丸く、ゆったりとしているため、物をたくさん詰められる。ファスナーで開閉する。

ケリーバッグの描き方

1 バックのベースを描く

▶台形をイメージしながらベースの形を描き、側面に奥行きを出して上側にフラップを描く。左右の端に革の線を加え、フラップの上にクロアの線を描く



2 持ち手や鍵を描く

▶上部にハンドル、クロアの中央にカデナを描き加える。ハンドルは、バッグ本体に接着している皮、金属の留め具、持ち手で構成されている。カデナは小さめに描こう



3 装飾に厚みを加えてストラップを描く

▶左右の革や側面の縁を二重線にして、革の質感に厚みを加える。最後に、ハンドルの留め具から垂れ下がるクローシュをつけて、上品で華やかな印象に仕上げよう



4 完成

▶バッグの側面や底面の近く、ハンドルの裏側に影を入れていく。フラップの正面側には薄いグラデーションの影を乗せて、フラップの丸みを表現しよう



POINT

内縫いと外縫い

ケリーバッグの縫い方には、縫い目を見せない柔らかいフォルムの内縫いと、縫い目を見せてかっちりとした印象になる外縫いがあります。外縫いの場合は、角などにステッチ（縫い目）の線を描き入れましょう。



バッグを持った図

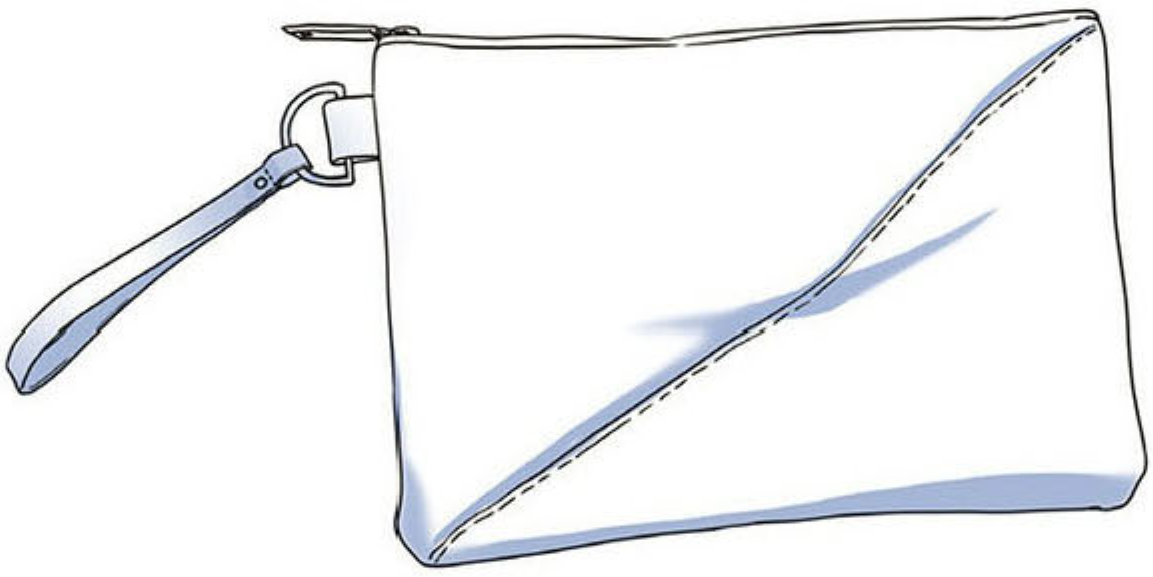
▶ハンドルのあるハンドバッグを腕にかけて持つ際は、手を体の前に持ってきて軽く握ると上品に見える



ハンドバッグの作例

クラッチバッグ

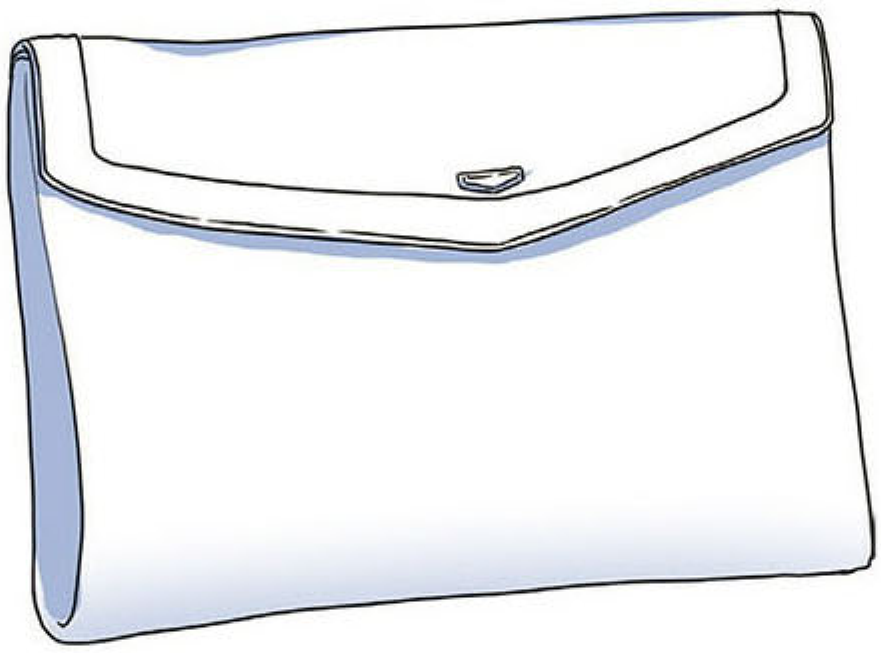
肩紐やハンドルがついていないハンドバッグ。厚みがほとんどないので、ただの四角形にならないよう中央にシワを加える、底側に影をつけるなどして立体感を出そう。



手に抱えるだけで女性的な印象を持たせることができる。どんな服でも合うが、細身のシルエットにしたほうがより見栄えが良くなる

エンベロープバッグ

フラップ付きのバッグなので、フラップの装飾や側面の厚みを描くのがバッグらしさを表現するポイントになる。底側にはエアブラシで柔らかい影を描こう。



クラッチバッグに似ているが、フラップが直線的な形状のものは男性向けのバッグとして使われる

バレルバッグ

円柱のような丸さが特徴。バッグ本体の曲面に沿って、革製のバンドを円周上に描いて丸みを表現する。側面の縫い目や本体のバンドを二重線にするなど、細部を描き込んで革の厚みを出そう。



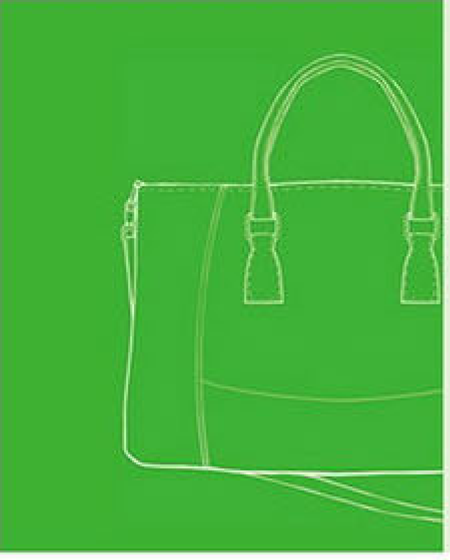
サイズが小さいものは女性のバッグに、大きなものは旅行者のバッグとして描くのに向いている

テリーヌバッグ

底面が平らで本体が半円形をした口の大きいバッグ。角が丸い台形をイメージして輪郭線を描き、側面に柔らかい影を描いて立体感を出そう。



実用性と女性らしさを兼ねており、オフィスカジュアルやフォーマルな服を着た女性キャラに似合う



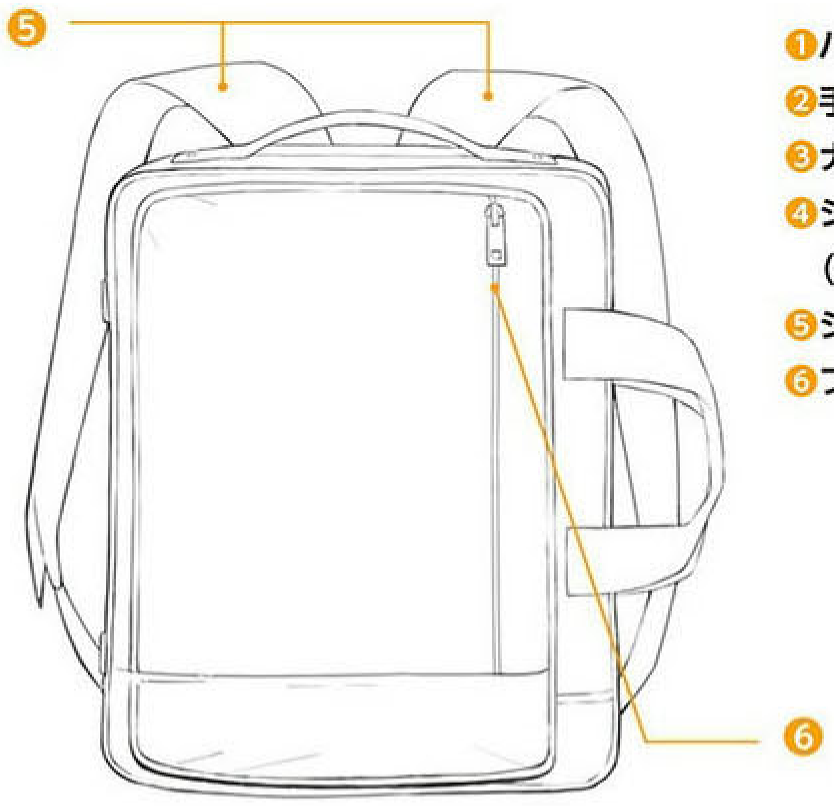
SHOULDER BAG

ショルダーバッグ

肩（ショルダー）からさげて使用する鞄で、垂直に垂らしたり斜めにかけたりします。両手が空くため、ハンドバッグと比べて行動範囲が広がります。

ショルダーバッグの構造



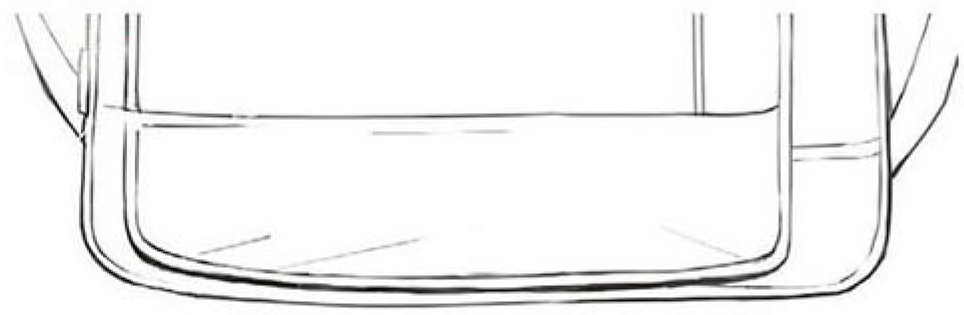


❶ハンドル
❷手元カン
❸ナスカン
❹ショルダーテープ（肩紐）
❺ショルダーバンド
❻ファスナーポケット

POINT

バッグのシワ

ナイロンなどの薄い生地を使用したバッグは、表面にシワができやすくなります。シワを多く描くことで、薄い生地を表現することができます。

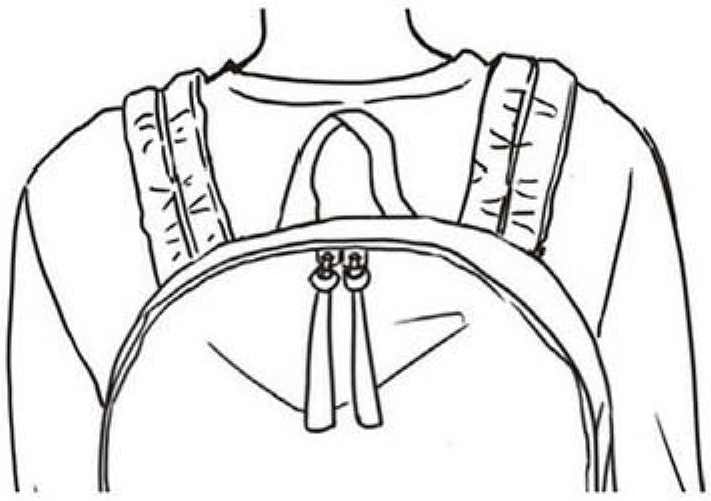


ショルダーバッグの掛け方



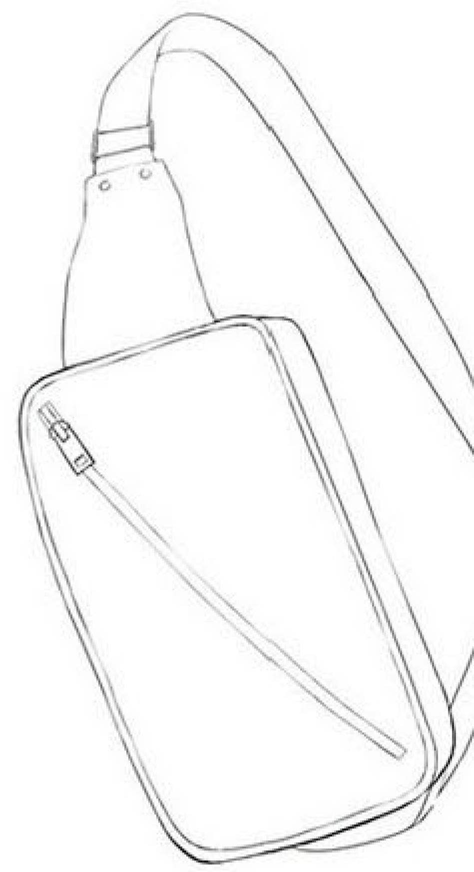
肩に掛ける

長いショルダーテープを肩に引っ掛けるスタイル。重たいバッグの場合は、掛けている側に体が傾く体勢になることもある。



背負う

ショルダーバンドに両腕を通して背中に背負うスタイル。リュックサックなどが代表的で、両肩に均等に重みがかかるため、体の左右のバランスが崩れない。



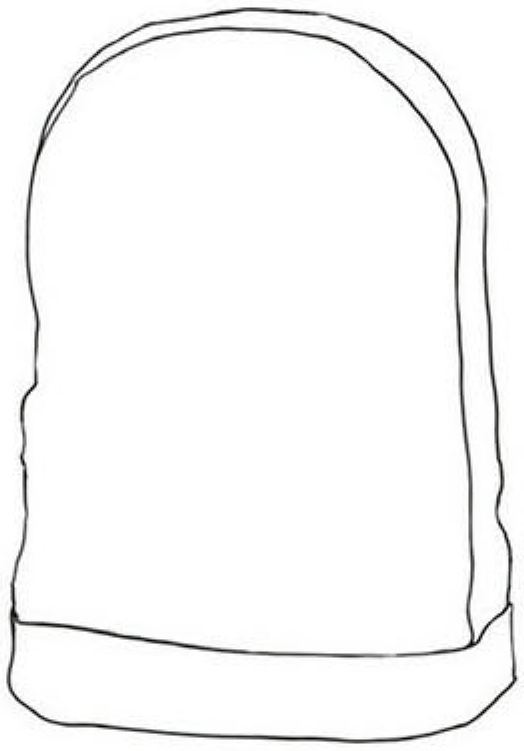
巻きつける

ショルダーバンドをたすきのように体に巻いて体にフィットさせる掛け方。ショルダーバンドが１つしかないボディバッグなどに見られるスタイル。

リュックサックの描き方

1 おおまかな輪郭を描く

▶食パンのような形をイメージしてリュックサックの輪郭を描いていく。パンの耳を描く要領で厚みの線を描き、底面の線も描き加える



2 外側のポケットと肩紐を描く

▶背面のポケット、ファスナー部分の二重線、ショルダーバンド、リュックを引っかけるストラップなどを描いていく。リュックらしさを出すために、ショルダーバンドの長さ調整用の紐を下側に垂らしておくのもポイント



3 縫い目やファスナーを描く

▶ファスナー用の紐やポケットの角を表す線、生地のくぼんでいる箇所など、細部を描き込んでいく。リュックサックはナイロン生地が多くシワができやすいので、側面にもシワを描いておこう



4 完成

▶最後に影を描いて完成。側面や生地がくぼんでいる箇所には濃い影を入れる。ほかにも薄く広い面積の影をいくつか入れて、でこぼこしやすいナイロン生地の質感を表現しよう



リュックを背負った図

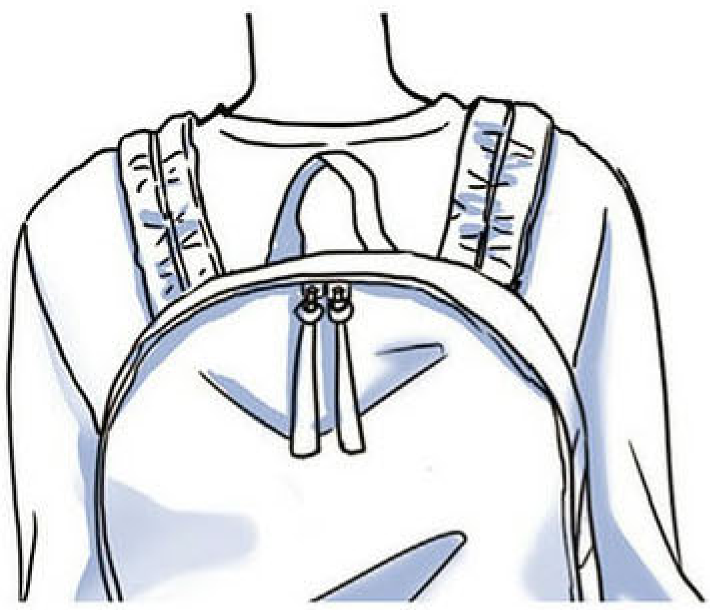
▶背負ったリュックは肩からぶらさがっているので形はほとんど崩れない。影はリュックの底側や、お尻の位置に描こう



POINT

リュックを背負う位置

リュックの背負う位置でバランスがいいのは肩甲骨の高さです。上すぎると突っ張って見え、下すぎるとだらっとした印象を与えます。



ショルダーバッグの作例

ポシェット

肩掛け用の紐は、幅が細い吊り紐になっている。ふたの縁は二重線にして革の厚みを出そう。女性向けのバッグなので、全体的に丸みを帯びた線を意識して女性らしさを出すのがポイント。



洋服であればどんな服装の女性キャラでも合わせやすく、カジュアル系の洋服とは特に相性が良い

2WAYバッグ

手さげと肩掛けの2通りの持ち方ができるバッグ。丸みを帯びた長方形を描き、上部に持ち手、両サイドにショルダーベルトを描き足す。女性用であれば肩掛けの紐を細めにするアレンジも有効。



安定感のある落ち着いたシルエットで、女性の外出用バッグとして使いやすい

3WAYバッグ

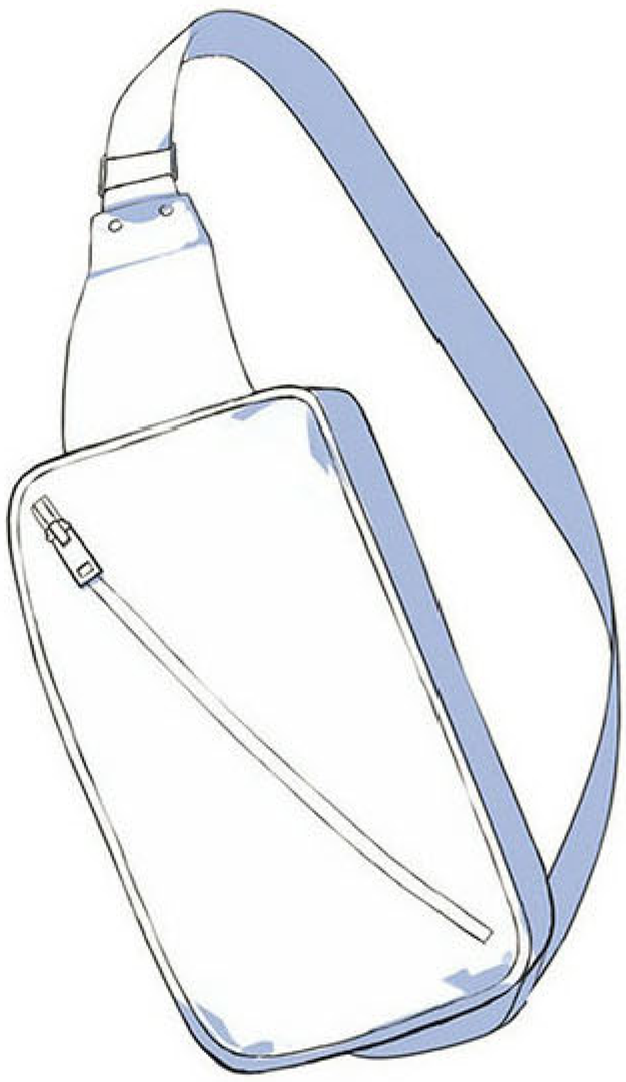
手さげ、肩掛け、背負うの3通りの持ち方ができるバッグ。輪郭は直線的だが、角は丸い。先にポケットやファスナーを描き、後から持ち手や肩ベルトを描き足すとバランスが取りやすい。



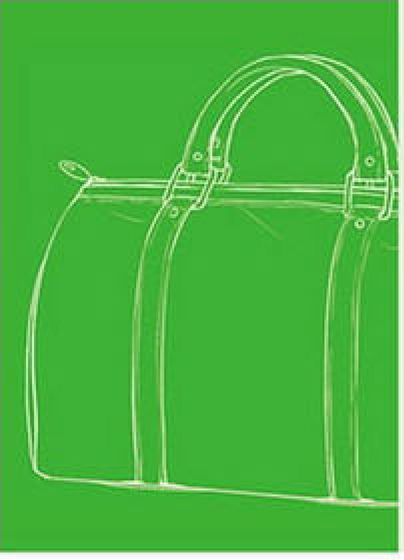
機能性を重視した男性的なデザインが多く、スーツを着た男性キャラに似合う

ボディバッグ

バッグ本体は角が丸い長方形の立方体を描き、ファスナーを描けば完成。体に巻きつけるバッグなので、ショルダーベルトは胴体に沿うように斜めの角度で描こう。



コンパクトでカジュアルな印象が強く、ジャケットやシャツを着た男性に似合う

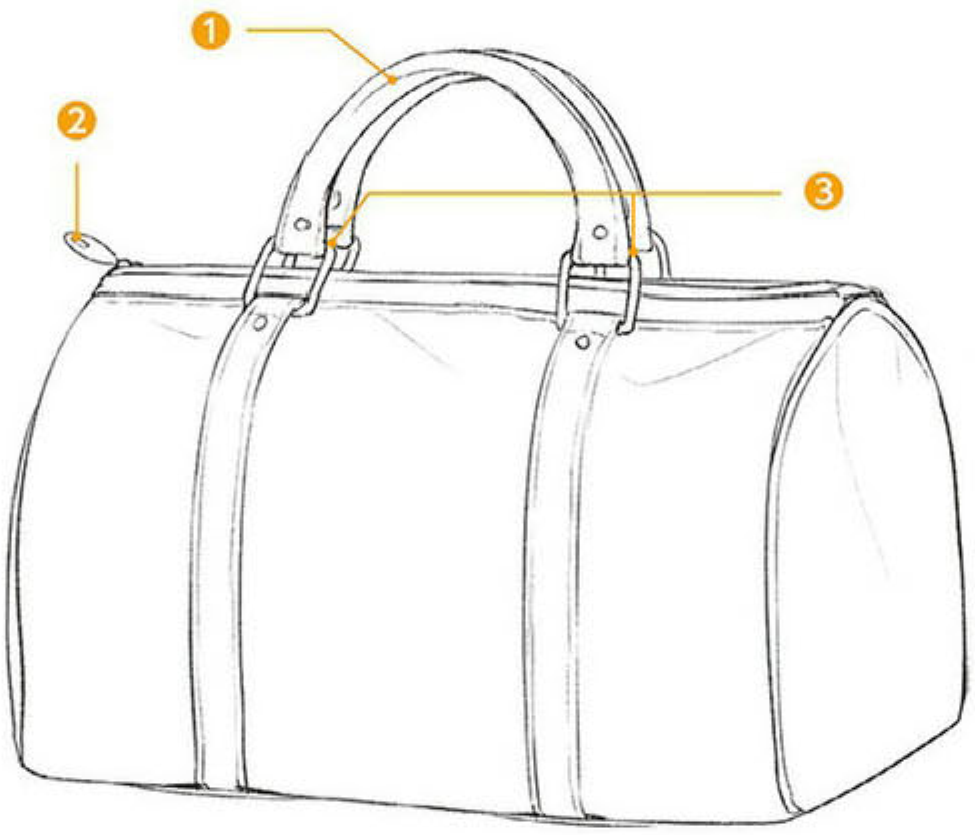


TRAVEL BAG

トラベルバッグ

その名の通り、旅行(トラベル)のときに使う鞄のことを指します。一度にたくさんの物を運べるように、大きいサイズのものがほとんどです。

トラベルバッグの構造





1. ハンドル
2. スライダー
3. 手元カン
4. プルドライブハンドル
5. トップハンドル
6. ボディ
7. TSAロック
8. フレーム
9. キャスター(車輪)

トラベルバッグの種類と作例

ボストンバッグ

革、あるいはナイロンなどの布素材を使用したバッグ。中に物を入れた分だけ膨らむ。底は平らなため、地面に置いても転がらない。



ジーンズなどのカジュアルな服装と合わせることで、よりアクティブな印象を与えられる



キャリーバッグ

底にキャスターが付いているため手軽に運べるバッグ。外出する日数に合わせて何種類ものサイズがある。また、キャスターの数が2つのキャリーバッグもあるなど、バリエーションはさまざま。

コンパクトでスッキリとした印象で、スーツからカジュアルな洋服まで幅広く使える



キャリーバッグを引く図

キャリーバッグを引いているとき、バッグの角度は地面に垂直でなくやや斜めになる。また、人間の腕は真っ直ぐ伸びており、ハンドルを持つときは手の甲は後ろ側になる。

シンプルなデザインのキャリーバッグにすると、ちょっぴりシックで大人な雰囲気を出せる

Part 7

学生服

女子の制服
男子の制服
体操着
学生鞄
学生靴





SCHOOLGIRL UNIFORM

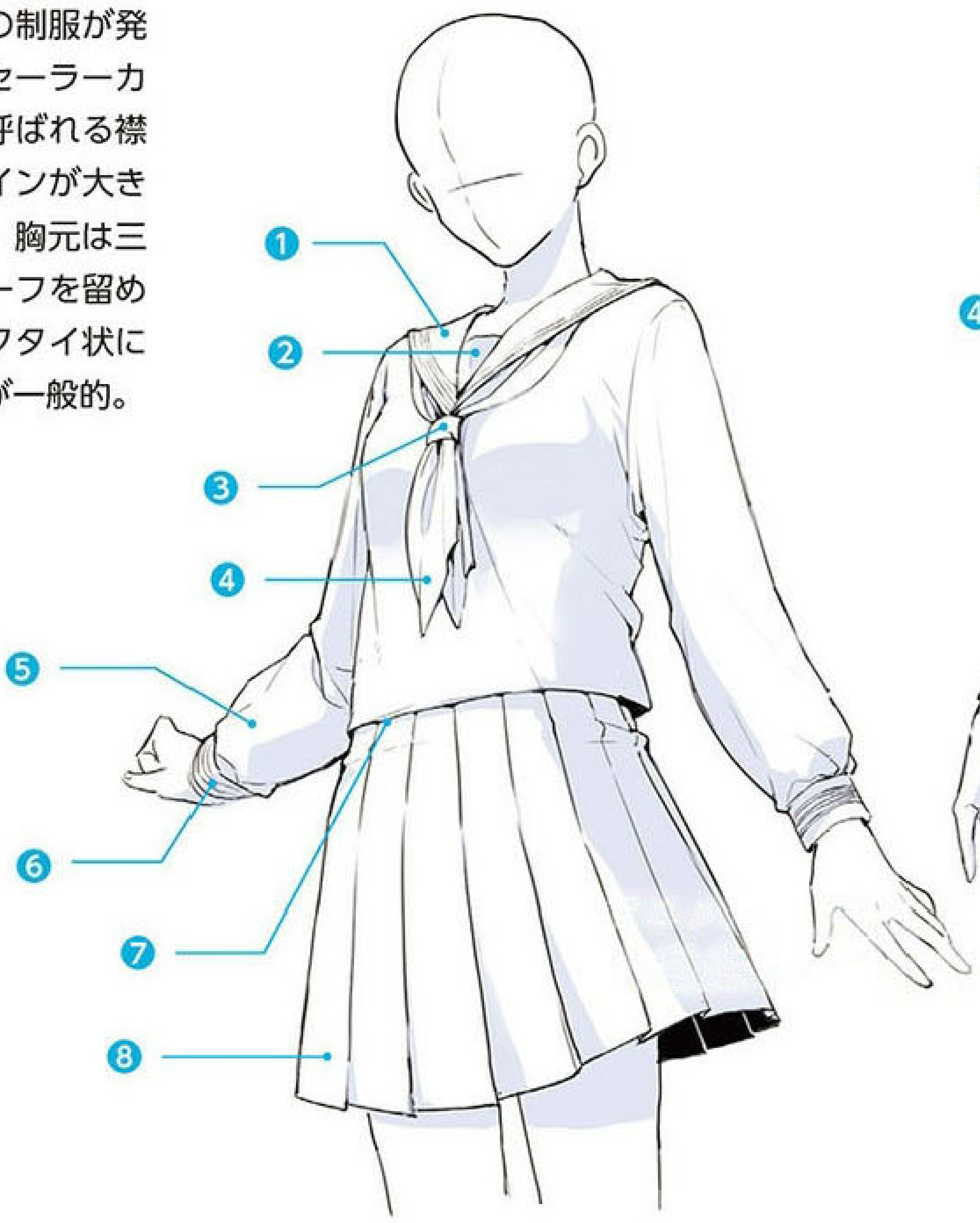
女子の制服

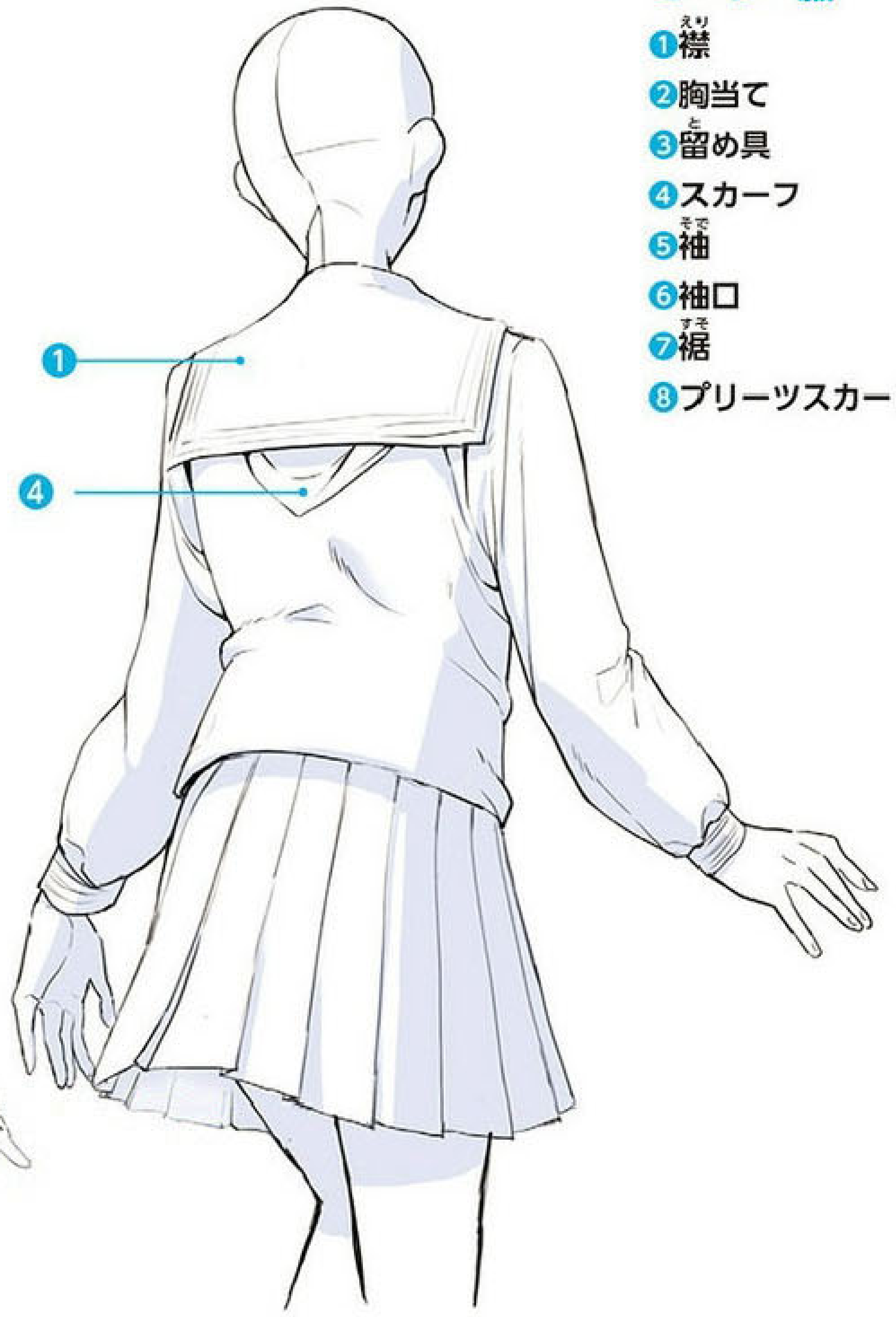
中学校や高校に通う女子生徒が着用する制服です。学校によってデザインに細かな違いがありますが、セーラー服とブレザータイプが主流です。

女子の制服の種類と構造

セーラー服

水兵(すいへい)用の制服が発祥で、セーラーカラーと呼ばれる襟のデザインが大きな特徴。胸元は三角スカーフを留め具でネクタイ状にするのが一般的。



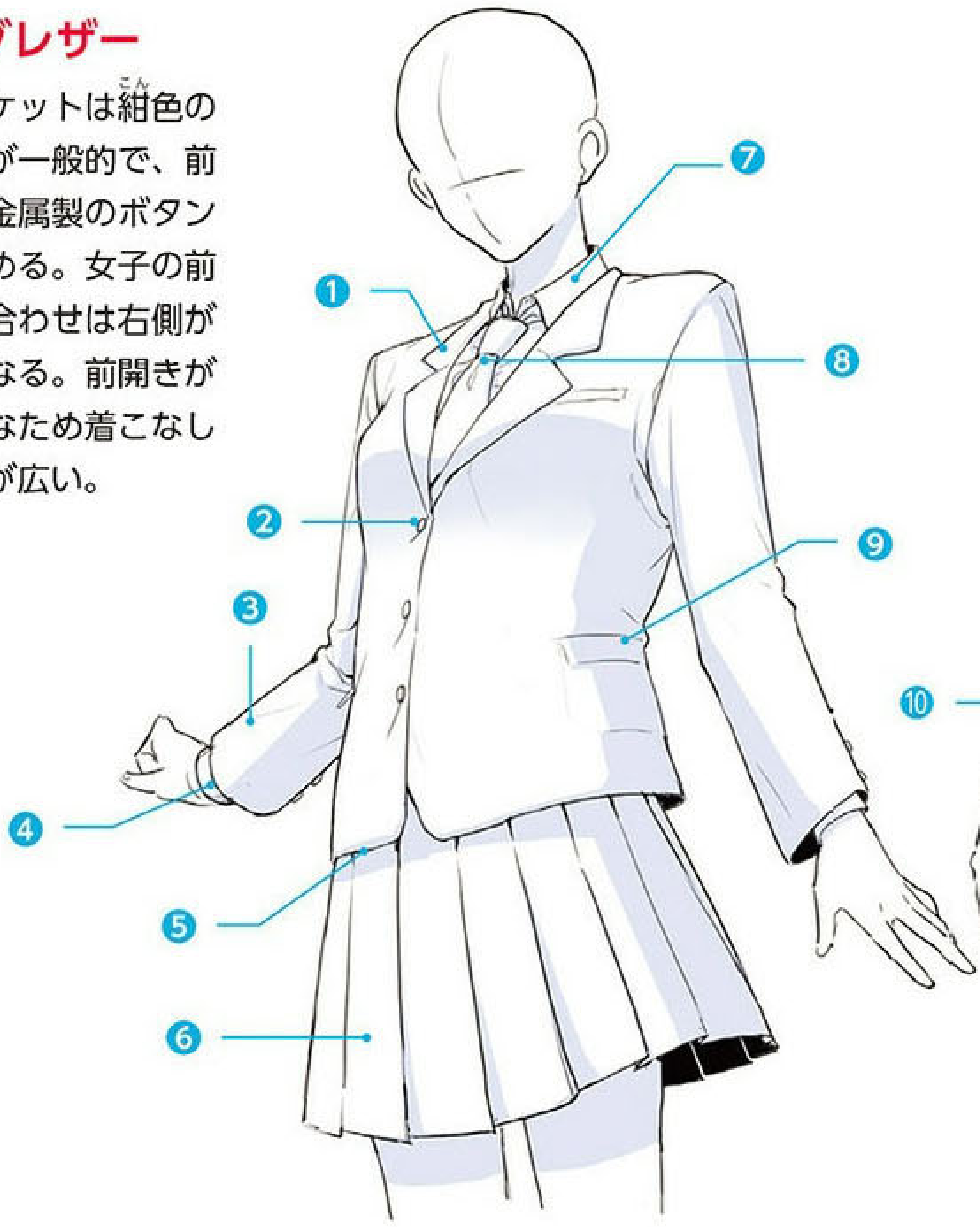


セーラー服

1. 襟(えり)
2. 胸当て
3. 留(と)め具
4. スカーフ
5. 袖(そで)
6. 袖口
7. 裾(すそ)
8. プリーツスカート

ブレザー

ジャケットは紺(こん)色のものが一般的で、前面を金属製のボタンで留める。女子の前面の合わせは右側が上になる。前開きが可能なため着こなしの幅が広い。





ブレザー

1. 襟
2. ボタン
3. 袖
4. 袖口
5. 裾
6. プリーツスカート
7. ブラウスの襟
8. ネクタイ
9. ポケット
10. 飾りボタン

セーラー服の描き方（前側）

1 体とセーラー服のアタリを描く



◀顔や体のアタリを描き、中心線を引く。襟やスカーフはこの中心線を目印に描いていく。セーラー服のアタリは体に密着させ過ぎず、袖や胴周りの生地に余裕を持たせる

2 体のアタリを参考にセーラー服のラフを描く



◀▼体のラインからやや余裕を持たせて服のラフを描いていく。次に、矢印の方向に合わせて胸、胴、肩口、肘、スカートの腰部分に引っ張りジワやたるみを描き入れる





◀▲スカートの裾は、一本のギザギザな輪を繋げるように描こう

3 清書して模様やシワを描き込む



▲全体を清書して、襟や袖口に模様を描き込む。❷で描いたシワの近くに、細い線で同じ流れのシワを描いていく。トップスやスカートの裏地の部分は黒く塗りつぶすと立体感が出る

4 完成

▶胸の下側、胴の側面、袖の下側、スカートの側面、プリーツの間に影を描く。胸から下の生地はゆったりとしているので、柔らかいグラデーションを描き入れよう



セーラー服の描き方(後ろ側)

1 体とセーラー服のアタリを描く



◀後ろ側の体のアタリと中心線を描き、体の中心線を参考に、襟、袖、胴周り、スカートのアタリを描いていく。背中側の服は腰に密着させず、すき間を作るようにしよう

2 アタリを参考にセーラー服のラフを描く



◀▼襟周りと袖を体のラインに沿って描く。胴周りやスカートは❶のアタリを参考にしながらラフを描いていこう。線が整ってきたら、矢印の方向に沿って肩口、腰、肘の周りにシワを描き入れる



3 襟の模様や服のシワを描き込む



▲❷のラフを清書していき、襟の縁(ふち)や袖口にライン模様を描く。セーラー服の腰周りや肩甲骨の下、肩口の周り、袖の下側に短い線のシワを描き足して質感を高めていこう

4 完成



◀影を入れる場所は、胴の側面、袖の下、スカートの側面、スカートの裏地と足が中心。襟の下や腰周りのシワなど、細かい部分の影も描いておこう

女子ブレザーの描き方(前側)

1 体とブレザーのアタリを描く



◀斜め前を向いた体のアタリを描き、中心線を引いてブレザーのアタリを描いていく。ブレザーはセーラー服と比べて生地が硬めなので、全体的に直線的な線を意識して描こう

2 体のアタリを参考にブレザーのラフを描く



▲体のアタリの肩や腕、胸、腰、股(また)の位置を参考にブレザーのラフを描いていく。肩口にはパッドが入っているので、体の肩より少し外側に袖の輪郭線(りんかくせん)を描くようにする

3 ブレザーにシワを入れて清書する





▶▲襟元、肩口、肘、腰周りに、矢印の方向へシワを描き、ブレザーの下のブラウスやネクタイも描き起こして線を清書する。前立てのボタン、ブレザーの胸ポケットとサイドのポケットもこの段階で描き足す

4 完成

▶胸の下側、胴の側面、袖の下側、スカートの側面、スカートに隠れる足のほか、ネクタイやブラウス、肩口のパッドなど、全体に影を描いて完成



女子ブレザーの描き方(後ろ側)

1 体とブレザーのアタリを描く



◀後ろ側の体のアタリを描いて顔と体に中心線を引く。中心線を参考に、ブレザーの襟と肩周り、袖、背中、スカートのアタリを描いていく。背中とブレザーの間は大きめにあけておこう

2 体のアタリを参考にブレザーを描く





◀▼肩や腕、腰周りのアタリを参考にブレザーとスカートのラフを描いていく。服の輪郭が固まってきたら、肩口、肘、腰周りにシワを描いて形を整えよう。袖の飾りボタンもこの段階で描き足しておく

3 清書してブレザーとスカートを描き込む



▲ブレザーに肩口、腰周り、肘のシワを追加で描き込む。スカートはプリーツの線をはっきり描き、左側の折り目がめくれて見えている箇所も描き込む

4 完成



◀腰のシワは横方向に間隔をあけた2本の線を描いて、硬い生地が大きく曲がっている質感を表現しよう。最後に、胴の側面、袖の下側、スカートの側面や裏地、足を中心に影を描いて完成

そのほかの女子の制服

トップス

スクールベスト

基本的には体に沿ったシルエットになり、胸は体のラインに沿って腰から下にシワができる。腕を高めに上げた場合、脇の部分に若干のすき間ができる。

スクールカーディガン

ボタンを閉めて着るのが一般的。ボタンを締め切ると真面目に、一番下だけ開けると着崩している感が出る。裾や袖先を少したわませて、ルーズな感じを出すと可愛らしい。

スクールセーター

カーディガンと同じく、全体的にゆるめのシルエットで可愛さや季節感を表現する。ネクタイを合わせる場合は内側にしまい、リボンなら大きく外に出して目立たせよう。







夏服の着こなし

ブラウス裾出し

バストトップを起点にして裾までストンと落ちるようなシルエットになる。シワは胸周りを中心に発生する。裾のラインは、若干丸みを帯びた程度でほぼ平行に近い形のものが多い。





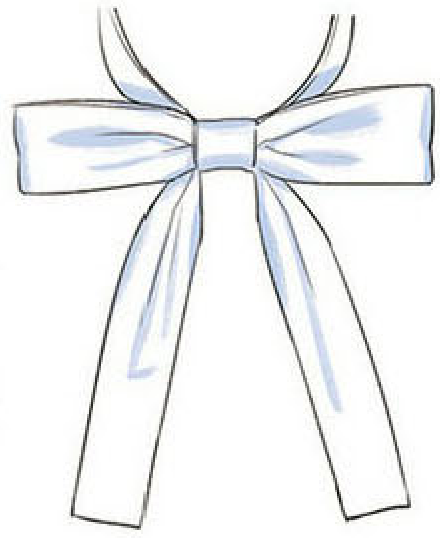
ブラウス裾イン

胸から下も体のラインに近い形になり、スカートにしまった部分は生地がたわんでシワと影ができる。スカートの腰部分を高い位置に描くと腰の位置が高く見えて脚長効果が出る。

首元の飾り

リボンタイ

ブラウスの首元に用いられる飾り。帯状のリボンは、垂れ下がるように描くと柔らかさが出て可愛らしく、直線的に描いて張りを表現すると上品な装いになる。



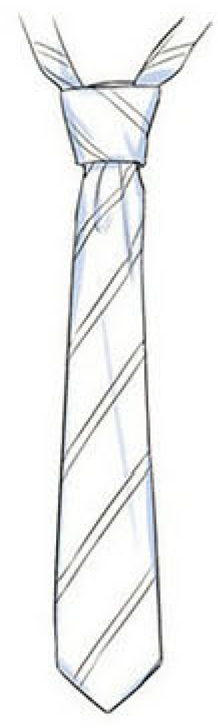


リボン

制服のタイプを選ばず用いられる、蝶の形をした汎用的なリボン。大きな羽根を描き、結び目にできるシワや影を描いて立体感を出そう。

ネクタイ

ブレザーで用いられるタイプで、大人っぽい印象が強くなる。大剣・結び目・首周りで柄の向きを変えて描こう。





SCHOOLBOY UNIFORM

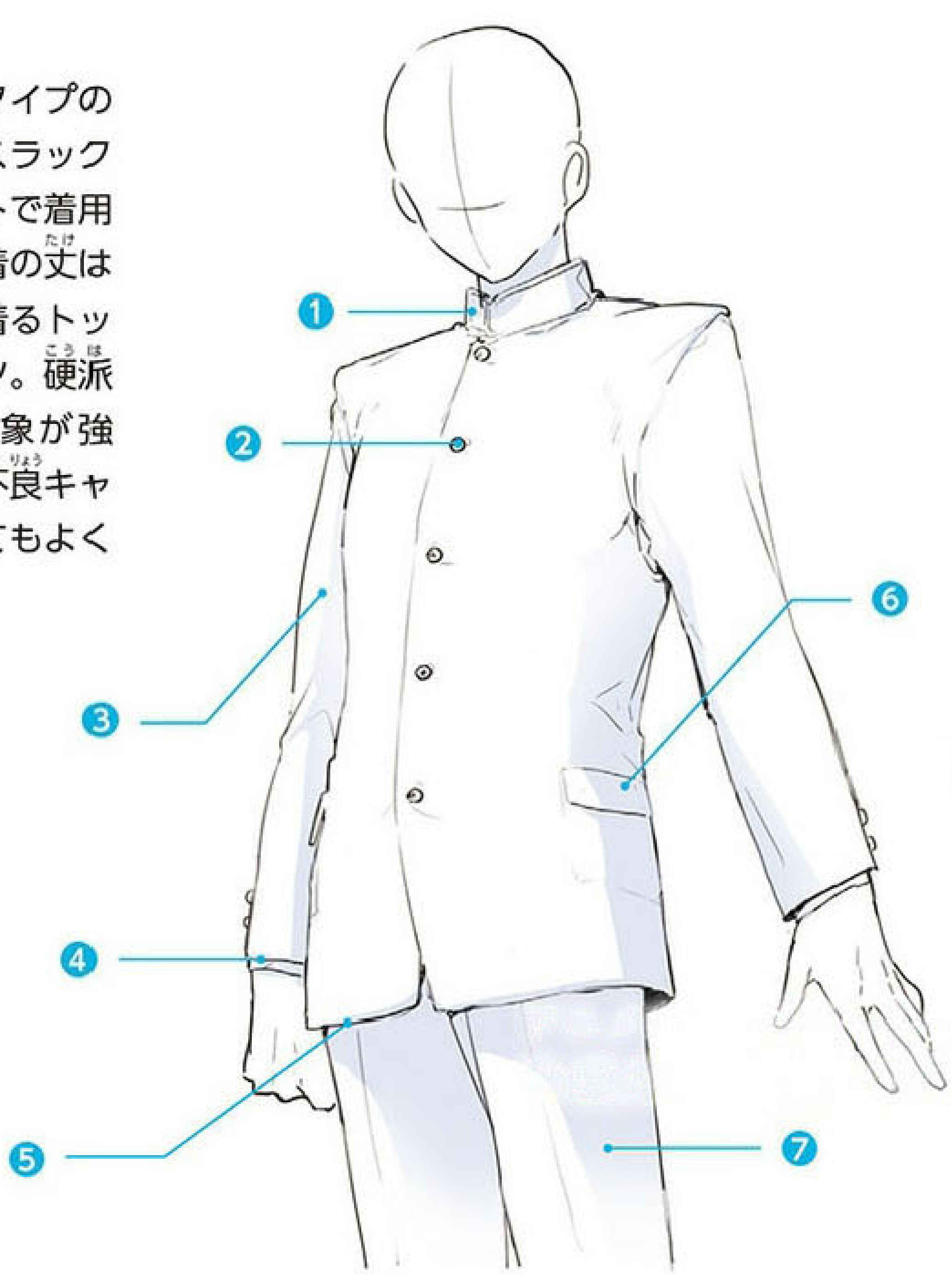
男子の制服

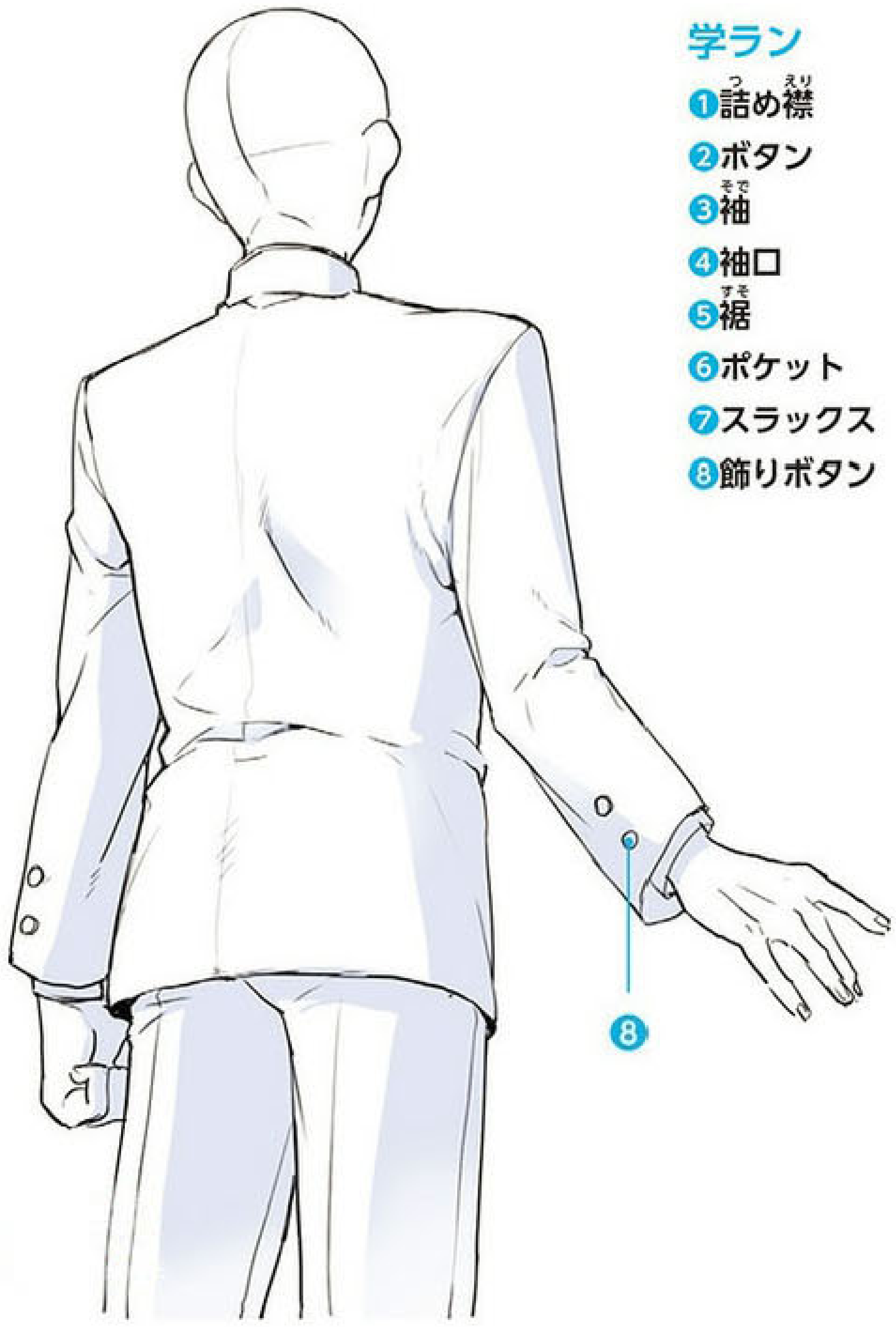
中学校や高校に通う男子生徒が着用する制服です。学ランとブレザータイプが一般的で、ボトムスはスラックスを履きます。

男子の制服の種類と構造

学ラン

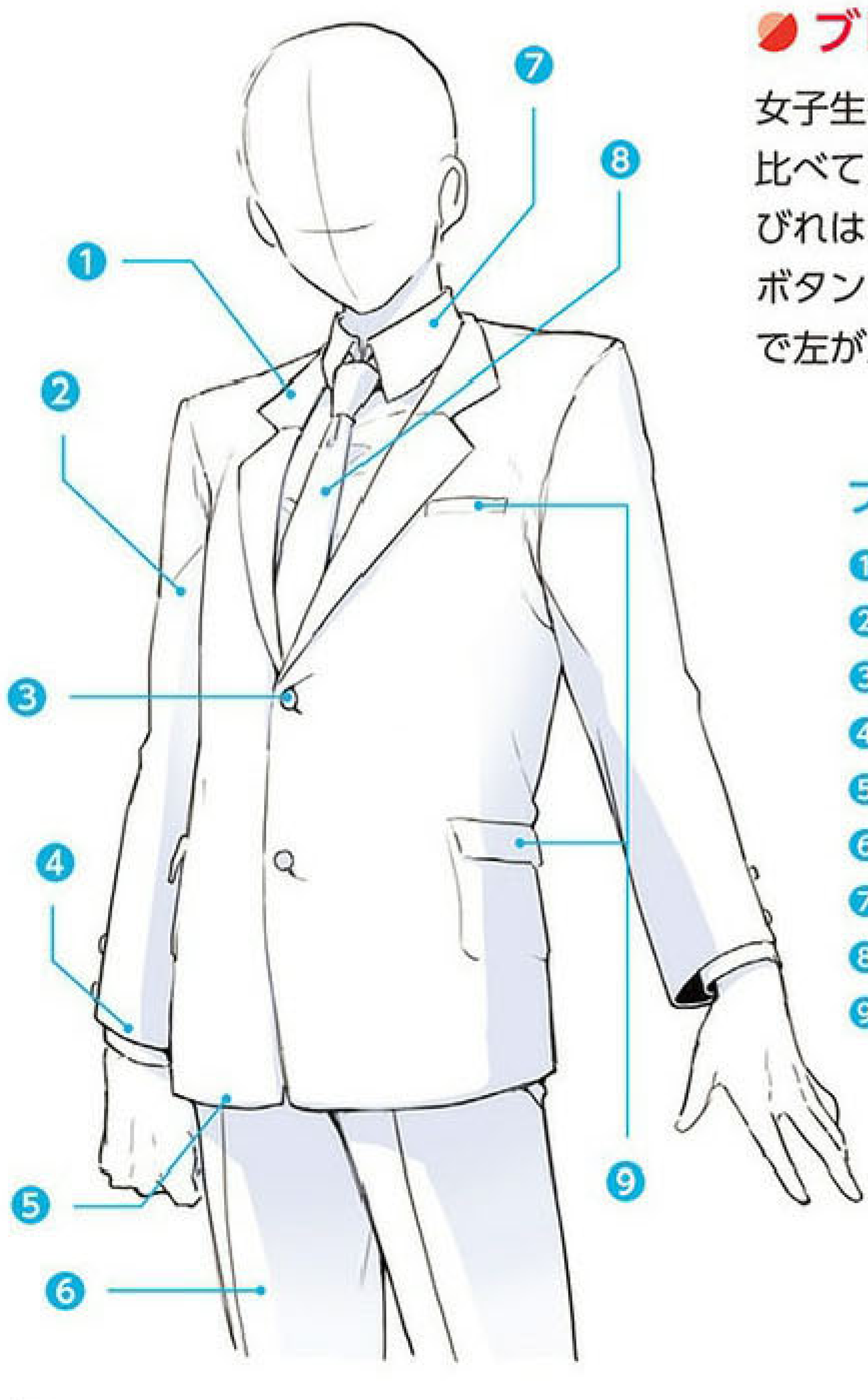
黒地で詰め襟タイプの上着と同色のスラックスを上下セットで着用する制服。上着の丈は腰下で、中に着るトップスは白シャツ。硬派で男らしい印象が強く、応援団や不良キャラの服装としてもよく用いられる。





学ラン

1. 詰め襟
2. ボタン
3. 袖
4. 袖口
5. 裾
6. ポケット
7. スラックス
8. 飾りボタン

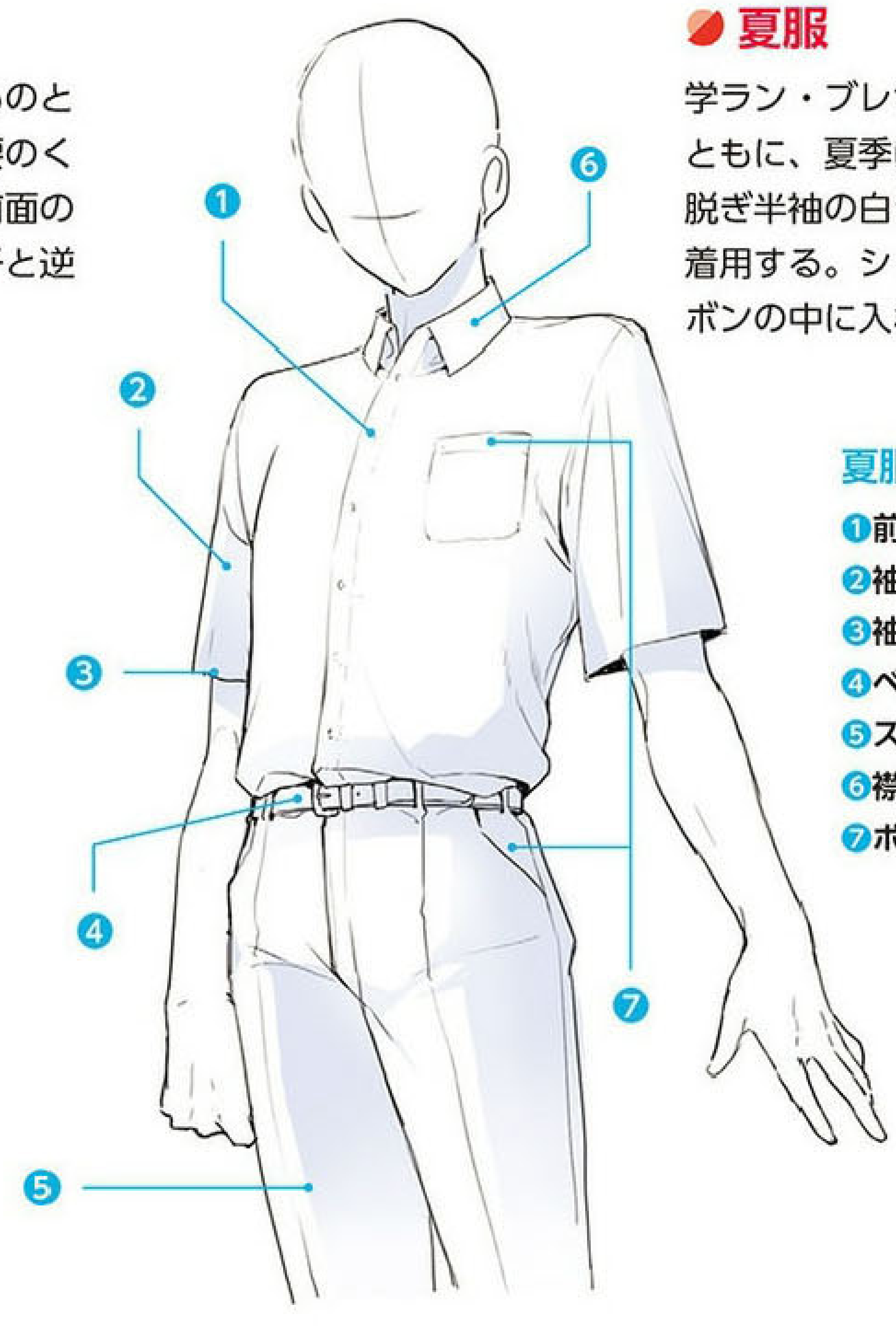


ブレザー

女子生徒が着用するものと比べて肩幅が広く、腰のくびれはゆるくなる。前面のボタンの合わせは女子と逆で左が上になる。

ブレザー

1. 襟
2. 袖
3. ボタン
4. 袖口
5. 裾
6. スラックス
7. ワイシャツ
8. ネクタイ
9. ポケット



夏服

学ラン・ブレザー双方ともに、夏季は上着を脱ぎ半袖の白シャツを着用する。シャツはズボンの中に入れる。

夏服

1. 前立て
2. 袖
3. 袖口
4. ベルト
5. スラックス
6. 襟
7. ポケット

学ランの描き方(前側)

1 体と学ランのアタリを描く

◀男性の体のアタリを描いて体に中心線を引く。体の中心線は、詰め襟と前面のボタンの位置の目安にする。上着の裾は股下あたりの位置に描こう



2 学ランのラフを描く

▶詰め襟は単色の帯を巻いたような形状になる







▶▲体のアタリを参考に学ランのラフを描いていく。上着は肩口が突き出しているので、肩より少し外側の位置から袖を描きはじめよう。服の輪郭線ができたら、肩口と腰の周りにシワを描き、服の形を整える

3 清書してボタンやポケットを描き込む

▶ラフの線を清書し、襟元からお腹のあたりまでボタンを描いていく。ボタンは裾の近くにはつかない点に注意しよう。側面にポケットを描き、袖口にも飾りボタンを描く





◀スラックスはどちらの脚にも腰から裾まで中央に折り目の線が入る

4 完成

◀上着の側面、袖の下側、スラックスの側面を中心に影を描いて完成。上着の裾が広いので、裾のすぐ下の脚も影で覆うようにしよう



学ランの描き方（後ろ側）

1 体と学ランのアタリを描く

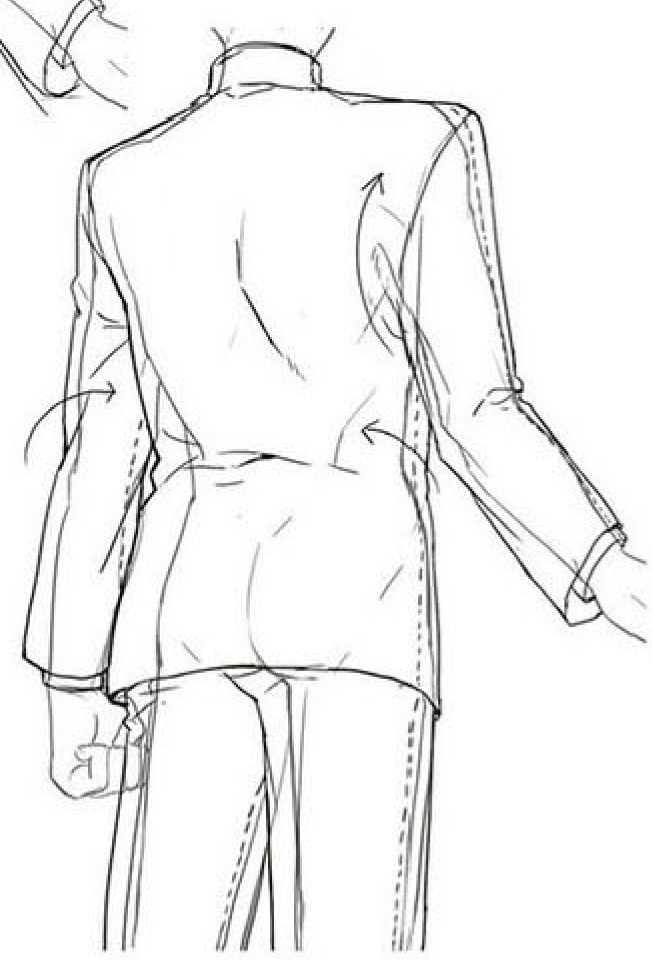


◀男子の後ろ姿のアタリを描き、襟や袖、胴周り、スラックスのアタリを描いていく。大きく生地が折れる腰や袖の位置には、おおまかなシワの線もアタリで描き入れておく

2 学ランのラフを描く



◀▼アタリを参考に学ランのラフを描き、線を整えていく。前側と同じく肩口は体の肩より少し外側まで描き、腰の部分も体の腰よりも離れた位置に線を引いてゆとりを持たせよう



▶肩甲骨、肩口、肘、腰の周りに大きくシワを描こう

3 清書して飾りボタンやシワを描き込む



▲袖口に飾りボタンを描き、背中や肘など細部に小さなシワを描き足していく。詰め襟や袖口には、シャツの襟や袖口が軽く見えるように描くとスマートな印象になる

4 完成



◀上着の背中の中央に、薄く縫い目の線を描き、影を描いて完成。影は主に袖の下側、胴の側面、スラックスの裾近くと側面に入れる。細かい部分では、襟や背中のシワのくぼみにも影を描き入れよう

男子ブレザーの描き方(前側)

1 体とブレザーのアタリを描く



◀男子の体のアタリを描き、体の中心線を参考にしながらブレザーのアタリを描いていく。中に着るシャツやネクタイも、中心線上に描こう

2 ブレザーの輪郭線とシワを描く

▶▼体のアタリを参考にしながら、ブレザーの輪郭線のラフを描いていく。体の肩や腰との間にすき間を作るように上着の輪郭線を描き、肩口や腰周りにシワを追加して服の形を整える





3 清書してボタンやポケットを描く



▲ラフの線を清書して、前立てのボタンやポケットを描く。ほかにもネクタイの周りにシャツのシワ、袖口に飾りボタン、肩口周りのシワを追加して、全体の質感を高めていこう

4 完成

◀袖の下側、胴の側面、スラックスの裾近くから側面にかけての範囲に影を描いていく。続けて、ネクタイの結び目、シャツの襟、袖口近くの手など、細部まで影を描き入れて完成



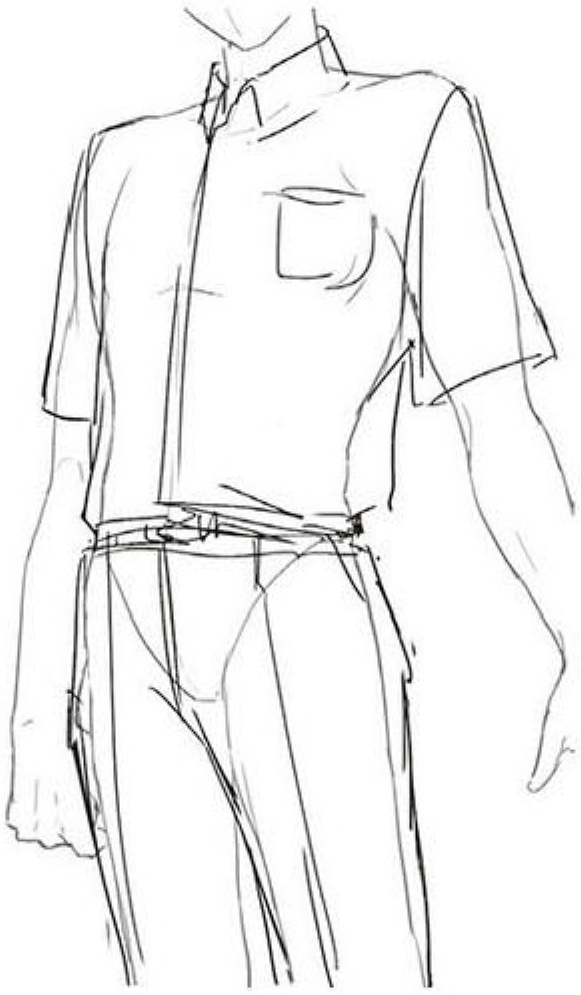
男子夏服の描き方（前側）

1 体と半袖シャツ、スラックスのアタリを描く



◀体のアタリを描いて中心線を描く。中心線を参考に半袖シャツとスラックスの中央を決め、おおまかな服のアタリを描いていく。裾をスラックスに入れるベルト部分の位置は腰の高さにしよう

2 服の輪郭線を描いてシワを描き込む



◀▼服のラフを描きながら、襟や前立て、スラックスの折り目など細かい部分まで形を整えていく。服のシワは、脇の下や腰周り、股上の周辺に描き入れよう



▶裾をしまっているので腰周りの生地は体に近くなる

3 ポケットやベルトなどの細部を描き込む



▲胸ポケット、前立てのボタン、ベルト部分のベルトループや留め金など細部も描き込み、全体を清書して線画を仕上げる

4 完成

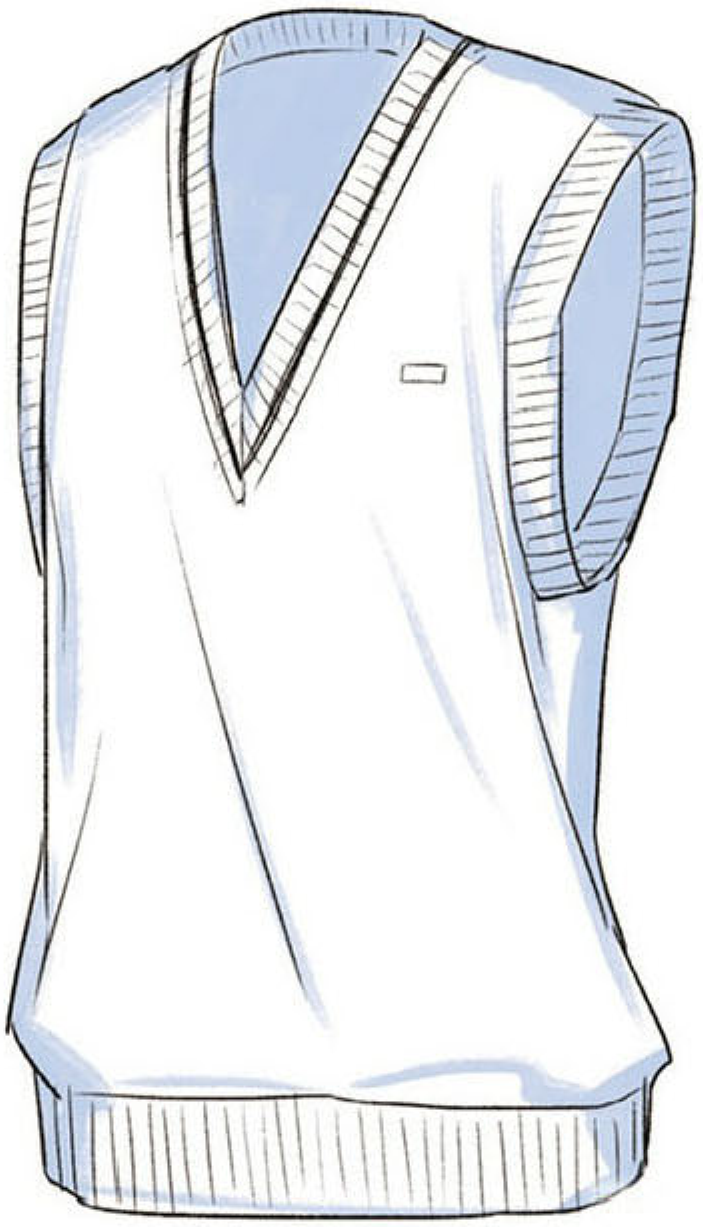


◀袖や胴、スラックスの側面のほか、半袖シャツの裾がたるんだ部分やベルトの周りに影を描いて完成。光が当たる部分と影になる部分の境い目をはっきりさせるとスマートな印象になる

そのほかの男子の制服

スクールベスト

男女兼用のためデザインは同じ。男子は胸板が厚く生地が張るので、よれたシワは描かず胸から裾にかけて大きな引っ張りジワを入れるようにしよう。



スクールカーディガン

胸の周りを平らにして、お腹の周りから裾にかけてシワができるように描くと男性的なシルエットになる。肩も女性ほど丸くないので、肩のラインもまっすぐ寄りな線で描こう。



スクールセーター

女性のような胸の膨らみがないので襟元から裾にかけてシワの線が繋がる。肩から胸にかけてのシワは少なめにして、裾や袖口の近くになるほどシワが増えるバランスを心掛けよう。



スラックス

生地が柔らかいため、股の周りにできるシワは少ない。両脚の中央には、ウエストから裾にかけて綺麗な折り目が入っている。膝から下は、裾が足先に当たって形が崩れるため凹んだようなシワができる。



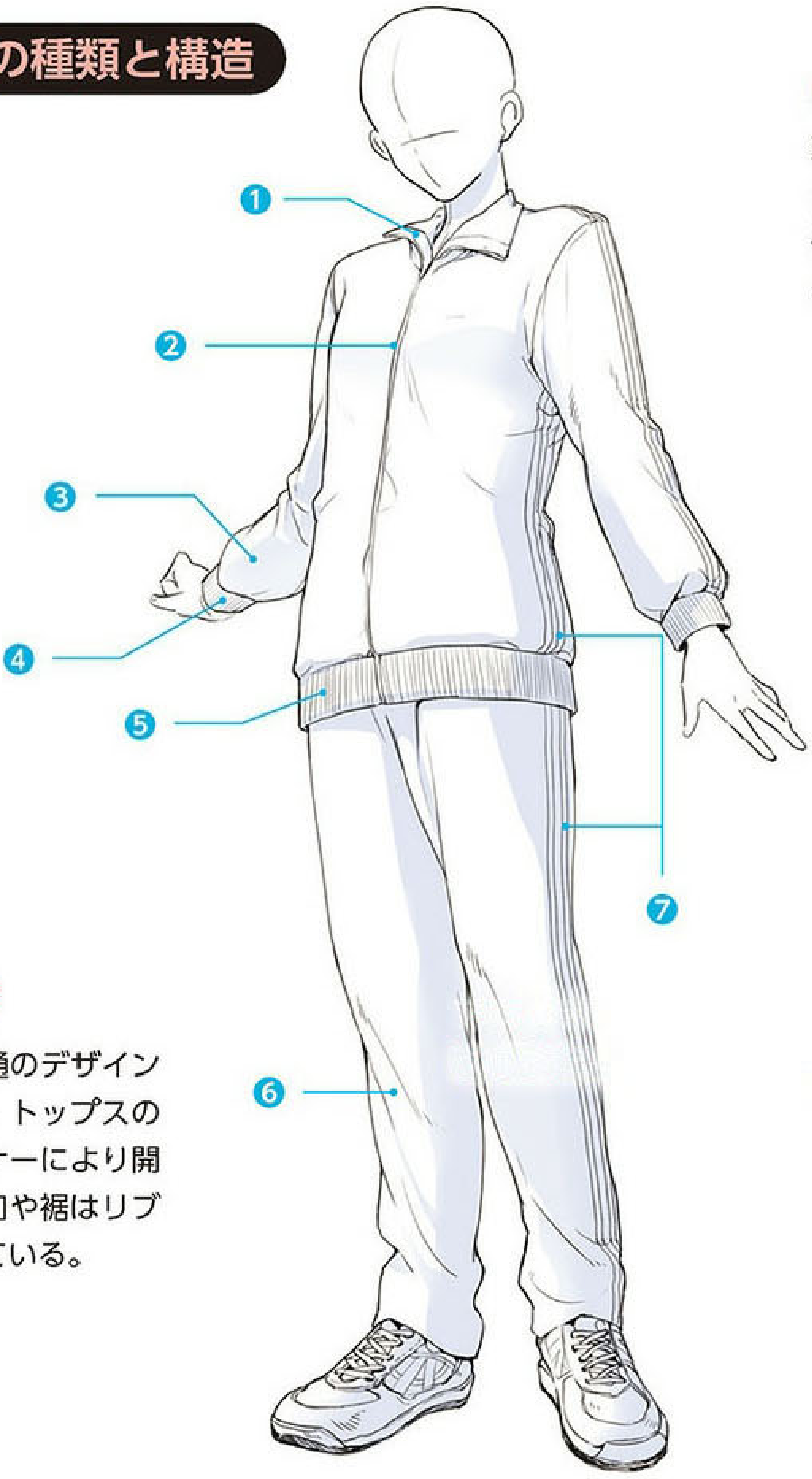


GYM CLOTHES

体操着

体育の授業や部活動などで体を動かす際に着用します。側面にラインが入るものが多く、学年ごとに生地の色が分かれていることもあります。

体操着の種類と構造

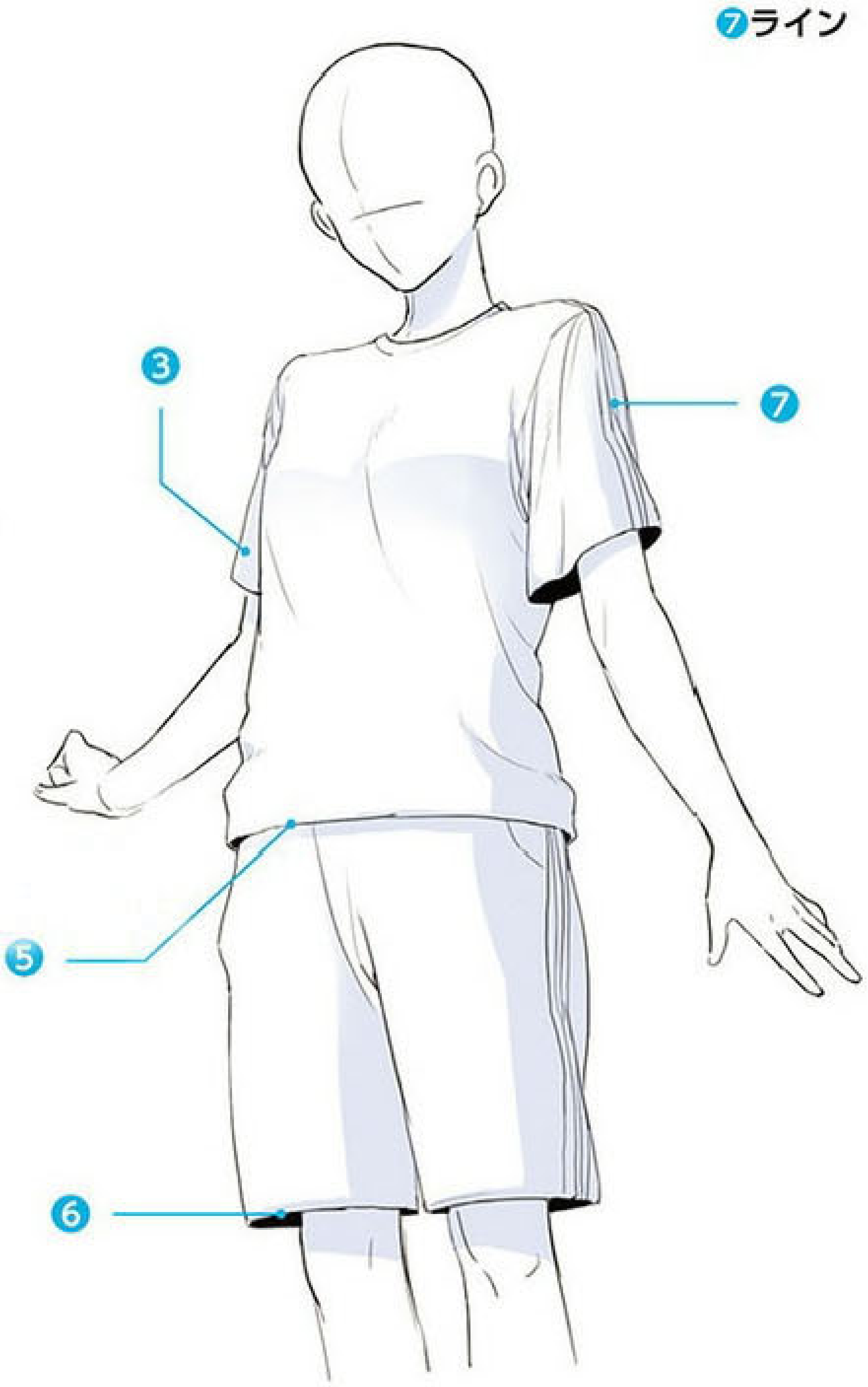


ジャージ

上下ともに共通のデザインが用いられる。トップスの前面はファスナーにより開閉できる。袖口や裾はリブ状ですぼまっている。

体操着

現在では男女ともに半袖の体操シャツにハーフパンツが一般的。伸縮性の高い素材が使われるため、細かいシワができにくい。



❶襟
❷ファスナー
❸袖
❹袖口
❺裾(トップス)
❻裾(パンツ)
❼ライン

体操着の描き方(前側)

1 体のアタリと体操着のラフを描く



◀女子を描くときでも体操シャツの胸から下は、体のくびれをあまり意識せず、バストトップから腰に向かって線を引く。ハーフパンツも脚のラインには合わせず、脚の付け根から下に向かって線を引こう

2 体操着の輪郭線を描く



◀ラフを参考に肩口、胸、腰周りにシワを描き込みながら服の輪郭線を描いていく。肩や腰には深いシワの線を斜線で描き入れ、生地の柔らかさを出す

3 影を塗って完成



◀清書して袖とハーフパンツの側面にラインを描き、胸の下側や袖、胴、脚の側面に影を描く。袖の裏側など生地の裏側が見えている部分は黒で塗りつぶしてメリハリをつけよう

ジャージの描き方（前側）

1 ジャージと体のアタリを描く



◀ジャージの輪郭線はどの部位も体のアタリより幅を太めに描いていく。胸のトップの位置を参考に、腰までまっすぐ線を引くと生地にゆとりがあるように見える

2 体のアタリに沿ってジャージの線画を描く





▲▶トップスの前面と背面の縫い目に点線でアタリを付けながら、肩口や腰周り、肘の周りにシワを描き入れていく。パンツは脛あたりから裾に向かって斜めに線を引いてシワを描く

3 清書して細部を描き込む





▶▲袖口とトップスの裾に細かく縦線を描き込みリブ状にする。側面にはジャージのライン柄を細く縦長の線で描いていく。パンツの裾など生地が大きく曲がる箇所では凹凸に合わせてラインの柄を曲げて描こう

4 完成

▶胴の側面や胸の下側、裾の下側に影をつけて完成。トップスの裾のリブ生地の下に影を入れると、生地の分厚い質感が表現できる





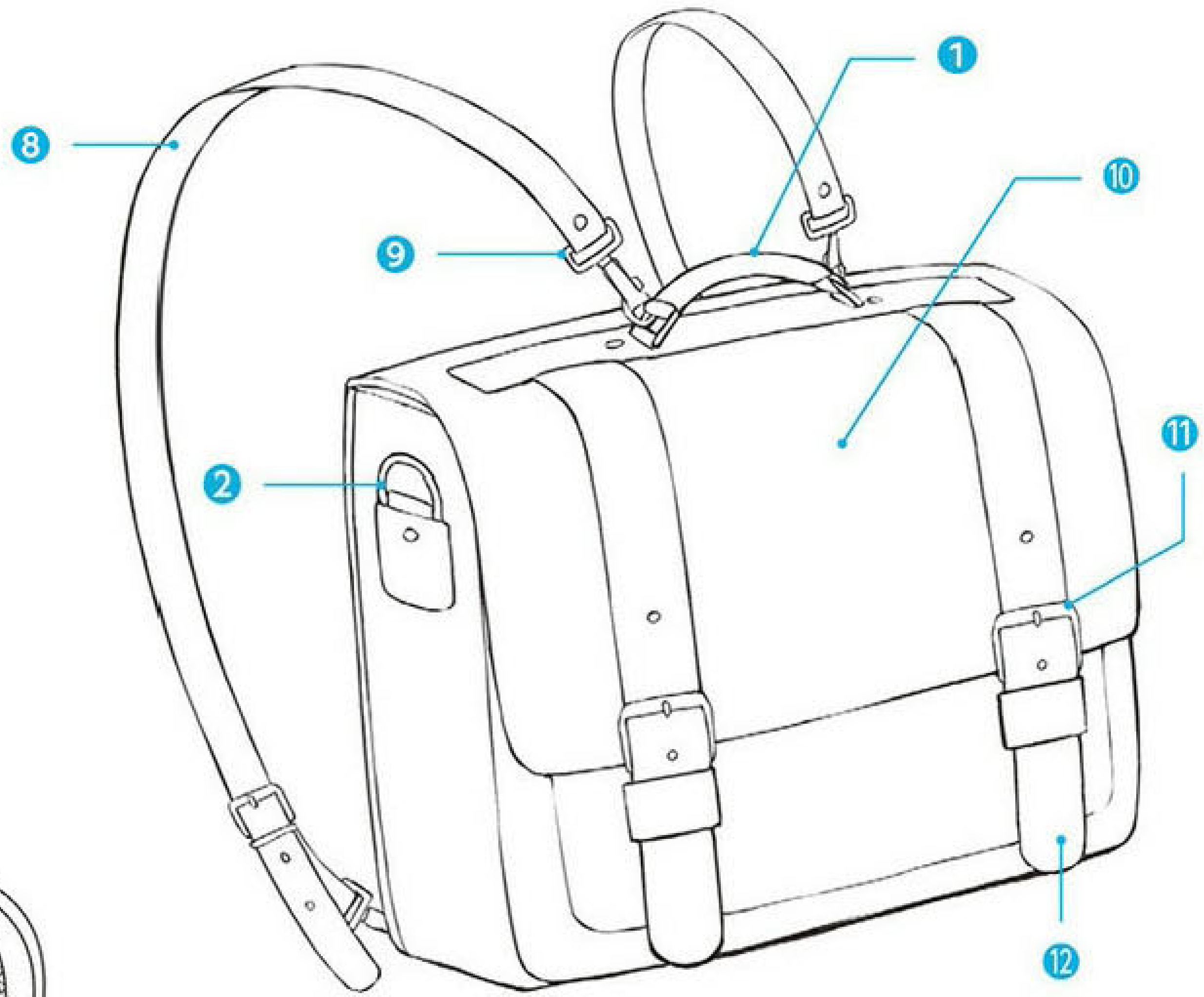
SCHOOL BAG

学生鞄

学生の通学時に用いられる鞄です。実用面に優れたプレーンなタイプが中心ですが、カンにキーホルダーなどをつけて個性を出す場合もあります。

学生鞄の構造



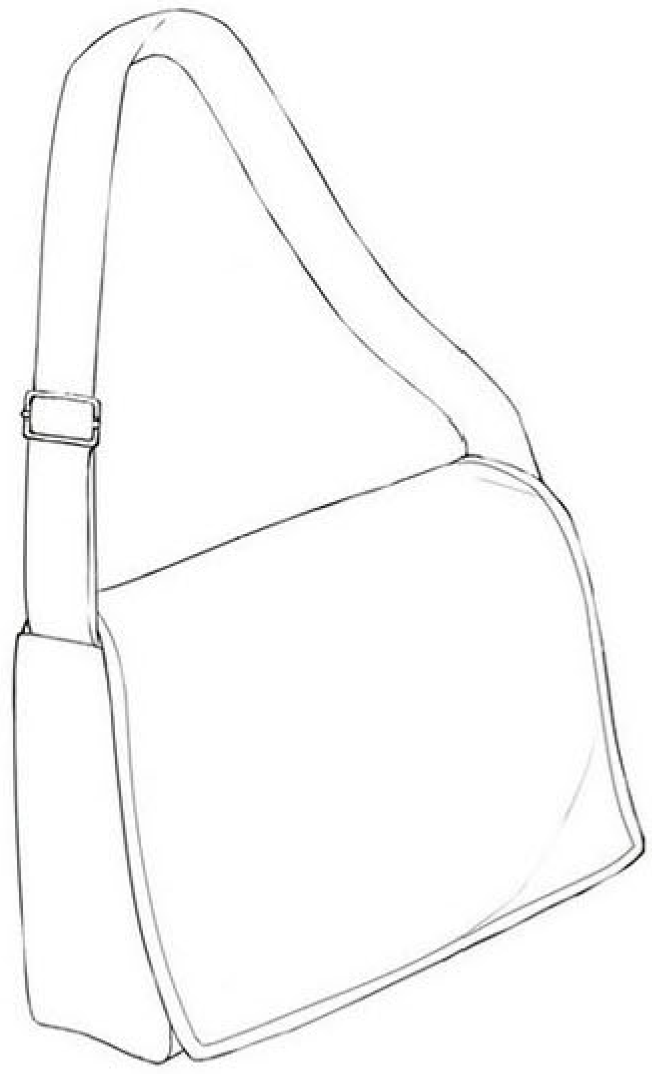


- ❶持ち手
- ❷カン
- ❸ポケット
- ❹ファスナー
- ❺あおりポケット
- ❻カシメ
- ❼マチ
- ❽ショルダーベルト
- ❾ナスカン
- ❿フラップ
- ⓫バックル
- ⓬ベルト

学生鞄の種類







スクールボストンバッグ

学生用鞄としてはもっともオーソドックスなタイプ。生地はナイロン製が多いが、革製のものもある。

エナメルバッグ

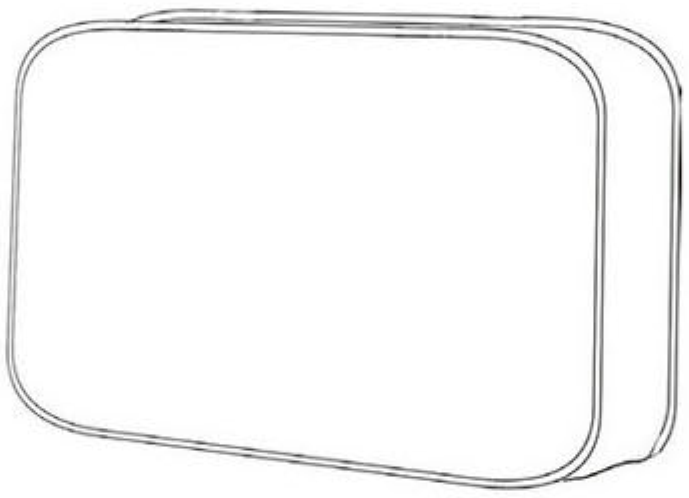
強い光沢感を持つ合成皮革で作られている。肩掛けの大きなバッグで、運動系の部活動によく用いられる。

肩掛け鞄

昔ながらの学生鞄。帆布という表面がザラザラした厚手の布を使っている。負荷のかかりやすい縁や角を革で補強したものも多い。

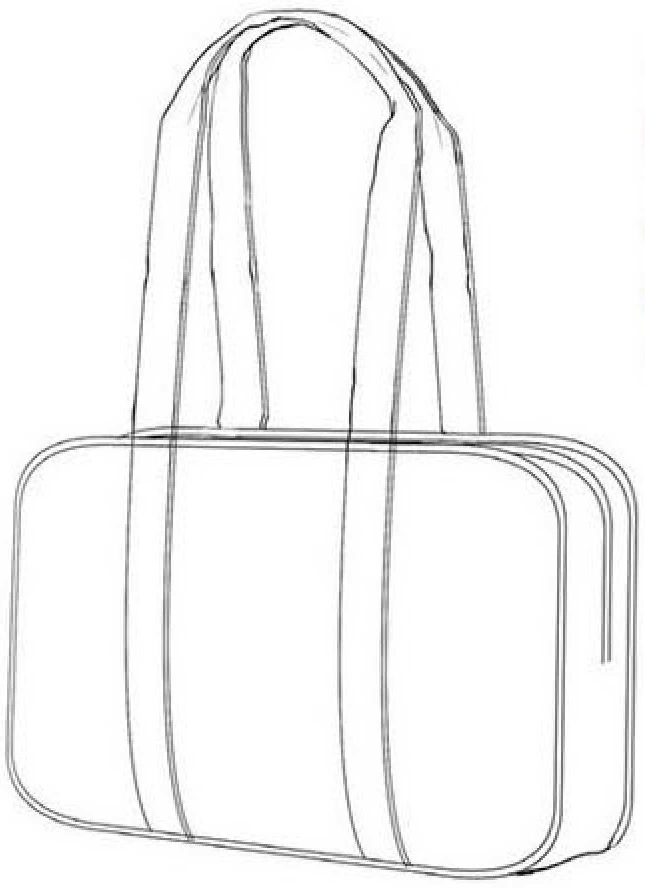
スクールボストンバッグの描き方

1 おおまかな輪郭(りんかく)を描く



▲長方形をイメージし、バックの輪郭線を描いていく。輪郭線は2重にし、角は丸くする。底側のマチ部分はまっすぐではなく内側を少し反(そ)らせる

2 持ち手とファスナーを描く



◀底面からバッグの胴沿いにバンドの線を描きだし、そのまま持ち手とかして描いていく。ファスナーは側面の真ん中の高さから上の面へ描き始める

3 ポケットと細部を描く



◀前面の真ん中の高さに、前ポケットの線を描き入れる。ポケットの少し上に、あおりポケットの二重線を描く。側面のファスナーの下端にも横方向に二重線を入れ、帯を描こう

4 シワ、ファスナー、装飾の細部を描く



◀あおりポケットとバンドが重なっている線を消し、カシメをバンドに描く。あおりポケットの向かって左側に、カンとカンを通すストラップを描く。シワは各パーツの境界線の近くに描き入れ、ファスナーには細かい縦線を描いていく

5 完成



◀輪郭線の内側、前面のバンドと生地の間、バッグの側面に影を入れて完成。奥側の持ち手を影で塗ると奥行きが出る

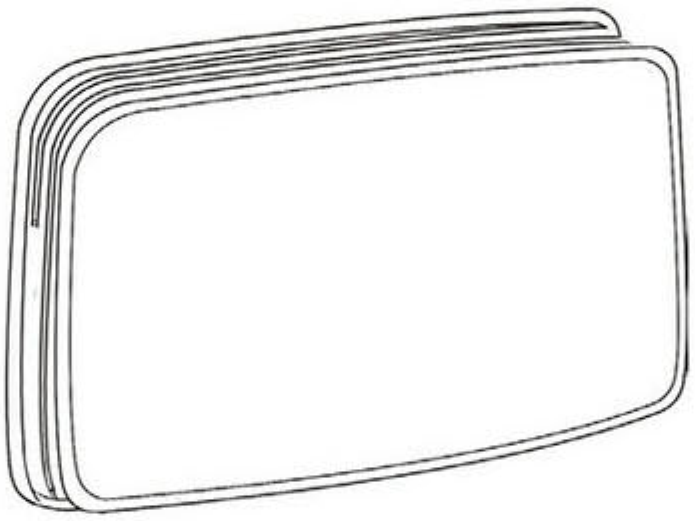
バッグを持った図



▶肩に掛けると持ち手の部分が歪(ゆが)んで影ができる。中身が入っていると人が持ってもバッグの形はほとんど変わらない

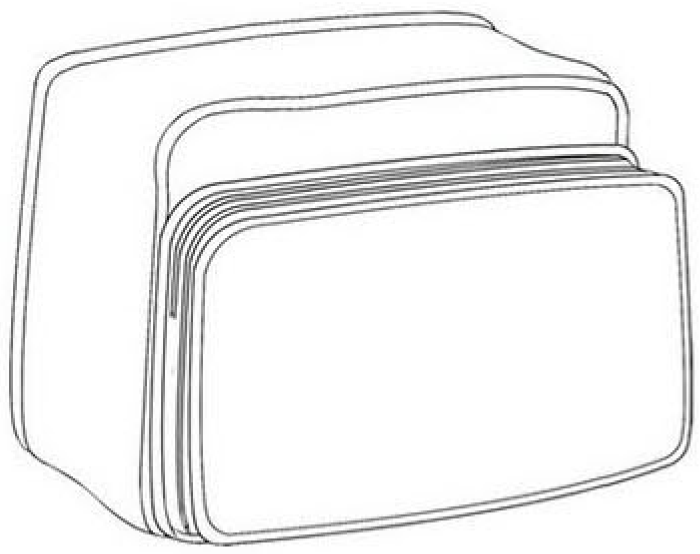
エナメルバッグの描き方

1 前ポケットを描く



▲バッグ本体の前側についている前ポケットを描く。角が丸い二重線の四角を前と後ろに並べ、その中間に2本のファスナーの線を描く

2 バッグの本体を描く



▲❶の前ポケットより少し高さがある二重の輪郭線を描き、斜めに並行した位置に同じく二重の輪郭線を描いてマチの線で繋ぐ。マチの線は、本体の内側にやや凹む形になるように少し反った曲線で描こう

3 バッグの持ち手と横マチを描く



▲側面の真ん中よりやや下に太い帯を描いて、その上に吊りカンとショルダーベルトを描く。ショルダーベルトの上側には、肩を守る布を巻きつけるように描いていく

4 バッグのシワや細部を描き込む



◀バッグの輪郭線の近くに少しシワを描き、ファスナーとスライダーを描き込む。ファスナー部分には、細かく縦線を描き入れていく

5 完成



◀ショルダーベルトの裏側やバッグの本体に影を入れる。バッグ本体の影は、エッジが丸く不規則な形にして軽くグラデーション状に描くとエナメルの質感が出る

バッグを持った図



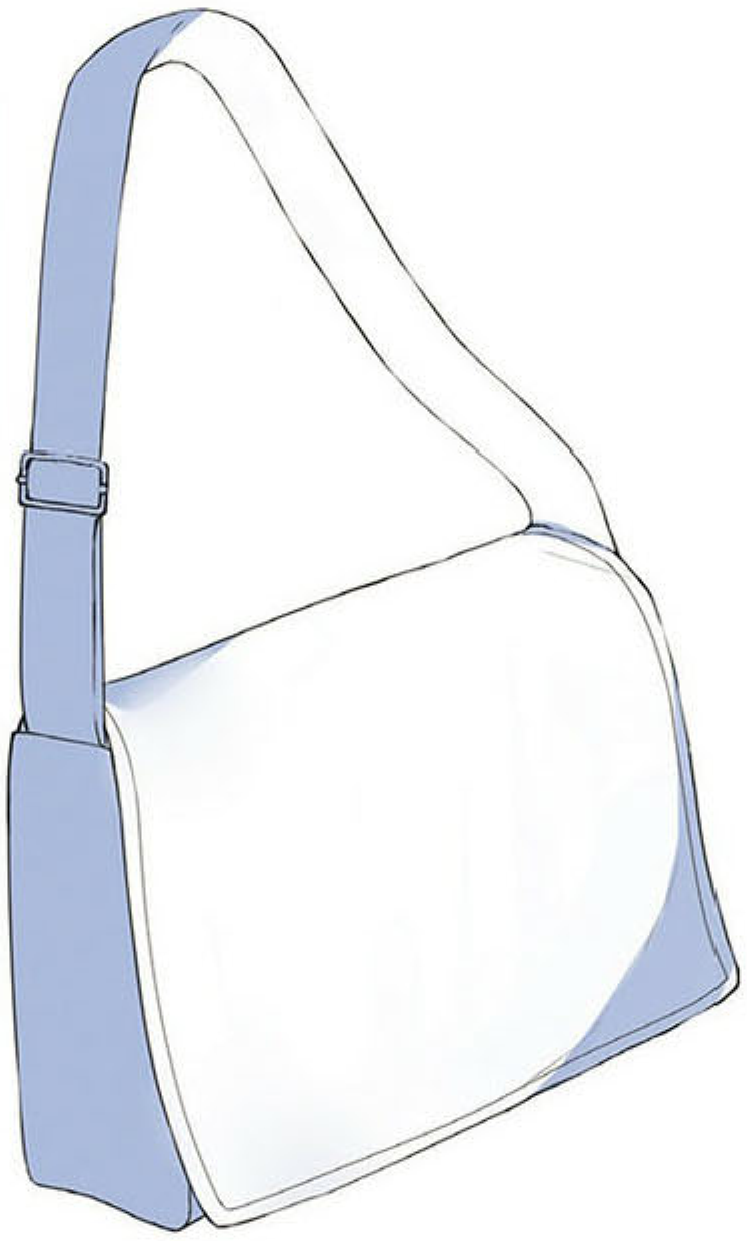
▶エナメルバッグは重量があるのでたすき掛けで持つことが多い。バッグが傾いて前面がやや上を向くので、光が当たって影の面積が少なくなる

学生鞄の作例

肩掛け鞄

全体が帆布でできているため形が変わりやすい。肩に掛けるとショルダーベルトが引っ張られて両サイドが内側へ寄り、フラップの中央が折れ曲がってくぼんだ形になる。

レトロな雰囲気があり、学生服としての歴史がある学ランとセットで扱われることが多い



サッチェルバッグ

イギリスの学生が伝統的に用いている鞄。上質な革を素材としている硬いバッグなので、細かいシワは入れず、輪郭線を太めの線で描くと革の質感が出やすい。



海外の学生を描く場合や、お嬢様系の学校へ通う上品な女子生徒のバッグに合う

スクールリュック

軽量で大きく収納力に優れたバッグ。女子生徒や体が小さいキャラに背負わせるときは、体より少し大きめに描くと体格に不釣り合いな雰囲気が出て可愛く見える。



爽やかでスポーティーな男子生徒やカジュアルで明るいタイプの女子生徒など、アクティブな印象のキャラに似合う

スクールボストンバッグ

基本は角の丸い長方形の立方体だが、素材がナイロンか革かによって表面の質感が異なる。ナイロンであれば輪郭線の近くに細かいシワを描き、革の場合はハイライトを強くするのがポイント。



学生キャラに合わせる鞄に迷ったときは、男女ともにこのタイプを選ぶと間違いがない



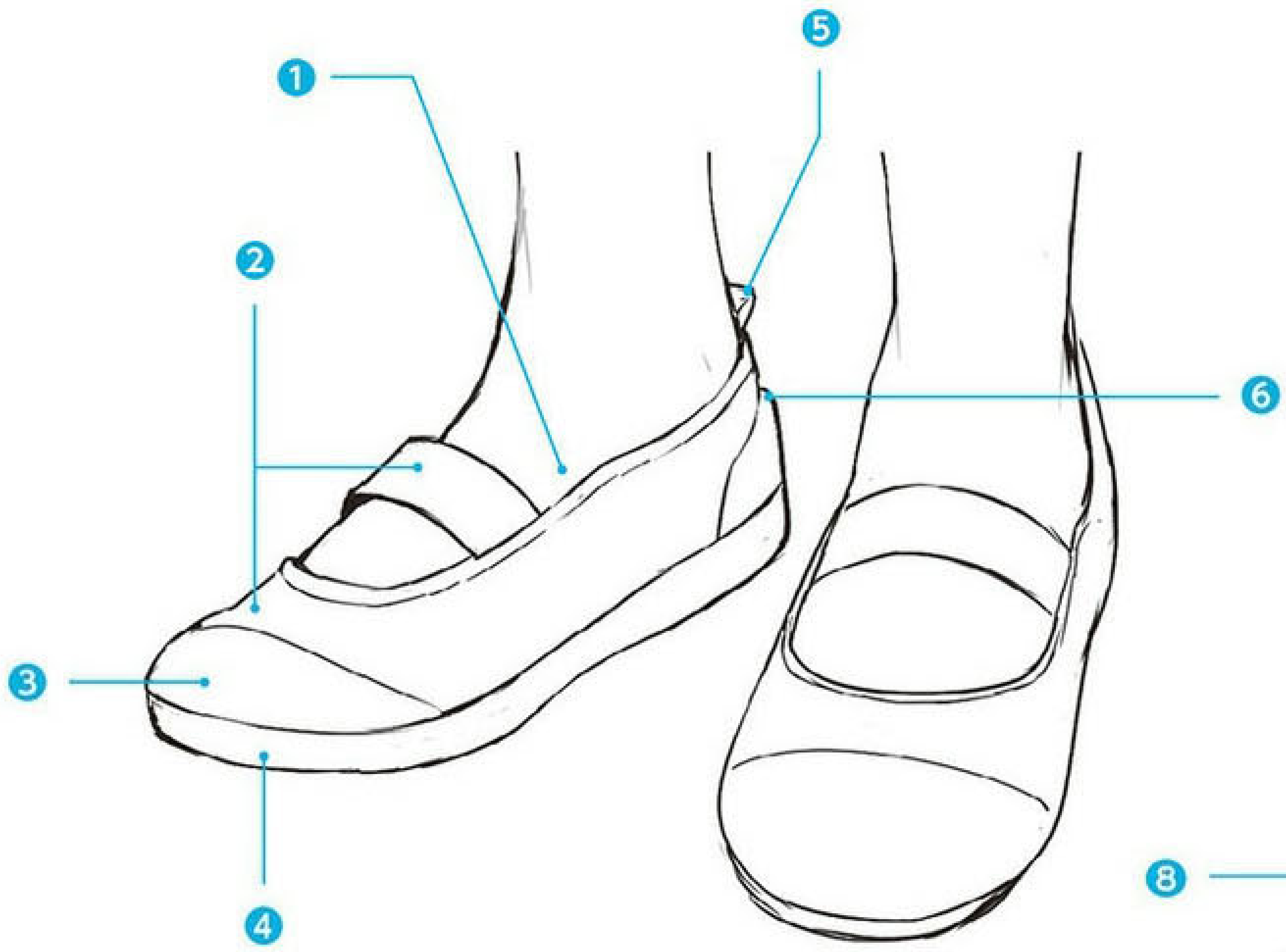
SCHOOL SHOES

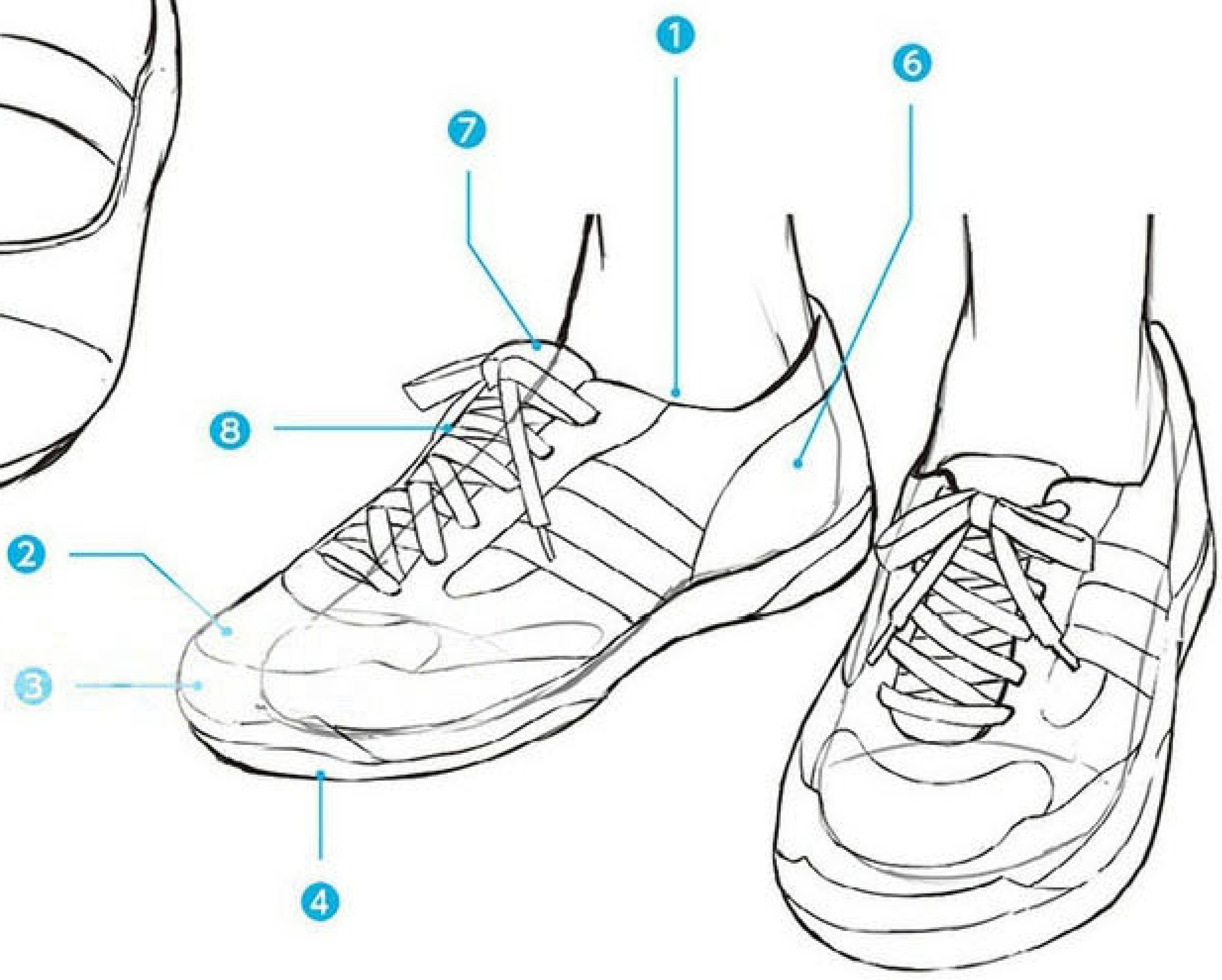
学生靴

学校生活の中で履く靴です。個性よりも制服との馴染みが重視されます。およそ外履きと上履き、運動用の3種に分けられます。

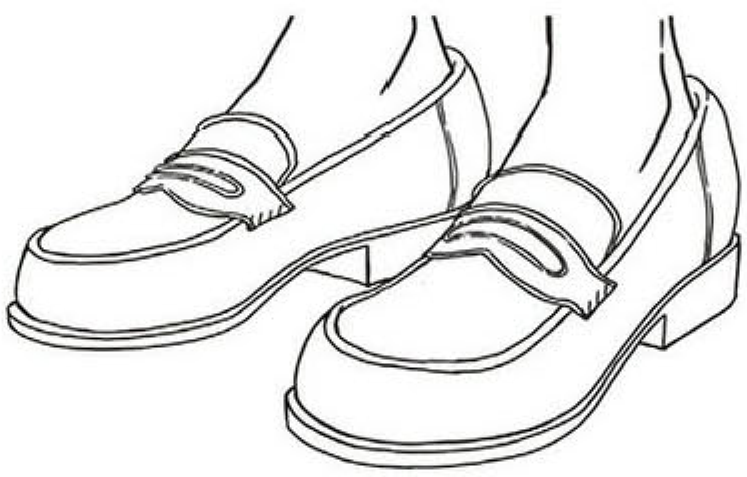
学生靴の構造

❶履き口　❺ストラップ
❷アッパー　❻ヒールカウンター
❸つま先（トゥ）　❼タン
❹靴底（アウトソール）　❽靴紐（シューレース）





学生靴の種類



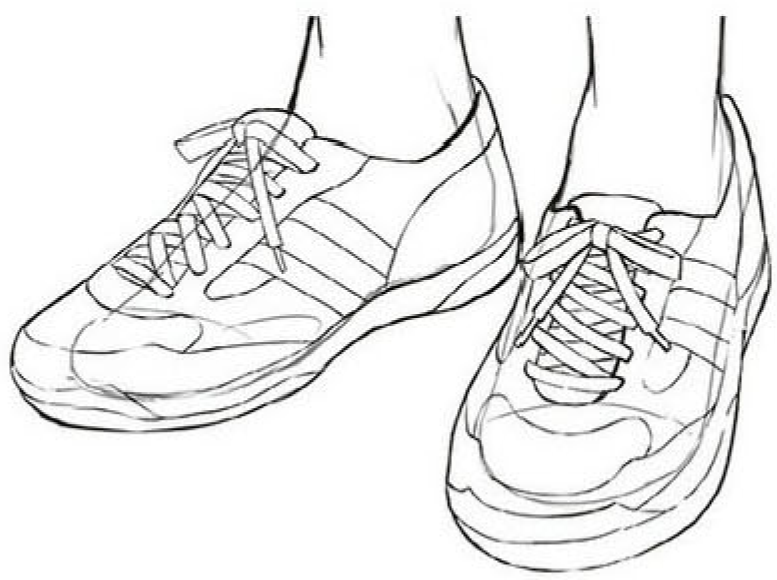
ローファー

通学用にもっとも用いられている靴。色はこげ茶や黒が主流で、紐飾りや金具のつかないシンプルなデザインが多い。

上履き

屋内用の靴。つま先のラバー部の色を、学年ごとに変えているものもある。





運動靴

体育館など屋内での運動時に用いる靴。学校用のものは側面にライン柄が入っているものが多い。構造はスニーカーとほぼ同じだが、屋内用に作られた運動靴は靴底が摩擦ですり減っても床に跡が残らないよう、飴色や白色のゴムが使われている。

上履きの描き方

1 親指の付け根からかかとまで覆う線を描く



▶足のアタリを参考に、上履きの輪郭を足よりも少し大きめに描く。土踏まずの部分もあまり曲げず、全体的にフラットな線にする。つま先は少し膨らませて上を向くように描こう

2 履き口と靴底を描く



▲履き口の線は、親指の付け根より少し内側からかかとまでを覆うように描く。靴底は、かかとから小指の付け根まではあまりカーブさせずに描き、つま先部分は足のアタリに沿ってカーブさせていく

3 かかとと足先のラバー部分を描く



▲足のアタリを消し、履き口の線を二重線にして厚みを表現する。つま先にはラバー部分を足の指を覆うように曲線で描いていく

4 完成

▶足の甲にアッパーのゴムテープを描き足し、かかとにストラップをつけて完成。影を入れ過ぎるとゴテゴテしてしまうので、濃い影はかかと周りだけにしてつま先の影は薄く描く

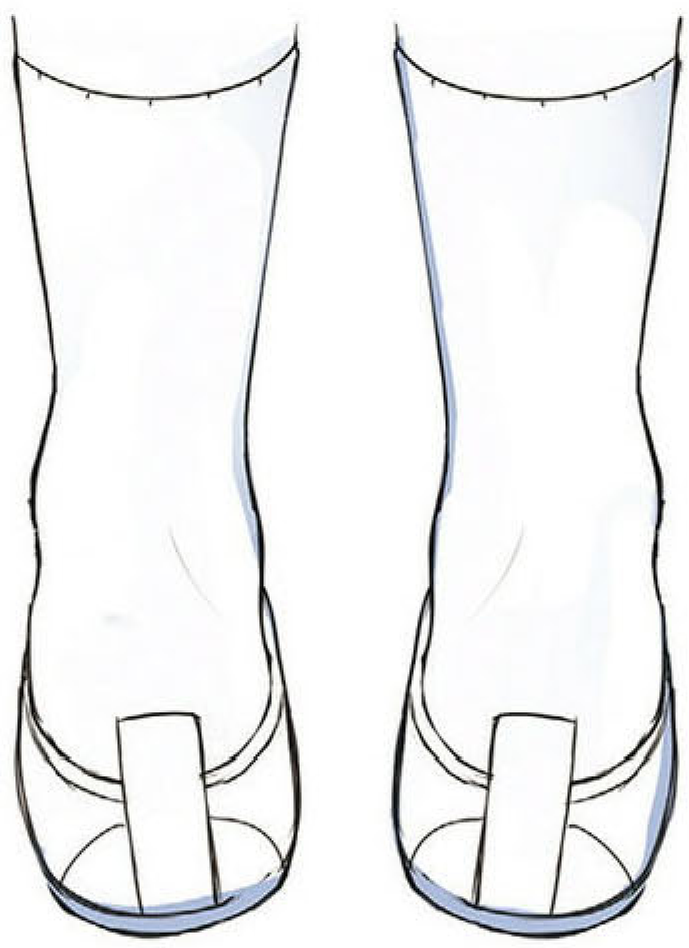


正面から見た図



◀足先を覆うだけのシンプルな形状なので、つま先も平たい形をしている。つま先のラバー部分とアッパーの境い目は上向きの弧の形になっている

後ろ側から見た図



◀かかとについているストラップは履き口よりも上の位置まで飛び出している。ストラップを挟むように、ヒールカウンターの縫い目を描こう

運動靴の描き方

1 足の甲からかかとにかけて輪郭線を描く

▶足のアタリを参考に、全体的に足より大きめに靴の輪郭線を描いていく。運動靴は足を包み込む構造をしているので、足のアタリをそのまま拡大したような線で描こう



2 アッパーと靴底の線を描く



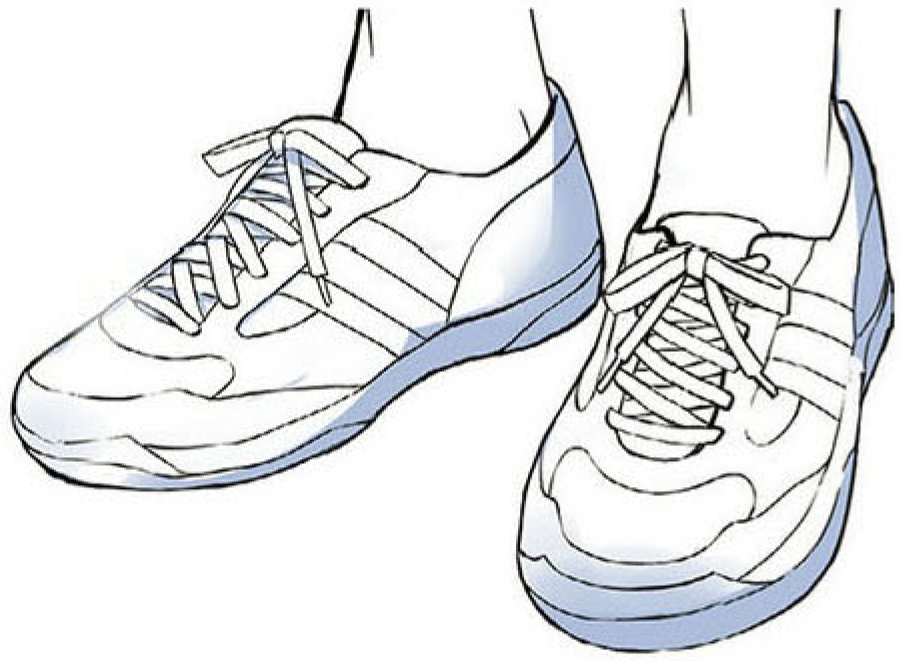
▲足の甲の部分にアッパー周りの線とタンを描いていく。靴底は足の裏をなぞるようにシャープな線を描いていこう。かかとにはヒールカウンターの縫い目の線を描き入れる

3 紐を通す穴や模様を描き込む



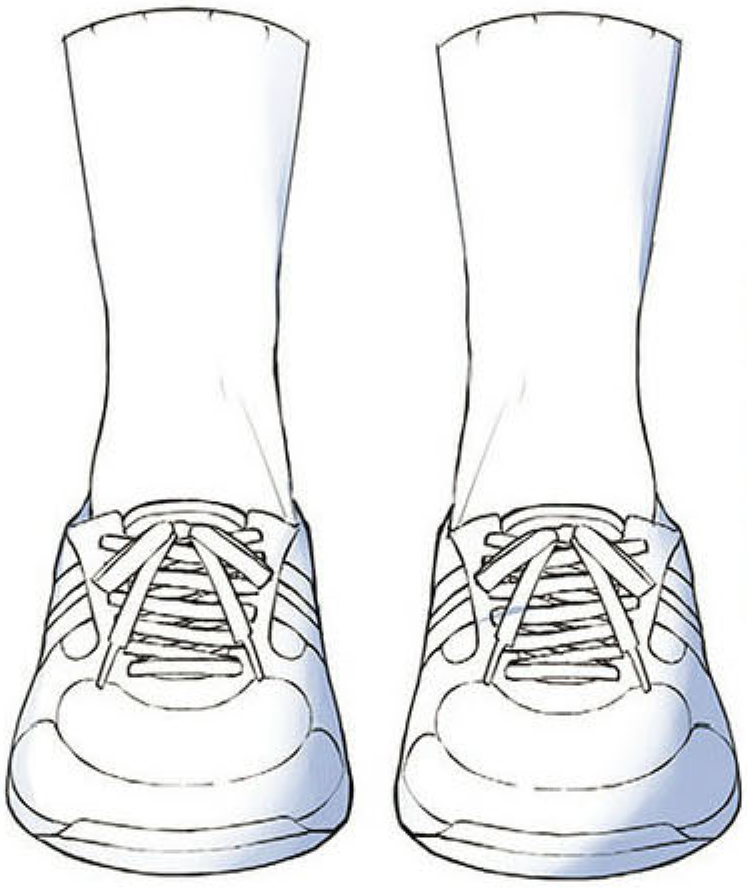
▲アッパーに靴紐を通す穴を描き、その隣にライン模様の線を描き込んでいく。つま先部分は通気性のいいメッシュ素材であることをイメージして、曲線を描いて生地の境い目を表現しよう

4 完成



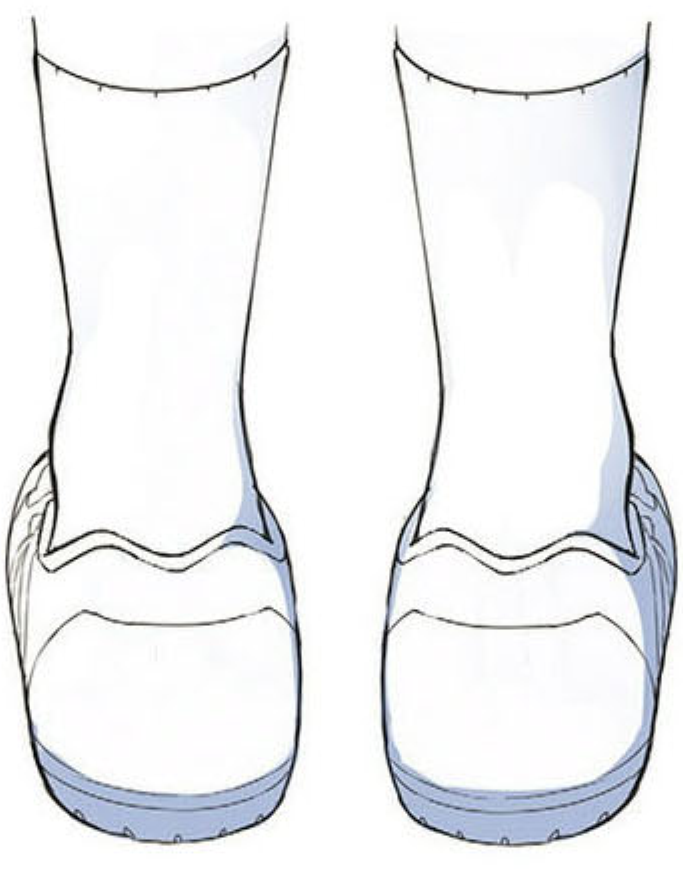
▲穴を目印に靴紐を交差させるように描き、靴の下側に影を描いて完成。かかとや靴底の影は濃く、つま先周りは濃さが薄い影を描こう

正面から見た図



◀靴紐の部分が複雑になるので、先に紐を通す穴を描いてから靴紐を描くようにする。紐の隣のラインや靴底の先端部分など、装飾の線をしっかり描こう

後ろ側から見た図



◀後ろから見て目立つ部位は、履き口の二重線とヒールカウンターの縫い目、靴底の3箇所。靴底には底面の溝を描き加える

Part 8

スーツ／礼服

レディーススーツ
メンズスーツ
ネクタイ
ビジネスシューズ
ビジネバッグ
礼服





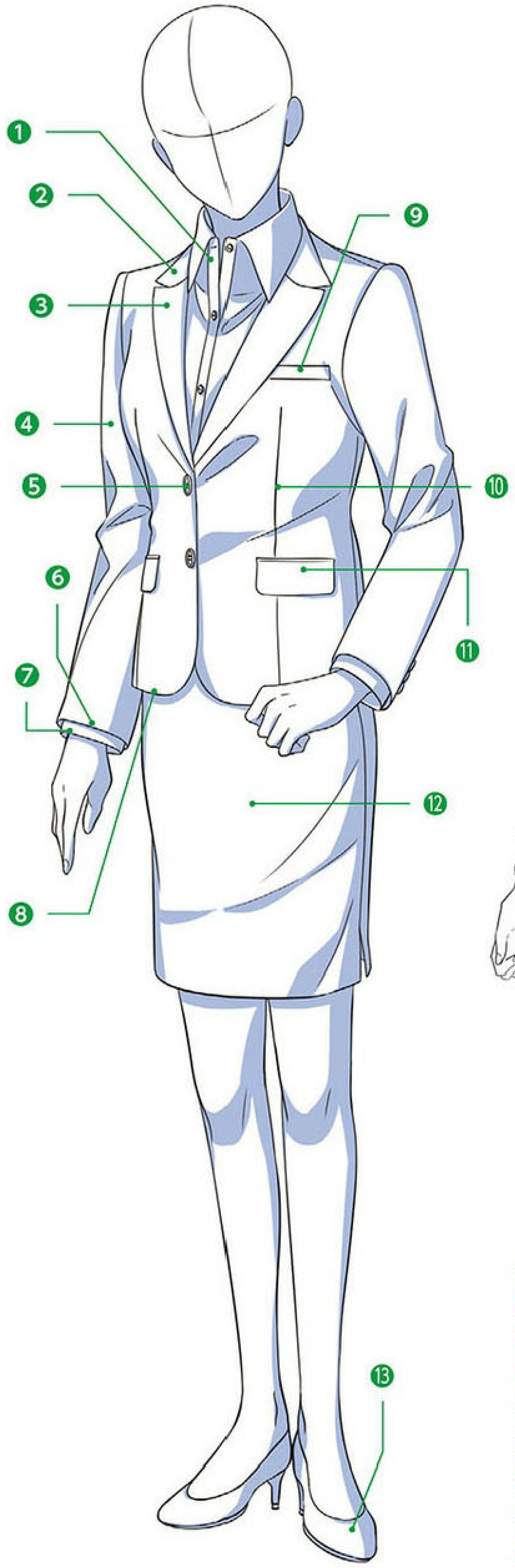
LADIES SUIT
レディーススーツ

女性用のビジネスウェアで、男性と比べて着こなしの幅が広く華やかです。ここではスーツをはじめ、女性のビジネスウェア全般を紹介します。

レディーススーツの種類と構造

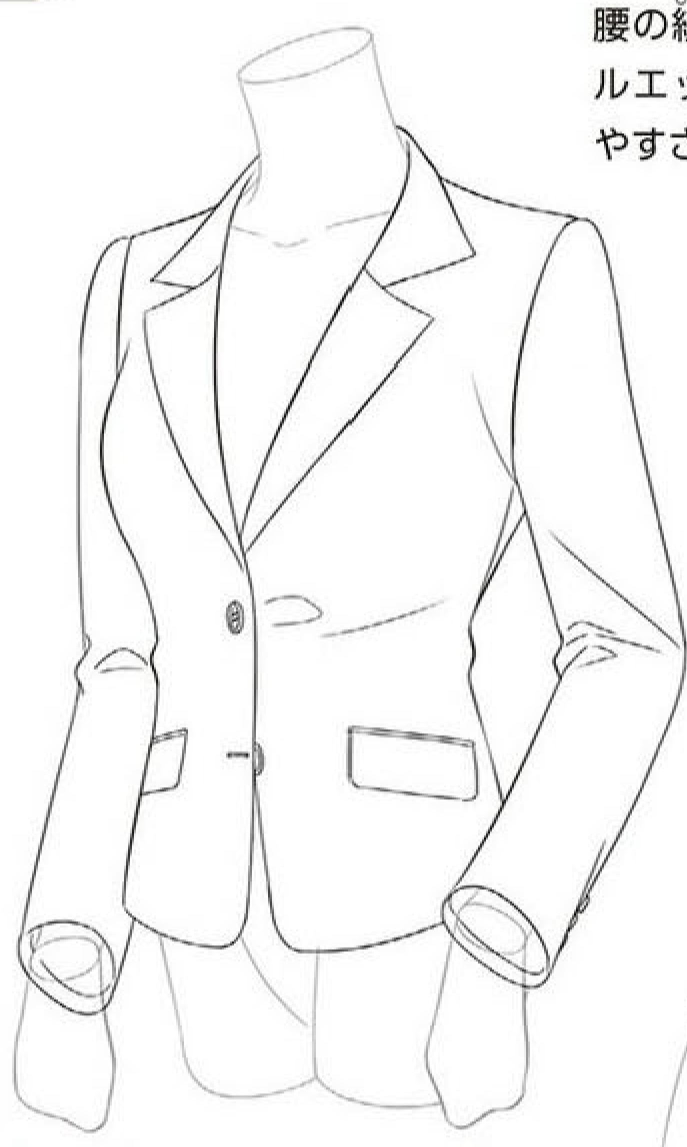
シングルスーツ（女性）

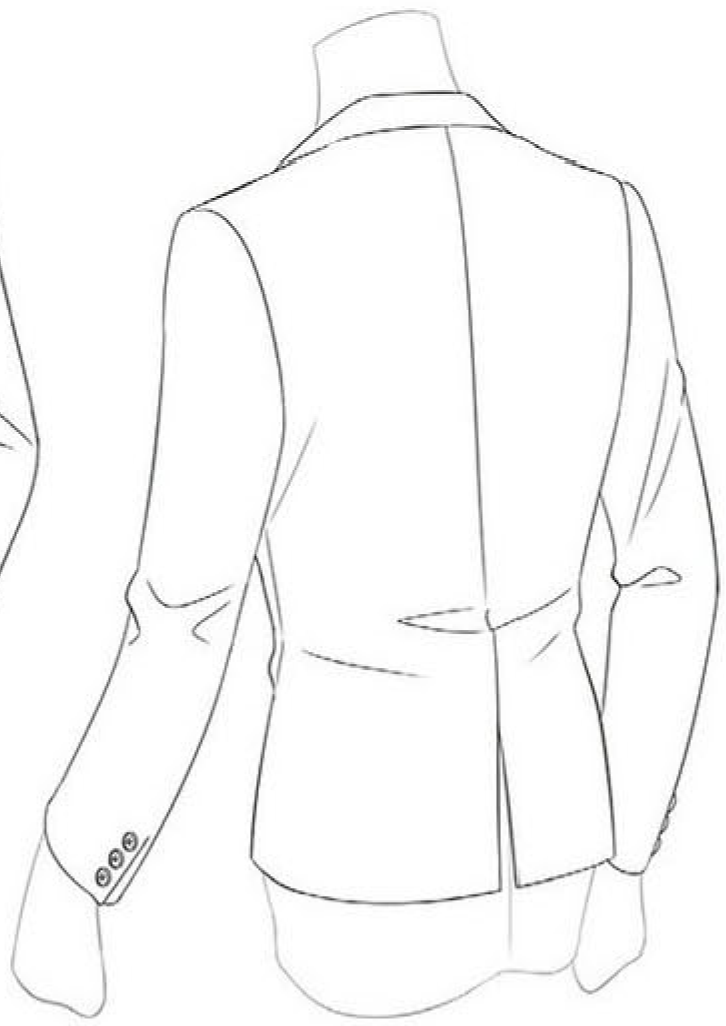
ジャケットの前ボタンが縦1列に並んだタイプ。ボタンはすべて掛けるのが基本で、ネクタイを用いないことが多い。



スーツジャケット

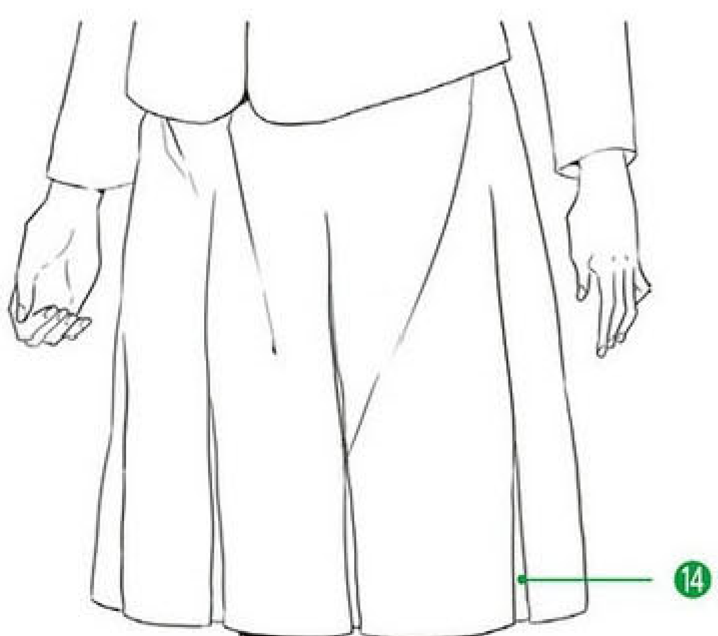
腰の絞りなど、女性らしい曲線美を意識したシルエットのものが多い。背中側の裾には、動きやすさを出すための切れ込み（ベント）がある。





スカートスーツ

ボトムスに抑えめのフレアスカートやタイト系のシルエットのものを用いたスーツ。



スラックス

パンツスーツとも呼ばれる。脚長で凛としたシルエットになり、キャリアウーマンのような精力的に仕事をこなす女性という印象が強くなる。細身のスリムタイプや、裾が広いワイドタイプがある。



❶ワイシャツ
❷上襟
❸ラペル（下襟）
❹袖
❺ボタン
❻袖口
❼カフス（ワイシャツ）
❽裾
❾胸ポケット
❿フロントダーツ
⓫ポケット
⓬スカート
⓭パンプス
⓮ひだ
⓯前立て
⓰センタークリース（中央の折り目）

女性のビジネス向けの服

レギュラーカラーシャツ

もっともポピュラーなタイプで、シンプルさゆえに誠実な印象を際立たせることができる。スーツジャケットと合わせる場合、襟を少し立たせて、ジャケットの内側に収める形にする。



トレンチコート

防水加工の施された生地で作られた薄手のコート。軍用服が発祥のため、それに由来するさまざまな装飾を持つ。色はベージュが一般的であり、ベルトを用いて腰周りを絞り、腰のラインを出すと女性らしさが増す。





スキッパーシャツ

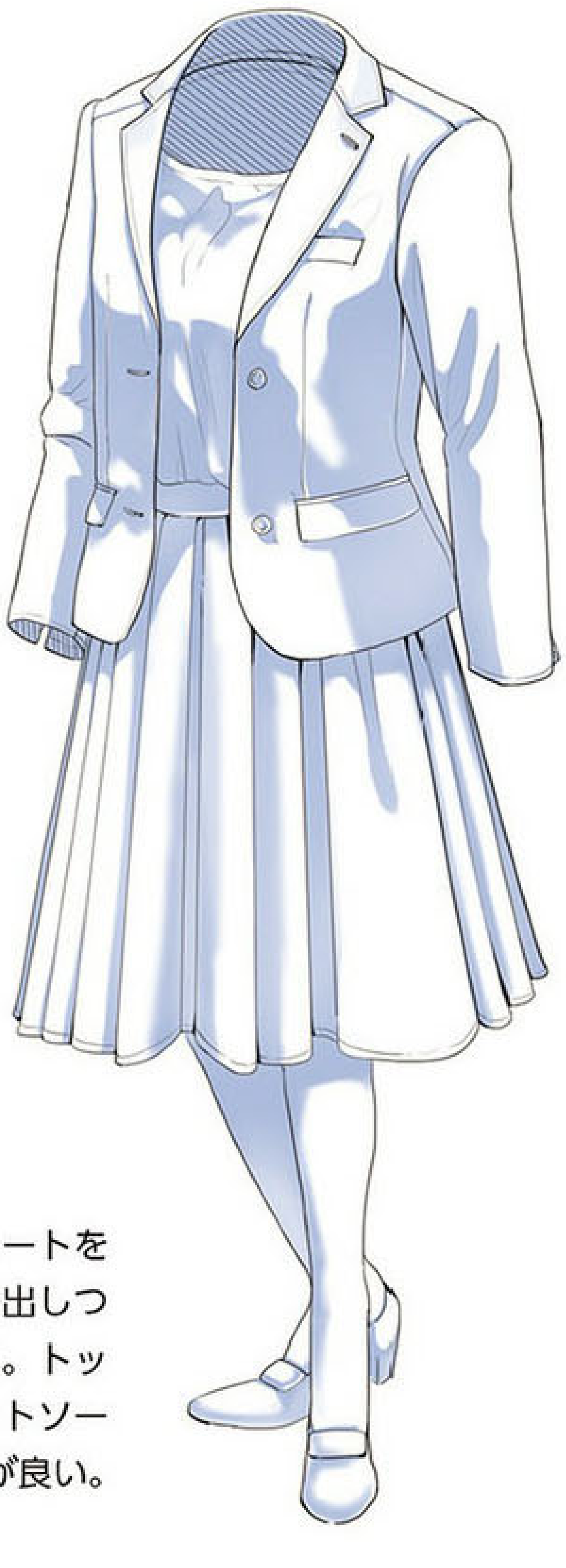
第1ボタンが省略され、首元がV字に開かれたタイプのシャツ。スーツジャケットと合わせる場合は襟を外に出して着こなすのが一般的であり、爽やかで活動的な印象が強くなる。

オフィスカジュアル

POINT

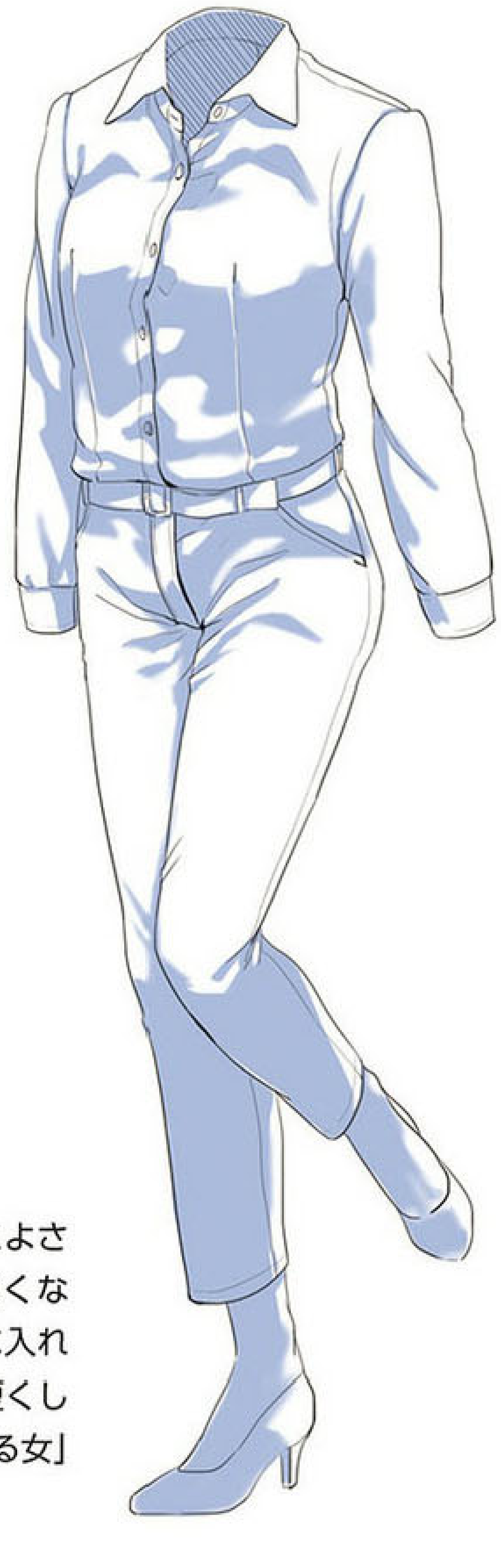
オフィスカジュアルとは

仕事で着用する服をスーツからカジュアルに寄せたファッションのこと。どこまでカジュアルに寄せていいかは会社によりますが、膝丈のスカートやパンツ、シャツやブラウス、ジャケット、カーディガンなどの露出が多すぎない洋服で、黒、白、ベージュなどの落ち着いた雰囲気の色合いのものを着用するのが一般的です。



スカートスタイル

フレアスカートなどの裾が広がるスカートを用いた服装は、女性らしい華やかさを出しつつ、仕事着としての品の良さも出せる。トップスには淡い色合いのブラウスやカットソーを着てジャケットを羽織るとバランスが良い。



パンツスタイル

足元がスマートで、かっこよさやアクティブな印象が強くなる。シャツの裾をパンツに入れるなど、トップスの丈を短くして腰周りを見せると「出来る女」の雰囲気を演出できる。

レディーススーツジャケットの描き方（前側）

1 体のアタリに沿ってジャケットの胴体を描く

▶体のアタリに沿ってジャケット前面の輪郭線を描き、襟部分の合わせも描いておく。肩口は体のアタリより少し線を跳ね上げ、腕のアタリよりも大きめの楕円形にする



2 体のラインに沿って襟と袖を描く



◀▼上襟とラペルは合わせのラインに沿って描いていく。袖は腕のラインより少し大きめに描いていく



▶袖口は腕よりも太めの円を描いてゆとりがあるように見せ、肘の関節部に三角の形や斜線を引いてシワを描く

3 ポケット、フロントダーツ、ボタンを描く



▲向かって右側の胸の位置に、ラペルに隠れるような形の胸ポケットを描き込む。腰骨のあたりには長方形を描いてポケットのふたを描く。ボタンは襟の下から等間隔に2つ描こう

4 完成



▲胸元から脇の下、肘のシワ、襟、袖口の部分に影を入れて完成。胴体の側面にははっきりした影を入れるとスーツのシルエットが引き締まる

レディーススーツジャケットの描き方（後ろ側）

1 体のアタリに沿ってジャケットの胴体を描く

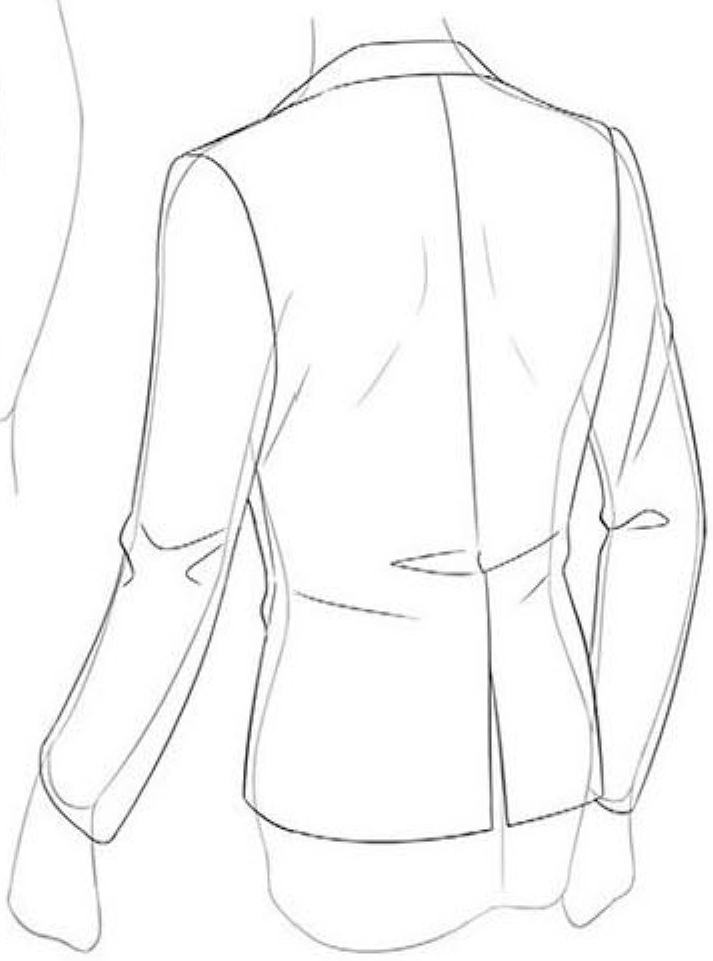
▶体のアタリに沿って背中側の輪郭線を描く。腰の位置はシワで少し膨らむように描き、腰周りにはシワの凹凸を付ける。また、背中の中央に襟元から裾にかけて縫い目の直線を描く



2 体のラインに沿って襟と袖を描く



◀▼❶の胴体に襟、袖を描き足していく。襟はなだらかな台形を描いていき、袖は関節部に三角や斜線を描いてシワを表現する

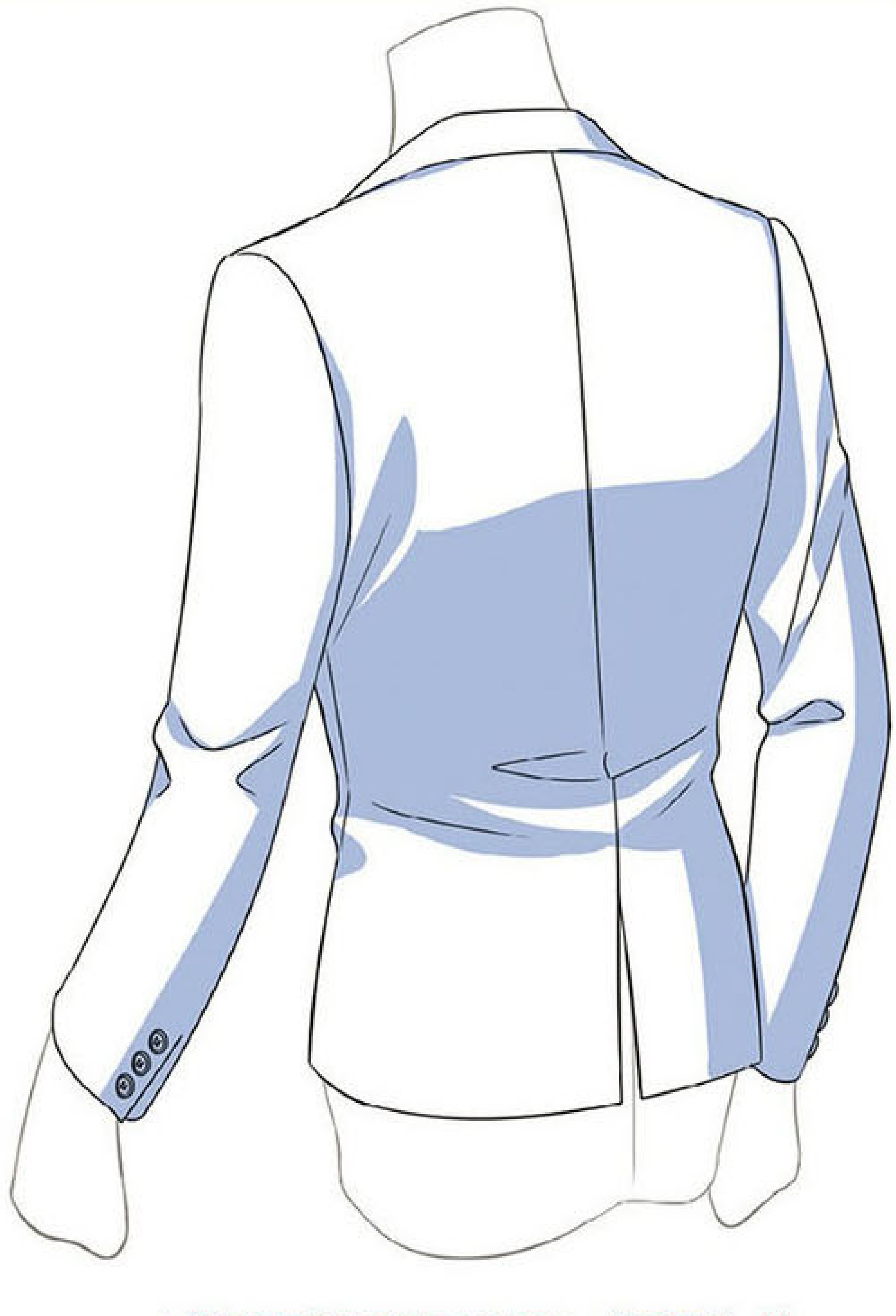


3 袖口の装飾を描く



▲両袖の袖口にボタンを描く。袖の側面が見えている左手側には、袖の切れ込みの線も入れる。さらに、左の脇の下には、ジャケットの前面と背面のつなぎ目の線を描いておこう

4 完成



▲背中の下側から腰にかけてと、袖の下側、肘周りのシワに影を描き入れる。肩口や襟などの細かい部分にも影を描いて立体感を出そう

レディーススーツジャケットの描き方（側面）

1 体とスーツのアタリを描く

▶▼はじめに人物の側面のアタリを描き、首元に上襟、胸にラペル、胸から腰にかけてジャケットの線を描いていく。背中はS字のカーブを描いて腰にくびれを作る。腕の付け根は体の中央ではなくやや後ろ側にあることに注意しよう

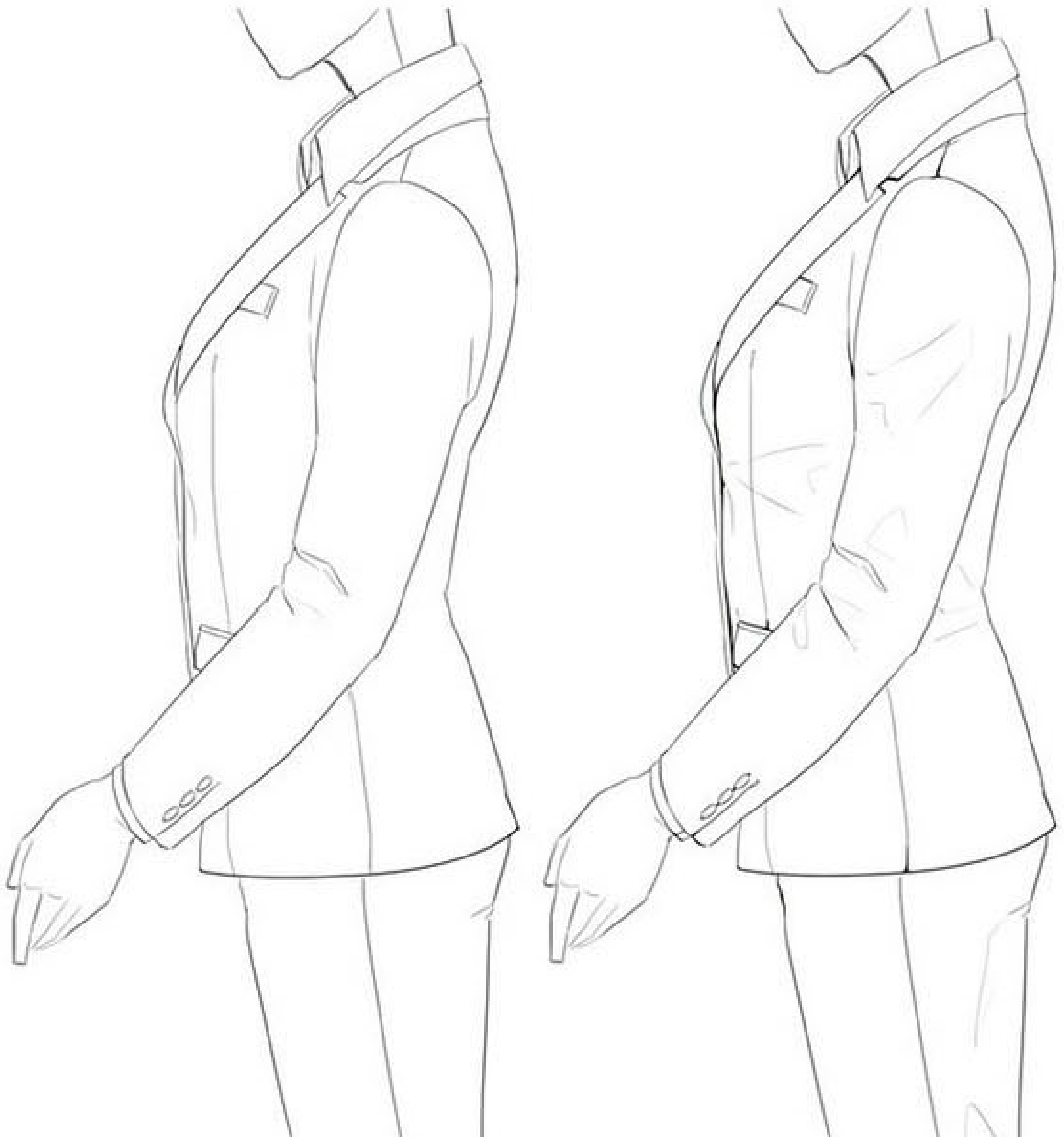


2 体のアタリに沿って線画を描く

▶体の首元、胸、背中、腰を参考にしながらジャケットの胴体や袖を描く。袖の下側の線は、腕から少し下の位置に描いて袖が重力に引っ張られている様子を表現しよう。服の前後のつなぎ目は、体の中心線をなぞるように入れる



3 アタリを消してシワや輪郭の細部を描き込む



▲ジャケット前面の合わせ、襟周り、ポケットなどの生地が重なりあう場所は、太い線で描いて形をはっきりさせる。大きなシワができる肘やお尻以外にも、肘の周辺、腰のくびれ、ジャケットの前面、スラックスの太もも部分などに細かいシワを細い線で描いていこう

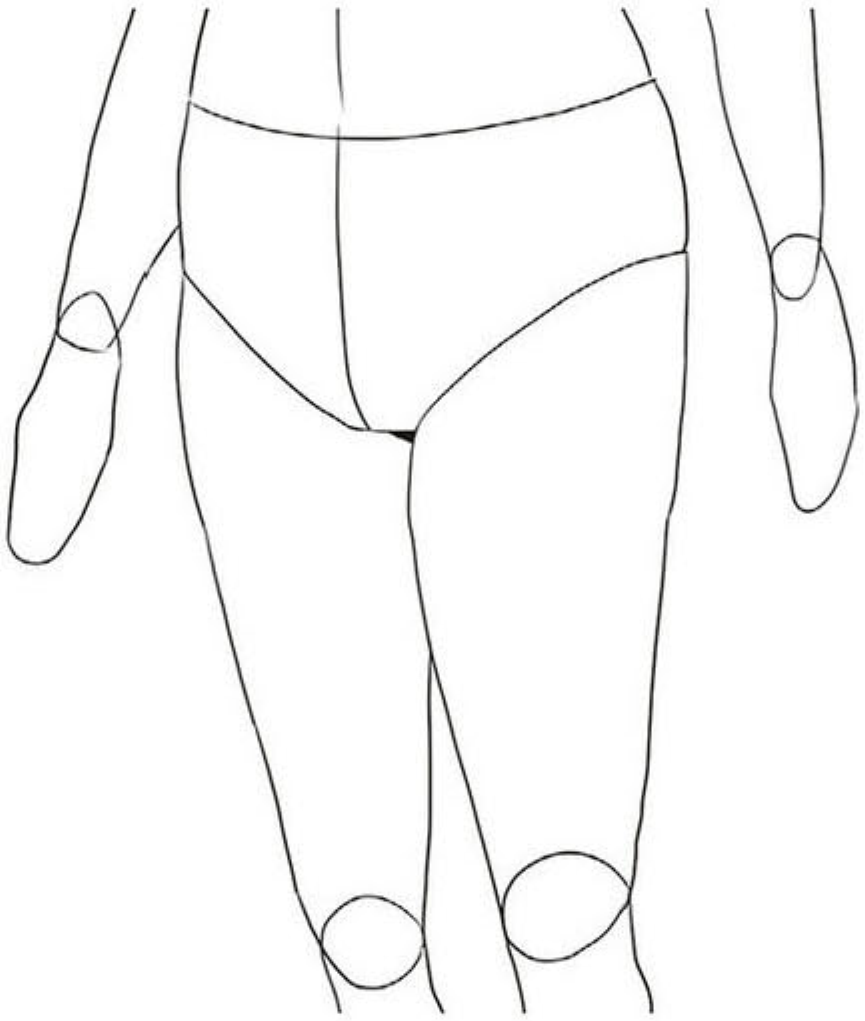
4 完成

▶袖の下側、脇の下側、背中、足の背面側を中心に影を入れて完成。胸の前面はあまり影を入れず、襟周りの重なっている部分など生地の重なった部分のみに描き込むと立体的に見える



スカートスーツの描き方（前側）

1 体のアタリを描く



▲下半身のアタリを腰、足の付け根、関節にパーツを分けて描く。体の中央には、胴体から腰にかけて中心線を描き入れよう

2 腰の位置を基準にスカートの輪郭線を描く



▲腰の位置から膝の高さまで、裾を広げながらフレア状のスカートの輪郭線を描く。ジャケットの裾は腰の半分ほどを覆(おお)う。スカートの裾の線には、ひだになる箇所に凸型のくぼみを描いておこう

3 スカートのひだやシワを描き込む



▲スカートのひだは②で描いた裾のくぼみから足の付け根くらいの高さまで縦方向に線を描いていく。スカートのシワは、腰周りから体の中央に向かうようにして長めの斜線で下方向にシワを描き入れる

4 完成

▶スカートのひだ、全身のシワ、腰周りに影を付けて完成。腰周りのシワには濃い影と薄い影を混ぜると、スカートの柔らかい質感が出る



レディースラックスの描き方（前側）

① 体とスラックスのアタリを描く





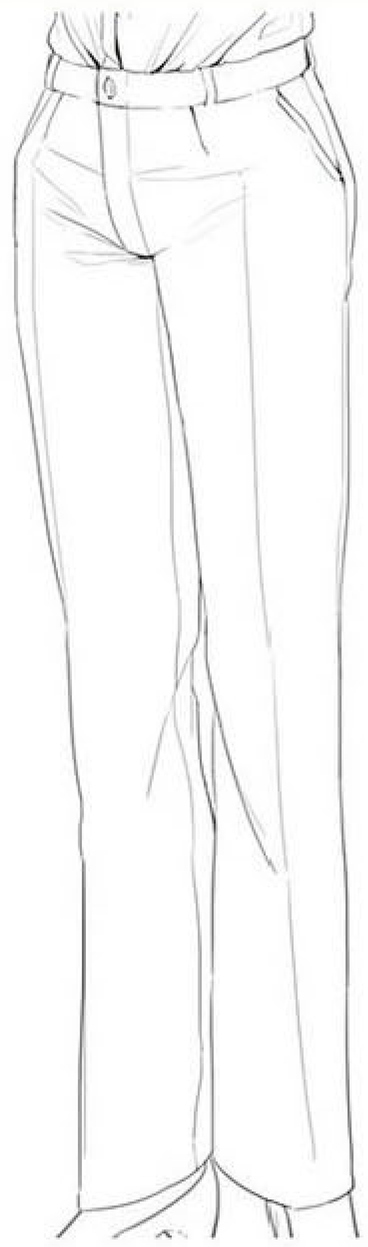
▶▲体のアタリを描き、腰から足首までの長さでスラックスのおおまかな形を描いていく。足の向きに沿って、両脚のセンタークリースの位置も決めておく

② 体のアタリを参考に線画を描く

▶腰の位置から足首までを包み込むように輪郭線を描いていく。太ももまでは体のラインに沿い、膝下からは足のラインに合わせず直線を引く。前立ては体の中心線に沿って描く



③ シワやポケットなどの細部を描き込む



▲ベルトの上のシャツには寄せジワを描き込む。股周りは腰骨に引っ張られるので、外側に向かって横線で引っ張りジワを描く。スラックスの脇にはサイドシーム（側面の縫い目）の縦線を描こう

④ 完成



◀シワや股周り、ポケットやセンタークリースに影を描いて完成。クリース部分は半面だけ塗ることで折り目による立体感を表現できる

後ろ側の作例



▲背面も前側と同じく体のアタリを参考に描く。お尻は出っ張っているので、シワをあまり描き入れず、形に沿って影を入れる。膝下のふくらはぎのラインが若干ふっくらとするのも背面側の特徴

トレンチコートの描き方（前側）

1 コートを着た全身図をおおまかに描く




▶▲体のアタリを描いてコートのラフを描く。肩のベルト（エポレット）や右胸の線（ガンフラップ）も大事なディテールなので忘れないように注意しよう。女性物のトレンチコートは、多くが左側の合わせが前になる

2 体のアタリを参考に線画を描く



▲体を覆うようにトレンチコートの線画を描いていく。胸元以外は見えなくても体とコートの間にはスーツを着ているので、コートの輪郭線は体のラインから離して描こう

3 トレンチコートの細部を描き込む



▲襟、肩ベルト、袖、胴のベルト、ボタンや合わせの線を描き込む。ボタンや胴周りには引っ張りジワを描き入れていく

4 完成



▲胴の周りや裾、袖の下側、襟の内側、合わせの下側になっている部分に影を描いていく。肩周りのシワやボタンのシワになっている細かい部分にも影を描こう

後ろ側の作例



▲両肩を覆うようにアンブレラヨークという雨よけが元になった飾り布が付いている。裾側の背面中央にある切れ込みはプリーツで、コートが広がりやすいようヒダになっている



MENS SUIT

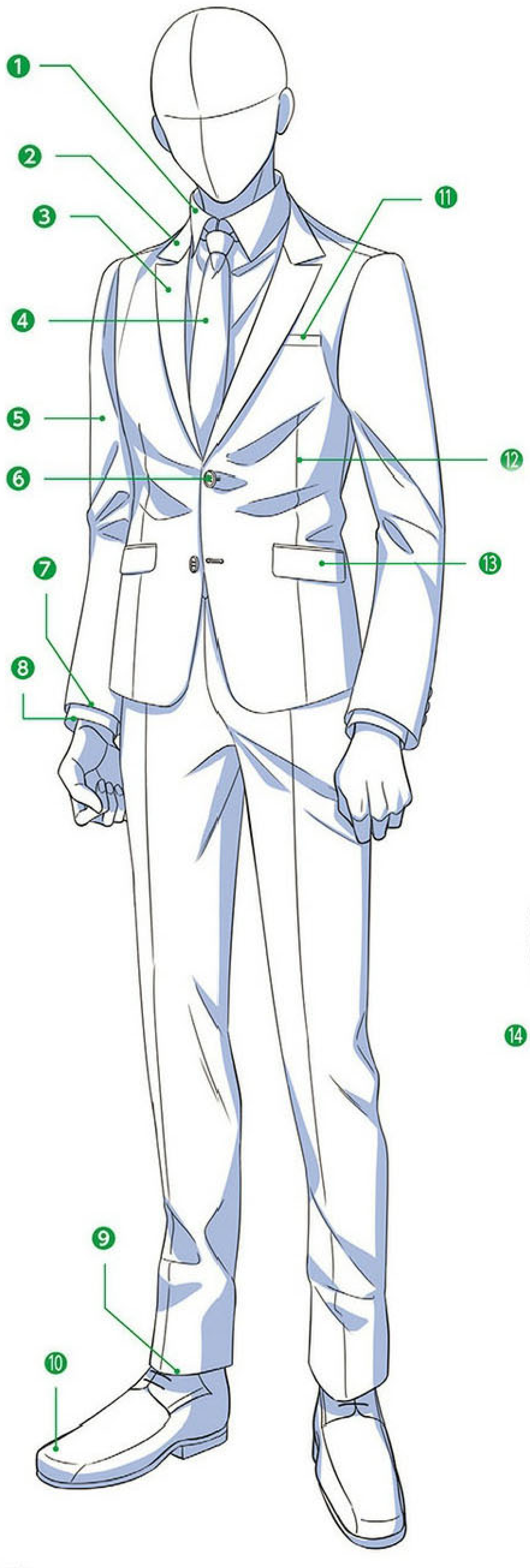
メンズスーツ

男性のビジネス着として一般的な服装で「背広」と呼ばれることもあります。上下一揃いであり、ワイシャツとネクタイを合わせて着用します。

メンズスーツの構造

シングルスーツ（男性）

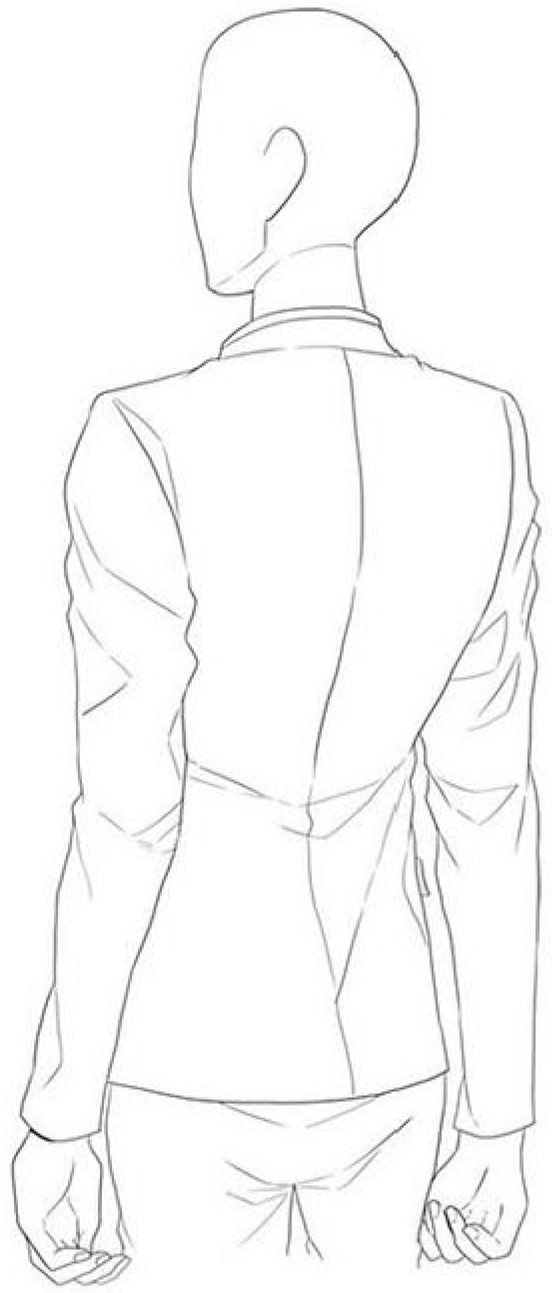
ジャケットの前ボタンが1列に並んだタイプ。ボタン数は2つか3つが基本であり、一番下のものは掛けずに着用する。

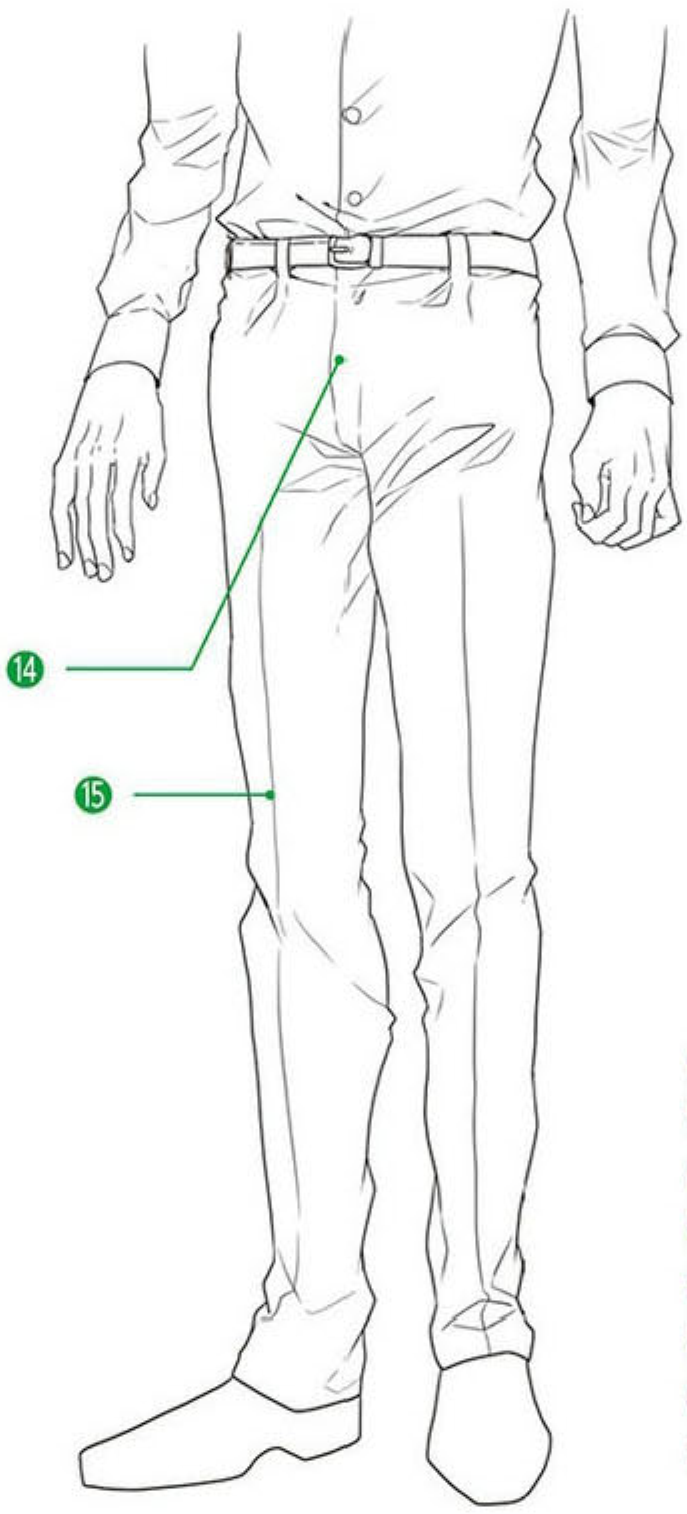


ジャケット

テーラードジャケットと呼ばれるタイプが基本。襟が上襟とラペル（下襟）に分かれている。ウエストには絞りが入っていて体のラインに沿うようなシルエットになる。色は黒、ネイビー、チャコールグレーが一般的。







スラックス

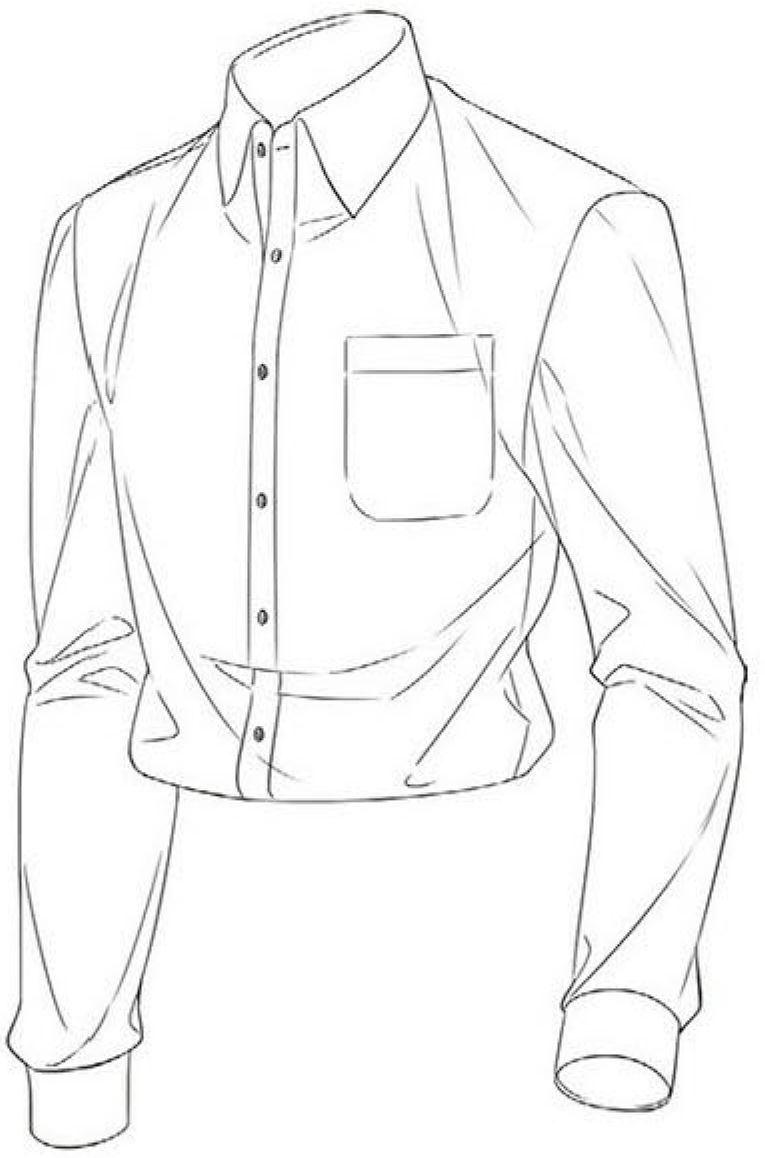
フォーマルな装いのパンツ。基本的にジャケットとセットで仕立てられたものを用いる。脚にはセンタークリースが入っている。

- ❶ワイシャツ
- ❷上襟
- ❸ラペル（下襟）
- ❹ネクタイ
- ❺袖
- ❻ボタン
- ❼袖口
- ❽カフス（ワイシャツ）
- ❾裾
- ❿革靴
- ⓫胸ポケット
- ⓬フロントダーツ
- ⓭ポケット
- ⓮前立て
- ⓯センタークリース（中央の折り目）

男性のビジネス向けの服

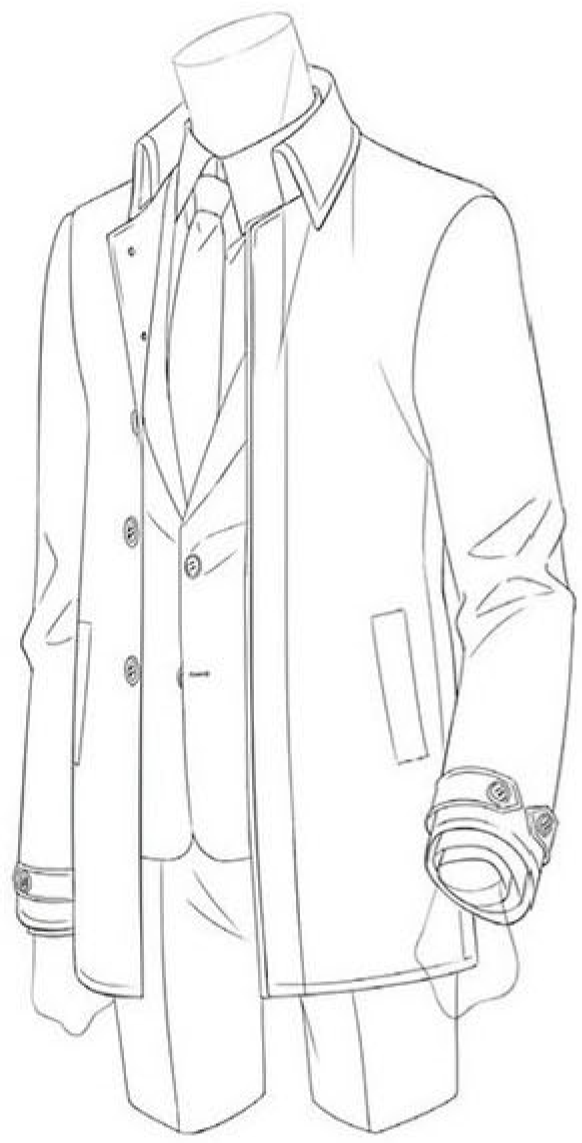
ワイシャツ

ジャケットの下に着る、清潔感のある単色のシャツを指す。「ドレスシャツ」「カッターシャツ」などとも呼ばれ、洗濯糊などでパリッとした質感を出して着ることが多い。



ステンカラーコート

シャツに近い形状の襟を持つタイプのコート。縦長のシルエットでスタイリッシュな雰囲気が出るため、メンズスーツの上に羽織るコートとして定着している。



ダブルスーツ

ボタンが縦に2列、多くは計6つ置かれたタイプのジャケット。クラシカルな雰囲気が増し、また体を大きく見せる効果もあるため、着こなしのこなれ感や威厳を出したいときに適している。



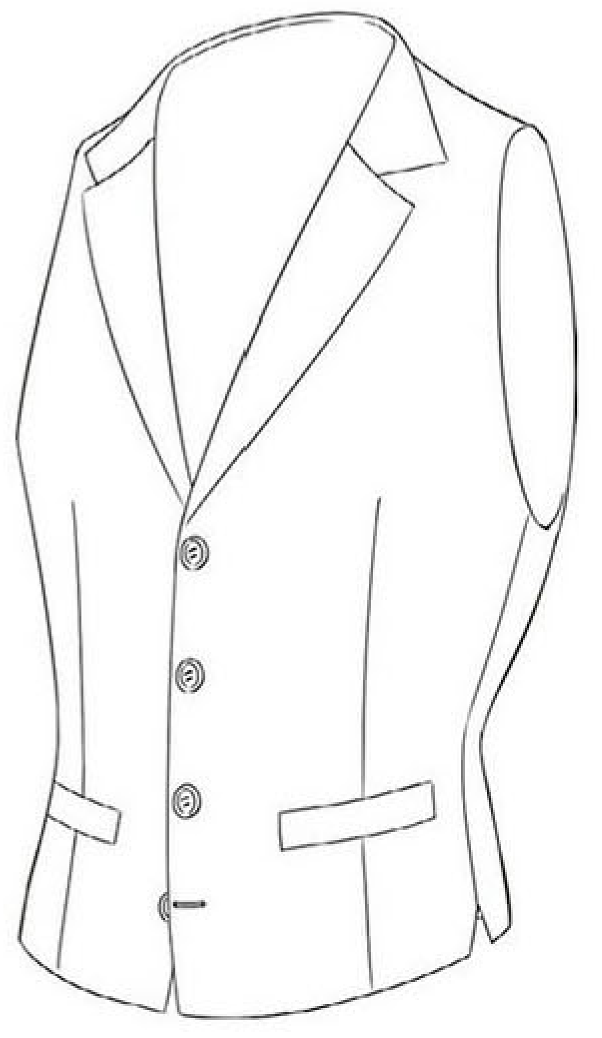
スリーピーススーツ

ジャケット・ベスト・スラックスを同一の生地で仕立てたスーツで、ジャケットはボタンを止めないのが基本。もっとも伝統的なスーツスタイルであり、洗練された印象が強くなる。



ウエストコート

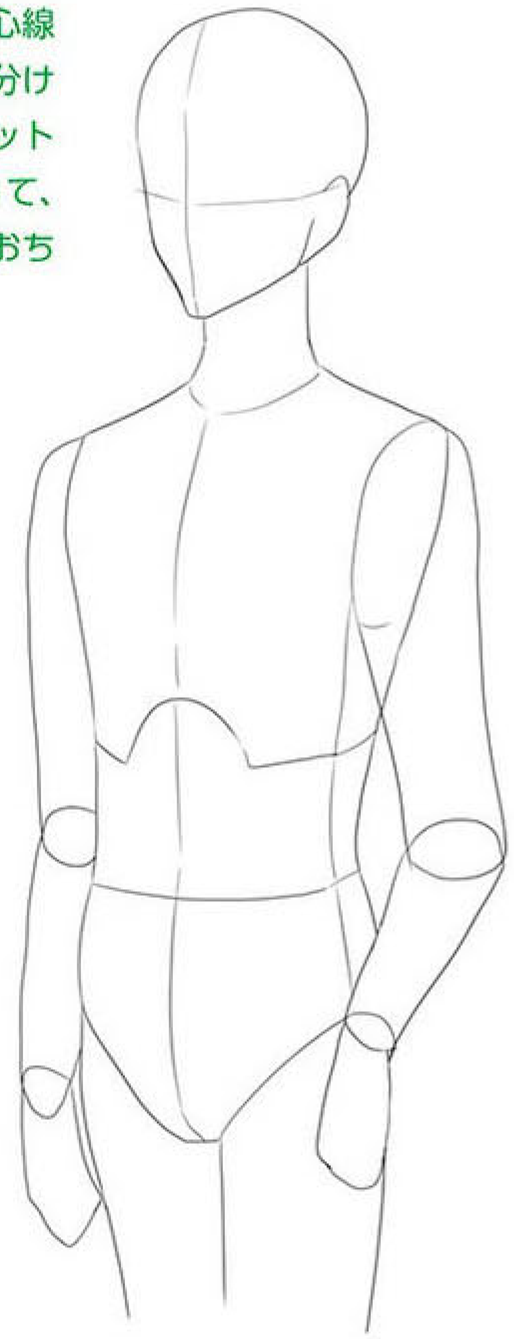
ベストのイギリス英語における表現で、スリーピーススーツや礼装時にシャツの上に着用する。フォーマルな印象が強く、ジャケットを脱いだ姿でも上品で落ち着いた雰囲気を出せる。



メンズスーツジャケットの描き方（前側）

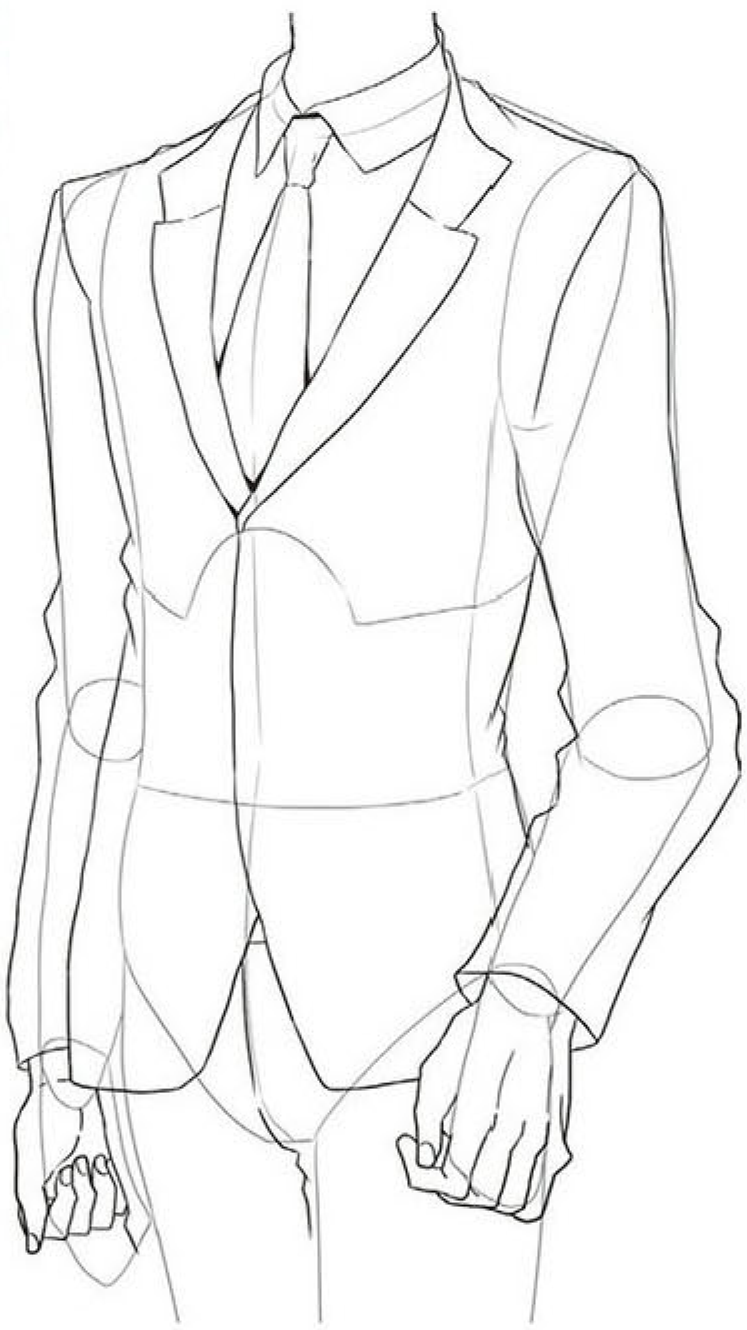
1 体のアタリを描く

▶頭から胴にかけて中心線を描き、各部の関節を分けて描いていく。ジャケットを描いていくにあたって、首周り、肩、腰、みぞおちの位置を目安にする



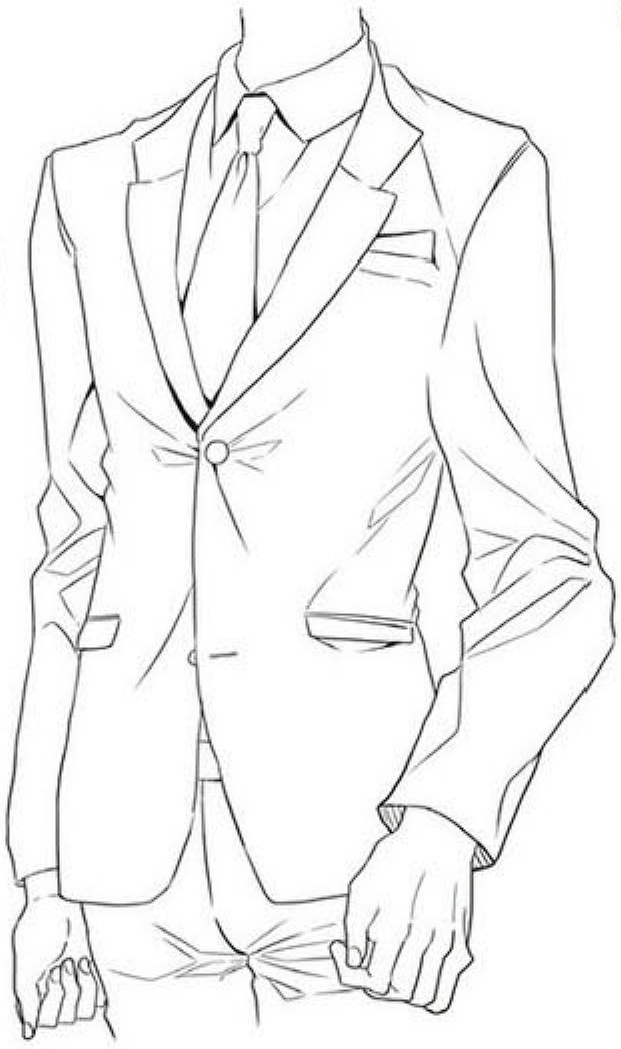
2 体のアタリに沿って服の輪郭線を描く

▶首元から肩にかけて体のラインに沿うようにジャケットの肩部分を描き、そのまま袖も描いていく。ジャケットの前の合わせはみぞおちの位置に持ってくるようにする



3 ポケットやボタン、シワを描き込む

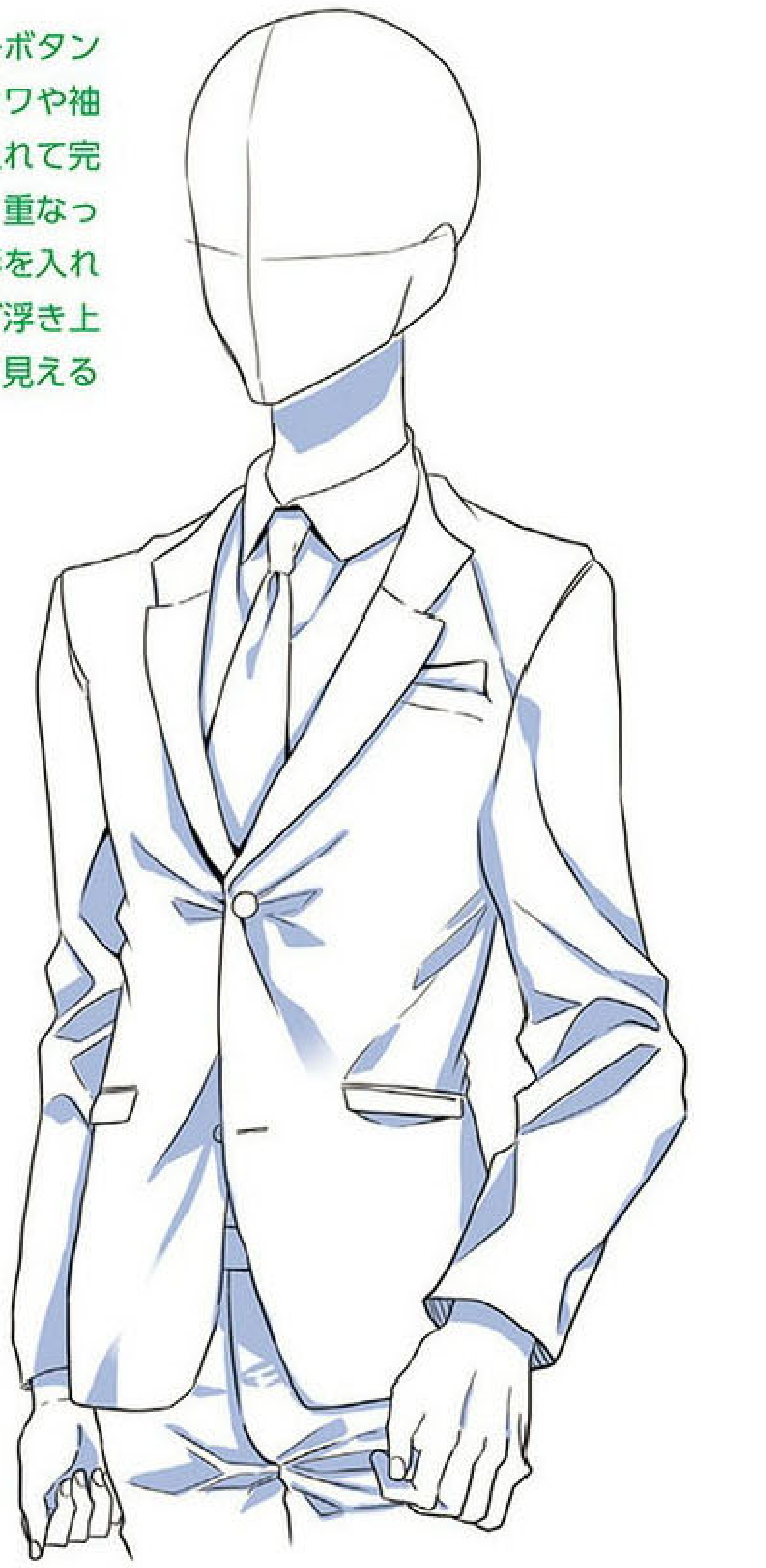




▶▲肘や腰周りにシワを描き、腰のアタリの高さにジャケットの腰部分のポケットを描く。ボタンのシワや脇の下などにシワを描き込み、アタリを消してバランスを確認しよう

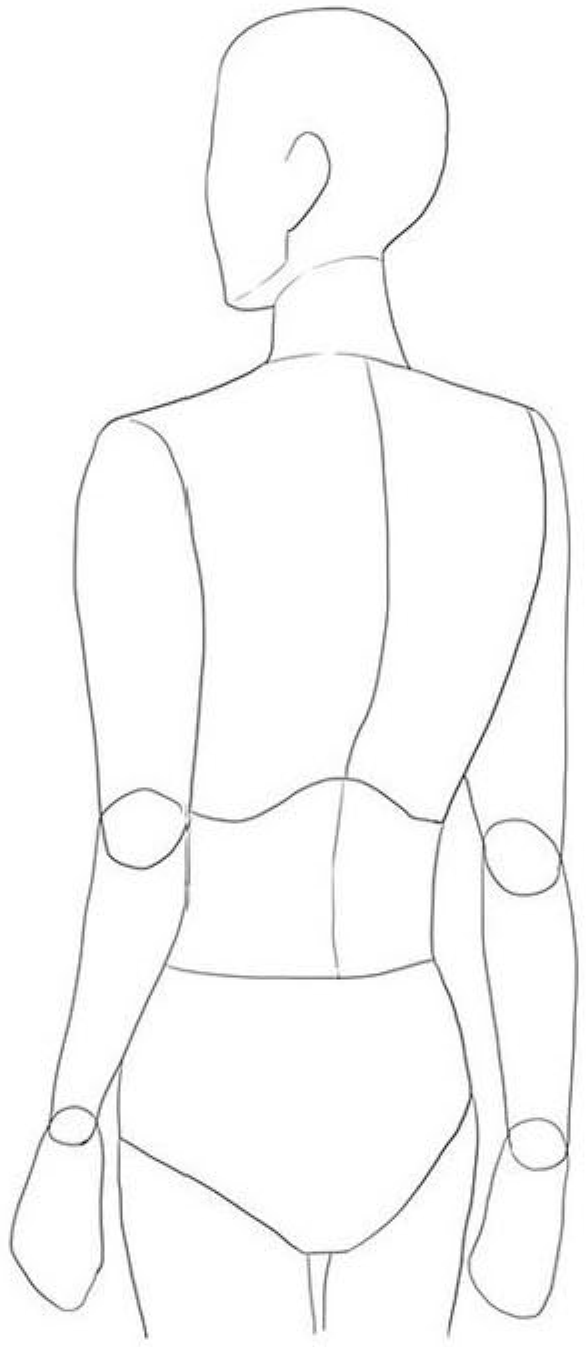
4 完成

▶襟もとや第一ボタンの周り、袖のシワや袖口に影を描き入れて完成。襟もとは、重なっている部分に影を入れると服の上下が浮き上がって立体的に見える



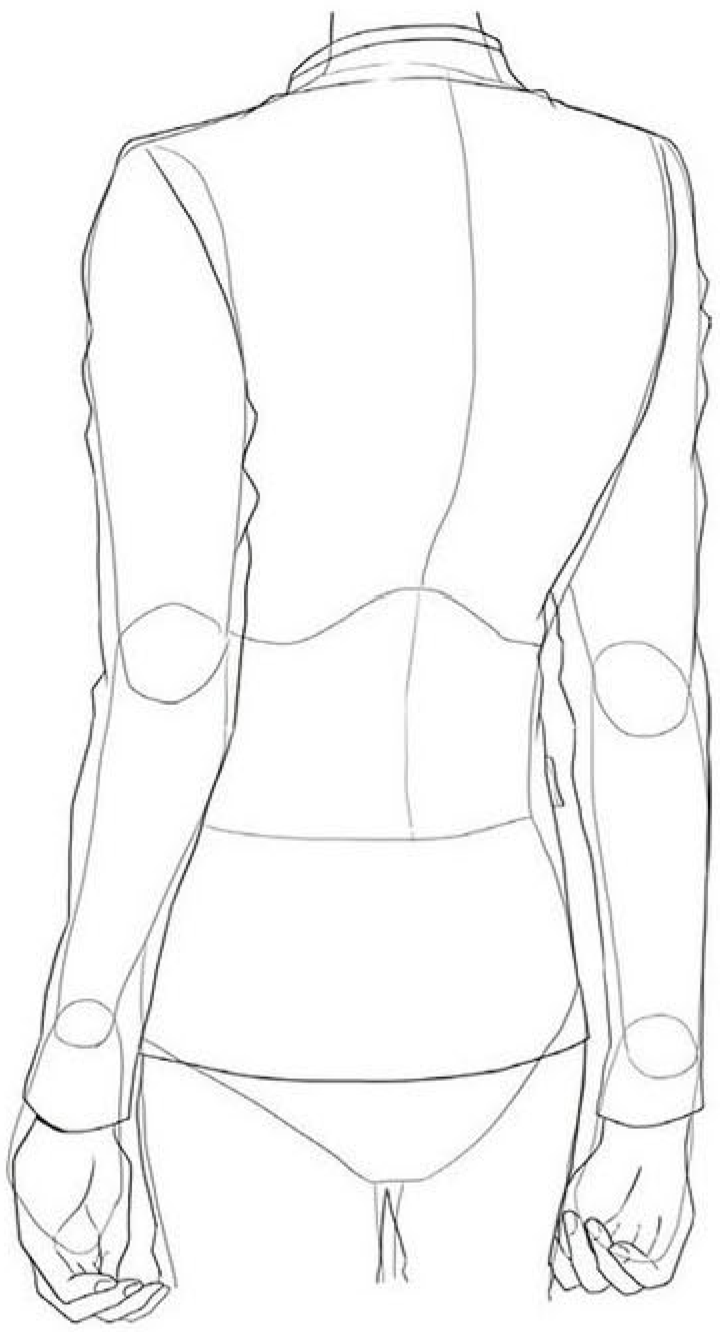
メンズスーツジャケットの描き方（後ろ側）

1 体のアタリを描く



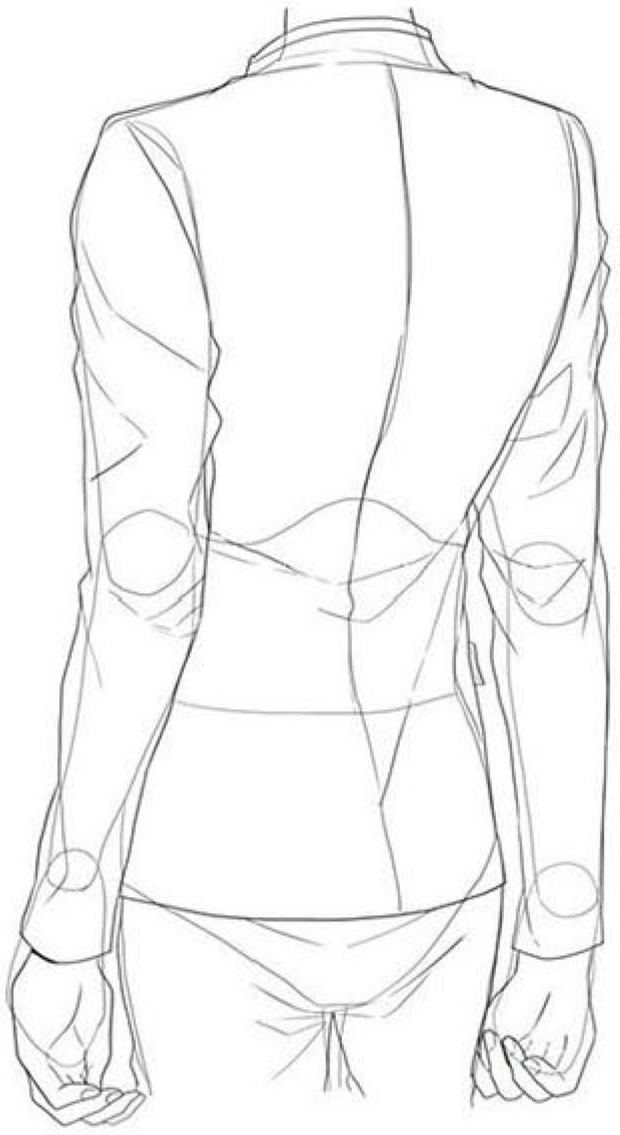
◀前側と同じように後ろ側の体のアタリを描いていく。アタリの中央には、滑らかにS字状の中心線を描こう

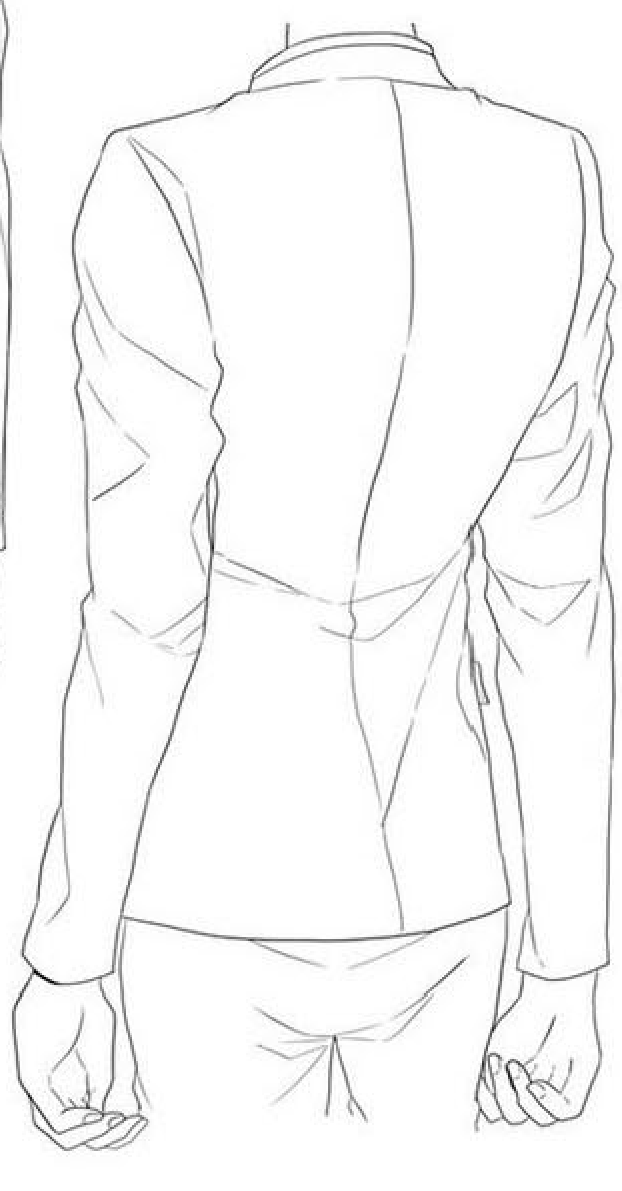
2 アタリに沿って服の輪郭線を描く



◀首周りから肩にかけて、体を覆（おお）うようにしてジャケットの輪郭を描いていく。襟は横幅が広い台形の上にもう1本線を引いて、下に着ているシャツの襟も少し見えるようにする。二の腕や肘、腰の部分は、波打（なみう）つような輪郭線で描くと後でシワが描きやすくなる

3 シワや細部を描き込む

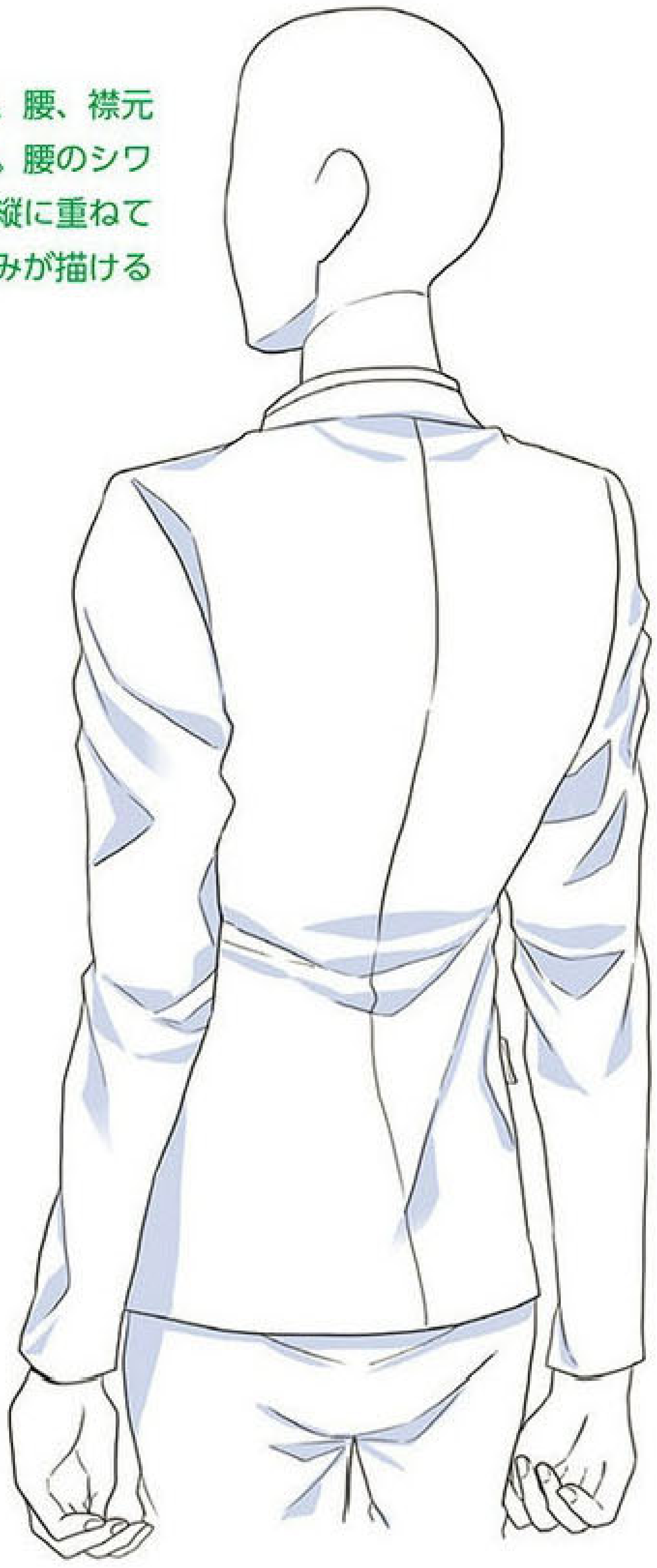




▶▲袖や腰周りにシワの線を描き込んでいく。ジャケットの中央には、体の中心線に沿って縫（ぬ）い目の線を縦方向に描き込んでいく

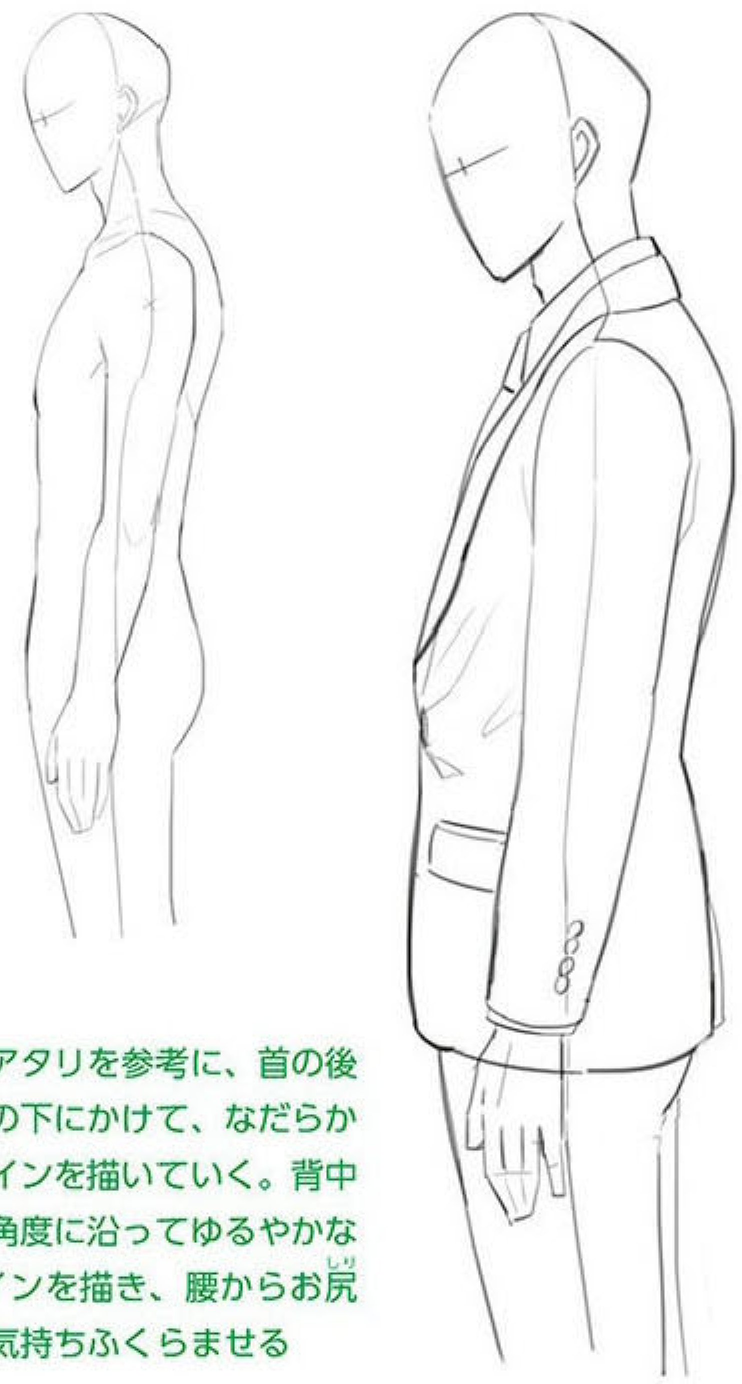
4 完成

▶袖のシワ、肩口、腰、襟元に影を入れて完成。腰のシワには、影を何本か縦に重ねて描くと生地のたるみが描ける



メンズスーツジャケットの描き方（側面）

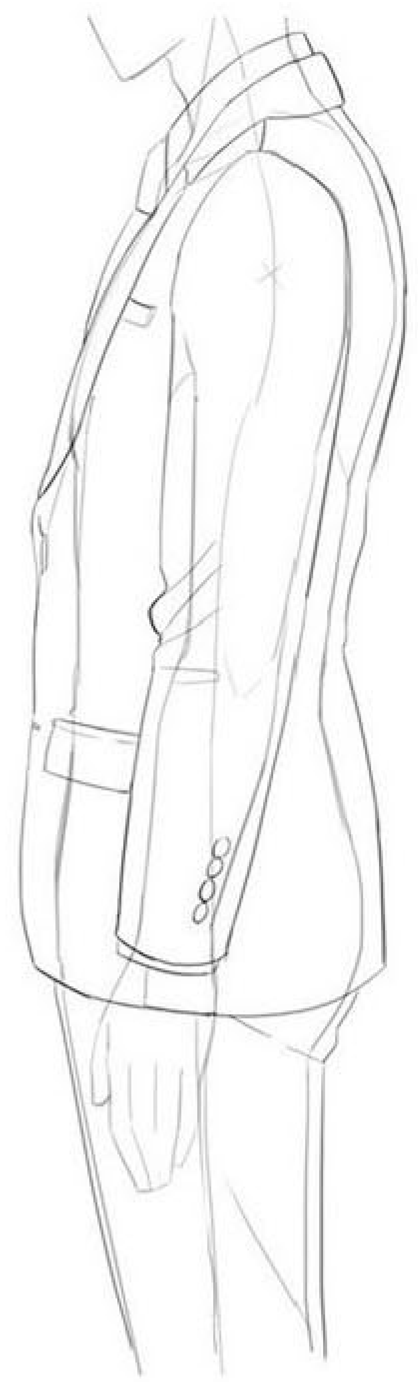
1 体とジャケットのアタリを描く



▶▲体のアタリを参考に、首の後ろから胸の下にかけて、なだらかに襟のラインを描いていく。背中は首筋の角度に沿ってゆるやかなS字のラインを描き、腰からお尻にかけて気持ちふくらませる

2 体のアタリに沿って服のラフを描く

▶ジャケットは胸元だけ体のラインに合わせ、背中やお腹は体より大きめにアウトラインを描いていく。袖も腕の太さに合わせずやや太めにする。肘の部分には輪郭を段にしてふくらんだシワを描く



3 シワや輪郭の細部を描き込む



▶▲服のラフを清書しながら、バランスを確認して細部を描き込む。ネクタイ、襟、ポケット、ショルダーラインといった、生地が重なる場所の線は太く描いて形をはっきりさせる。腰と肘には細いシワを描き込んでいこう

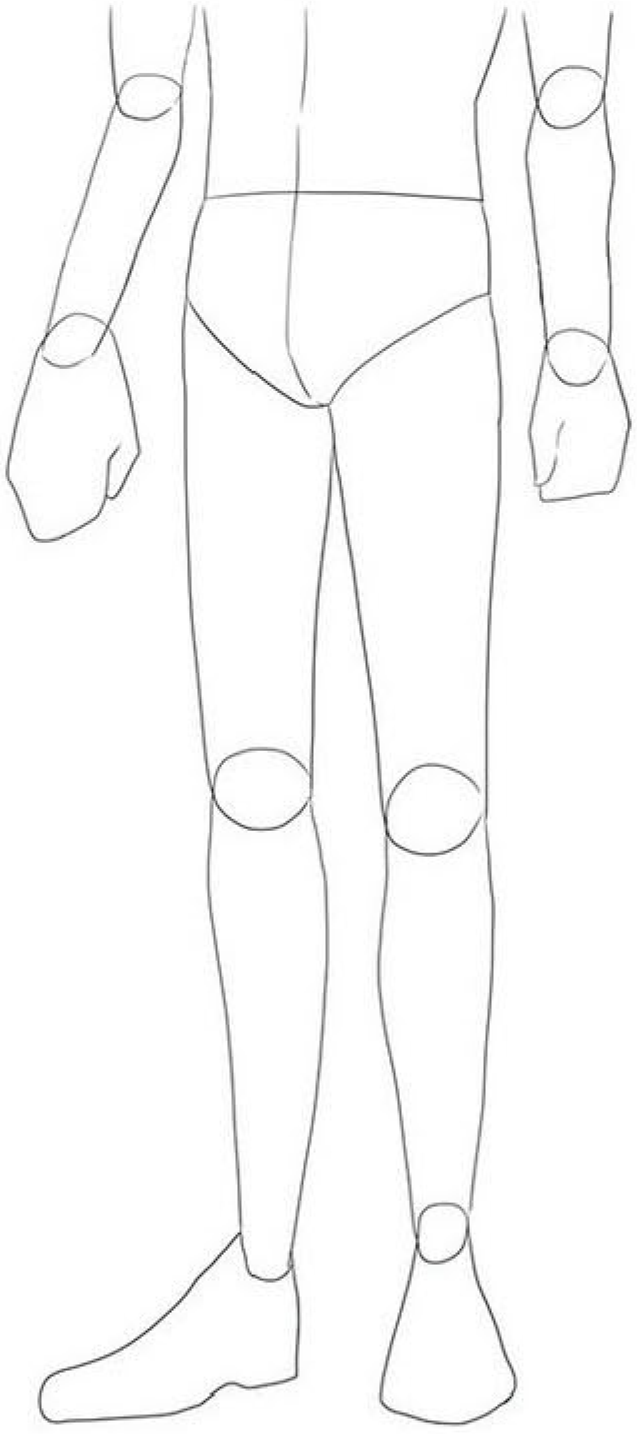
4 完成

▶袖のシワ、脇の下、背中に影を付けて完成。襟の周りには生地の重なり合う部分に細い線で影を入れていく



メンズスラックスの描き方（前側）

1 下半身のアタリを描く



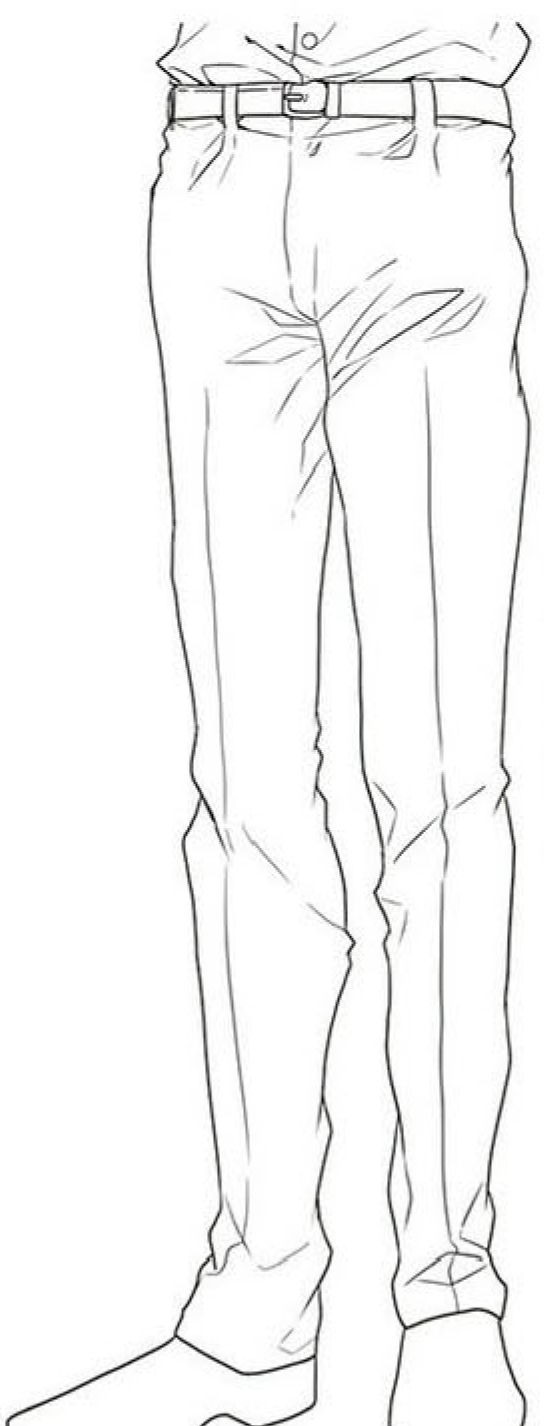
◀パーツ分けした体のアタリと中心線を描いて、スラックスを描くおおまかな位置を決める。腰の高さ、股下、足首の位置が輪郭線を描く上での目安になる

2 輪郭線とベルトを描く



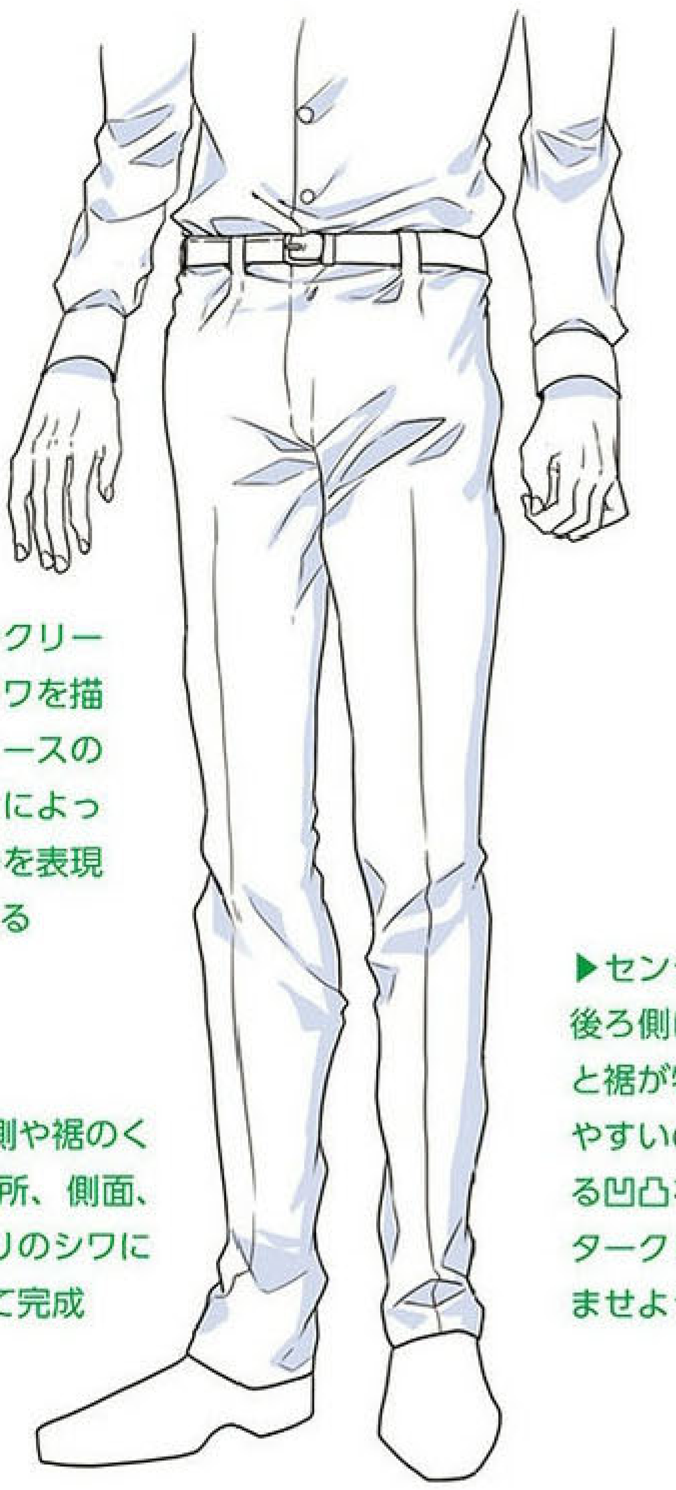
▶腰から足首にかけてスラックスの輪郭線を描き、腰の高さにベルトを描いていく。ベルトの下側には外側に向けてシワを描き込む

3 アタリを消して清書する



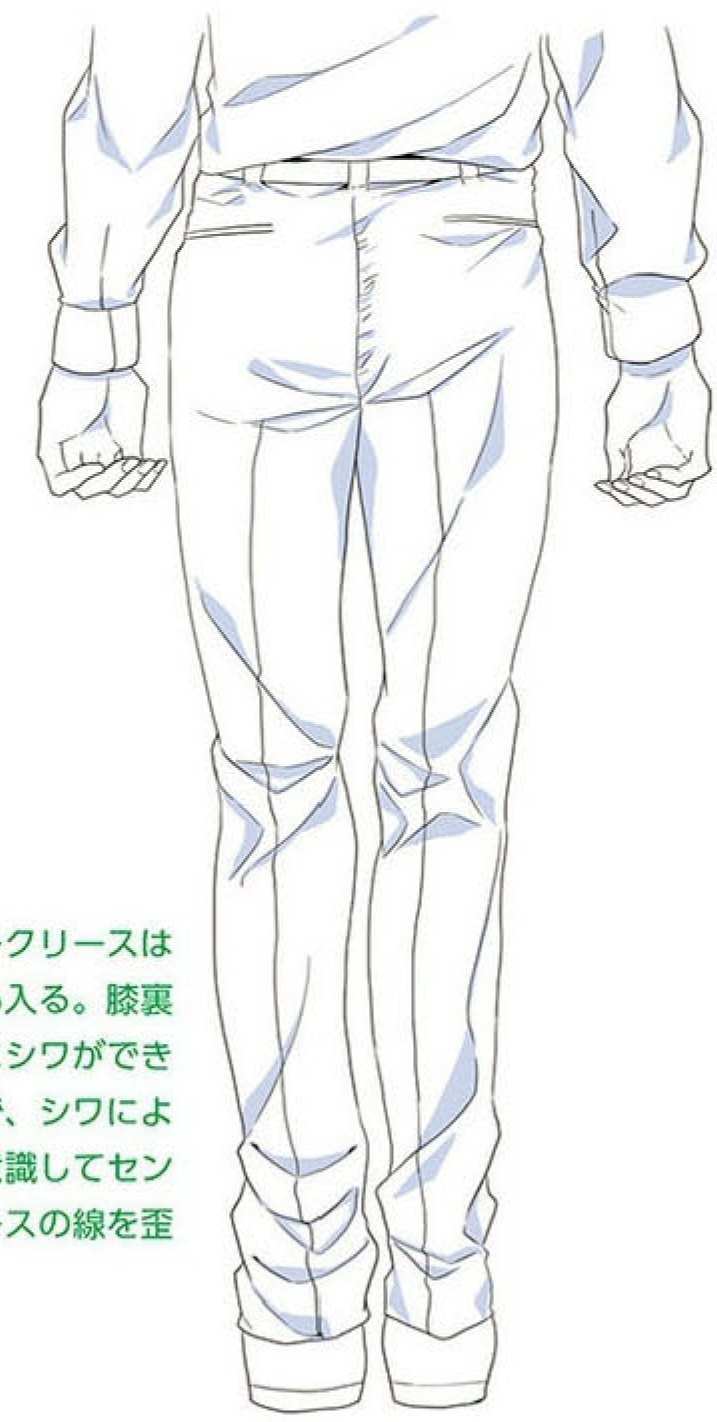
◀両脚のセンタークリースと、膝、裾のシワを描く。センタークリースの線が膝や裾のシワによって歪んでいる様子を表現すると立体感が出る

4 完成



▶ベルトの下側や裾のくぼんでいる箇所、側面、膝やベルト周りのシワに影を描き入れて完成

後ろ側の作例

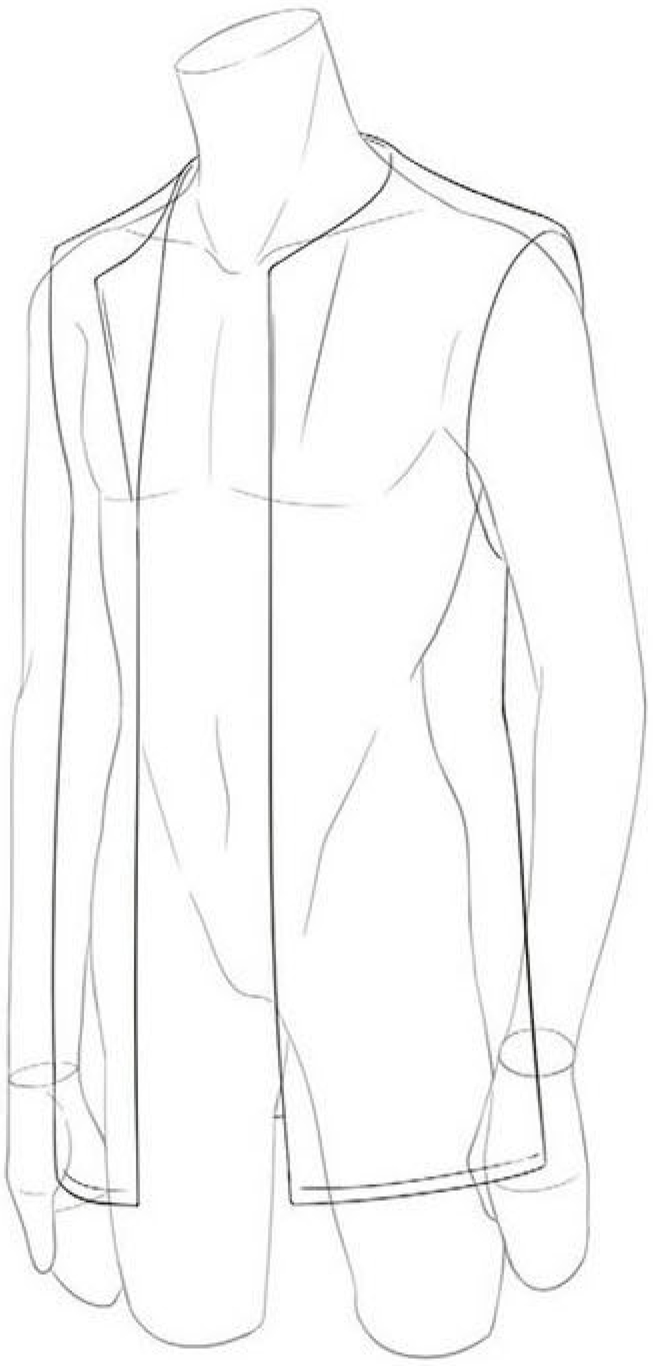


▶センタークリースは後ろ側にも入る。膝裏と裾が特にシワができやすいので、シワによる凹凸を意識してセンタークリースの線を歪ませよう

ステンカラーコートの描き方（前側）

1 体のアタリを描いて胴体の線を描く

▶上半身から股下までのアタリを描き、肩口と裾までの胴体部分の輪郭線を描いていく。前面は前開きにして、奥側の襟元はめくれて裏地が見えているようにしよう



2 袖や襟を描く

◀▼肩口から手首の長さまで袖を描く。中にスーツを着ているので、腕のラインを参考にしつつも少し幅を太く描いて厚みを持たせよう





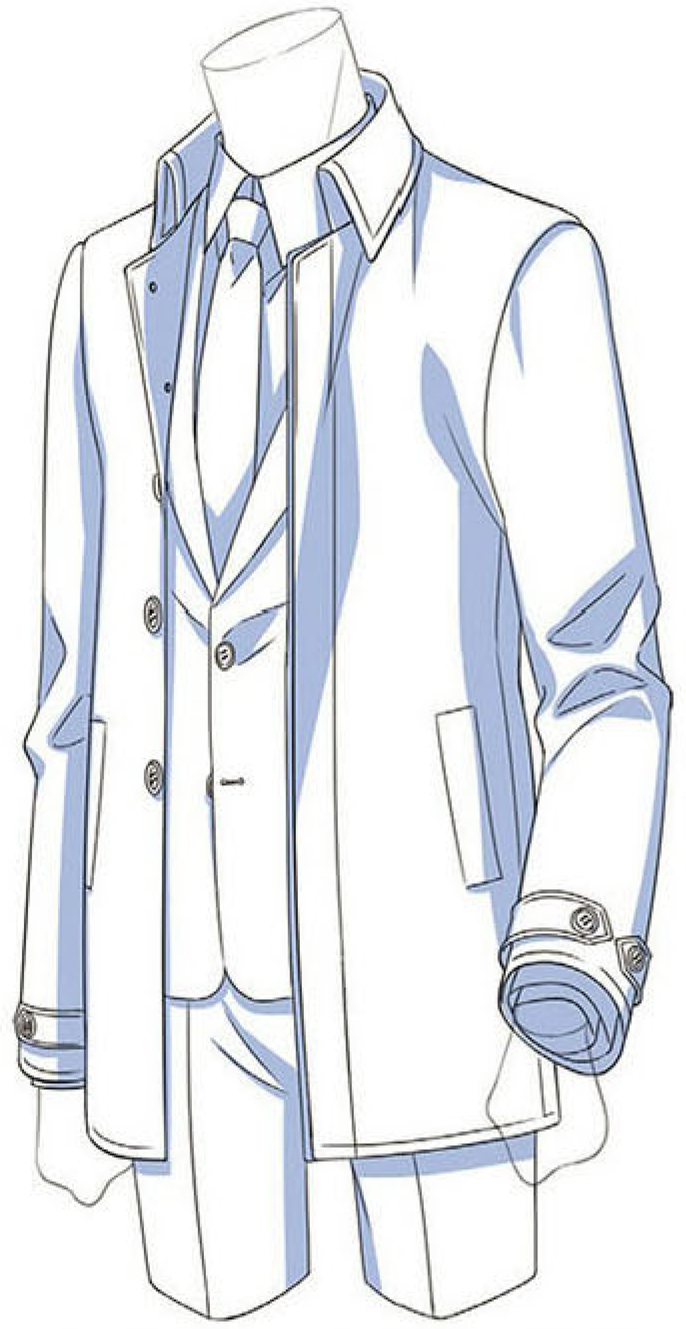
▶首周りに高く立った襟を描く。前立てや裾、袖口の線を二重にして腰の位置にポケットを追加し、袖口には巻いたベルトを描く

3 ボタンを描く



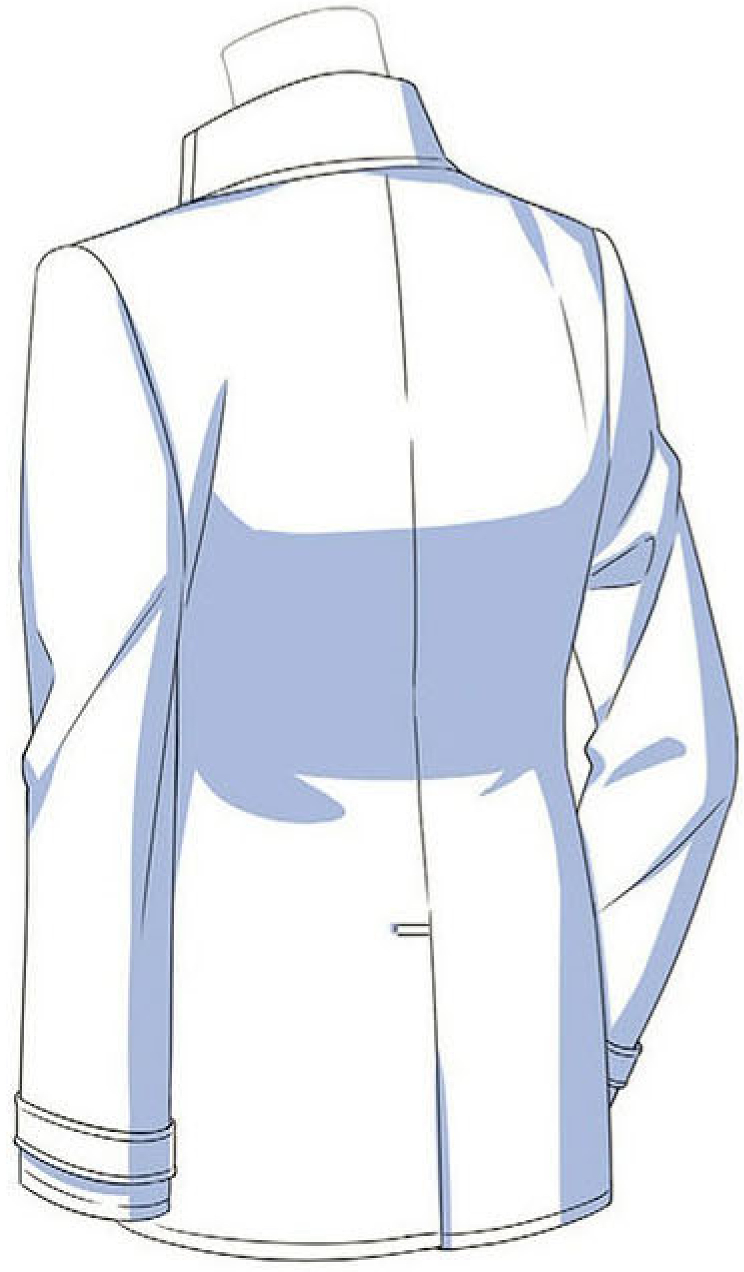
▲コート前面の向かって左側と両袖口のベルトにボタンを描き込む。襟元近くのめくれている部分には、ボタンを留めている位置に小さな丸を描く

4 完成



▲コートの下にシャツ、ネクタイ、ジャケット、スラックスを描き、影を描いて完成。コートの影は、脇の下、袖のシワ、袖口の裏、めくれた前立て、襟の内側に描こう

後ろ側の作例



▲後ろ側の影は背中の真ん中から腰周りの範囲に大きく描くと立体感が出る。ステンカラーコートは背面側の襟が立っているデザインなので、襟を高めに描くようにしよう

メンズスーツの豆知識

ダブルスーツ

ボタンは真ん中のひとつのみを留める場合が多い。ボタンが2列あると横幅を広く描いてしまいがちなので注意。腰を絞って胴体のシルエットをすっきりさせるようにする。

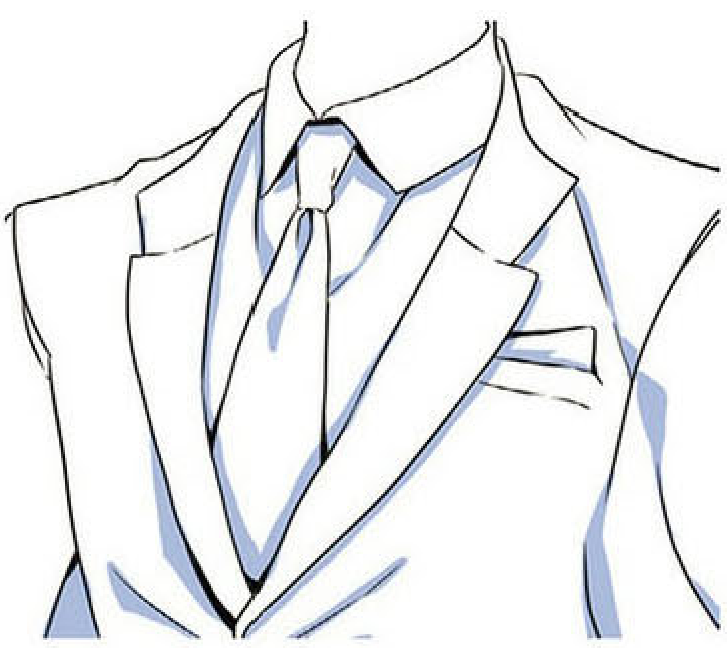
スリーピーススーツ

ベストのフィット感が重要なので、ベストのボタン周りにシワを描く。ただしシワが長すぎると太って突っ張っているように見えるので注意。ジャケット・ベスト・スラックスの色や柄は統一する。





ラペル（下襟）の種類







ノッチド・ラペル

先端が下向きになっているタイプ。もっとも一般的な形で、シングルスーツに用いられることが多い。ラペルの幅が細身になっていくほど、スタイリッシュで大人っぽい印象が増す。

ピークド・ラペル

先端が上向きに尖ったタイプで、ダブルスーツに用いられることが多い。装飾的な要素が強く、華やかな雰囲気が出るため、ビジネスよりもパーティなどのお祝いの場に向いている。

ショールカラー

上襟と下襟の境い目がなく、肩掛けのような形状になっているタイプ。ショールは肩掛けを意味し、日本ではへちま襟とも呼ばれる。フォーマル感が強く、タキシードなどの礼服によく使われる。

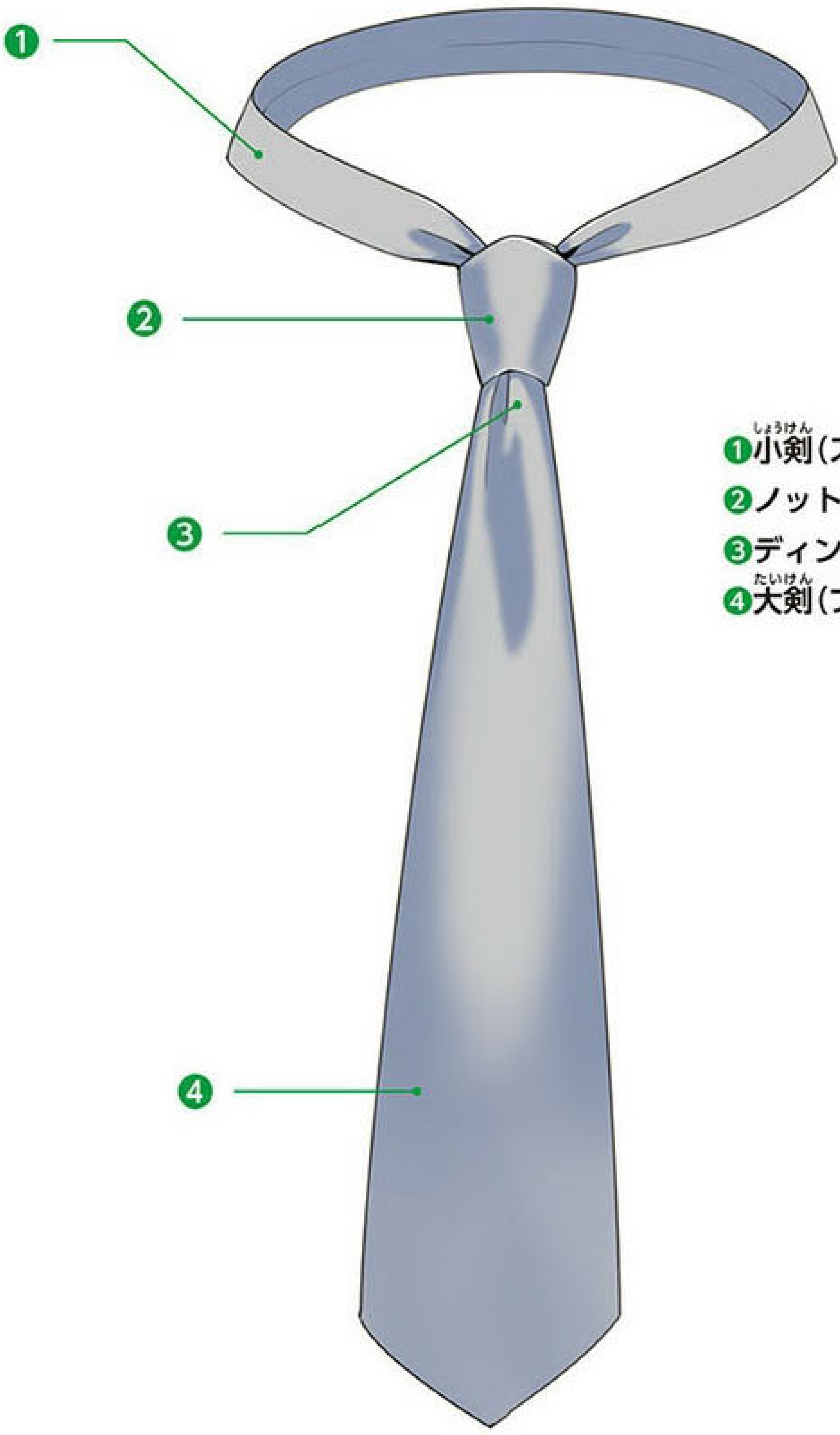


NECKTIE

ネクタイ

首周りに巻く布状のアクセサリーです。素材は主にシルクやニットが用いられ、結び方の種類や形、柄にはさまざまなバリエーションがあります。

ネクタイの構造と種類



❶小剣(スモールチップ)
❷ノット(結び目)
❸ディンプル(くぼみ)
❹大剣(ブレード)

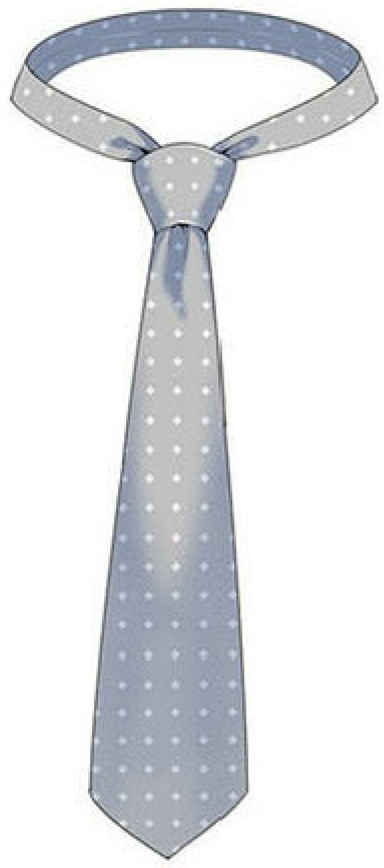
プレーンノット

もっとも基本的な結び方で、結び目はコンパクトに仕上がる。スッキリとした雰囲気は細身のスーツと相性が良い。ビジネス、フォーマル問わず幅広く使われている。



ウィンザーノット

ほぼ正三角形の幅広でしっかりとした結び目ができる。クラシックな印象が強まり、襟の開きが大きなシャツに合う。



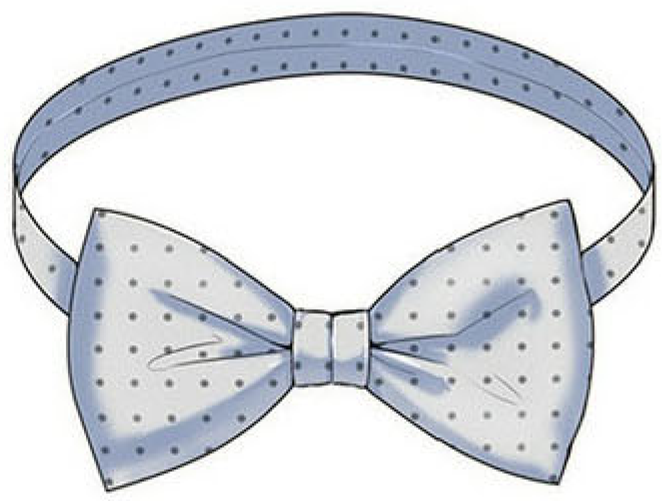
ハーフウィンザーノット

結ぶ手順を一部省略したウィンザーノット。結び目が細いため上品かつ程よいバランスを保ちやすく、合わせるアイテムを選ばない。



蝶ネクタイ

「ボウタイ」と呼ばれることもある、蝶の羽根のような形をしたネクタイ。礼服と合わせて用いられることが多く、洒落た雰囲気が生まれる。



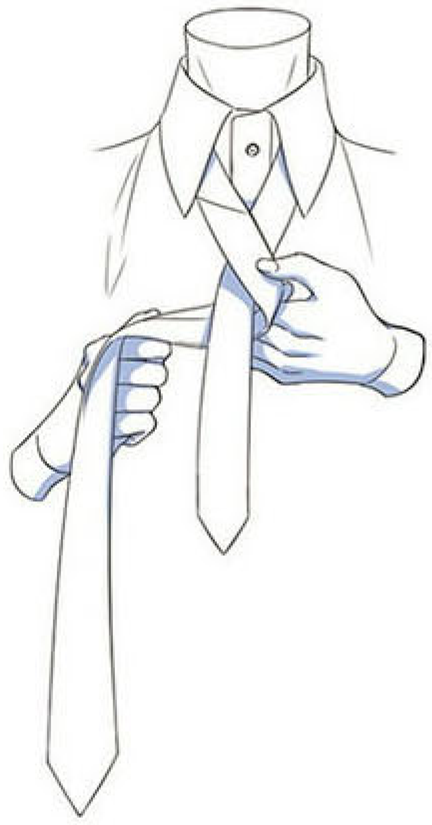
プレーンノットの結び方

1 小剣と大剣をクロスさせる



◀小剣が体の左側、大剣が体の右側になるように巻く。左手で大剣、右手で小剣を持ち、大剣側を小剣の上に持ってきてクロスさせる

2 大剣を小剣の下から1周させる



◀左手と右手を持ちかえ、小剣を軸にしてクロスした大剣を下からくぐらせて1周回す

3 1周させた大剣を小剣ごと掴む



◀1周した大剣と小剣が重なり合う箇所を右手で押さえて形が崩れないようにしつつ、大剣の先を一度下に垂らす

4 大剣の先を首元の下から上に通す



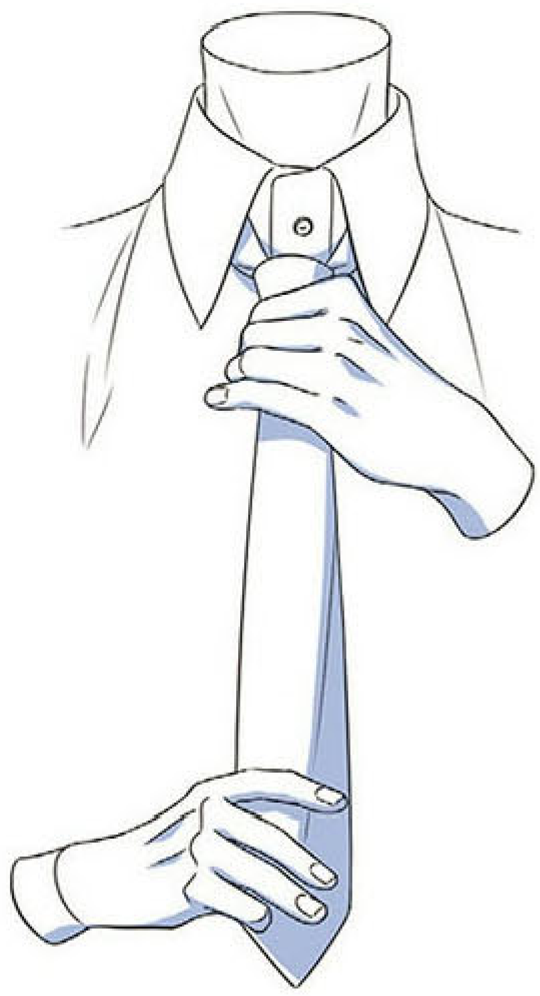
◀左手で3の大剣と小剣が重なり合う箇所を押さえ、右手で大剣の先を持って首元にできた輪の下から上に通す

5 大剣の先を大剣と小剣の間に通す

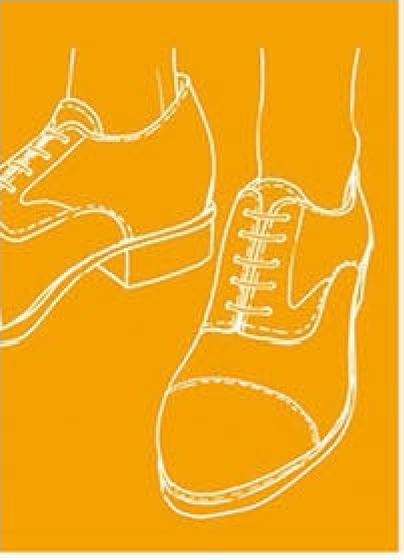


◀上に通した大剣を、34で押さえ続けた大剣と小剣の生地の間に通す

6 ノットを作って形を整える



◀ノットができあがるので、片手でノットを首元まで押し上げながら形を整える。余った小剣は大剣の後ろに隠して見えないようにする



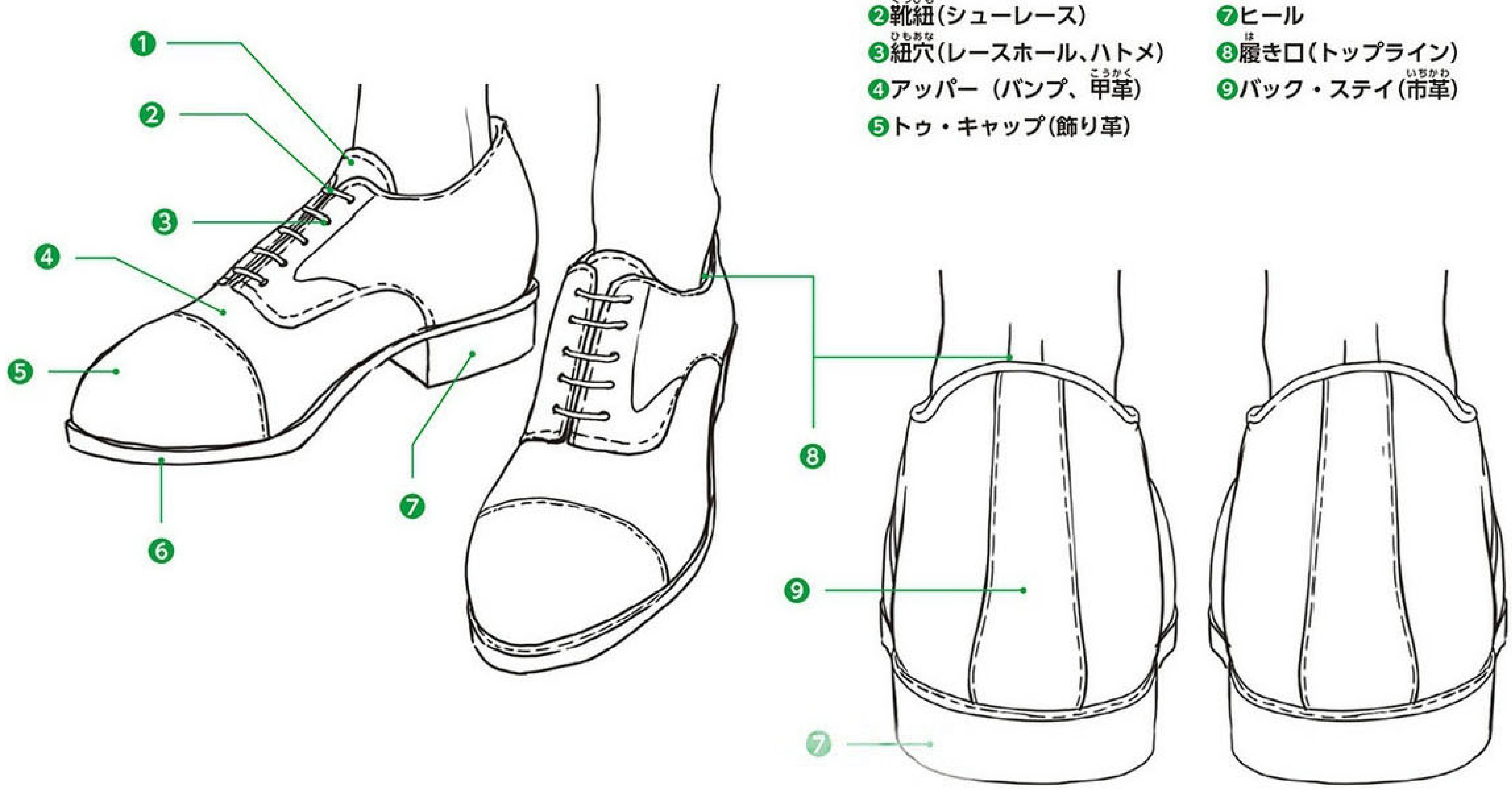
BUSINESS SHOES

ビジネスシューズ

ビジネスシーンでは主にダークトーンのシンプルな革靴が着用されます。ベルトと靴の色を合わせ、全体に統一感を出す着こなしも一般的です。

ビジネスシューズの構造

①タン（べろ）
②靴紐（シューレース）
③紐穴（レースホール、ハトメ）
④アッパー（バンプ、甲革）
⑤トゥ・キャップ（飾り革）
⑥靴底（アウトソール）
⑦ヒール
⑧履き口（トップライン）
⑨バック・ステイ（市革）



ビジネスシューズの種類

ストレートチップ

つま先のトゥ・キャップからアッパーへ革が切り替わるラインが横一文字になっている革靴。革に光沢感がある。特に、黒色で切り替えのラインに飾りがないものは格式が高く、ビジネスだけでなくフォーマルなシーンでも対応できる。



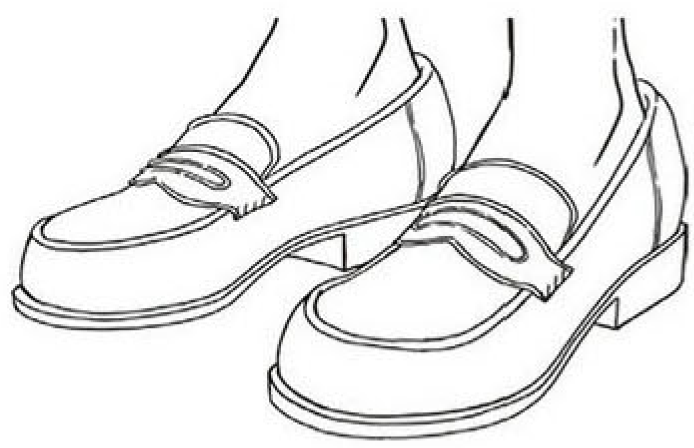


パンプス

履き口が大きく開かれた女性用の革靴。ビジネスで用いる際は装飾のない、シンプルかつ機能的なものを選ぶ。

POINT

ビジネス向きではないローファー



ローファーは革靴ですが、もともと室内用の気軽に履ける靴として発展してきた歴史があり、「脱ぎ履きの楽さ」に重きが置かれています。そのためカジュアル用としての分類が基本で、ビジネスやフォーマルな場面では用いないほうがよいとされています。

ストレートチップ【メンズ用】の描き方

1 靴の輪郭線を描く

▶足のアタリを参考に、足首の高さに履き口を描く。つま先にゆとりを持った形でかかとから足先までを描き、トゥ・キャップやアッパーの丸みを意識しながら足の甲側の輪郭線を描いていく



2 タン、靴底、ヒールを描く



▶履き口にタン、輪郭線の下側に靴底の線を描き、かかとの下にヒールを描き加える。ヒールの形は女性のように細くせず、幅が広い板に足を乗せる感覚で描こう

3 靴紐とトゥ・カップを描く



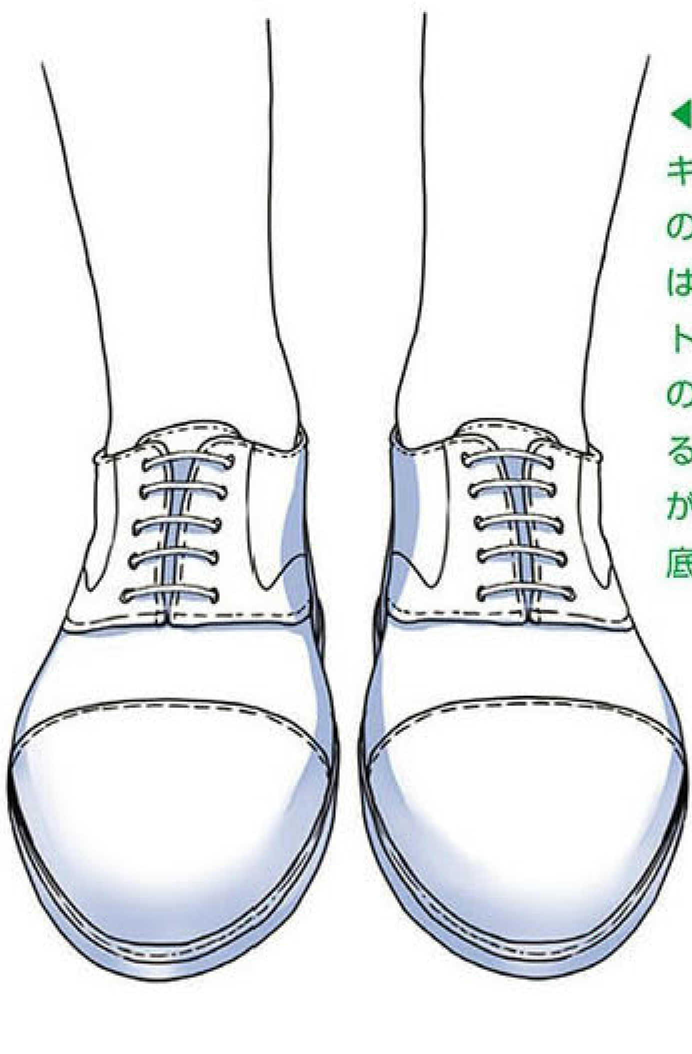
▲指の付け根の上あたりを目安にトゥ・キャップからアッパーに切り替わる位置の線を描く。アッパーの上側には、中央で分かれている靴紐を通す生地と紐穴、靴紐を描いていく

4 完成



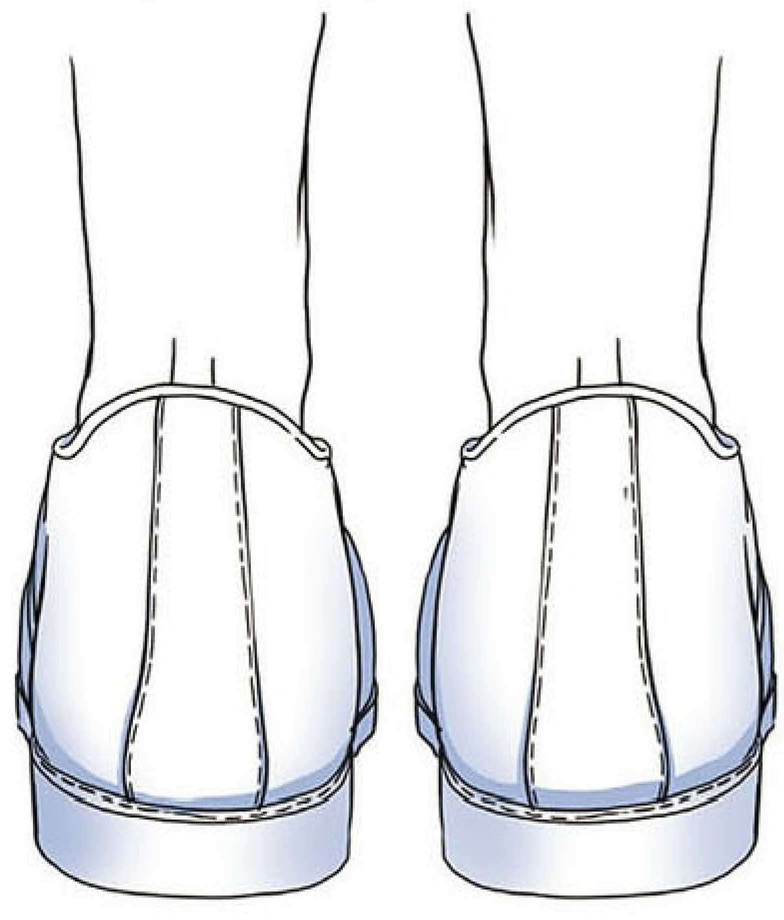
▲履き口やタン、革の切り替え、靴底の上側にステッチを描き、影をつけて完成。影を描く主な場所は靴の下側で、濃い影は境い目をはっきりと、薄い影は境い目をぼんやりと描いて革の質感を出す

正面から見た図

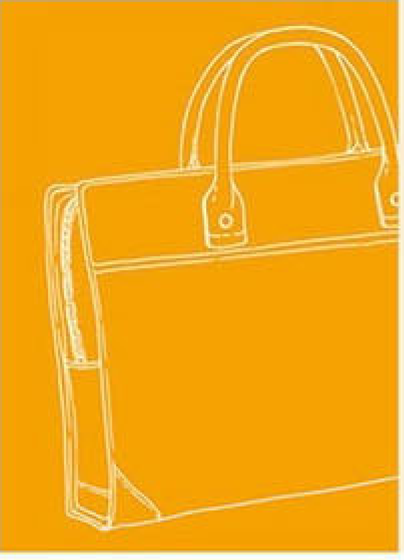


◀アッパーとつま先のトゥ・キャップの面積が広く、革の切り替えの横一文字の線はゆるい弧を描く。靴底とトゥ・キャップやアッパーの間にはお互いを縫い付けるウェルトという帯状の革があり、そのステッチが靴底の上に表れている

後ろ側から見た図



◀かかとの部分にはバック・ステイというかかとを補強する革が縫い付けられている。かかと側も靴底と上側の革がウェルトで縫い付けられているため、靴底の上にステッチが見える



BUSINESS BAG

ビジネスバッグ

ビジネス用の鞄は見た目がシンプルであることと、機能性や耐久性の高さが重視されます。そのため複数の持ち方に対応するタイプも一般的です。

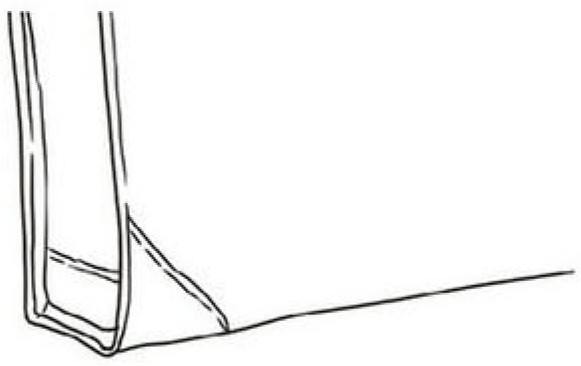
ビジネスバッグの構造



❶持ち手
❷カシメ
❸ファスナー
❹マチ
❺角当て
❻あおりポケット

POINT

角を補強する角当て



ビジネスバッグは書類やパソコンなど折れ曲がってはまずいものを持ち運ぶためのものなので、バッグが潰れないように補強するしっかりとした角当てがついているものが大半です。

ビジネスバッグの種類



ブリーフケース

ビジネス用途で一般的に使用されているタイプ。ナイロン製のものが多く、A4サイズの書類が入る大きさになっている。





トートバッグ

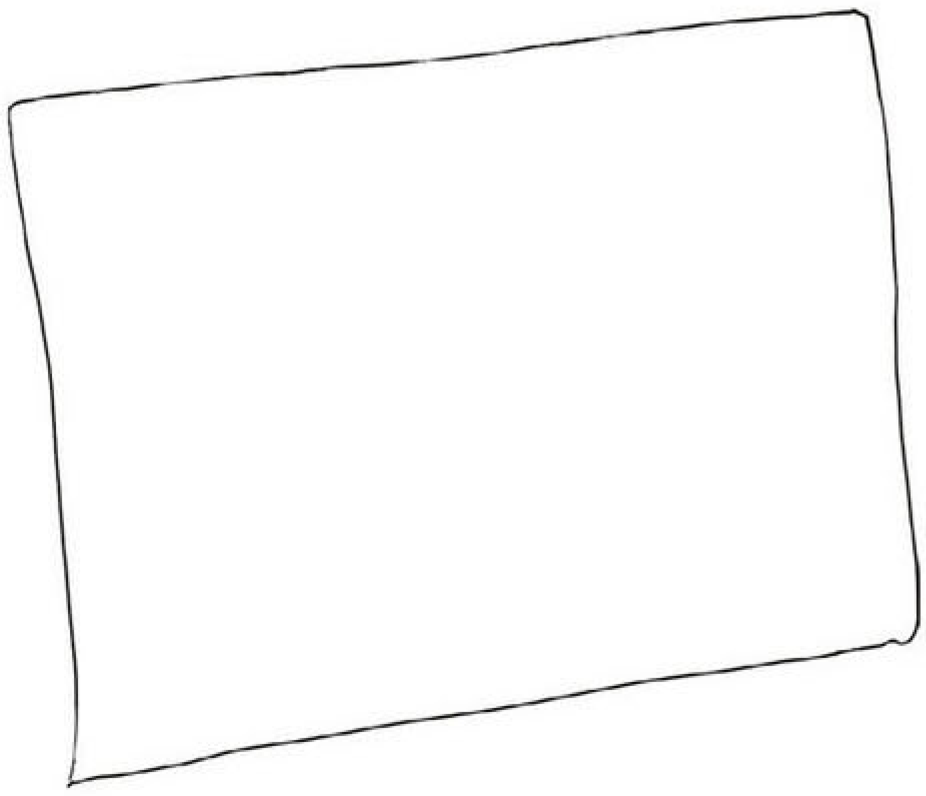
男女ともにシックなデザインのものをビジネス用途で使う場合もある。収納力に優れ、持ち手は革製の場合が多い。

3WAYバッグ

肩掛け鞄やリュックとしても使用が可能なタイプ。自転車通勤者に特に愛用される実用性重視のバッグであり、アクティブな印象が強い。

ブリーフケースの描き方

1 本体の長方形を描く



▲バッグ本体を長方形でおおまかに描く。直線ツールなどのまっすぐ線を引けるツールは使わずにフリーハンドで描いて、革やナイロン生地による輪郭の微妙なぶれを表現しよう

2 奥側の本体と持ち手を描く



▲バッグの側面に奥行きの分だけ線を描き、奥側の本体の線を描いてバッグを立体的にする。上側には持ち手の輪郭線を描き、奥行きの長さだけ左側にずらした位置に奥側の持ち手も描く

3 ファスナーとポケットを描く



▲側面の中央にマチ幅の線を引き、上側にファスナーを描く。また、反対側の側面にはファスナーのスライダーを描いておく。持ち手の下には、あおりポケットの口となる横一本の直線を引いておこう

4 完成



▲持ち手の留め具であるカシメや角当てを描き、バッグ全体の線を二重にしてパイピング（縫い目の縁取り）を表現する。影を側面や本体の下側、カシメの周りに描いて完成



礼服

DRESS SUIT

冠婚葬祭の際に着用する衣服です。格式や時間帯によって着用するものが異なるため、出席する場のドレスコードに沿うものを選ぶ必要があります。

女性の礼服の種類

ブラックフォーマル

全身を黒色でまとめたスタイル。ワンピース、スカート、ジャケット系を組み合わせて黒で表現する。特に漆黒でデザインが控えめのものは、弔事用の喪服としての認識が一般的。



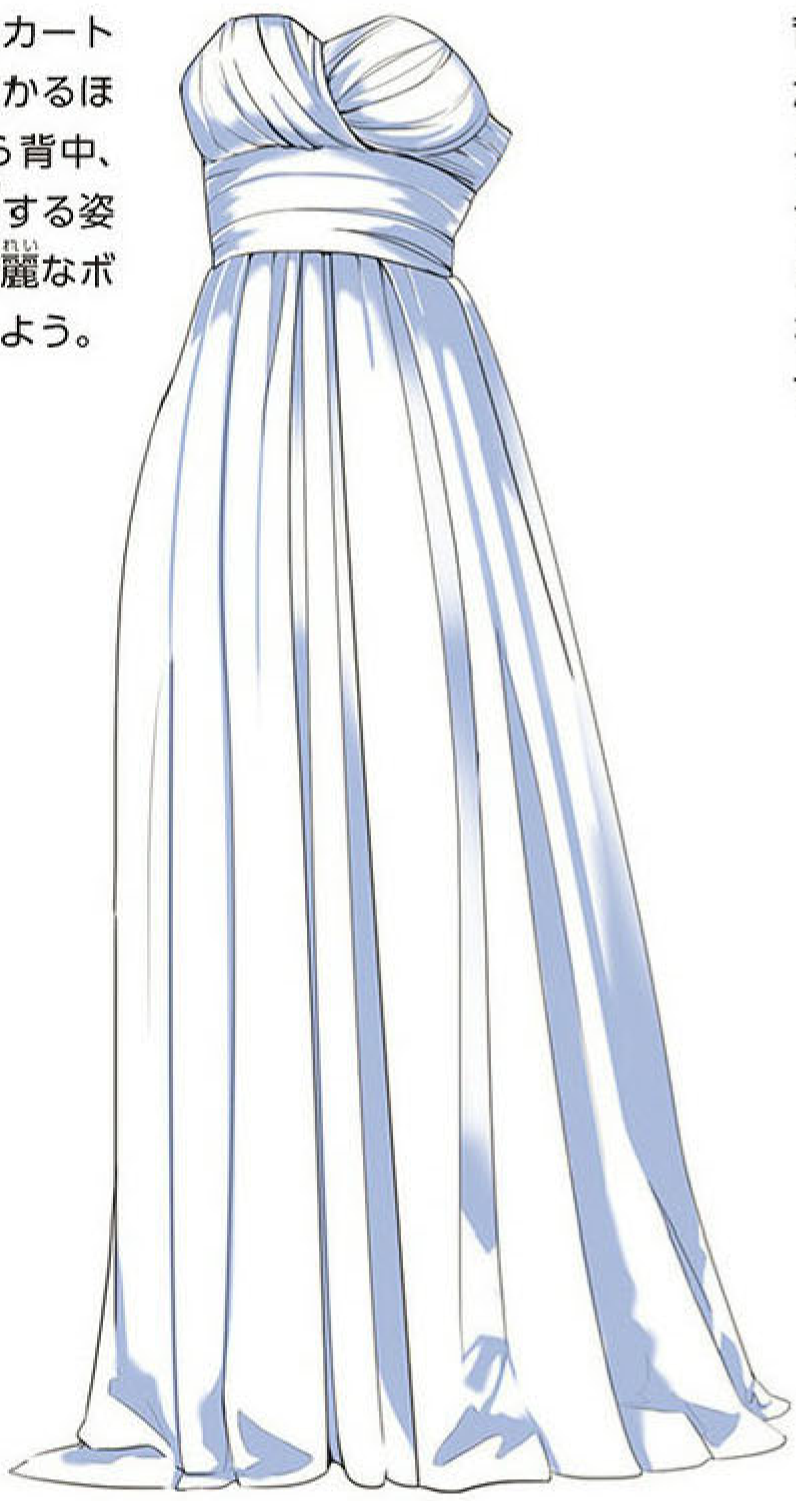
セレモニーアンサンブル

組み合わせて着ることを前提とした、祝事用の衣服セット。ワンピース、スカート、ブラウス、ジャケット系で構成されており、色は白、ネイビー、グレーなどがメイン。清潔感や上品さを重視した、控えめなデザインを心掛けよう。



イブニングドレス

夜間用の正礼装。スカートは脚が隠れて床にかかるほどの長さ。胸元から背中、腕までが大きく露出する姿なので、女性的な綺麗なボディラインを表現しよう。



背中は腰から上の肩甲骨が見える一帯が露出する。ドレスの生地にはサテンなどの光沢地が用いられるので、影の境い目をグラデーション状にして光沢感を出そう。



男性の礼服の種類

燕尾服

後ろの裾が長く、燕の尾のような形をしている。夜間用の礼服でもっとも格調高い正礼装で、蝶ネクタイは白色に限定される。前側の着丈は腰の高さまでと短く、ボタンは掛けずに着用する。ラペルはピークドラペルが一般的。



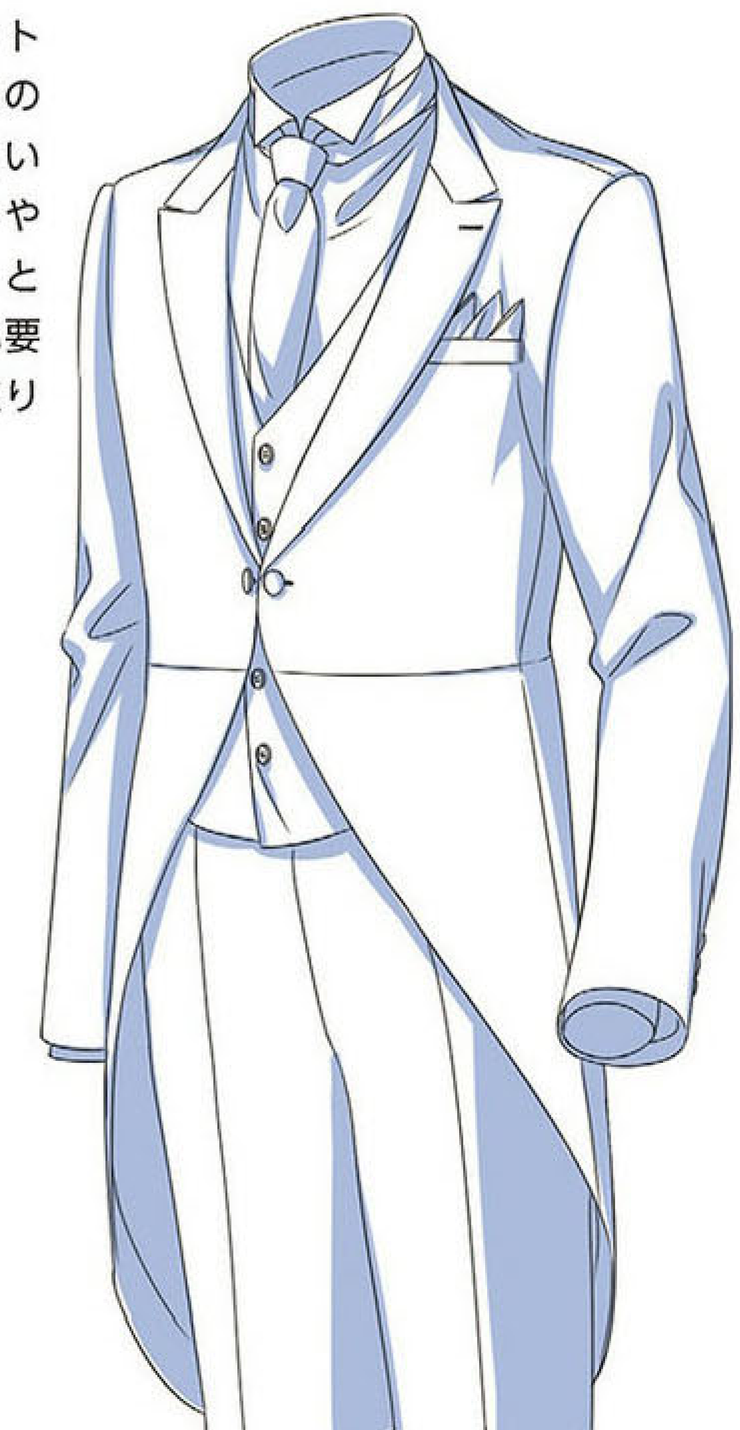
タキシード

夜間用の準礼装。襟は拝絹と呼ばれる、光沢のある生地を張ったタイプで、ショールカラーが一般的。腹部にはカマーバンドと呼ばれる巻物を着用する。ジャケットの着丈はスーツと同程度。



モーニングコート

朝から昼時にかけての正礼装。斜めにカットされた前裾が、長めの後ろ裾へと繋がっていく形を取る。ベストやスラックスはコートと共通の生地である必要はなく、グレーを取り入れる場合が多い。



ディレクターズスーツ

昼の準礼装。黒のジャケットにベスト、そしてコールズボンと呼ばれる黒とグレーの縞柄が入ったスラックスを合わせる。結婚式などの際に、新郎や主賓などの主要な立場にある者が用いることが多い。



ILLUSTRATOR PROFILE



渥海潤
Illustration
123、125、133、142、145～148、170

URL
http://www.pixiv.net/member.php?id=18048



黒猫
Illustration
18～19、28～33、35～40、44、46～49、56～58、70～72、100～101、107～109、123、142～144、159

URL
http://qqqe6pv9k.wixsite.com/krrn



桜ひより
Illustration
18、22、60、63、65

URL
http://www.pixiv.net/member.php?id=9406623



空維深夜
Illustration
50～52、88～90、102～106

URL
http://tears39.com/



ちょこ庵
Illustration
53、120、126、133、139

URL
http://www.pixiv.net/member.php?id=5955130



トリュフ
Illustration
20、22、49、61、155、158～161、163、165

URL
http://mmk0305.web.fc2.com/index.html



日向ろこ
Illustration
41、110～112、150、152～153、158～159、164、166～167

URL
http://www.pixiv.net/member.php?id=5473862



maru
Illustration
42～43、60、64、66～69、86～87、114～124、168～171

URL
http://marumarumarukomu.wixsite.com/circle-circling



水溜鳥
Illustration
21、23～27、38、62、74～82、150～151、154、156～157、162、165～166、172～173

URL
https://mizutame-tori.jimdo.com/



水野かがり
Illustration
83～85、91～98

URL
http://mizunokagari.blog.fc2.com/



八つ森佳
Illustration
128～132、134～138、140～141

URL
http://kinomeocoshi.tumblr.com/



ユメサキ
Illustration
32、34、50、54～55

URL
http://www.pixiv.net/member.php?id=15558289

INDEX

本書のサポートページ | http://isbn.sbcr.jp/89913/

●イラスト（五十音順）
渥海潤
黒猫
桜ひより
空維深夜
ちょこ庵
トリュフ
日向ろこ
maru
水溜鳥
水野かがり
八つ森佳
ユメサキ

●装丁
渡辺縁

●本文デザイン・ＤＴＰ
石本遊　岡澤風花　汐田彩貴
（スタジオ・ハードデラックス）

●執筆
石川悠太　大村茉穂（スタジオ・ハードデラックス）
茅根駿　坂あまね（サイバーダイン）

●企画・編集
杉山聡
石川悠太　大村茉穂（スタジオ・ハードデラックス）

デジタルイラストの「服装」描き方事典
キャラクターを着飾る衣服の秘訣45

2017 年 3 月 30 日　初版第 1 刷発行

著　者　スタジオ・ハードデラックス
発行者　小川 淳
発行所　SB クリエイティブ株式会社
〒 106-0032 東京都港区六本木 2-4-5
http://www.sbcr.jp/
印　刷　株式会社シナノ

※乱丁本，落丁本はお取替えいたします。小社営業部（03-5549-1201）までご連絡ください。
※定価はカバーに記載されております。

Printed in Japan　ISBN 978-4-7973-8991-3

2017年4月1日　電子第1版発行

※この電子書籍は同名印刷物の初版第1刷（2017年3月30日発行）のデータを利用しています。
※元の印刷物と一部異なる場合があります。あらかじめご了承ください。